

居
徳
遺
跡
群

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第
69
集

二
〇
〇
二
・
三

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

居 徳 遺 跡 群

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

居徳遺跡群

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

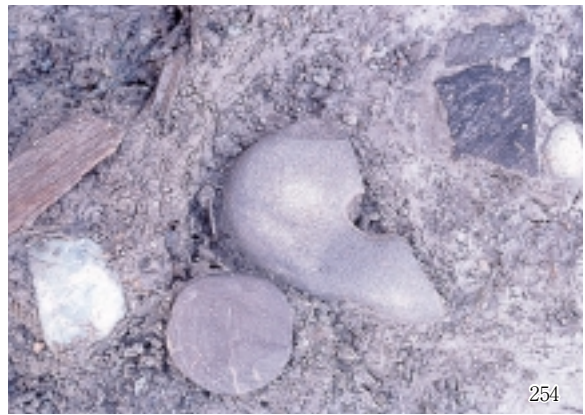
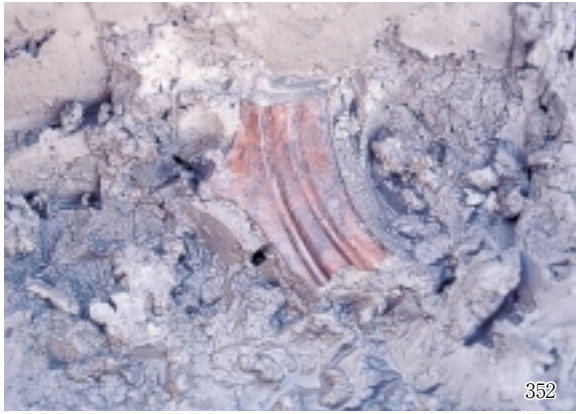


1A区遺構完掘状態



1A区遺構

卷頭圖版 2



1A区遺物



大洞式土器・壺・胴部



352内面



352外面



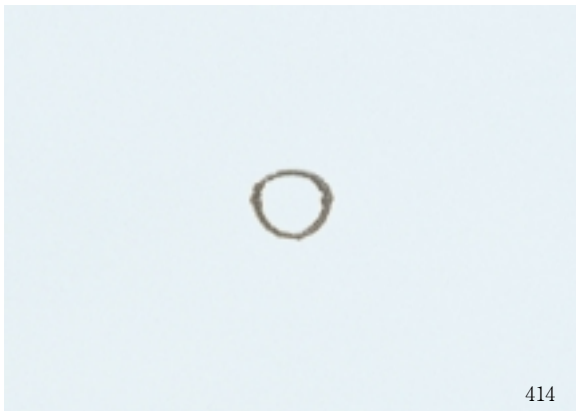
354



壺・上胴部

1A区出土遺物

卷頭圖版 4



1A区出土遺物



1F区 水路部分



1F区遺構

1F区 道路部分

卷頭図版 6



1F区遺物



51



50



217



獣骨



P223



P220



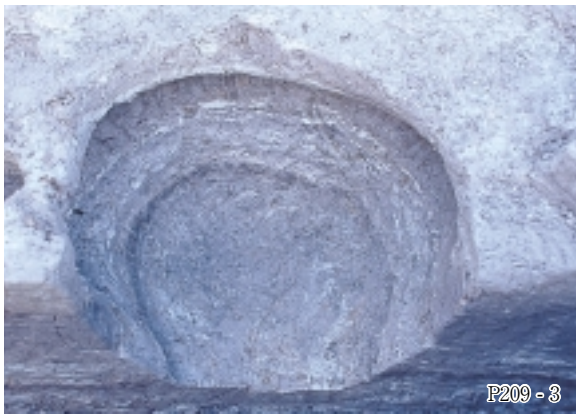
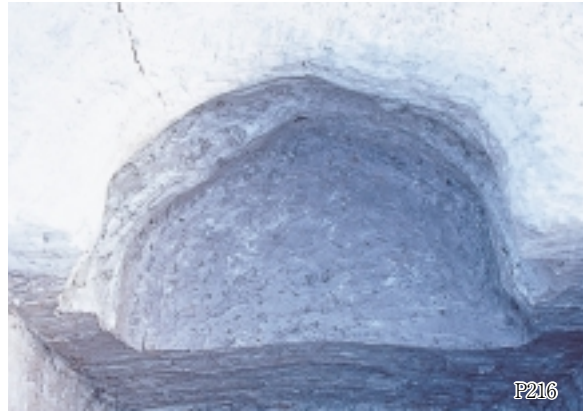
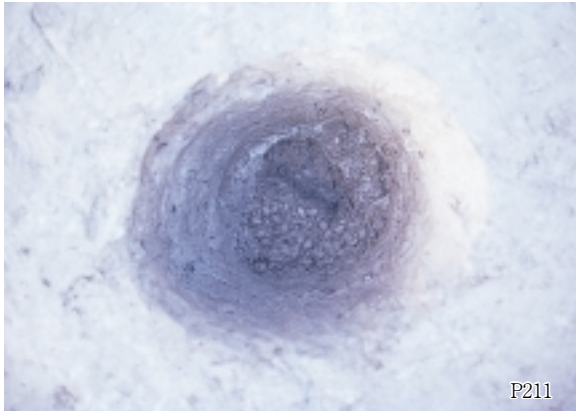
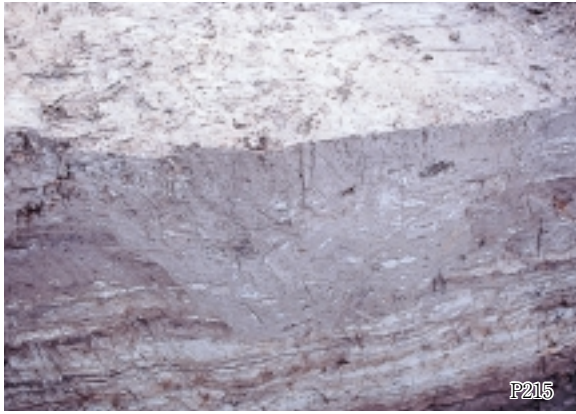
P224



P219

1F区遺構・遺物

卷頭図版 8



1F区遺構



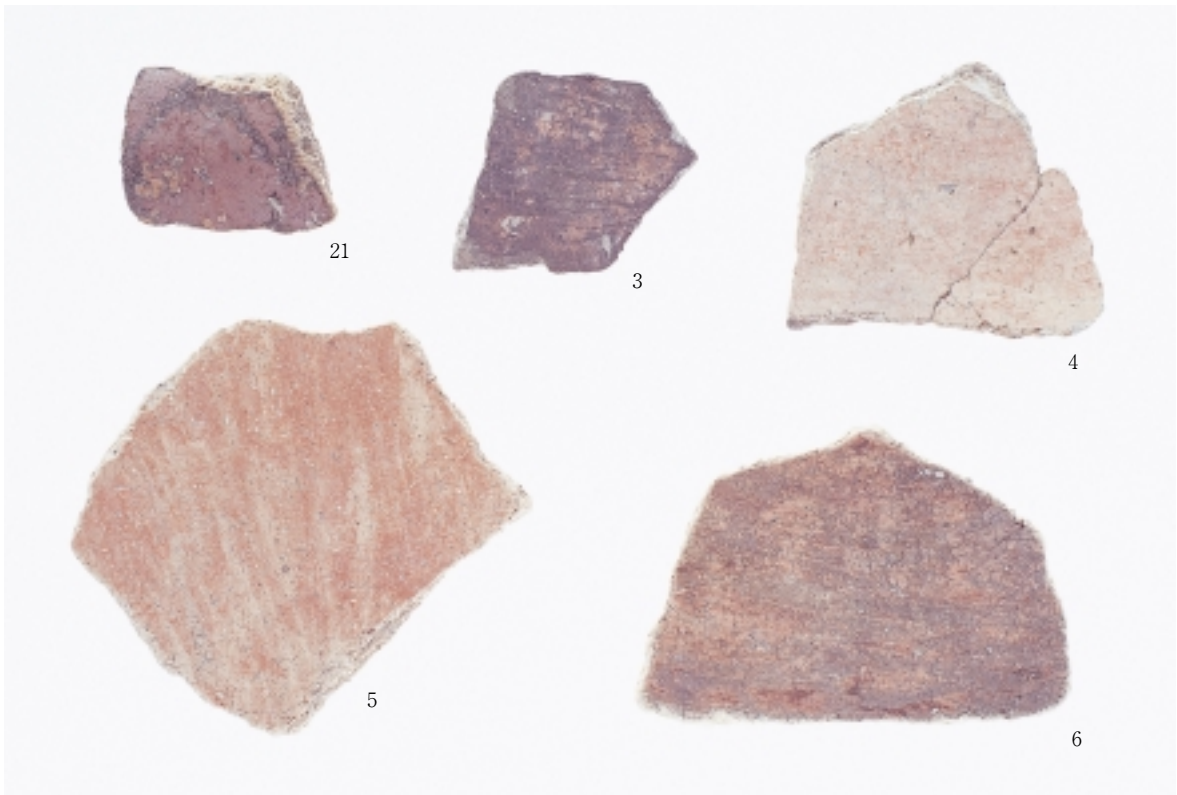
1C区第 層上面遺構完掘状態（東より）



1C区第 層上面遺構完掘状態（東より）



1C区出土遺物1 (土器)



1DN区出土遺物1 (土器)



1C区出土遺物2(石器)



1C区出土遺物3 (石器)

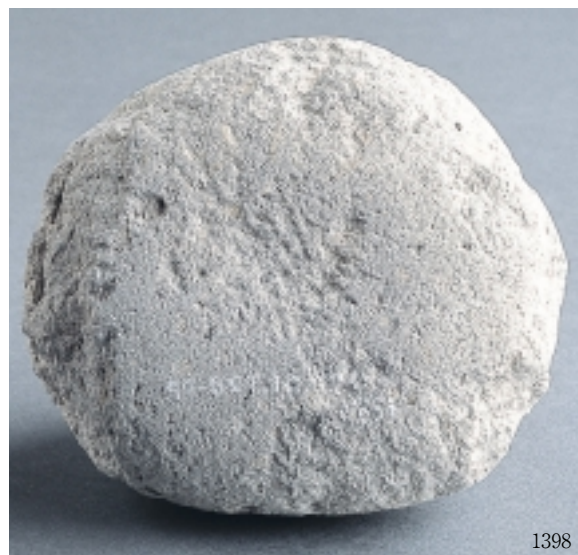


1C区出土遺物4 (石器・木製品)

卷頭図版 14



1C区出土遺物5 (土製品・石器)



1C区出土遺物6(石器)

卷頭図版 16



1C区・1DN区出土遺物（石器・木製品・貝）

例 言

- 1．本書は四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う，居徳遺跡群の発掘調査報告書第3集である。本書には確認調査⁽¹⁾，1A区，1C区（その2），1DN区，1F区の調査成果，ならびに関連の付編を所収する。
- 2．居徳遺跡群の所在地は，高知県土佐市高岡町乙居徳ほかである。
- 3．調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	（調査期間）	（発掘調査面積）
確認調査 ⁽¹⁾	平成8年6月5日～平成8年8月6日	650 m ²
1A区	平成9年10月17日～平成10年3月31日	1,821 m ²
1C区	平成9年10月29日～平成10年3月31日	1,138 m ²
1DN区	平成10年2月6日～平成10年3月31日	757 m ²
1F区	平成10年12月21日～平成11年3月1日	869 m ²

- 4．発掘調査及び整理作業は，高知県教育委員会が日本道路公団四国支社と委託契約を締結し，財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷碩志（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター		・所長）	
同	津野州夫（	同	上	・次長兼総務課長）
同	西川 裕（	同	上	・調査課長）
同	山本哲也（	同	上	・調査第1班長）
同	出原恵三（	同	上	・調査第3班長）
調査事務	吉岡利一（	同	上	・総務課主幹）
同	大原裕幸（	同	上	・総務課主幹）
同	石川 馨（	同	上	・総務課主幹）
調査員	田坂京子（	同	上	・専門調査員）
同	大野佳代子（	同	上	・専門調査員）
同	佐竹 寛（	同	上	・専門調査員）
同	藤方正治（	同	上	・調査員）
同	曾我貴行（	同	上	・調査員）
同	下村 裕（	同	上	・調査員）
技術補助員	小倉 功			
測量補助員	土居寿美子			
同	中岡きよ			
同	岩原明美			

- 5．本書の執筆・編集は藤方，曾我が分担・協議しておこなった。執筆分担は，第 章（1）・（3）・（4）が曾我，第 章（2）・（5）が藤方である。

6. 遺構等の名称については、TP（試掘坑）、SR（自然流路）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用した箇所がある。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。
7. 遺物実測図の縮尺は土器が1/3、土製品・石器類が1/1または1/2、木製品が1/2～1/3である。実測図の番号は各調査区における通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号は実測図の番号と一致している。
8. 土層ならびに出土遺物の色調については、『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
9. 遺跡の測量は、国土座標第 系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また挿図中のレベル高は海拔高を示す。
10. 発掘調査に際しては、地元高岡町清滝・東灘・西灘地区をはじめ、地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに温かい御支援を賜り、調査を円滑に遂行することができた。記して衷心より謝意を表す。
11. 1A区・1C区から出土した大洞式土器の整理作業に関しては、須藤隆氏（東北大学文学部教授）、大塚達朗氏（南山大学文学部助教授）から数々の御指導、ならびに御教示を賜った。記して衷心より謝意を表す。
12. 発掘調査及び報告書作成に際しては、多くの方々から貴重な御助言・御教示を賜った。御芳名を記して衷心より謝意を表す。（五十音順、敬称略）
- | | | | | | | |
|------|------|-------|------|------|------|------|
| 天羽利夫 | 今田秀樹 | 江坂輝彌 | 氏家敏之 | 大場亜弥 | 岡本桂典 | 岡本健児 |
| 岡本孝之 | 河瀬正利 | 木下哲夫 | 小林 克 | 坂本正夫 | 潮見 浩 | 設楽博巳 |
| 菅谷通保 | 高島芳弘 | 高橋龍三郎 | 中越利夫 | 中村五郎 | 平井 勝 | 藤野次史 |
| 藤原宏志 | 北條芳隆 | 村上恭通 | 家根祥多 | 山川清水 | | |
13. 発掘調査に際しては、土佐市都市計画課、高知県土木部高速道推進課の御協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県立歴史民俗資料館、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。
14. 巻頭図版7～12については、高知県立歴史民俗資料館の御厚意により、館所蔵写真（タケムラスタジオ・竹村豊氏撮影）を使用させていただいた。
15. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし、大豊建設株式会社（平成9年度）・不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し、工事の施工管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事して下さった多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表す。
16. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、アジア航測株式会社に委託して実施した。
17. 木製品の保存処理及び樹種同定は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。
18. 付編2は、株式会社吉田生物研究所作製による木製品樹種鑑定報告書の該当箇所のみを抜粋し、再構成したものである。

19. 貝類の保存処理及び種の同定は，株式会社東都文化財保存研究所に委託して実施した。
20. 漆塗り土器の保存処理は株式会社東都文化財保存研究所に，塗布顔料の分析は株式会社パレオ・ラボにそれぞれ委託して実施した。
21. 整理作業に際しては，次の方々に御尽力いただいた。御芳名を記して衷心より謝意を表す。
- 矢野 雅 宮本幸子 中西純子 小松経子 岩貞泰代 楠瀬憲子 前田玲子
高橋千代 久万公子 川井由香 内村富紀 元吉ゆみ子 岸ゆかり 岡宗真紀
入野三千子
22. 遺跡の略号は下記のとおりとし，出土遺物の注記等にはこれを使用した。
- 確認調査⁽¹⁾・・・「96-14 I T」
1 A 区・・・「97- 8 I T 1 A」
1 C 区・・・「97- 8 I T 1 C」
1 D N 区・・・「97- 8 I T 1 D N」
1 F 区・・・「98- 8 I T 1 F」
23. 出土遺物等は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター及び高知県立歴史民俗資料館で保管している。

本文目次

第 章 調査の成果	
(1) 確認調査 ⁽¹⁾	3 (曾我)
(2) 1 A 区	31 (藤方)
(3) 1 C 区 (その 2)	111 (曾我)
(4) 1 D N 区	189 (曾我)
(5) 1 F 区	201 (藤方)
付編 1 居徳遺跡群の自然科学分析	269
漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料	
	株式会社パレオ・ラボ
付編 2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果	279
確認調査 ⁽¹⁾ ・1 C 区・1 D N 区出土木製品について	
	株式会社吉田生物研究所

挿図目次

Fig. 1	居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)	1 ~ 2
Fig. 2	確認調査調査区配置図 (S : 1/2,000)	4
Fig. 3	T P - 1 ~ T P - 4 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	5
Fig. 4	T P - 5 ・ T P - 6 ・ T P - 8 ・ T P - 9 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	6
Fig. 5	T P - 10 ・ T P - 11 ・ T P - 13 ・ T P - 14 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	7
Fig. 6	T P - 15 ・ T P - 16 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	8
Fig. 7	T P - 8 第 層上面遺構平面図 (S : 1/40)	9
Fig. 8	T P - 10 第 層遺物出土状態平面図 (S : 1/40)	10
Fig. 9	T P - 11 第 層上面杭跡平面図 (S : 1/80), 同断面図 (S : 1/40)	11
Fig.10	T P - 12 第 層遺物出土状態平面図・鉛直分布図 (S : 1/40)	12
Fig.11	T P - 12 検出遺構平面図・同南壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	13
Fig.12	T P - 14 第 層上面遺構平面図 (S : 1/40)	14
Fig.13	確認調査(1)検出遺構 (S : 1/20)	15
Fig.14	確認調査(1)出土土器 1 (S : 1/3)	16
Fig.15	確認調査(1)出土土器 2 (S : 1/3)	17
Fig.16	確認調査(1)出土土器 3 (S : 1/3)	18
Fig.17	確認調査(1)出土土器 4 (S : 1/3)	19
Fig.18	確認調査(1)出土土器 5 (S : 1/3)	20
Fig.19	確認調査(1)出土石器 1 (S : 1/2)	21
Fig.20	確認調査(1)出土石器 2 (S : 1/2)	22
Fig.21	確認調査(1)出土石器 3 (S : 1/1)	23
Fig.22	確認調査(1)出土木製品 1 (S : 1/3)	24
Fig.23	確認調査(1)出土木製品 2 (S : 1/3)	25
Fig.24	確認調査(1)出土木製品 3 (S : 1/3)	26
Fig.25	1 A 区の位置 (S : 1/5,000)	31
Fig.26	1 A 区 , 1 B 区全体図 (1 面)	35 ~ 36
Fig.27	1 A 区全体図 (2 面)	37
Fig.28	西壁セクション図	38 ~ 40
Fig.29	東壁セクション図	42 ~ 43
Fig.30	1 A 区遺構配置図 (2 面)	45 ~ 48
Fig.31	1 A 区遺構配置図 (1 面)	49 ~ 52
Fig.32	1 A 区遺構平面図 1	53

Fig.33	1 A区遺構平面図 2	54
Fig.34	1 A区遺構平面図 3	55
Fig.35	1 A区遺構平面図 4	56
Fig.36	1 A区遺構平面図 5	57
Fig.37	1 A区出土遺物 1	58
Fig.38	1 A区出土遺物 2	59
Fig.39	1 A区出土遺物 3	60
Fig.40	1 A区出土遺物 4	61
Fig.41	1 A区出土遺物 5	62
Fig.42	1 A区出土遺物 6	63
Fig.43	1 A区出土遺物 7	64
Fig.44	1 A区出土遺物 8	65
Fig.45	1 A区出土遺物 9	66
Fig.46	1 A区出土遺物 10	67
Fig.47	1 A区出土遺物 11	68
Fig.48	1 A区出土遺物 12	69
Fig.49	1 A区出土遺物 13	70
Fig.50	1 A区出土遺物 14	71
Fig.51	1 A区出土遺物 15	72
Fig.52	1 A区出土遺物 16	73
Fig.53	1 A区出土遺物 17	74
Fig.54	1 A区出土遺物 18	75
Fig.55	1 A区出土遺物 19	76
Fig.56	1 A区出土遺物 20	77
Fig.57	1 A区出土遺物 21	78
Fig.58	1 A区出土遺物 22	79
Fig.59	1 A区出土遺物 23	80
Fig.60	1 A区出土遺物 24	81
Fig.61	1 A区出土遺物 25	82
Fig.62	1 A区出土遺物 26	83
Fig.63	1 A区出土遺物 27	84
Fig.64	1 A区出土遺物 28	85
Fig.65	1 A区出土遺物 29	86
Fig.66	1 A区出土遺物 30	87
Fig.67	1 A区出土遺物 31	88

Fig.68	1 A区出土遺物 32	89
Fig.69	1 A区出土遺物 33	90
Fig.70	1 A区出土遺物 34	91
Fig.71	1 A区出土遺物 35	92
Fig.72	1 A区出土遺物 36	93
Fig.73	1 A区出土遺物 37	94
Fig.74	1 A区出土遺物 38	95
Fig.75	1 A区出土遺物 39	96
Fig.76	1 A区出土遺物 40	97
Fig.77	1 A区出土遺物 41	98
Fig.78	1 C区の位置 (S : 1/5,000)	111
Fig.79	1 C区グリッド割り図 (S : 1/400)	112
Fig.80	1 C区西壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	113 ~ 114
Fig.81	1 C区第 層以下調査範囲図 (S : 1/400)	115
Fig.82	1 C区第 層上面検出遺構 (S : 1/20)	116
Fig.83	1 C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/120)	117 ~ 118
Fig.84	1 C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)	119 ~ 120
Fig.85	1 C区第 層上面検出遺構 1 ・ S X 102 (S : 1/40)	121
Fig.86	1 C区第 層上面検出遺構 2 ・ S X 103 (S : 1/40)	122
Fig.87	1 C区第 層上面検出遺構 3 ・ S X 104 (S : 1/80)	123
Fig.88	1 C区第 層上面検出遺構 4 ・ S X 107 (S : 1/40)	124
Fig.89	1 C区第 層上面検出遺構群 1 (S : 1/40)	125
Fig.90	1 C区第 層上面検出遺構群 2 (S : 1/40)	126
Fig.91	1 C区第 層上面検出遺構 5 (S : 1/40)	127
Fig.92	1 C区第 層上面検出遺構 6 (S : 1/40)	128
Fig.93	1 C区第 層上面検出遺構 7 (S : 1/20)	129
Fig.94	1 C区第 層中層検出遺構全体図 (S : 1/80)	130
Fig.95	1 C区第 層中層検出遺構 (S : 1/40)	131
Fig.96	1 C区第 層上面検出遺構 1 ・ S X 1 (S : 1/40)	132
Fig.97	1 C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)	133 ~ 134
Fig.98	1 C区第 層上面検出遺構 2 (S : 1/40)	135
Fig.99	1 C区第 層上面検出遺構 3 (S : 1/40)	136
Fig.100	1 C区第 層上面検出遺構 4 (S : 1/40)	137
Fig.101	1 C区第 層上面検出遺構 5 (S : 1/20)	138
Fig.102	1 C区 D層出土土器分布図 1 (S : 1/100)	139 ~ 140

Fig.103	1 C 区 D 層出土土器分布図 2 (S : 1/100)	141 ~ 142
Fig.104	1 C 区 B 層出土土器分布図 1 (S : 1/100)	143 ~ 144
Fig.105	1 C 区 B 層出土土器分布図 2 (S : 1/100)	145
Fig.106	1 C 区 A 層出土土器分布図 1 (S : 1/100)	148
Fig.107	1 C 区 A 層出土土器分布図 2 (S : 1/100)	149
Fig.108	1 C 区出土土器 1 (S : 1/3)	150
Fig.109	1 C 区出土土器 2 (S : 1/3)	151
Fig.110	1 C 区出土土器 3 (S : 1/3)	152
Fig.111	1 C 区出土土器 4 (S : 1/3)	153
Fig.112	1 C 区出土土器 5 (S : 1/3)	154
Fig.113	1 C 区出土土器 6 (S : 1/3)	155
Fig.114	1 C 区出土土器 7 (S : 1/3)	156
Fig.115	1 C 区出土土器 8 (S : 1/3)	157
Fig.116	1 C 区出土土器 9 (S : 1/3)	158
Fig.117	1 C 区出土土器 10 (S : 1/3)	159
Fig.118	1 C 区出土土器 11 (S : 1/3)	160
Fig.119	1 C 区出土土器 12 (S : 1/3)	161
Fig.120	1 C 区出土土器 13 (S : 1/3)	162
Fig.121	1 C 区出土土製品 (S : 1/2)	163
Fig.122	1 C 区出土石器 1 (S : 1/2)	164
Fig.123	1 C 区出土石器 2 (S : 1/2)	165
Fig.124	1 C 区出土石器 3 (S : 1/2)	166
Fig.125	1 C 区出土石器 4 (S : 1/2)	167
Fig.126	1 C 区出土石器 5 (S : 1/2)	168
Fig.127	1 C 区出土石器 6 (S : 1/2)	169
Fig.128	1 C 区出土石器 7 (S : 1/1)	170
Fig.129	1 C 区出土石器 8 (S : 1/2)	171
Fig.130	1 C 区出土石器 9 (S : 1/2)	172
Fig.131	1 C 区出土石器 10 (S : 1/2)	173
Fig.132	1 C 区出土石器 11 (S : 1/2)	174
Fig.133	1 C 区出土石器 12 (S : 1/2)	175
Fig.134	1 C 区出土木製品 1 (S : 1/2)	176
Fig.135	1 C 区出土木製品 2 (S : 1/3)	177
Fig.136	1 C 区出土木製品 3 (S : 1/3)	178
Fig.137	1 C 区出土木製品 4 (S : 1/3)	179 ~ 180

Fig.138	1 C 区出土木製品 5 (S : 1/3)	181
Fig.139	1 C 区出土木製品 6 (S : 1/3)	182
Fig.140	1 D N 区の位置 (S : 1/5,000)	189
Fig.141	1 D N 区全体図 (S : 1/200)	190
Fig.142	1 D N 区グリッド割り図 (S : 1/200)	191
Fig.143	1 D N 区西壁・北壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	193 ~ 194
Fig.144	1 D N 区出土遺物分布図 (S : 1/100)	195
Fig.145	1 D N 区出土土器 1 (S : 1/3)	196
Fig.146	1 D N 区出土土器 2 (S : 1/3)	197
Fig.147	1 D N 区出土木製品 (S : 1/3)	198
Fig.148	1 F 区の位置 (S : 1/5,000)	201
Fig.149	1 F 区全体図	205 ~ 207
Fig.150	中央ベルトセクション図・南壁セクション図	208 ~ 209
Fig.151	1 F 区遺構配置図 (2 面)	210 ~ 212
Fig.152	1 F 区遺構配置図 (1 面)	213 ~ 214
Fig.153	1 F 区遺構平面図 1	216
Fig.154	1 F 区遺構平面図 2	217
Fig.155	1 F 区遺構平面図 3	218
Fig.156	1 F 区遺構平面図 4	219
Fig.157	1 F 区遺構平面図 5 (S R 1)	221
Fig.158	S R 1 セクション図	222
Fig.159	1 F 区遺構平面図 6 (S R 2)	223
Fig.160	S R 2 セクション図他	224
Fig.161	1 F 区出土遺物 1	226
Fig.162	1 F 区出土遺物 2	227
Fig.163	1 F 区出土遺物 3	228
Fig.164	1 F 区出土遺物 4	229 ~ 230
Fig.165	1 F 区出土遺物 5	231
Fig.166	1 F 区出土遺物 6	232
Fig.167	1 F 区出土遺物 7	233
Fig.168	1 F 区出土遺物 8	234
Fig.169	1 F 区出土遺物 9	235
Fig.170	1 F 区出土遺物 10	236
Fig.171	1 F 区出土遺物 11	237 ~ 238
Fig.172	1 F 区出土遺物 12	239

Fig.173	1 F 区出土遺物 13	240
Fig.174	1 F 区出土遺物 14	241
Fig.175	1 F 区出土遺物 15	242
Fig.176	1 F 区出土遺物 16	243
Fig.177	1 F 区出土遺物 17	244
Fig.178	1 F 区出土遺物 18	245
Fig.179	1 F 区出土遺物 19	246
Fig.180	1 F 区出土遺物 20	247
Fig.181	1 F 区出土遺物 21	248
Fig.182	1 F 区出土遺物 22	249
Fig.183	1 F 区出土遺物 23	250
Fig.184	1 F 区出土遺物 24	251
Fig.185	1 F 区出土遺物 25	252
Fig.186	1 F 区出土遺物 26	253
Fig.187	1 F 区出土遺物 27	254
Fig.188	1 F 区出土遺物 28	255 ~ 256
Fig.189	1 F 区出土遺物 29	257
Fig.190	1 F 区出土遺物 30	258
Fig.191	1 F 区出土遺物 31	259
Fig.192	1 F 区出土遺物 32	260
付図 1	1 A 区 上層遺物出土分布	
付図 2	1 A 区 下層遺物出土分布	
付図 3	1 A 区 d層遺物出土状態 1	
付図 4	1 A 区 d層遺物出土状態 2	
付図 5	1 A 区 d層遺物出土状態 3	
付図 6	1 F 区 層群遺物出土分布	
付図 7	1 F 区 層群遺物出土分布	
付図 8	1 C 区 層出土土器分布図 (S : 1/100)	

表目次

表 1	確認調査(1)出土土器觀察表 1	27
表 2	確認調査(1)出土土器觀察表 2	28
表 3	確認調査(1)出土石器計測表	29
表 4	確認調査(1)出土木製品計測表	30
表 5	1 A 区西壁層序表	34
表 6	1 A 区遺構計測表	99
表 7	1 A 区遺物觀察表 1	100
表 8	1 A 区遺物觀察表 2	101
表 9	1 A 区遺物觀察表 3	102
表10	1 A 区遺物觀察表 4	103
表11	1 A 区遺物觀察表 5	104
表12	1 A 区遺物觀察表 6	105
表13	1 A 区遺物觀察表 7	106
表14	1 A 区遺物觀察表 8	107
表15	1 A 区遺物觀察表 9	108
表16	1 A 区遺物觀察表 10	109
表17	1 A 区遺物觀察表 11	110
表18	1 C 区出土土器觀察表 1	184
表19	1 C 区出土土器觀察表 2	185
表20	1 C 区出土土器觀察表 3	186
表21	1 C 区出土土製品觀察表	187
表22	1 C 区出土石器計測表	187
表23	1 C 区出土木製品計測表	188
表24	1 D N 区出土土器觀察表 1	199
表25	1 D N 区出土土器觀察表 2	200
表26	1 D N 区出土木製品計測表	200
表27	1 F 区層序表	204
表28	1 F 区遺構計測表	261
表29	1 F 区遺物觀察表 1	262
表30	1 F 区遺物觀察表 2	263
表31	1 F 区遺物觀察表 3	264
表32	1 F 区遺物觀察表 4	265

表33	1 F 区遺物觀察表 5	266
表34	1 F 区遺物觀察表 6	267
表35	1 F 区遺物觀察表 7	268
	木製品樹種一覽表	282

図版目次

巻頭図版 1	1 A 区遺構
巻頭図版 2	1 A 区遺物
巻頭図版 3	1 A 区出土遺物
巻頭図版 4	1 A 区出土遺物
巻頭図版 5	1 F 区遺構
巻頭図版 6	1 F 区遺物
巻頭図版 7	1 F 区遺構・遺物
巻頭図版 8	1 F 区遺構
巻頭図版 9	1 C 区第 1 層上面遺構完掘状態(東より), 同第 2 層上面遺構完掘状態(東より)
巻頭図版 10	1 C 区出土遺物 1 (土器), 1 D N 区出土遺物 1 (土器)
巻頭図版 11	1 C 区出土遺物 2 (石器)
巻頭図版 12	1 C 区出土遺物 3 (石器)
巻頭図版 13	1 C 区出土遺物 4 (石器・木製品)
巻頭図版 14	1 C 区出土遺物 5 (土製品・石器)
巻頭図版 15	1 C 区出土遺物 6 (石器)
巻頭図版 16	1 C 区・1 D N 区出土遺物(石器・木製品・貝)
P L . 1	確認調査(1) T P - 1 ~ T P - 7
P L . 2	確認調査(1) T P - 8 ~ T P - 12
P L . 3	確認調査(1) T P - 12 ~ T P - 16
P L . 4	確認調査(1) 出土遺物 1 (土器)
P L . 5	確認調査(1) 出土遺物 2 (土器)
P L . 6	確認調査(1) 出土遺物 3 (土器)
P L . 7	確認調査(1) 出土遺物 4 (石器)
P L . 8	確認調査(1) 出土遺物 5 (木製品)
P L . 9	1 A 区完掘状態・出土状態
P L . 10	1 A 区完掘状態・セクション 1
P L . 11	1 A 区出土状態 1
P L . 12	1 A 区 2 面包含層機械掘削
P L . 13	1 A 区完掘状態・セクション 2
P L . 14	1 A 区出土状態 2
P L . 15	1 A 区出土状態 3
P L . 16	1 A 区出土状態 4

- P L . 17 1 A区出土遺物 1
- P L . 18 1 A区出土遺物 2
- P L . 19 1 A区出土遺物 3
- P L . 20 1 A区出土遺物 4
- P L . 21 1 A区出土遺物 5
- P L . 22 1 A区出土遺物 6
- P L . 23 1 A区出土遺物 7
- P L . 24 1 A区出土遺物 8
- P L . 25 1 A区出土遺物 9
- P L . 26 1 A区出土遺物10
- P L . 27 1 A区出土遺物11
- P L . 28 1 A区出土遺物12
- P L . 29 1 C区西半部第 層上面遺構完掘状態(東より), 1 C区東半部第 層上面遺構完掘
状態(東より)
- P L . 30 1 C区第 層上面遺構調査状況(西より), 1 C区西壁堆積土層断面(南東より)
- P L . 31 1 C区S X 1遺物出土状態(北東より), 1 C区S X 5遺物出土状態(東より)
- P L . 32 1 C区P 18遺物出土状態(東より), 1 C区P 21遺物出土状態(西より)
- P L . 33 1 C区土器(1381)出土状態, 1 C区石器(1422)出土状態
- P L . 34 1 C区P 113完掘状態(西より), 1 C区P 127完掘状態(北より)
- P L . 35 1 C区西壁堆積土層断面(東より)
- P L . 36 1 C区第 層上面遺構完掘状態(北東より), 1 C区第 層上面遺構群(P 156~P
159・P 161)完掘状態(北東より)
- P L . 37 1 C区P 157完掘状態(北より), 1 C区P 159完掘状態(西より)
- P L . 38 1 C区P 161完掘状態(北西より), 1 C区P 245炭化物検出状態(南西より)
- P L . 39 1 C区石器(1403)出土状態, 1 C区石器(1404)出土状態
- P L . 40 1 C区木製品(1432・1431)出土状態, 1 C区木製品(1434)出土状態
- P L . 41 1 C区第 層上面遺構検出状況(西より), 同(東より)
- P L . 42 1 C区第 層上面遺構検出状態(南東より), 同(南より)
- P L . 43 1 C区第 層上面遺構調査状況(北西より), 同(南東より)
- P L . 44 1 C区第 層上面遺構完掘状態(東より)
- P L . 45 1 C区出土遺物 7(土器)
- P L . 46 1 C区出土遺物 8(土器)
- P L . 47 1 C区出土遺物 9(土器)
- P L . 48 1 C区出土遺物10(土器・石器)
- P L . 49 1 C区出土遺物11(木製品)

- P L . 50 1 C 区出土遺物12 (木製品)
- P L . 51 1 D N 区調査前状況 (西より) , 1 D N 区調査状況・包含層掘削 (北より)
- P L . 52 1 D N 区完掘状態 (北東より) , 1 D N 区西壁堆積土層断面 (北東より)
- P L . 53 1 D N 区木製品 (39) 出土状態 , 1 D N 区出土遺物 2 (土器)
- P L . 54 1 D N 区出土遺物 3 (土器・木製品)
- P L . 55 1 F 区完掘状態 1
- P L . 56 1 F 区完掘状態 2
- P L . 57 1 F 区完掘状態 3
- P L . 58 1 F 区完掘状態 4
- P L . 59 1 F 区セクション
- P L . 60 1 F 区出土状態 1
- P L . 61 1 F 区出土状態 2
- P L . 62 1 F 区出土状態 3
- P L . 63 1 F 区出土状態 4
- P L . 64 1 F 区出土遺物 1
- P L . 65 1 F 区出土遺物 2
- P L . 66 1 F 区出土遺物 3
- P L . 67 1 F 区出土遺物 4
- P L . 68 1 F 区出土遺物 5
- P L . 69 1 F 区出土遺物 6
- P L . 70 1 F 区出土遺物 7
- P L . 71 1 F 区出土遺物 8
- P L . 72 1 F 区出土遺物 9
- P L . 73 1 F 区出土遺物10
- P L . 74 1 F 区出土遺物11

居徳遺跡群 通巻目次

『居徳遺跡群』(本文編)

第 章 調査に至る経過

第 章 遺跡の位置と環境

第 章 調査の概要

第 章 調査の成果

(1) 1 B 区

(2) 1 C 区(その 1)

(3) 1 D 区

第 章 考察

1 C 区第 層群出土土器について

『居徳遺跡群』(写真図版編)

1 B 区

1 C 区(その 1)

1 D 区

『居徳遺跡群』

第 章 調査の成果

(1) 確認調査(1)

(2) 1 A 区

(3) 1 C 区(その 2)

(4) 1 D N 区

(5) 1 F 区

付編 1 居徳遺跡群の自然科学分析

漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料

付編 2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

確認調査(1)・1 C 区・1 D N 区出土木製品について

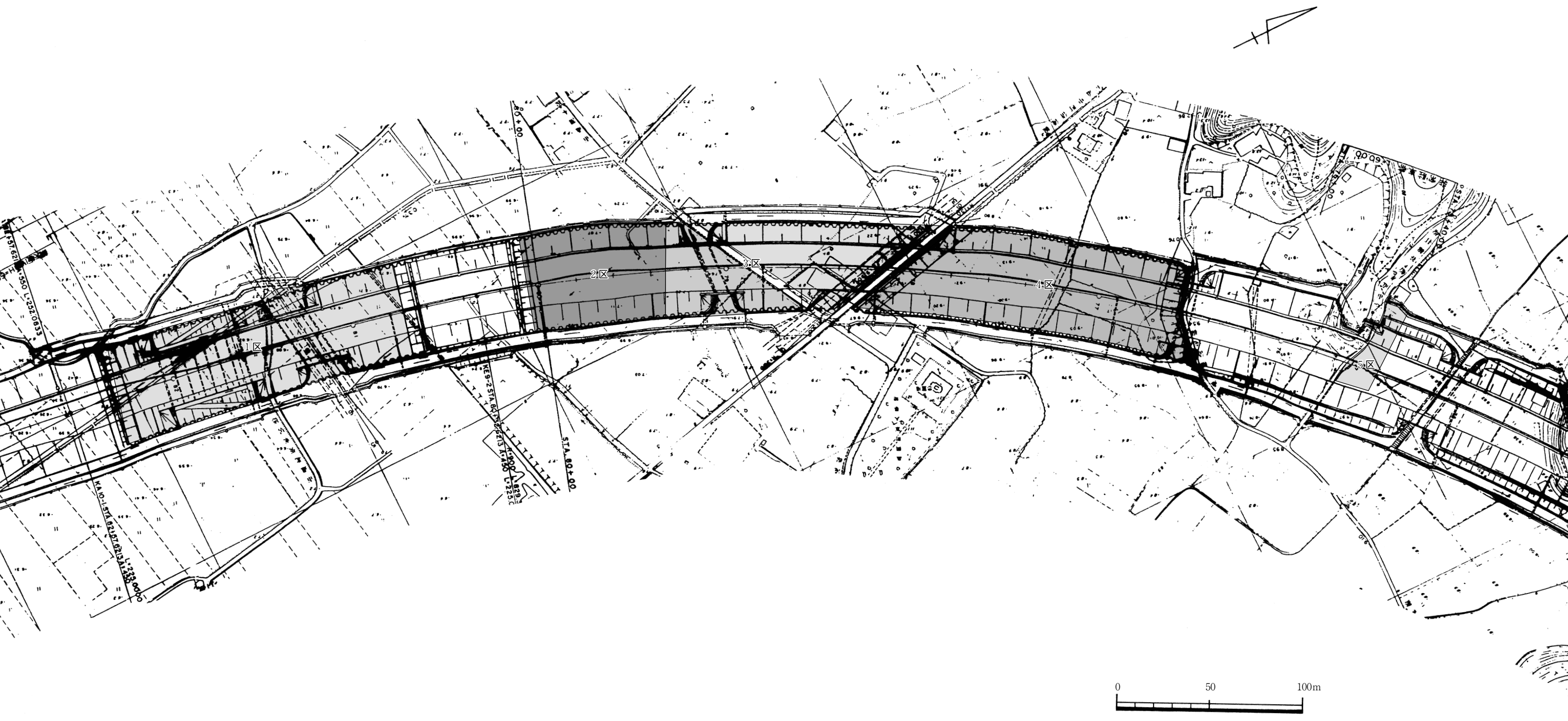


Fig.1 居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)

第 章 調査の成果

(1) 確認調査⁽¹⁾

本編は確認調査の成果⁽¹⁾とし、1区関連の成果(TP-1～TP-16)について報告する。

1. 調査の概要

四国横断自動車道建設工事に伴い、土佐市居徳地区の工事予定地に存在する遺跡について事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、遺跡の範囲・内容等の確認をおこなうことを目的として、本次調査を実施した。調査期間は平成8年6月5日～8月6日、調査面積は650m²である。

2. 調査の方法

5×5mの試掘坑(テストピット=TP)を26箇所設定し、重機(バックホー)及び人力により掘り下げ、遺構・遺物の検出作業をおこなった。検出遺構・遺物出土状況・土層堆積状況等は測量・写真撮影によって記録した。

3. 調査の成果

(1)各調査区の概要

TP-1 (Fig. 3)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。(少量の流れ込み遺物あり)

TP-2 (Fig. 3)

現地表下3.3mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-3 (Fig. 3)

現地表下2.9mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。(少量の流れ込み遺物あり)

TP-4 (Fig. 3)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。(少量の流れ込み遺物あり)

TP-5 (Fig. 4)

現地表下2.6mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-6 (Fig. 4)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-7

暗渠埋設部分であったため、調査不能となり中止する。

TP-8 (Fig. 4・7)

現地表下2.1mまで調査を実施した。

弥生時代前期のピット状遺構1(層上面)、及び縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層(～層)を確認し、突帯文土器⁽¹⁾・弥生土器等が出土した。

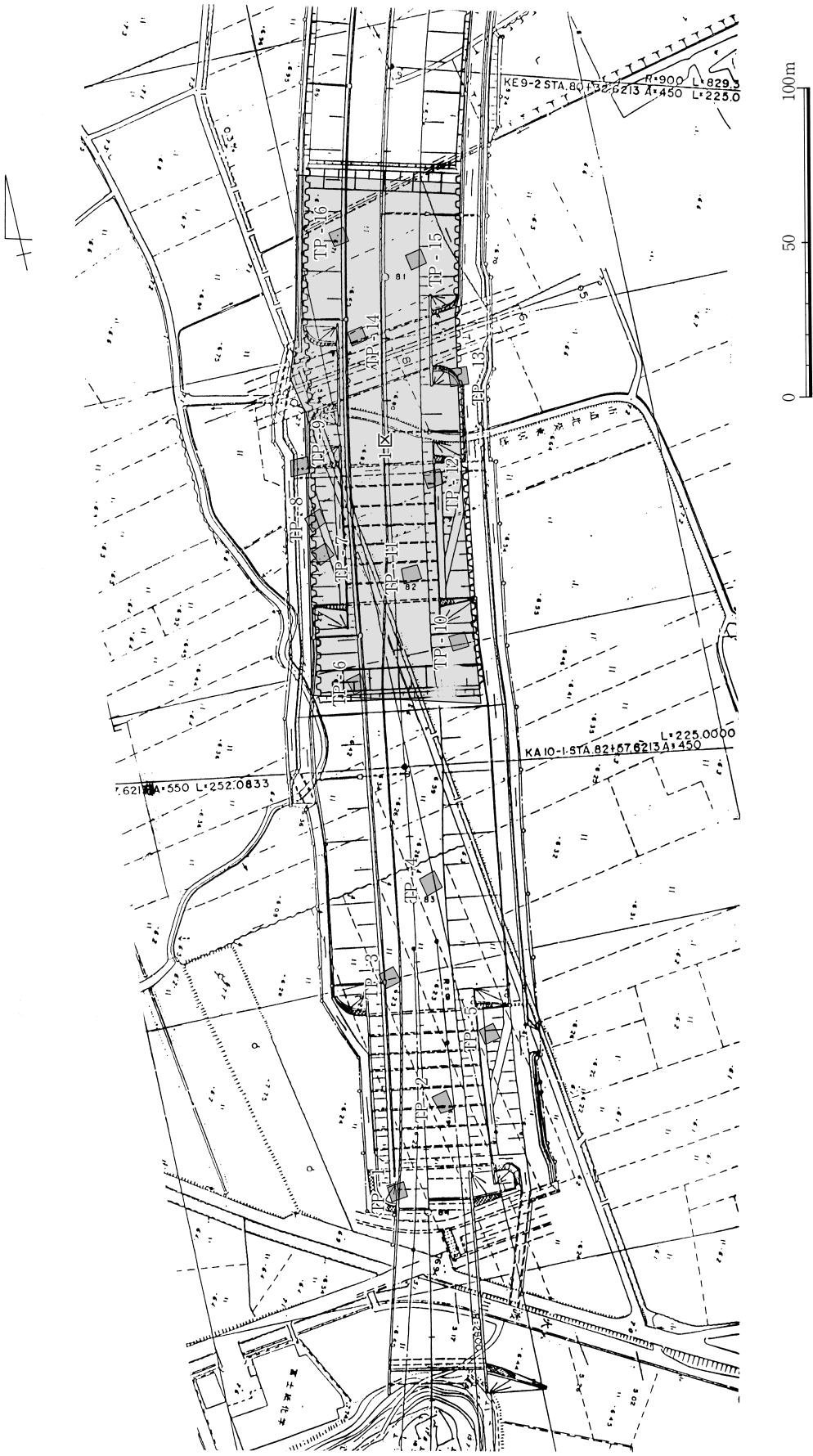


Fig.2 確認調査調査区配置図 (S:1/2,000)

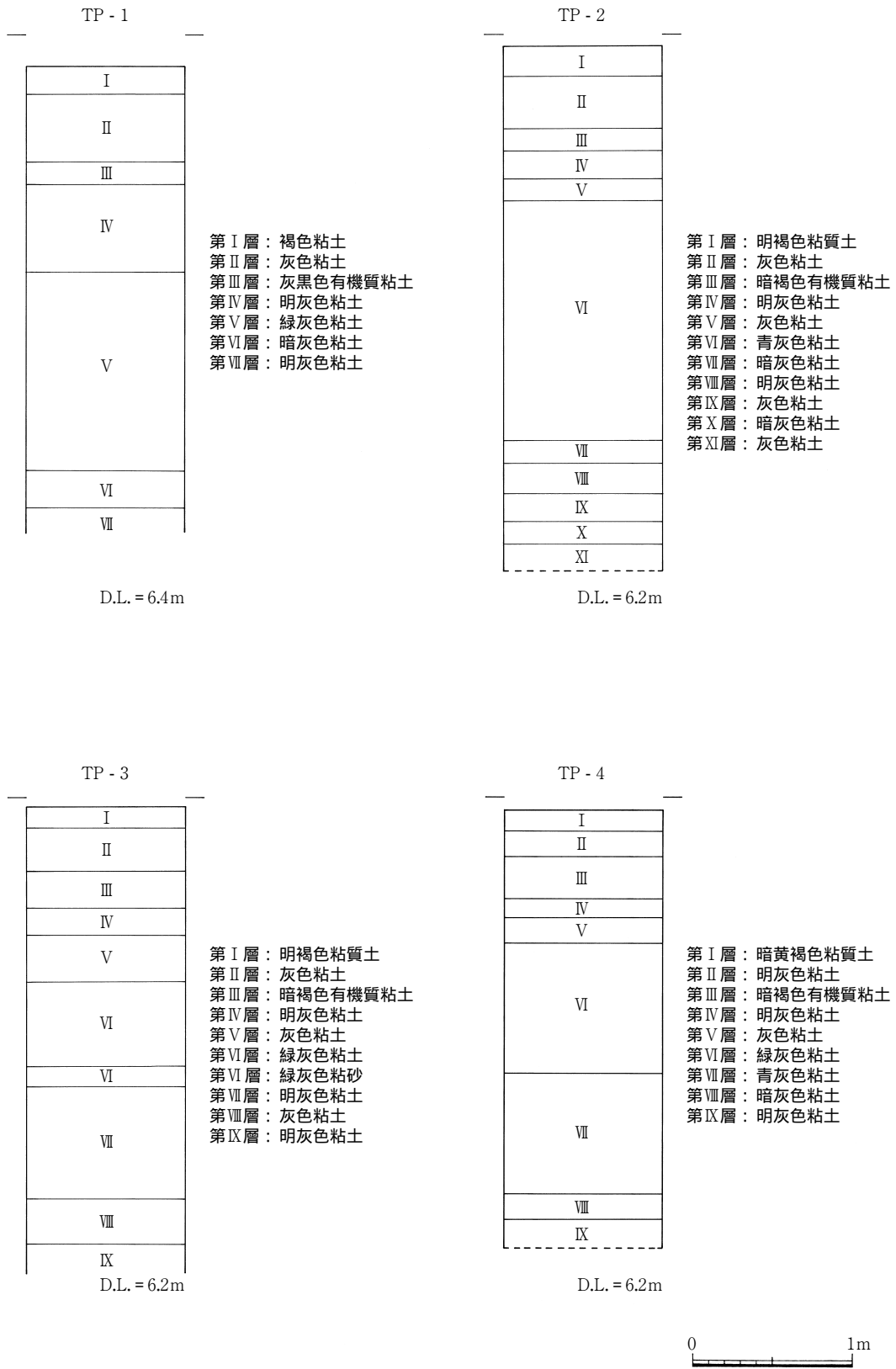


Fig.3 TP-1 ~ TP-4 堆積土層断面柱状模式图 (S : 1/40)

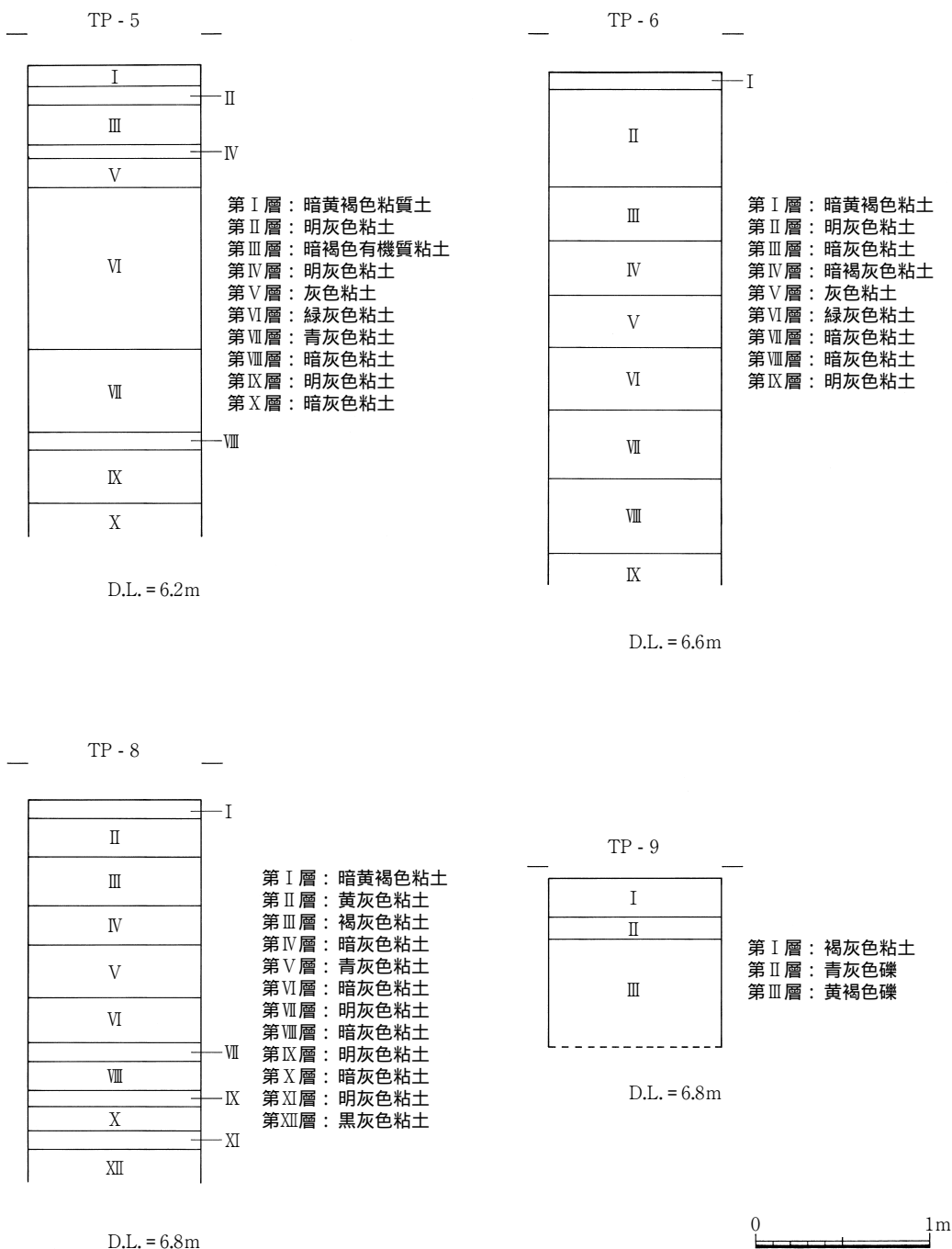


Fig.4 TP-5 • TP-6 • TP-8 • TP-9 堆積土層断面柱状模式图 (S : 1/40)

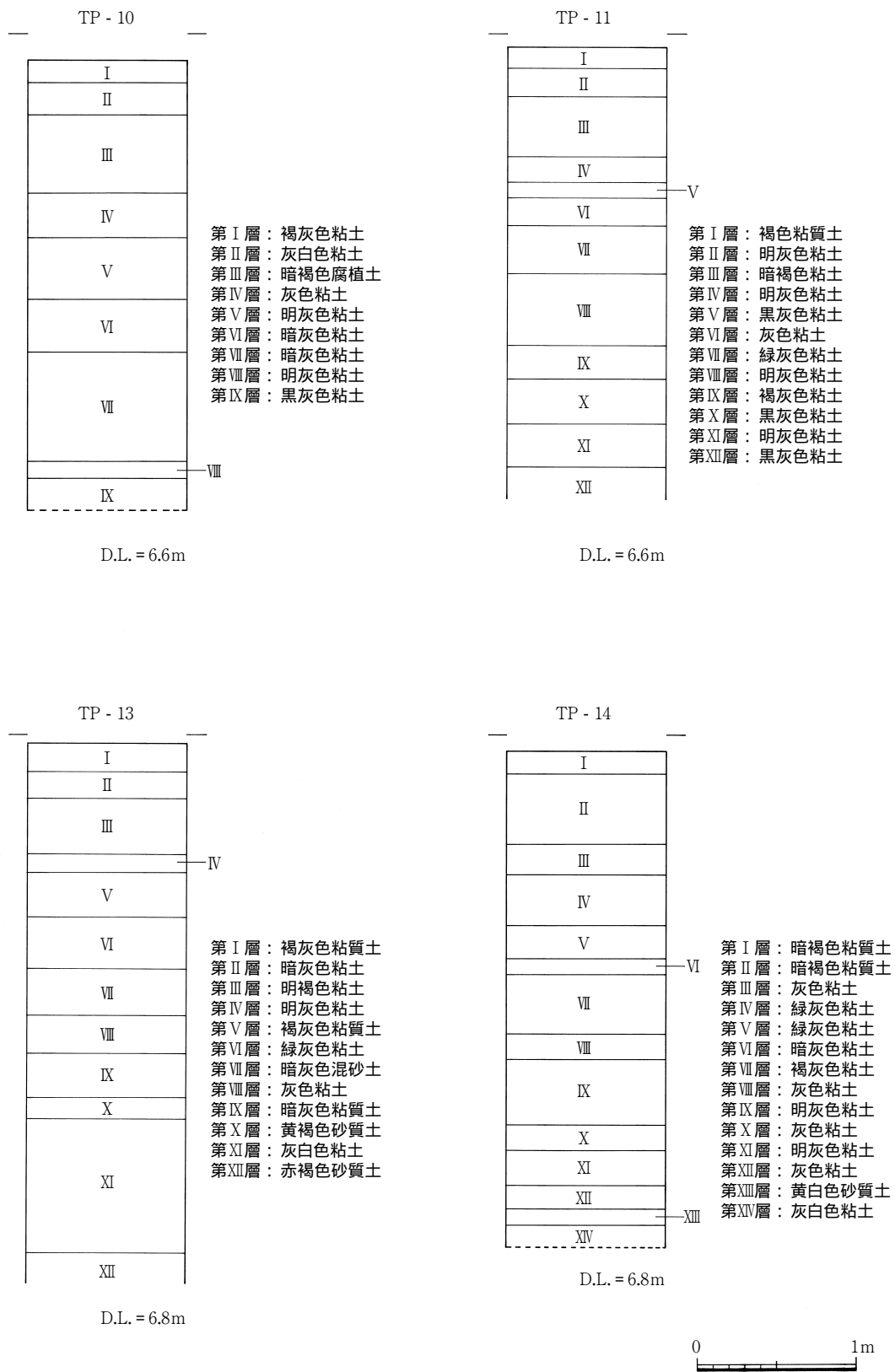


Fig.5 TP-10・TP-11・TP-13・TP-14 堆積土層断面柱状模式图 (S : 1/40)

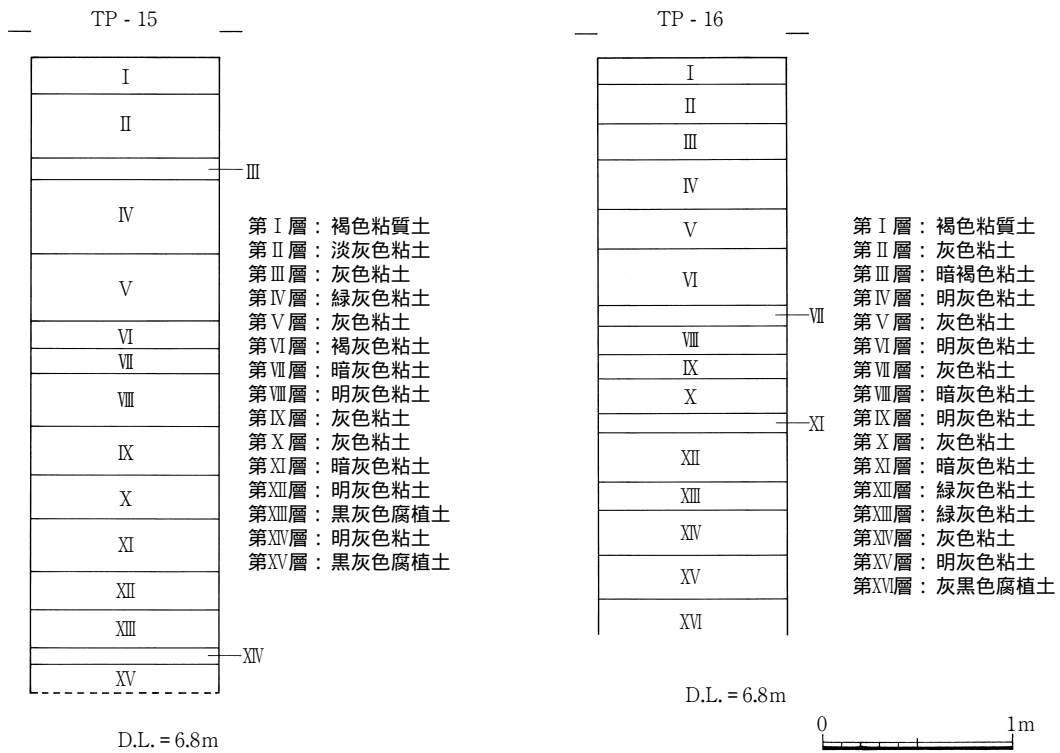


Fig.6 TP-15・TP-16 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)

TP - 9 (Fig. 4)

現地表下1.0mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

表土直下で岩盤（基底礫層）が確認されることから，旧来の地形が削平された箇所であると考えられる。

TP - 10 (Fig. 5 ・ 8)

現地表下2.8mまで調査を実施した。

層において木製品が集中的に出土した。年代の根拠となる遺物は伴わないが，検出深度から古墳時代頃の所産かと考えられる。

TP - 11 (Fig. 5 ・ 9)

現地表下2.8mまで調査を実施した。

層上面で杭跡 1 を確認した。検出深度から古墳時代の所産かと考えられる。

TP - 12 (Fig.10 ・ 11)

現地表下2.4mまで調査を実施した。

層上面で弥生時代前期のピット状遺構 3 ， 層上面で縄文時代のピット状遺構 2 を確認した。また縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（ ～ 層）を確認し，突帯文土器・弥生土

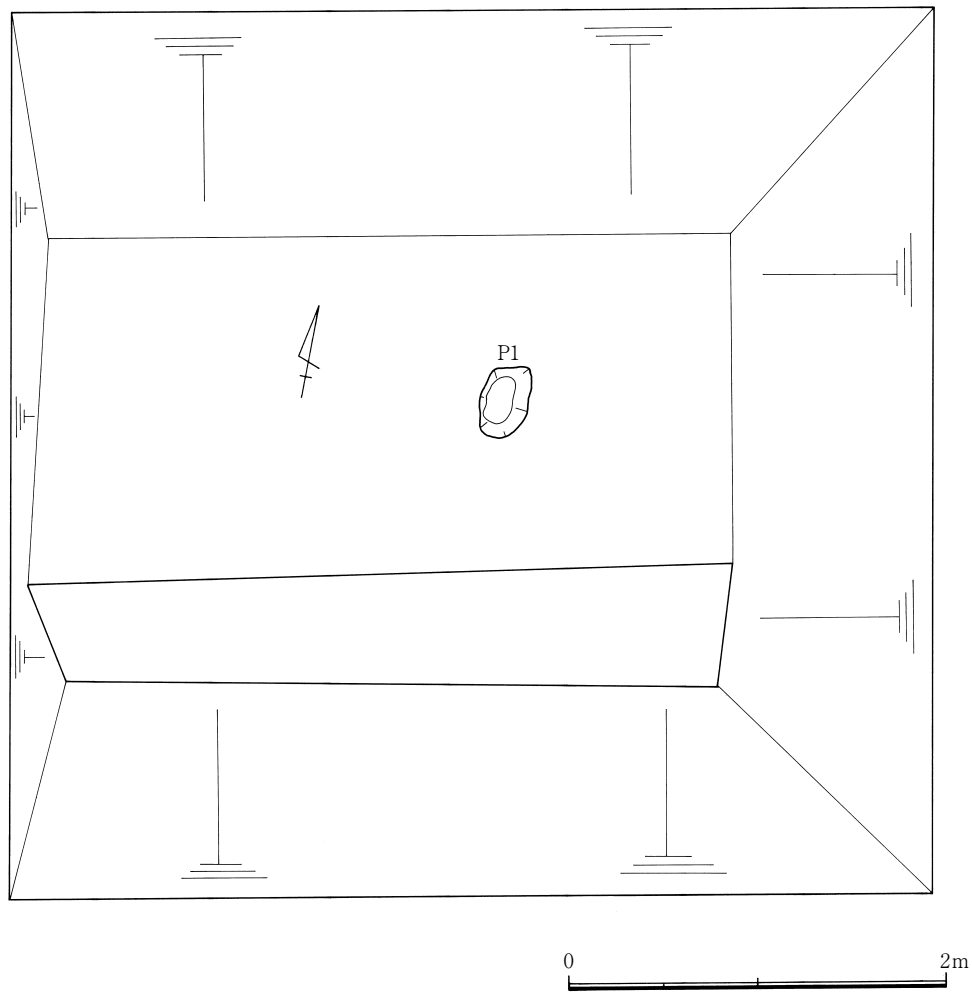


Fig.7 TP-8 第 層上面遺構平面図 (S : 1/40)

器・土師器・石器等が出土した。遺構検出面は2面存在し、下位のは岩盤（基底礫層）上面を遺構検出面としている。

TP-13 (Fig. 5)

現地表下3.3mまで調査を実施した。

縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（～層・～層）を確認し、突帯文土器・弥生土器・石器等が出土した。

TP-14 (Fig. 5・12)

現地表下3.2mまで調査を実施した。

弥生時代前期のピット状遺構6（層上面）、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（～層）、及び縄文時代の遺物包含層（層）を確認し、縄文土器・弥生土器・石器等が出土した。

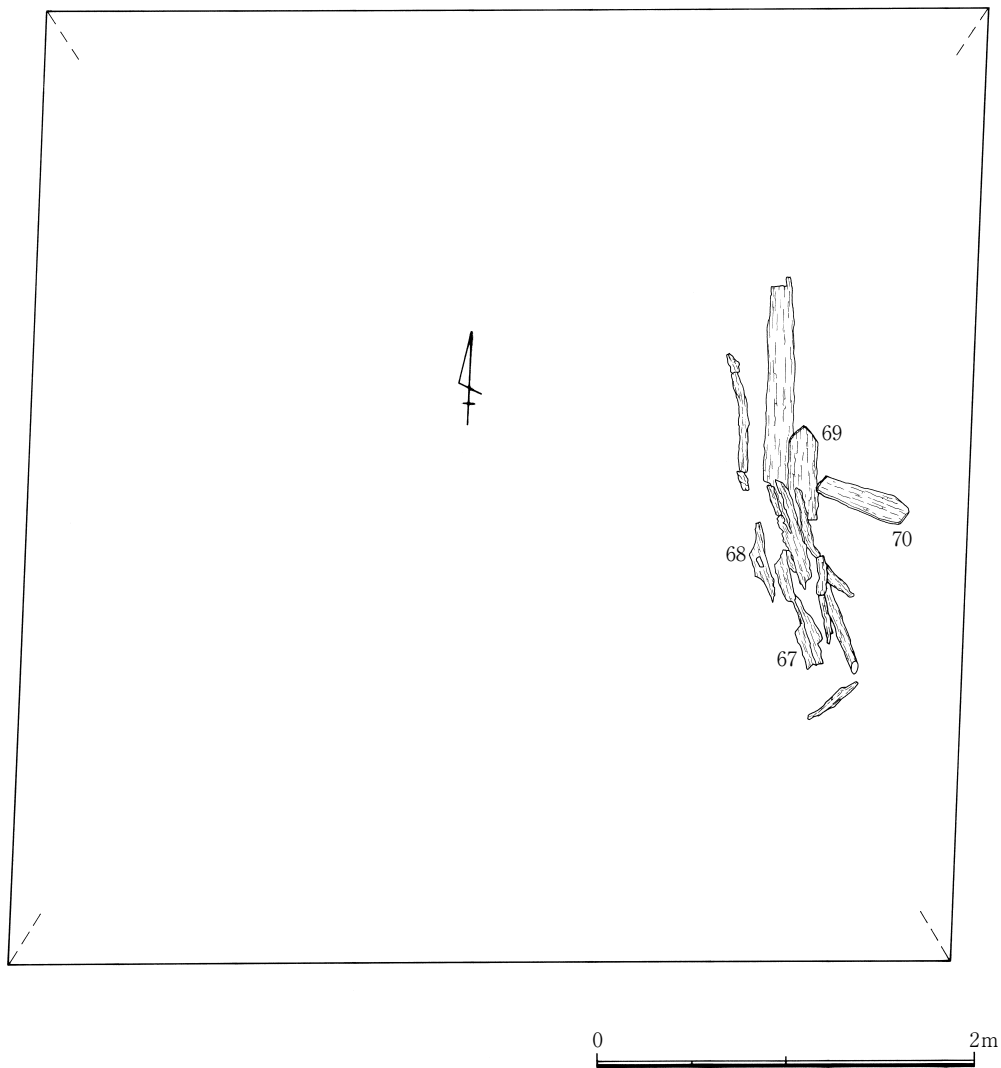


Fig.8 TP-10 第 層遺物出土状態平面図 (S : 1/40)

TP - 15 (Fig. 6)

現地表下3.4mまで調査を実施した。

縄文時代晩期の遺物包含層 (層) を確認し , 縄文土器等が出土した。

TP - 16 (Fig. 6)

現地表下2.9mまで調査を実施した。

縄文時代晩期の遺物包含層 (層) を確認し , 縄文土器等が出土した。

(2)遺構

ピット状遺構 (Fig.13)

TP・8・P1

平面形は不整楕円形で、長径42cm、短径26cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は暗灰色粘土である。遺物は土器細片1点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP・12・P1

平面形は不整形で、長径38cm、短径37cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は褐灰色粘土である。遺物は土器細片4点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP・12・P2

平面形は不整楕円形で、長径22cm、短径18cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は黒色腐植土である。出土遺物はないが、遺構は縄文時代の所産と考えられる。

TP・14・P1

平面形は不整形で、長径34cm、短径31cm、検出面からの深さは25cmである。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は突帯文土器のものとみられる胴部片1点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP・14・P2

平面形は隅丸方形で、長径25cm、短径23cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は暗褐色粘質土である。遺物は突帯文土器のものとみられる胴部片2点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP・14・P3

平面形はほぼ円形で、長径26cm、短径25cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は暗褐色粘

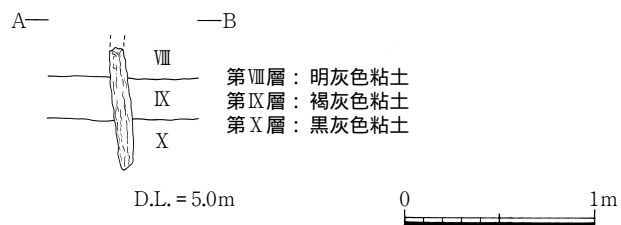
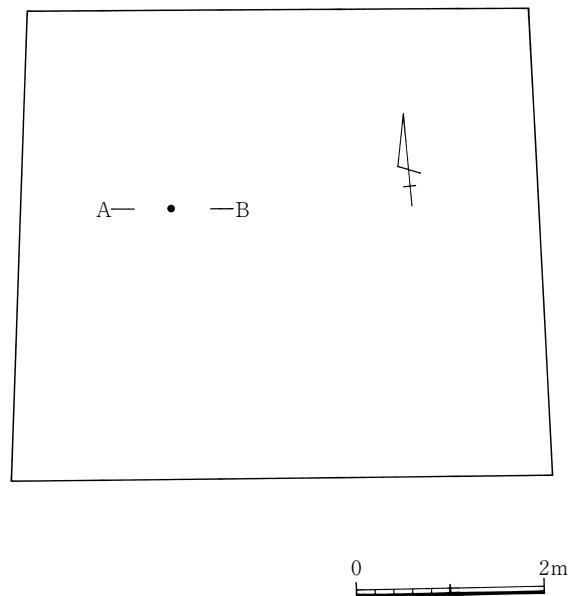


Fig.9 TP-11 第 層上面杭跡平面図 (S : 1/80)
同断面図 (S : 1/40)

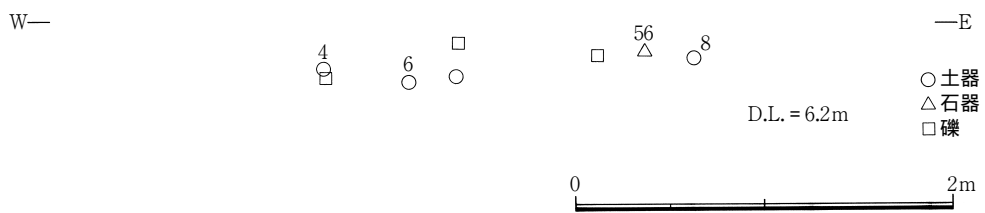
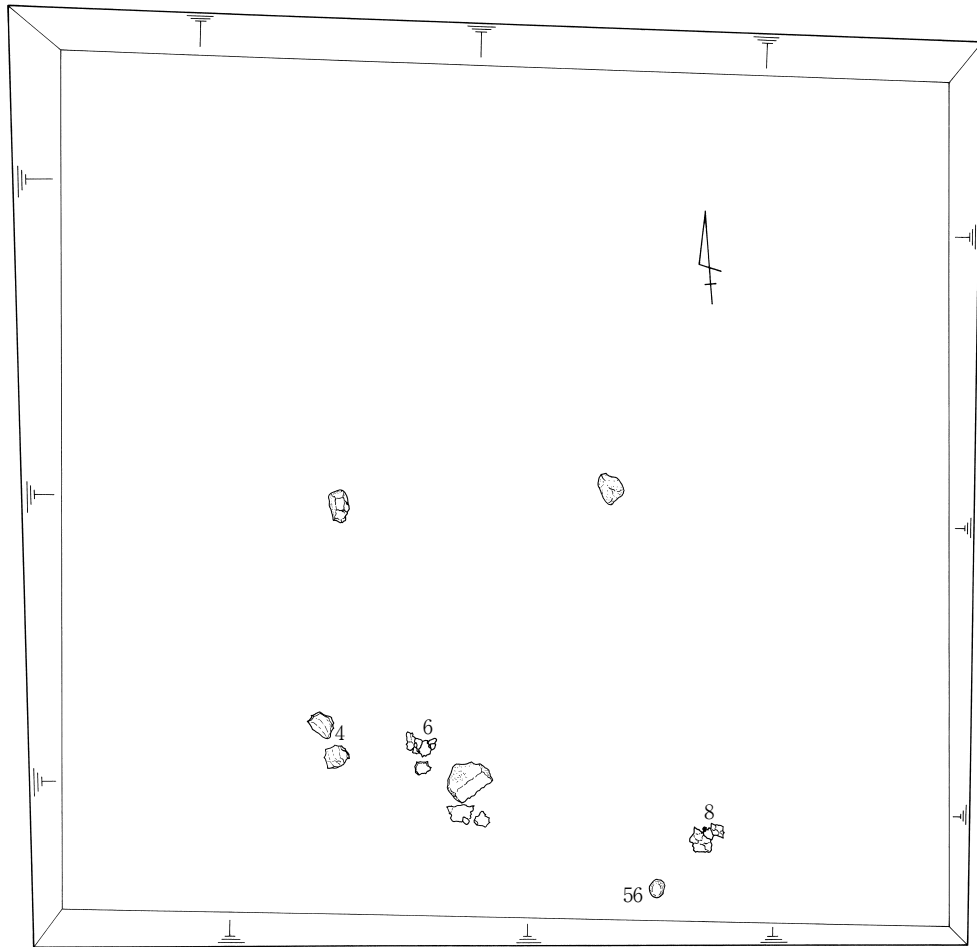


Fig.10 TP-12 第 層遺物出土状態平面図・鉛直分布図 (S : 1/40)

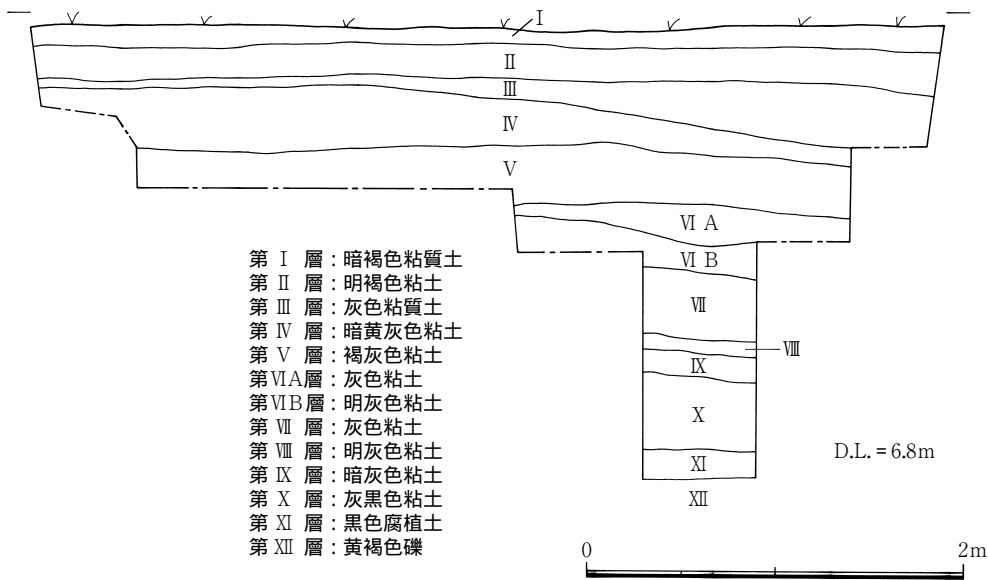
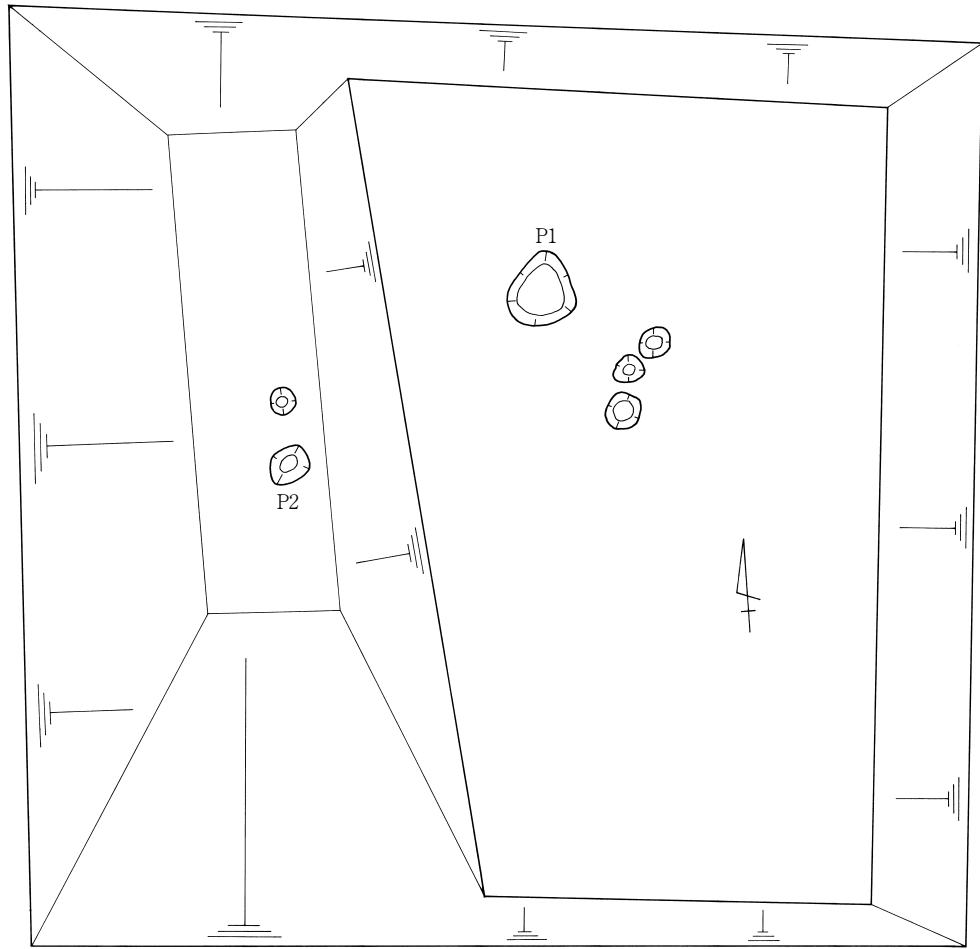


Fig.11 TP-12 檢出遺構平面圖・同南壁堆積土層断面圖 (S : 1/40)

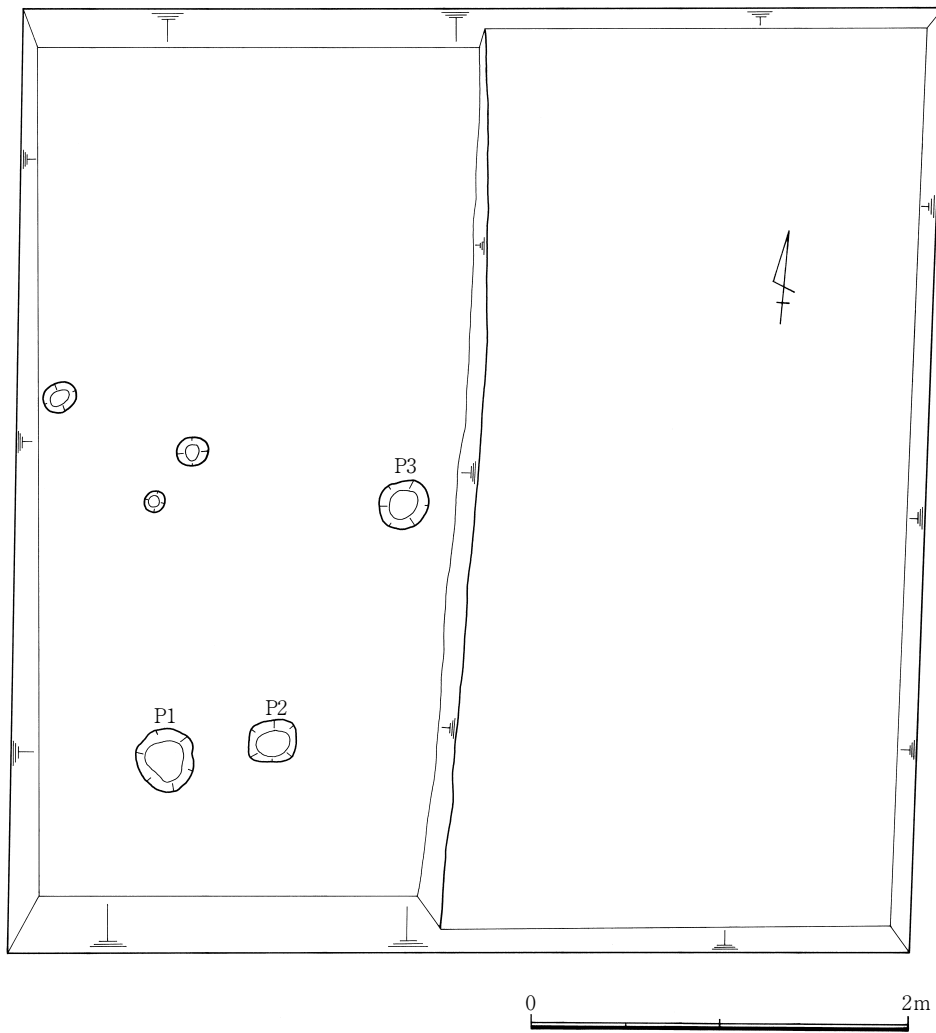


Fig.12 TP-14 第 層上面遺構平面図 (S : 1/40)

質土である。出土遺物はないが、遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

杭跡

TP - 11 (Fig. 9)

層上面から打ち込まれたとみられる杭 1 を確認した。杭の残存長は65cmで、先端部は 層に達する。

(3)遺物

土器 (Fig.14 ~ 18)

TP - 8 出土土器 1 点 , TP - 12 出土土器 20 点 , TP - 13 出土土器 1 点 , TP - 14 出土土器 32 点 ,

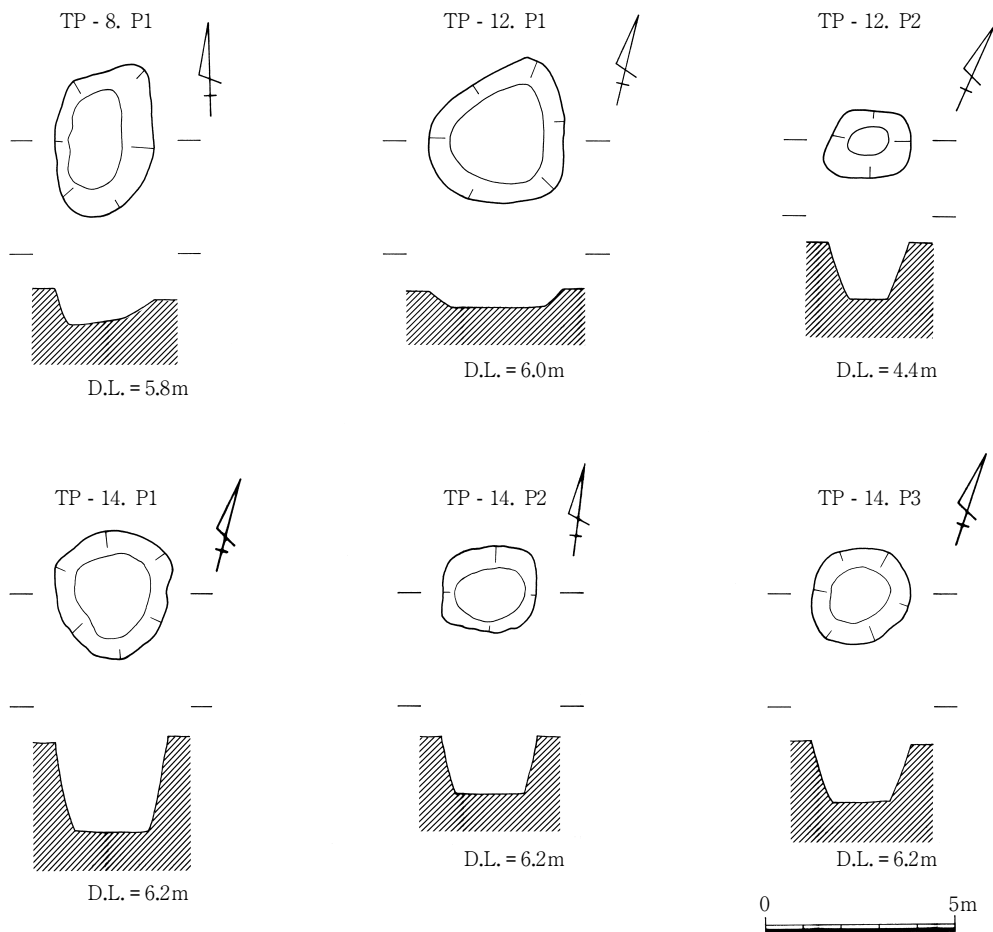


Fig.13 確認調査a 検出遺構 (S : 1/20)

合計54点を図示した。

TP・8出土土器 (Fig.14)

1は ~ 層出土の突帯文土器・突帯部片である。口縁直下部分とみられ、刻目突帯2条を貼付する。

TP・12出土土器 (Fig.14・15)

2・3は 層出土の突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付する。

4～8は 層出土である。4は深鉢～甕形土器⁽²⁾・口縁～頸部片で、口縁端部外端に刻目を施す。5は突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。6は深鉢～甕形土器・口縁部片である。7は深鉢～甕形土器・胴部片で、外面に沈線1, 刺突文1段を施す。8は深鉢～甕形土器・底部片である。

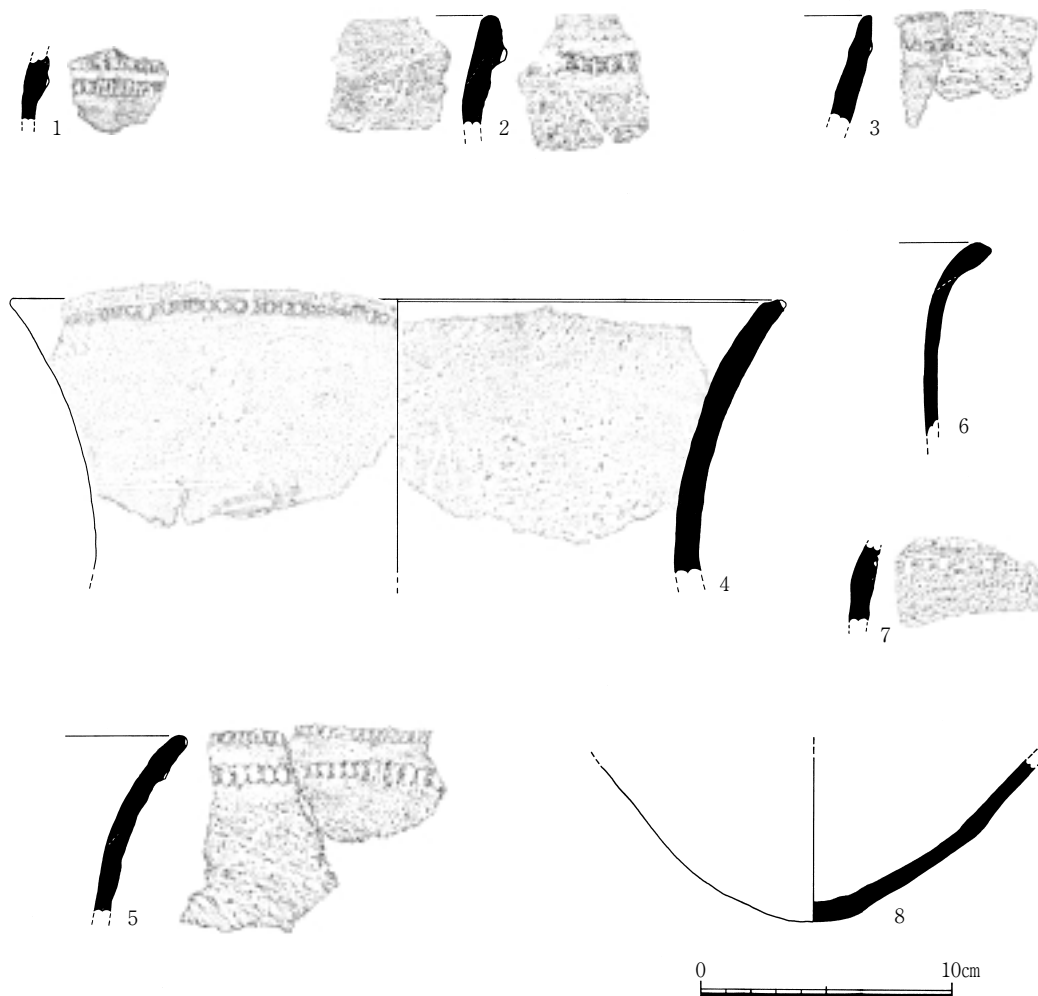


Fig.14 確認調査a 出土土器 1 (S : 1/3)

9 ~ 16は 層出土である。9は弥生土器・壺・口縁部片である。10は突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。11は深鉢～甕形土器・胴部片で、外面に条痕調整を施す。12は弥生土器・甕・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。13は弥生土器・甕・底部片である。14は縄文土器・浅鉢・口縁部片で、波状口縁を呈し、内面に3条の沈線文を施す。15は縄文土器・浅鉢・底部片である。16は縄文土器・浅鉢とみられる底部片である。

17 ~ 21は 層出土である。17は突帯文土器・口縁部片で、外面に刺突状の刻目を施す。18は深鉢～甕形土器・底部片である。19は土師器・壺・頸～胴部片で、外面にタタキ・ハケ調整を施す。20は土師器・底部片で、底面にタタキ目状の圧痕を有する。21は土師器・坏・口縁部片である。

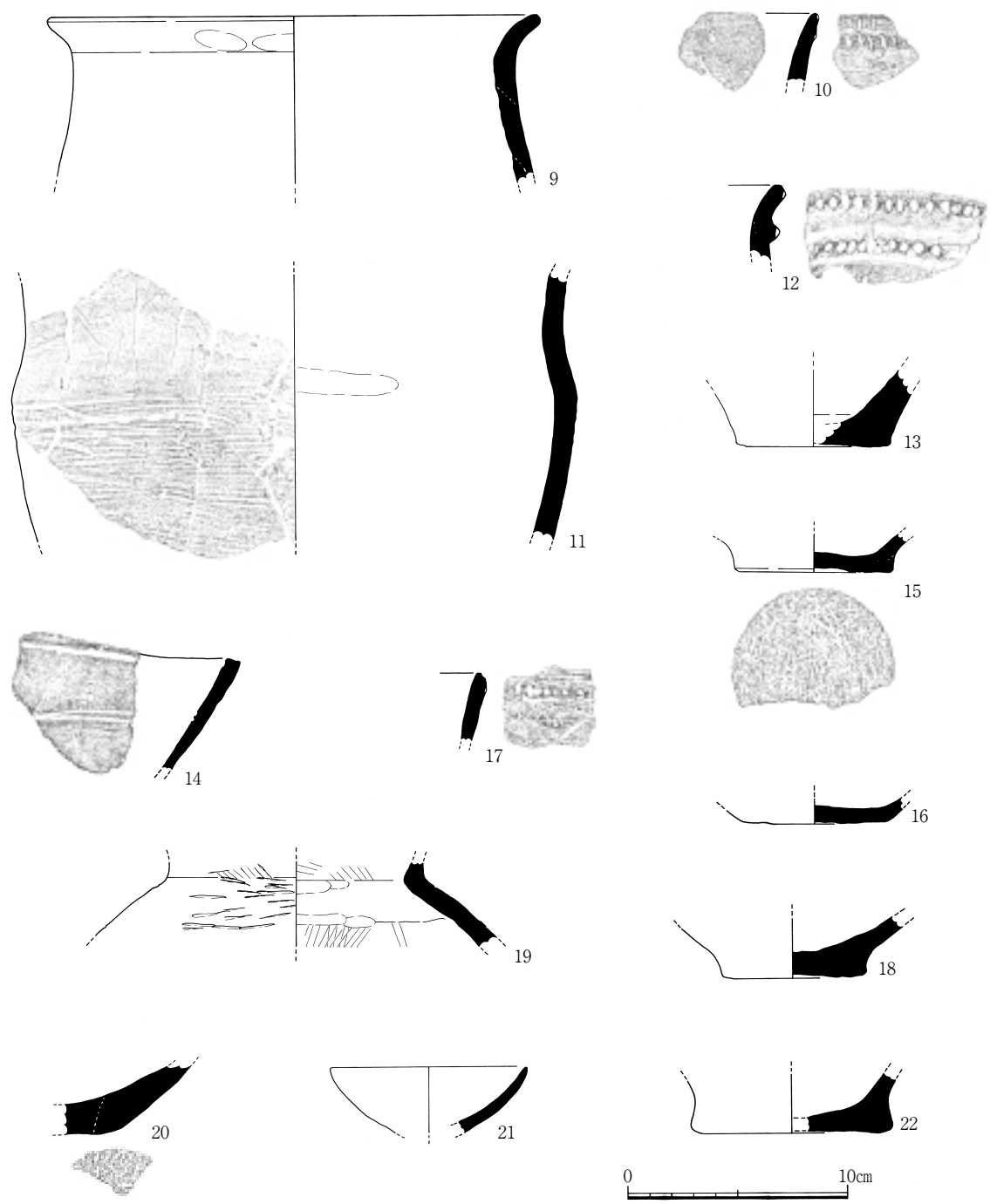


Fig.15 確認調査a 出土土器2 (S : 1/3)

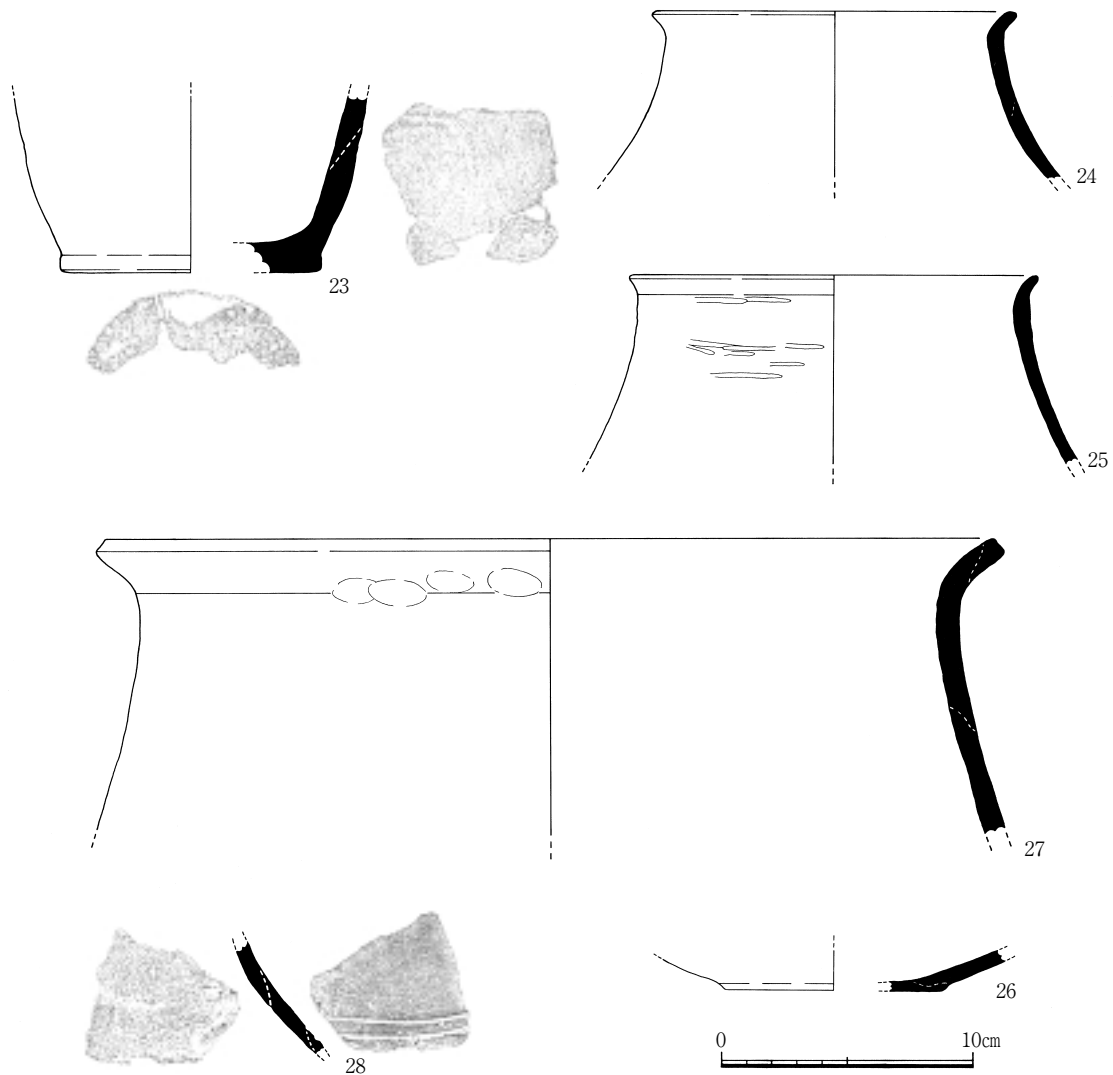


Fig.16 確認調査a 出土土器3 (S : 1/3)

T P - 13 出土土器 (Fig.15)

22は 層出土の深鉢～甕形土器・底部片である。大粒の砂粒を多く含む特徴的な胎土によるもので、居徳遺跡群1C区出土土器の「特殊胎土土器」⁽³⁾に類する。

T P - 14 出土土器 (Fig.16～18)

23は 層出土の深鉢～甕形土器・底部片で、外面に条痕調整を施す。

24～25は 層出土である。24・25は縄文土器・壺・口縁～頸部片である。25は口縁部直下外面に赤彩を施す。26は縄文土器・壺とみられる底部片である。27は弥生土器・壺・口縁～頸部片である。28は弥生土器・壺・頸部片で、外面に沈線2条を描く。

29～41は突帯文土器で、いずれも突帯1条を有する。29・30は口縁～胴部片で、外面に条痕調

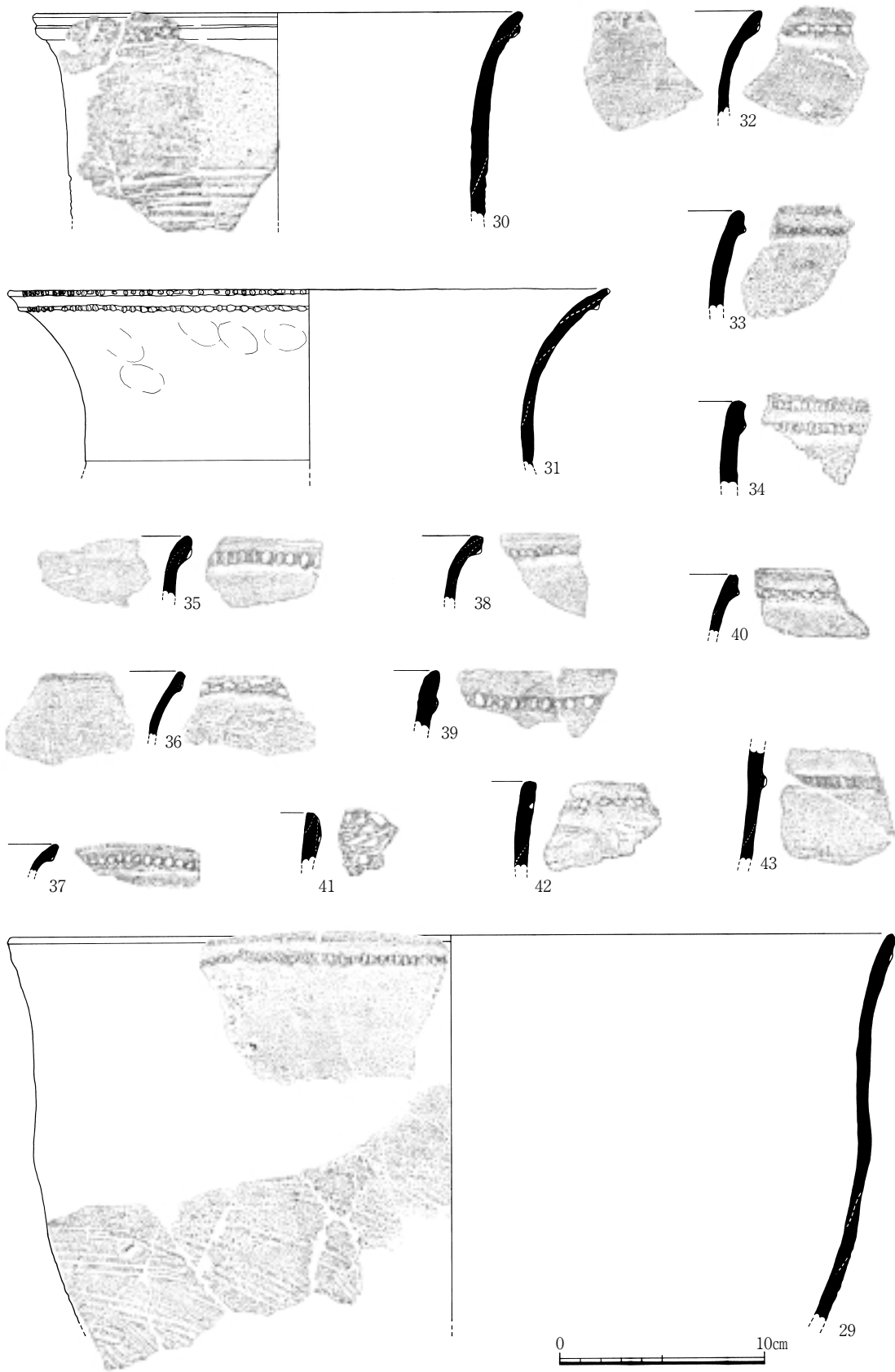


Fig.17 確認調査a 出土土器4 (S : 1/3)

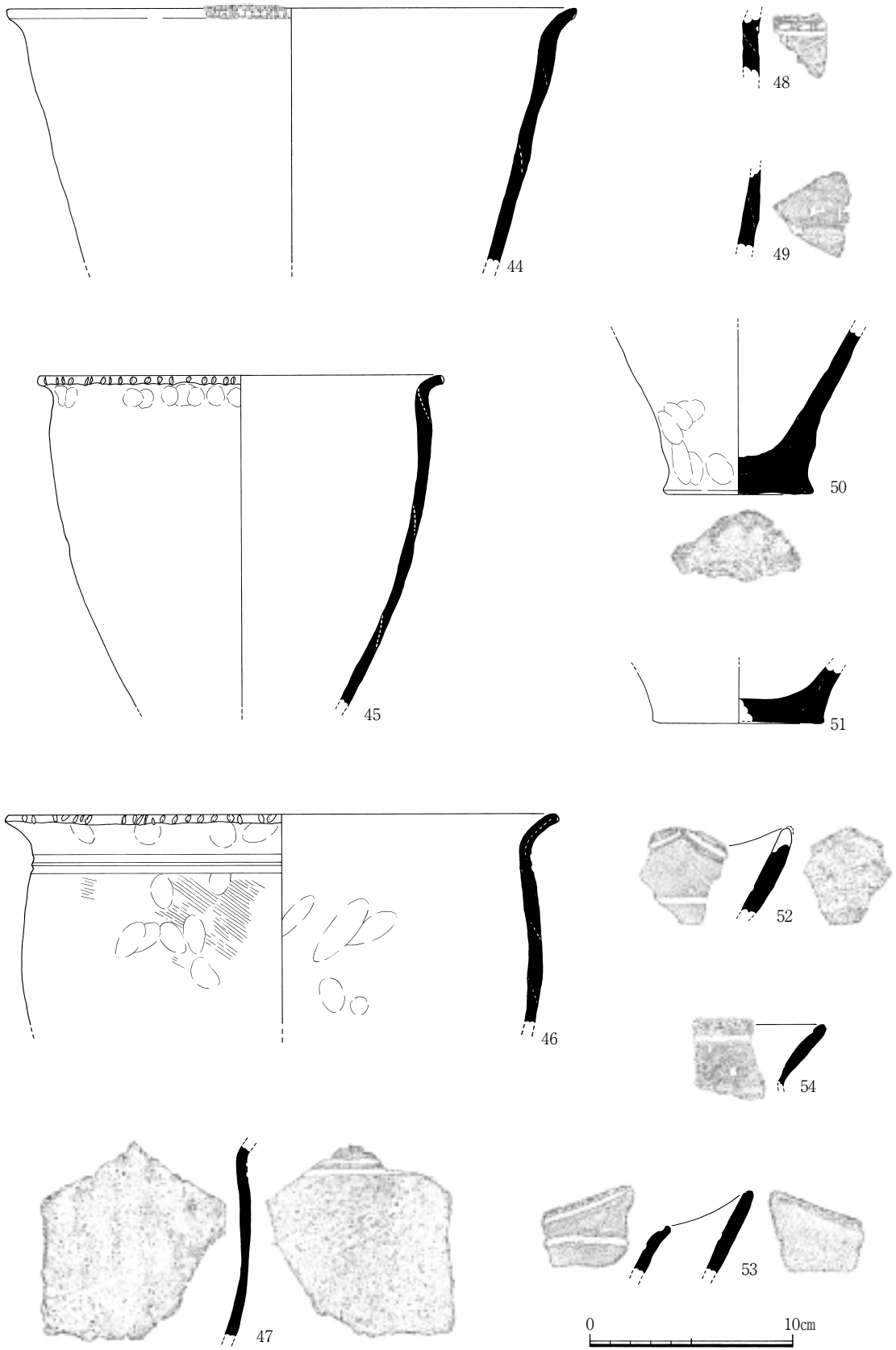


Fig.18 確認調査a 出土土器5 (S : 1/3)

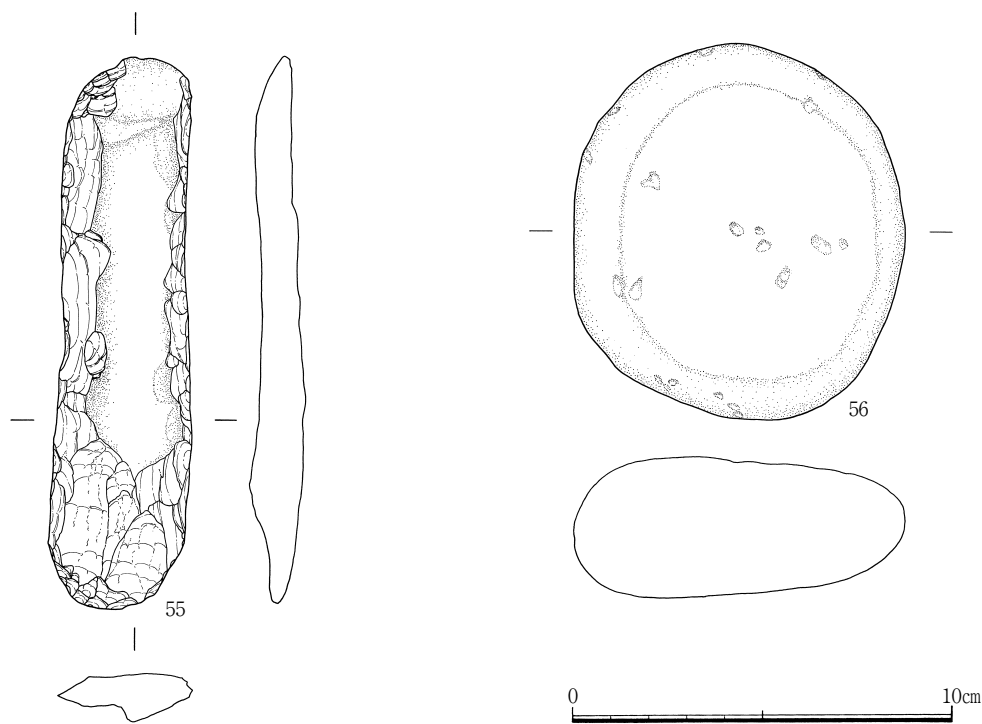


Fig.19 確認調査a 出土石器1 (S : 1/2)

整を施す。31は口縁～頸部片で、口縁端部外端に刻目を施し、頸～胴部境界部分外面に沈線1条を描く。32は口縁～頸部片で、突帯には刺突状の刻目を施す。33～41は口縁部片である。34は口縁端部外端に刻目を施す。36・40は突帯に刺突状の刻目を施す。41は突帯に刻目2段を施す。刻目内には木目とみられる圧痕が観察される。

42は深鉢～甕形土器・口縁部片で、外面に刺突文1段を施す。43は突帯文土器・胴部片で、刻目突帯1条を貼付する。

44～51は弥生土器・甕である。44は口縁～胴部片で、口縁端部外端に刻目を施す。45は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施す。46は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施し、頸部直下外面に平行沈線2条を描く。47は頸～胴部片で、頸部直下外面に平行沈線2条を描く。48は胴部片で、外面に平行沈線2条を描き、沈線間に刺突文を施す。49は胴部片で、外傾接合による接合部の外面に段を形成し、刻目(ヘラ描き状)を加える。50・51は底部片である。

52～54は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。52・53は波状口縁を呈し、内面に沈線2条を描く。52は口縁端部側の沈線1条に赤色顔料を充填する。54は内面に沈線状の凹部1が観察される。

石器

TP - 12出土石器2点, TP - 13出土石器1点, TP - 14出土石器9点, 合計12点を図示した。

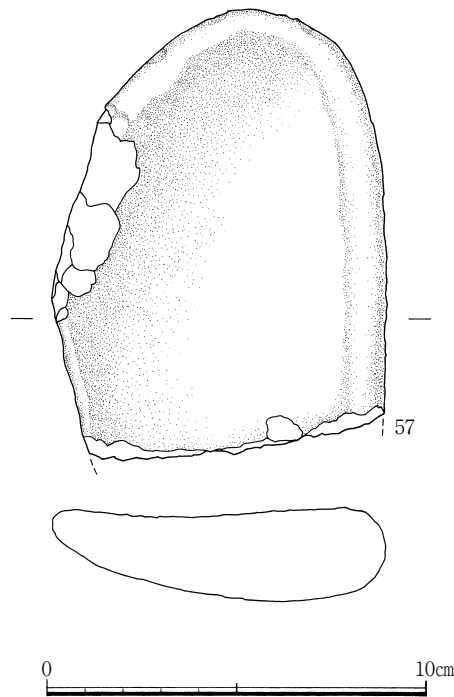


Fig.20 確認調査a 出土石器2 (S : 1/2)

T P - 12 出土石器 (Fig.19)

55・56は 層出土である。55は結晶片岩製の打製石斧である。56は花崗岩製の磨石である。

T P - 13 出土石器 (Fig.20)

57は 層出土の石皿で、砂岩製である。

T P - 14 出土石器 (Fig.21)

58～66は 層出土石器である。58～65は打製石鏃である。58～61はチャート製である。58・59は平基⁽⁴⁾、60は円基～凸基、61は凸基である。62～65はサヌカイト製である。62・63は凹基、64は平基～凹基、65は凸基～円基である。66はサヌカイト製の2次加工ある剥片で、石鏃未製品の可能性がある。

木製品 (Fig.22～24)

T P - 10出土の木製品5点⁽⁵⁾を図示した。いずれも 層出土である。

67～71は田下駄⁽⁶⁾を構成する部材である。67は長軸両端部に突出部を有し、杵型田下駄⁽⁷⁾の足板と考えられる。突出部表面は外圧によりやや凹んでおり、使用状態を示す痕跡と考えられる。68は杵型田下駄の横杵である。長軸両端は縦杵と組み合わせるために細く(一端を欠く)、また中央部には足板固定のための穿孔1を有する。穿孔部の大きさと出土状態により、68は67と組み合わせて使用された可能性が考えられる。69～71はいずれも田下駄の足板と考えられる。69・70は7個の穿孔を有し、輪螺型田下駄⁽⁸⁾のものか考えられる。71は穿孔6を有し、中板もしくは歯と組み合わせるための方形の受け部1を形成する。箱型⁽⁹⁾もしくは足駄型⁽¹⁰⁾の田下駄のものと考えられる。67～71の樹種はいずれもヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている⁽¹¹⁾。

4. 総括

T P - 1～T P - 16の調査対象範囲において、遺構・遺物の存在が確認されたのは、T P - 8～T P - 16の区間であった。ここには縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構及び遺物包含層が広範囲に存在するものと判断され、当該期の集落跡の存在する可能性が高いと考えられた。

T P - 12周辺では部分的ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構検出面及び遺物包含層の下層に縄文時代の遺構面が確認できた。

木製品の集中出土地点と杭跡が確認できたT P - 10・11周辺では、年代の根拠となる遺物は出土

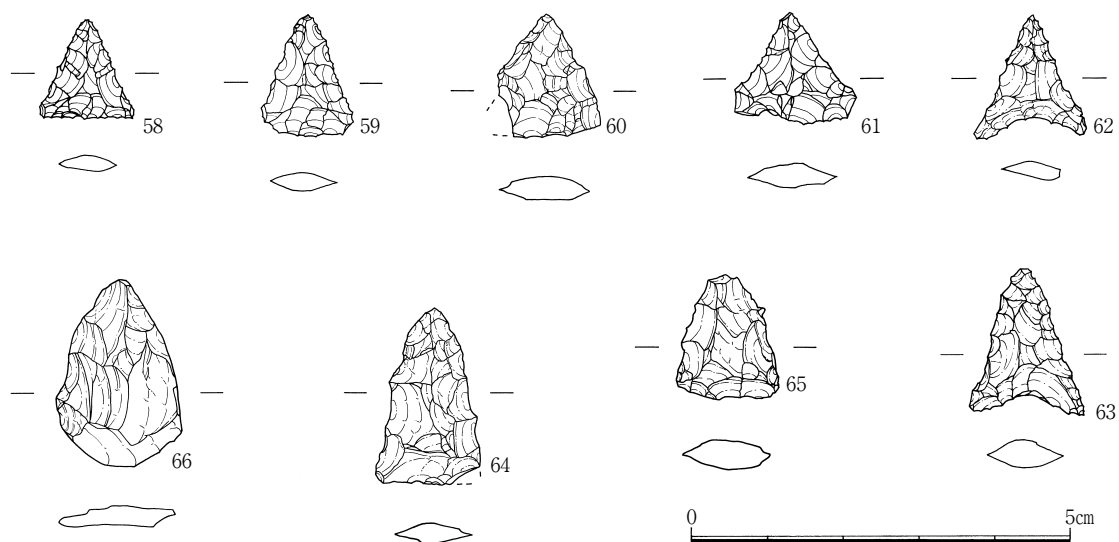


Fig.21 確認調査a 出土石器3 (S: 1/1)

していないが、古墳時代頃の遺跡が存在するものと考えられた。

以上の成果に基づき、居徳遺跡群 1 区の調査範囲を決定した。試掘坑と発掘調査区との対応関係は以下のとおりである。

- TP - 6 ~ 9 . . . 1 E 区
- TP - 10・11 . . . 1 D 区
- TP - 12 1 C 区
- TP - 13・14 1 A 区
- TP - 15・16 1 B 区

註

(1) 既報の『居徳遺跡群』においては、発掘調査 1 C 区出土の「刻目突帯または無刻目突帯を有する」深鉢～甕形土器について、縄文時代晩期～弥生時代前期という時代性を考慮し、「突帯文土器」という名称で取り扱った。そして、「突帯文土器」に該当しない深鉢～甕形土器については、「深鉢～甕形土器」と呼称した。本編においても、1 C 区の状況に類するような出土状態の「縄文晩期土器」と「弥生前期土器」を扱わねばならないため、以上の方針を踏襲し、「突帯文土器」、「深鉢～甕形土器」の名称を使用した。

曾我貴行「第 章 調査の成果 (2) 1 C 区 (その 1)」『居徳遺跡群』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年 p.108～111

(2) 同註(1)

(3) 曾我貴行「第 章 調査の成果 (2) 1 C 区 (その 1)」『居徳遺跡群』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年 p.59

(4) 打製石鏃の形態分類については、国立歴史民俗博物館(1996年)による基準に従った。

国立歴史民俗博物館『農耕開始期の石器組成 1 近畿(大阪・兵庫)・中国・四国』国立歴史民俗博物館資料調査報告書 7 1996年

- (5) この5点に関しては、株式会社吉田生物研究所に委託して、保存処理を実施した。
- (6) 奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊 1993年
- (7) 同註(6)
- (8) 同註(6)
- (9) 同註(6)
- (10) 同註(6)
- (11) 樹種鑑定は株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付編2として掲載した。

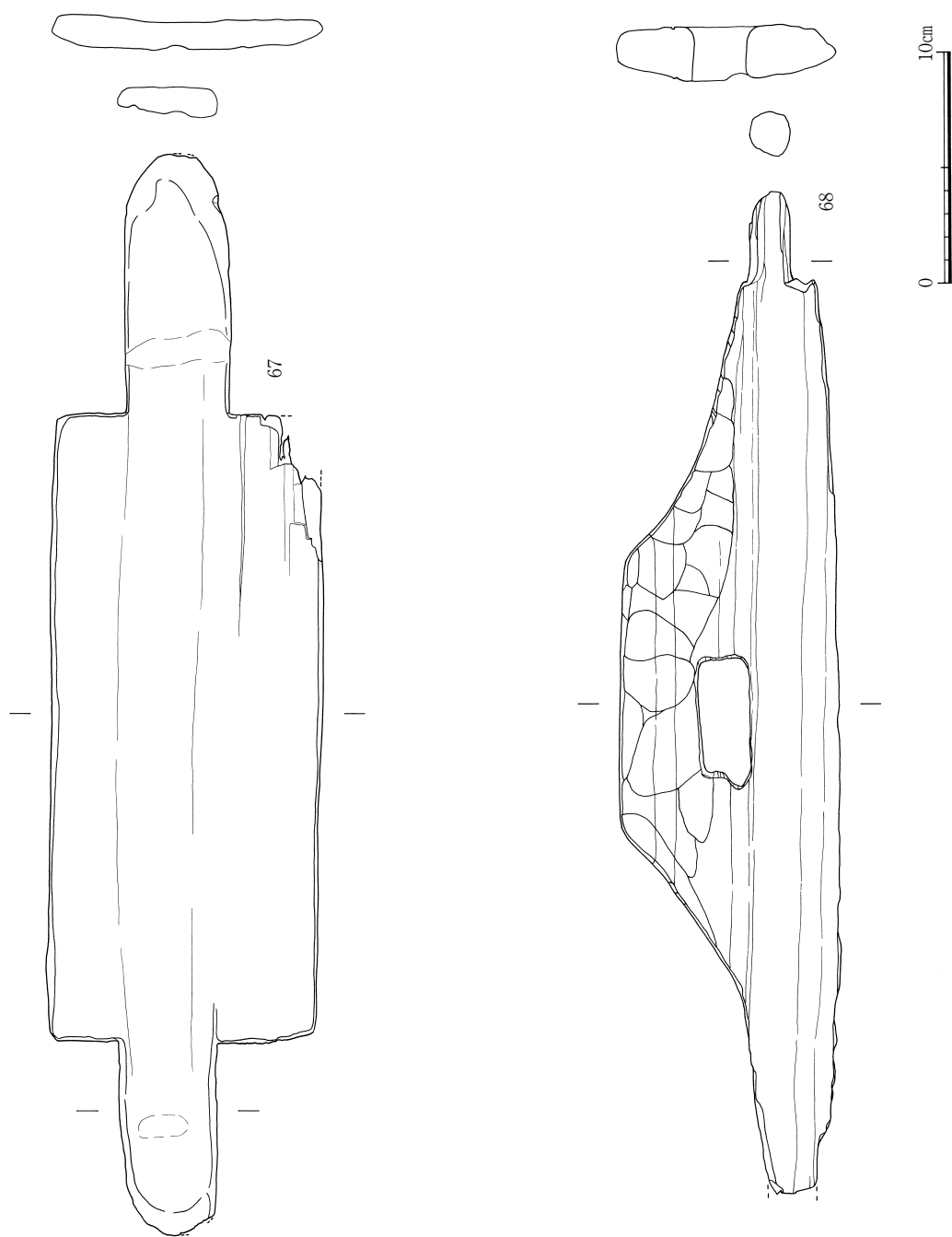


Fig.22 確認調査a 出土木製品1 (S: 1/3)

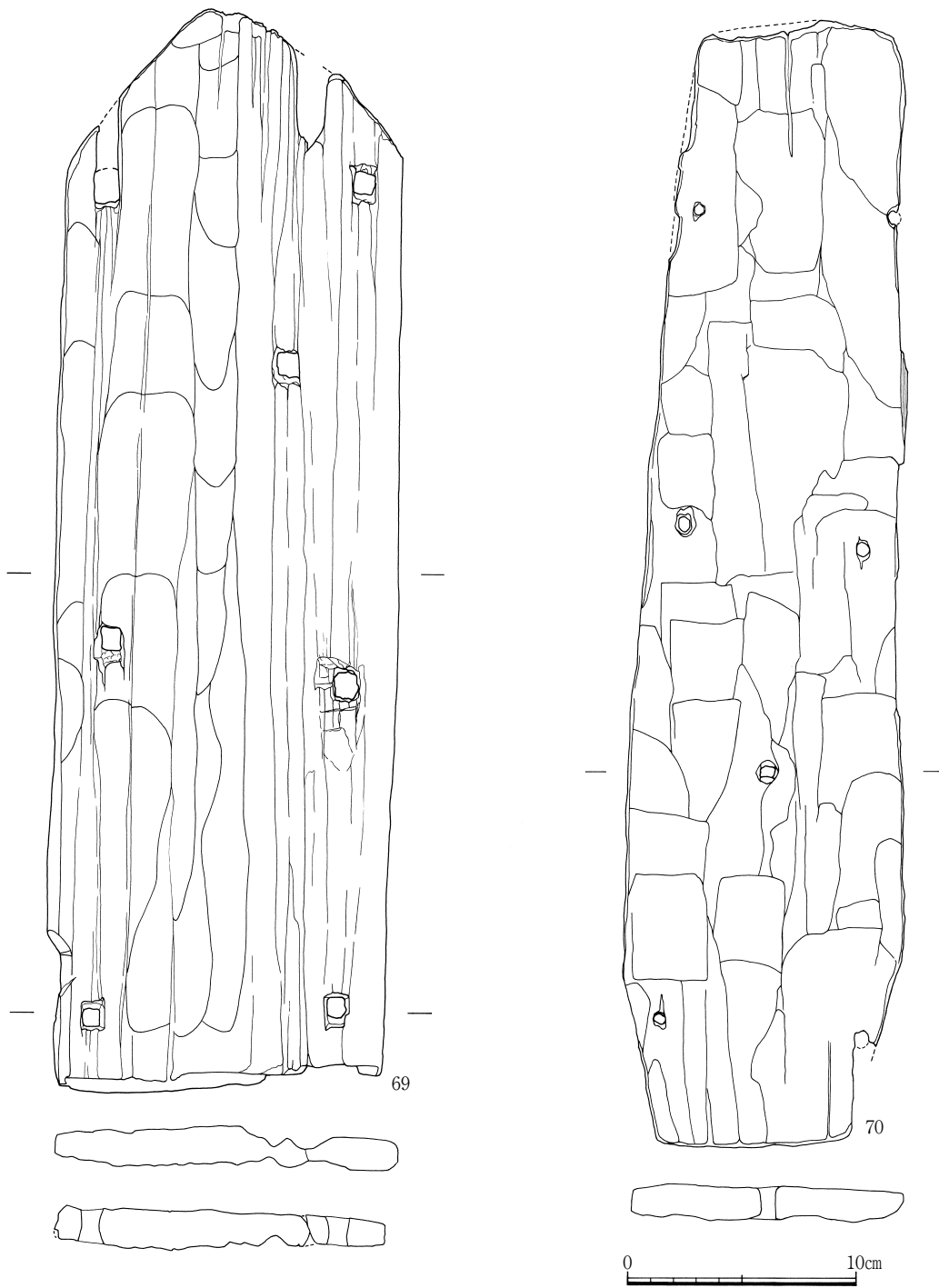


Fig.23 確認調査a 出土木製品2 (S : 1/3)

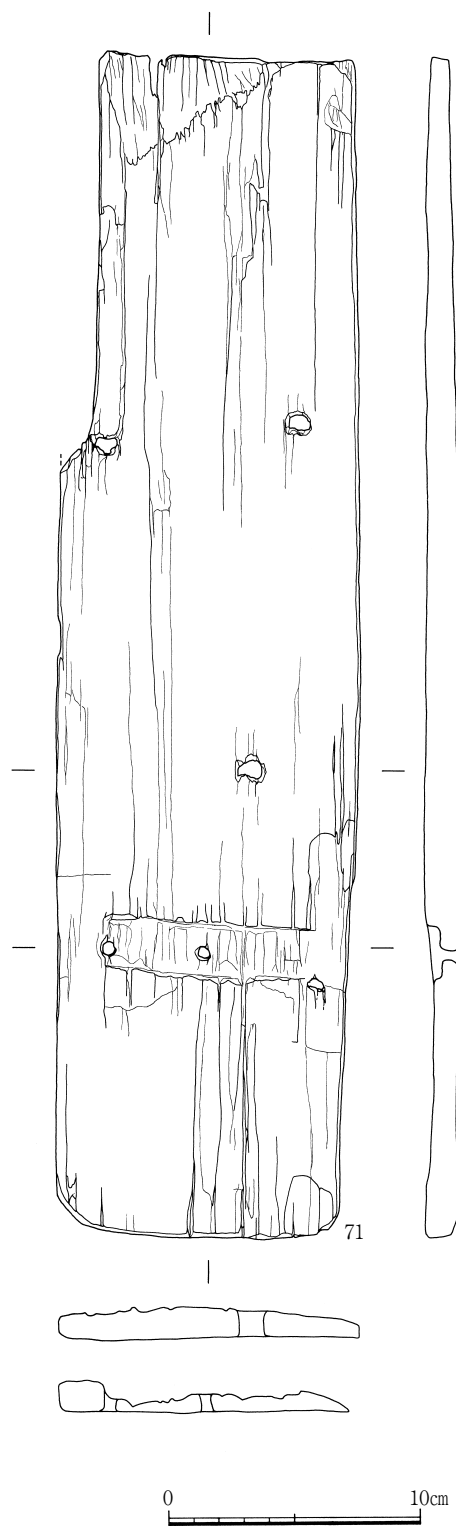


Fig.24 確認調査a 出土木製品3 (S : 1/3)

表1 確認調査a 出土土器観察表1

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	接合	備考
Fig.14-1	TP-8 V~IX層	突帯文土器 突帯部片	残高 2.50	刻目突帯貼付2, ナデ, ヘラナデ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 灰褐 7.5YR 4/2	長石, 石英	?	
Fig.14-2	TP-12 VI層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.30	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	黄灰 2.5Y 4/1 暗灰黄 " 5/2	石英, チャート	内傾	
Fig.14-3	TP-12 VI層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.30	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	オリーブ黒 7.5Y 3/1 灰 5Y 4/1	石英, 長石	?	
Fig.14-4	TP-12 V層	深鉢~甕 口縁~頸部片	口径 30.20 残高 10.80	ヘラナデ~条痕?, ナデ ヘラナデ, ナデ 端部:外端刻目	黄灰 2.5Y 4/1 にぶい黄橙 10YR 6/4	石英, 長石	内傾	
Fig.14-5	TP-12 V層	突帯文土器 口縁部片	残高 6.90	刻目突帯貼付1, ナデ, 条痕? ナデ 端部:外端刻目	オリーブ黒 5Y 3/1 浅黄 2.5Y 7/4	長石, 石英	内傾	
Fig.14-6	TP-12 V層	深鉢~甕 口縁部片	残高 11.10	ナデ ナデ	暗灰黄 2.5Y 5/2 にぶい黄褐 10YR 5/3	長石, 石英	内傾	
Fig.14-7	TP-12 V層	深鉢~甕 胴部片	残高 3.10	沈線1, 刺突文1段, ナデ ナデ	明褐 7.5YR 5/6 " " "	長石, 石英	内傾	
Fig.14-8	TP-12 V層	深鉢~甕 底部片	残高 6.50	ナデ ナデ	暗灰黄 2.5Y 5/2 灰黄褐 10YR 4/2	長石, 石英	?	
Fig.15-9	TP-12 IV層	弥生土器 壺 口縁部片	口径 21.80 残高 7.60	ナデ(丁寧) ナデ	灰黄 2.5Y 7/2 にぶい黄橙 10YR 7/3	石英, 長石, 雲母 角閃石	外傾	
Fig.15-10	TP-12 IV層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.10	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ 端部:外端刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰褐 7.5YR 4/2	長石, 石英	?	
Fig.15-11	TP-12 IV層	深鉢~甕 胴部片	胴径 25.60 残高 13.40	条痕, ナデ ナデ	褐灰 10YR 4/1 にぶい褐 7.5YR 5/4	石英, 長石	?	
Fig.15-12	TP-12 IV層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 3.40	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ 端部:外端刻目(貼付)	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " 5/3	石英, 長石 赤色砂粒	外傾	弥生化突帯文
Fig.15-13	TP-12 IV層	弥生土器 甕 底部片	残高 3.70 底径 7.10	ナデ, 押圧 底面:ナデ	浅黄 2.5Y 7/3 にぶい黄橙 10YR 6/3	石英, チャート	?	
Fig.15-14	TP-12 IV層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 5.30	ミガキ 沈線文3, ミガキ	褐灰 10YR 4/1 黒褐 " 3/1	長石, 石英, 雲母	?	波状口縁 外面:黒色付着物
Fig.15-15	TP-12 IV層	縄文土器 浅鉢 底部片	残高 1.80 底径 6.90	ミガキ, 押圧 ミガキ 底面:ケズリ, ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 褐灰 " 4/1	石英, 長石, 雲母	?	
Fig.15-16	TP-12 IV層	縄文土器 浅鉢? 底部片	残高 1.20 底径 6.50	ミガキ ミガキ, ナデ? 底面:ナデ(丁寧)	褐灰 " 10YR 5/1 " " 4/1	石英, 長石, 雲母	?	
Fig.15-17	TP-12 III層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.10	刻目~刺突文(不整), ナデ ナデ	暗灰 N 3/ にぶい黄橙 10YR 7/3	長石, 石英	内傾	
Fig.15-18	TP-12 III層	深鉢~甕 底部片	残高 2.80 底径 6.60	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 底面:ナデ, 押圧	黄灰 2.5Y 4/1 灰黄 " 7/2	石英, 長石	?	
Fig.15-19	TP-12 III層	土師器 壺 頸~胴部片	残高 4.80	ハケ, タタキ, ナデ ハケ, ナデ, 押圧	灰 N 4/ にぶい黄橙 10YR 7/2	石英, 長石, 雲母	内傾	
Fig.15-20	TP-12 III層	土師器 底部片	残高 3.20	ナデ(粗い) ナデ, 押圧 底面:タタキ目状圧痕	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	長石, 石英	?	
Fig.15-21	TP-12 III層	土師器 坏 口縁部片	口径 8.90 残高 3.00	ナデ ナデ	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 7/4	石英, 赤色砂粒	?	
Fig.15-22	TP-13 III層	深鉢~甕 底部片	残高 2.70 底径 9.00	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 底面:押圧	灰白 N 4/ にぶい黄橙 10YR 7/3	粗砂粒, 長石	内傾	特殊胎土
Fig.16-23	TP-14 VII層	深鉢~甕 底部片	残高 7.50 底径 10.30	条痕, ナデ(ケズリ状), 押圧 ナデ 底面:ナデ, 圧痕	灰黄褐 10YR 5/2 " " 4/2	石英, 長石	内傾	
Fig.16-24	TP-14 II層	縄文土器 壺 口縁~頸部片	口径 13.90 残高 6.60	ミガキ ミガキ, ナデ, 押圧	黄灰 2.5Y 4/1 " " "	長石, 石英, 雲母	内傾	
Fig.16-25	TP-14 II層	縄文土器 壺 口縁~頸部片	口径 16.00 残高 9.50	ミガキ ミガキ	灰褐 7.5YR 4/2 褐灰 " 4/1	長石, 雲母, 石英 角閃石	?	口縁直下外面:赤彩
Fig.16-26	TP-14 II層	縄文土器 壺? 底部片	残高 1.60 底径 8.60	不明 ミガキ? 底面:不明	にぶい黄褐 10YR 5/3 " " "	長石, 雲母, 石英 角閃石	内傾	
Fig.16-27	TP-14 II層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 35.00 残高 11.80	ミガキ? ミガキ, ナデ?	にぶい黄橙 10YR 7/4 橙 7.5YR 7/6	石英, 長石, 雲母	外傾	端部:凹面

表2 確認調査a 出土土器観察表2

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	接合	備考
Fig.16-28	TP-14 II層	弥生土器 壺 頸部片	残高 4.40	沈線2, ミガキ ナデ?, 押圧	灰黄 2.5Y 7/2 暗灰黄 " 4/2	長石, 石英, 雲母	内傾	
Fig.17-29	TP-14 II層	突帯文土器 口縁~胴部片	口径 42.70 残高 18.70	刻目突帯貼付1, 条痕, ナデ ナデ	灰 5Y 5/1 にぶい黄 2.5Y 6/3	石英, 長石	内傾	
Fig.17-30	TP-14 II層	突帯文土器 口縁~胴部片	口径 23.50 残高 10.00	刻目突帯貼付1, 条痕, ナデ ナデ, 押圧	にぶい橙 7.5YR 7/3 にぶい赤褐 5YR 5/4	石英, 長石	内傾	端部外面: 刻目?
Fig.17-31	TP-14 II層	突帯文土器 口縁~頸部片	口径 29.00 残高 8.70	刻目突帯1, ナデ, 押圧, 沈線1 ナデ 端部: 外端刻目	明褐 5YR 5/6 褐 7.5YR 4/3	石英, 長石, 雲母 角閃石	内傾	
Fig.17-32	TP-14 II層	突帯文土器 口縁~頸部片	残高 5.30	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	褐灰 10YR 4/1 にぶい赤褐 5YR 5/4	石英, 長石	内傾	刻目: 刺突状
Fig.17-33	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.80	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	灰 N 4/1 " " 6/1	石英, 長石	内傾	
Fig.17-34	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.10	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ 端部: 外端刻目	褐灰 10YR 5/1 にぶい黄橙 " 7/2	石英, 長石	内傾	
Fig.17-35	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.90	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	にぶい黄褐 10YR 5/3 褐 " 4/4	長石, 石英	内傾	
Fig.17-36	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.20	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ, 押圧	黄灰 " 2.5Y 4/1 " " 5/1	長石, 石英	内傾?	刻目: 刺突状
Fig.17-37	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 1.40	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	オリーブ黒 5Y 3/1 灰褐 7.5YR 5/2	石英, 長石	?	
Fig.17-38	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.10	刻目突帯貼付1, ナデ (丁寧) ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 黒褐 " 3/2	長石, 石英, 雲母	内傾	
Fig.17-39	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	にぶい黄褐 10YR 5/4 灰 7.5Y 5/1	長石, 石英	?	
Fig.17-40	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰黄褐 " 6/2	石英, 長石, 雲母	内傾	刻目: 刺突状
Fig.17-41	TP-14 II層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.50	貼付突帯1+刻目2段, ナデ ナデ	褐灰 10YR 4/1 灰褐 7.5YR 5/2	長石, 石英	内傾	刻目内: 木目痕?
Fig.17-42	TP-14 II層	深鉢~甕 口縁部片	残高 4.20	刺突文, ナデ ナデ 端面: ナデ	にぶい橙 5YR 6/4 " " "	石英, 長石	内傾	
Fig.17-43	TP-14 II層	突帯文土器 胴部片	残高 5.40	刻目突帯貼付1, ナデ (丁寧), ナデ ナデ	黒褐 10YR 3/1 灰黄褐 " 4/2	石英, 長石	内傾	
Fig.18-44	TP-14 II層	弥生土器 甕 口縁~胴部片	口径 27.80 残高 12.50	ミガキ~ナデ (丁寧), ナデ ナデ, 押圧 端部: 外端刻目	灰黄褐 10YR 4/2 橙 2.5YR 6/6	石英, 長石 赤色砂粒	外傾	
Fig.18-45	TP-14 II層	弥生土器 甕 口縁~胴部片	口径 19.60 胴径 18.80 残高 16.30	押圧, ナデ ナデ, 押圧 端面: 刻目	にぶい褐 7.5YR 6/3 橙 2.5YR 6/6	石英, 長石, 雲母 角閃石	外傾	外面: スス, タール
Fig.18-46	TP-14 II層	弥生土器 甕 口縁~胴部片	口径 26.80 残高 10.30	沈線2, ハケ, 押圧 ナデ, 押圧 端面: 刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3 にぶい黄褐 " 5/3	石英, 長石 赤色砂粒	外傾	
Fig.18-47	TP-14 II層	弥生土器 甕 頸~胴部片	残高 9.30	沈線2, ナデ 押圧, ナデ	灰白 10YR 8/2 にぶい橙 7.5YR 7/4	石英, 長石	?	
Fig.18-48	TP-14 II層	弥生土器 甕 胴部片	残高 3.00	沈線2, 沈線間=刺突文, ナデ 押圧, ナデ	橙 5YR 6/6 にぶい橙 7.5YR 6/4	石英, 赤色砂粒	外傾	
Fig.18-49	TP-14 II層	弥生土器 甕 胴部片	残高 3.80	接合部=段1+刻目, ミガキ ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/4 にぶい橙 7.5YR 7/3	石英, 長石	外傾	刻目: ヘラ描き状
Fig.18-50	TP-14 II層	弥生土器 甕 底部片	残高 8.10 底径 7.30	押圧, ナデ ナデ 底面: 押圧, ナデ	褐灰 10YR 5/1 橙 5YR 6/8	長石, 石英 赤色砂粒	?	
Fig.18-51	TP-14 II層	弥生土器 甕 底部片	残高 2.80 底径 8.40	ナデ ナデ, 押圧 底面: 不明	褐 7.5YR 4/6 灰黄 10YR 6/2	石英, 長石	?	
Fig.18-52	TP-14 II層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.20	ナデ (ケズリ状) 沈線2, ミガキ	にぶい褐 7.5YR 5/3 " " 6/3	長石, 石英, 雲母 角閃石	?	波状口縁
Fig.18-53	TP-14 II層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.10	ナデ 沈線2, ミガキ	暗灰黄 " 2.5Y 4/2 " " 5/2	石英, 長石, 雲母 角閃石	?	波状口縁
Fig.18-54	TP-14 II層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.10	ナデ 沈線状凹部1, ナデ	褐灰 10YR 4/1 黒褐 " 3/1	石英, 長石, 雲母	?	外面: 黒色付着物

表3 確認調査a 出土石器計測表

挿図番号	出土地点・層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	石材	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
Fig.19-55	T P 12・V層	打製石斧	14.60	3.80	1.50	105.50		結晶片岩	ほぼ完存
Fig.19-56	T P 12・V層	磨石	10.00	8.80	3.70	493.60	周縁部：敲打痕	花崗岩	完存
Fig.20-57	T P 13・II層	石皿	11.95	8.90	2.50	356.60	周縁部：敲打痕	砂岩	
Fig.21-58	T P 14・II層	打製石鏃	1.35	1.25	0.20	0.30	平基	チャート	完存
Fig.21-59	T P 14・II層	打製石鏃	1.60	1.20	0.25	0.40	平基？	チャート	
Fig.21-60	T P 14・II層	打製石鏃	1.65	1.40	0.35	0.70	円基～凸基	チャート	
Fig.21-61	T P 14・II層	打製石鏃	1.50	1.60	0.35	0.50	凸基	チャート	完存
Fig.21-62	T P 14・II層	打製石鏃	1.65	1.50	0.30	0.40	凹基	サヌカイト	完存
Fig.21-63	T P 14・II層	打製石鏃	1.95	1.55	0.40	0.70	凹基	サヌカイト	完存
Fig.21-64	T P 14・II層	打製石鏃	2.35	1.40	0.30	0.90	平基～凹基？	サヌカイト	
Fig.21-65	T P 14・II層	打製石鏃	1.70	1.40	0.40	0.90	凸基～円基	サヌカイト	完存
Fig.21-66	T P 14・II層	2次加工ある剥片	2.50	1.70	0.30	1.40	基部側：未調整 主剥離面側：未調整	サヌカイト	石鏃未製品？

表4 確認調査a 出土木製品計測表

挿図番号	出土地点・層位	器種	法量 (cm)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.22-67	T P 10・IV層	田下駄・足板	46.30	11.90	1.60	長軸両端部：突出部形成 両端突出部表面：押圧痕	ヒノキ科ヒノキ属	68と組合せ？
Fig.22-68	T P 10・IV層	田下駄・横枠	43.10	9.40	3.00	表面：加工痕明瞭 穿孔1 (方形)	ヒノキ科ヒノキ属	67と組合せ？
Fig.23-69	T P 10・IV層	田下駄・足板	47.00	15.30	1.90	表面：加工痕明瞭 穿孔7 (方形)	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.23-70	T P 10・IV層	田下駄・足板	48.90	12.20	1.70	表面：加工痕明瞭 穿孔7 (円形)	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.24-71	T P 10・IV層	田下駄・足板	46.80	12.00	1.40	表面：凹部1 (方形) 穿孔6 (円形) 左側縁：凹部1 (加工痕?)	ヒノキ科ヒノキ属	

(1) 1A区

1. 1A区の概要

調査区は丘陵部から東に延びた尾根の先端近くであり、北側斜面に位置する。現況は水田であり、南端は尾根上に設置された東西方向の農道に接しており、西は清滝山系に源を発する水路に隔される。北隣の1B区は付近でも標高が低く、その北側に設けられていた東西方向の幅約1mの排水路は常時水が停滞する状態であり、西側の水路で流量が増えれば調査区内にも水が逆流する事度々であった。調査区の多くはこう云った湿地的な環境に基づく水成堆積層で占められる。南部は後世の耕作に伴うであろう尾根部分の削平が顕著であり、南端から幅十数mは地山（黄褐色砂礫層）が削平を受け露呈していた。調査はこの地山部分から北側に向かって下る斜面を中心として行われた。

上位に存在した厚い粘土～シルト質の堆積層（層）では遺構の存在は殆ど確認できず、遺物の包含も希薄であった。生活痕が濃厚な1面はこの斜面を緩やかに下り北の1B区に連なるものであり、上から a層、s層、d層、b層と c層の包含層と下位の遺構検出面とした e層で構成される。遺構の多くは上位からの削平が厳しく検出面からの深さは左程ではないが、縄文晩期土器を出土する土坑数基と数十個のピットが発見された。また包含層からは縄文晩期土器、弥生前期土器などの土器・土製品や石鏃、石斧、叩石、磨石、石棒、砥石などの石器・石製品、その他椀、網籠などの木器・木製品や獣骨、木実などが出土している。2面は急な斜面部に設けられたピット群であり、その直上に堆積する黒色土である。出土遺物は遺構や包含層から極僅かであり、土器は細片であり、石器は石匙である。

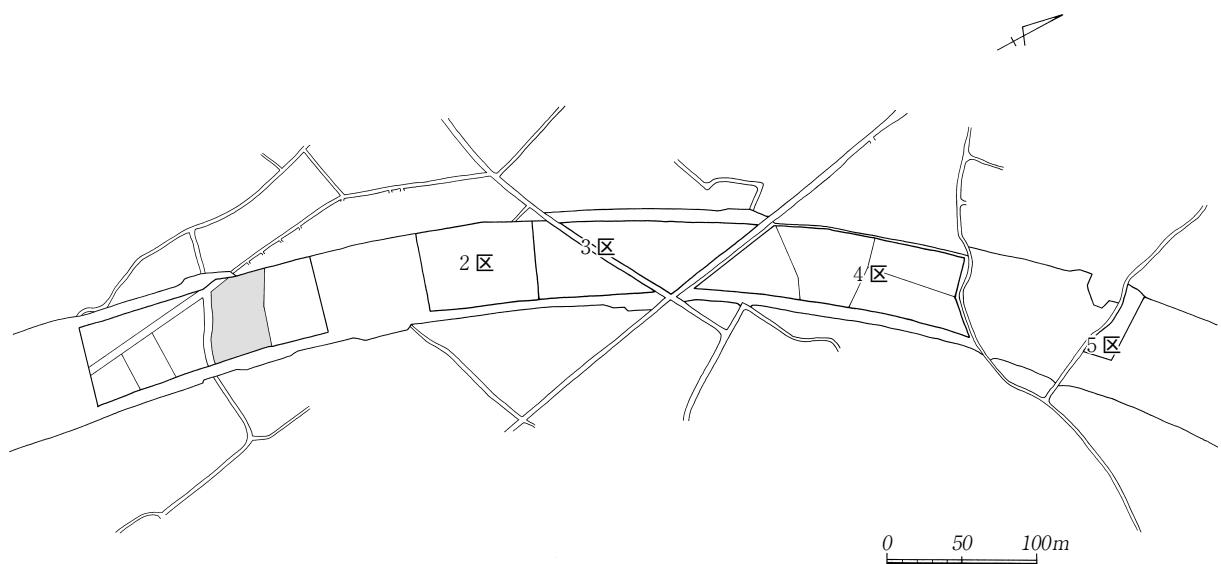


Fig.25 1A区的位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

耕作土等の除去をした後、平成9年10月20日に包含層の掘削を開始する。調査区の南部は既に削平が行われており地山が検出された。また地山部分からやや北側に離れた部分でも嘗て尾根上を覆っていたであろう堆積層が縞状に確認された。調査区の北部は上位に堆積する厚い包含層が残存しており、ここを中心として重機を用いて掘削した。出土遺物については随時、その出土状態を写真撮影、出土地点を光波測量器により第4系座標で記録して取り上げた。上位包含層では遺物の出土は稀であるが、遺物の残りが比較的良いものが多く存在した。特に地山に近接する南寄りの部分や下位では遺物の出土が頻繁と成った為、やや厚く包含層を残して重機に因る包含層の掘削を終了した。精査は調査区を東西に分け、先ず東側を平成9年10月27日から開始し、西側は11月21日から行った。包含層の精査は第4系座標に則った4×4mの任意グリッドを設定し、出土遺物の多くはグリッド単位で、また残存状態の良いものや規模の大きなものを中心として出土状態を写真撮影、平面図化乃至は座標で記録し取上げを行った。包含層の中で土器・土製品及び石器・石製品、小型から中型の植物遺体や木製品を含む層（d層）については出土密度が高く範囲が限定されることから、可能な範囲で隣接するグリッドを含めて出土状態を写真等で記録した。包含層の精査後に遺構の検出を行い、土坑6基とピット32個を検出した。遺構精査は半截状態や出土状態を随時、また完掘状態は東西各々の遺構群が完掘した時点で、写真と図面で記録した。完掘は東側が平成9年12月4日、西側が12月19日である。下層（2面）への掘削も東西単位で行い、重機による包含層掘削は東側で平成9年12月9日、西側では12月23日である。包含層と遺構の精査は急斜面に加え湧水を伴う困難な状況下で行われ、数百個のピット群を検出した。これらの遺構については完掘の後、平面図化及び写真撮影を平成10年2月6日行い、航空測量を平成10年3月18日に行って完了する。調査完了迄に平成9年11月26日、平成10年1月18日、同年2月20日の降雨により調査区が冠水し、各々3日から6日の中断が発生した。

3. 層序 (Fig.28)

基本層準として図示したのは調査区の西壁断面図である。

1層

耕作土又は旧耕作土、耕作に係わる土層である。

2～4層

希薄ではあるが遺物を包含する。調査時には“ 層 ”として扱った。出土遺物は弥生土器であり、近現代に於ける耕作等による改変、例えば調査区内に縦横に埋設された暗渠や旧畦畔設置にともなう杭列はこれらの層に迄及んでいる。

5～13層

弥生前期遺物包含層であり、 a層を構成する。色調は暗青灰色を呈する。 a層は下位に存在する s層と同時期の堆積層と考えられ、上位である a層部分は幾分か土壌化が進行したものであろう。

調査区の一部で a層を細分し“ a - 1層 ”を使用した。基本的に本層に包括される。

出土遺物は縄文土器、弥生土器などの土器・土製品、叩石、軽石などの石器・石製品、木製品、植物遺体である。

14層

調査区の北部では定常的に a層の下位に認められており、色調は淡灰色から緑灰色を呈する。層厚は北部で10～15cmを測る。 a層と同時期に堆積し土壌化の影響を余りを受けなかった部分と考えられる。

出土遺物は縄文土器、弥生土器などの土器・土製品、石鏃、石斧などの石器・石製品と木製品である。

15層～16層

西壁断面では明確にし難いが調査時に使用した“ d層 ”、“ b層 ”、“ c層 ”に相当する。

b層は傾斜の明瞭な尾根に近い調査区南側の部分で検出された堆積層であり、調査区北部に恒常的に見られる c層に共通する。黒色から黒褐色の粘質土層であり、北部では色調がやや薄くなるものの、1B区の北端に至る迄追跡が可能である。土壌化した腐植を含む堆積層であり、縄文晩期土器を主に包含する。

b層は調査区の西側で土質の変化に伴って分層を行い、下位から b - 1から b - 5までを使用した。

d層の色調は b層や c層に近似する。断面図では明瞭な切り合いを示すことはできないが、西壁図に示した破線の範囲が概ね d層に相当しよう。多量の土器・土製品、石器・石製品、木器・木製品や小型から中型の植物遺体、獣歯、獣骨などが集中して出土した。また流路的性格を持つ堆積層であり、これら出土遺物の下には地山崩壊角礫とは異なる小礫を含んだ砂層の堆積(16層)が認められ、これは尾根筋を巻く様に遺構検出面である e層を浅く掘込んで検出されている。

調査区の東部で色調の変化から分層を行い、下位から d - 1から d - 3を使用した。

表5 1A区西壁層序表

西壁セクション層序(上層)

層	内容	色調	その他
1	耕作土。淡青灰色粘土。	黒褐色	10YR(3/2)
2	粘性ややあり。締まりあり。褐色粒子を含む。	にぶい黄橙色	10YR(7/2)
3	粘性あり。締まりあり。炭化物を少し含む。	褐灰色	10YR(6/1)
4	粘性あり。締まりあり。褐色粒子を含む。	黄灰色	2.5Y(6/1)
5	粘性あり。締まりあり。	浅黄色	2.5Y(7/3)
6	粘性あり。締まりあり。	暗灰色	N(3/0)
7	粘性あり。締まりあり。炭化物を含む。	灰黄色	2.5Y(6/2)
8		青灰色	5GB(6/1)
9	粘性あり。締まりあり。炭化物を含む。	黄灰色	10Y(5/1)
10	粘性あり。締まりあり。木片や炭化物、礫を含む。	暗灰色	N(3/0)
11	粘性あり。締まりあり。	灰白色	7.5Y(7/2)
12	粘性あり。締まりあり。木片や炭化物、礫を含む。	黄灰色	2.5Y(4/1)
13	粘性あり。締まり強。褐色斑を含む。	青灰色	
14	粘性あり。締まりあり。シルト質。	暗灰褐色	s層に相当する?
15	粘性あり。締まりあり。腐植を多く含む。青色角礫を含む。土器を包含する。	暗灰褐色	b層・ c層に相当する?
16	10mm大の地山崩壊礫や小円礫を多く含む。土器を包含する。	灰褐色	d層を構成する。
17	強い粘性あり。締まりあり。	黒褐色	e層の一部?
h	粘性あり。締まり強。	青灰色	
i	粘性あり。締まりあり。	青灰色	

西壁セクション層序(下層)

層	内容	色調	その他
1	粘性あり。締まりあり。	明青灰色	5GB(7/1)
2	粘性あり。締まりあり。暗灰色粘土と青灰色粘土の明瞭な互層を成す。	暗灰色	N(3/0)
3	粘性あり。締まりあり。	明オリーブ灰色	2.5GY(7/1)
4	粘性あり。締まりあり。	灰色	N(4/0)
5	粘性あり。締まりあり。	灰色	N(6/0)
6	粘性あり。締まりあり。	灰白色	10Y(7/1)
7	粘性あり。締まりあり。灰白色粘土と明オリーブ色粘土、灰色粘土の明瞭な互層を成す。	灰白色	N(7/0)
8	粘性あり。締まりあり。黒色粘土と灰色粘土の明瞭な互層を成す。	黒色	N(2/0)
9	粘性あり。締まりあり。青灰色粘土と灰白色粘土の明瞭な互層を成す。	青灰色	5B(6/1)
10	粘性あり。締まりあり。灰色粘土と暗灰色粘土の明瞭な互層を成す。	灰色	7.5Y(4/1)
11	粘性あり。締まりあり。青色崩壊角礫を含む。	オリーブ黒色	5Y(2/2)
h	粘性あり。締まりあり。青色角礫を多く含む。	黒色	N(2/0)
i	粘性ややあり。締まりあり。3~5cm大の青色角礫を稀に含む。	黒色	N(1.5/0)

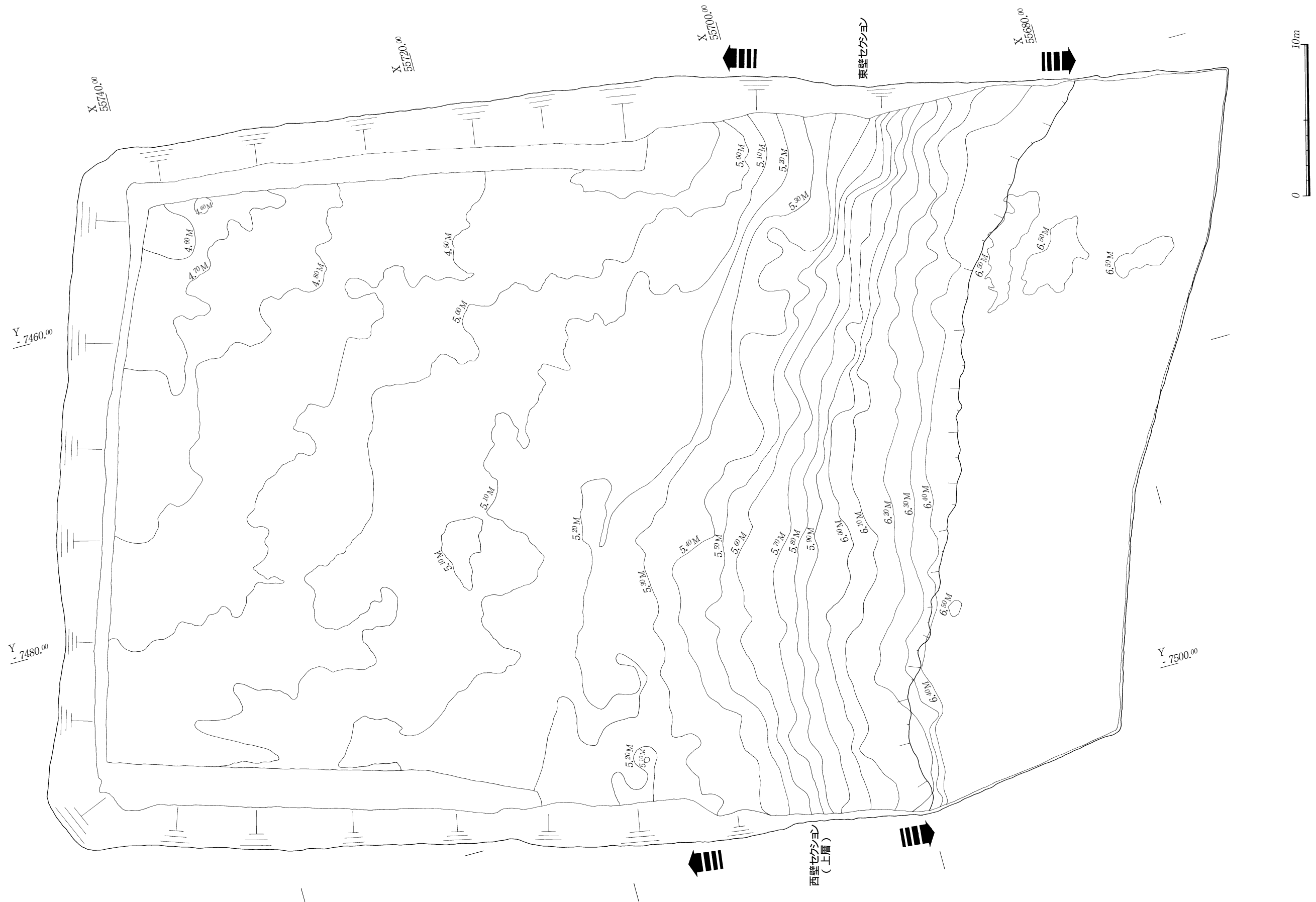


Fig.26 1A区、1B区全体図 (1面)



Fig.27 1A区全体図(2面)

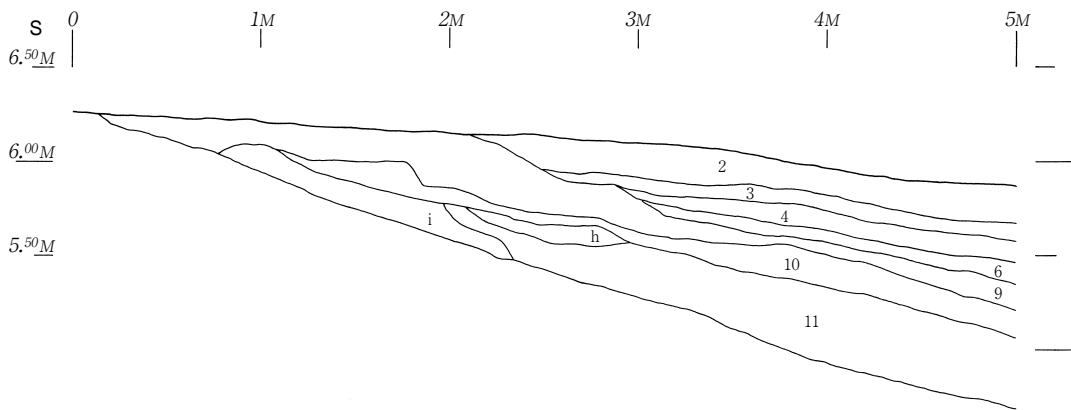
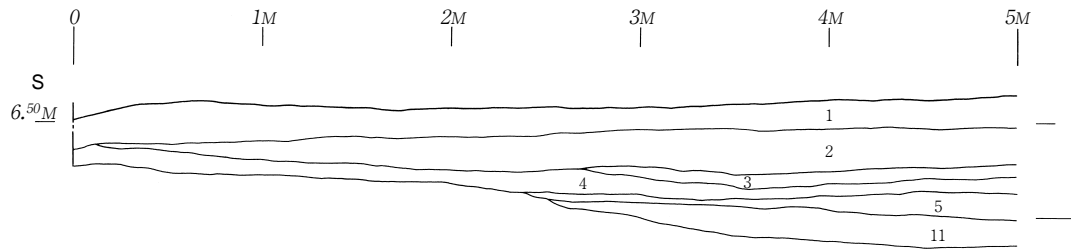
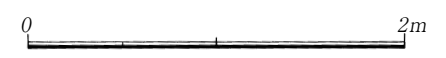
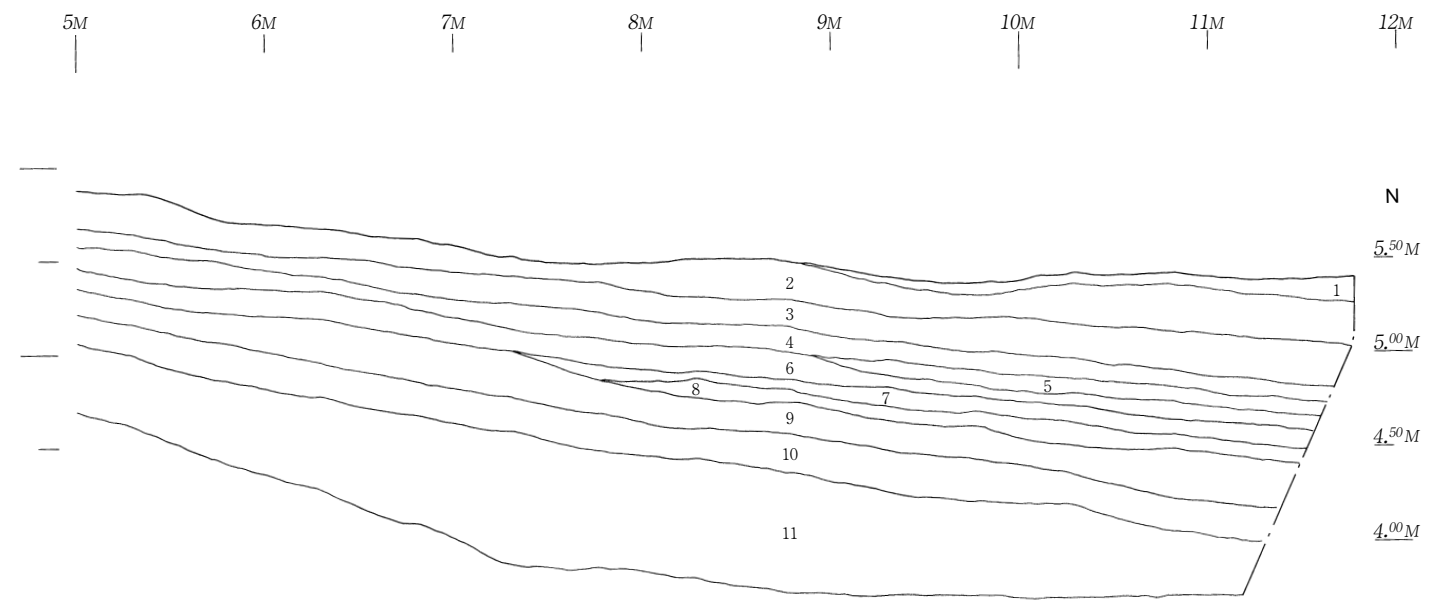
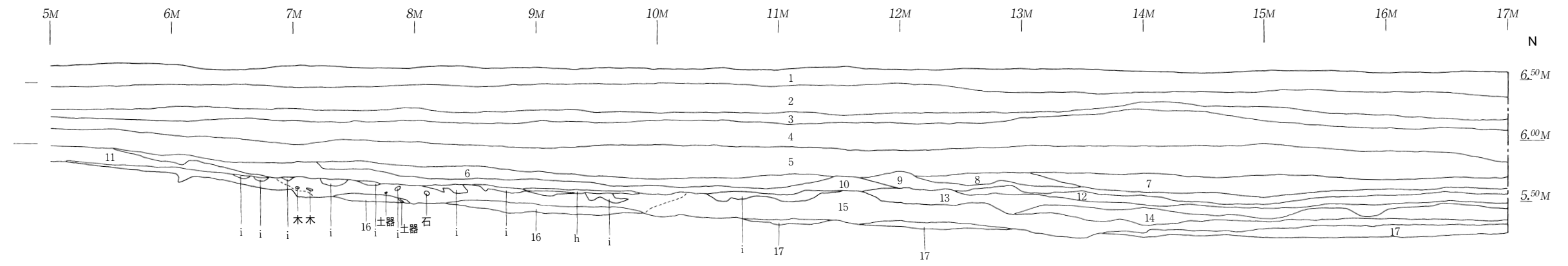


Fig.28 西壁セクション図



4. 遺構

ピット群(その1)

2面で検出された遺構は約920個のピットであり、嘗ての尾根斜面に設置されたものである。標高の高い上位は地山(黄褐色砂礫層)に掘込まれており、下位は灰白色から黄灰色を呈する粘土層で検出された。上位では比較的規模の大きなものが見られるが、下位では規模が小さく分布は疎らと成る。埋土は黒色土から黒褐色土であり、遺構検出面を覆って存在した包含層と同一である。ただし、下位では検出面の影響下強粘性を帯び、色調はやや薄く成る。

出土遺物は土器細片と剥片、P101から石匙1点が出土している。

土坑(その1)

1面の緩やかな斜面に存在する遺構群であり、e層とされる黒褐色から暗灰色土上面で検出された。このうち縄文晩期から弥生前期の遺構とされるものは、やや規模の大きなもので土坑とした5基とピット97個である。何れの遺構も検出面からの深さは浅く、底部に炭化物の薄い堆積が見られた。以下では主な遺構について記述を行い詳細は計測表を参照されたい。

SK2

調査区の東部に位置する。平面形は不整隅丸長方形として捉えたが明確な肩部を残していない。主軸方向は斜面に直交する北西-南東方向である。土器溜りのな性格を持ち、小さく砕かれた弥生土器破片が集中して出土した遺構である。叩石や多くの炭化物が出土している。埋土は黒色土であり、地山崩壊の風化礫を含む。

SK6

調査区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形であり、谷側は削平が著しい。主軸方向は斜面に直交する北西-南東方向である。底部中央に炭化物の堆積層が存在し、縄文土器破片及び円礫の出土が見られた。埋土は黒灰色土である。

ピット群(その2)

P27

調査区の西部に位置する。円形から楕円形を呈した遺構が数個(3~4個)十字形に重なり合っているものと考えられる。このうち中央部の2個は炭化物の堆積層が顕著に残る。縄文土器15点と弥生土器1点が出土している。埋土は暗灰褐色土から暗灰色土である。

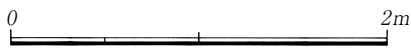
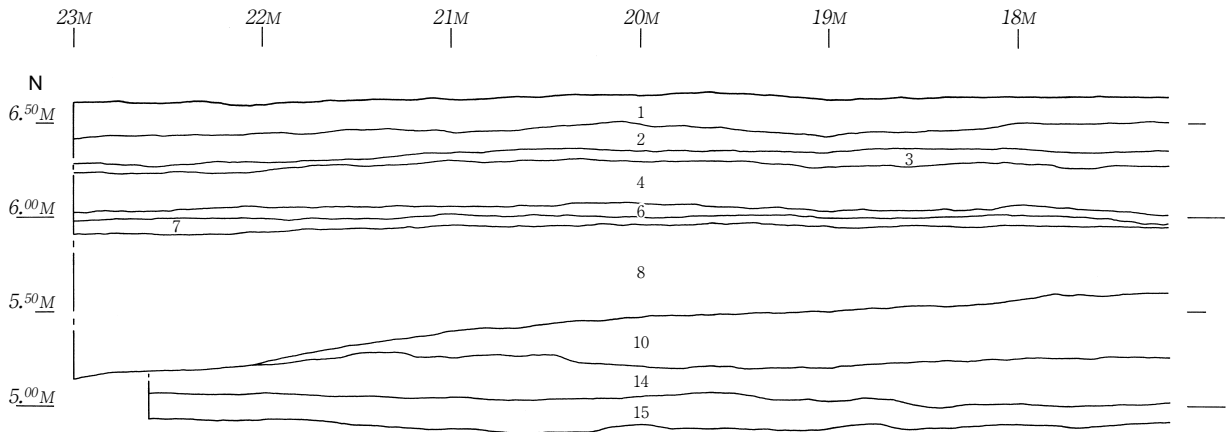
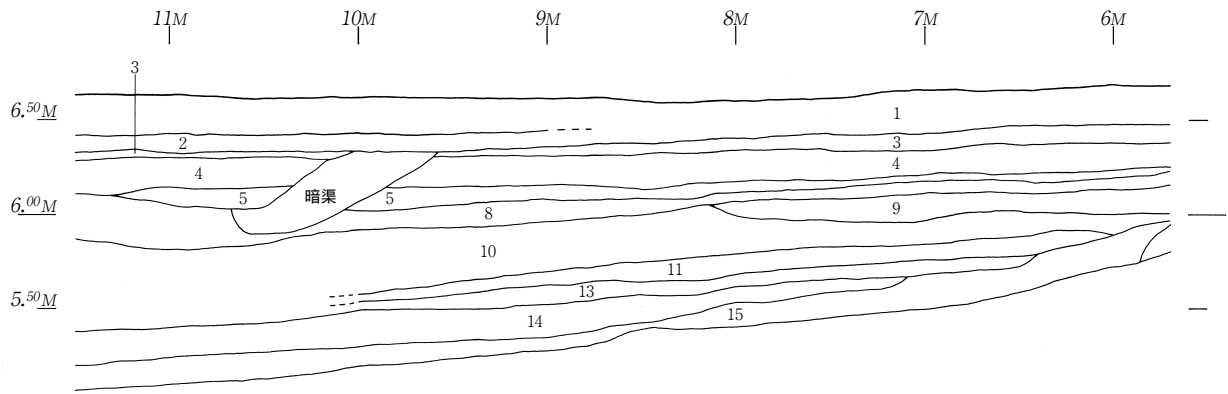
P32

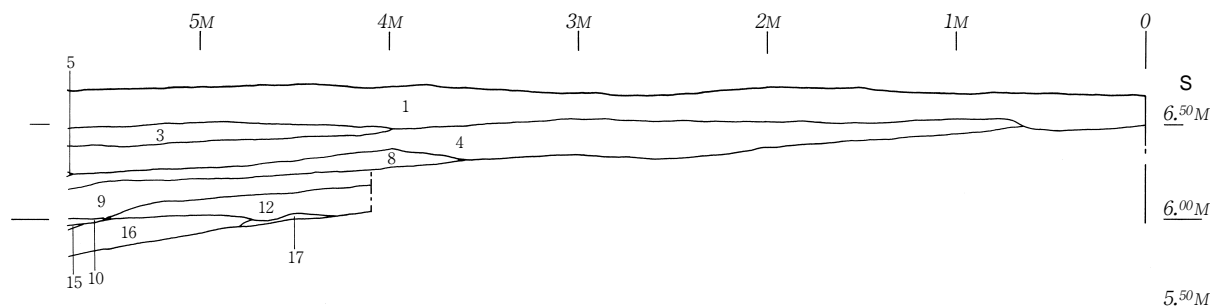
調査区中央部の西寄りに位置する。平面形は楕円形を呈した浅い遺構であり、中央部からやや傾いた柱根が出土している。埋土は黒灰色土である。

土坑(その2)

SK1

調査区の東部に位置する。平面形は楕円形を呈し、検出面から約48cmを測る。現在の水田区画の制約からは離れた位置にあり、湧水を積極的に利用しようとしたものか、硬い地山部分を避けて粘土質部分に掘削している。出土遺物は縄文土器23点、弥生土器13点が出土している。





東壁セクション層序

層	色調	その他	層	色調	
1	暗灰褐色	耕作土。	10	灰白色	
2	黄褐色	2.5Y(5/3)	11	浅黄色	7.5Y(7/3)
3	褐灰色	5Y(6/1) 腐植が混入する。	12	黄灰色	2.5Y(5/1)
4	褐灰色	5Y(6/1)	13	灰白色	10Y(7/1)
5	黒褐色	5YR(3/1)	14	黄灰色	2.5Y(6/1)
6	暗灰色		15	灰色	5Y(4/1)
7	暗青灰色		16	灰オリーブ色	5Y(5/2)
8	淡青灰色		17	灰白色	N(4/1)
9	灰色	N(6/0)			

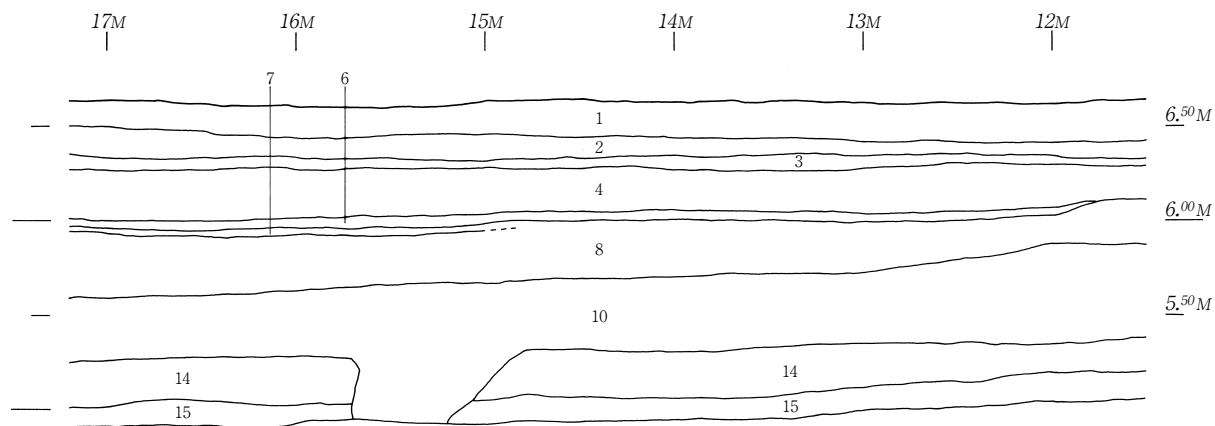


Fig.29 東壁セクション図

5. 遺物

遺構からの遺物 (Fig.37 , 71 , 76 , 77)

遺構から出土した遺物は縄文土器、弥生土器、磁器、叩石、瓦、板材などであり、出土点数は397点である。そのうちの土器溜りの性格を持つSK 2からは細片含めて237点の出土があり、多くは弥生土器破片で占められている。この中で図示したものは壺(1)の口縁である。SK 6からは主に粗製の土器破片が15点出土しており、この中で図示したものは刻目突帯を持つ深鉢の口縁(2~4)である。1面検出のピット群を一時期のものとは捉え難いが、出土土器が83点であり、そのうちの多くは縄文土器で占められる。この中で図示したのはP 5からの浅鉢口縁(5)、P14からの壺底部(8)、P24からの深鉢口縁(6)、P33からの深鉢口縁(7)、P35からの深鉢底部(9)である。また、P32からは柱根(420)が出土している。SK 1と地山上に設置されていたSX 1は後世のものと考えられるが、SK 1からは縄文と弥生の粗製土器破片が36点出土している。またSX 1からは弥生土器破片と共に磁器、瓦片などが出土している。

包含層からの遺物

c層 (Fig.38 ~ 43 , 67 ~ 69 , 71 , 73 ~ 75)

土器・土製品の出土点数は2,121点であり、縄文土器1,829点と弥生土器169点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、蓋、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは69点(11~79)である。11から19は壺である。14は口縁部無屈曲、18は頸部下に沈線に因る区画と紋様を施す。20から29は浅鉢である。20から23は内湾、24から26は内傾、27から29は鏝状を成すものか。30から67は深鉢・甕である。30から35は無刻みであり、32は突帯が付き、33から35は波状口縁を成すものと考えられる。68から73は壺、浅鉢、深鉢の底部である。74は壺又は注口土器の一部か。75は檀原式紋様の蓋である。76から79は土製円盤である。石器・石製品は石鏃(376)、石斧(398、399)、叩石(406)を図示した。木器・木製品は長さ25cmから35cm程度の規模を持つ焦化材や弓状加工材があるが図示できるものはない。

b層 (Fig.44 ~ 48 , 71 , 72 , 74 , 75)

土器・土製品の出土点数は2,021点であり、縄文土器1,548点と弥生土器254点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、鉢、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは50点(80~129)である。80から84は壺である。82は口縁部無屈曲、83・84は胴部上位に複線山形紋を持つ。85から91は浅鉢である。89は方形浅鉢、90は体部上位が内湾し内傾する。92から119は深鉢・甕である。91から94は無刻みと考えられ、91は口縁部が内傾。93は波状口縁か。95から97は口唇に刻み、98から106は突帯刻み、107から119は口唇と突帯に刻みを持つ。120から124は底部であり、122は鉢か。126から129は土製円盤である。石器・石製品は石錐(380~382)、石斧(388~392)、叩石(407)を図示した。木器・木製品は長さ10cmから40cm程度の焦化材や角材、板材などが出土しているが図示できるものはない。

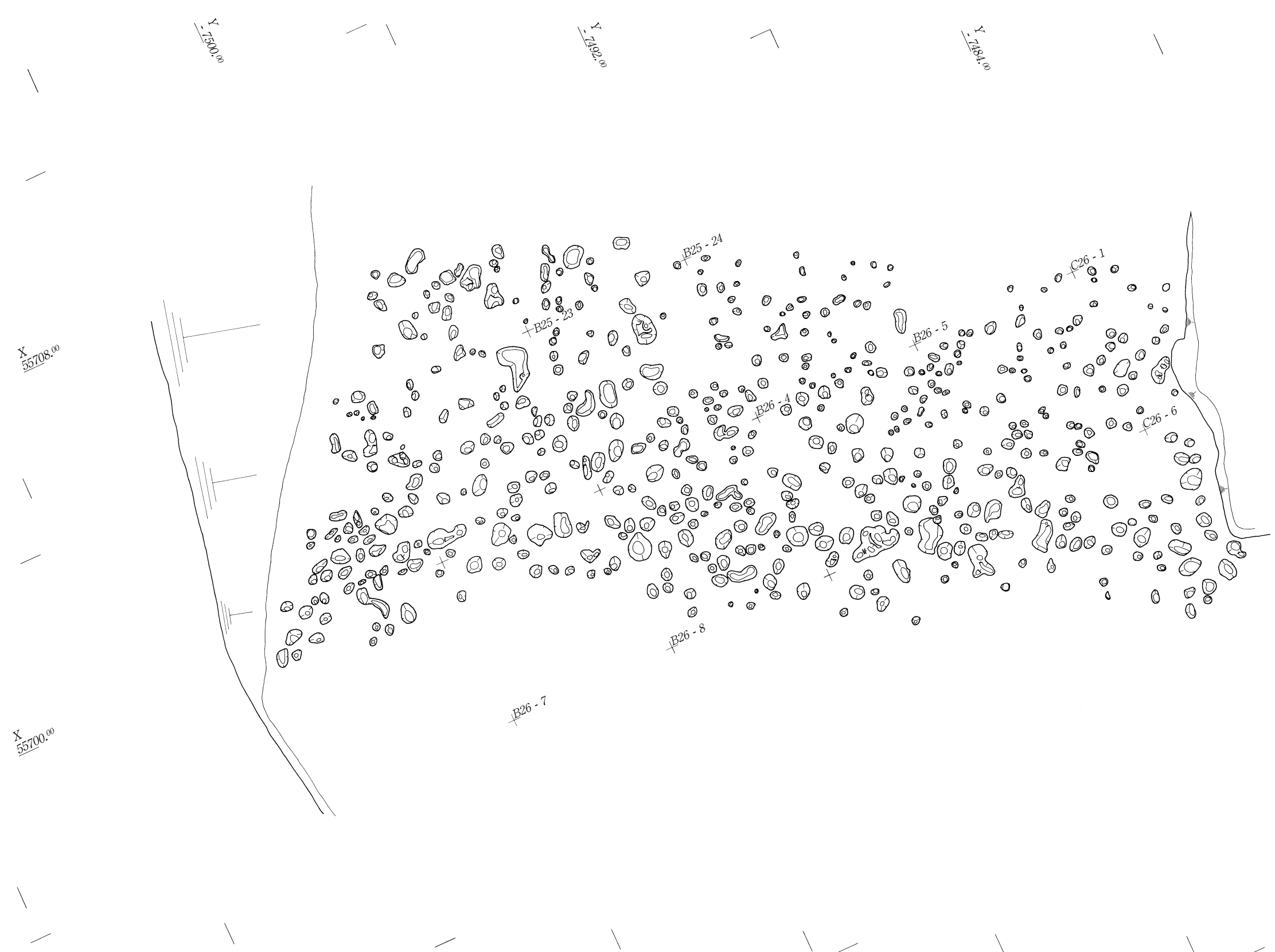


Fig.30 1A区遺構配置図(2面)

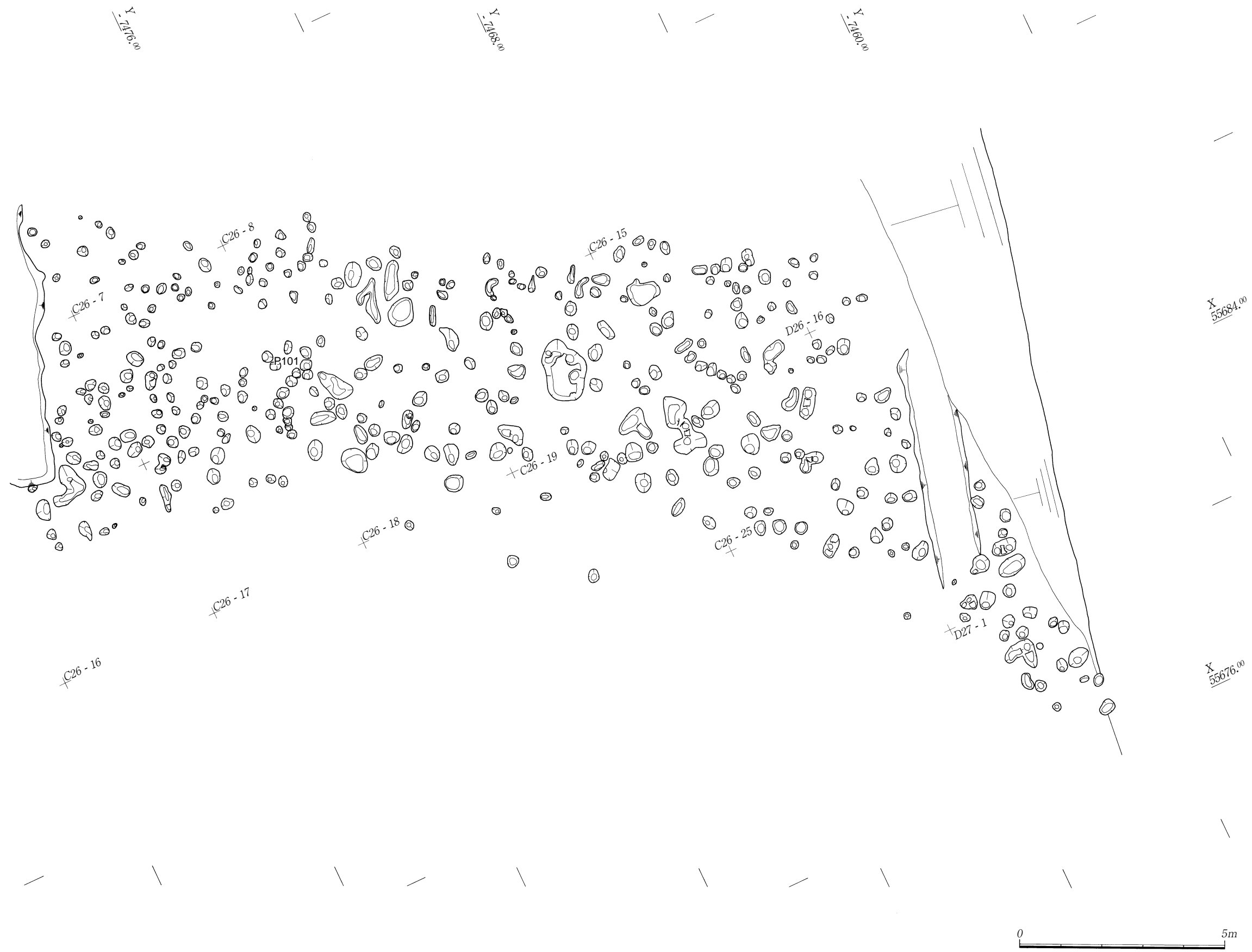
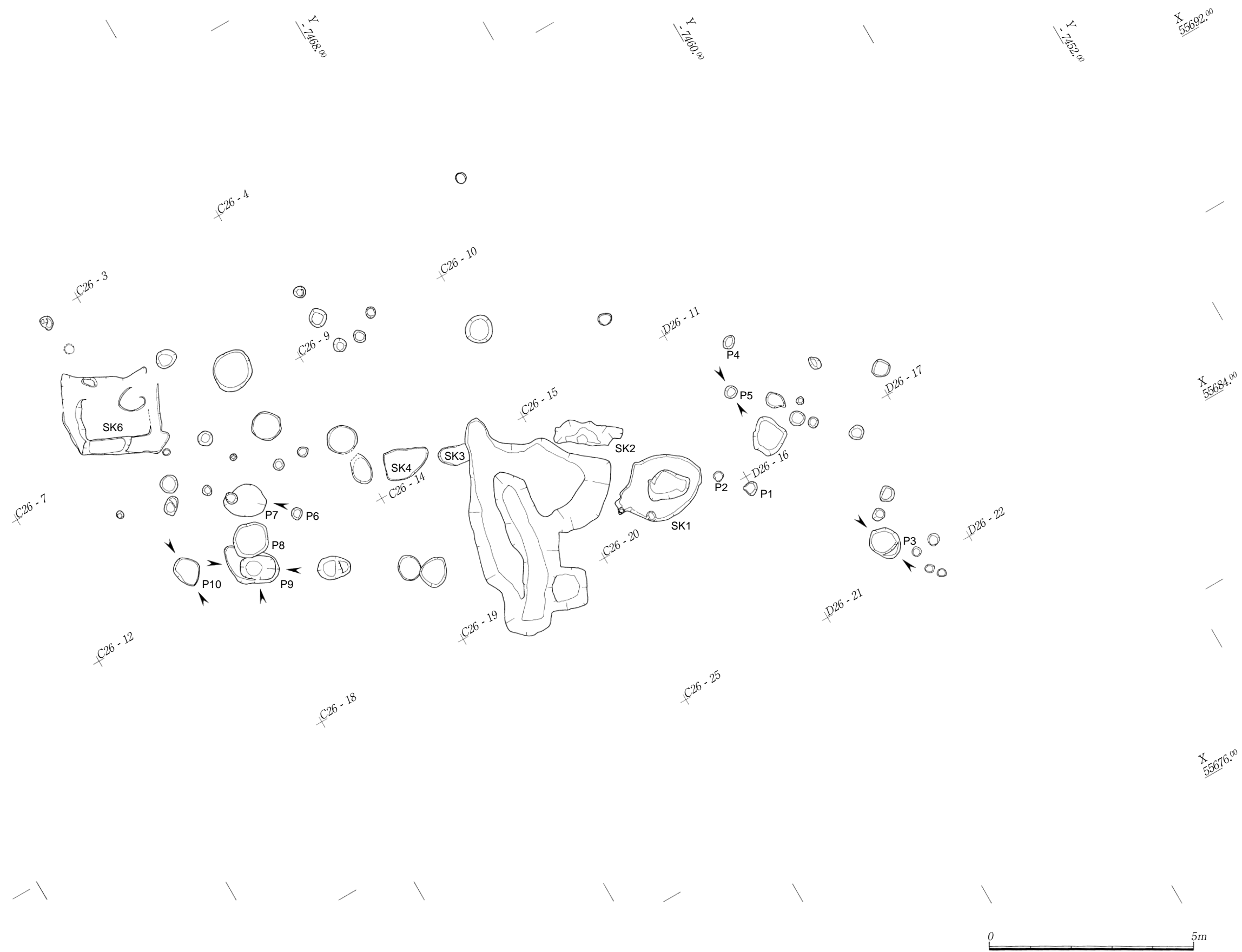




Fig.31 1A区遺構配置図(1面)



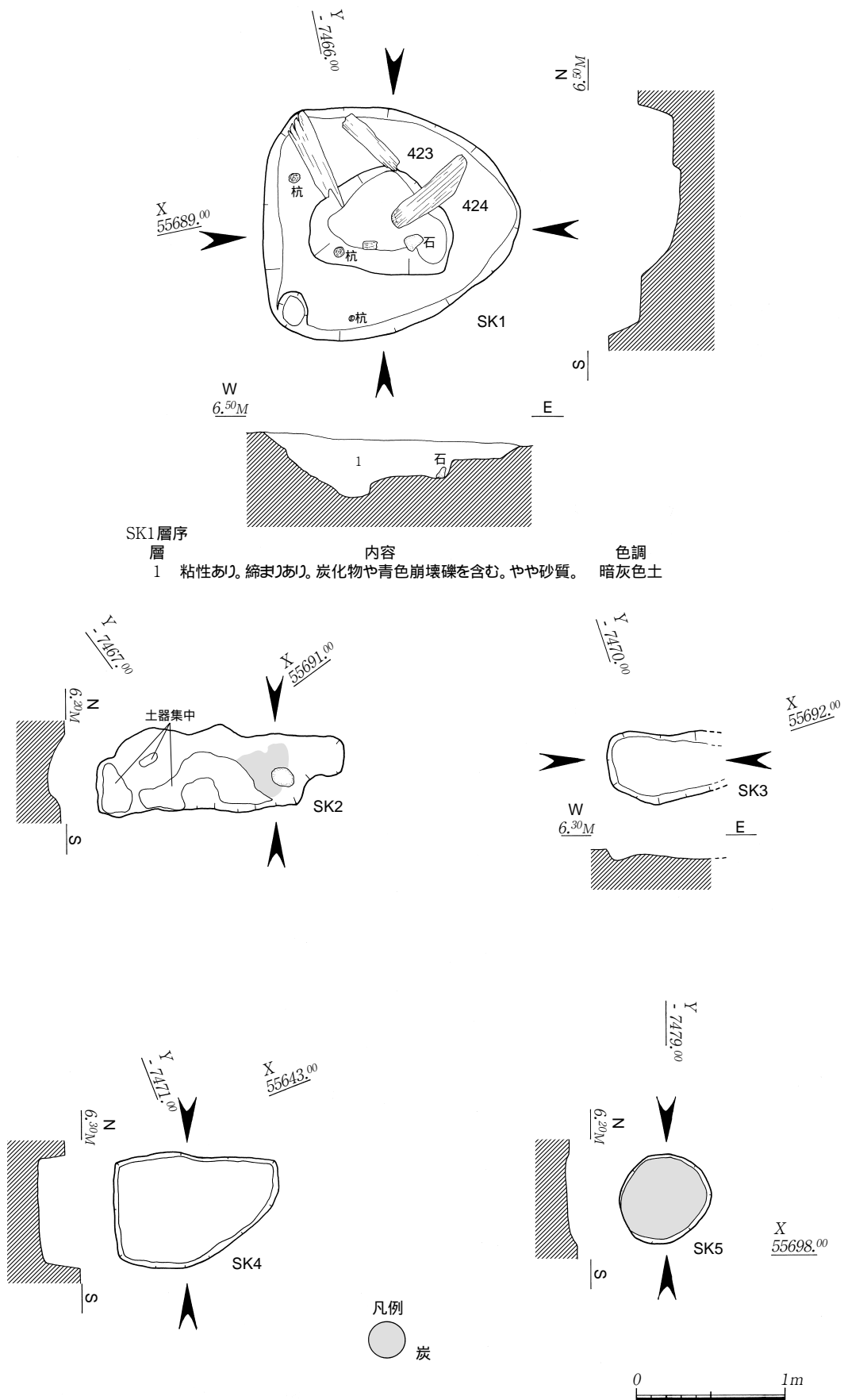


Fig.32 1A区遺構平面図1

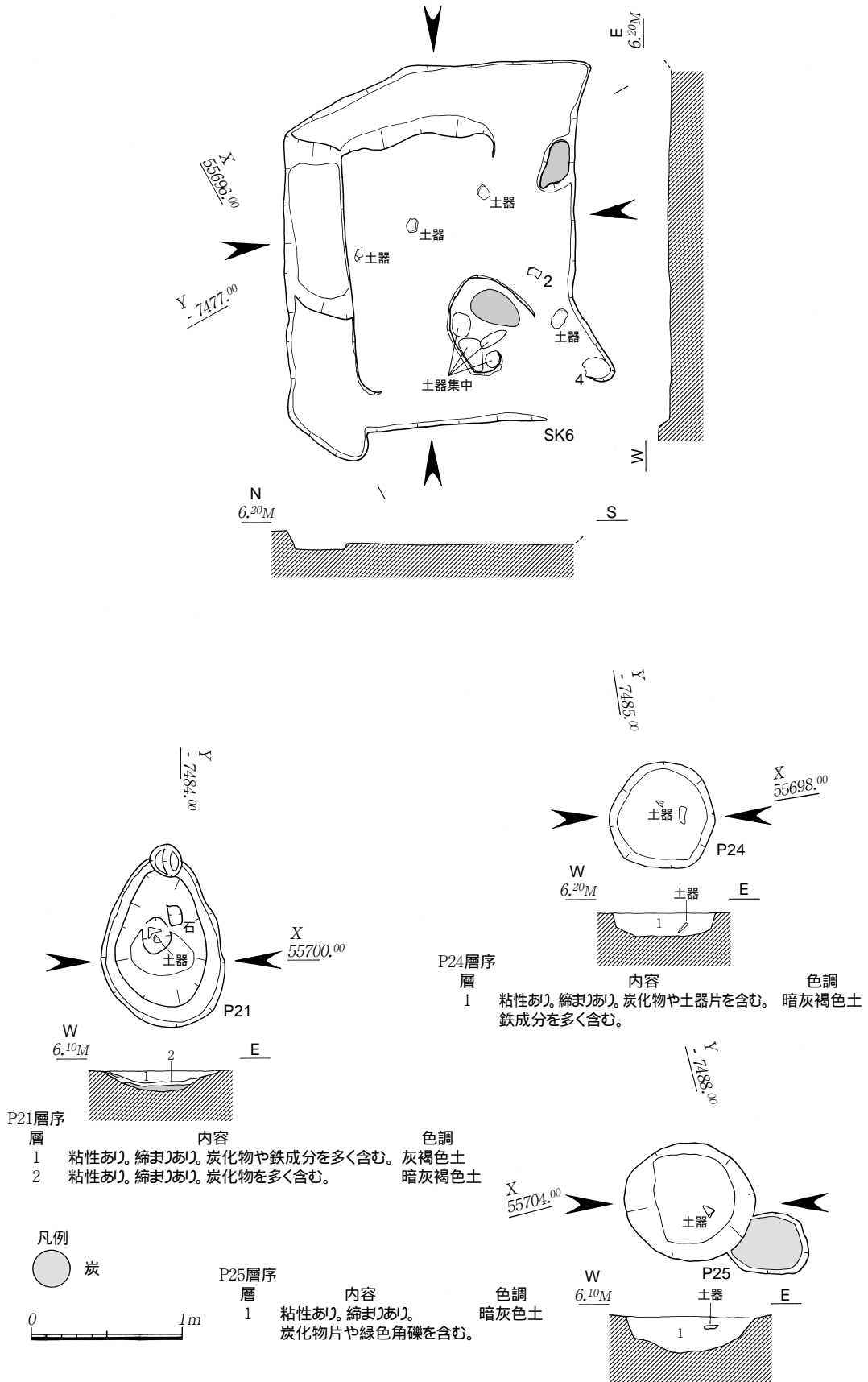
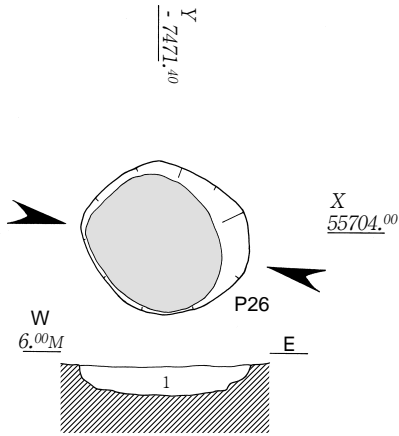
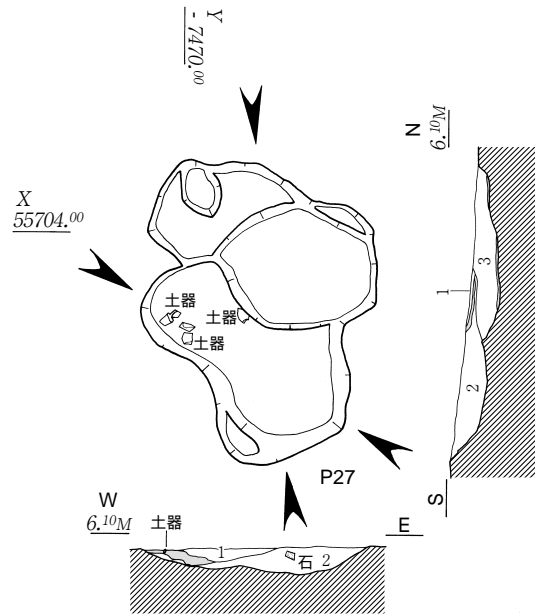


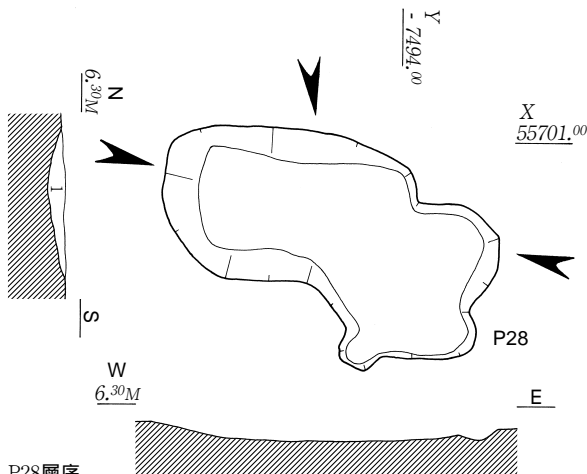
Fig.33 1A区遺構平面図2



P26層序
 層 内容 色調
 1 粘性あり。締まりあり。炭化物片を中央部に多く含む。 暗灰色土

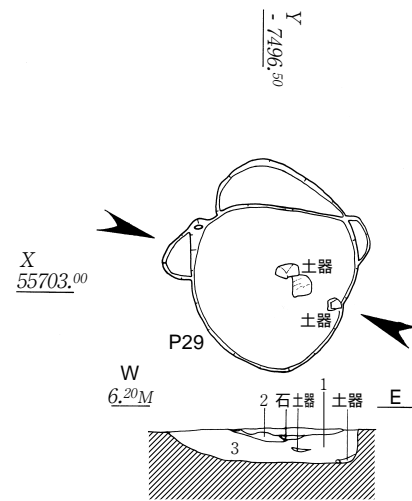


P27層序(東西)
 層 内容 色調
 1 粘性あり。締まりあり。炭化物を多く含む。 暗灰褐色土
 2 粘性あり。締まりあり。炭化物を少し含む。 暗灰褐色土

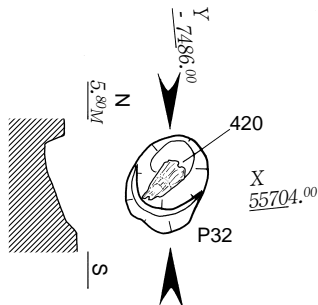


P28層序
 層 内容 色調
 1 粘性あり。締まりあり。炭化物や緑灰色の小礫(2~0.1cm)を多く含む。鉄成分を多く含む。 暗灰褐色土

P27層序(南北)
 層 内容 色調
 1 粘性あり。締まりあり。炭化物を多く含む。 暗灰褐色土
 2 粘性あり。締まりあり。炭化物や青色風化礫を多く含む。 暗灰褐色土
 3 粘性あり。締まりあり。層上位で炭化物や青色風化礫を多く含む。 暗灰色土



P29層序
 層 内容 色調
 1 粘性あり。締まりあり。炭化物を少し含む。鉄成分や緑灰色の小礫を少し含む。 暗灰褐色土
 2 粘性ややあり。締まりややあり。鉄成分や緑灰色小礫を多量に含む。 暗灰褐色土
 3 粘性あり。締まりあり。鉄成分や緑灰色小礫を1層より多く含む。 暗灰褐色土



凡例
 ● 炭



Fig.34 1A区遺構平面図3

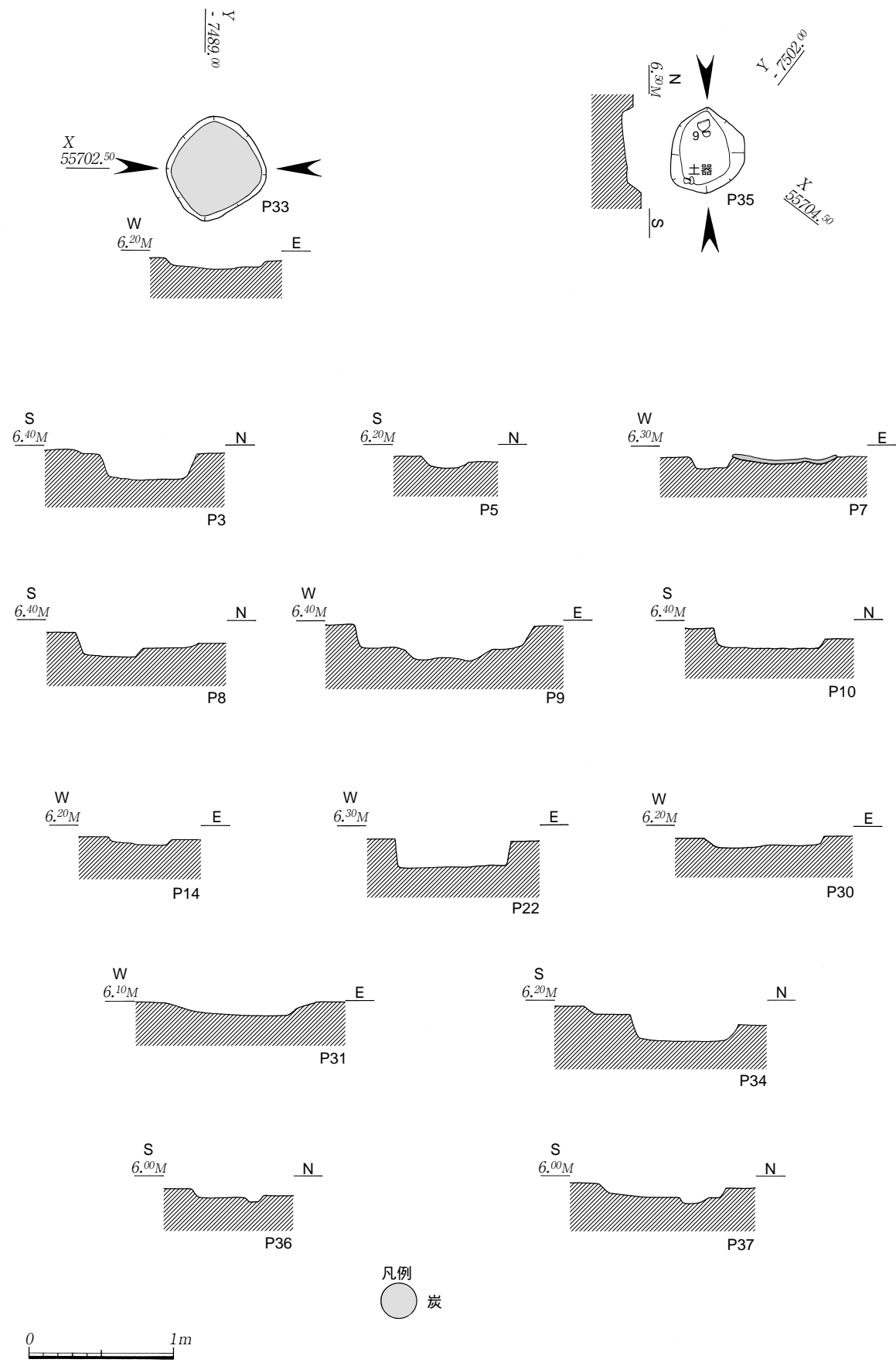


Fig.35 1A区遺構平面図4

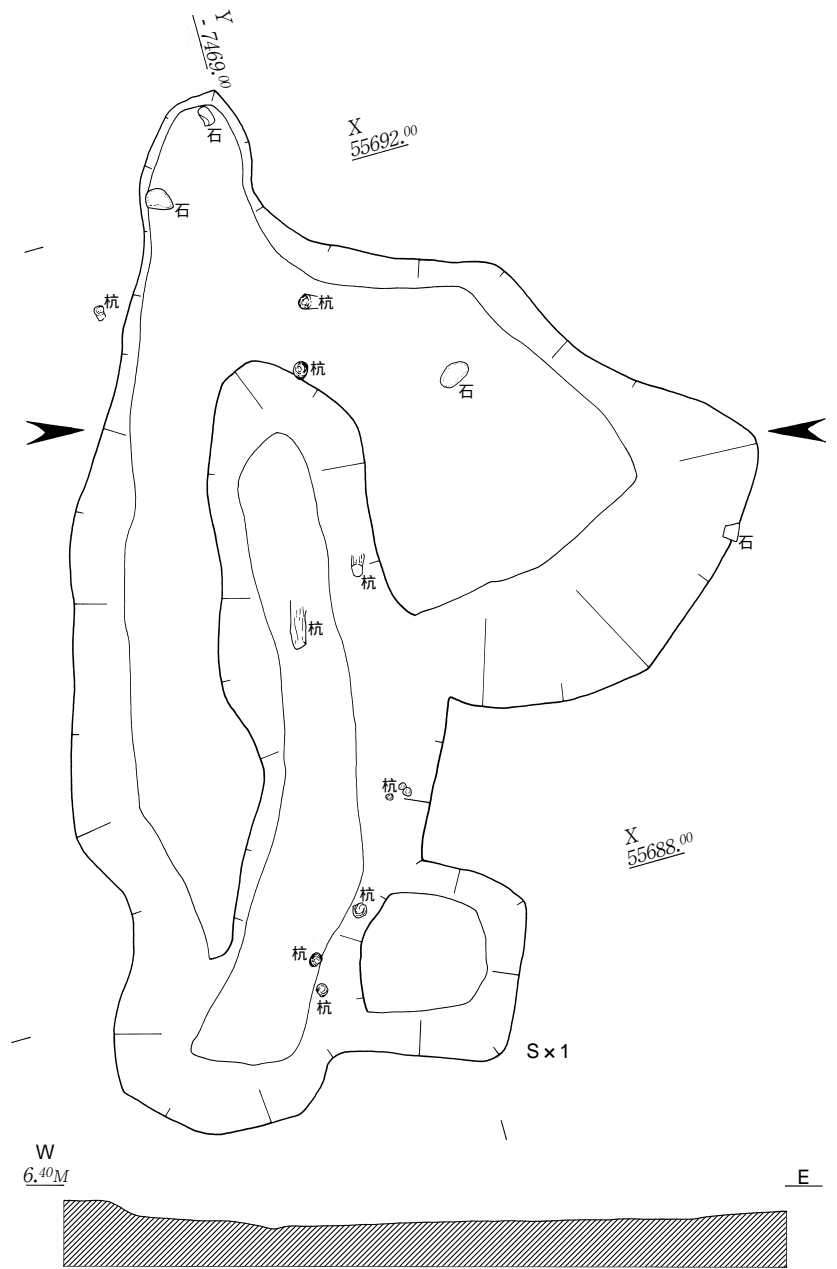


Fig.36 1A区遺構平面図5

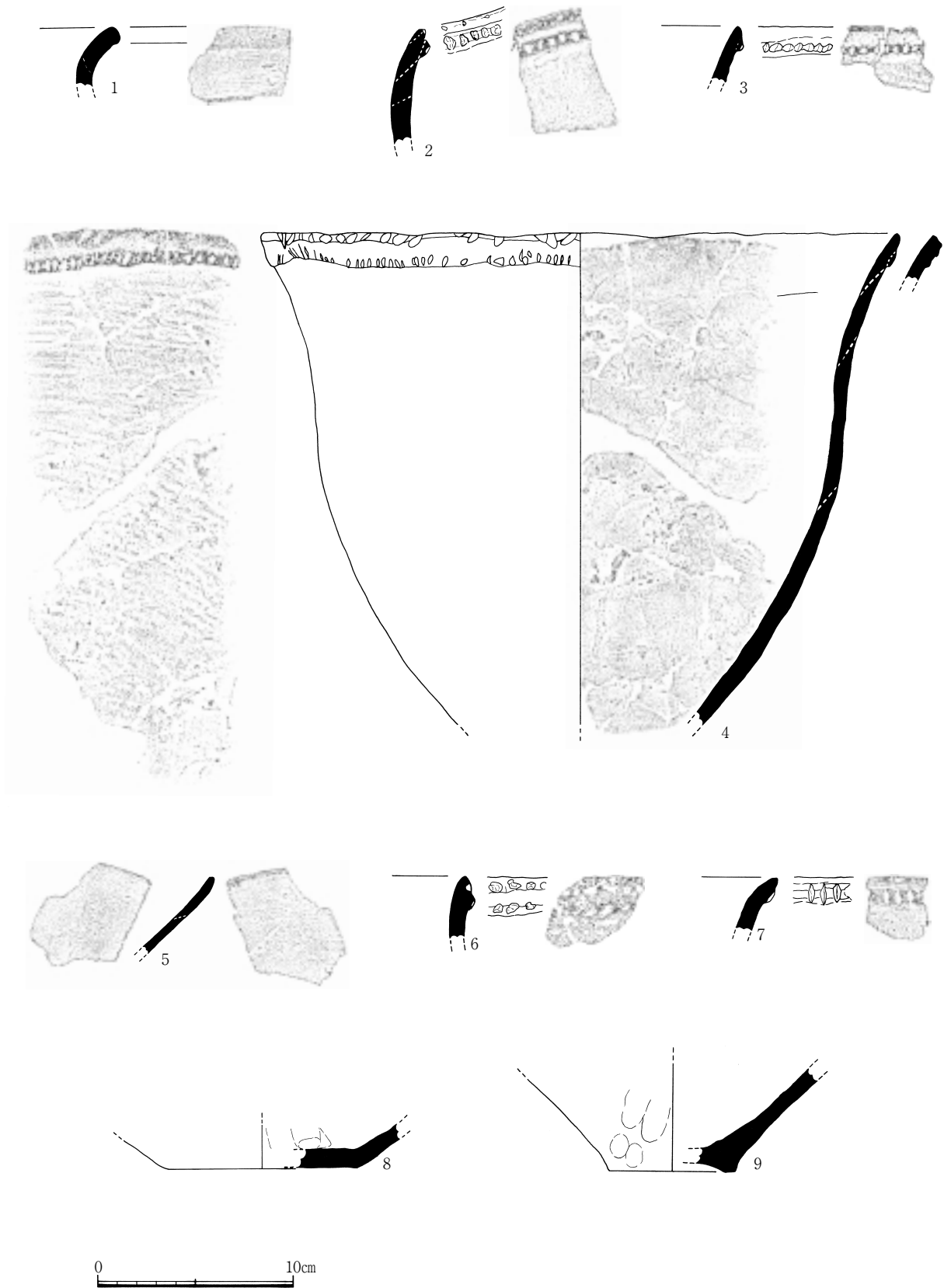


Fig.37 1A区出土遺物 1

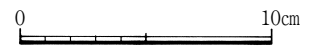
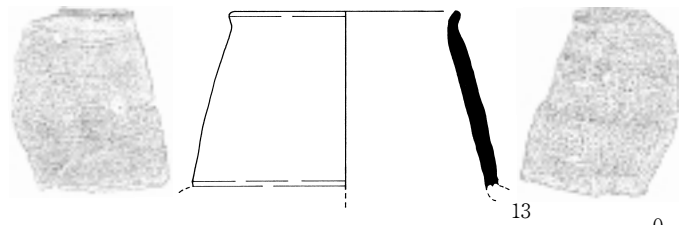
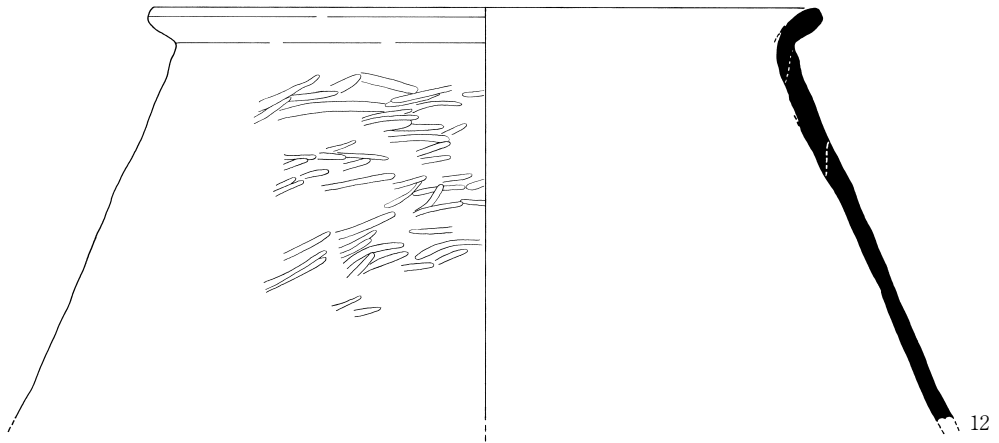
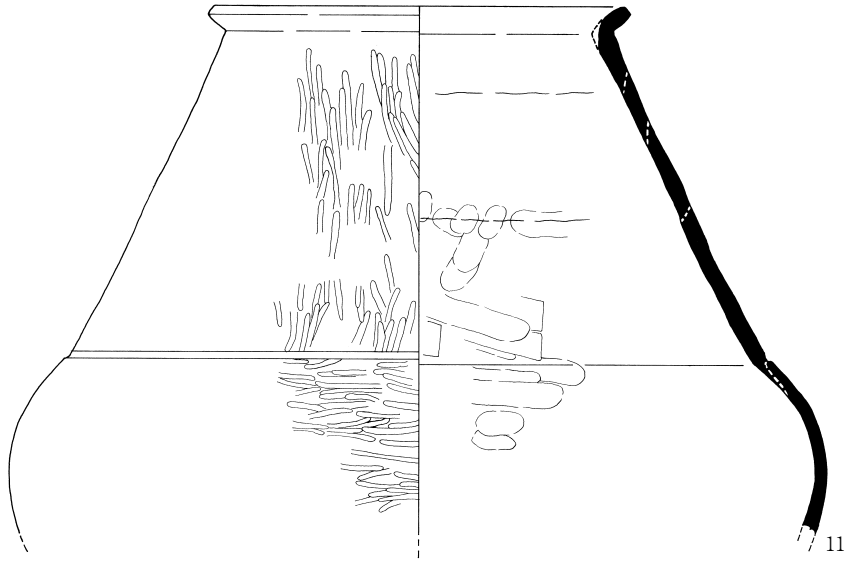
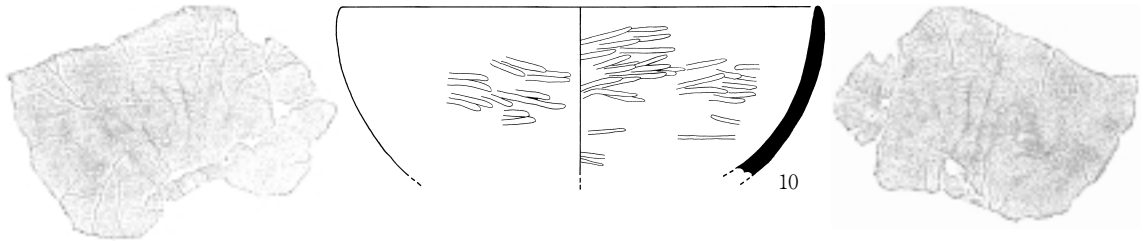
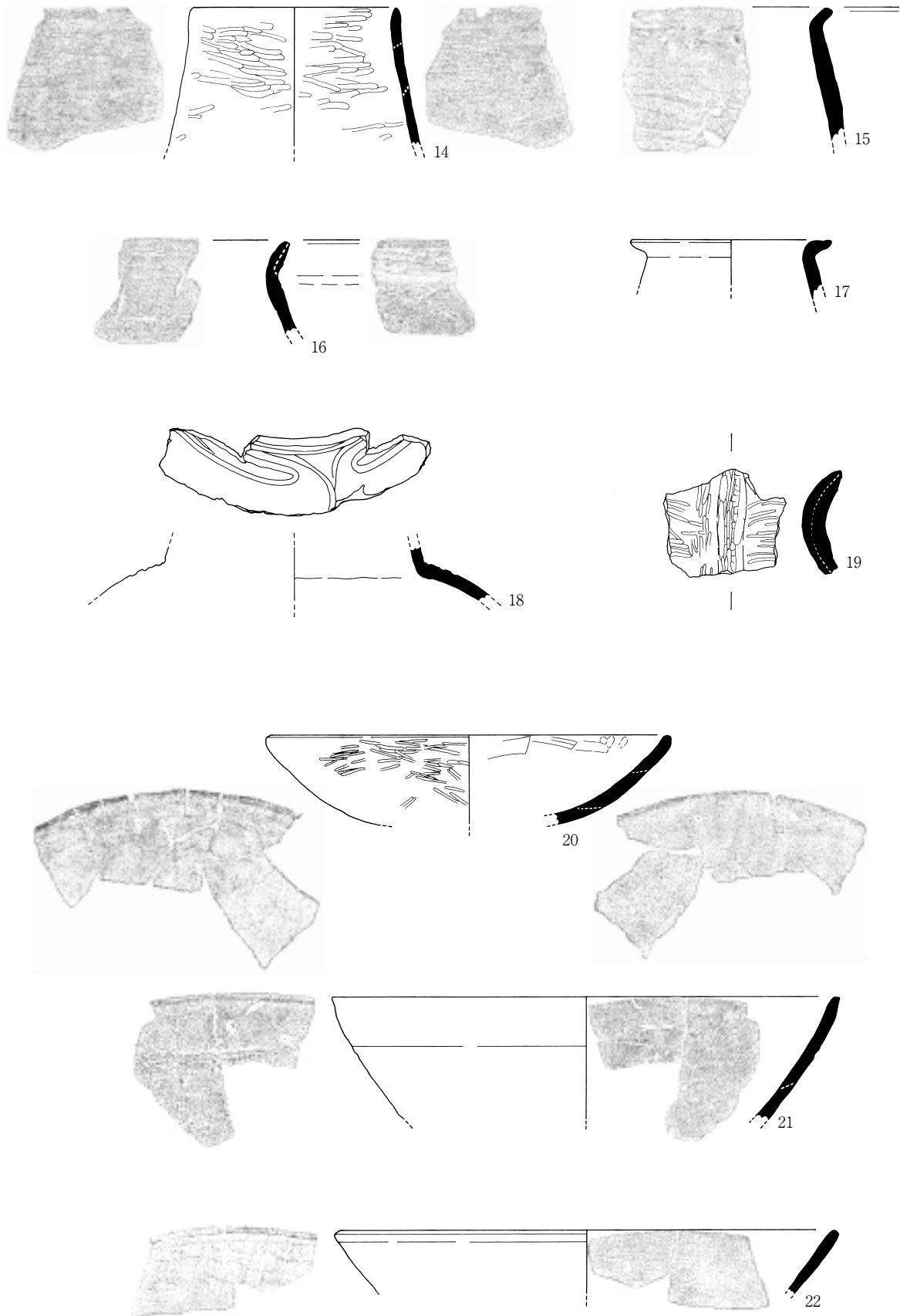


Fig.38 1A区出土遺物実測図 2



0 10cm

Fig.39 1A区出土遺物 3

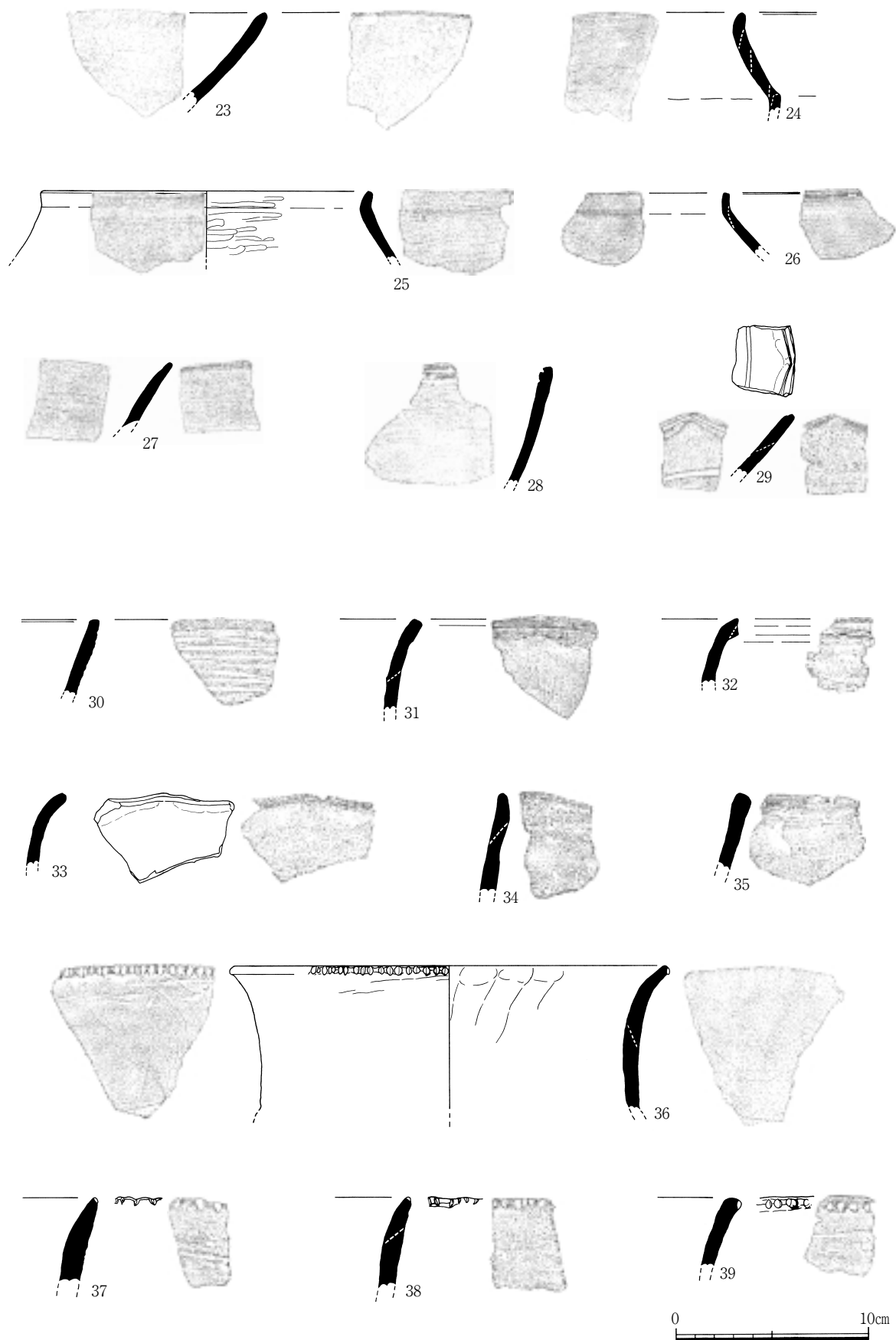


Fig.40 1A区出土遺物 4

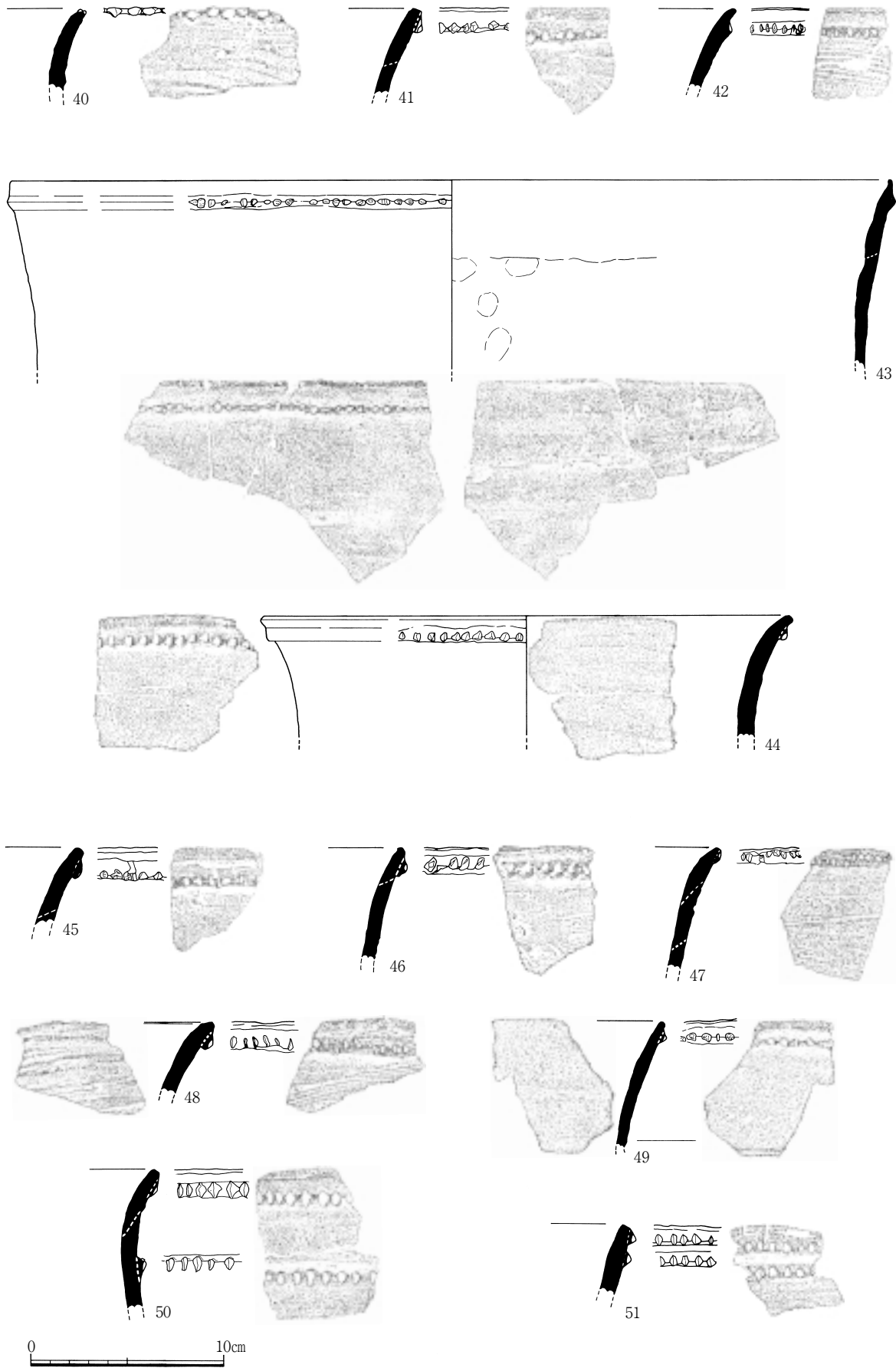


Fig.41 1A区出土遺物 5

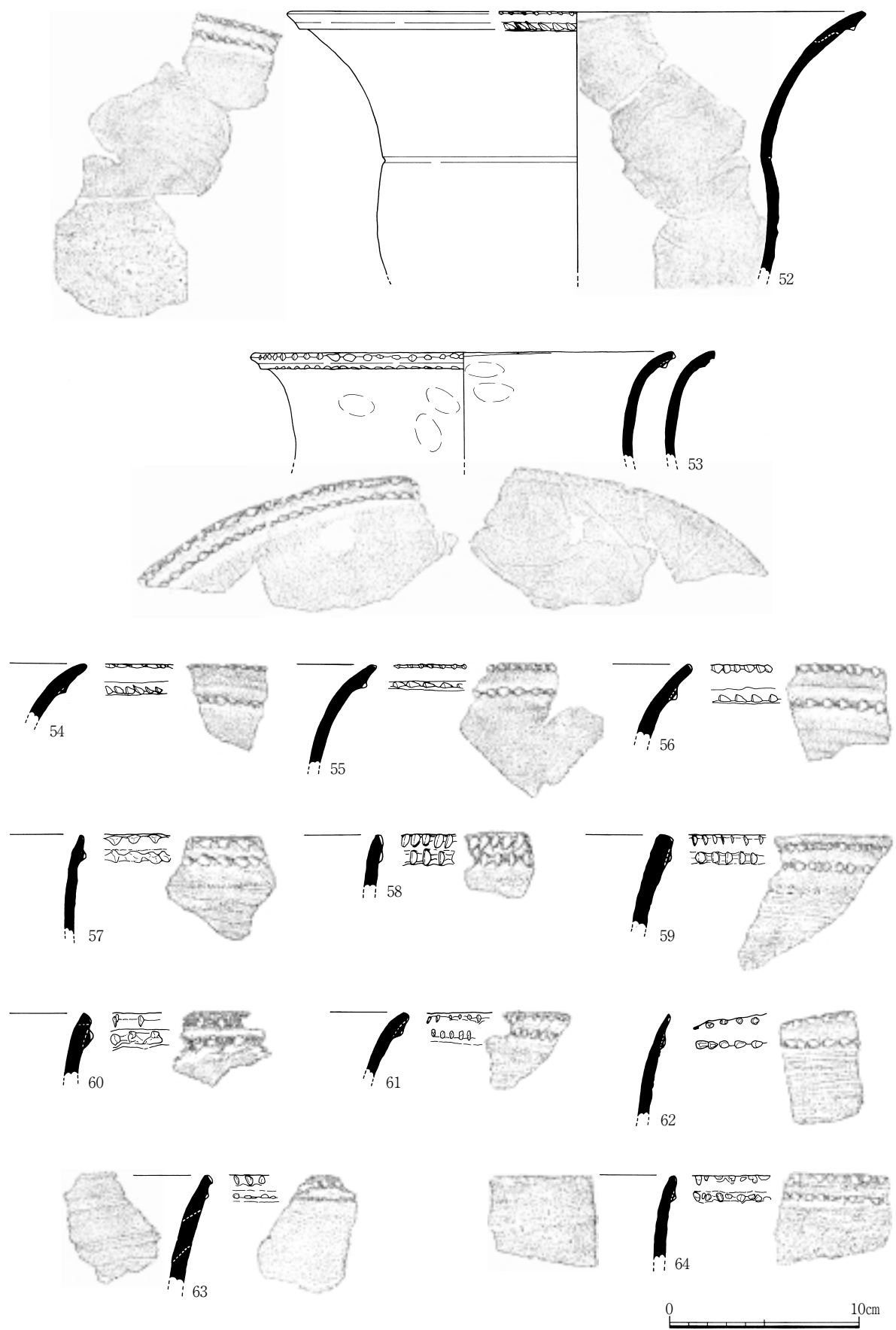


Fig.42 1A区出土遺物 6

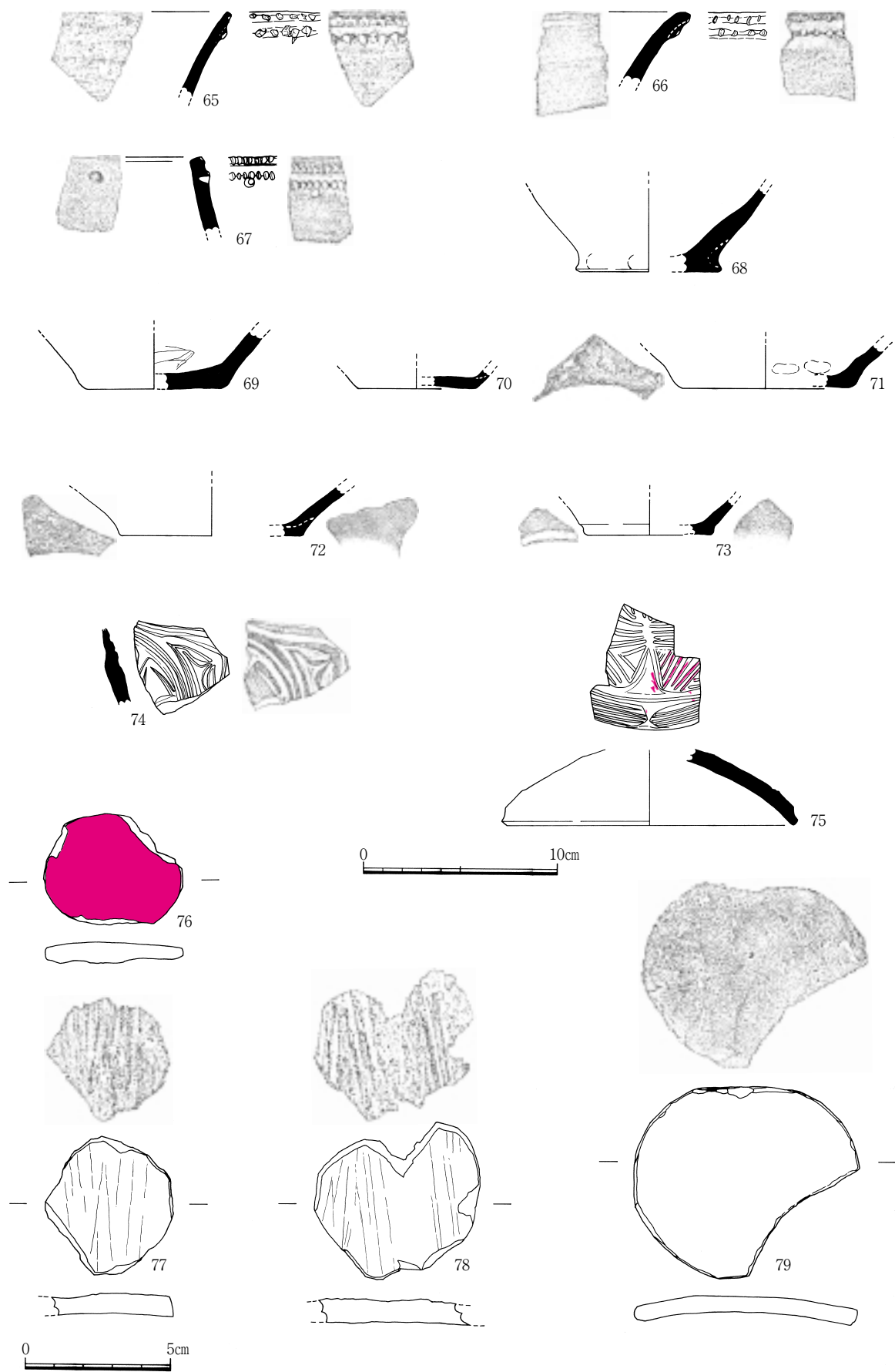


Fig.43 1A区出土遺物 7

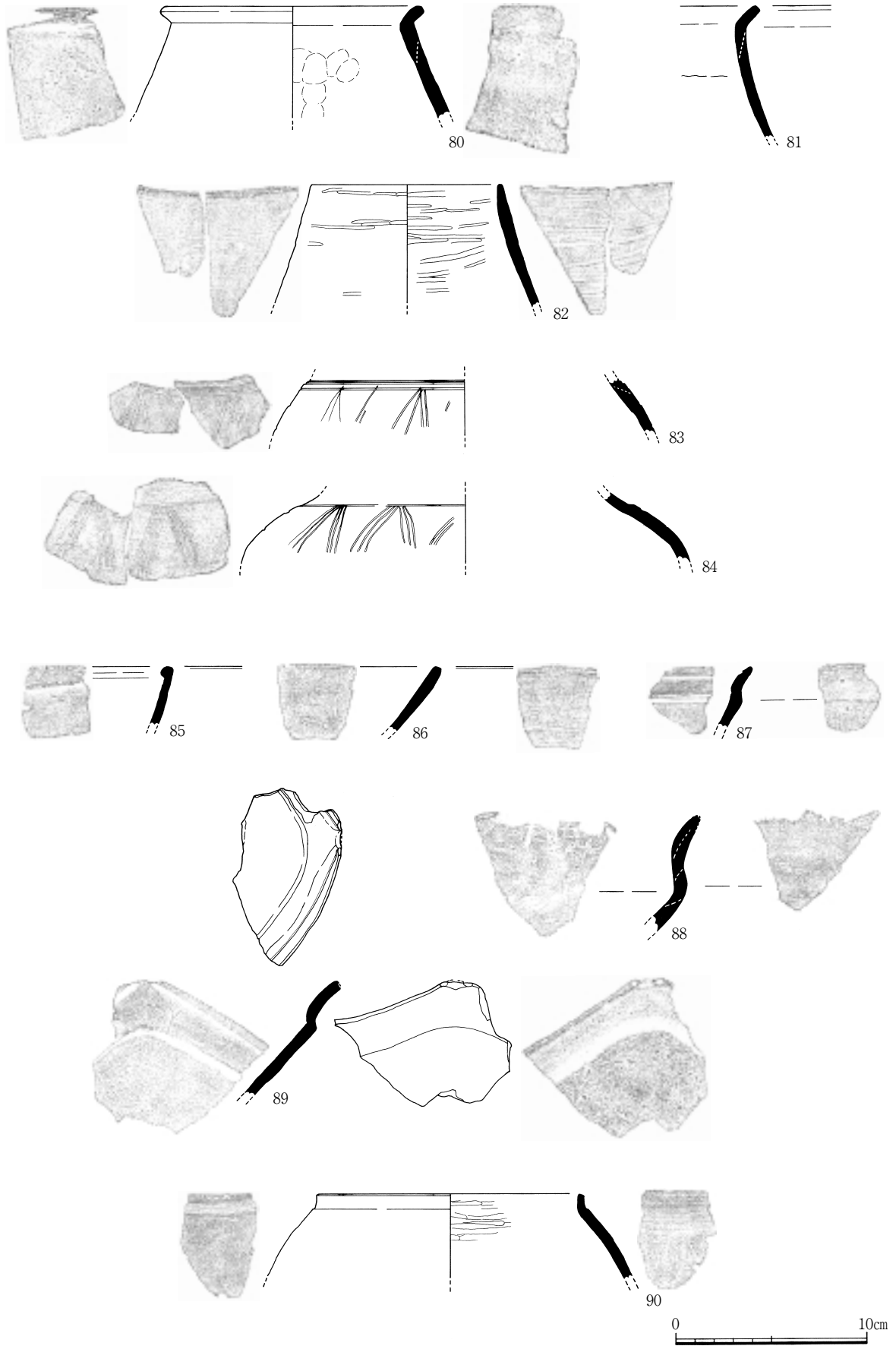


Fig.44 1A区出土遺物 8

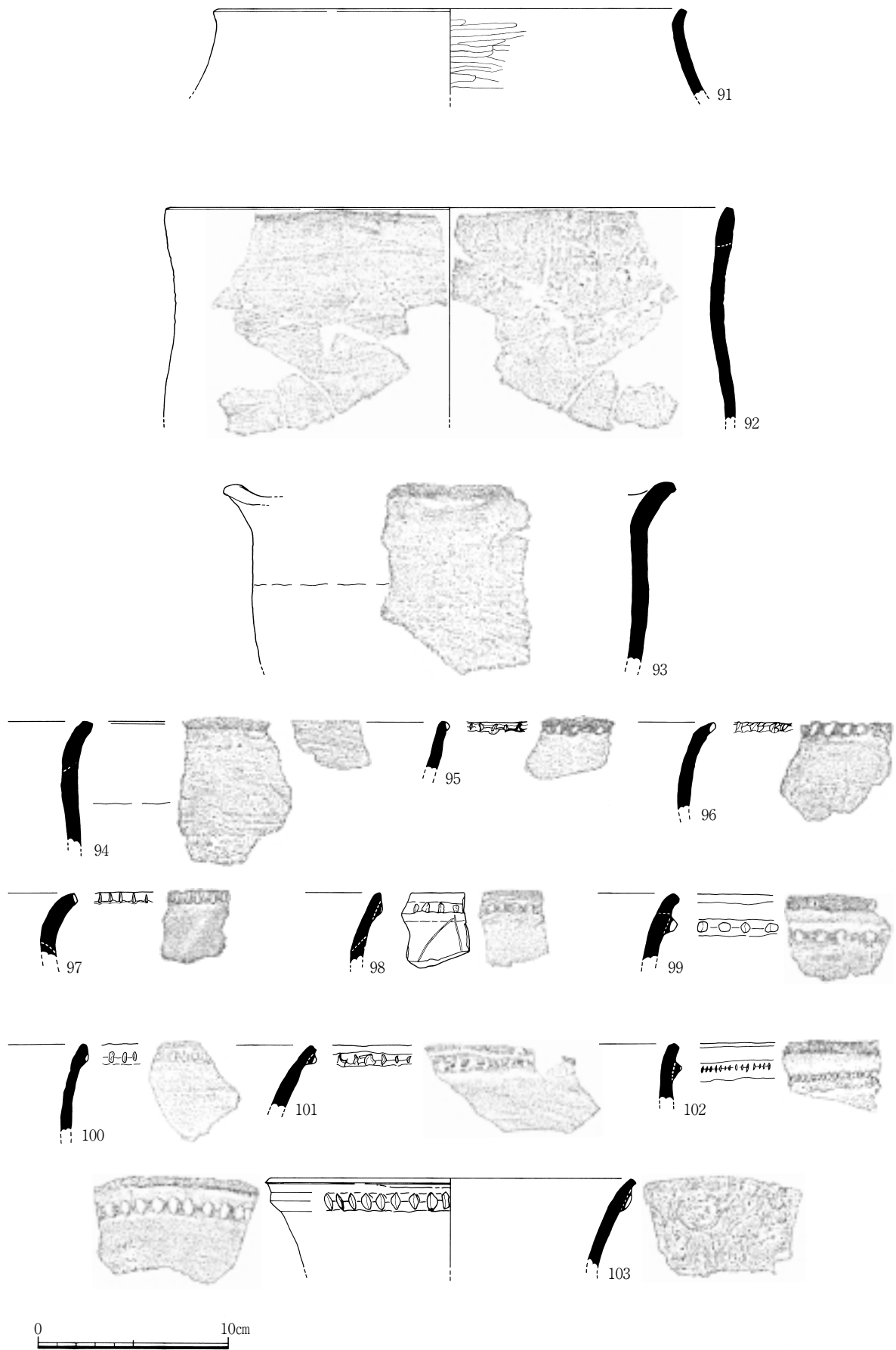


Fig.45 1A区出土遺物 9

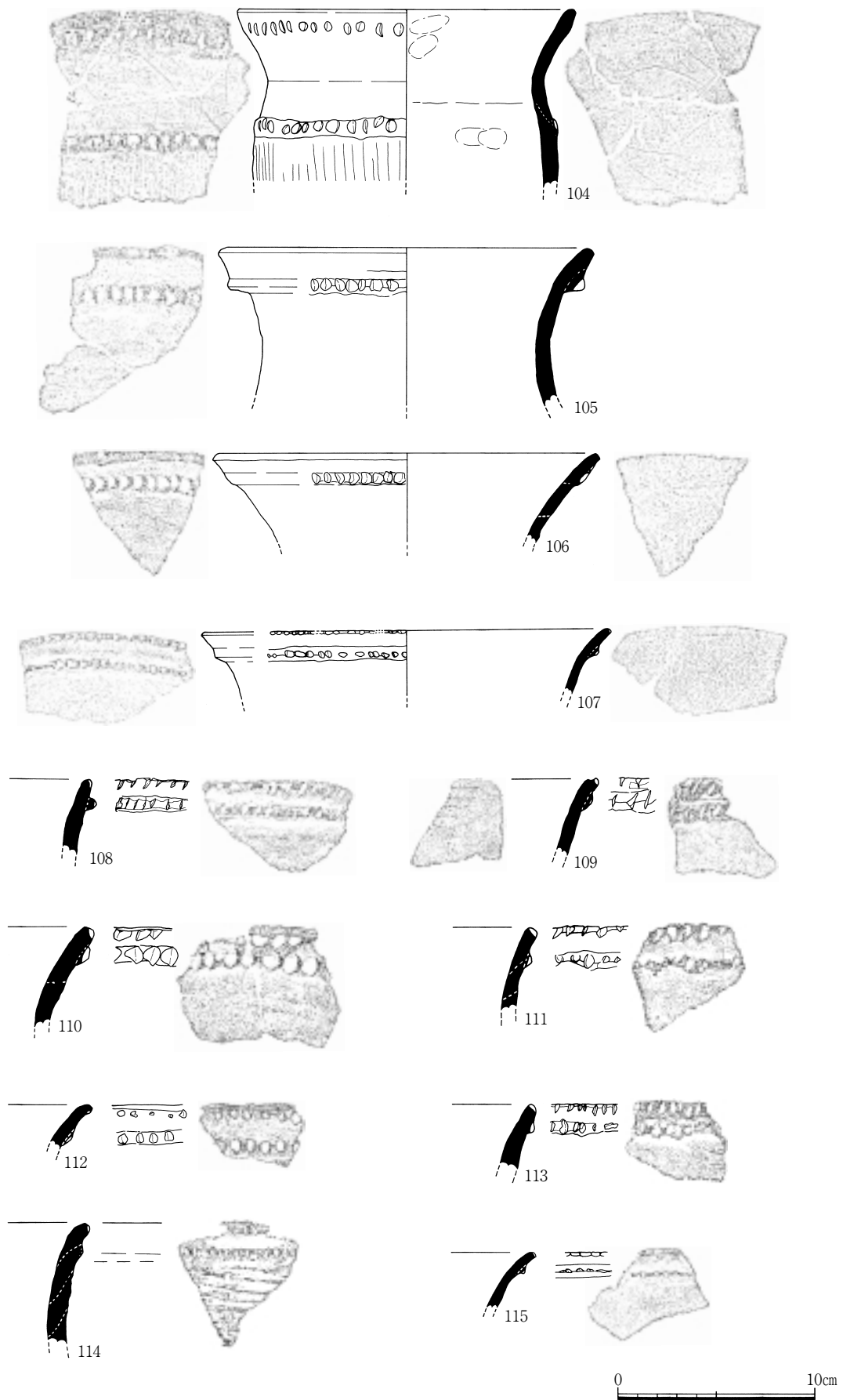


Fig.46 1A区出土遺物 10

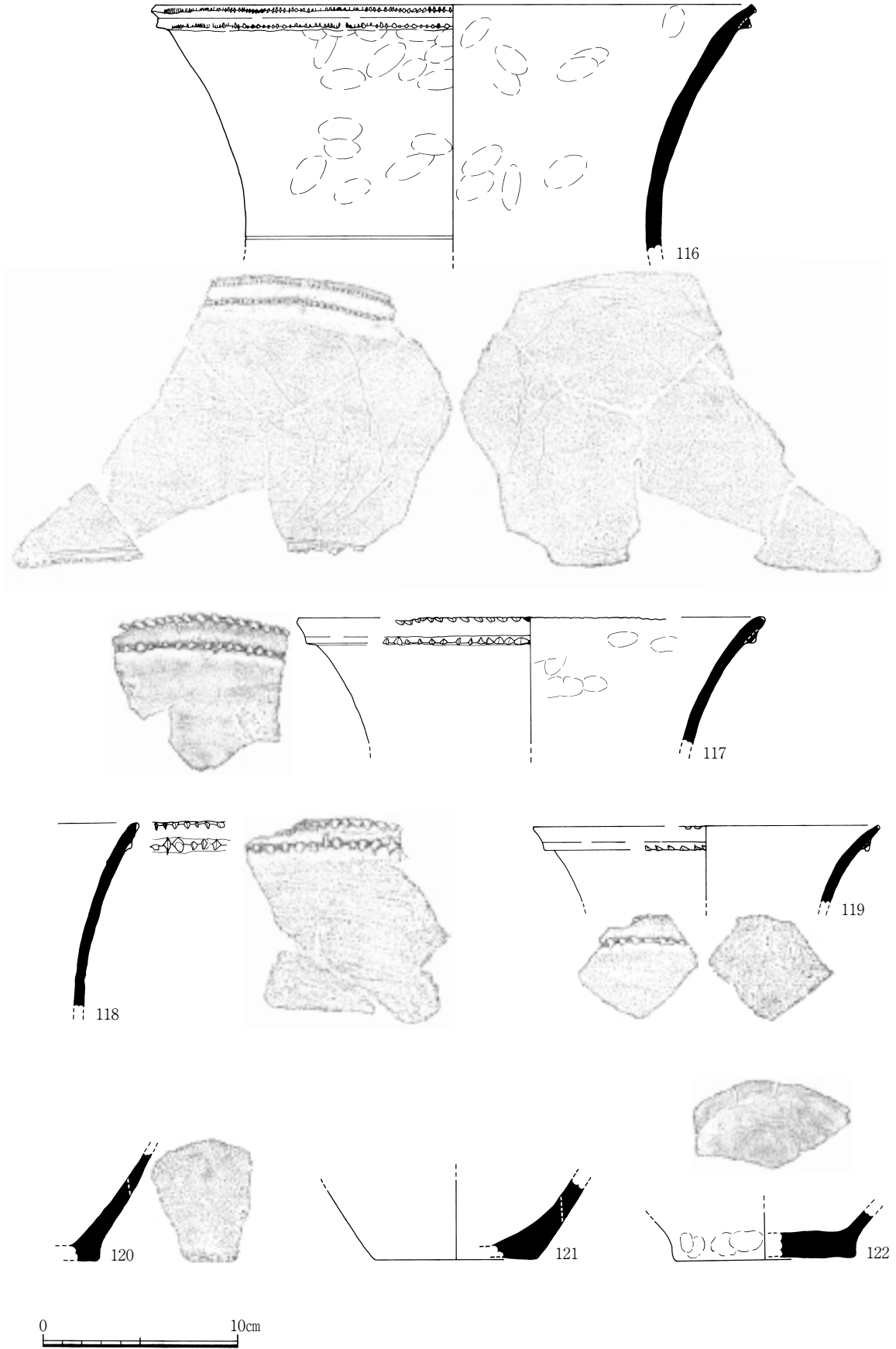


Fig.47 1A区出土遺物 11

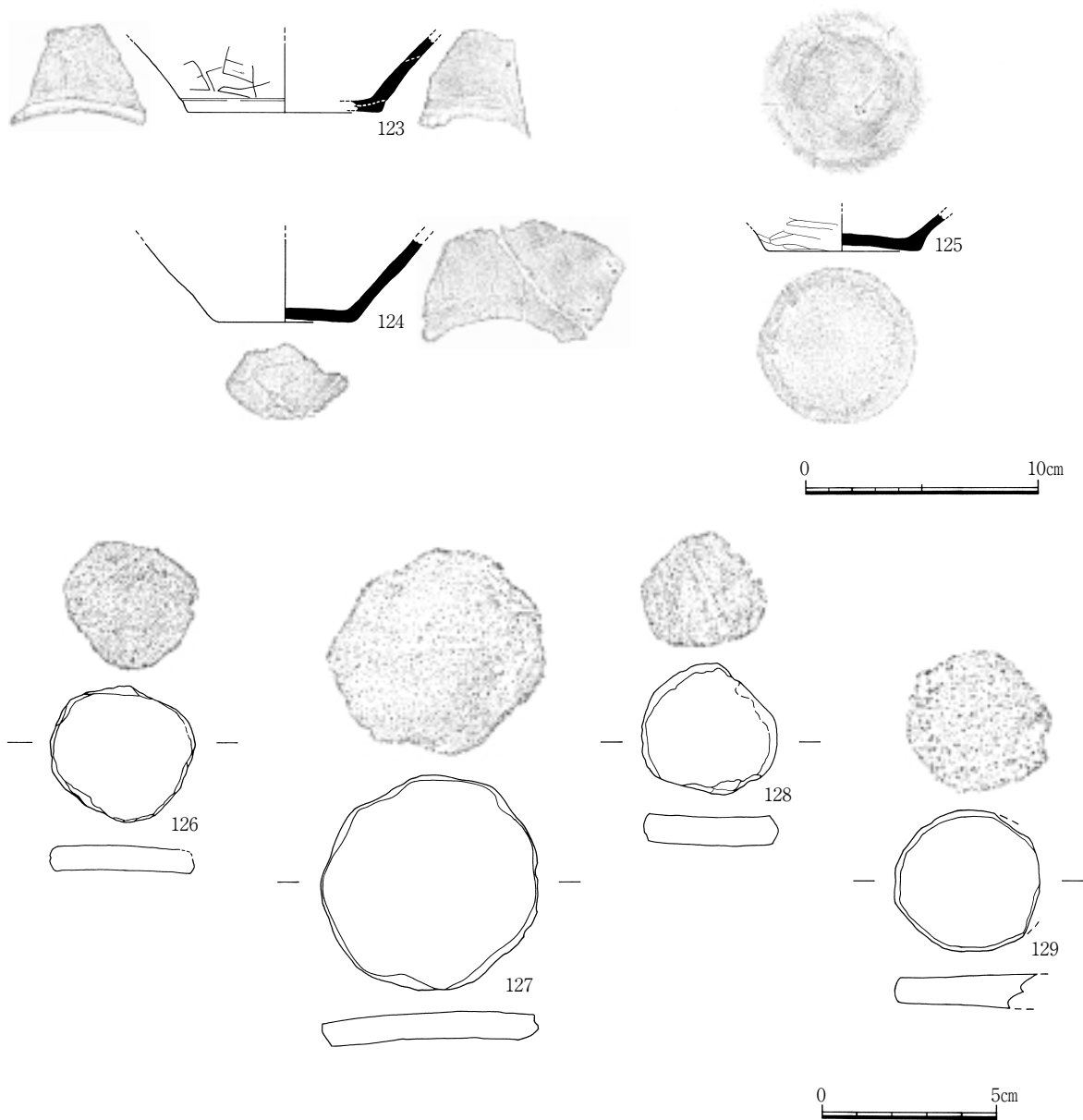


Fig.48 1A区出土遺物 12

d層 (Fig.51 ~ 59 , 67 , 68 , 71 ~ 73 , 75 ~ 77)

土器・土製品の出土点数は4,280点であり、縄文土器3,202点と弥生土器380点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは108点（147～254）である。147から161は壺である。149と152は口唇に浅鉢風の押圧刻みが入り、後者は波状口縁を成す。161は頸部に複線山形紋を施す。162から186は浅鉢である。162から165は体部から口縁が連続的に内湾する。176から183は鐙状を成し、口縁部は外反する。176は体部外面に沈線紋を施しており、高杯又は蓋か。178は口縁下に焼成後穿孔（補修孔）する。184は一ヶ所の波頂部を持つものであり、台または脚が付く。187から239は深鉢・甕である。187から191は無刻み。192から197は口唇

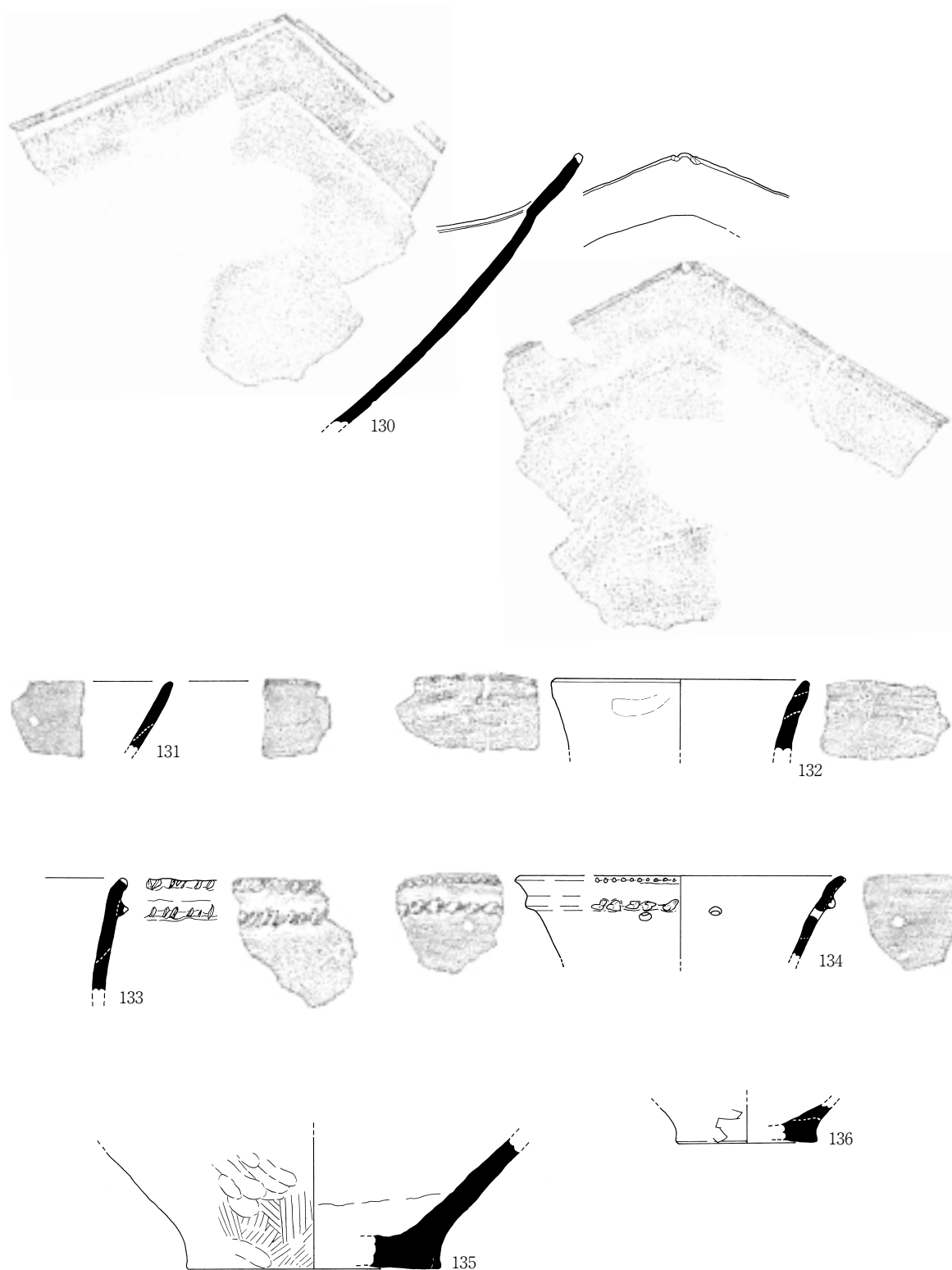


Fig.49 1A区出土遺物 13

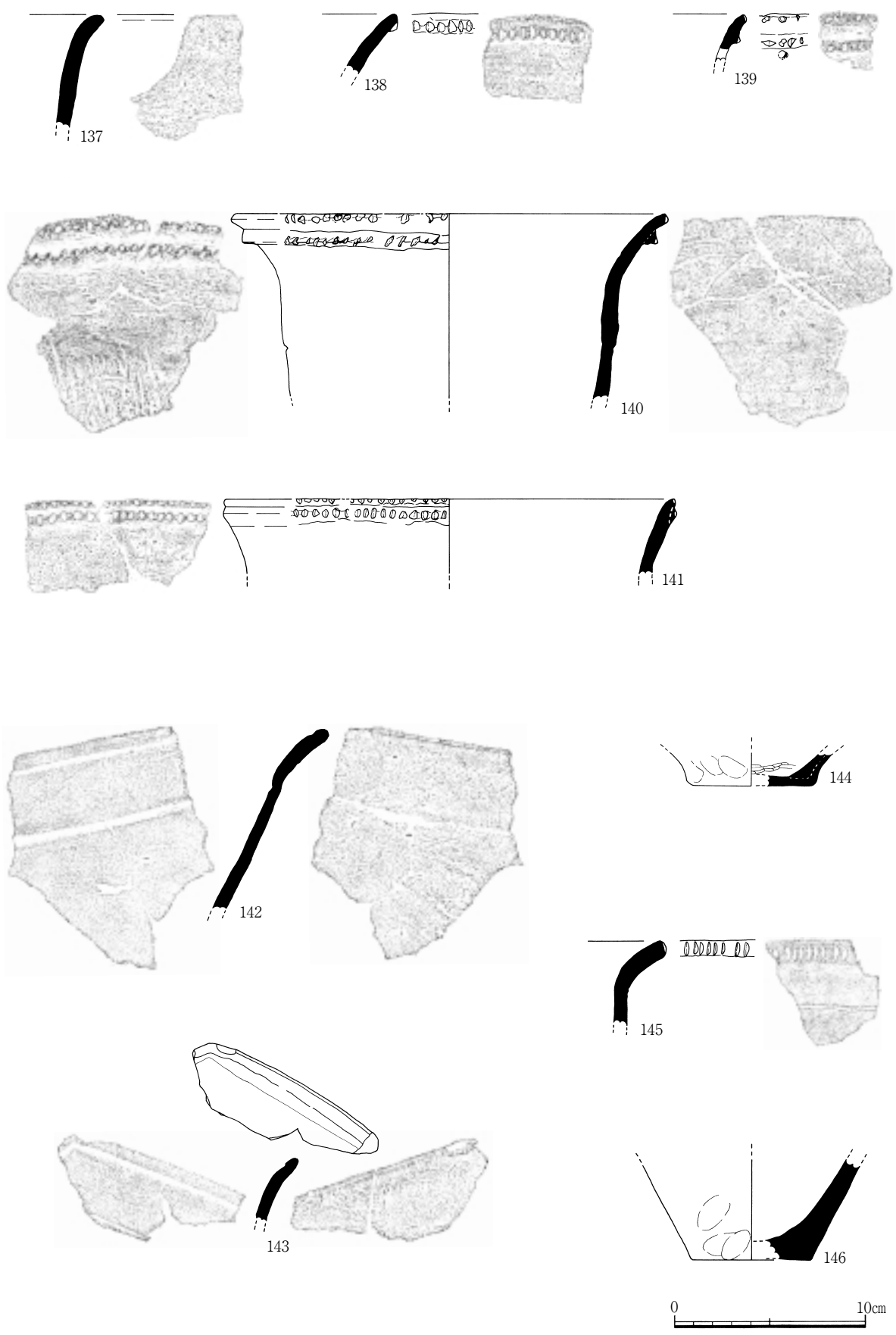


Fig.50 1A区出土遺物 14

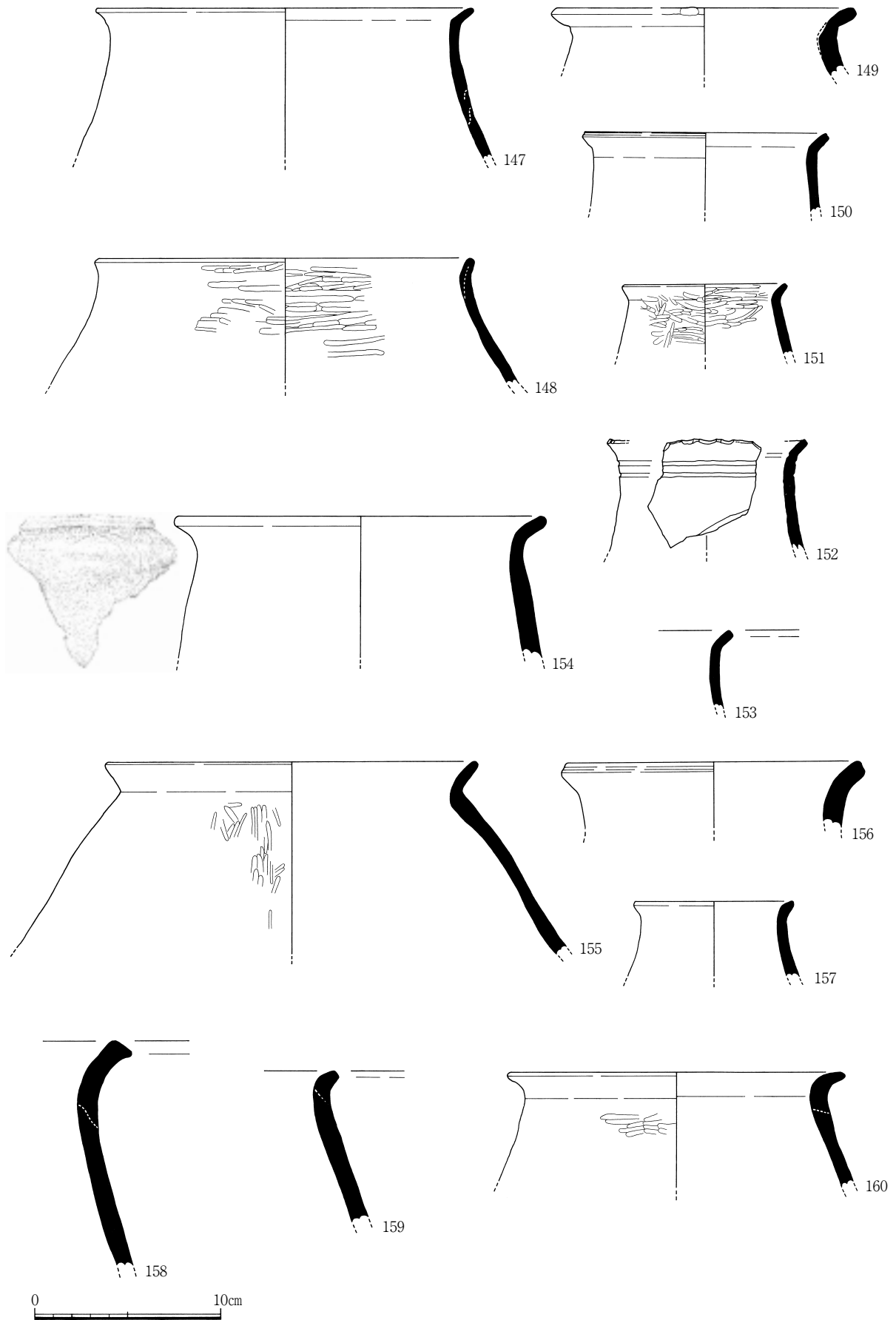
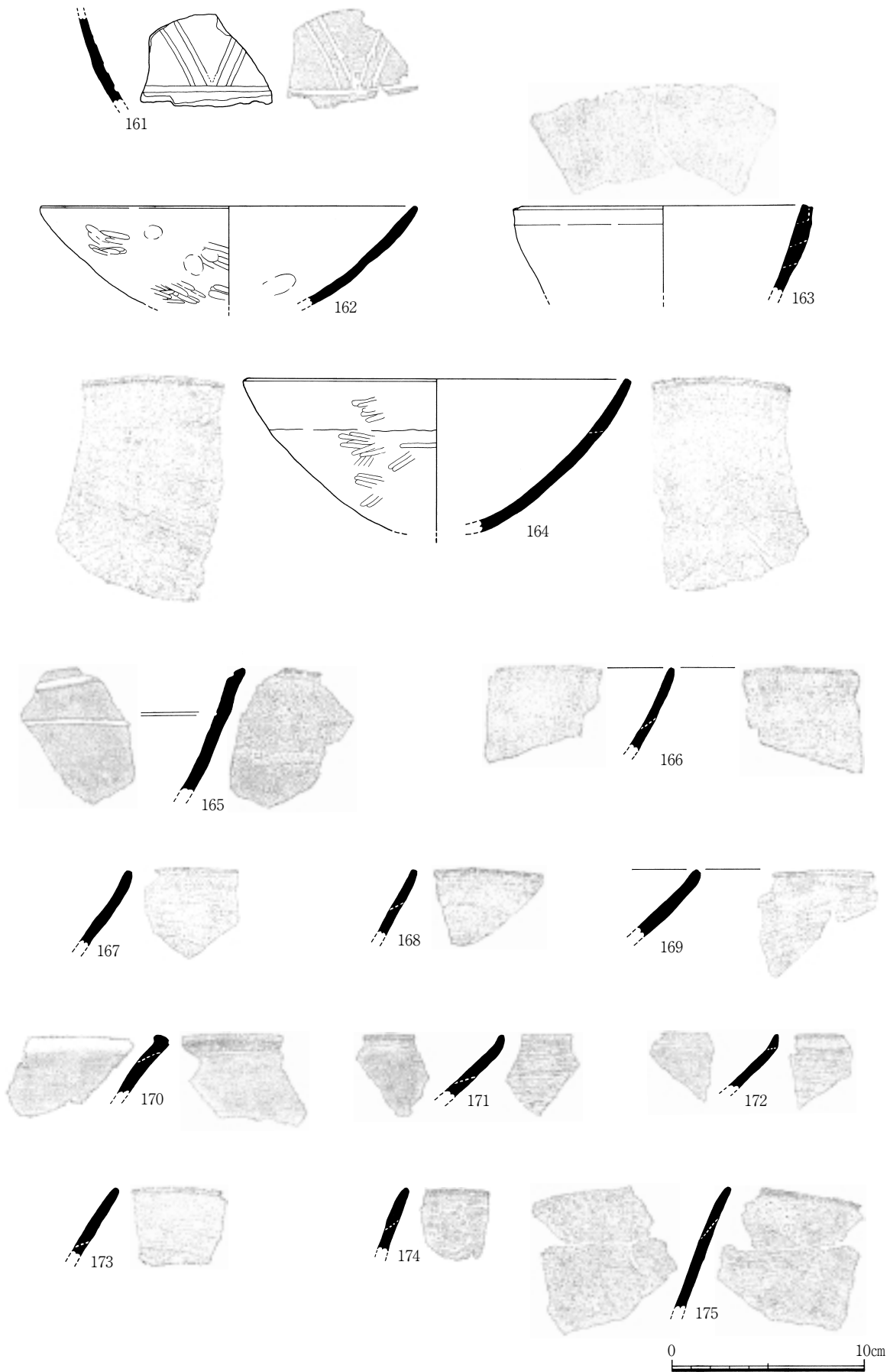


Fig.51 1A区出土遺物 15



0 10cm

Fig.52 1A区出土遺物 16

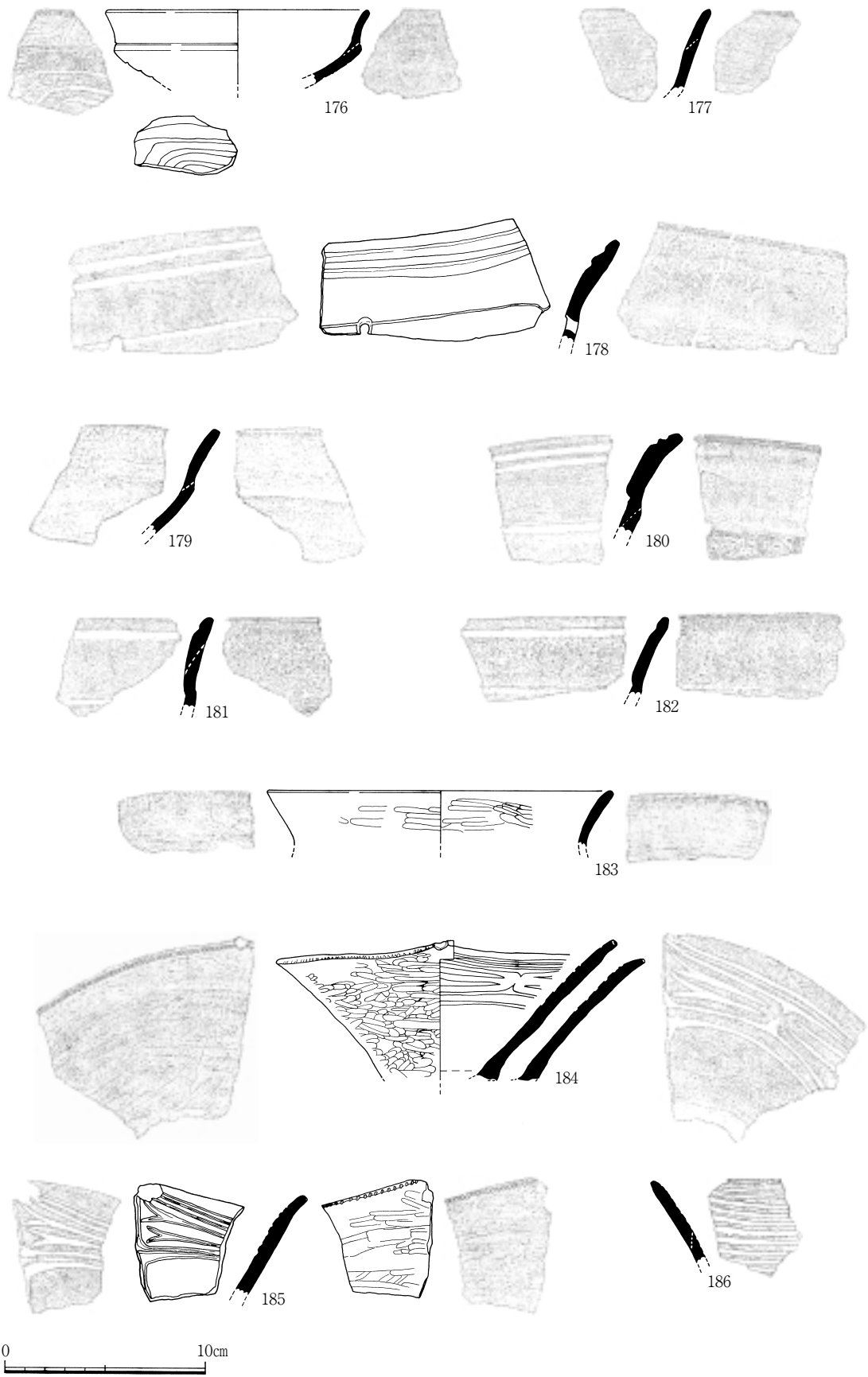


Fig.53 1A区出土遺物 17

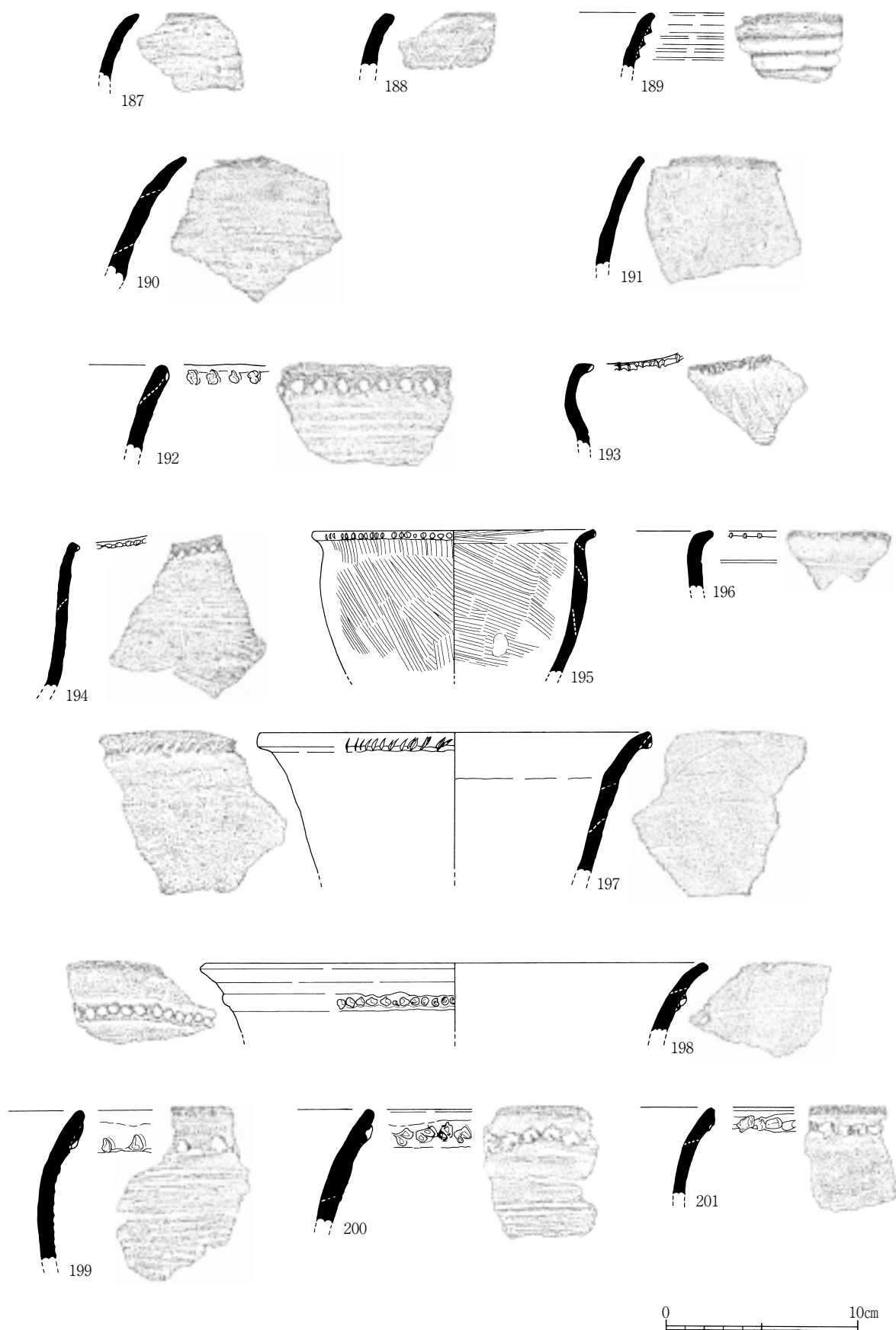


Fig.54 1A区出土遺物 18

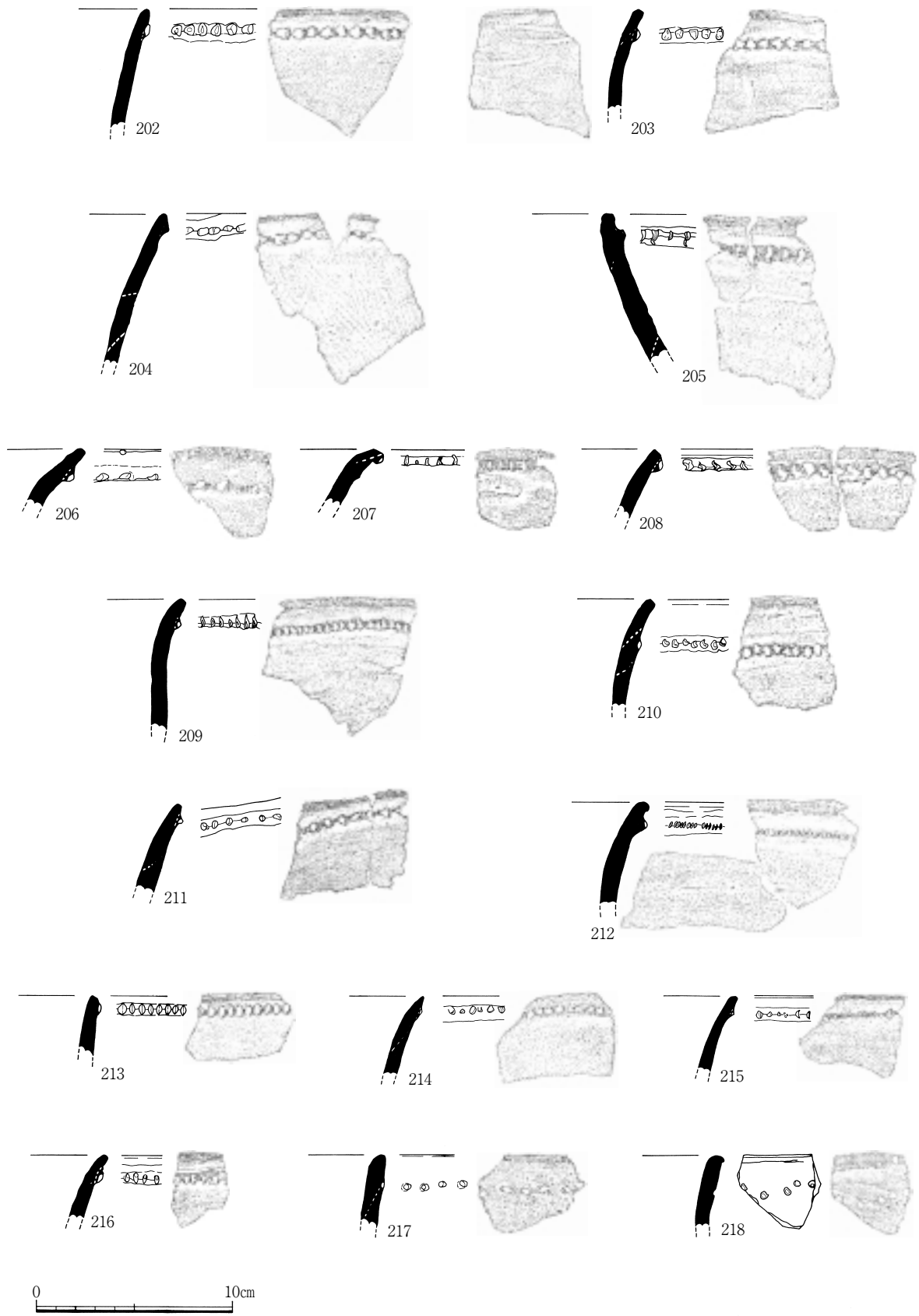


Fig.55 1A区出土遺物 19

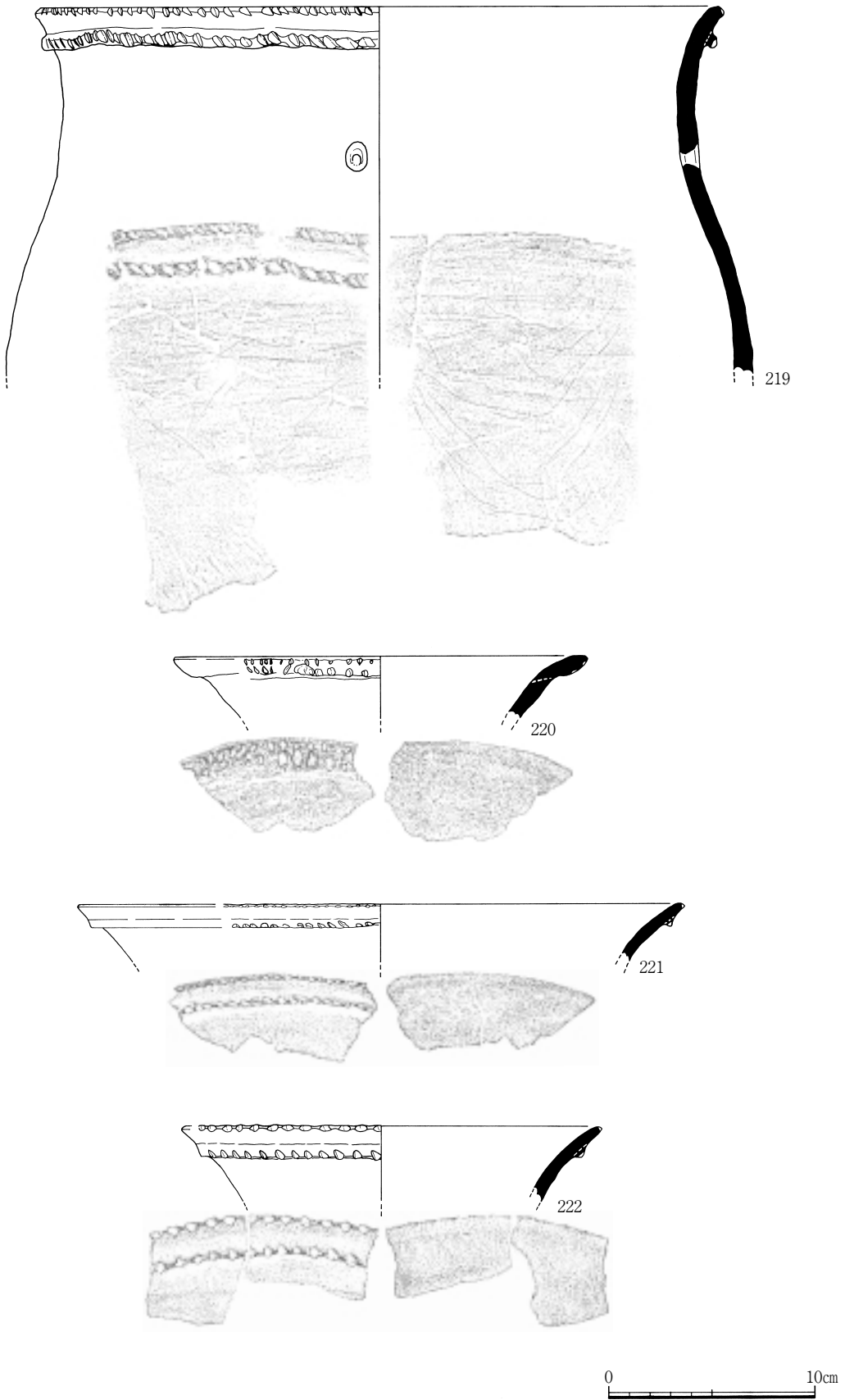


Fig.56 1A区出土遺物 20



Fig.57 1A区出土遺物 21

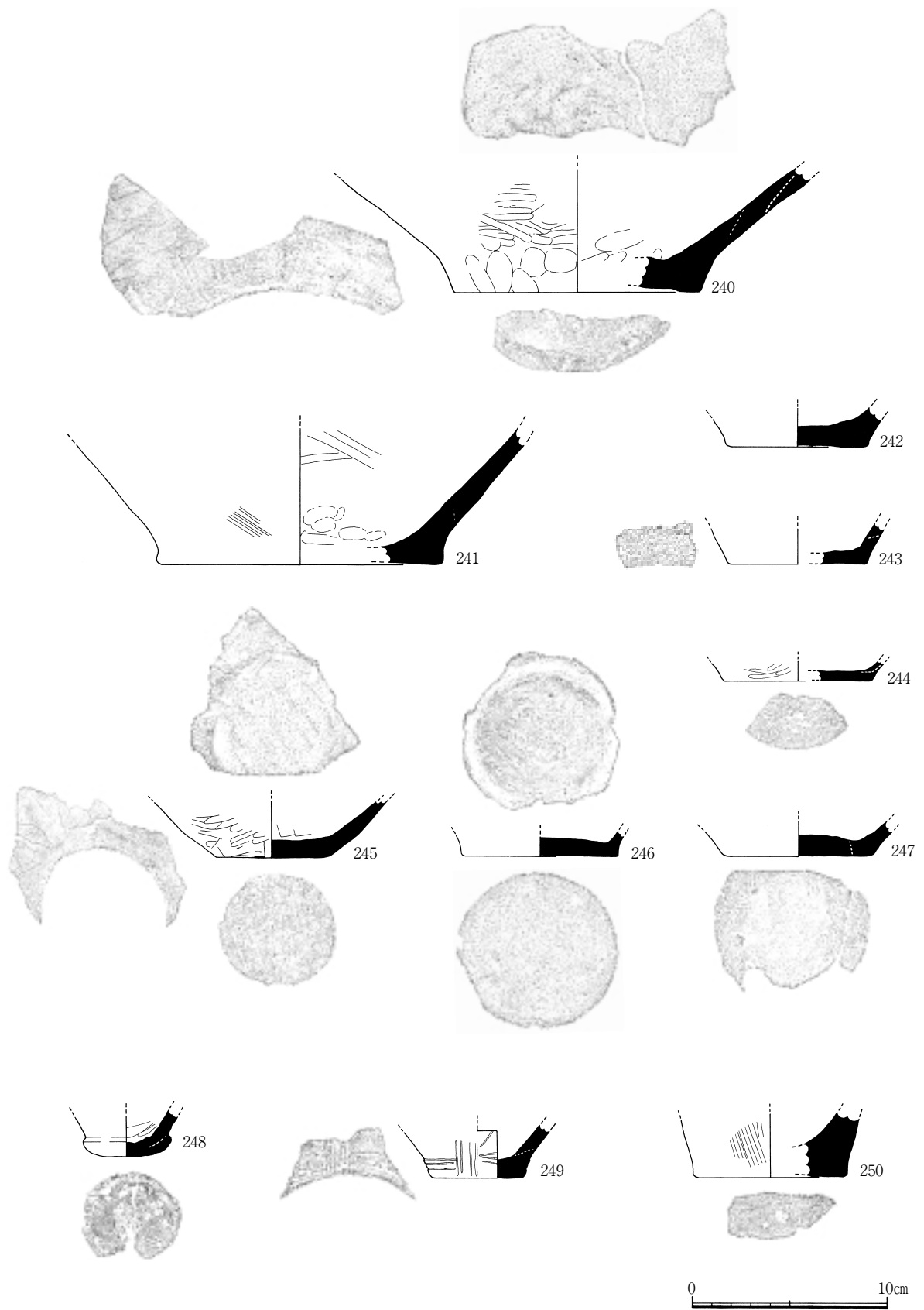


Fig.58 1A区出土遺物 22

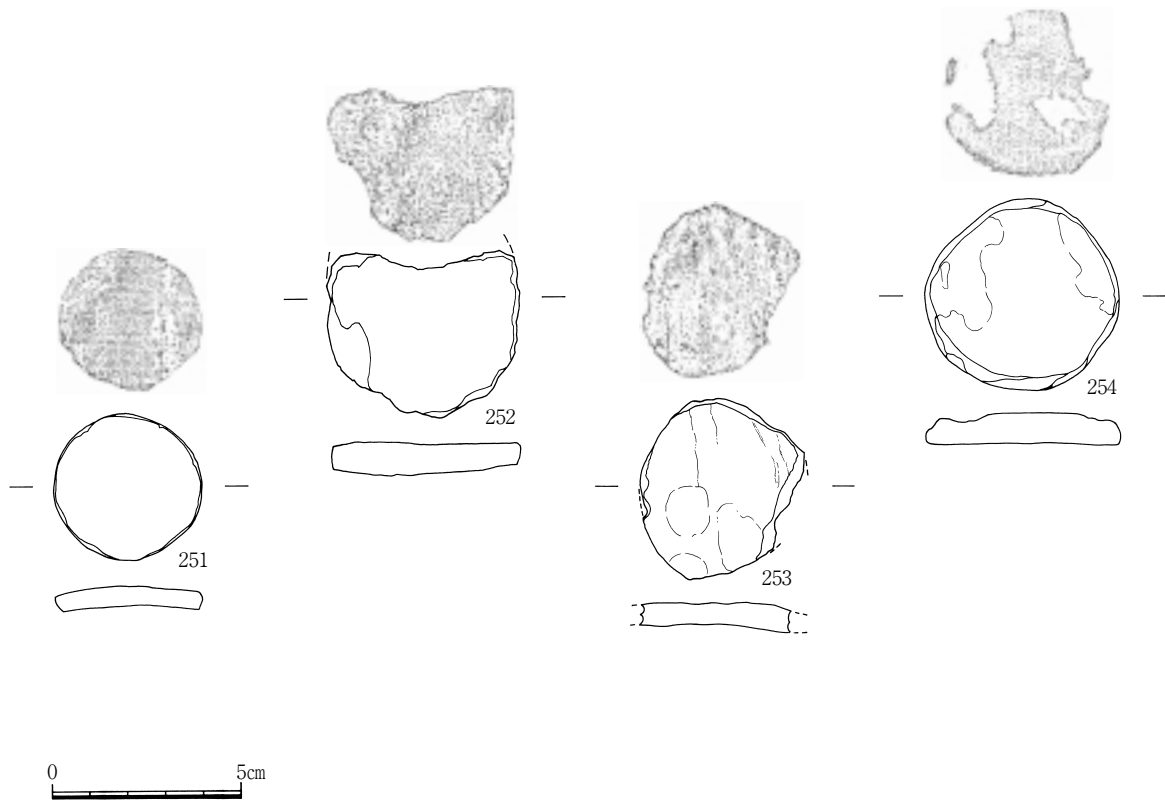


Fig.59 1A区出土遺物 23

刻み。198から217は突帯刻み。218は口縁外面に刺突列を持つ。219から239は口唇と突帯刻み。219は頸部に焼成後穿孔する。240から250は底部である。251から254は土製円盤である。石器・石製品は石鏃（377）、石斧（394・395）、石棒（403）、叩石（405・409）を図示した。木器・木製品は小型から中型の植物遺体と共に多く出土しており、網籠などの木製品も見られた。ここでは円環状木製品（414）、漆塗膜椀（415）、農工具の部材？（418・419）、端部を二股に加工した木製品（421）などを図示した。

s層（Fig.62～63, 67, 68, 71, 73, 75）

土器・土製品の出土点数は1,373点であり、縄文土器1,119点と弥生土器180点が見られる。壺、浅鉢、高杯、深鉢、甕、土製円盤が出土しており、この中で図示したものは36点（271～306）である。271から276は壺である。274は浅い段部に刺突列が施され、276は胴部外面に複線山形紋を描く。277から285は浅鉢である。280は波状口縁で口縁下に沈線が廻る。285の外面には沈線に因る区画か。286は高杯であり、外面に断面三角形突帯が廻る。287から296は深鉢である。293は篋状原体に因り突帯と頸部に縦位の刻みと施紋をする。297から303は底部である。304は壺又は注口土器の一部か。305・306は土製円盤である。

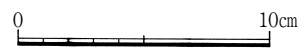
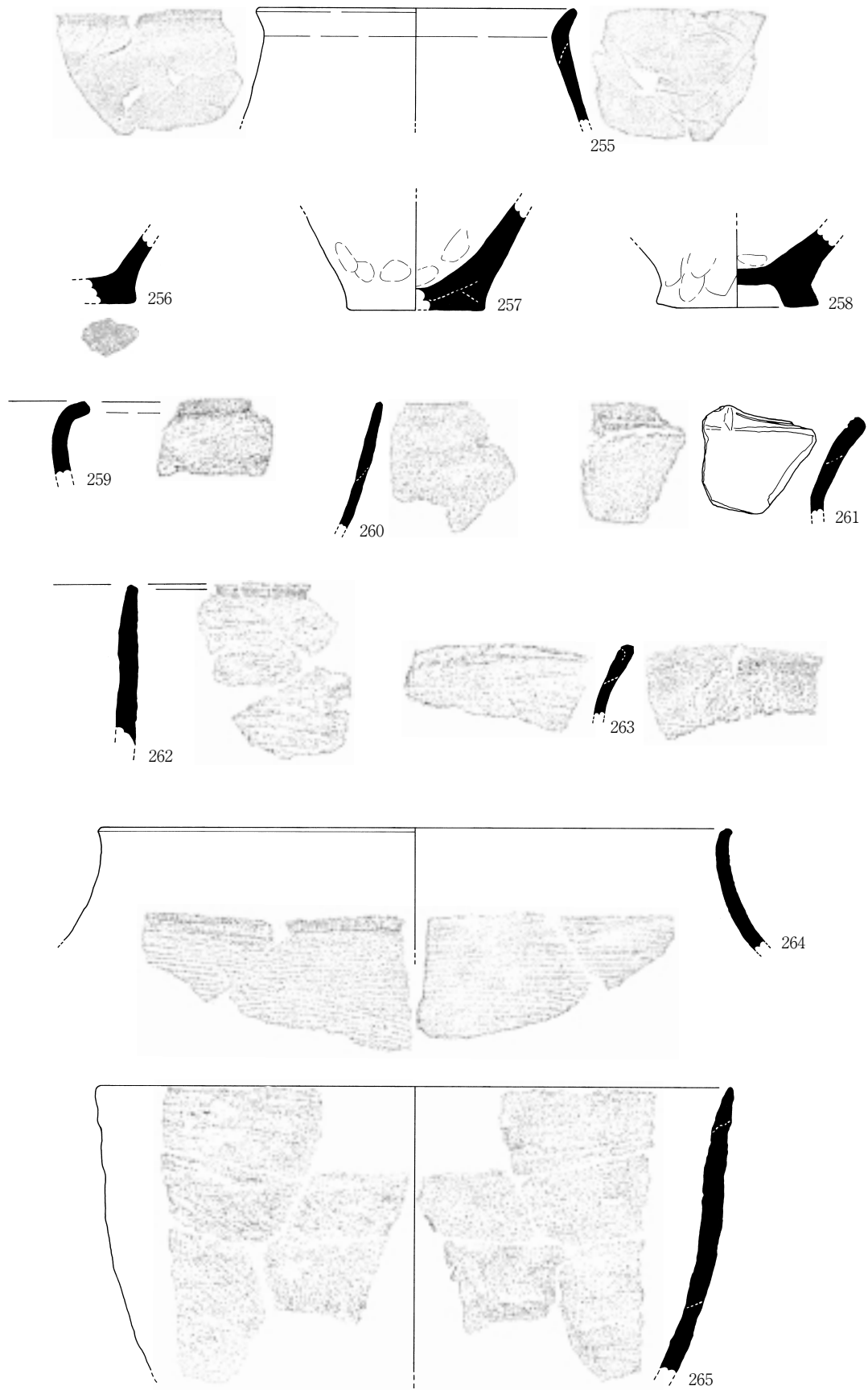


Fig.60 1A区出土遺物 24

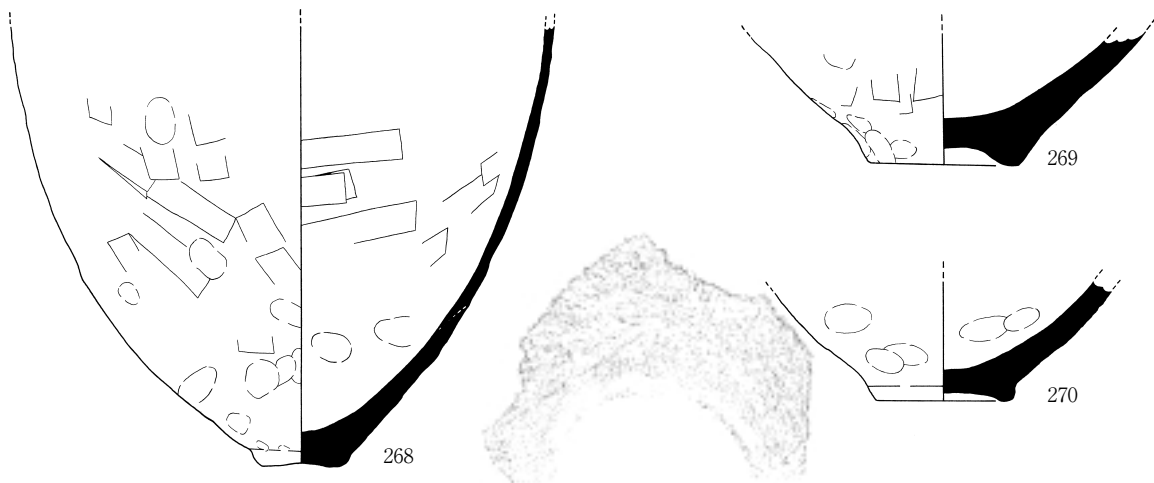
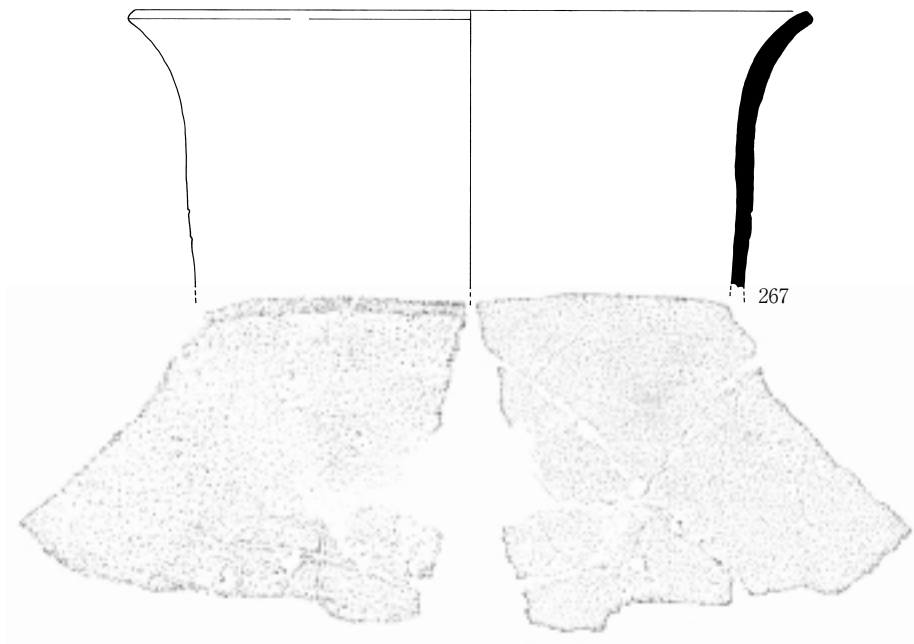
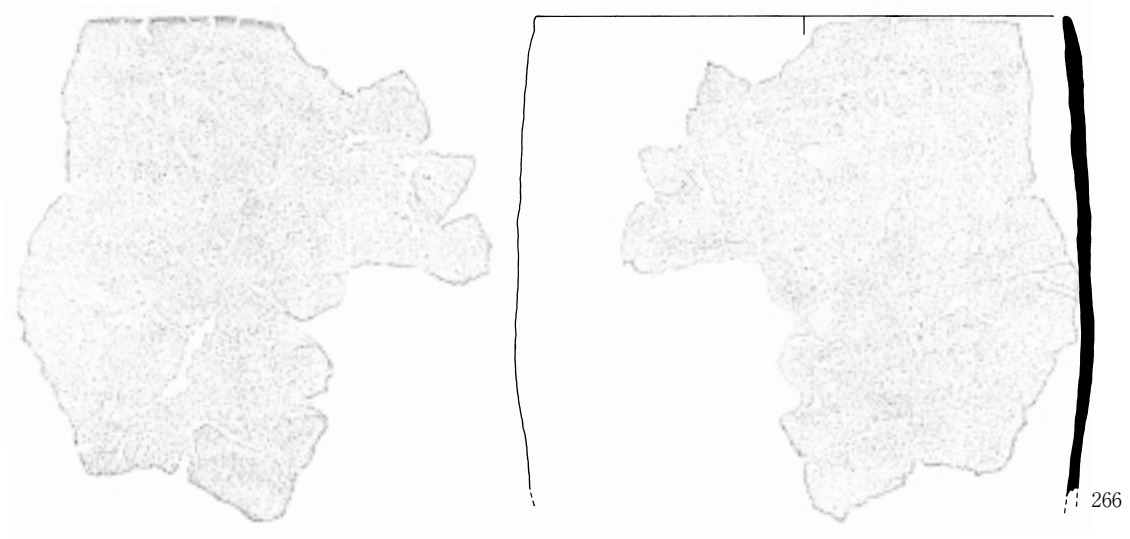


Fig.61 1A区出土遺物 25

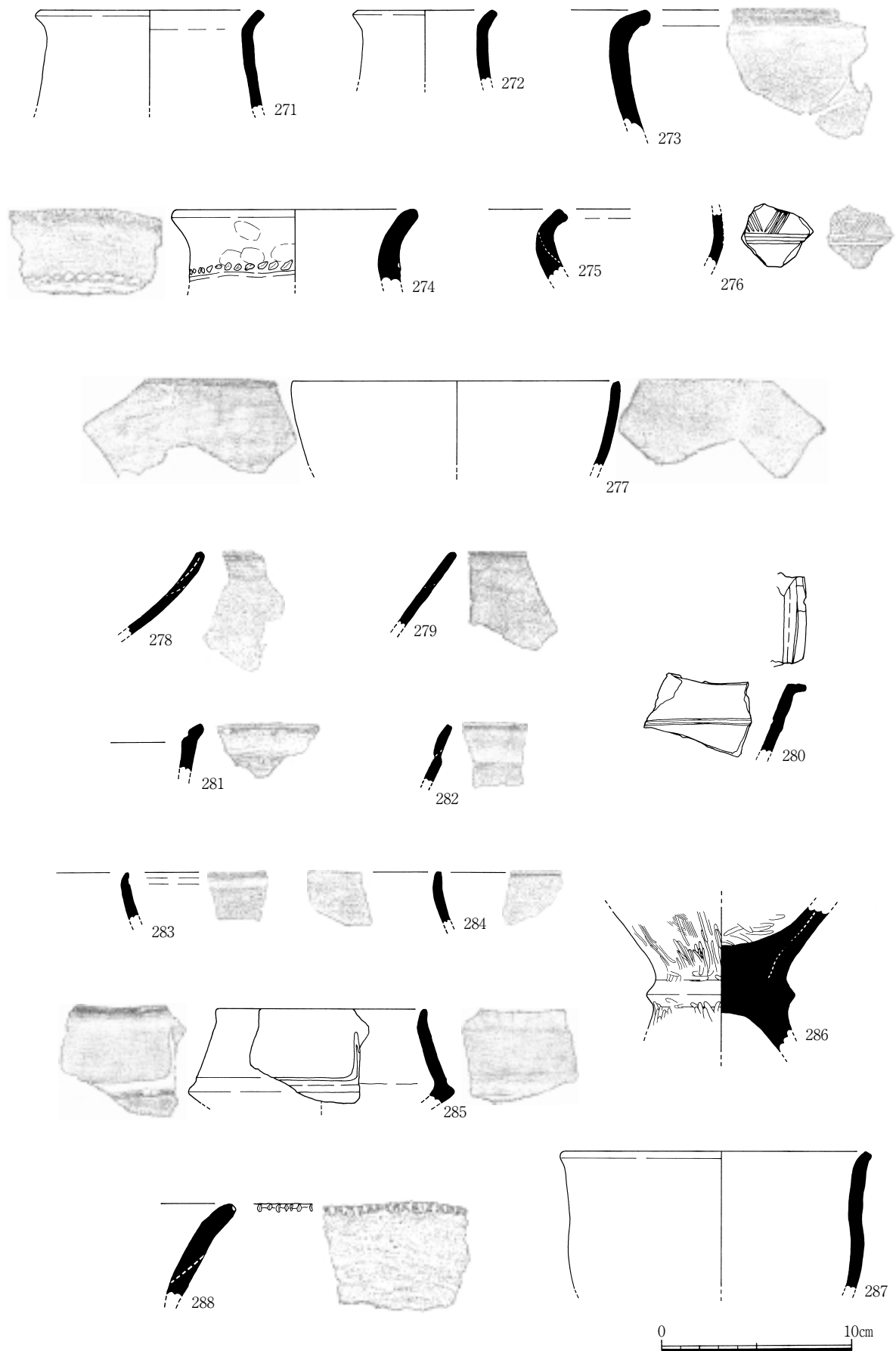
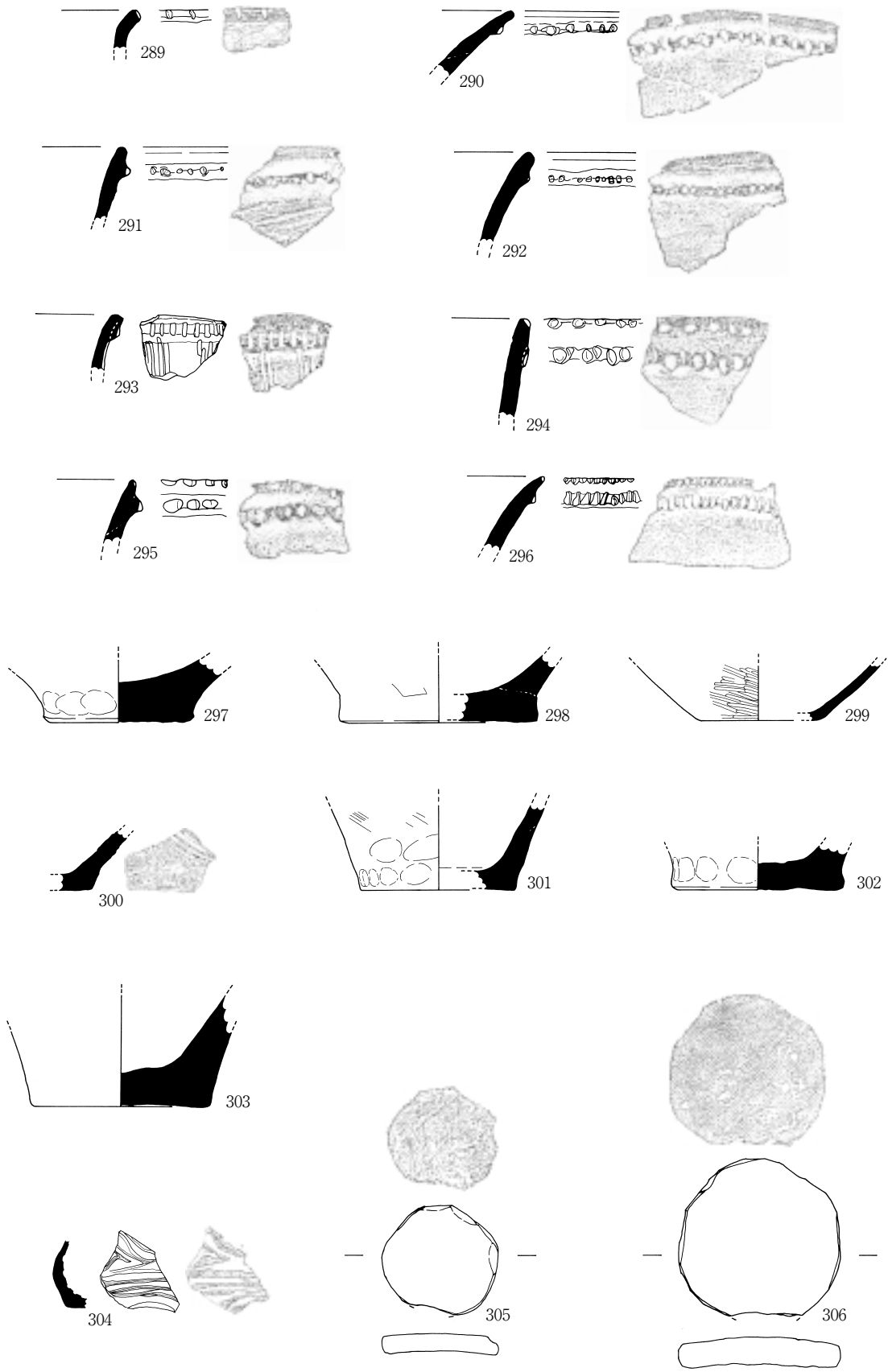


Fig.62 1A区出土遺物 26



0 10cm

0 5cm

Fig.63 1A区出土遺物 27

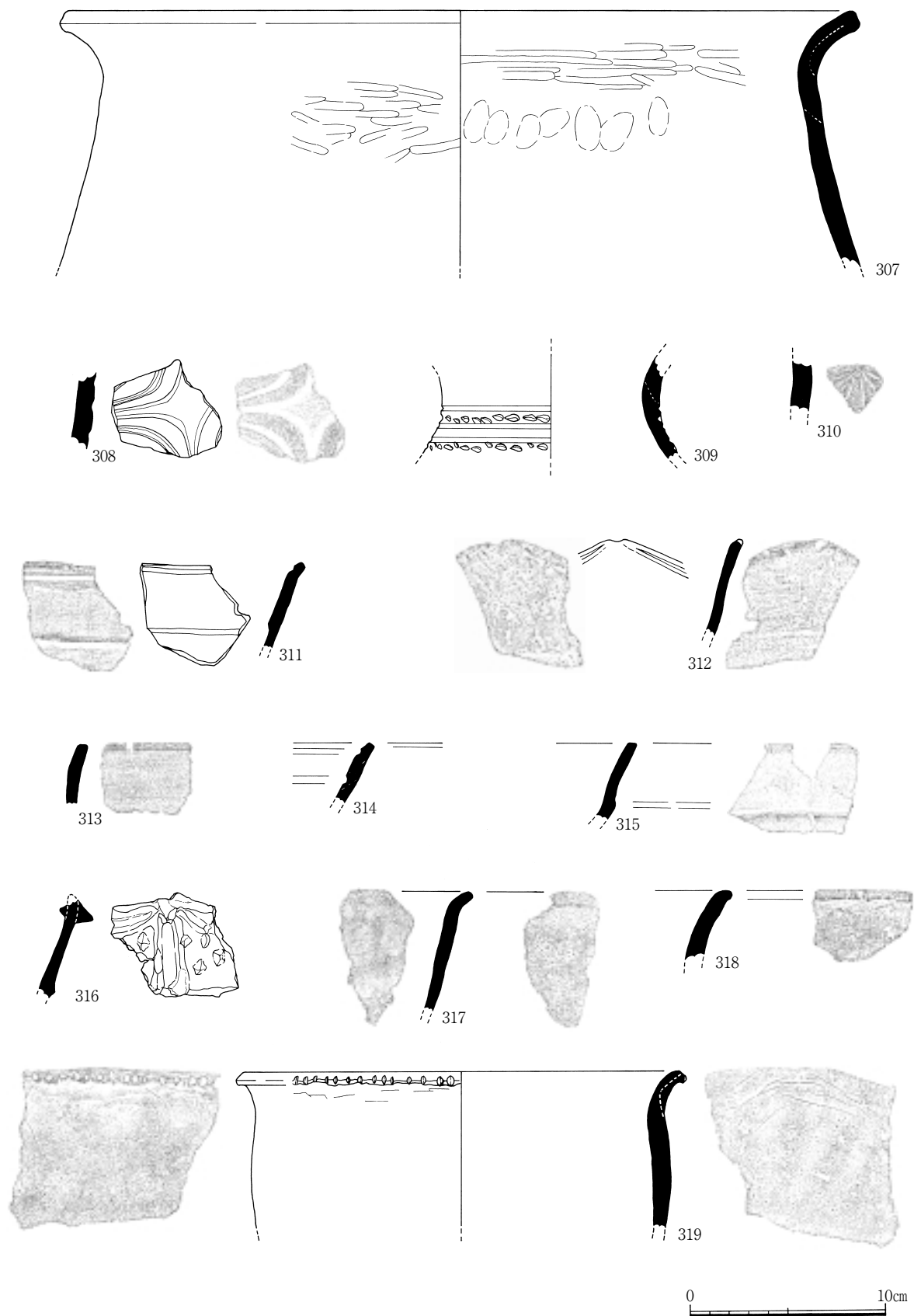


Fig.64 1A区出土遺物 28

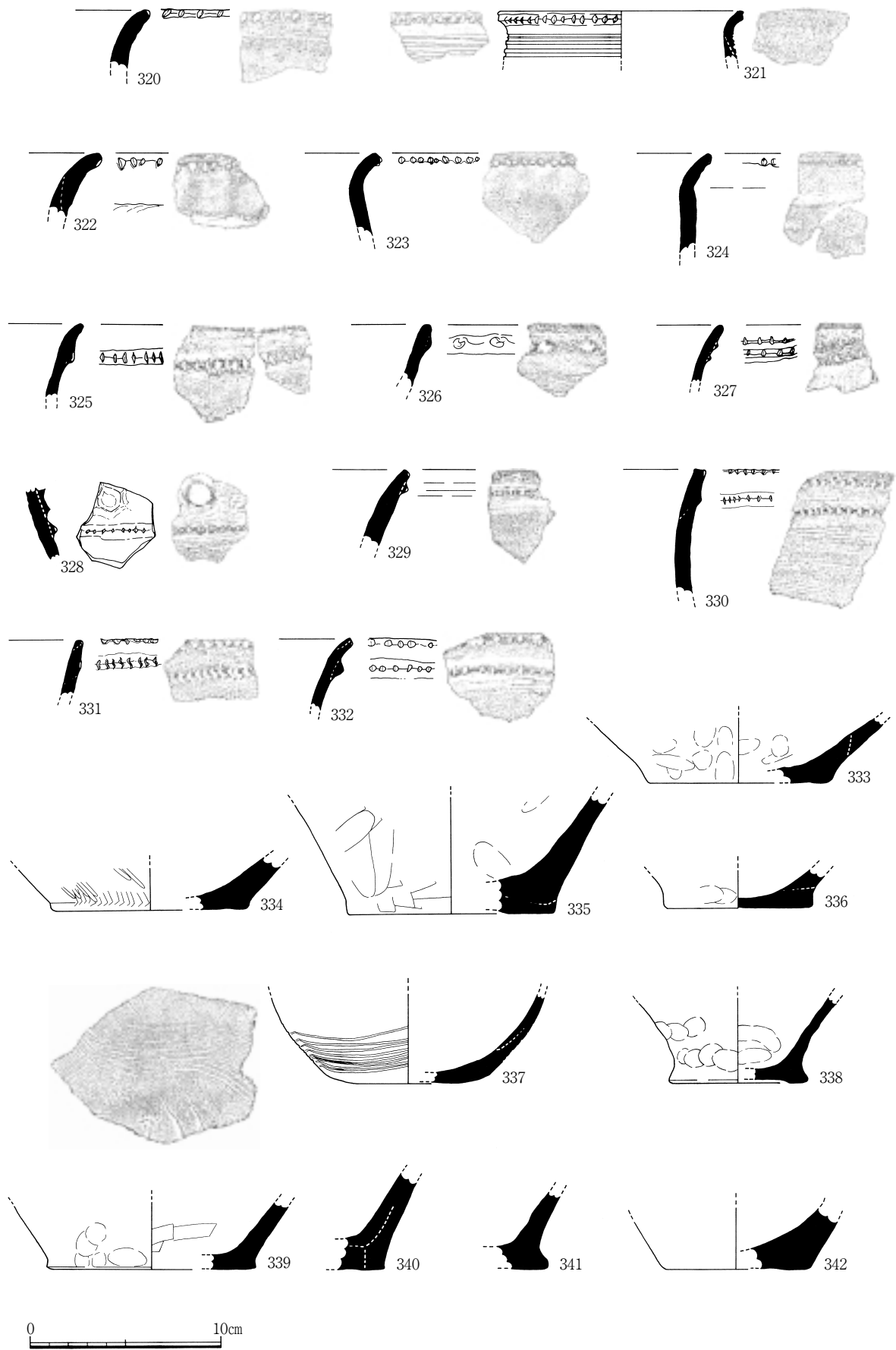


Fig.65 1A区出土遺物 29

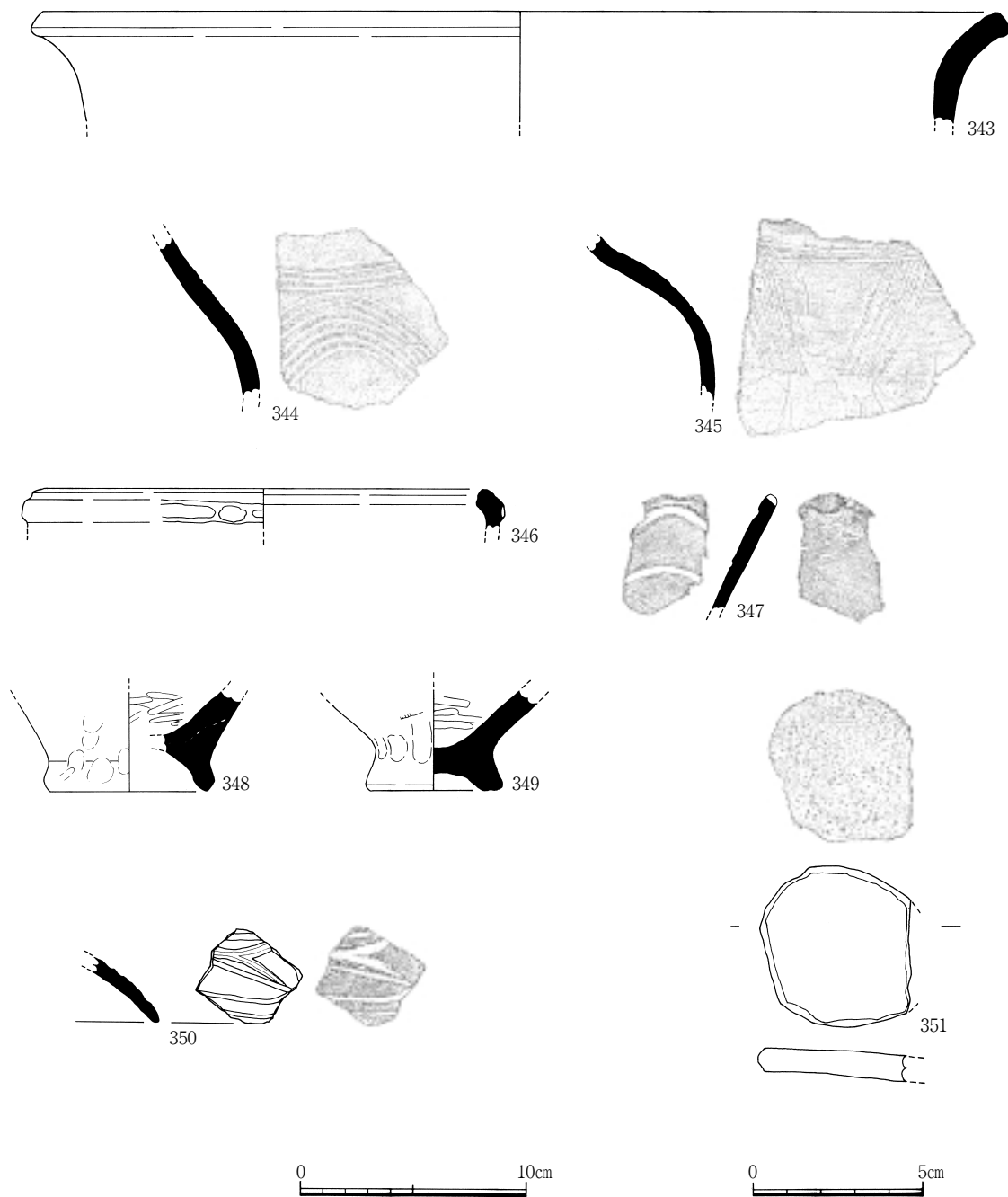


Fig.66 1A区出土遺物 30

石器・石製品は石鏃（378）、石斧（400）を図示した。木器・木製品は小・中型の植物遺体と共に長さ12cmから50cmの規模を持つ角材などが出土しているが図示できるものはない。

a層（Fig.64，65，68，73）

土器・土製品の出土点数は3,961点であり、縄文土器2,321点、弥生土器1,264点が見られる。壺、浅鉢、鉢、深鉢、甕、土製円盤が出土しており、この中で図示したものは45点（307～351）であ

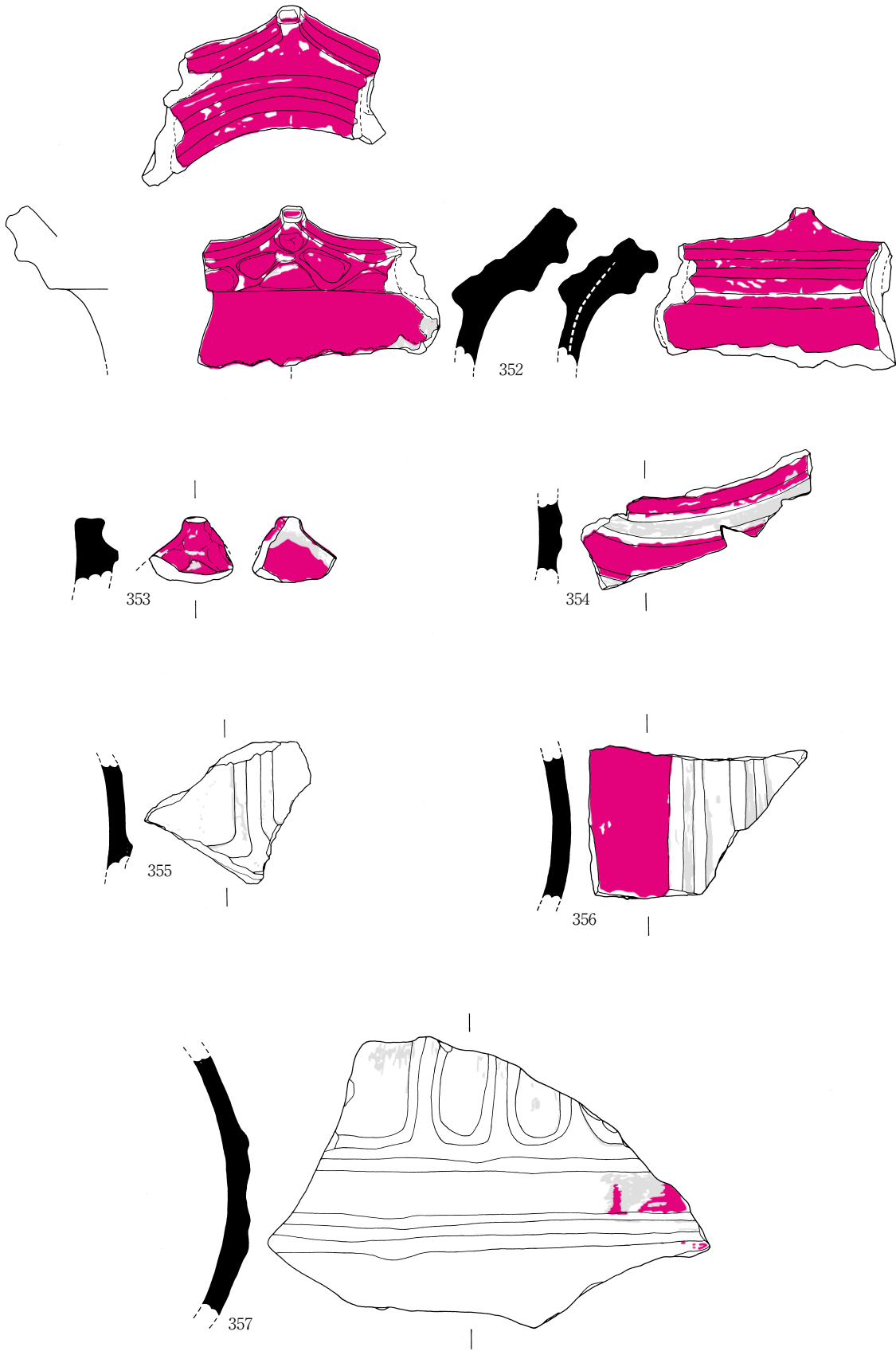


Fig.67 1A区出土遺物 31

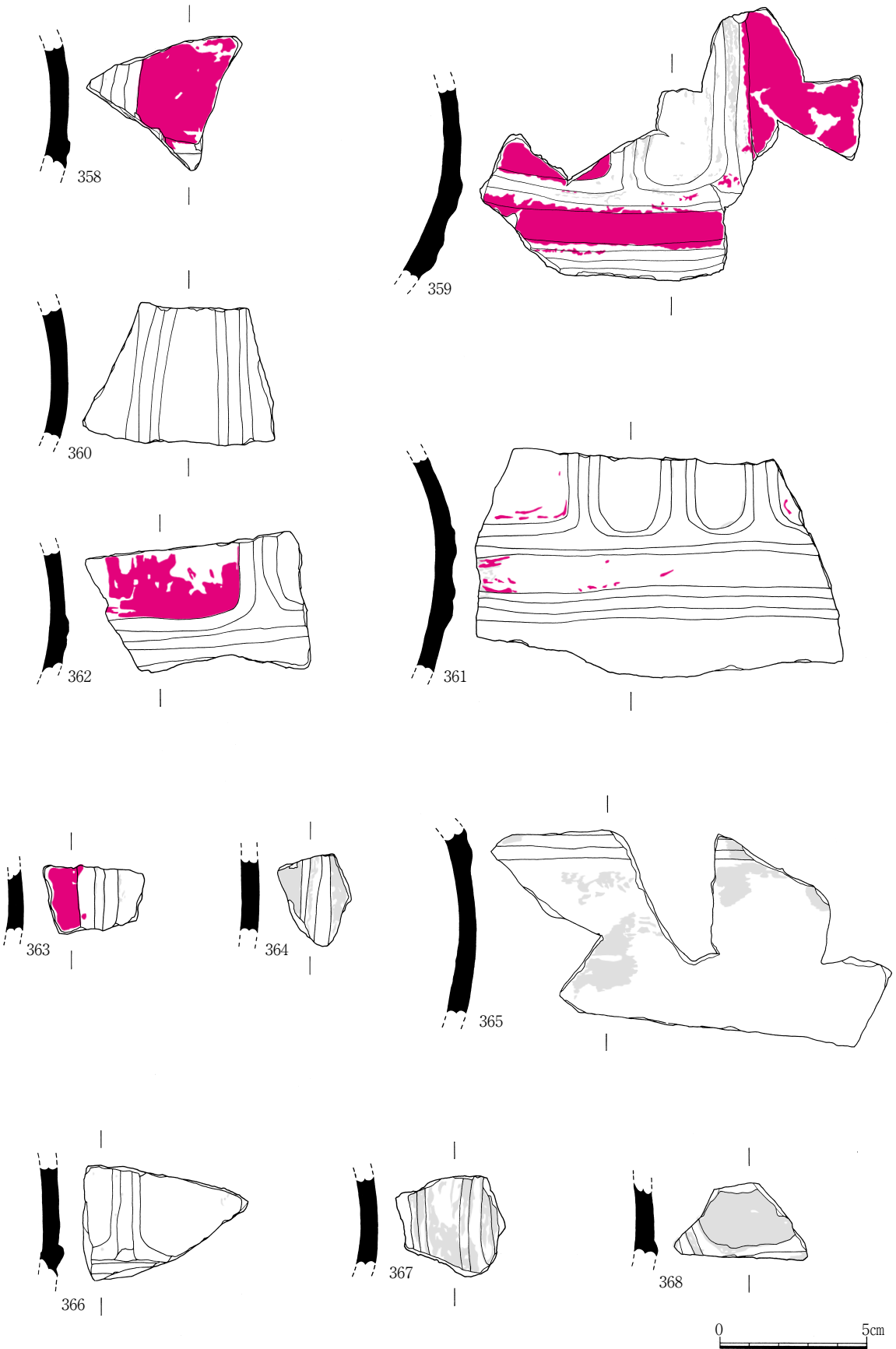


Fig.68 1A区出土遺物 32

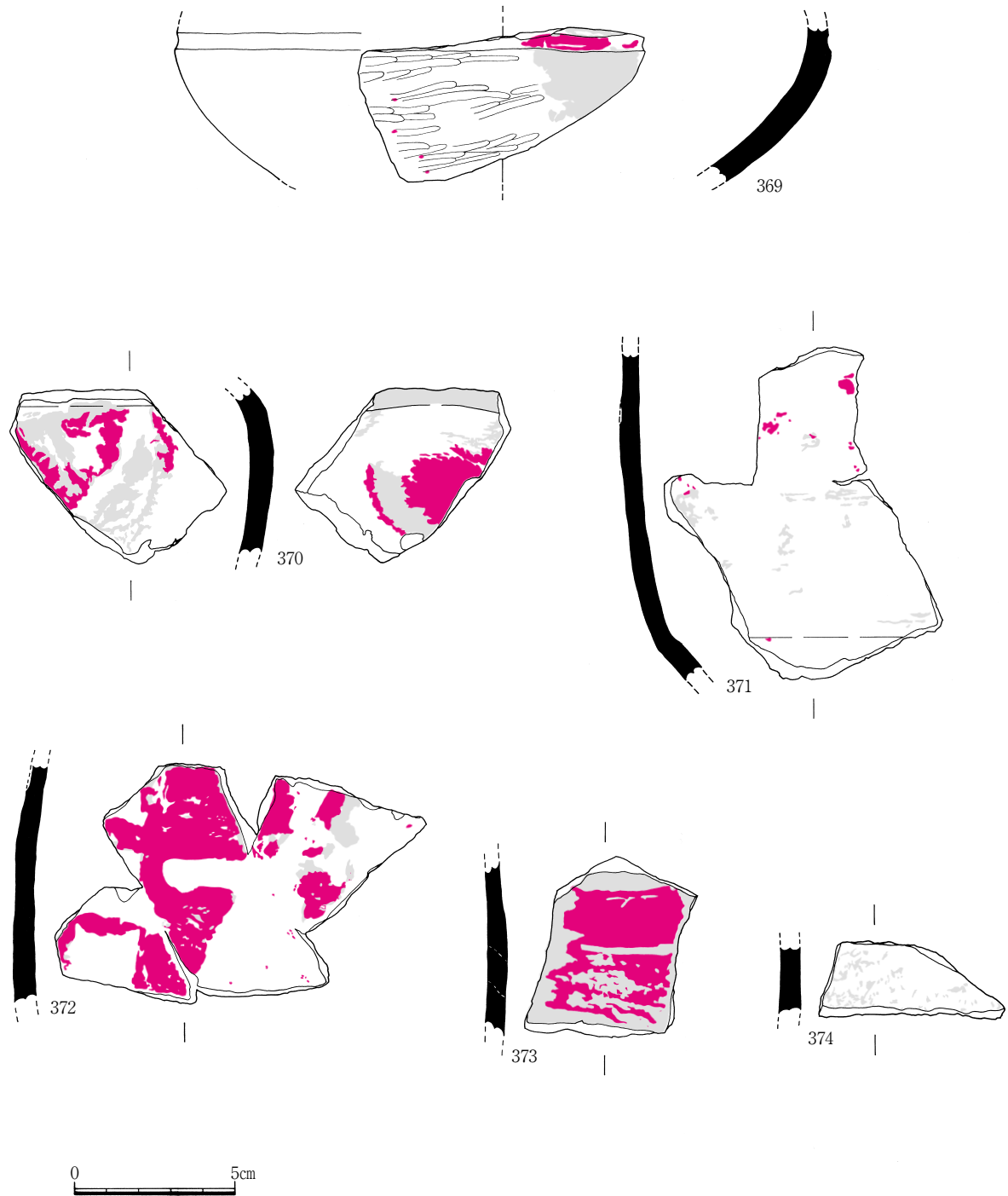


Fig.69 1A区出土遺物 33

る。307から311は壺である。308は壺の外面に沈線紋を施す。309は粗製の胎土であり、波状口縁の内外面に突帯と浮紋を貼付する。312から316は浅鉢である。312は波頂部に一ヶ所刻みを施す。317は鉢である。318から332は深鉢・甕であり、328は頸部に環状の浮紋を施す。333から342は底部である。337は不連続の多条沈線を胴体部低位に描く。壺か。石器・石製品は加工痕のある軽石(404)を図示した。中央を割り貫いて環状を呈していたものか。木器・木製品は数点の焦化材が出土しているが図示できるものはない。

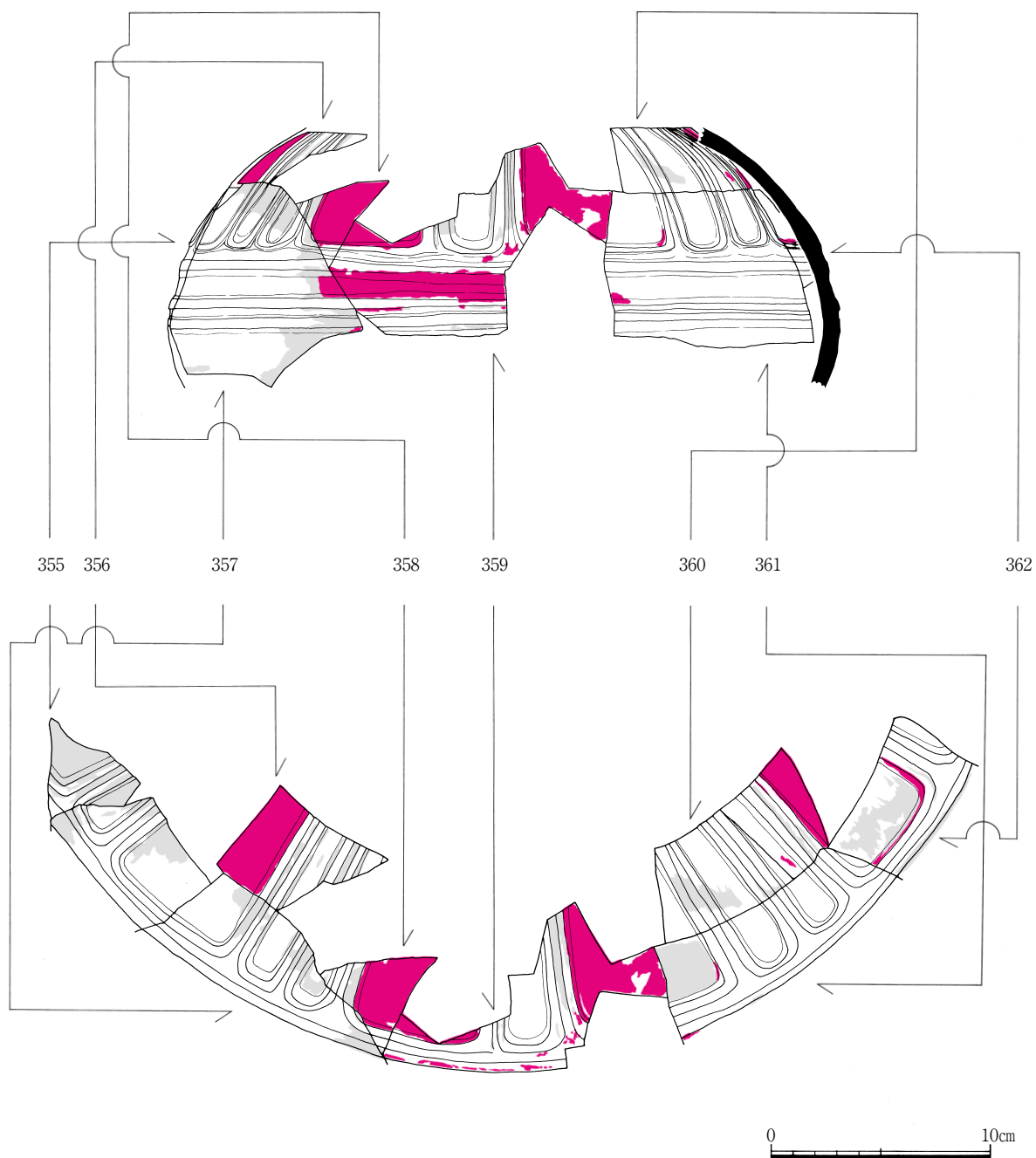


Fig.70 1A区出土遺物 34

大洞式土器 (Fig.67 ~ 70)

1 A区では同一個体の壺胴部破片が出土している。先に報告した1 B区出土の破片と接合するものは355から362であり、この他に363から368はこれと同一個体で隆帯に因る大小の方形区画を形成するものであろう。352と353は口縁であり、平坦な波頂部は山王冨遺跡出土の大洞式土器の形態と酷似する。354は上胴部破片と考えられ、別に隆帯に因る工字紋を成す可能性がある。369は大洞式土器の浅鉢か。

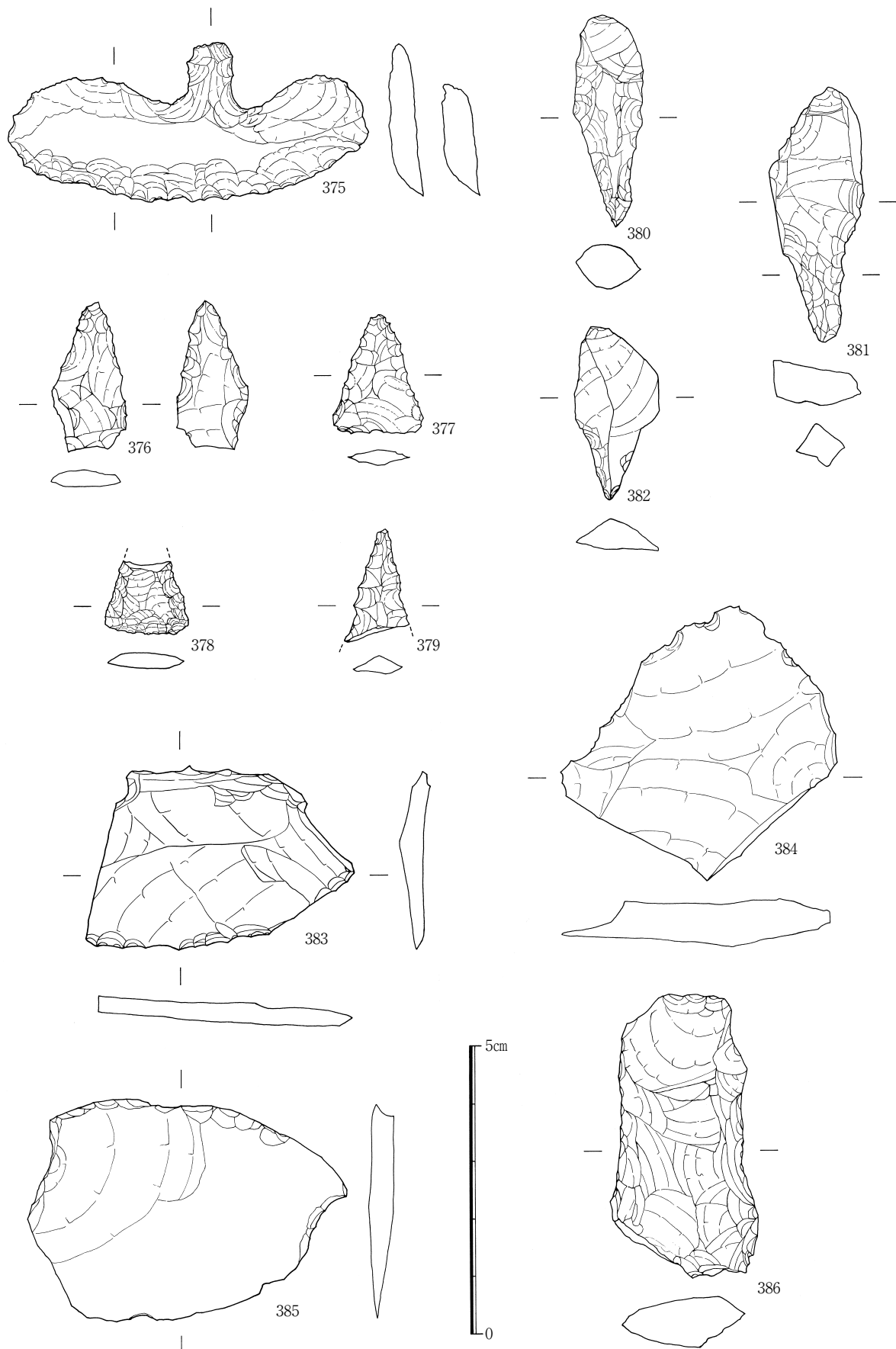


Fig.71 1A区出土遺物 35

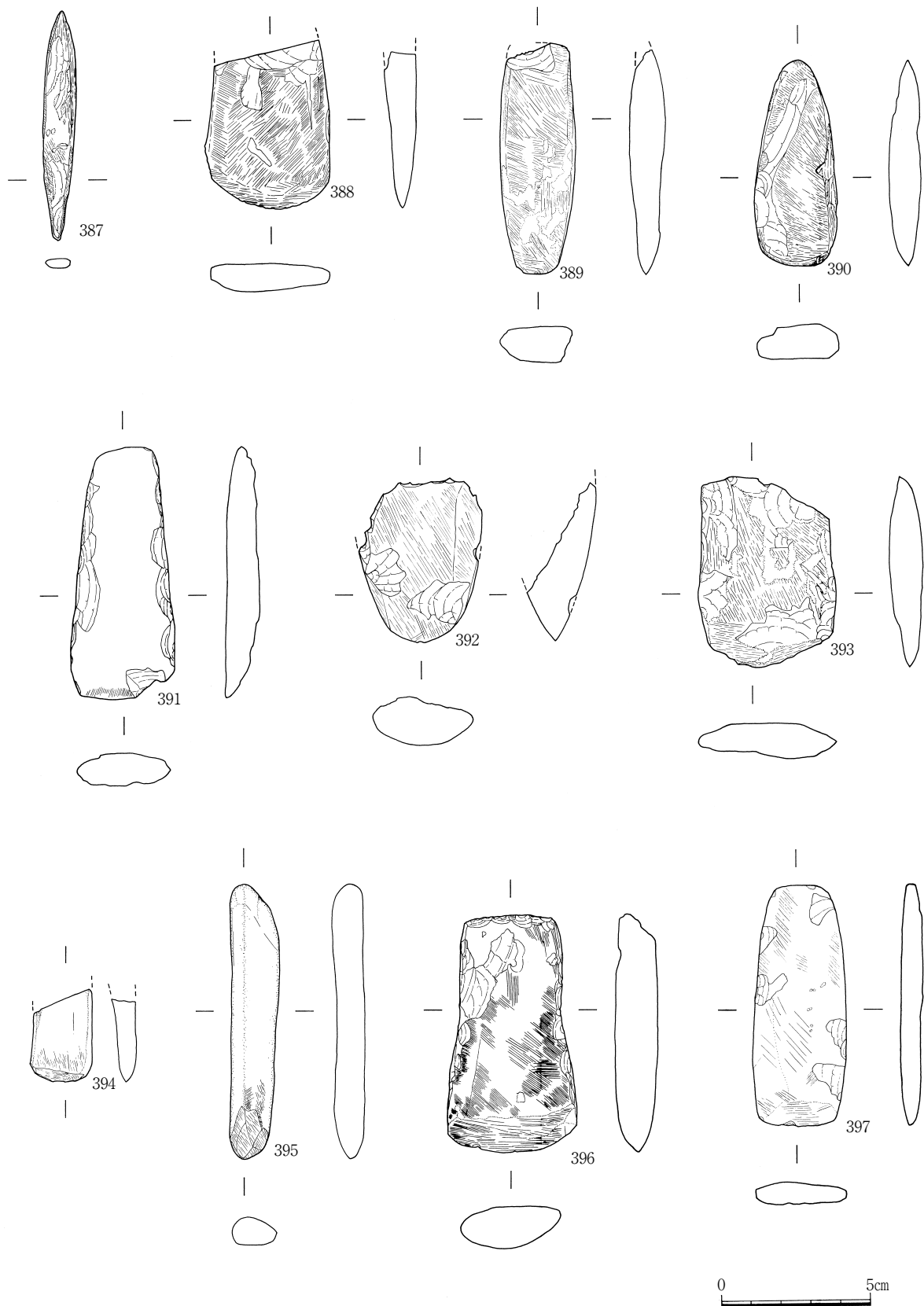


Fig.72 1A区出土遺物 36

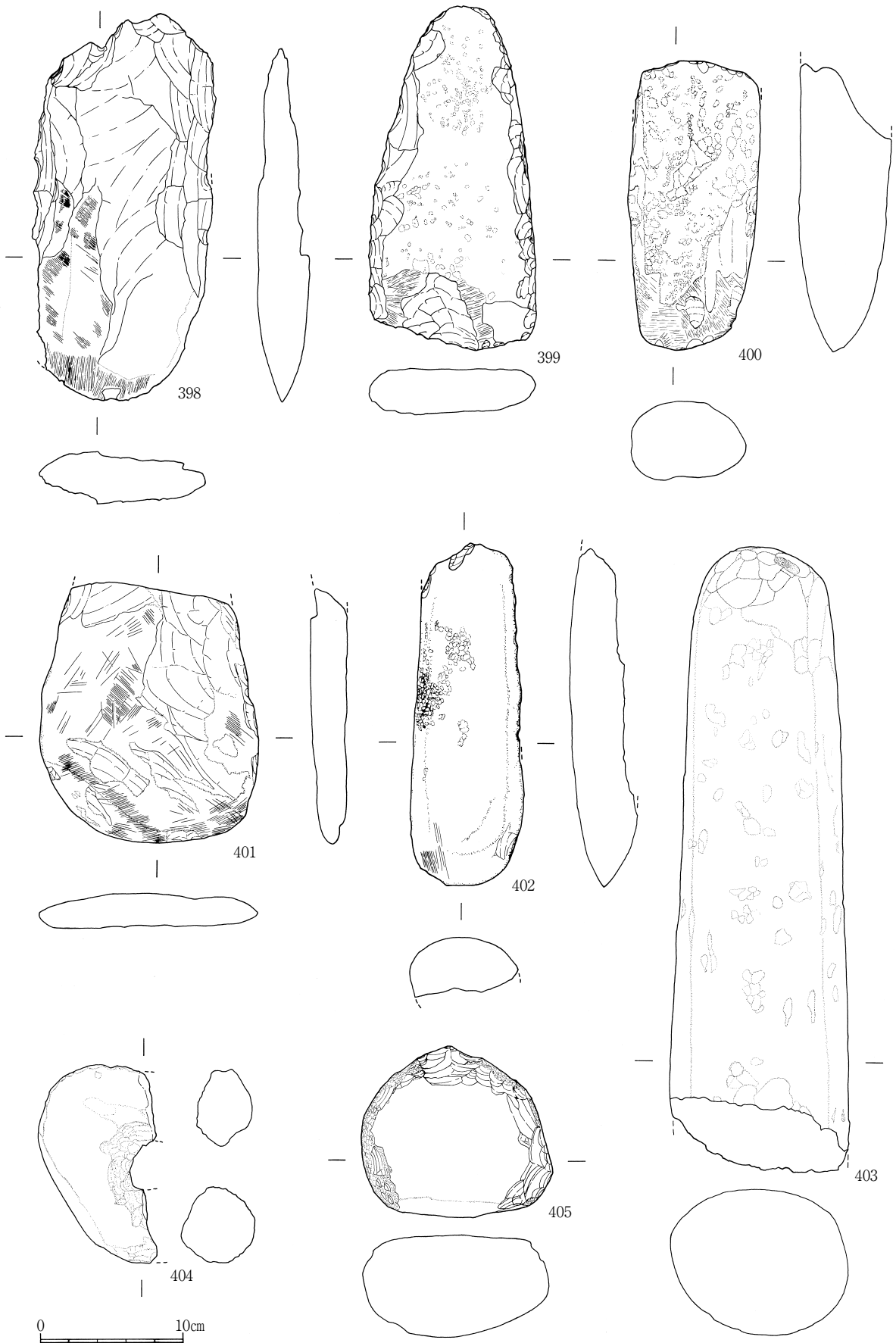


Fig.73 1A区出土遺物 37



Fig.74 1A区出土遺物 38

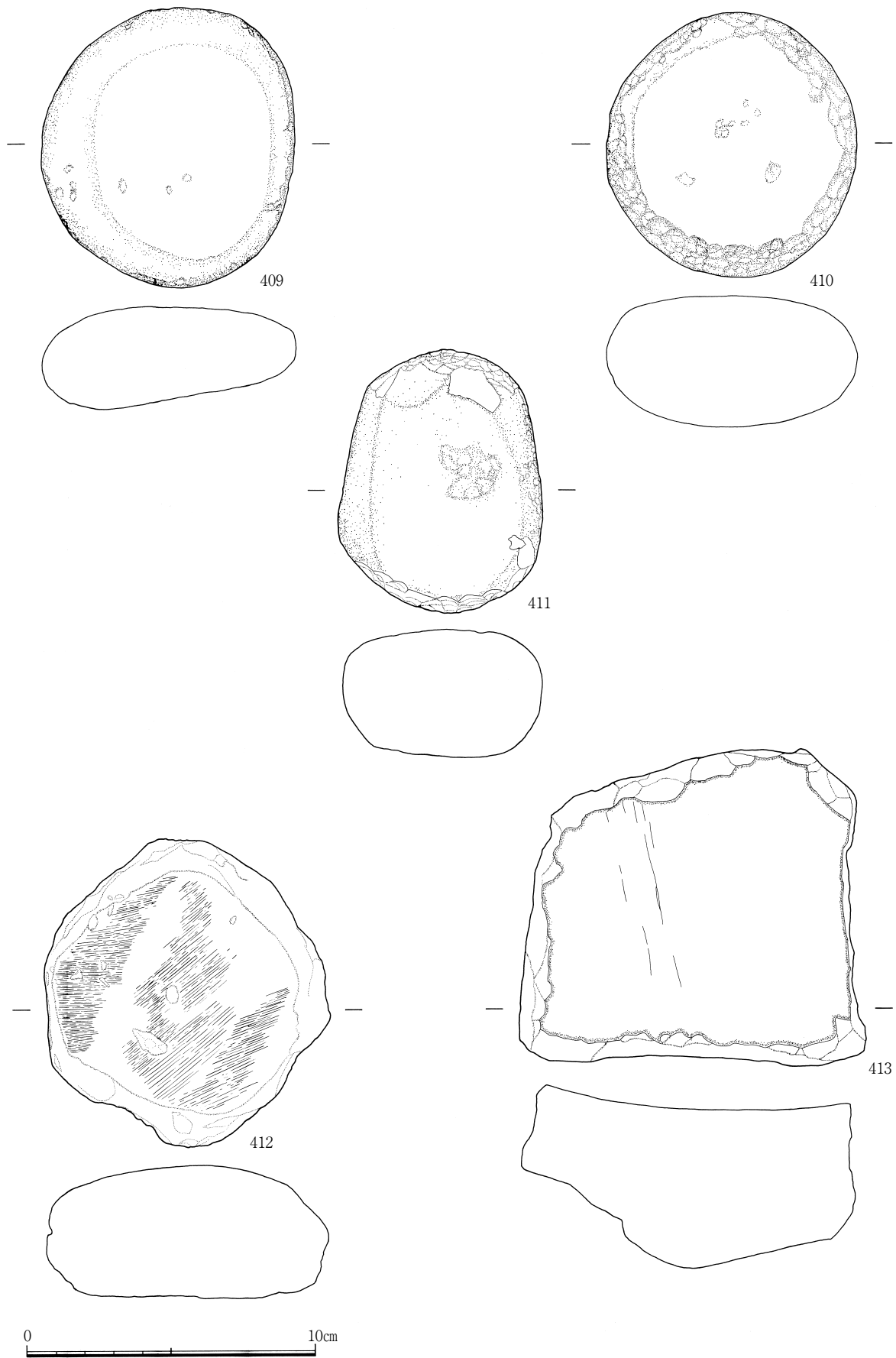


Fig.75 1A区出土遺物 39

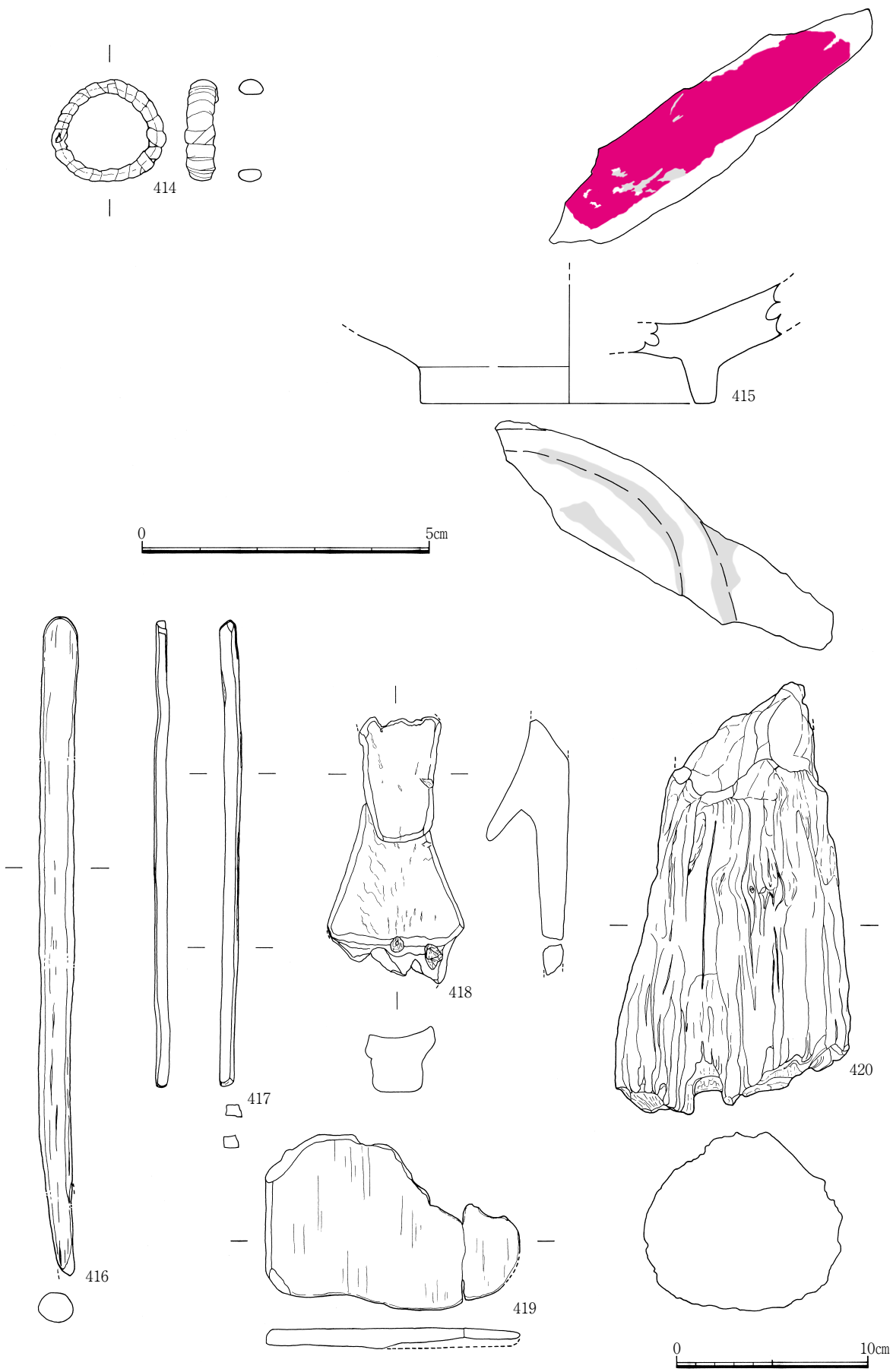


Fig.76 1A区出土遺物 40

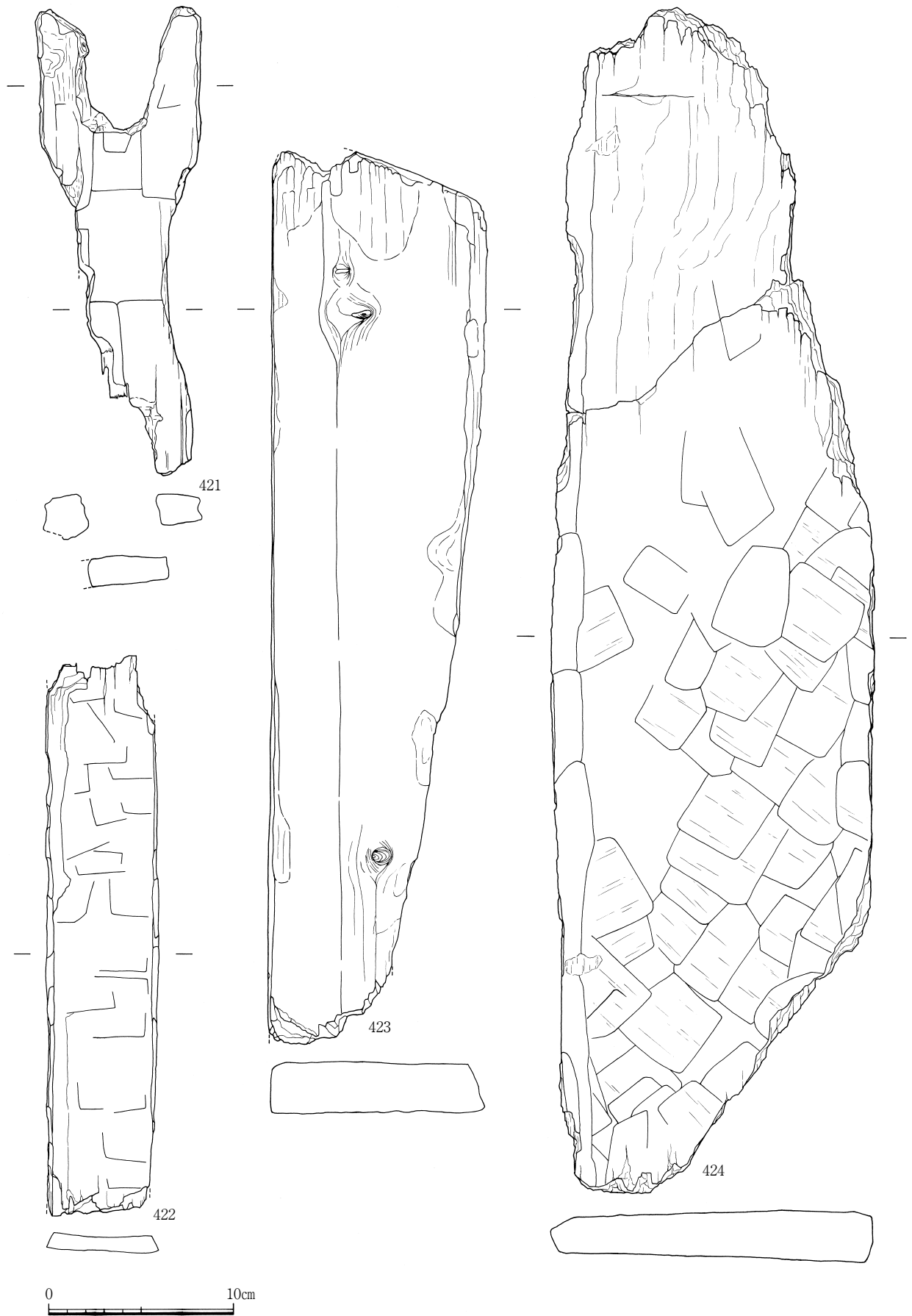


Fig.77 1A区出土遺物 41

表6 1A区遺構計測表

遺構	グリッド	検出標高 (m)	規模 (cm)	深さ (cm)	平面形	出土土器点数	その他	Fig.	出土遺物 Fig. -
SK 1	C26-15	6.40	180×155	48	楕円形	口縁4、胴部23、細片9		32	
SK 2	C26-15	6.20	165×58	8	不整長方形	口縁7 (壺2)、胴部78、細片152	炭化物	32 / 37 /	1
SK 3	C26-9	6.27	(69)×48	12	長方形	胴部1	SX 1に先んずる。	32	
SK 4	C26-9	6.29	110×78	22	不整長方形	口縁1 (深鉢)、胴部7	炭化物層	32	
SK 5	C26-2	6.08	直径60	3	円形	胴部1		32	
SK 6	C26-2	6.16	236×192	14	長方形	口縁5 (深鉢3)、胴部10	炭化物層	33 / 37 /	2・3・4
P 1	C26-20	6.37	33×32	6	不整楕円形	胴部2			
P 2	C26-15	6.28	直径24	6	円形	胴部1			
P 3	D26-16	6.37	85×69	20	楕円形	細片1		35	
P 4	D26-11	5.96	36×25	11	楕円形	胴部1			
P 5	D26-11	6.11	直径30	6	円形	口縁2 (深鉢1、浅鉢1)		35 / 37 /	5
P 6	C26-8	6.28	28	9	円形				
P 7	C26-8	6.25	102×80	10	不整楕円形			35	
P 8	C26-8	6.31	96×82	16	不整円形	胴部3		35	
P 9	C26-8	6.37	142×72	26	不整楕円形	口縁1 (深鉢)	P8に先んずる。	35	
P 10	C26-7	6.35	76×59	14	楕円形	胴部2		35	
P 11	C26-7	6.18	47×32	28	不整形				
P 12	C26-7	6.21	33×27	9	楕円形	胴部1			
P 13	C26-2	5.86	32×26	8	不整楕円形				
P 14	C26-2	6.13	44×41	4	楕円形	底部1、細片1		35 / 37 /	8
P 21	C25-21	6.07	120×82	21	不整楕円形	胴部3		33	
P 22	C26-1	6.21	77×67	20	楕円形	胴部3		35	
P 23	B26-5	6.17	22×20	6	楕円形				
P 24	B26-5	6.15	直径72	19	円形	口縁1 (深鉢)、胴部3	炭化物を多く含む。	33 / 37 /	6
P 25	B25-23	6.07	85×78	28	楕円形	口縁1、細片4		33	
P 26	B25-19	5.94	92×80	16	楕円形	胴部2	炭化物層	34	
P 27	B25-23	6.07	166×88	23	不整形	胴部17	一部炭化物層	34	
P 28	B25-23	6.23	193×80	12	不整形			34	
P 29	B25-22	6.10	113×109	20	不整形	胴部7		34	
P 30	B25-21	6.13	83×74	7	楕円形			35	
P 31	B25-21	6.09	105×65	6	不整楕円形	口縁1、胴部3		35	
P 32	C25-21	5.72	52×40	15	楕円形		柱根	34	
P 33	B25-23	6.15	直径71	8	円形	口縁2、胴部5	底部に炭化物層あり。	35 / 37 /	7
P 34	B25-23	6.16	105×66	24	不整円形	底部1		35	
P 35	B25-16	5.95	59×51	14	楕円形	口縁1、胴部2、底部1、細片9		35 / 37 /	9
P 36	B25-18	5.91	48×33	8	不整楕円形			35	
P 37	B25-18	5.97	86×48	16	不整楕円形			35	
P 38	B25-19	5.77	33×28	22	楕円形		炭化物を多く含む。		
P 101	C26-7	5.15	直径30	35	不整円形		石匙		
SX 1	C26-14	6.16	236×192	14	長方形	口縁1 (磁器)、胴部13、底部1、瓦1		36	

内数値は残存値。

表7 1A区遺物観察表1

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径		底径	内面	外面	
37	1	SK 2 C26-15	弥生土器	壺	口縁	[3.0]			口縁は外側にやや肥厚する。内外面ヘラミガキ。外面一部に煤付着。	浅黄褐色 2.5Y7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	
37	2	SK 6 C26-2	縄文土器	深鉢	口縁	[5.9]			口縁外押圧風刻み。やや疎。口縁外面断面台形刻目突帯。上位接合痕。原体(半截竹管?)に因る刺突刻み。やや密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	褐灰色 10YR6/1	
37	3	SK 6 C26-2	縄文土器	深鉢	口縁	[2.8]			口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。円-楕円形押圧刻み。密。内面ナデ。外面条痕のちナデ。内面煤付着。	黄褐色 2.5Y5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	
37	4	SK 6 C26-2	縄文土器	深鉢	口縁	32.5	[25.0]	26.8	口縁外不規則で不明瞭な押圧刻み。やや疎。口縁外面断面台形刻目突帯。下位は一部に接合痕。米粒状、円形刺突風刻み。密。内面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	オリーブ黒色 5Y3/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰色 5Y4/1	
37	5	P 5 D26-11	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.4]			波状口縁。口縁は内湾する鐮状。器壁薄。内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 10YR3/2	
37	6	P 2 4 B26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[3.1]			口縁外円-楕円形刺突刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	褐灰色 10YR6/1	
37	7	P 3 3 B25-23	縄文土器	深鉢	口縁	[2.7]			口縁外面断面薄鐮形刻目突帯。上位接合痕。筋状刻み。密。内外面ナデ。	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	
37	8	P 1 4 C26-2	弥生土器	壺	底部	[2.2]		9.6	平底。器壁薄。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい褐色 5YR6/4	黄灰色 2.5YR4/1	
37	9	P 3 5	縄文土器	深鉢	底部	[5.3]		6.4	高台状底部(浅い凹面)。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	
38	10	e C25-17	縄文土器	浅鉢	口縁	18.9	[6.7]		ボウル形。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	にぶい褐色 7.5YR3/3	
38	11	c C26-4-5 D26-6	縄文土器	壺	口縁	26.4	[20.9]	32.5	口縁は急な屈曲のち短く開く。頸部下に沈線状の段部。内面口縁ヘラミガキ。頸部以下ナデ。外面頸部縦位ヘラミガキ。胴部横位ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	暗灰黄色 2.5Y4/2	暗灰色 N3/	a層・d層出土遺物と接合
38	12	c C25-16 C26-5	縄文土器	壺	口縁	26.4	[16.4]		口縁は急な屈曲のち短く開く。内面口縁ヘラミガキ。頸部ナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	褐灰色 10Y5/1	
38	13	c D26-6	縄文土器	壺	口縁	8.8	[7.1]		口縁は緩く外反し、極く短く立ち上がる。頸部下沈線状段部。内面上位ヘラミガキ。下位ナデ。外面ヘラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	
39	14	c C26-1	縄文土器	壺	口縁	10.4	[7.0]		口縁は緩く外反し、立ち上がる。内外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	
39	15	c C25-19	弥生土器	壺	口縁	[6.8]			口縁は屈曲のち短く開く。内外面ナデ?外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 5YR6/4	
39	16	c D26-1	弥生土器	壺	口縁	[4.7]			口縁は緩く屈曲のち短く開く。内外面ナデ?鉢?	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰白色 10YR7/1	
39	17	c C26-5	弥生土器	壺	口縁	10.2	[3.1]		口縁は急な屈曲のち短く外側に開く。内面上位ヘラミガキ。下位ナデ。外面ヘラミガキ。小型壺。	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい褐色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	
39	18	c C26-5	縄文土器	壺	胴部	[2.7]			胴部上位沈線状。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	褐灰色 5YR4/1	
39	19	c D26-7	縄文土器	壺	胴部	[5.3]			胴部外面縦断面三角形の隆帯。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒色 2.5Y2/1	灰褐色 7.5YR5/2	
39	20	c C25-5-17 C26-5	縄文土器	浅鉢	口縁	20.4	[4.6]		皿形。内外面ヘラミガキ。	黒色 N1.5/	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR5/2	
39	21	c C25-11	縄文土器	浅鉢	口縁	25.4	[6.3]		鉢形。内面ミガキ。外面ナデ。擦過。外面煤付着。	オリーブ黒色 5Y2/2	黒色 5Y2/1	にぶい褐色 7.5Y5/3	
39	22	c C25-20	縄文土器	浅鉢	口縁	25.4	[3.3]		内面ヘラミガキ。外面上位ナデ。下位ヘラミガキ。ケスリ痕。内外面煤付着。内面赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 2.5Y2/1	灰褐色 7.5YR4/2	
40	23	c C25-24	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.7]			口縁は緩く内湾。内外面ヘラミガキ。外面煤付着。外面赤色顔料付着。	灰黄褐色 10YR5/2	黒色 2.5Y2/1	褐灰色 10YR4/1	
40	24	c B25-8	縄文土器	浅鉢	口縁	[5.0]			口縁は外反する。内外面ヘラミガキ。外面煤付着。外面赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	灰黄色 2.5Y7/2	
40	25	c C26-5	縄文土器	浅鉢	口縁	16.8	[3.5]		口縁は屈曲のち短く開く。内面ヘラミガキ。外面上位ナデ?ヘラミガキ。外面一部煤付着。口縁赤色顔料付着。	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	褐灰色 10YR5/1	
40	26	c C26-6	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.2]			口縁は屈曲のち短く立ち上がる。内外面ヘラミガキ。	オリーブ黒色 5Y3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	
40	27	c C25-23	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.4]			波状口縁?内外面ヘラミガキ。内外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	
40	28	c C25-23	縄文土器	浅鉢	口縁	[6.0]			波状口縁。ボウル形?口縁内面2条沈線(深く、断面V字)。内外面ミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒色 2.5Y2/1	灰褐色 5YR4/2	
40	29	c B25-13	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.1]			波状口縁。口縁端部は波頂部を除いて短く張出す。口縁内面上位波頂部に線を持つ沈線1条。下位1条沈線。内面ミガキ。外面ナデ?外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	灰黄褐色 10YR4/2	
40	30	c D26-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]			内面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 5Y5/1	
40	31	c D26-7	縄文土器	深鉢	口縁	[4.7]			内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 N4/	
40	32	c C25-18	縄文土器	深鉢	口縁	[3.3]			口縁外面断面三角形突帯。下位接合痕。刺突刻み?内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR4/2	灰色 10Y4/1	
40	33	c C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]			波状口縁。口縁端部は波頂部以外で屈曲し短く張出す。内外面ナデ。内外面煤付着。	黒色 10YR1.7/1	褐灰色 10YR5/1	黒褐色 2.5Y3/1	
40	34	c C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[5.1]			内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐灰色 10YR4/1	
40	35	c C25-21	縄文土器	深鉢	口縁	[4.1]			口縁はやや肥厚する。内面ナデ。外面条痕。	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰色 N4/	
40	36	c C25-22	弥生土器	深鉢	口縁	22.4	[7.4]		口縁外押圧刻み。密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	
40	37	c C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[4.3]			口縁外押圧風刻み。やや密。内面ナデ。外面煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄灰色 2.5Y6/1	
40	38	c C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[4.7]			口縁外押圧風刻み。密。内面ナデ。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	
40	39	c C25-18	縄文土器	深鉢	口縁	[3.5]			口縁外刺突刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR3/1	黄灰色 2.5Y4/1	
41	40	c C25-22	縄文土器	深鉢	口縁	[4.3]			口唇端押圧刻み。連続的。内面ナデ。外面ケズリ?ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N4/	

表8 1A区遺物観察表 2

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
41	41	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[4.5]			口縁外面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 N4/	
41	42	c	B24-23	縄文土器	深鉢	口縁	[4.1]			口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。刺突風刻み。密。内面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	黒色 7.5Y2/1	灰色 7.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	
41	43	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	45.0	[9.7]		口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内外面ナデ。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 5Y4/1	
41	44	c	C25-24	縄文土器	深鉢	口縁	27.1	[6.3]		口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。下位接合痕。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	灰褐色 7.5YR5/2	黒褐色 2.5YR3/1	
41	45	c	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]			口縁外面断面三角形刻目突帯。上下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 5YR4/1	
41	46	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[5.8]			口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黒褐色 10YR3/2	暗褐色 10YR3/3	灰色 N5/	
41	47	c	C25-20	縄文土器	深鉢	口縁	[6.3]			口縁外面低い断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内面ナデ。外面条痕。内外面煤付着。	暗灰色 N3/	黒色 N2/	灰白色 5Y7/2	
41	48	c	C25-18	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]			口縁外面断面三角形刻目突帯。上下位接合痕。刺突刻み。やや密。内面ナデ。外面ナデ。条痕。外面煤付着。	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	黒褐色 2.5Y3/1	
41	49	c	D26-7	縄文土器	深鉢	口縁	[6.5]			口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗黄褐色 2.5Y5/2	オリーブ黒色 5Y3/1	灰色 N4/1	
41	50	c	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[7.2]			口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。頸部外面断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰白色 2.5Y7/1	
41	51	c	C25-20	縄文土器	深鉢	口縁	[3.8]			口縁外面2条断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	黒色 N2/	黄灰色 2.5Y6/1	
42	52	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	23.4	[13.8]	21.1	口唇端押圧刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内面ナデ。外面口唇部ナデ。胴部擦過。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 7.5YR3/1	
42	53	c	C25-22	縄文土器	深鉢	口縁	22.0	[5.6]		口唇外押圧刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	暗黄褐色 2.5Y5/2	
42	54	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[3.0]			口唇端押圧刻み。連続的。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。押圧刻み。連続的。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR4/2	
42	55	c	B25-8	縄文土器	深鉢	口縁	[5.2]			口唇端押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 7.5YR2/2	
42	56	c	C25-19	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]			口唇端押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	黒褐色 7.5YR3/1	
42	57	c	C25-18	縄文土器	深鉢	口縁	[5.2]			口唇外刺突風刻み。やや疎。口縁外面断面三角形刻目突帯。大きな刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	
42	58	c	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[2.7]			口唇外押圧刻み。連続的。口縁外面低い断面蒲鉾形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。内外面煤付着。	黒褐色 7.5YR3/1	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR5/1	
42	59	c	C26-1	縄文土器	深鉢	口縁	[4.9]			口唇外押圧刻み。やや疎。口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。大きな押圧刻み。密。内面ナデ。外面上位ナデ。下位条痕。内外面一部煤付着。	暗灰色 N3/	暗灰色 N3/	黒灰色 10YR3/1	
42	60	c	C25-22	縄文土器	深鉢	口縁	[3.3]			口唇外刺突風刻み。やや疎。口縁外面断面台形刻目突帯。上下位接合痕。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄色 2.5Y7/2	黒色 5Y2/1	黄灰色 2.5Y5/1	
42	61	c	C25-24	縄文土器	深鉢	口縁	[3.4]			口唇外刺突刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位一部接合痕。米粒状刺突刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗灰色 N3/	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y5/1	
42	62	c	C25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[5.3]			波状口縁。口唇外刺突刻み。やや密。口縁外面低い断面蒲鉾形刻目突帯。刺突刻み。密。内面ナデ。外面上位ナデ。下位条痕。	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/1	
42	63	c	D26-7	縄文土器	深鉢	口縁	[5.8]			口唇外米粒状刺突風刻み。密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗黄褐色 2.5Y5/2	黒色 5Y2/1	灰色 N4/1	
42	64	c	C25-23	縄文土器	深鉢	口縁	[4.6]			口唇外刺突刻み。密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	
43	65	c	C26-4	縄文土器	深鉢	口縁	[4.3]			口唇外刺突刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位一部接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	
43	66	c	C26-1	縄文土器	深鉢	口縁	[3.6]			口唇外刺突刻み。やや密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR4/1	
43	67	c	C25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]			口唇外小さな押圧刻み。連続的。口縁外面断面台形刻目突帯。小さな押圧刻み。連続的。突帯下1面所直径3 ⁵ / ₁₆ 円穴。内外面ナデ。外面煤付着。	暗黄褐色 2.5Y5/2	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y5/1	
43	68	c	C25-17	縄文土器	深鉢	底部	[4.3]		7.0	平底。端部は外側に張出す。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 5YR4/2	黒褐色 7.5YR3/1	
43	69	c	C25-17	弥生土器	壺	底部	[2.9]		7.0	平底。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料。一部煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	a層出土遺物と接合。
43	70	c	D26-6	縄文土器	浅鉢	底部	[1.0]		6.2	平底(凹面)。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒褐色 7.5YR3/1	黒色 7.5YR2/1	灰褐色 7.5YR4/2	
43	71	c	C26-4	縄文土器	浅鉢	底部	[2.2]		8.7	平底(凹面)。内外面ナデ。外面煤付着。胎土中に籾物を多く含む。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR3/1	
43	72	c	C25-18	縄文土器	浅鉢	底部	[2.5]		9.3	平底?内面ヘラミガキ。外面ナデ?外面煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/2	
43	73	c	C25-23	縄文土器	浅鉢	底部	[1.8]		6.4	平底?底部下位に段部。内面ナデ?外面ヘラミガキ。	暗黄褐色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	
43	74	c	B25-6	縄文土器	胴部		[4.0]			外面沈線紋。内面ナデ。中空土偶?	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 2.5Y3/1	褐灰色 10YR4/1	

表9 1A区遺物観察表 3

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
43	75	c	C26-6	縄文土器	蓋	口縁	14.6	[3.9]		外面沈線紋。内外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	1F区 C層出土 遺物と接合。	
43	76	c	C26-5	弥生土器	土製円盤		全長 3.8	全幅 4.8	全厚 0.8	重量 12.7g	壺脚部破片転用。端部丁寧な研磨。	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	
43	77	c	B24-22	縄文土器	土製円盤		全長 4.7	全幅 [4.3]	全厚 0.7	重量 [13.7]g	深鉢脚部破片転用。未研磨。	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR4/2	
43	78	c	C25-24	縄文土器	土製円盤		全長 [5.5]	全幅 [4.8]	全厚 0.8	重量 [22.3]g	深鉢脚部破片転用。端部研磨?	暗灰色 N3/	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y4/1	
43	79	c	C25-13	縄文土器	土製円盤		全長 7.7	全幅 6.6	全厚 0.5	重量 26.2g	浅鉢体部破片転用。端部丁寧な研磨。	黄褐色 2.5Y4/1	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	
44	80	b	D26-6	縄文土器	壺	口縁	13.0	[5.7]		口縁は急な屈曲のち短く開く。内面上位ヘラミガキ、 下位ナデ。外面ヘラミガキ。	暗灰黄色 2.5Y4/2	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰色 N4/		
44	81	b	B25-13	縄文土器	壺	口縁		[6.8]		口縁は緩く屈曲し、短く開く。内面上位ヘラミガキ、 下位ナデ。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y5/1		
44	82	b	C26-3	縄文土器	壺	口縁	9.9	[6.4]		口縁は内傾する。内外面ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	c層出土遺物と 接合。	
44	83	b	B25-12	弥生土器	壺	胴部		[2.9]		胴部上位沈線状段部、区画沈線1条、複線山形状。内 面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/2	黄灰色 2.5Y5/1	浅黄褐色 10YR6/3		
44	84	b	B25-12	弥生土器	壺	胴部		[3.6]		頸部下段部。胴部上位細い3条沈線に因る山形状。 内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	褐灰色 7.5YR4/1	黒色 7.5YR2/1	灰黄褐色 10YR6/2		
44	85	b	C26-3	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.0]		口縁はやや内湾する。口唇は内側に肥厚する。内外面 ヘラミガキ、口唇はナデ。	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰白色 2.5Y7/1		
44	86	b	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.3]		口縁はやや内湾する。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 10YR3/2	灰白色 10YR7/1		
44	87	b	B25-17	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.2]		波状口縁。口縁は鐔状を成し、外反する。口縁内面に 段部。内面ヘラミガキ。外面上位ナデ、下位擦過。外面 煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	褐灰色 7.5YR4/1		
44	88	b	B24-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[6.0]		波状口縁。口縁は鐔状を成し、外反する。内面ヘラミ ガキ、押圧痕。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR6/3	黒色 5Y2/1	にぶい黄褐色 10YR7/2		
44	89	b	C26-3	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.8]		波状口縁。口縁は鐔状を成し、外反する。口縁内面上 位鋭い段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。外面煤付着。	オリーブ黒色 5Y3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	方形浅鉢	
44	90	b	B25-13	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.1]		口唇部は内傾し、口縁は外反して短く立ち上がる。内 面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい橙色 7.5YR6/4 オリーブ黒色 5Y3/1		
45	91	b	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁	24.2	[4.5]		口縁は緩く屈曲のち短く開く。内外面ヘラミガキ。外 面赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	灰黄褐色 10YR6/2		
45	92	b	C25-21	縄文土器	深鉢	口縁	29.0	[11.0]		口縁は緩く外反する。内面ナデ。外面条痕。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰色 N4/		
45	93	b	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	23.8	[9.3]	20.8	波状口縁。口縁は緩く外反する。内面ナデ。外面上位 ナデ、下位条痕。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y6/1		
45	94	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁		[6.4]		口縁は緩く外反する。内面ナデ。外面上位ナデ、下位 条痕。内面一部と外面煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
45	95	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁		[2.5]		口唇は外側に肥厚する。口唇外押圧風刻み。やや密。 内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1		
45	96	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁		[4.6]		口唇外刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒色 10YR1.7/1	灰黄褐色 10YR5/2	灰白色 5Y7/1		
45	97	b	B25-16	弥生土器	甌	口縁		[3.4]		口唇は外反する。口唇端押圧刻み。やや密。外面ナデ。 外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N6/		
45	98	b	D26-6	縄文土器	深鉢	口縁		[3.7]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。 やや密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰黄色 2.5Y7/2		
45	99	b	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁		[3.5]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。 やや密。内外面ナデ。	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N5/		
45	100	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁		[4.5]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突 刻み。やや密。内外面ナデ。	灰色 5Y4/1	灰黄褐色 10YR5/2	暗灰黄色 2.5Y6/2		
45	101	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁		[3.3]		口縁外面断面三角形刻目突帯。上下位接合痕。刺突刻 み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2	黄灰色 2.5Y4/1		
45	102	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁		[2.9]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。小さな筋 状刻み。密。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	オリーブ黒色 5Y3/1	黄灰色 2.5Y5/1		
45	103	b	C26-3	縄文土器	深鉢	口縁	19.0	[5.0]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。 密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	灰褐色 7.5YR4/2	青灰色 5B5/1		
46	104	b	B25-14	弥生土器	深鉢	口縁	16.9	[9.0]	15.5	口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。 やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1		
46	105	b	B25-19	縄文土器	深鉢	口縁	18.2	[8.0]		口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。 密。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 5Y4/1	黄灰色 2.5Y6/1		
46	106	b	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	19.2	[4.5]		口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突風刻み。密。内外 面ナデ。外面煤付着。	灰色 5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y4/2	灰黄色 2.5Y6/2		
46	107	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	20.6	[3.3]		口唇端押圧刻み。連続的。口縁外面断面三角形刻目突 帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤 付着。	にぶい黄褐色 10YR4/3	褐灰色 7.5YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	d層出土遺物と 接合。	
46	108	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁		[3.8]		口唇外筋状刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突 帯。下位接合痕。筋状刻み。やや密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR5/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰白色 2.5Y7/1		
46	109	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁		[3.8]		口唇端筋状刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突 帯。下位接合痕。筋状刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N6/		
46	110	b	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁		[5.0]		口唇外押圧刻み。大きく深く密。口縁外面断面三角 形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。大きく深く密。外 面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	灰色 N4/		
46	111	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁		[4.2]		口唇端押圧風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目 突帯。刺突風刻み?密。内外面ナデ。	オリーブ黒色 7.5YR3/1	灰色 7.5Y5/1	褐灰色 10YR5/1		

表10 1A区遺物観察表 4

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構/グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
46	112	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[2.3]			口唇外刺突刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1	灰黄色 2.5Y7/2	
46	113	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[3.2]			口唇端押圧風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗灰色 N3/	暗灰色 N3/	灰色 N5/	
46	114	b	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[6.1]			口唇外押圧風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。やや密。内外面ナデ。外面条痕。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰褐色 10YR5/1	
46	115	b	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[2.8]			口唇外押圧刻み。連続的。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR4/2	暗灰色 N3/	
47	116	b	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	30.5	[12.7]		口唇外小さな筋状刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。小さな筋状刻み。密。頸部下沈線状段部。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 N6/	d層出土遺物と接合。
47	117	b	C26-4	縄文土器	深鉢	口縁	23.8	[6.5]		口唇端押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰褐色 7.5YR5/2	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1	
47	118	b	C26-3	縄文土器	深鉢	口縁	[9.3]			口唇外押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰色 10Y5/1	
47	119	b	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	17.7	[3.8]		口唇端押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。密。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR5/2	
47	120	b	B25-16	弥生土器	壺	底部	[5.5]			平底。内外面ナデ。内外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	
47	121	b	D26-6	弥生土器	壺	底部	[4.1]	8.4		平底。内面ナデ? 外面ヘラミガキ?	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい黄色 2.5Y6/3	黄灰色 2.5Y5/1	
47	122	b	B24-12	弥生土器	鉢	底部	[2.4]	9.1		平底。内外面ヘラミガキ。	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR5/1	黒褐色 7.5YR3/1	
48	123	b	B25-17	縄文土器	浅鉢	底部	[3.2]	8.4		平底(凹面)? 内面ヘラミガキ。外面ケズリ。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	灰褐色 5YR4/2	
48	124	b	D26-11	縄文土器	浅鉢	底部	[3.6]	6.0		平底(凹面)。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 10YR3/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	
48	125	b	C26-5	縄文土器	浅鉢	底部	[1.6]	6.6		平底(凹面)。内面ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。底部同心円状のナデ痕。外底面に粘土付着。	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1	褐色 5YR6/6	
48	126	b	B25-16	縄文土器	土製円盤		全長 4.2 全幅 3.9 全厚 0.7 重量 14.2 g			壺胴部破片転用。一部端部研摩。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黒褐色 2.5Y3/2	
48	127	b	B25-13	縄文土器	土製円盤		全長 6.2 全幅 6.2 全厚 0.8 重量 38.4 g			壺胴部破片転用? 端部は部分的に研摩。	黒褐色 2.5Y3/1	灰黄褐色 10YR5/2	黒褐色 10YR3/1	
48	128	b	C26-3	縄文土器	土製円盤		全長 3.8 全幅 3.9 全厚 0.9 重量 16.4 g			壺胴部破片転用。端部は部分的に研摩。	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	
48	129	b	B25-21	弥生土器	土製円盤		全長 4.0 全幅 4.0 全厚 1.0 重量 18.8 g			壺? 胴部破片転用。端部成形痕。一部研摩。	灰黄褐色 10YR5/2	浅黄褐色 7.5YR8/4	淡赤褐色 2.5YR7/4	
49	130	b-1	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁	[13.0]			波状口縁。口縁は鐮状を成し、緩く内湾する。口縁内面上位と下位に段部。波頂部に2箇所押圧刻み。内面ヘラミガキ。外面上位ナデ、下位擦過。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 2.5Y2/1	褐灰色 7.5YR4/1	
49	131	b-1	B25-16	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.3]			口縁はやや内湾し、鐮状に開く?	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	浅黄褐色 2.5Y7/3	
49	132	b-1	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	12.2	[3.4]		小型の深鉢? 内面ヘラナデ。外面ナデ。内面一部煤付着。外面煤付着。	灰褐色 7.5YR4/2	黒色 5Y2/1	灰色 5Y4/1	d層出土遺物と接合。
49	133	b-1	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[5.4]			口唇外筋状刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。筋状刻み。密。	暗灰色 N3/	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y6/1	
49	134	b-1	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	15.6	[4.0]		口唇外小さな刺突風刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。原体(半截竹管?) に因る刺突風刻み。密。突帯下直径4分の1の円孔を穿つ。内外面ナデ。外面一部煤付着。	暗黄灰色 2.5Y5/2	黒色 5Y2/1	黄灰色 2.5Y5/1	
49	135	b-1	B25-16	弥生土器	壺	底部	[6.3]	12.2		平底(緩い凹面)。内面ナデ。外面粗目ハケのちみガキ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	
50	136	b-1	B25-16	縄文土器	浅鉢	底部	[1.9]	6.6		平底(弱い凹面)。胎土内植物繊維痕。内外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y4/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰褐色 10YR4/1	
50	137	b-2	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[5.7]			口縁は鐮状外反。内面ナデ。外面条痕。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	
50	138	b-2	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[3.2]			口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1	
50	139	b-2	B25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[2.5]			口唇外刺突風刻み。やや疎。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。やや密。突帯下直径4分の1の円孔。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	
50	140	b-2	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	22.4	[9.6]	17.6	口唇外唇体(半截竹管?) に因り刺突風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。上下接合痕。筋状? 刻み。やや密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR5/1	
50	141	b-2	B25-14	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]			口唇外押圧風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。上位接合痕。D形押圧風さざみ。密。	黒色 N2/	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y6/1	
50	142	b-2	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁	[9.4]			口縁は鐮状を成し、緩く外反。口縁内面上位に段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	黒色 5Y2/1	
50	143	b-2	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.2]			口縁は鐮状を成し、開く。口縁内面上位に段部。内面ミガキ。外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/2	黒褐色 5YR2/1	b層出土遺物と接合。
50	144	b-2	B25-12	縄文土器	浅鉢	底部	[1.7]	6.8		平底。内面ヘラミガキ。外面押圧痕。外面一部煤付着。	黒褐色 10YR3/1	灰黄褐色 10YR4/2	褐灰色 7.5YR4/1	
50	145	b-3	B25-16	弥生土器	壺	口縁	[4.4]			口唇端形の押圧刻み。密。口縁外面浅い沈線(段部?) が不連続で廻る。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR4/3	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR6/2	
50	146	b-3	B25-16	弥生土器	壺	底部	[5.2]	6.2		平底。内面ナデ? 外面ナデ、ヘラミガキ。内面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y6/1	
51	147	d	C25-17	縄文土器	壺	口縁	20.0	[8.0]		口縁は屈曲のち短く開く。内面ナデ。外面ミガキ。	暗褐色 10YR3/3	黒褐色 10YR3/2	黄灰色 2.5Y5/1	
51	148	d	C26-5	縄文土器	壺	口縁	20.0	[6.7]		口縁は緩く屈曲のち短く立ち上がる。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR6/2	

表11 1A区遺物観察表 5

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径		底径	内面	外面	
51	149	d	B25-11	縄文土器	壺	口縁	16.0	[3.6]	口縁は外反して短く開く。口唇端浅い押し刻み。内面ナデ。外面ミガキ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒色 2.5Y2/1	黄灰色 2.5Y4/1	
51	150	d	B25-11	縄文土器	壺	口縁		[4.2]	口縁は屈曲のち短く開く。内外面ミガキ。内外面口縁赤色顔料付着。	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR6/2	
51	151	d	B25-11	縄文土器	壺	口縁	8.6	[3.9]	口縁は屈曲のち短く開く。内面ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰黄褐色 10YR5/2	
51	152	d	C25-16	縄文土器	壺	口縁	10.6	[5.7]	波状口縁。口唇端押し刻み。口縁内面1条沈線。外面2条沈線。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	黒色 10YR2/1	黒色 10YR2/1	灰黄褐色 10YR6/2	
51	153	d	B25-12	縄文土器	壺	口縁		[4.2]	口縁は屈曲のち短く開く。内外面ヘラミガキ。外面口縁赤色顔料付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	褐灰色 10YR4/1	
51	154	d	B25-12	弥生土器	壺	口縁	19.2	[7.5]	口縁は短く外反する。内外面ヘラミガキ、ナデ。	灰白色 10YR8/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 7.5Y4/1	
51	155	d	B25-11	弥生土器	壺	口縁	19.5	[10.3]	口縁は急に屈曲のち短く開く。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ナデ。	暗灰黄褐色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 5Y5/1	
51	156	d	B25-12	弥生土器	壺	口縁	15.6	[3.5]	口縁は外反して開く。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	黒褐色 10YR3/1	灰黄褐色 10YR6/2	
51	157	d	B25-12	弥生土器	壺	口縁	8.4	[4.0]	口縁は外反する。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰色 5Y4/1	
51	158	d	B25-11	弥生土器	壺	口縁		[8.9]	口縁は外反する。内面ヘラミガキ、押し痕(接合部?)。外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR3/3	
51	159	d	B25-12	弥生土器	壺	口縁		[8.1]	口縁は屈曲のち短く開く。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ミガキ。内外面赤色顔料付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 2.5Y8/1	
51	160	d	B25-12	弥生土器	壺	口縁	17.9	[6.2]	口縁は屈曲のち短く開く。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。内面上位ナデ、下位ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	
52	161	d	C26-5	縄文土器	壺	胴部		[4.1]	胴部上位外面区画沈線、2条沈線に因る山形状。内面ナデ、押し痕。外面ヘラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	オリーブ黒色 7.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	
52	162	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁	19.4	[5.1]	皿形。内外面ミガキ。	暗灰黄色 2.5Y4/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰色 N6/	
52	163	d	C25-16	縄文土器	浅鉢	口縁	14.5	[5.8]	口縁はやや内湾する。口唇は平坦。内面ナデ。内面ナデ、弱いケズリ痕。	黒褐色 10YR3/1	暗灰黄色 2.5Y4/2	褐灰色 10YR5/1	
52	164	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁	19.7	[7.9]	鉢形。丸底?内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR5/2	
52	165	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[6.4]	口縁は短く内湾し、屈曲のち短く開く。口縁内面2条沈線(段部?)。内面ヘラミガキ。外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	黒色 10YR1.7/1	灰黄褐色 10YR5/2	
52	166	d	B25-8	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.3]	口縁はやや内湾。内面ヘラミガキ。外面ヘラミガキ、ケズリ痕。外面口縁煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	
52	167	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.9]	口縁は短く内湾する。内外面ミガキ。	褐灰色 10YR4/1	灰黄色 10YR5/1	灰黄褐色 10YR6/2	
52	168	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.4]	口縁はやや内湾する。内外面ヘラミガキ。	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	
52	169	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.5]	口縁は短く内湾。内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 5Y2/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	
52	170	d	C25-17	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.3]	口唇は内側に肥厚する。内外面ヘラミガキ。搬入品?	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 10YR8/1	
52	171	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.3]	口縁端部は内側に屈曲し、短く立ち上がる。内外面ヘラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y4/1	
52	172	d	D26-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.0]	口縁端は短く屈曲し、短く立ち上がる。内外面ヘラミガキ。	灰色 5Y4/1	オリーブ黒色 5Y3/1	灰色 5Y4/1	
52	173	d	B25-16	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.6]	口縁は鐙状を成す。内外面ヘラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄褐色 10YR6/2	
52	174	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.3]	内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR4/3	暗灰黄色 2.5Y4/2	灰色 7.5Y5/1	
52	175	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[6.3]	内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	灰褐色 7.5YR5/2	褐灰色 7.5YR4/1	灰色 N6/	
53	176	d	B25-16	縄文土器	浅鉢	口縁	12.9	[3.7]	口縁は接合部から外反して、短く立ち上がる。体部外面沈線紋。内外面ヘラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	
53	177	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.0]	波状口縁。波頂から波底部は口縁端が短く開く。内外面ヘラミガキ。	黒色 10YR2/1	黒色 10YR2/1	灰黄色 2.5Y6/2	
53	178	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.1]	波状口縁。口縁は短く外反。口縁内面上位に2条沈線状段部、下位に段部。口縁下径7%内孔(補修孔?)。内面ヘラミガキ。外面ナデ、擦過。外面一部と内面に煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1	
53	179	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.3]	口縁は鐙状を成し、短く外反する。内外面ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR4/2	褐灰色 7.5YR5/1	
53	180	d	C25-17	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.9]	波状口縁。口縁は鐙状を成し、短く外反する。口縁内面2条沈線状段部。口縁下内面段部、沈線?内面ヘラミガキ。外面ナデ。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	
53	181	d	B25-13	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.5]	波状口縁?口縁内面上位、下位に段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。内面一部と外面に煤付着。	黒色 7.5Y2/1	黒色 7.5Y2/1	オリーブ黒色 5Y3/1	
53	182	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.0]	波状口縁。口縁内面上位、下位に段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。内面一部と外面に煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 2.5Y3/1	
53	183	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	口縁	17.0	[2.7]	口縁は外反する。内外面ヘラミガキ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	
53	184	d	C25-16	縄文土器	浅鉢	口縁	16.6	[7.0]	波状口縁を成し、1箇所波頂部を有す?波頂部3箇所押し刻み。口唇外小さな押し刻み。密。口縁内面ヘラ描き沈線紋。内外面ヘラミガキ。	オリーブ黒色 5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	
53	185	d	B25-17	縄文土器	浅鉢	口縁		[4.9]	波状口縁。口唇外小さな押し刻み。密。口縁内面ヘラ描き沈線紋。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	

表12 1A区遺物観察表 6

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
53	186	d	C25-17	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.6]			口縁外面10条沈線。内面上位ミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰黄色 2.5Y6/2	
54	187	d	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.6]			内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 7.5YR3/1	黒褐色 7.5YR3/1	灰褐色 5YR5/2	
54	188	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[2.7]			波状口縁。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 5Y4/1	
54	189	d	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.0]			口縁外面3条断面三角形無刻目突帯。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 10Y4/1	
54	190	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[6.5]			波状口縁。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	
54	191	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[5.7]			内外面ナデ。外面口縁縦刻目ナデ痕(摺り痕)? 外面煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y5/1	
54	192	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[4.5]			口縁外大きな刺突風刻み。やや密。内面ナデ。外面条痕。	黄灰色 2.5Y4/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y6/2	
54	193	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[4.3]			波状口縁。口縁端部は髑状に張出す。口唇外押圧風刻み。やや密。内面ナデ。外面ナデ、条痕?	にぶい黄褐色 10YR7/2	白灰色 10YR7/1	灰色 N4/	
54	194	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[7.7]			波状口縁。口唇は外側に肥厚。口唇外押圧刻み。連続的。内面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	黒褐色 10YR7/2	黒褐色 10YR7/1	灰色 7.5Y6/1	
54	195	d	C25-17	弥生土器	甕	口縁	14.6	[7.5]	13.9	口唇外押圧刻み。密。内外面口縁ナデ、胴部ハケ。内外面煤付着。	黒褐色 5YR3/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	
54	196	d	B24-12	弥生土器	甕	口縁	[3.0]			口縁外刺突刻み。やや密。口縁下外面浅い1条沈線。内面ナデ? 外面ナデ、押圧痕。外面煤付着。	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	
54	197	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	20.2	[7.3]		口縁外面断面三角形刻目突帯。筋状刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰褐色 7.5YR5/2	褐灰色 7.5YR4/1	黄灰色 2.5Y5/1	
54	198	d	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	25.8	[3.6]		口縁外面断面台形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内面ナデ、接合部にヘラ圧痕が走る。外面ナデ。	褐灰色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰色 10Y5/1	
54	199	d	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[7.7]			口縁外面低い断面蒲鉾形刻目突帯。上下接合痕。刺突風刻み。内面ナデ。外面上位ナデ、下位条痕。外面煤付着。	灰色 5Y5/1	オリーブ黒色 5Y3/1	黄灰色 2.5Y5/1	
54	200	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[5.9]			口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。上下位一部に接合痕。刺突風刻み。密。内面ナデ。外面上位ナデ、下位条痕。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N5/	
54	201	d	D26-6	縄文土器	深鉢	口縁	[4.5]			口縁外面断面台形刻目突帯。刺突刻み。連続的。内外面ナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	灰白色 2.5Y7/1	
55	202	d	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[6.0]			口縁外面断面台形刻目突帯。上位接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。	黒色 5Y2/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰色 5Y6/1	
55	203	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[6.1]			波状口縁。口縁外面断面台形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内面ナデ、ヘラ圧痕。外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	
55	204	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[7.8]			口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内面ナデ。外面ナデ、条痕?	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y6/2	灰色 7.5Y5/1	
55	205	d	B25-14	縄文土器	深鉢	口縁	[7.5]			口縁外面断面台形刻目突帯。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N4/	
55	206	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[2.9]			口唇外1例浅い押圧刻み。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰色 7.5Y4/1	
55	207	d	B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[2.8]			口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 10Y5/1	
55	208	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[3.5]			口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内面ナデ、クズリ痕。外面ナデ。	灰黄褐色 10YR1.7/1	褐灰色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	
55	209	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[6.7]			口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。	暗灰色 N3/	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰色 N4/	
55	210	d	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[5.4]			口縁外面低い断面三角形刻目突帯。原体(半截竹管?)に因る刺突刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黒色 10YR1.7/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 5Y5/1	
55	211	d	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[4.5]			波状口縁。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位一部接合痕。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 10Y5/1	
55	212	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[5.3]			口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。筋状刻み? 連続的。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 5Y6/1	
55	213	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[3.2]			口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面一部と内面に煤付着。	暗灰色 N3/	灰白色 10YR8/1	灰色 5Y6/1	
55	214	d	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[4.0]			口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。外面ナデ。	黄灰色 2.5Y6/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰白色 2.5Y7/1	
55	215	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]			口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	暗灰黄色 2.5Y5/2	
55	216	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[3.3]			口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。刺突刻み。密。内外面ナデ。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	
55	217	d	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.4]			口縁外面極く低い刻目突帯。刻みは刺突で円形。やや疎。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	
55	218	d	B25-11	弥生土器	甕	口縁	[3.6]			口縁外面刺突列。刺突は径約3mmの円形。やや密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	
56	219	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	32.6	[17.9]		口唇外押圧刻み。密。口縁外面断面台形刻目突帯。上位一部と下位で接合痕。押圧刻み。密。頸部8x7mmの楕円孔(補修孔?)。内外面ナデ、ヘラナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 7.5YR4/1	黄灰色 2.5Y5/1	
56	220	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	19.8	[3.0]		口縁外面粘土帯貼付。上下2列の刻み。上位は小さい刺突風刻み、下位はやや大きな刺突風刻み。何れもやや密。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y6/1	
56	221	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	19.1	[2.8]		口唇外押圧刻み。連続的。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR5/1	
56	222	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	11.4	[3.7]		口唇端押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押圧刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒色 5Y2/1	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 5YR3/1	

表13 1A区遺物観察表 7

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考		
						口径	器高	胴径		底径	内面	外面		胎土	
57	223	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[6.6]		口唇外刺突刻み、やや密。口縁外面断面台形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	灰黄色 2.5YR7/2	黄灰色 2.5Y6/1			
57	224	d	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[8.2]		口唇外押し刻み。密。口縁外面低い断面薄錐形?刻目突帯。D形押し刻み。連続的。内面ナデ。外面条痕。内外面煤付着。	黒色 10YR1.7/1	黒色 10YR2/1	黒褐色 10YR3/1			
57	225	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[7.4]		口唇外押し刻み。連続的。口縁外面断面台形刻目突帯。下位接合痕。刺突に因る刻みで、大小が存在する。内面ナデ。外面条痕。外面煤付着。	黒色 N2/	褐色 7.5YR4/3	黄灰色 2.5Y5/1			
57	226	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[4.9]		口唇外刺突刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押し風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 2.5Y3/1	褐灰色 7.5YR4/1			
57	227	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[4.0]		口唇外刺突風刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯刺突刻み。密。下位接合痕。内外面ナデ。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰色 10Y6/1			
57	228	d		縄文土器	深鉢	口縁	[3.1]		口唇端押し刻み。密。口縁外面断面台形刻目突帯。下位一部接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒色 N1.5/	黒褐色 10YR3/1	灰色 N4/			
57	229	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[3.4]		口唇端刺突刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 2.5Y3/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 5Y6/1			
57	230	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[3.3]		口唇外小さな押し刻み。密。口縁外面低い断面台形刻目突帯。小さな押し刻み。密。口唇下に1箇所、摩滅した11×6 ⁵ の楕円穴。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1			
57	231	d	C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[2.7]		口唇外押し刻み。密。口縁外面断面薄錐形刻目突帯。上下接合痕。押し刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y5/1	灰色 N4/			
57	232	d	C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[2.6]		口唇外押しに因る不規則な刻み。口縁外面断面台形刻目突帯。下位の一部と上位に接合痕。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	黄灰色 2.5Y6/1			
57	233	d	B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[2.9]		口唇外筋状刻み。密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黒色 7.5Y2/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	黒褐色 7.5YR3/1			
57	234	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[3.8]		波状口縁。口唇外押し刻み。やや密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押し刻み。やや密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1			
57	235	d	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[4.9]		口唇外押し刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。押し刻み。やや疎。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR4/2	灰色 N4/			
57	236	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[2.9]		口唇外押し刻み。密。口縁外面低い断面台形刻目突帯。押し刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1			
57	237	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[5.8]		口唇外原体(竹管)に因る小さな刺突刻み。密。口縁外面断面台形刻目突帯。竹管に因る刺突刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR5/1	黄灰色 2.5Y5/1			
57	238	d	C25-16		深鉢	口縁	[5.4]		波状口縁。口唇外押し刻み。連続的。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 5Y4/1			
57	239	d	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[5.1]		波状口縁。口縁外面内形刺突刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。円形刺突刻み。やや疎。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR5/2	黒色 5Y2/1	灰色 N6/			
58	240	d	B25-11	弥生土器	壺	底部	[6.3]	12.6	平底(凹面)。内面ナデ。押し痕。外面上ヘラミガキ。下位ヘラナデ。内面付着物。外面一部煤付着。	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4			
58	241	d	B25-13	弥生土器	壺	底部	[6.9]		平底(凹面)。内面ナデ。押し痕。外面ナデ。ミガキ?外面一部と内面に煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2			
58	242	d	B24-12	弥生土器	壺	底部	[2.0]	7.0	平底。内面ナデ。外面ナデ?外底面圧痕。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	浅黄褐色 10YR8/3			
58	243	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	底部	[2.6]	6.8	平底。内外面ナデ。内面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄褐色 10YR5/2			
58	244	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	底部	[1.0]	7.6	平底。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外底面ケズリ痕。	黒色 7.5Y2/1	黒色 7.5Y2/1	灰白色 5Y7/2			
58	245	d	B25-14	縄文土器	浅鉢	底部	[2.9]	5.7	平底。内面ナデ。外面ヘラミガキ。弱いケズリ。外底面圧痕。細かい凹凸。	黒色 7.5Y2/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1			
58	246	d	B25-12	縄文土器	浅鉢	底部	[1.3]	8.0	平底。外底面細かい凹凸。圧痕。内面ヘラミガキ。外面ナデ。外面一部と内面に煤付着。	黒色 10YR2/1	褐色 7.5YR4/3	橙色 5YR6/6			
58	247	d	B25-11	縄文土器	浅鉢	底部	[1.8]	7.4	平底(弱凹面)。内面ナデ。外面ヘラミガキ。ナデ。	暗灰黄褐色 2.5Y5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR6/3			
58	248	d	B25-11	縄文土器	深鉢	底部	[2.4]	4.5	底部は突出した狭い面を成す。端部は外側に張出す。内面ナデ。外面ナデ。圧痕。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	暗灰色 N3/			
58	249	d	B25-12	縄文土器	深鉢	底部	[2.7]	4.6	平底。外面に縦位(4条)、横位(3条)、斜位の細かい原体に因る沈線紋。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	にぶい赤褐色 5YR5/3	灰色 N4/			
58	250	d	B25-11	弥生土器	甕	底部	[3.3]	7.6	平底(凹面)。内外面ナデ。	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄灰色 2.5Y6/1			
59	251	d	C25-16	縄文土器	土製円盤	胴部	全長 4.0	全幅 4.0	全厚 0.5	重量 11.1 g	浅鉢胴部破片転用。端部研磨。	黒褐色 10YR3/1	黒色 N2/	褐灰色 10YR4/1	
59	252	d	B25-14	縄文土器	土製円盤	胴部	全長 (4.0)	全幅 (4.0)	全厚 0.8	重量 [17.6] g	壺胴部破片転用。未研磨。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	黄灰色 2.5Y7/2	
59	253	d	B25-11	縄文土器	土製円盤	胴部	全長 4.8	全幅 (4.1)	全厚 0.6	重量 [14.0] g	深鉢胴部破片転用。端部部分的に調整?	灰色 5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 N5/	
59	254	d	B25-11	縄文土器	土製円盤	胴部	全長 5.2	全幅 5.2	全厚 0.9	重量 24.4 g	壺胴部破片転用。断面台形。端部は概ね研磨。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 7.5YR4/1	
60	255	d-2	B25-11	縄文土器	壺	口縁	15.4	[5.6]		口縁は緩く屈曲し、短く開く。内外面ミガキ。	黒褐色 2.5Y3/2	黒褐色 2.5Y3/1	灰褐色 7.5YR4/2		
60	256	d-2	B25-11	縄文土器	壺	底部	[3.4]		平底。内外面ナデ。内外面一部煤付着。	灰褐色 7.5YR4/2	褐色 7.5YR4/3	黒褐色 7.5YR3/1			
60	257	d-2	B25-11	弥生土器	壺	底部	[5.3]	6.8	平底。内面ナデ。押し痕。外面ミガキ。内面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/3			
60	258	d-2	B25-11	弥生土器	壺	底部	[4.8]	8.0	高台状底部。内面ナデ。外面ヘラナデ。内面煤付着。	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 5YR6/4			
60	259	d-3	B25-16	弥生土器	壺	口縁	[3.6]		口縁は緩く外反し、短く開く。内外面ナデ。外面一部煤付着。	にぶい褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR5/1	灰白色 10YR8/2			

表14 1A区遺物観察表 8

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm) 口径 器高 胴径 底径	特徴	色調			備考
								内面	外面	胎土	
60	260	d-3 B25-17	縄文土器	浅鉢	口縁	[6.2]	波状口縁。内外面ナデ。外面一部煤付着。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	
60	261	d-3 B25-16	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.7]	波頂部に渦紋退化の瘤状突起。口縁内面2条沈線。内面ナデ? 外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR6/2	
60	262	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[7.9]	口縁は平坦。内面ナデ。外面条痕。	にぶい褐色 7.5YR5/3	黄灰色 2.5Y6/1	褐灰色 10YR6/1	
60	263	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.4]	波状口縁。内外面ナデ。外面煤付着。	褐色 7.5YR4/4	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい褐色 7.5YR7/3	
60	264	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	30.6 [6.0]	口縁は内傾し、緩く外反? 内外面条痕。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	
60	265	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	31.0 [14.1]	30.4 口縁は丸く修める。内面ケズリ。外面条痕のちナデ? 外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	
61	266	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	口縁	20.8 [19.0]	23.0 器壁薄。内外面ナデ。外面煤付着。	黄褐色 2.5Y5/3	暗灰黄色 2.5Y4/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	
61	267	d-3 B25-16	弥生土器	椀	口縁	26.6 [11.0]	22.4 口縁は緩く外反する。口縁は平坦。内外面ナデ。外面へラ圧痕。	にぶい黄褐色 10YR7/2	7.5YR7/6 にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	
61	268	d-3 B25-16	縄文土器	深鉢	胴・底部	[17.4]	3.5 器壁薄。底部は小さく突出し、弱い凹面を成す。内外面ナデ。内外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰白色 2.5Y8/2	
61	269	d-3 B25-16	弥生土器	壺	底部	[5.2]	5.9 高台状底部(やや浅い凹面)。内外面ナデ、外底面へラミガキ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	
61	270	d-3 B25-16	弥生土器	壺	底部	[4.7]	5.3 平底(凹面)。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい褐色 5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	
62	271	s B25-14	縄文土器	壺	口縁	11.4 [5.2]	口縁は緩く屈曲のち短く開く。内面へラミガキ、下位ナデ。外面上位ナデ、下位へラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 2.5YR3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	
62	272	s D26-1	弥生土器	壺	口縁	7.0 [3.2]	口縁は緩く屈曲し、短く開く。内面へラミガキ。外面上位ナデ、下位へラミガキ。	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR4/1	灰黄色 2.5Y6/2	
62	273	s D26-2	弥生土器	壺	口縁	[6.4]	口縁は屈曲のち短く開く。内面へラミガキ。外面ナデ、ミガキ。	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR6/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	
62	274	s B25-12	弥生土器	壺	口縁	12.4 [3.8]	口縁は緩やかに外反。頸部外面に楕円形刺突刻み列と段部。刻みは密。内面へラミガキ。外面へラミガキ? 外面一部煤付着。	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 10Y4/1	
62	275	s B24-22	弥生土器	壺	口縁	[3.6]	口縁は屈曲のち短く開く。内外面へラミガキ。外面赤色顔料。	褐色 2.5YR6/6	褐色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	
62	276	s B25-18	弥生土器	壺	胴部	[2.7]	胴部外面4条沈線に因る山形紋、2条沈線。内面ナデ。外面へラミガキ。	褐灰色 7.5YR4/1	黒色 10YR2/1	灰黄褐色 10YR6/2	
62	277	s C25-23	縄文土器	浅鉢	口縁	17.1 [4.4]	口縁は緩く内湾する。内面へラミガキ。外面ナデ、ミガキ。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	黄灰色 2.5Y4/1	
62	278	s D25-21	縄文土器	浅鉢	体部	[4.3]	緩やかに内湾する体部。内面ミガキ。外面へラミガキ。	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/1	
62	279	s D25-1	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.0]	内面へラミガキ。外面ナデ、擦過。内外面煤付着。	黒色 5Y2/1	黒褐色 10YR3/2	灰黄褐色 10YR4/2	
62	280	s D26-7	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.6]	波状口縁。波頂部を除き、口縁屈曲は急で、短く外側に張出す。口縁内面1条沈線。口縁内縁1段部。内面へラミガキ。外面ナデ、擦過? 内面赤色顔料。	黒色 2.5Y2/1	黒色 7.5Y2/1	灰黄褐色 10YR5/2	
62	281	s D25-1	縄文土器	浅鉢	口縁	[2.5]	波状口縁。口縁内面沈線状の段部。内外面へラミガキ。内面一部赤色顔料。	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR4/1	灰黄色 2.5Y6/2	
62	282	s D25-1	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.0]	波状口縁。口縁は鈍角を成し、緩く外反する。口縁下沈線状段部。内面へラミガキ。内面赤色顔料付着。外面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	
62	283	s B25-3	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.9]	口縁は緩く屈曲し、短く開く。口縁部は内傾する。口縁外面沈線状の浅い窪み。内外面へラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	
62	284	s D25-21	縄文土器	浅鉢	口縁	[2.7]	口縁部は内傾し、緩く外反する。内外面へラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰黄色 2.5Y6/2	
62	285	s B25-7	縄文土器	浅鉢	口縁	15.8 [4.9]	口縁は緩く屈曲し、短く開く。口縁部は内傾する。口縁部外面に縦線の沈線紋(区画?)。内外面へラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	
62	286	s D26-7	弥生土器	高杯		[7.6]	接合部に断面三角形突帯。坏部内面ミガキ。外面八ヶのちミガキ。脚部内面ナデ、外面ミガキ。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/2	にぶい褐色 7.5YR6/4	
62	287	s C25-25	縄文土器	深鉢	口縁	16.6 [7.2]	16.2 波状口縁? 内外面ナデ。内外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	灰色 7.5Y5/1	
62	288	s D26-1	縄文土器	深鉢	口縁	[4.8]	口縁外押圧風刻み。密。内面ナデ。外面条痕のちナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰色 10Y5/1	
63	289	s B25-13	弥生土器	椀	口縁	[1.9]	口縁端押圧刻み。やや疎。内外面ナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰色 N4/	
63	290	s C26-5	縄文土器	深鉢	口縁	[3.3]	口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。刺突刻み。やや密。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y4/1	黒色 2.5Y2/1	灰色 N6/	
63	291	s C25-16	縄文土器	深鉢	口縁	[3.5]	口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内面ナデ。外面ナデ。条痕。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 N4/	
63	292	s D26-7	縄文土器	深鉢	口縁	[4.4]	口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突刻み。密。内外面ナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰白色 2.5Y8/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	
63	293	s B25-13	弥生土器	椀	口縁	[2.8]	口縁外面断面三角形刻目突帯。へら状原体に因る縦長刻み。口縁部外面縦位の沈線紋。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR4/3	灰色 10Y5/1	
63	294	s B25-3	縄文土器	深鉢	口縁	[4.9]	口縁外円形刺突刻み。やや密。口縁外面低い断面台形刻目突帯。円形刺突刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	灰白色 2.5Y7/1	
63	295	s B25-11	縄文土器	深鉢	口縁	[3.4]	口縁外押圧刻み。やや密。口縁外面断面台形刻目突帯。押圧刻み。密。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 5Y6/1	
63	296	s D26-1	縄文土器	深鉢	口縁	[3.6]	口縁外押圧刻み。小さく密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。押圧刻み。連続的。内外面ナデ。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 10Y5/1	
63	297	s B25-13	弥生土器	壺	底部	[3.1]	6.6 平底。内面ナデ。	灰褐色 7.5YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	オリーブ黒色 5Y3/1	
63	298	s B25-12	弥生土器	壺	底部	[3.3]	9.7 平底。内面ナデ? 外面へラ圧痕。	明褐灰色 7.5YR7/2	明褐灰色 7.5YR7/2	灰色 5Y5/1	

表15 1A区遺物観察表 9

Fig.-	遺物	層	出土地点 遺構/グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
63	299	s	D25-24	縄文土器	浅鉢	底部	[2.7]		4.7	平底。内面ミガキ。外面ヘラミガキ。内面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR4/3	にぶい黄褐色 10YR4/3	にぶい赤褐色 5YR5/4		
63	300	s	B25-8	縄文土器	浅鉢	底部	[2.9]			平底。内面ナデ。外面条痕、ナデ。内面煤が厚く付着。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1		
63	301	s	B25-3	縄文土器	深鉢	底部	[4.2]		7.6	平底。内外面ナデ。内面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	褐色 10YR5/1	灰色 5Y4/1		
63	302	s	B25-12	弥生土器	甕	底部	[2.2]		8.0	平底。内面ナデ。外面押圧痕。外底面圧痕。内面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい赤褐色 5YR4/4	暗灰黄色 2.5Y5/2		
63	303	s	B25-12	弥生土器	甕	底部	[5.5]		8.4	平底(弱い凹面)。内面ナデ。内面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1		
63	304	s	C25-16	縄文土器	胴体部		[3.3]			外面ヘラ描き沈線紋。内面ナデ。外面ミガキ。注口土器又は中空土偶?	黒褐色 7.5YR3/1	黒色 10YR2/1	暗灰黄色 2.5Y5/2		
63	305	s	D26-1	縄文土器	土製円盤		全長 3.8	全幅 3.6	全厚 0.6	重量 10.4 g	浅鉢体部破片転用。端部概ね研摩。	褐色 10YR4/1	褐色 10YR4/1	褐色 10YR4/1	
63	306	s	B25-7	縄文土器	土製円盤		全長 5.2	全幅 5.4	全厚 1.1	重量 30.4 g	壺胴部破片転用。端部研摩後部分的に破損。	黒色 10YR2/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR6/2	
64	307	a	C26-4	弥生土器	壺	口縁	39.8	[13.0]			口縁は粘土帯を折り返して成形。口唇は平らな面を成す。内外面ヘラミガキ。内外面赤色顔料付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 2.5Y7/1	
64	308	a	C25-19	縄文土器	壺	胴部	[3.9]				胴部外面に沈線を用いた紋様。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	
64	309	a	C25-21	弥生土器	壺	頸部	[5.3]				頸部外面沈線を用いた削出し突帯2条。楕円形刺突刻み。連続的。内外面ナデ、ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	
64	310	a	C25-25	弥生土器	壺	胴部	[2.5]				胴部外面区画沈線、有軸木葉紋。	黄灰色 2.5Y6/2	褐色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	
64	311	a	C26-10	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.3]				波状口縁。波頂部上面位沈線状段部、下位段部。口縁下位直径6%の円孔(補修孔?)。内面ヘラミガキ。外面ナデ。外面煤付着。	褐色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	灰黄色 2.5Y7/2	
64	312	a	D26-12	縄文土器	浅鉢	口縁	[4.9]				波状口縁。波頂部に小さな塊り。波底部に向かって口縁端はかえりを有す。口縁内面1条沈線、下位段部。内外面煤付着。	オリーブ褐色 2.5Y4/3	黒褐色 2.5Y3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	
64	313	a	C25-17	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.0]				口縁はやや外反する。内外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	
64	314	a	C25-11	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.1]				口縁内面2条沈線。内外面ヘラミガキ。内面赤色顔料付着。外面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	灰黄褐色 10YR4/2	
64	315	a	D26-1	縄文土器	浅鉢	口縁	[3.9]				口縁は弱い屈曲のち緩く外反する。内外面ヘラミガキ。内面赤色顔料付着。	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	黄灰色 2.5Y4/1	
64	316	a		弥生土器	壺	口縁	[5.0]				波状口縁。波頂部外面角形突起。口縁外面には、四角錐型の浮紋と波頂部で収束する縦位、横位各々2条の突帯を施す。胎土中に灰色の大きな円・角礫を含む。	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 N4/	灰色 N4/	
64	317	a	C25-18	弥生土器	鉢	口縁	[6.3]				口縁は外反し、短く開く。内面ヘラミガキ。外面ナデ?内面一部煤付着。	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	
64	318	a	B25-7	弥生土器	甕	口縁	[3.6]				口縁は緩く外反する。内外面ナデ。	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR4/4	灰色 5Y4/1	
64	319	a	C26-7	弥生土器	甕	口縁	[8.0]				口縁は緩く外反する。口唇外押圧刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	
65	320	a	B25-2	弥生土器	甕	口縁	[3.2]				口唇端押圧刻み。やや密。内外面ナデ。内外面煤付着。	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR8/4	
65	321	a	B25-13	弥生土器	甕	口縁	12.6	[2.5]			口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合帯。押圧風刻み。外面ヘラ描き沈線帯。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	
65	322	a	B25-13	弥生土器	甕	口縁	[3.3]				口唇外押圧刻み。密。口縁外面段部ヘラ圧痕。内外面ナデ。	にぶい褐色 5YR7/4	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	
65	323	a	B25-8	弥生土器	甕	口縁	[4.3]				口唇外押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	黒色 7.5Y2/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	
65	324	a	C25-12	弥生土器	甕	口縁	[5.2]				口唇外押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	褐色 10YR4/1	
65	325	a	D25-21	縄文土器	深鉢	口縁	[3.8]				口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。内外面ナデ。胎土中に大きな灰色の円・角礫を含む。	灰黄褐色 10YR5/2	暗灰黄色 2.5Y4/2	灰色 N4/	
65	326	a	D26-7	縄文土器	深鉢	口縁	[3.2]				口縁外面低い断面三角形刻目突帯。大きな刺突刻み。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y5/1	暗灰黄色 2.5YR5/2	
65	327	a	B25-6	縄文土器?	深鉢?	口縁	[3.0]				口縁外面2条断面三角形刻目突帯。何れも刺突に因るやや小さな刻み。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	
65	328	a	C25-18	弥生土器	甕	口縁	[3.7]				胴部外面浮紋。断面三角形刻目突帯。押圧刻み。密。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 5Y5/1	
65	329	a	B25-13	縄文土器	深鉢	口縁	[4.0]				口縁外面断面三角形刻目突帯。刻みは小さく密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰色 10Y5/1	
65	330	a	C25-17	縄文土器	深鉢	口縁	[2.9]				口唇外刺突風?刻み。連続的。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。内外面ナデ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1	
65	331	a	B25-2	縄文土器	深鉢	口縁	[6.4]				口唇外押圧風刻み。小さく密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。押圧風刻み。密。内面ナデ。外面上位ナデ、下位条痕。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1	
65	332	a-1	B25-12	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]				口唇外D形押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押圧刻み。密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	
65	333	a	C25-17	弥生土器	壺	底部	[3.4]		9.6	平底。内面ナデ?外面ナデ痕顕著。	褐色 10YR5/1	にぶい褐色 5YR6/3	褐色 2.5YR6/6		
65	334	a	D26-7	弥生土器	壺	底部	[2.7]		9.8	平底。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/2		
65	335	a	C25-23	弥生土器	壺	底部	[6.1]		10.9	平底(凹面)。内面ナデ。外面ナデ、ヘラ圧痕。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N5/		
65	336	a	C25-19	縄文土器	浅鉢	底部	[2.0]		7.4	平底。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR3/4	灰黄褐色 10YR4/2	褐色 10YR4/1		
65	337	a	D26-12	縄文土器	鉢	底部	[4.7]				胴部下に不連続な8条単位沈線帯(紋)。平底。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面一部煤付着。壺?	暗灰黄色 2.5Y5/2	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰色 N4/	

表16 1A区遺物観察表 10

Fig. - 遺物		層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
口径	器高						胴径	底径	内面	外面		胎土			
65	338	a	C25-17	縄文土器	深鉢	底部	[4.4]		6.7	高台状底部 (浅い凹面)。底部端は大きく張出す。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。胎土中に大きな暗灰褐色の砂粒を多く含む。	黒色 2.5Y2/1	オリーブ黒色 5Y3/1	褐灰色 10YR4/1		
65	339	a	B25-11	弥生土器	甕	底部	[3.5]		10.0	平底。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2		
65	340	a	B25-11	弥生土器	甕	底部	[5.1]			平底。内面ナデ。外面ハケ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	黒褐色 2.5Y3/1		
65	341	a	B25-11	弥生土器	甕	底部	[4.1]			平底。底部端は外側に大きく張出す。内外面ナデ。内面煤が厚く付着。胎土中に暗灰色の円礫多く含む。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/		
65	342	a	B25-11	弥生土器	甕	底部	[3.2]		7.8	平底。内外面ナデ。内面に亀裂が多く入る。	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	にぶい橙褐色 7.5YR6/4		
66	343			弥生土器	壺	口縁	42.0	[5.0]		口縁は平坦面を成す。外面ヘラミガキ、押圧痕。外面赤色顔料。	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 7.5YR8/1		
66	344		B24-12	弥生土器	壺	胴部	[6.9]			頸部下弱い段部。胴部上位3条沈線、7条沈線単位の重弧紋。内面ナデ。外面ヘラミガキ。内外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
66	345			弥生土器	壺	胴体部	[7.2]			胴部上位2条沈線、5条斜線紋。内面ハケ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰白色 7.5YR8/2		
66	346		C26-5	縄文土器	浅鉢	口縁	19.4	[1.8]		口縁外面横位の隆帯。内外面ヘラミガキ。外面赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2		
66	347			縄文土器	浅鉢	口縁	[5.0]			波状口縁。波頂部に押圧に因る刻み。口縁内面2条沈線。内面ミガキ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	にぶい黄褐色 10YR7/2		
66	348		C26-5	弥生土器	鉢	底部	[4.4]		6.2	高台状底部 (深い凹面)。内面ヘラミガキ。外面ナデ？押圧痕。	暗褐灰色 7.5YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2		
66	349			弥生土器	鉢	底部	[4.3]		7.0	高台状底部 (深い凹面)。内面ヘラミガキ。外面ナデ、押圧痕。外底面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 7.5YR8/3		
66	350			縄文土器	蓋	口縁	[4.1]			口縁は緩く内湾する。内面ミガキ？外面ヘラミガキ。	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2		
66	351		C26-5	弥生土器	土製円盤		全長 4.7	全幅 [4.4]	全厚 0.8	重量 [19.0]g	壺胴部破片転用。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰白色 7.5YR8/2	
Fig. 遺物		層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
口径	器高					胴径	底径	内面	外面		胎土				
67	352		C25-18	c	壺	口縁	17.6	[5.4]		波状口縁。波頂部は面を成す。口縁内面2条沈線、外面隅丸三角形から楕円形の区画。	暗赤褐色 2.5YR3/4	暗赤褐色 2.5YR3/4	暗赤褐色 2.5YR3/4	大洞	
67	353		C25-24	s	壺	口縁	2.2	2.8	1.4	波頂部。面を成す。	暗赤褐色 2.5YR3/6	暗赤褐色 2.5YR3/6	暗赤褐色 2.5YR3/6	大洞	
67	354		C25-9 D26-16	c	壺	胴部	8.1	2.5	0.8	胴部上位破片。紋様を構成する隆帯？	黒色 2.5Y2/1	暗赤褐色 10YR7/2	2.5Y3/4	大洞	
67	355			d	壺	胴部	4.7	5.6	1.0	胴部破片。方形区画。	黒色 7.5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	10YR3/1	大洞	
67	356		C26-5	c	壺	胴部	5.1	7.3	0.6	胴部破片。方形区画。	黒色 2.5Y2/1	暗赤色 10YR3/4	10YR3/4	大洞	
67	357		C26-5	s	壺	胴部	9.1	14.7	0.8	胴部中位破片。隆帯に因る大小の方形区画。区画隆帯。	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	10YR5/3	大洞	
68	358		C25-24	s	壺	胴部	4.4	4.5	0.6	胴部破片。方形区画。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 暗赤褐色 10YR4/1 10YR3/3	10YR4/1 10YR3/3	大洞	
68	359		C25-24	a	壺	胴部	9.3	13.0	0.6	胴部中位破片。隆帯に因る大小の方形区画。区画隆帯。	暗赤褐色 2.5YR3/4	黒褐色 2.5Y3/1	2.5Y3/1	大洞	
68	360		C25-24	s	壺	胴部	4.7	7.5	0.6	胴部破片。方形区画。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	10YR7/3	大洞	
68	361		D26-7	s	壺	胴部	7.3	12.4	0.6	胴部中位破片。隆帯に因る大小の方形区画。区画隆帯。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	10YR3/1	大洞	
68	362		D26-7	d	壺	胴部	4.7	7.6	1.1	胴部破片。方形区画。	暗灰黄色 2.5Y4/2	黒褐色 2.5Y3/1	2.5Y3/1	大洞	
68	363		C25-24	s	壺	胴部	2.3	3.4	0.6	胴部破片。方形区画。	黒褐色 10YR3/1	灰黄褐色 赤褐色 10YR5/2 2.5YR4/6	10YR5/2 2.5YR4/6	大洞	
68	364		C26-5	c	壺	胴部	3.1	2.3	0.6	隆帯。	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	5Y2/1	大洞	
68	365		C26-5	a	壺	胴部	6.5	10.8	0.6	胴部破片。区画隆帯。	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	10YR5/1	大洞	
68	366		C26-6	a	壺	胴部	3.9	5.5	0.6	胴部破片。方形区画。	灰黄褐色 10YR5/2	灰褐色 黒褐色 10YR4/2 10YR3/1	10YR4/2 10YR3/1	大洞	
68	367		D26-1	s	壺	胴部	3.4	3.4	0.6	隆帯。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/1	2.5Y3/1	大洞	
68	368		C26-5	c	壺	胴部	4.6	2.6	0.6	方形区画。	黒色 10YR1.7/1	灰黄褐色 黒褐色 10YR5/2 10YR2/2	10YR5/2 10YR2/2	大洞	
69	369		C26-6	c	鉢？	体部	[4.8]	[20.2]		体部中位に1条沈線。外面ヘラミガキ痕顕著。	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2	10YR5/2	大洞	
69	370		C25-17	c	壺？	胴部	5.4	5.2	0.7		暗赤褐色 2.5YR3/3	暗赤褐色 5YR3/4	5YR3/4	大洞	
69	371		D26-1	c	壺	頸部	[8.2]			頸部下段部。内面ナデ、押圧痕。外面細かいヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	10YR3/1		
69	372		D26-1	c	壺	頸部	[7.0]			漆塗布に因る方形区画。内面ナデ、ケズリ痕。外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/2	暗赤褐色 2.5YR4/3	2.5YR4/3		
69	373		C26-5	c	壺	頸部	5.5	4.6	0.6	漆塗布に因る方形区画。内面ナデ。	黒褐色 2.5Y3/1	暗赤褐色 2.5Y3/4	2.5Y3/4		
69	374		D26-7	c	壺	頸部	5.7	2.3	0.6	内面ナデ。外面ヘラミガキ？	黒色 2.5Y2/1	黄灰色 2.5Y4/1	2.5Y4/1		

表17 1A区遺物観察表 11

Fig.	遺物	出土地点 遺構 / グリッド	層	器種	法量 (cm)				特徴	備考
					全長	全幅	全厚	重量 (g)		
71	375	P101		石匙	2.8	6.3	0.7	9.5	横型。刃部は非対称。裏面は平らで表面は大きく盛り上がる。基部両側を大きく括る。	サヌカイト
71	376	C26-5	c	石鏃	2.5	1.2	0.3	1.2	有茎。舌状。表面は全面を調整。裏面は中央部に剥離面が残る。	サヌカイト
71	377	B25-12	d	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.7	無茎。平基。小型。肉薄。両縁は磨滅する。	サヌカイト
71	378	B25-8	s	石鏃	[1.3]	1.5	0.3	[0.6]	無茎。平基。基部に細かな調整痕。	チャート
71	379			石鏃	[1.8]	[1.0]	[0.3]	[0.5]	先端は鋭角で、側縁はやや折れ気味。	チャート
71	380	B25-17	b	石鏃	3.6	1.2	0.8	2.7	柳葉形。肉厚。側縁は基部に至まで調整を施す。基部は舌状。	チャート
71	381	D26-11	b	石鏃	4.4	1.6	0.7	5.9	柳葉形。肉厚。先端部と基部に調整痕顕著。	チャート
71	382	B25-12	b	石鏃	3.0	1.5	0.5	2.0	鏃部は断面三角形。側面に細かな調整痕。	チャート
71	383	B25-18	b	剥片	4.7	3.2	5.0	7.0	側面に細かな調整を加える。	サヌカイト
71	384	C25-17	d	剥片	4.8	4.8	0.7	12.6	縁面に細かな調整を加えた刃部。	サヌカイト
71	385	B25-11	d	剥片	5.6	3.8	0.5	11.2	肉薄の縁面が磨滅する。肉厚の縁面には細かな調整を加える。	サヌカイト
71	386			剥片	4.9	2.5	0.9	10.7	短冊形の側面に細かな調整を加える。	サヌカイト
72	387			磨製石鏃	7.8	1.1	0.4	4.0	柳葉形？基部がやや折れる。丁寧に研磨し、側縁は鋭く仕上げる。	
72	388	C25-22	b	石斧	5.7	4.3	1.0	35.4	扁平片刃。刃部は弧状。小規模な刃こぼれ。	
72	389	B25-12	b	石斧	7.8	1.2	1.2	40.5	短冊形で側縁がやや膨らむ。刃部欠損後基部を加工？	超塩基性岩
72	390	B25-12	b-2	石斧	6.9	2.8	1.1	31.8	扁平片刃。分銅形。刃部は緩い弧状を成す。基部も刃部として使用？	蛇紋岩？
72	391	D26-16	b	石斧	8.5	3.5	1.1	49.4	扁平片刃。分銅形。刃部は緩い弧状を成す。下面には成形痕を残す。上面は自然面？ 刃部に刃こぼれ痕。	緑泥岩？
72	392	C25-22	b	石斧	5.5	4.2	2.4	40.6	基部？両面丁寧に研磨。端部を鋭く仕上げる。	超塩基性岩
72	393	B25-16	d-3	石斧	6.4	4.6	1.2	47.1	扁平片刃。上下面に成形痕を残す。刃部は弧状を成し、刃こぼれ痕。	結晶片岩
72	394	B25-12	d	石斧	3.1	2.1	0.9	7.6	片刃？自然礫の端部を刃部として加工。	
72	395	B25-11	d	石斧	9.3	1.7	1.1	29.9	長細の自然礫端部を研磨。未製品？	結晶片岩（泥質）
72	396			石斧	8.0	4.4	1.4	87.9	扁平片刃。側面は中央でやや折れる。刃部は弧状を成す。側面に敲打痕顕著。	超塩基性岩
72	397			石斧	8.2	3.2	0.8	34.8	扁平片刃。短冊形。側面、基部は平坦面。	結晶片岩（泥質）
73	398	C25-21	c	石斧	13.5	6.4	1.8	185.5	基部？弧状を成す。両面丁寧に研磨。	緑色片岩
73	399	C26-5	c	石斧	12.1	5.8	1.6	181.6	下面基部、上面刃部に研磨痕。上面基部、側面に敲打痕。	緑色片岩
73	400	C25-23	s	石斧	10.1	4.7	3.3	238.3	基部？肉厚の端部を両面から研磨。敲打痕を基部に留める。一部で破断。	緑色片岩
73	401			石斧	9.1	7.6	1.2	147.9	斧の片側を大きく欠損の後、再調整し使用？刃部は弧状を成す。	超塩基性岩
73	402	C26-10		石斧	11.9	2.1	3.9	161.6	端部を両面から丁寧に研磨。刃部は弧状を成す。	緑泥片岩
73	403	B25-11	d	石棒	21.9	6.3	5.2	1210.0	円柱状。先端は丸く仕上げる。側面には敲打痕を残す。	結晶片岩（泥質）
73	404	C25-16	a		6.9	4.2	2.6	14.4	穿孔痕又は抉り痕。	軽石
73	405	B25-12	d	叩石	6.0	6.7	3.6	207.9	端部に敲打痕が多く残る。	緑色チャート
74	406	C25-25	c	叩石	15.4	10.5	7.0	1735.0	楕円形。長軸方向の端部に敲打痕顕著。裏面中央が大きく剥落。	砂岩
74	408	C25-16		叩石	12.4	10.8	7.1	1282.0	やや扁平。使用痕は端部をほぼ全周する。特に両端、両側部分は深く抉れる。	
74	407	B25-17	b	叩石	14.6	11.6	4.8	1240.0	扁平。長軸端部（1箇所）と短軸端部（2箇所）敲打痕顕著。	砂岩
75	409	C25-17	d	叩石	9.7	8.8	3.6	406.6	扁平。敲打痕は端部をほぼ全周する。	

Fig.	遺物	出土地点 遺構 / グリッド	層	種類	遺物名	特徴	法量 (cm)			木取り	樹種
							全長	全幅	全厚		
76	414	B25-12	d	装飾品？	円環状木・木皮製品 / 指輪？	円形の木質部に2本の細い樹皮を巻き付ける。	1.8				桜or榎の樹皮
76	415		d	食器	漆塗膜木製品 / 椀又は蓋	内面に赤漆と黒漆、外面には黒漆が残る。	7.0	2.0	3.0		モクレン科モクレン属近似種
76	416			工具？	籠状木製品	端部は丸く仕上げ、両面から削る。	34.0	1.8	1.8		ブナ科コナラ属アカガシ亜属
76	417	B25-12	d		小型方形柱状木製品 / 箸？	端部炭化（焦化材）	24.3	0.9	0.7		ヒノキ科ヒノキ属
76	418		d	農工具？	割り出し加工木製品	紐穴2孔。紐に因る押圧痕が残る。	13.9	3.4	4.3		クスノキ科クスノキ属クスノキ
76	419	B25-11	d	農工具？	板状木製品	鋸先？	8.5	13.0	1.2		証目 ブナ科コナラ属アカガシ亜属
76	420	P32		建築部材	柱根	上部は破断。加工痕なし。	22.5	12.3	9.3		ブナ科クリ属クリ
77	421	B24-12	d	部品	端部加工木製品	端部にU字状の加工。	25.2	8.9	2.4	板目	ヒノキ科ヒノキ属
77	422	C25-17	d		板状木製品	表面に加工痕が残る。	30.1	6.0	1.1	板目	ヒノキ科ヒノキ属
77	423	SK1			板状木製品 / 蓋	丁寧に面を仕上げる。	47.9	11.7	2.8		
77	424	SK1			板状木製品 / 蓋？	鋸状工具痕が顕著に残る。	63.6	17.3	2.7		

(3) 1C区(その2)

本編は1C区の調査成果(その2)とし、『居徳遺跡群』⁽¹⁾所収分以外の1C区の調査成果について報告する。

1. 調査の方法(補遺)

1C区の調査方法については前述した。

遺物取上げの最小単位は、全調査区統一の一边4mのグリッド(方形区画)であり、その区画の状況と名称はFig.79に示した。グリッドは、国土座標第Ⅱ系におけるXY両座標の「4」の倍数値(整数値)の交点を利用して区画した。グリッドの名称は、まず一边20mの大グリッド名を「Y軸方向の英文字(西からA, B, C・・・)」+「X軸方向の数字(北から1, 2, 3・・・)」で表した。これに、1つの大グリッド内の北西隅を1とし、東へ向かって2, 3, 4・・・の順で、南東隅を25とする小グリッド名を枝番号でつないだ。

2. 層序(補遺)(Fig.80)

本次報告に関連する層序を、調査区西壁の土層断面図で示した。既報の第Ⅰ層群も図示しているが、当該断面図における「D層」「D層」「D層」などの細分層名は、あくまでその図中においてのみ有効な名称であり、遺物の取上げに反映できたものではない。したがって、遺物取上げに反映できたものと明確に区別するために、『居徳遺跡群』⁽²⁾における細分層名とは

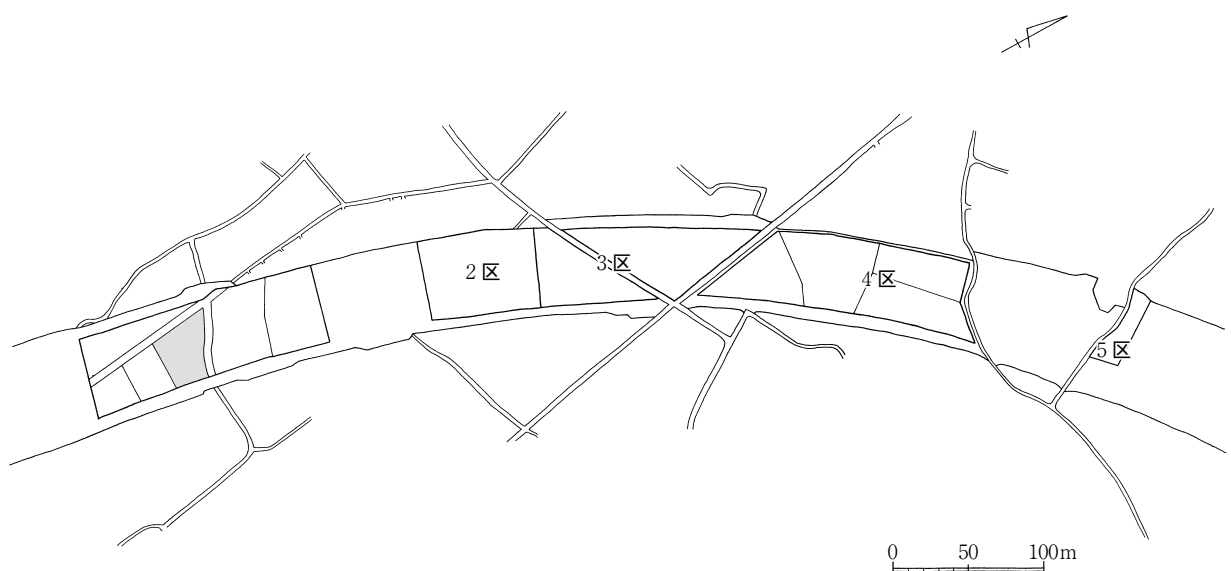


Fig.78 1C区的位置(S:1/5,000)

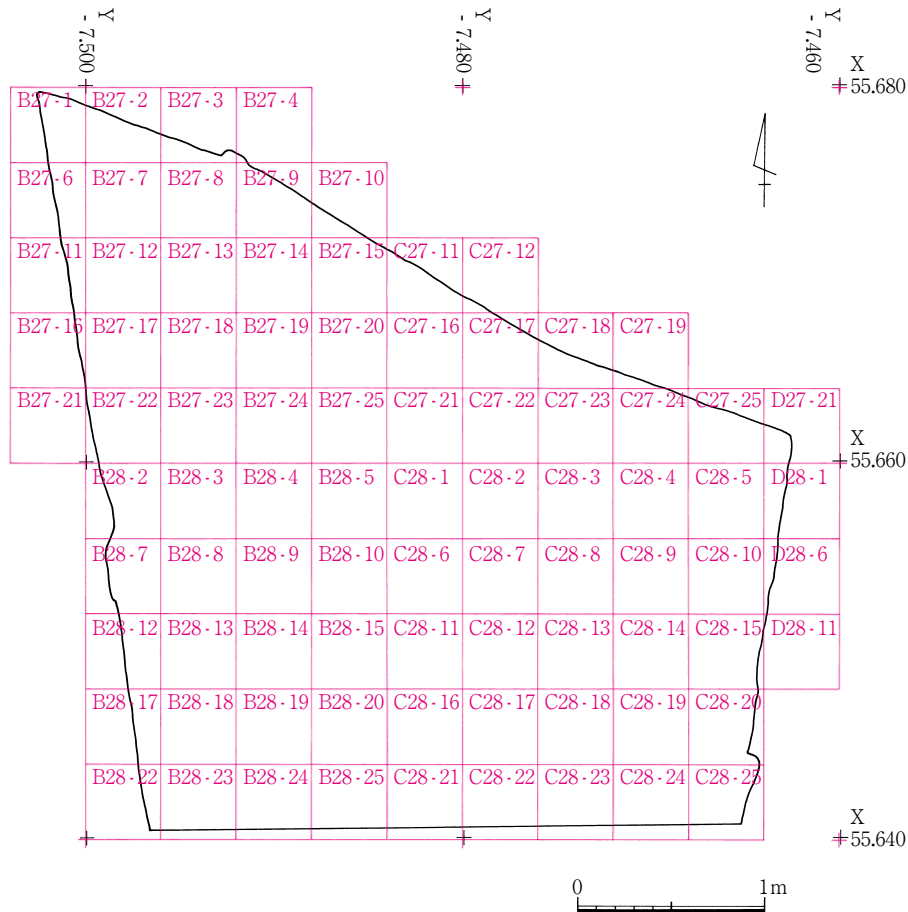
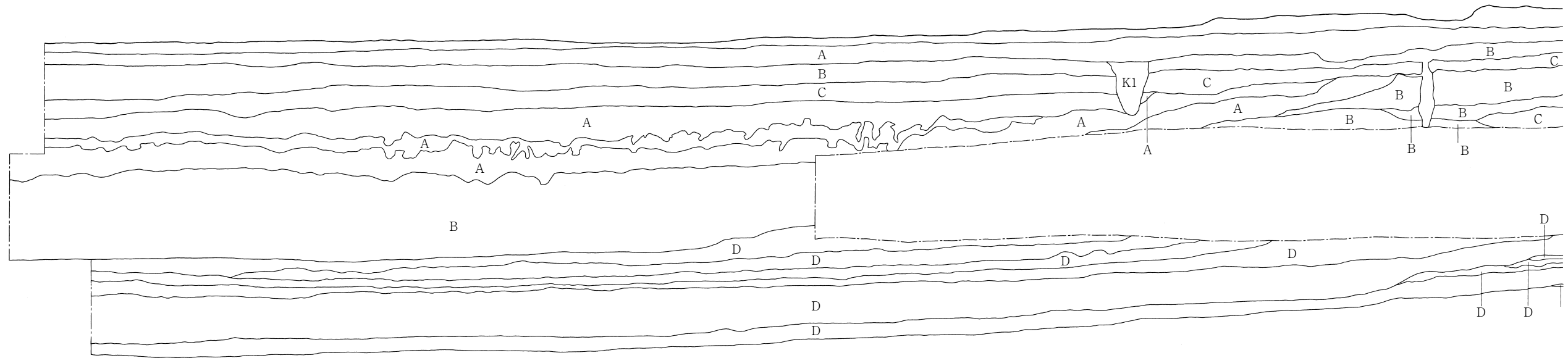


Fig.79 1C区グリッド割り図 (S : 1/400)

異なる表記法を使用することとした。以下、層名の「第」を省略する。

- 層：機械掘削を実施した表土層である。調査地点の現況から、水田耕作土に対応する。
 - 層：機械掘削を実施した部分で、層までの間層を指す。黄灰色～褐灰色系の粘土ないし粘質土であり、完掘後の分層でA層～D層の4枚に分けることができた。ほぼ水平堆積である。層内における攪乱痕跡が認められ、旧耕作土を含んでいるものと考えられる。
 - 層：第1面の包含層掘削の対象とした部分で、第1面の遺構検出面(層)に達するまでの堆積層を指す。灰色～灰褐色を呈する粘土、砂粘土、礫粘土から構成される。遺物の取上げはA層～D層の4層に大別しておこない、完掘後にそれぞれを細分して図化した。
- 層上面が傾斜面であるため、層の各層も傾斜を有している。断面図からは、層中最下層のD層は斜面上位部にのみ堆積し、B層・C層と堆積が進行するとともに低地側へとその範囲を拡大してゆき、最上層のA層は低地側にのみ存するという、低地の埋積過程を看取することができる。しかし、この経過のすべてを自然の営力によるものと理解することはできない。すなわち、C層・D層に含まれる礫の出自が説明できないためである。この両層は礫を含むと同時に、土中に含有される鉄分の酸化・固結の度合いがきわめて顕著であり、鉄分を介した土器等への付着物の付き具合も尋常で

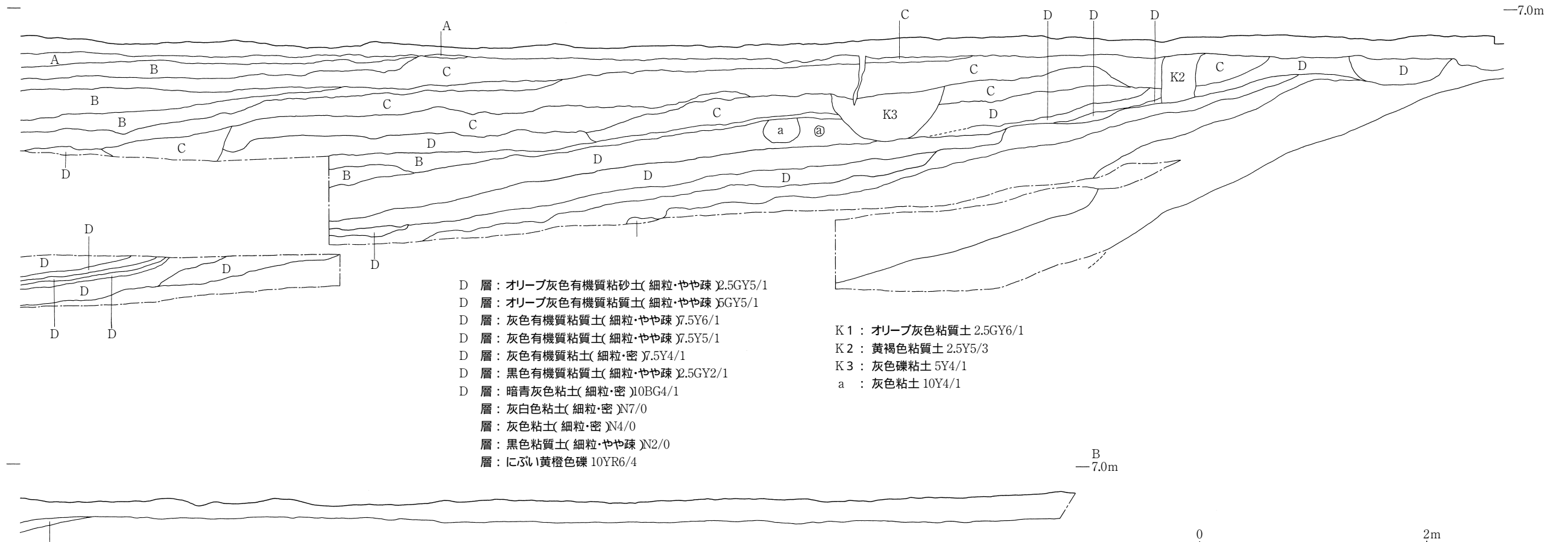


層：にぶい黄色粘質土 2.5Y6/4
 A層：暗灰黄色粘質土 2.5Y5/2
 B層：黄灰色粘土 2.5Y5/1
 C層：褐灰色粘土 10YR4/1
 D層：黄灰色粘質土 2.5Y4/1
 A層：灰色粘土 N5/0
 A層：オリーブ灰色粘土 2.5GY5/1

A層：暗灰色粘土 N3/0
 A層：灰色粘土 N4/0
 B層：褐灰色粘土 10YR5/1
 B層：褐灰色粘土 10YR4/1
 C層：灰黄色礫粘土 2.5Y6/2
 C層：オリーブ灰色砂粘土 2.5GY5/2
 C層：オリーブ灰色礫粘土 2.5GY6/1

C層：褐灰色礫粘土 10YR4/1
 D層：灰褐色礫粘土 7.5YR4/2
 B層：灰色粘土(細粒・密) N6/0
 B層：暗青灰色礫粘土(疎) 10BG4/1
 B層：暗青灰色礫粘土(疎) 5BG4/1
 D層：灰色粘質土(細粒・疎)
 D層：褐灰色砂粘土 7.5YR4/1

D層：黄灰色粘土 2.5Y5/1
 D層：灰色粘土(細粒・密) N4/0
 D層：灰色粘土(細粒・密) N5/0
 D層：灰色粘土(細粒・やや疎) N3/0
 D層：灰色有機質粘土(細粒・やや疎) 10Y5/1
 D層：灰色粘土(細粒・密) 10Y6/1
 D層：灰色有機質粘土(細粒・やや疎) 5Y5/1



D層：オリーブ灰色有機質粘砂土(細粒・やや疎) 2.5GY5/1
 D層：オリーブ灰色有機質粘質土(細粒・やや疎) 5GY5/1
 D層：灰色有機質粘質土(細粒・やや疎) 7.5Y6/1
 D層：灰色有機質粘質土(細粒・やや疎) 7.5Y5/1
 D層：灰色有機質粘土(細粒・密) 7.5Y4/1
 D層：黒色有機質粘質土(細粒・やや疎) 2.5GY2/1
 D層：暗青灰色粘土(細粒・密) 10BG4/1
 層：灰白色粘土(細粒・密) N7/0
 層：灰色粘土(細粒・密) N4/0
 層：黒色粘質土(細粒・やや疎) N2/0
 層：にぶい黄橙色礫 10YR6/4

K1：オリーブ灰色粘質土 2.5GY6/1
 K2：黄褐色粘質土 2.5Y5/3
 K3：灰色礫粘土 5Y4/1
 a：灰色粘土 10Y4/1

A・BはFig.81に対応

Fig.80 1C区西壁堆積土層断面図(S:1/40)

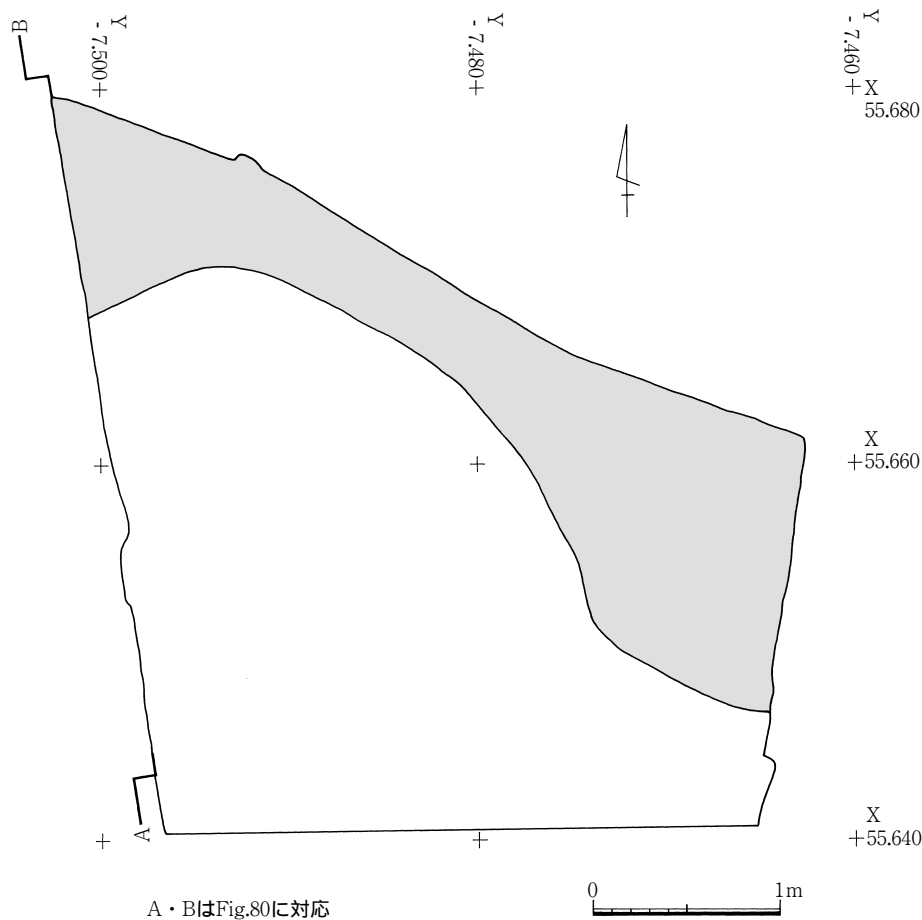


Fig.81 1C区第 層以下調査範囲図 (S : 1/400)

ない。風成・水成堆積起源だけでは説明がつかず、斜面上方からの崩落土、あるいは人為的な削平行為による客土の可能性も考えられる、反転層と理解すべきであろう。こう考えてみると、当初から 層は、C層・D層の反転層と、礫を含まず水成堆積層とみられる A層・B層との2者に大きく分けて捉えるべきであった。反転層には古墳時代前期～中期の遺物が含まれており、同層の形成時期の上限を示している。また、A層は暗灰色を呈する粘土層で、「D層⁽³⁾期」の次の寒冷期に形成された旧表土層と考えられる。

なお、層下面と層上面との間は不整合面であったと『居徳遺跡群』⁽⁴⁾に記したが、層の礫は層中に深く沈下・侵入している箇所があり、必ずしも截然と両者の境界を捕捉できていたわけではない。例えば斜面上方側におけるD層などでは、礫の侵入のない本来の層を追求するあまり、その殆どをD層あるいはC層として取り上げてしまっており、結果的に、分層に基づく遺物の取上げに失敗している。第層群中におけるA層⁽⁵⁾の位置付けのように、両者の中間的な扱いとすべきであった。

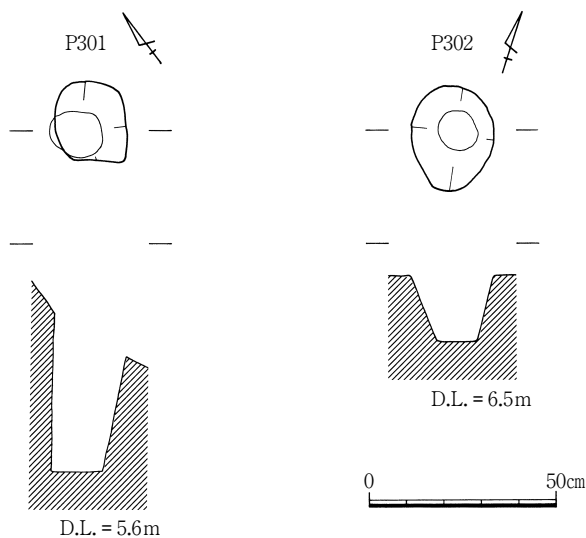


Fig.82 1C区第 層上面検出遺構 (S : 1/20)

層：既報のため省略。 B層・ D層の性格は『居徳遺跡群』⁽⁶⁾の内容に等しい。

層：上面を第2面の遺構検出面とした灰白色の粘土層で、無遺物層である。(実際は、突帯文土器とみられる胴部片1点が出土しているが、上層から貫入したものと理解できよう。)調査区東半部では、一部で遺構検出面以下まで掘り過ぎてしまったため、段差が残り、等高線に乱れが生じてしまっている。

層：灰色の粘土層で、中央部の土層観察用のベルト壁面から突帯文土器片1点(Fig.111-1330)が採取された。したがって無遺物層とよぶことはできないが、遺物の含有量はきわめて稀少である。

層：第3面の包含層掘削の対象とした黒色粘質土層である。火山ガラスの微細片を多く含んでおり、火山灰起源の腐植土層と考えられる。1C区の調査範囲においては最下位に位置する旧表土層である。遺物は僅少であるが、縄文前期土器、縄文後期土器等が出土している。

層：上面を第3面の遺構検出面として扱った、にぶい黄橙色を呈する礫層である。この地点における基底礫層であり、表層部分は風化により軟質化している。

3. 遺構

1C区の調査では、第 層上面・第 層上面・第 層中層・第 層上面の、4つの局面において遺構を検出した。

(1)第 層上面検出遺構 (Fig.83)

第 層以下の調査は部分的なものであるため、その範囲をFig.81に示した。

463個のピット状遺構を確認したが、遺物を伴うものは極めて少なく、年代を判別する根拠に乏しい。一方、遺構の規模には一定のまとまりが見受けられ、等高線を意識したかのような配列がみえる。また平面的には円形及び方形らしきピット状遺構の並びも看取されるが、急傾斜面のため建物跡等の復元は困難と考えられる。したがって、現時点においては、これらの性格は不明とせざるを得ない。

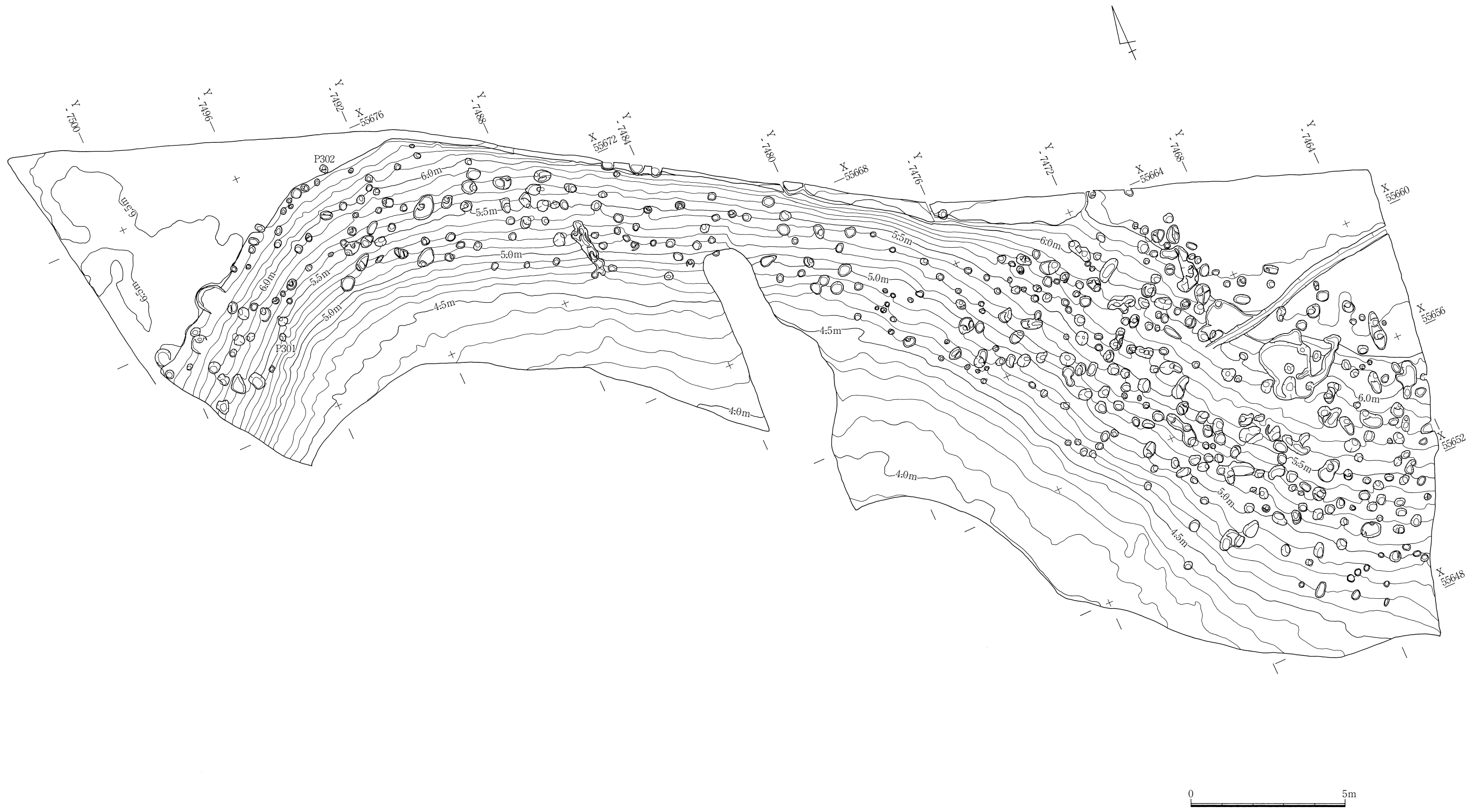


Fig.83 1C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/120)

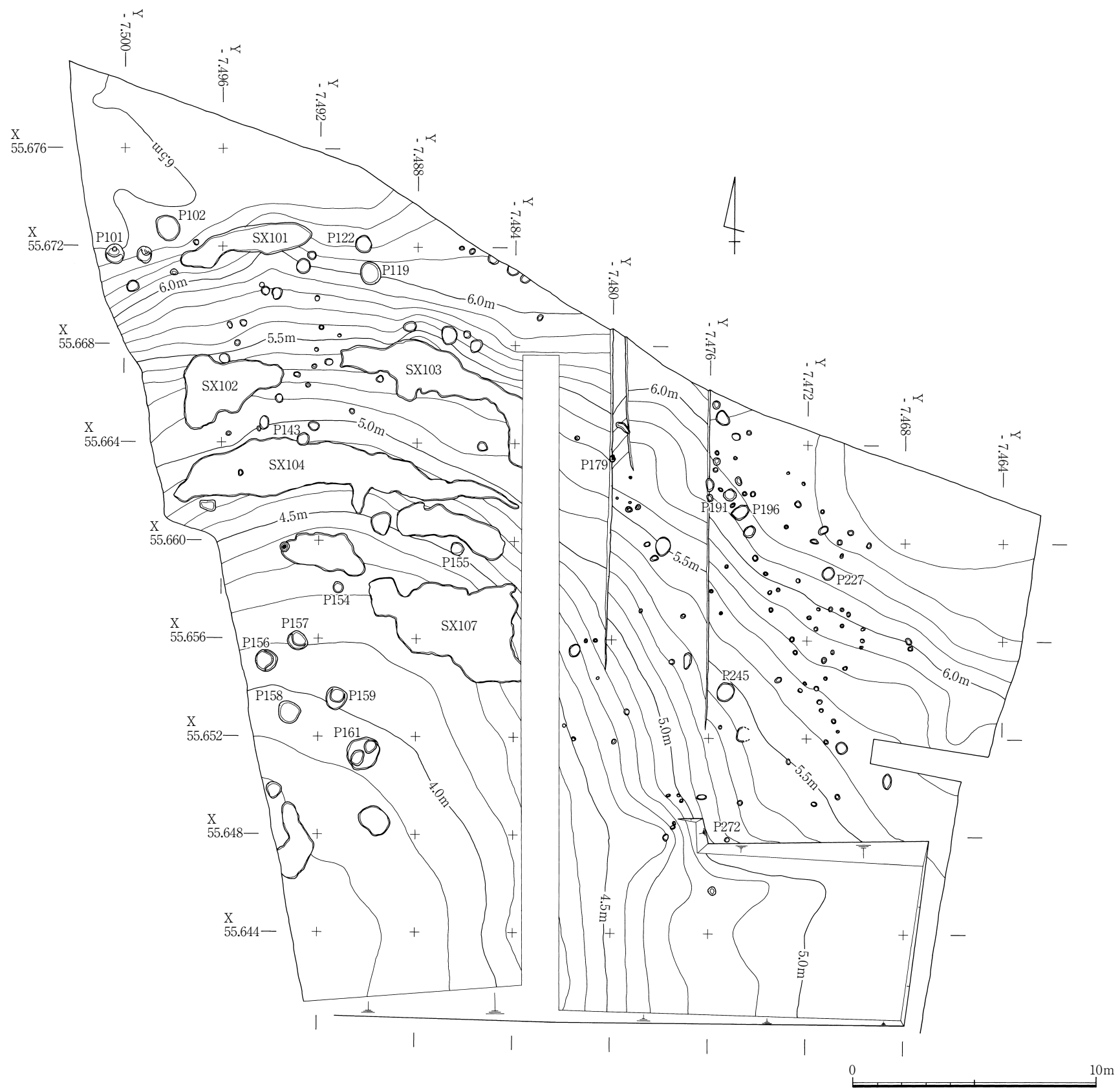


Fig.84 1C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)

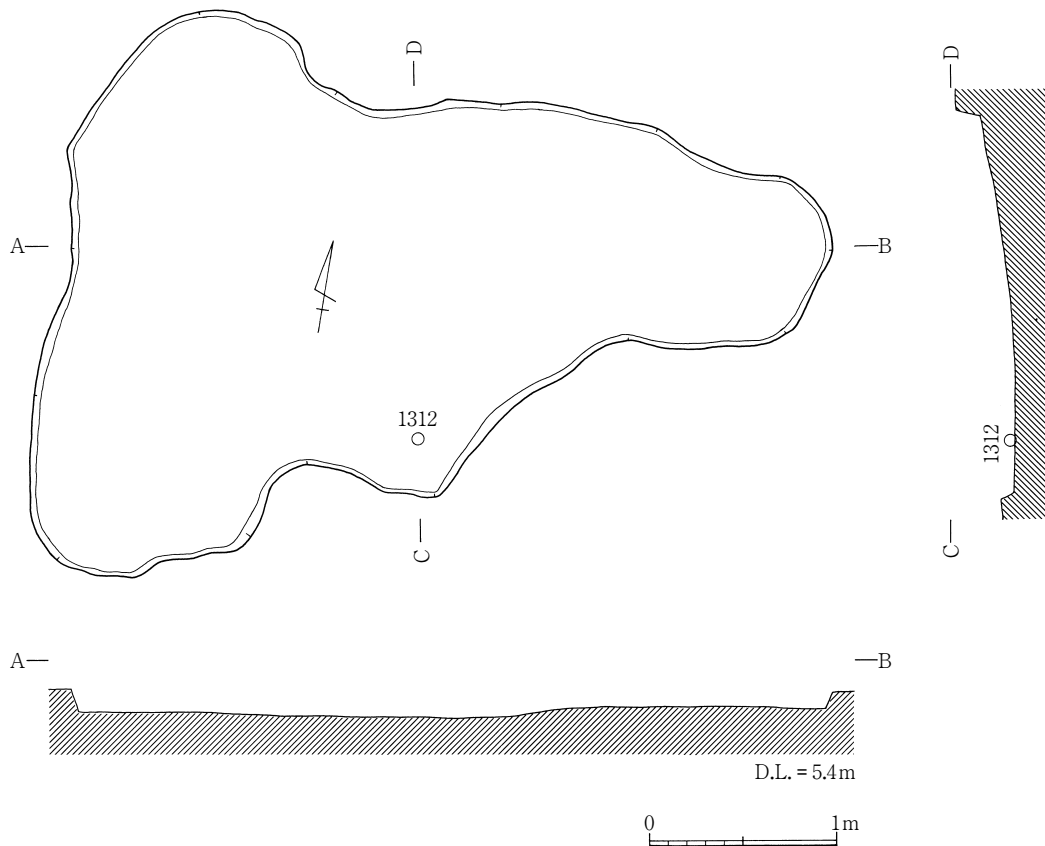


Fig.85 1C区第 層上面検出遺構1・SX102 (S : 1/40)

なお、調査範囲東端部にある溝状遺構は、第二次世界大戦当時に掘削されたとみられる暗渠の埋設坑である。

ピット状遺構 (Fig.82)

P 301

平面形は不整形で、長径21cm、短径20cm、検出面からの深さは42cmである。埋土は、黒褐色(2.5Y.3/1)粘土～粘礫土で、第 層の破碎礫を含んでいる。遺物は、縄文土器1点が出土している。遺構は、縄文時代前期の所産と考えられる。

P 302

平面形は楕円形で、長径28cm、短径23cm、検出面からの深さは18cmである。埋土は、黒褐色(2.5Y.3/1)粘土～粘礫土で、第 層の破碎礫を含んでいる。遺物は、土器細片? 1点が出土している。遺構は、縄文時代前期の所産と考えられる。

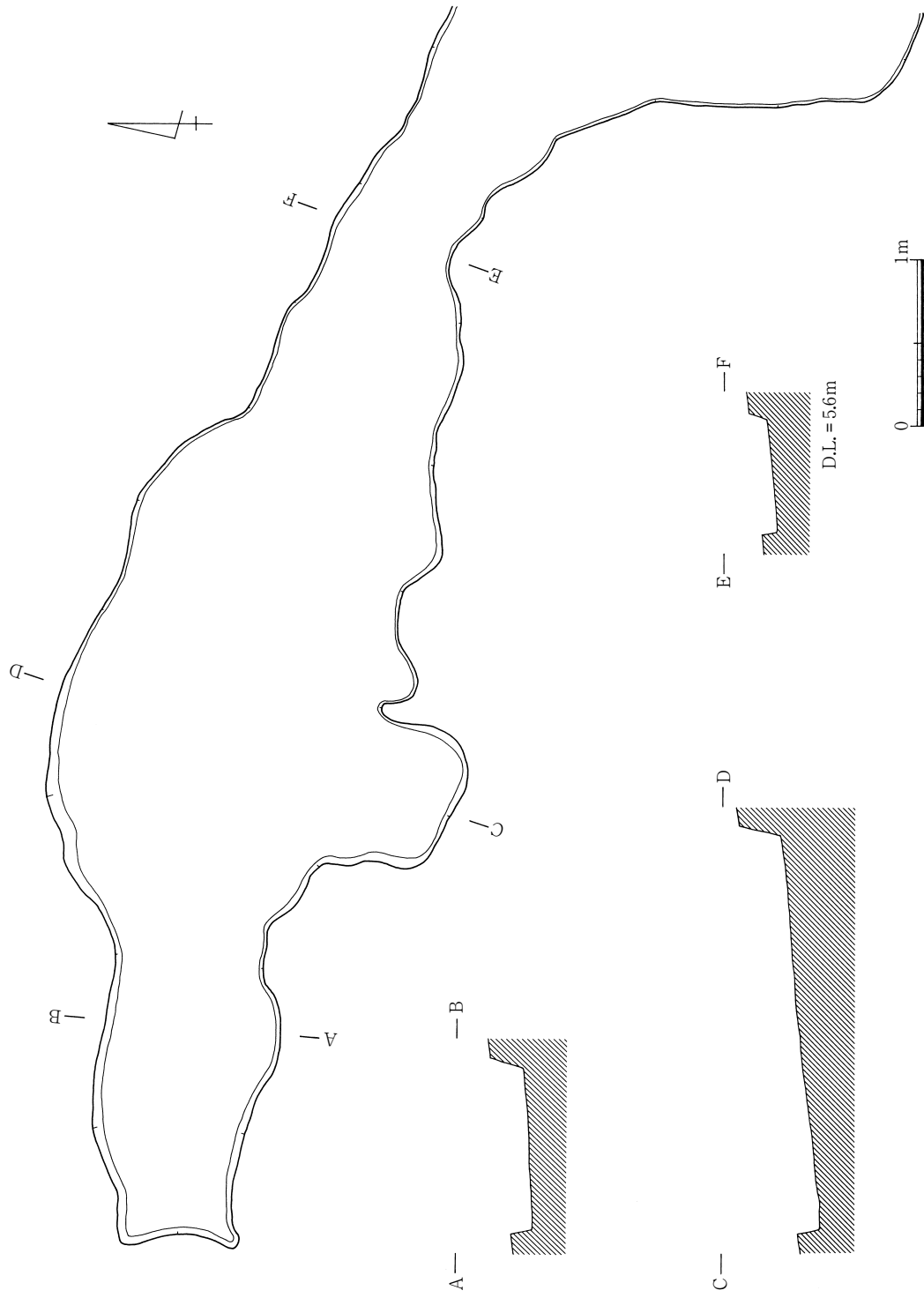


Fig.86 1C区第 層上面検出遺構2・SX103 (S : 1/40)

(2)第 層上面検出遺構 (Fig.84)

性格不明遺構 8 基，ピット状遺構175基を確認し，この中から出土遺物が得られた性格不明遺構 4 基，ピット状遺構18基を図示した。南西部で検出した 5 基のピット状遺構は，その配列や規模に相関性が認められることから，「ピット状遺構群」として一括して扱った。

性格不明遺構

性格不明遺構として 8 基を確認した。これらは斜面上部にある 1 例を除いて，いずれも掘り込みが浅く，また長軸方向は等高線と平行を指向する場合が多いことから，本来 D層の最下部として掘り上げるべき，窪地部分であったものと考えられる。したがってこれらの出土遺物は，D層出土の遺物と同義に扱うことができるものである。

S X 102 (Fig.85)

平面形は不整形で，長径4.52m，短径2.88m，検出面からの深さは13cmである。埋土は，灰色 (7.5Y.4/1) 粘土で，炭化物を含む。遺物は，縄文土器，深鉢～甕形土器，弥生土器，石器等が出土しており，縄文土器 1 点，弥生土器 1 点を図示 (Fig.109・1311・1312) した。遺構は，縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

S X 103 (Fig.86)

平面形は不整形で，全長7.78m，最大幅2.50m，検出面からの深さは25cmである。埋土は，灰色 (10Y.4/1) 粘土である。遺物は，深鉢～甕形土器，石器？等が出土している。遺構は，縄文時代晩期～弥生時代前期の所

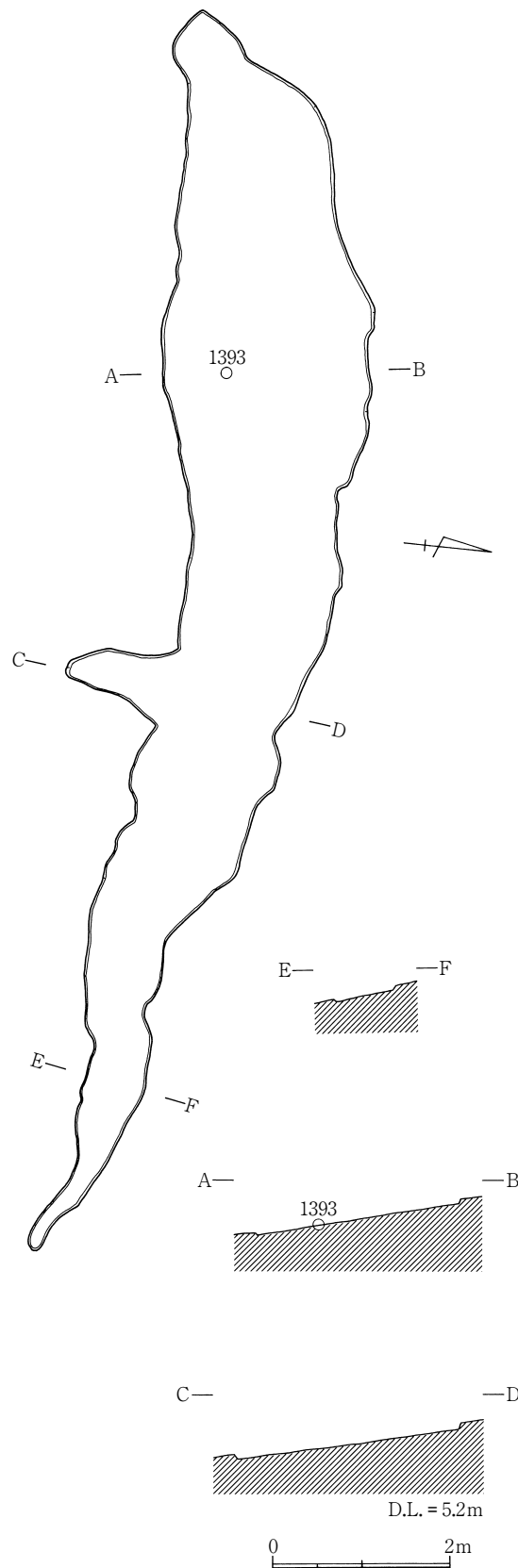


Fig.87 1C区第 層上面検出遺構3・SX104 (S : 1/80)

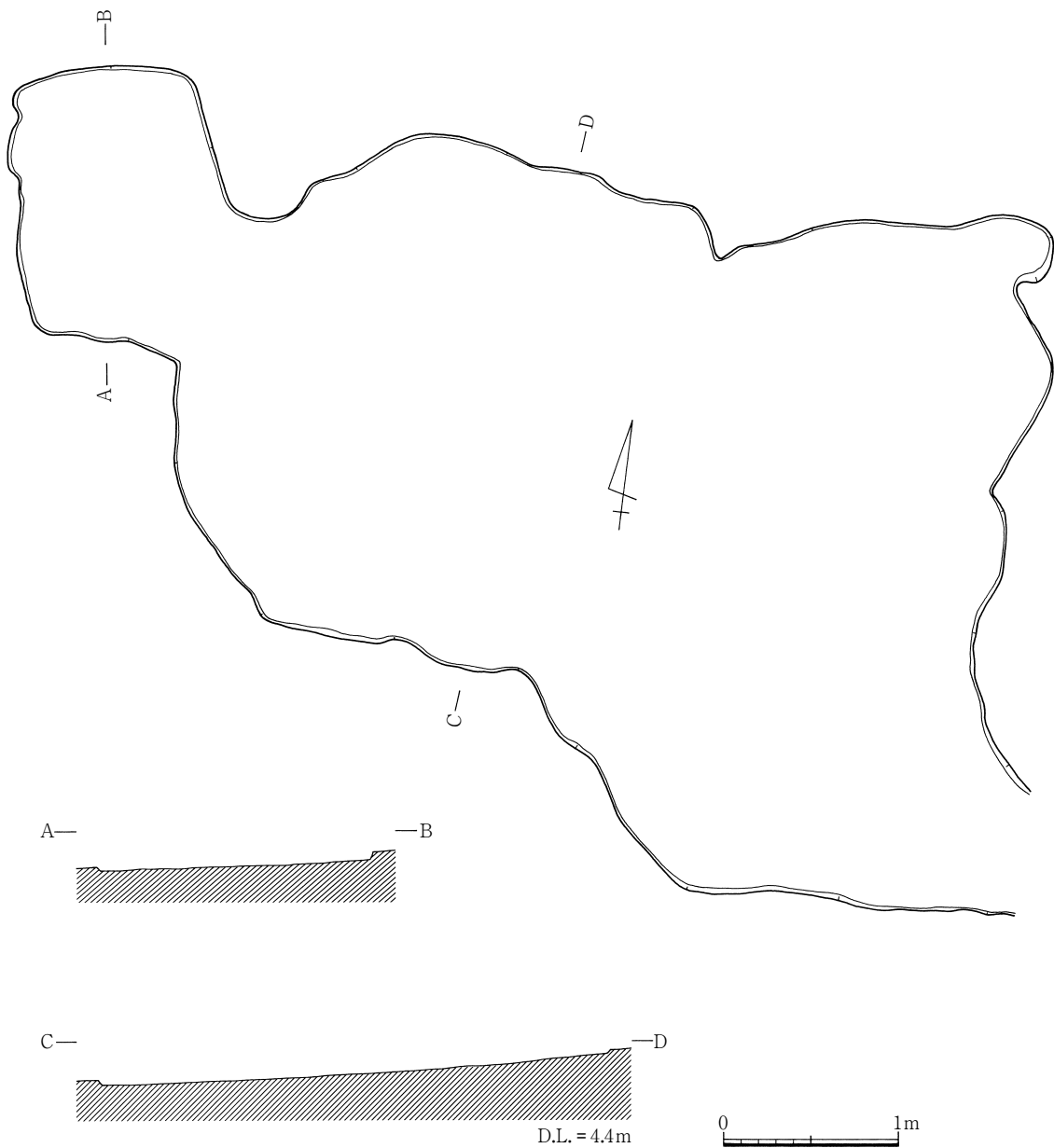
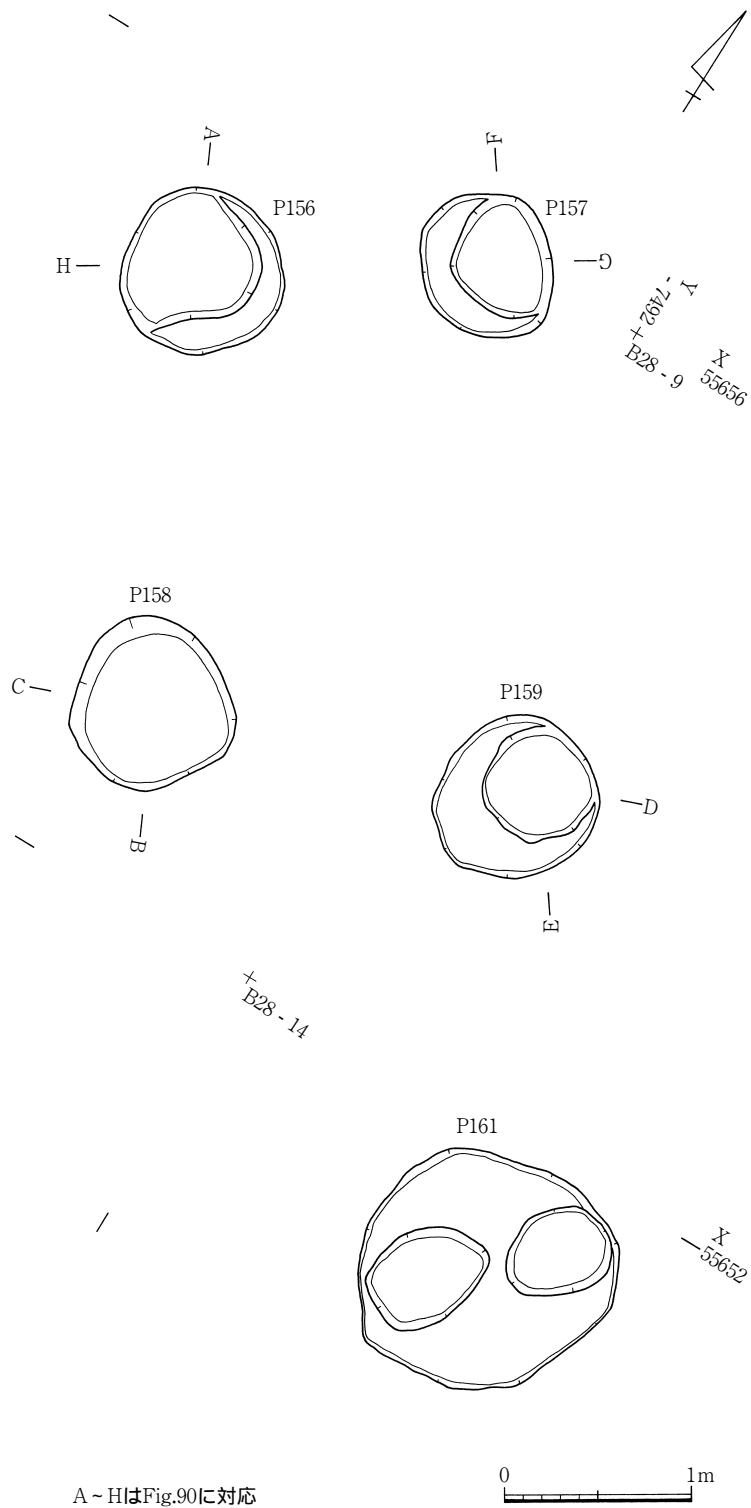


Fig.88 1C区第 層上面検出遺構4・SX107 (S : 1/40)

産と考えられる。

S X 104 (Fig.87)

平面形は溝状を呈し、全長14.10m、最大幅2.60m、検出面からの深さは8cmである。埋土は、灰色(N.5/1)粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器、石器等が出土しており、磨石1点を図示(Fig.122-1393)した。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。



A ~ HはFig.90に対応

Fig.89 1C区第 層上面検出遺構群1 (S : 1/40)

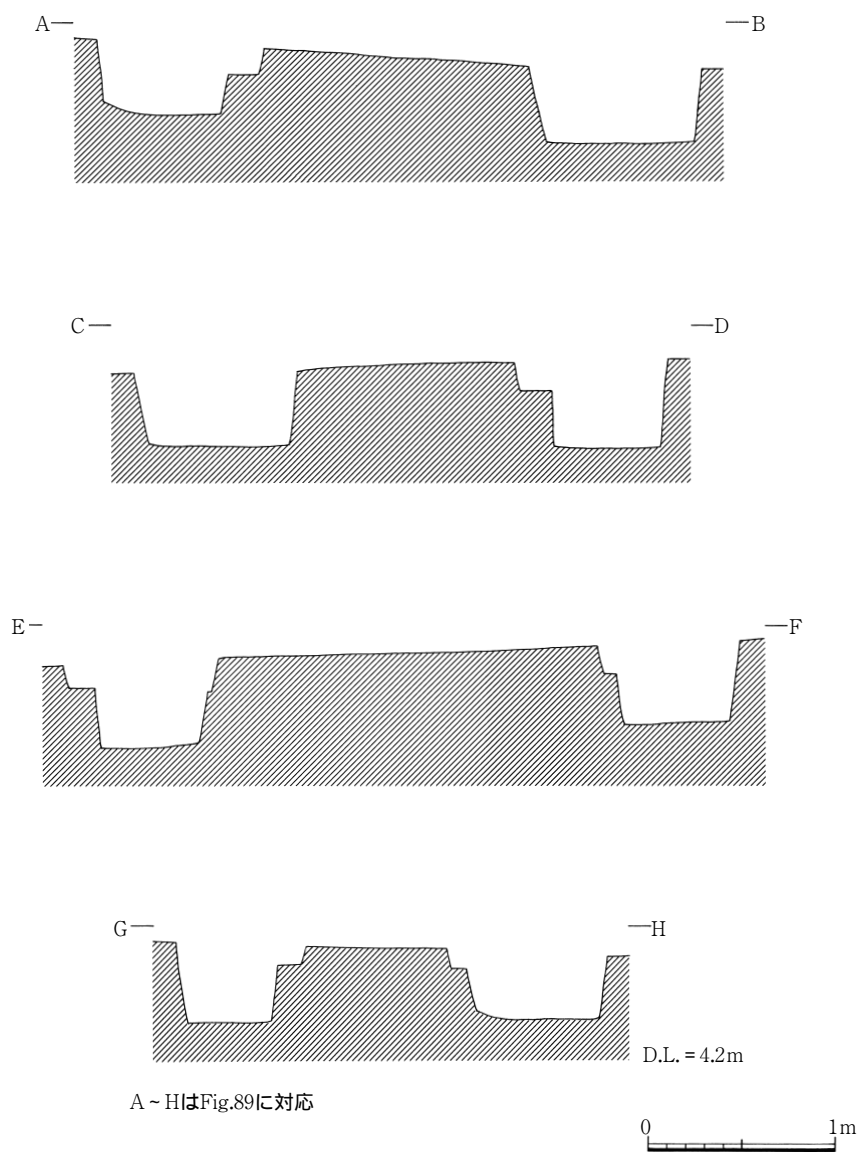


Fig.90 1C区第 層上面検出遺構群2 (S : 1/40)

S X 107 (Fig.88)

平面形は不整形で、全長7.20m、最大幅4.01m、検出面からの深さは5cmである。埋土は、灰色(N.4/0)腐植質粘土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

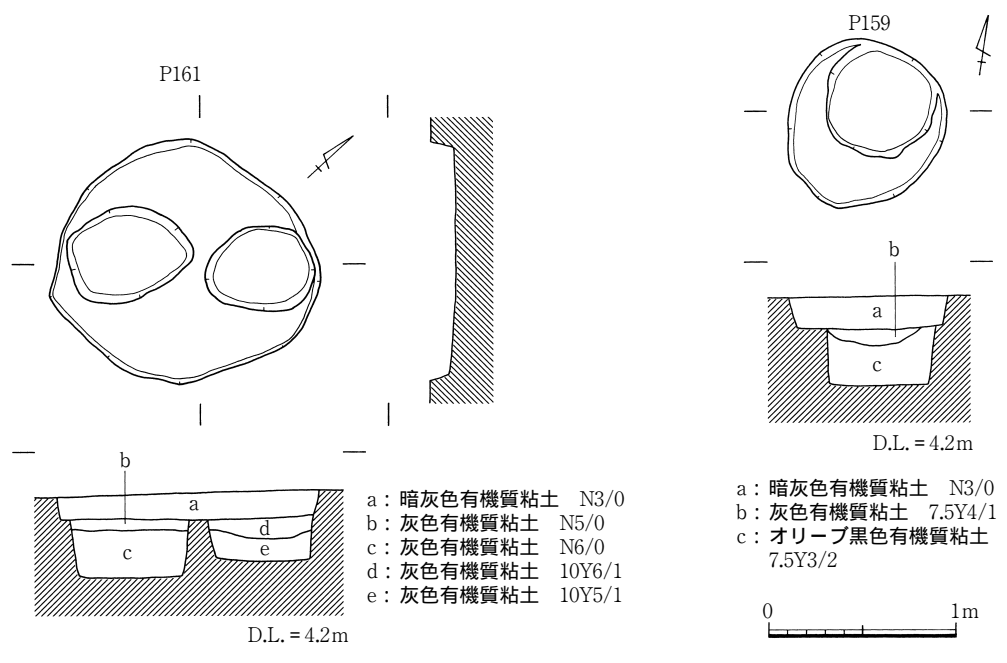
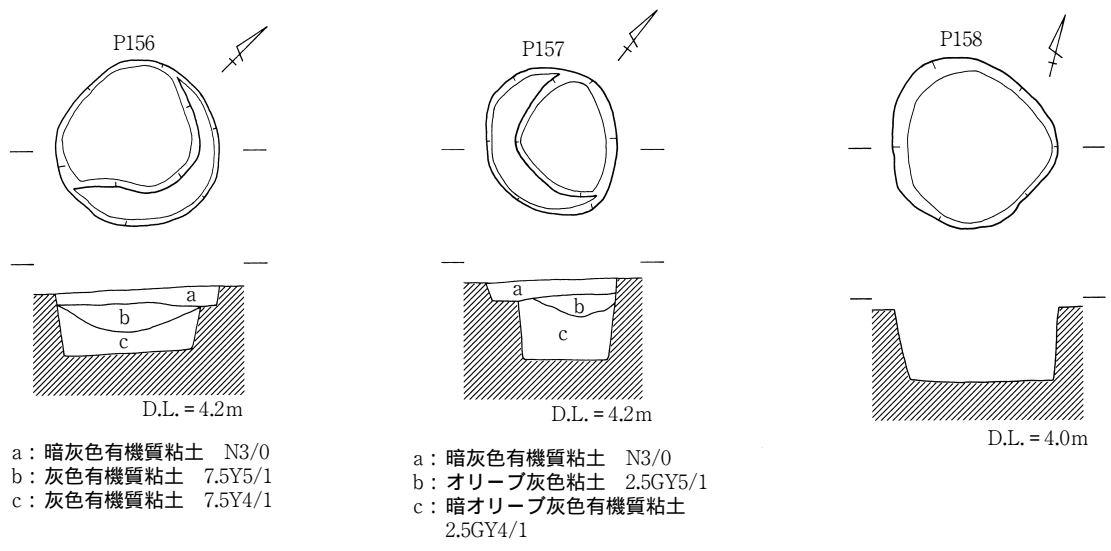


Fig.91 1C区第 層上面検出遺構5 (S : 1/40)

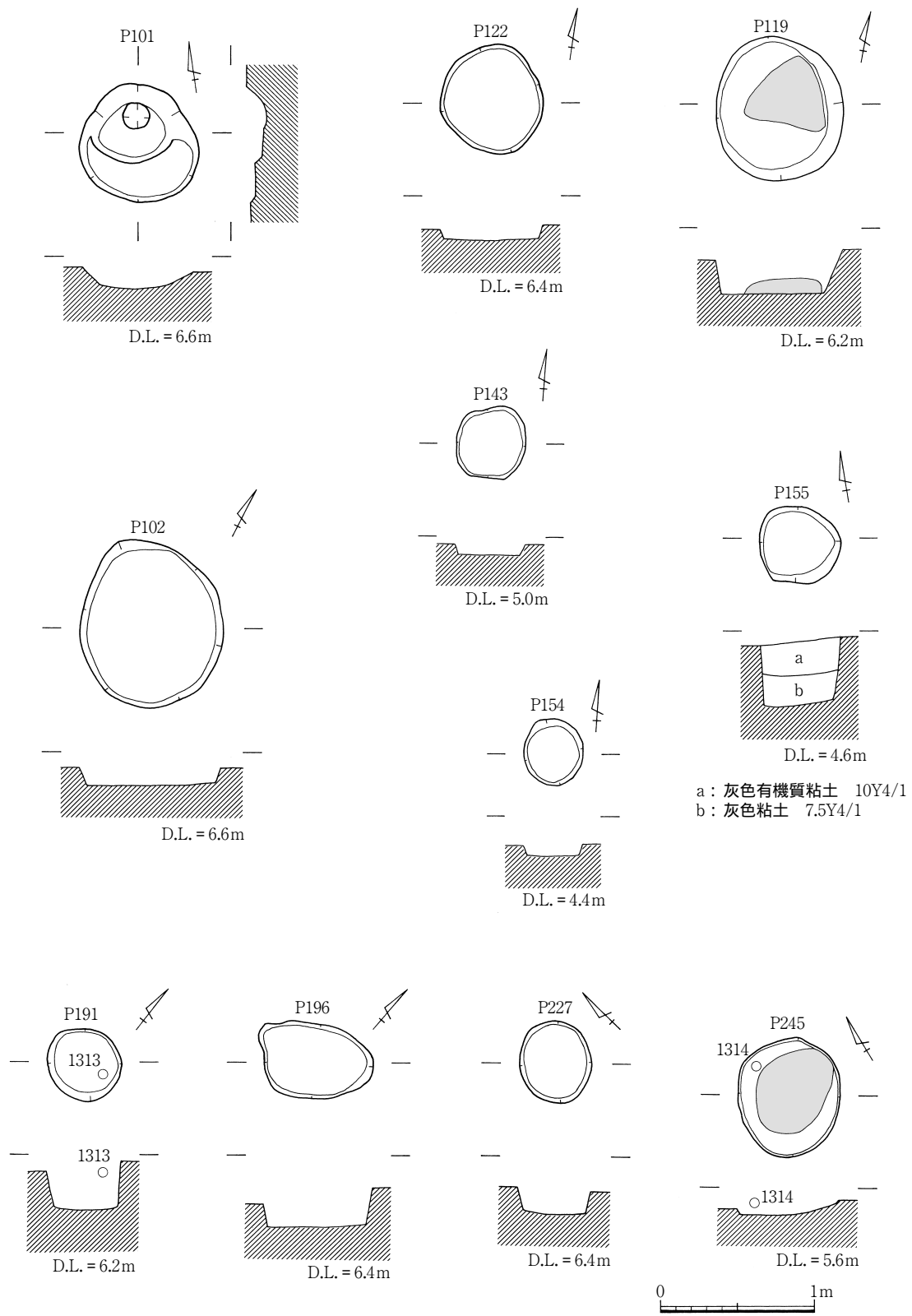


Fig.92 1C区第 層上面検出遺構6 (S : 1/40)

ピット状遺構群 (Fig.89・90・91)

調査区南西部において検出した P156～P159・P161の5基をピット状遺構群として抽出した。P156～P159は不整ながらも方形の配列を呈し、P161はP157・P159の並びの延長線上付近に位置する。P156～P159のうち、3基は2段の掘り込みを有しており、柱痕跡との認定は可能と思われるが、これをもって掘立柱建物跡とするには、なお検討不足と考えたため、現時点では留保した。

また、P161は柱痕跡の可能性のある2段の掘り込み2基を有している。P156～P159との位置関係から判断しても、P161は単独で存在したとは推察し難い。したがって、P156～P159との有機的な関係を想定し、遺構群に含めた。

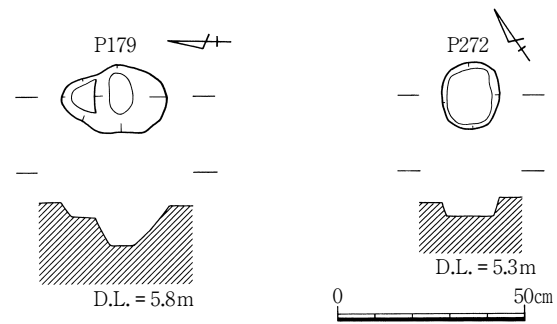


Fig.93 1C区第 層上面検出遺構7 (S : 1/20)

P156 (Fig.89・90・91)

平面形は円形で、直径87cm、検出面からの深さは37cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が不整円形で、長径81cm、短径68cm、1段目からの深さは26cmである。埋土は、暗灰色 (N.3/0) 腐植質粘土である。遺物は出土しない。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P157 (Fig.89・90・91)

平面形は楕円形で、長径77cm、短径69cm、検出面からの深さは44cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が不整楕円形で、長径67cm、短径50cm、1段目からの深さは31cmである。埋土は、暗灰色 (N.3/0) 腐植質粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器、堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P158 (Fig.89・90・91)

平面形は不整形で、長径91cm、短径87cm、検出面からの深さは40cmである。埋土は、暗灰色 (N.3/0) 腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P159 (Fig.89・90・91)

平面形は楕円形で、長径90cm、短径83cm、検出面からの深さは48cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形がほぼ円形で、長径60cm、短径56cm、1段目からの深さは32cmである。埋土は、暗灰色 (N.3/0) 腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

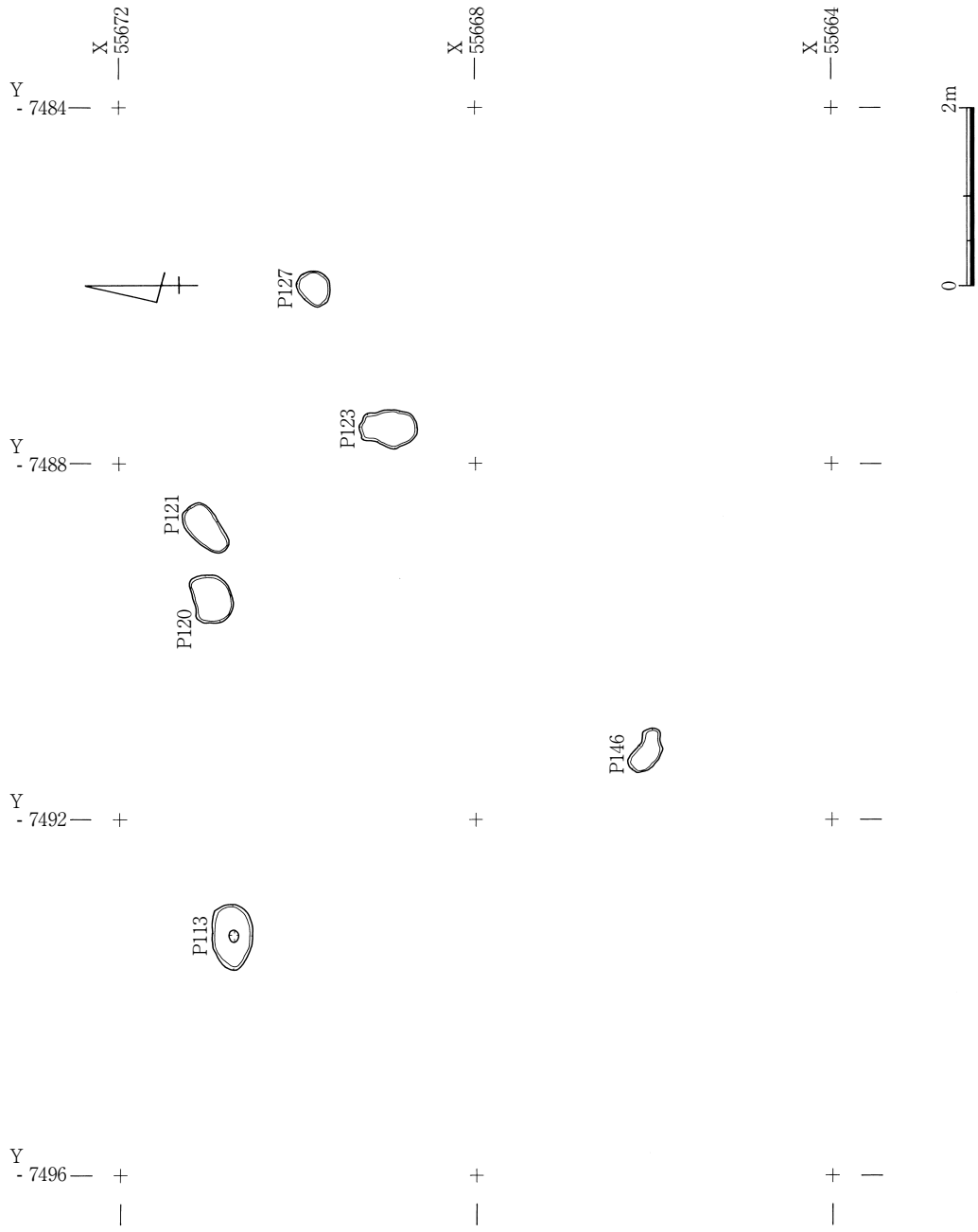


Fig.94 1C区第 層中層検出遺構全体図 (S : 1/80)

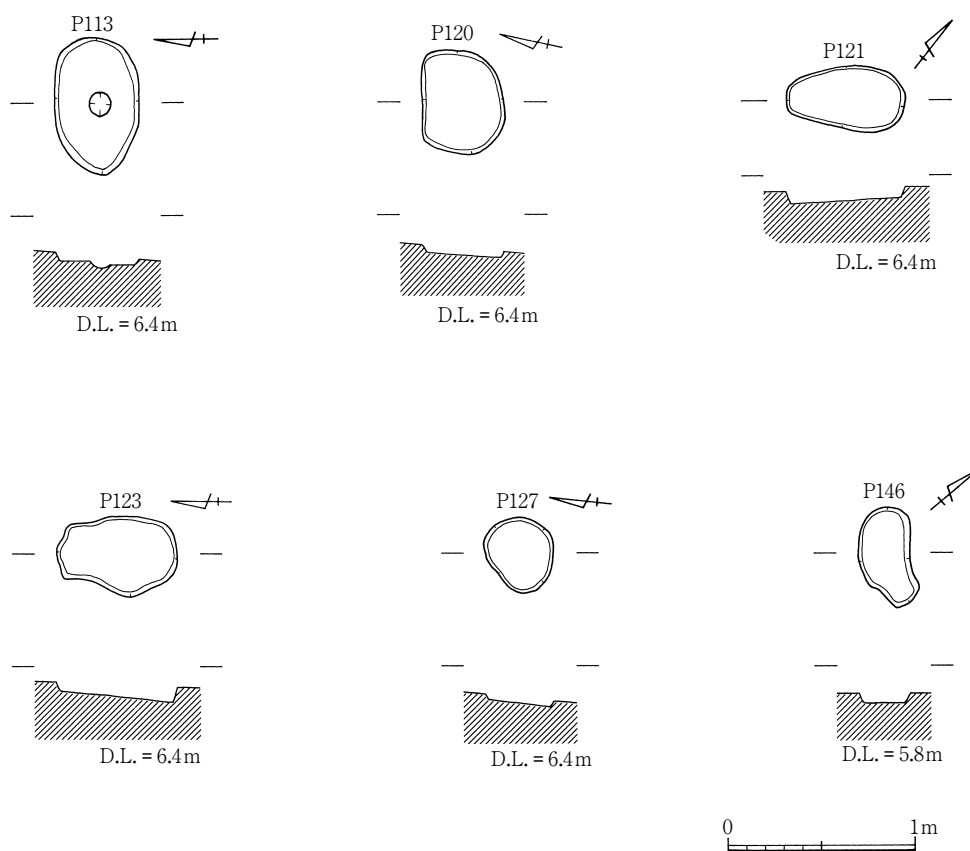


Fig.95 1C区第 層中層検出遺構 (S : 1/40)

P 161 (Fig.89・91)

平面形は不整形円で、長径144cm，短径130cm，検出面からの深さは47cmで、2段の掘り込み2基を有する。2段目の掘り込みは、西側のものが、平面形が楕円形，長径66cm，短径50cm，1段目からの深さ31cm，東側のものが、平面形が楕円形，長径59cm，短径45cm，1段目からの深さ22cmである。埋土は、暗灰色 (N.3/0) 腐植質粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器，堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

ピット状遺構 (Fig.92・93)

P 101 (Fig.92)

平面形は円形で、長径77cm，短径76cm，検出面からの深さは13cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が楕円形で、長径52cm，短径42cm，1段目からの深さは7cmで、さらに床面北端部が1段凹む。埋土は、暗灰黄色 (2.5Y.4/2) 粘質土で、黄色礫，炭化物を含む。遺物は、縄文土器，深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

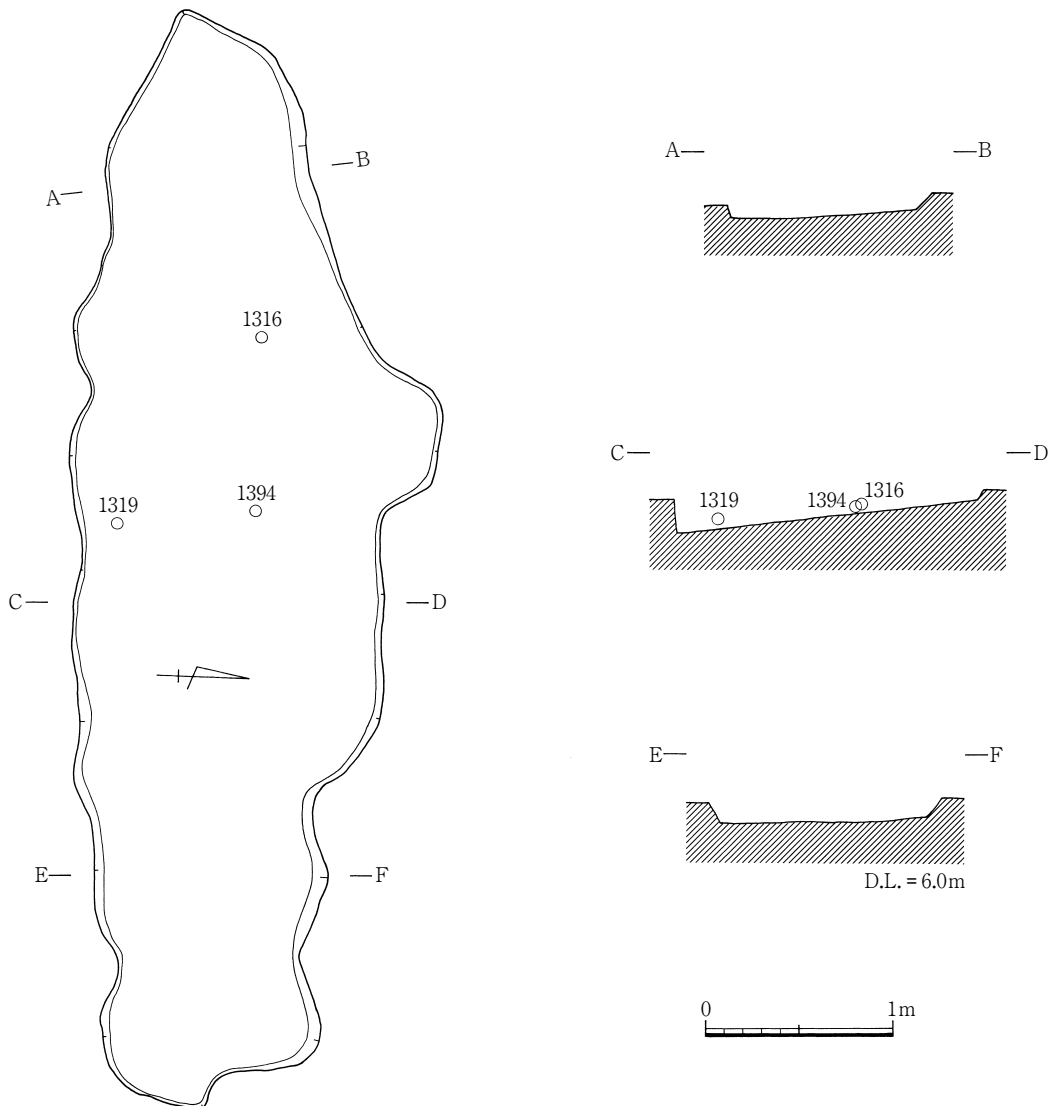


Fig.96 1C区第 層上面検出遺構1・SX1 (S : 1/40)

P 102 (Fig.92)

平面形は楕円形で、長径109cm、短径93cm、検出面からの深さは12cmである。埋土は、暗灰黄色 (2.5Y.4/2) 粘質土で、黄色礫、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 119 (Fig.92)

平面形は楕円形で、長径93cm、短径82cm、検出面からの深さは29cmである。埋土は、灰黄褐色 (10YR.4/2) 粘質土である。床面付近に炭化物の堆積が認められた。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

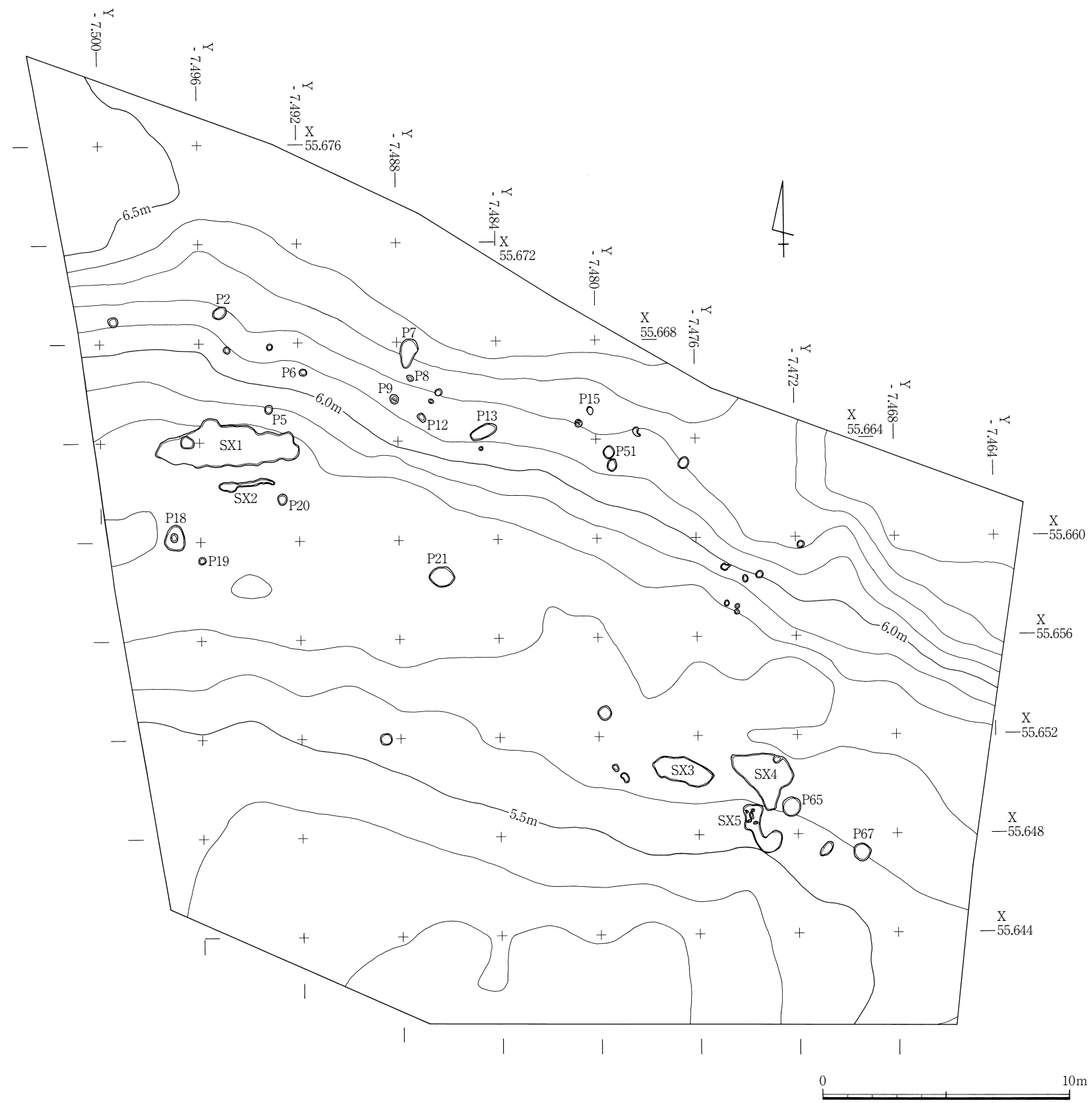


Fig.97 1C区第 層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)

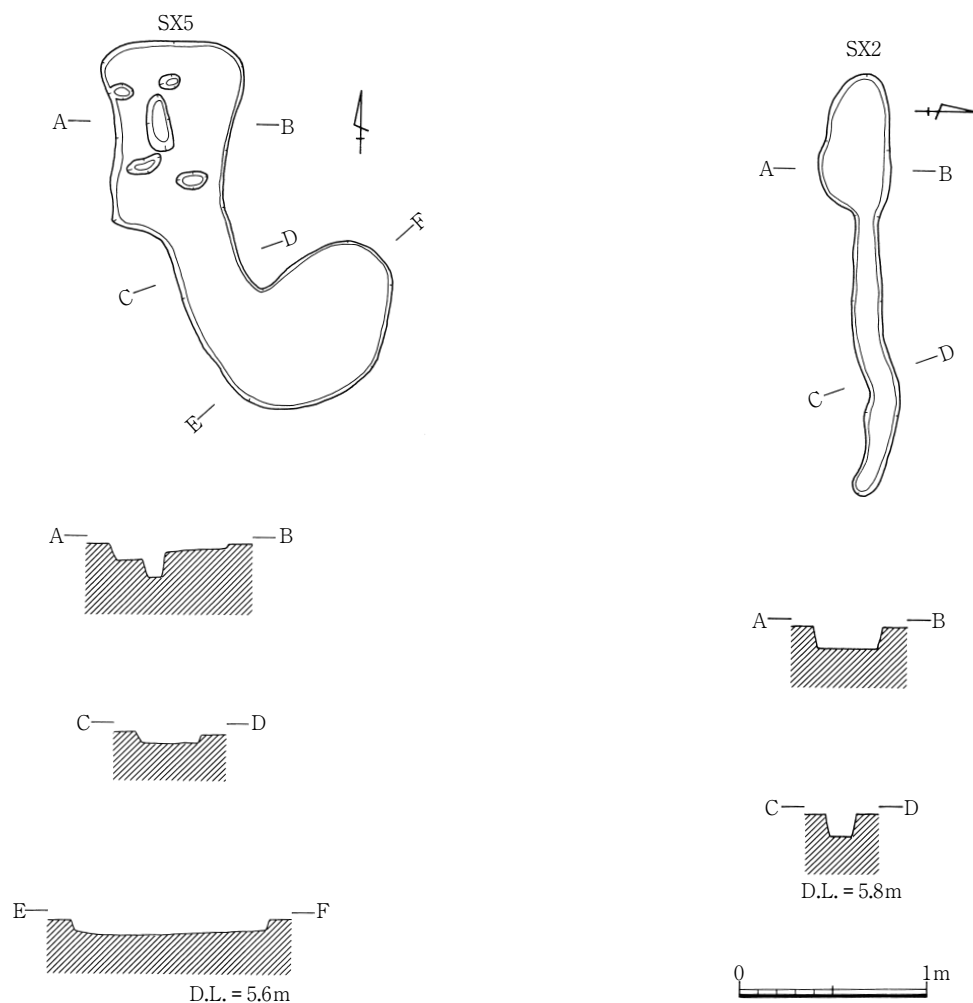


Fig.98 1C区第 層上面検出遺構2 (S : 1/40)

P 122 (Fig.92)

平面形は円形で、長径71cm、短径66cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は、灰黄褐色(10YR.4/2)粘質土である。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 143 (Fig.92)

平面形は不整形円形で、長径47cm、短径45cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、灰色(7.5Y.4/1)粘土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

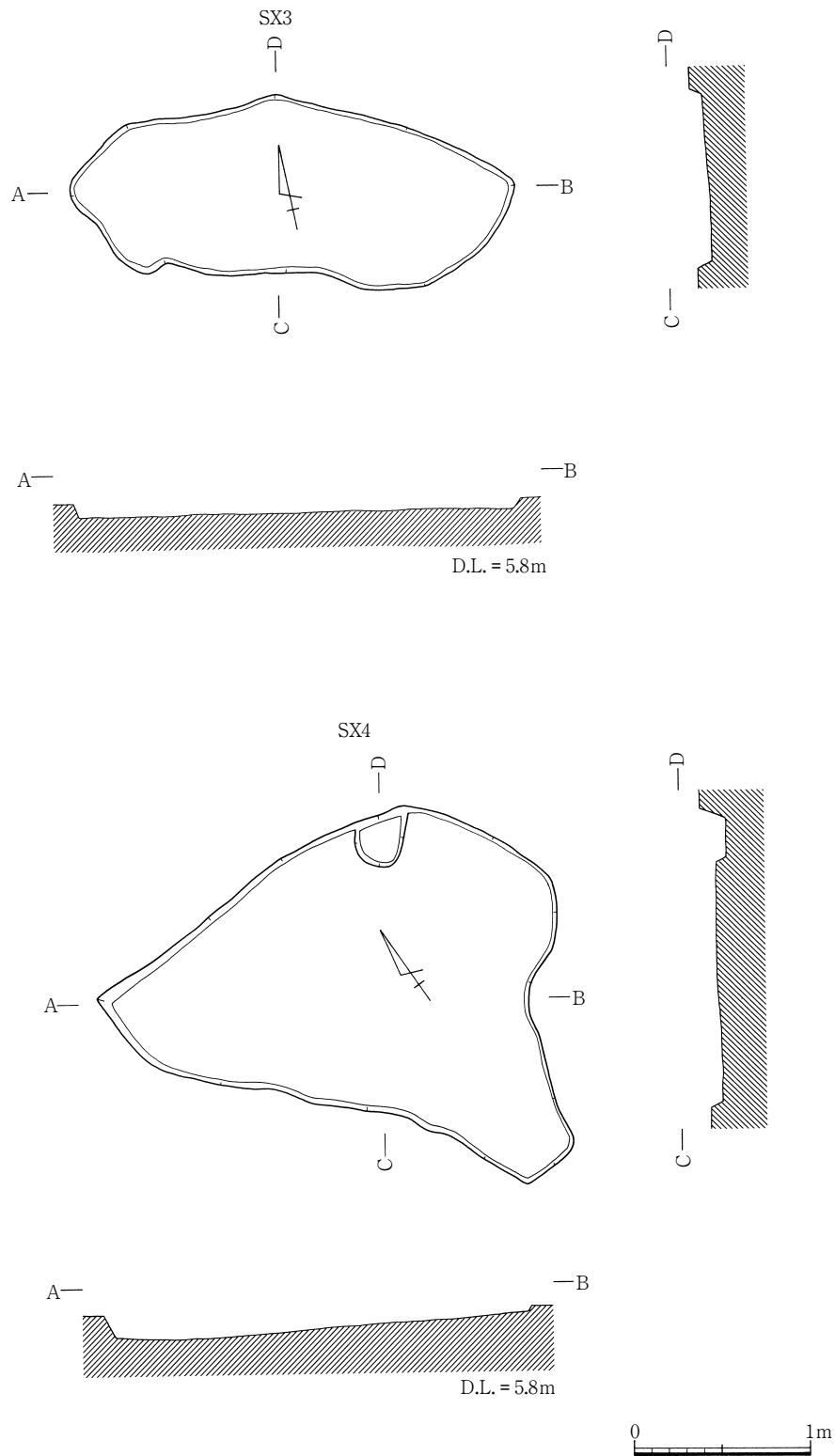


Fig.99 1C区第 層上面検出遺構3 (S : 1/40)

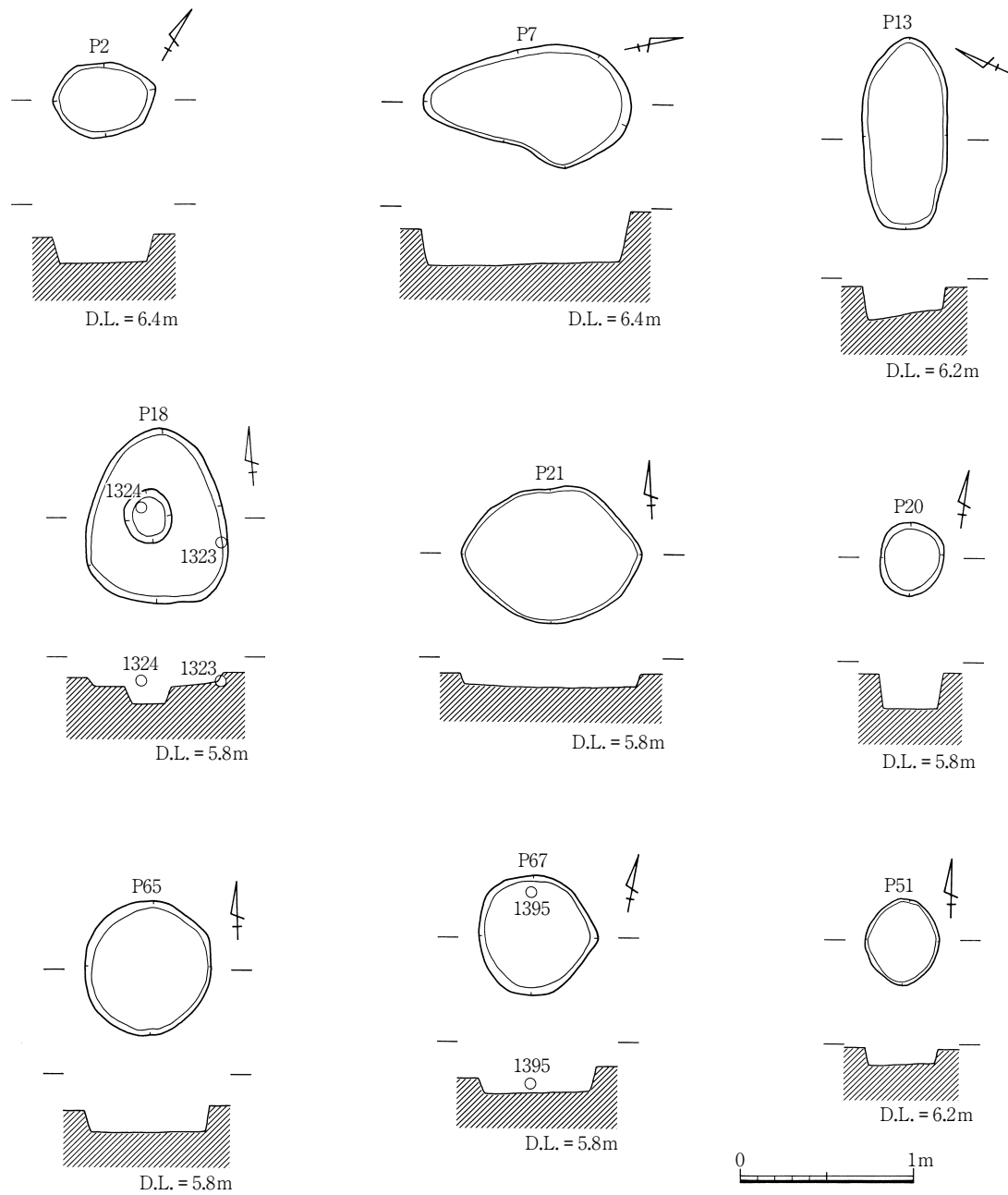


Fig.100 1C区第 層上面検出遺構4 (S : 1/40)

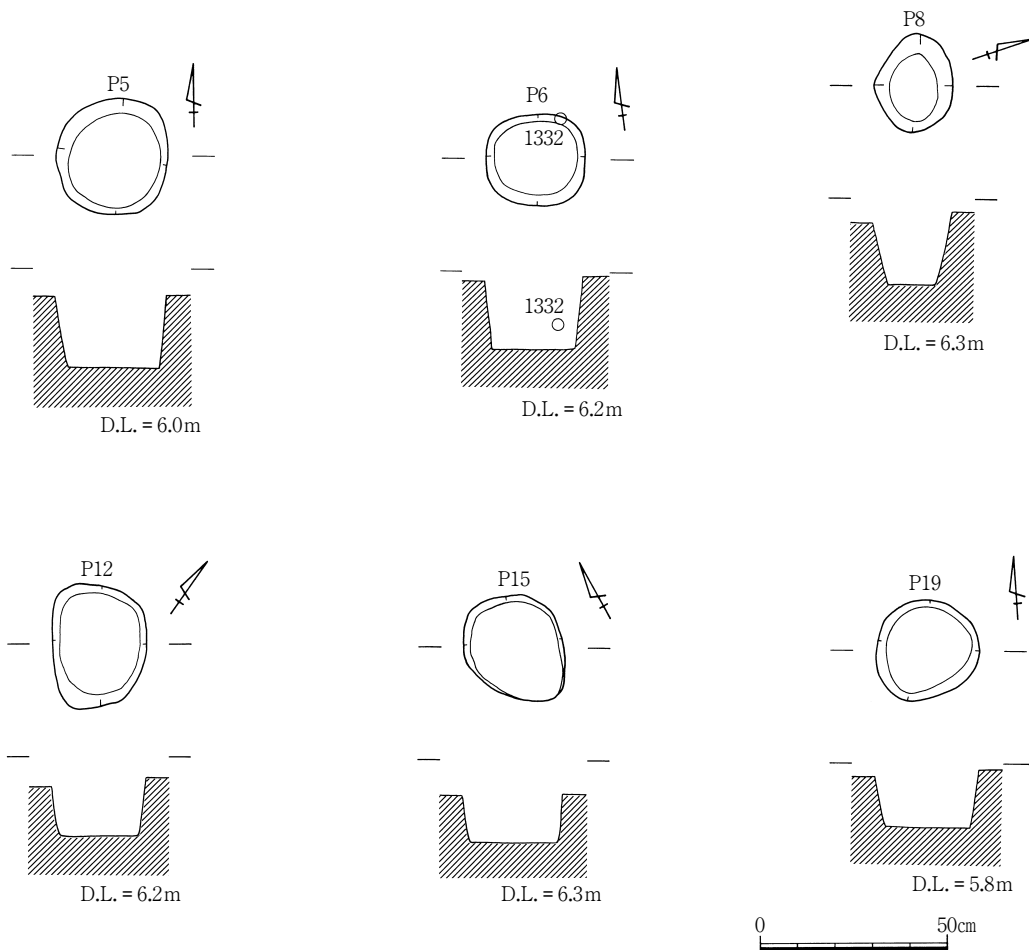


Fig.101 1C区第 層上面検出遺構5 (S : 1/20)

P 154 (Fig.92)

平面形は楕円形で、長径44cm、短径38cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、灰色(7.5Y.4/0)粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器、堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 155 (Fig.92)

平面形は不整形で、長径52cm、短径50cm、検出面からの深さは45cmである。埋土は、灰色(10Y.4/1)腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 179 (Fig.93)

平面形は楕円形で、長径28cm、短径18cm、検出面からの深さは11.5cmで、底部北側に1段を形成



Fig.102 1C区 D層出土土器分布図1 (S : 1/100)

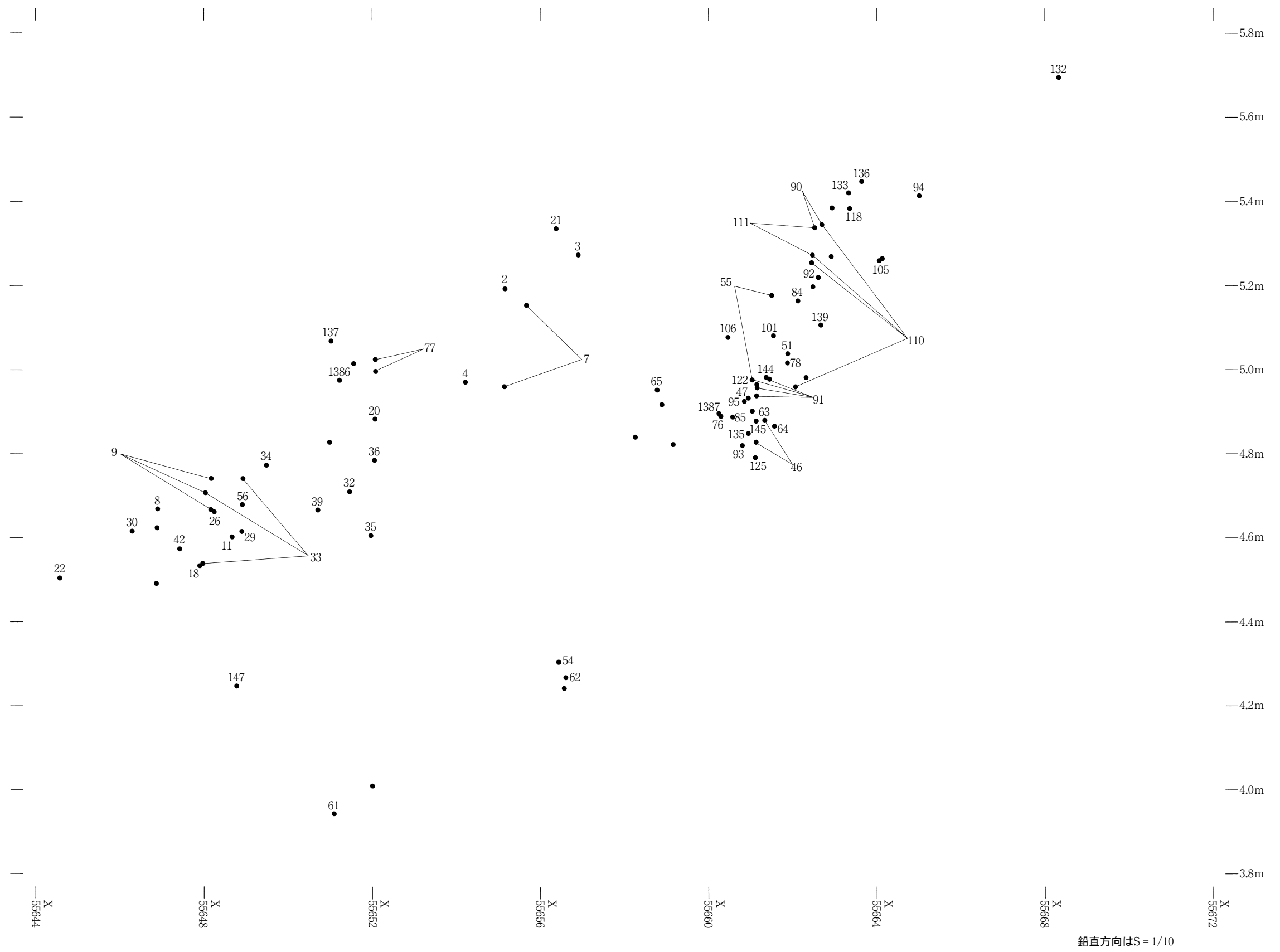


Fig.103 1C区 D層出土土器分布図2 (S : 1/100)

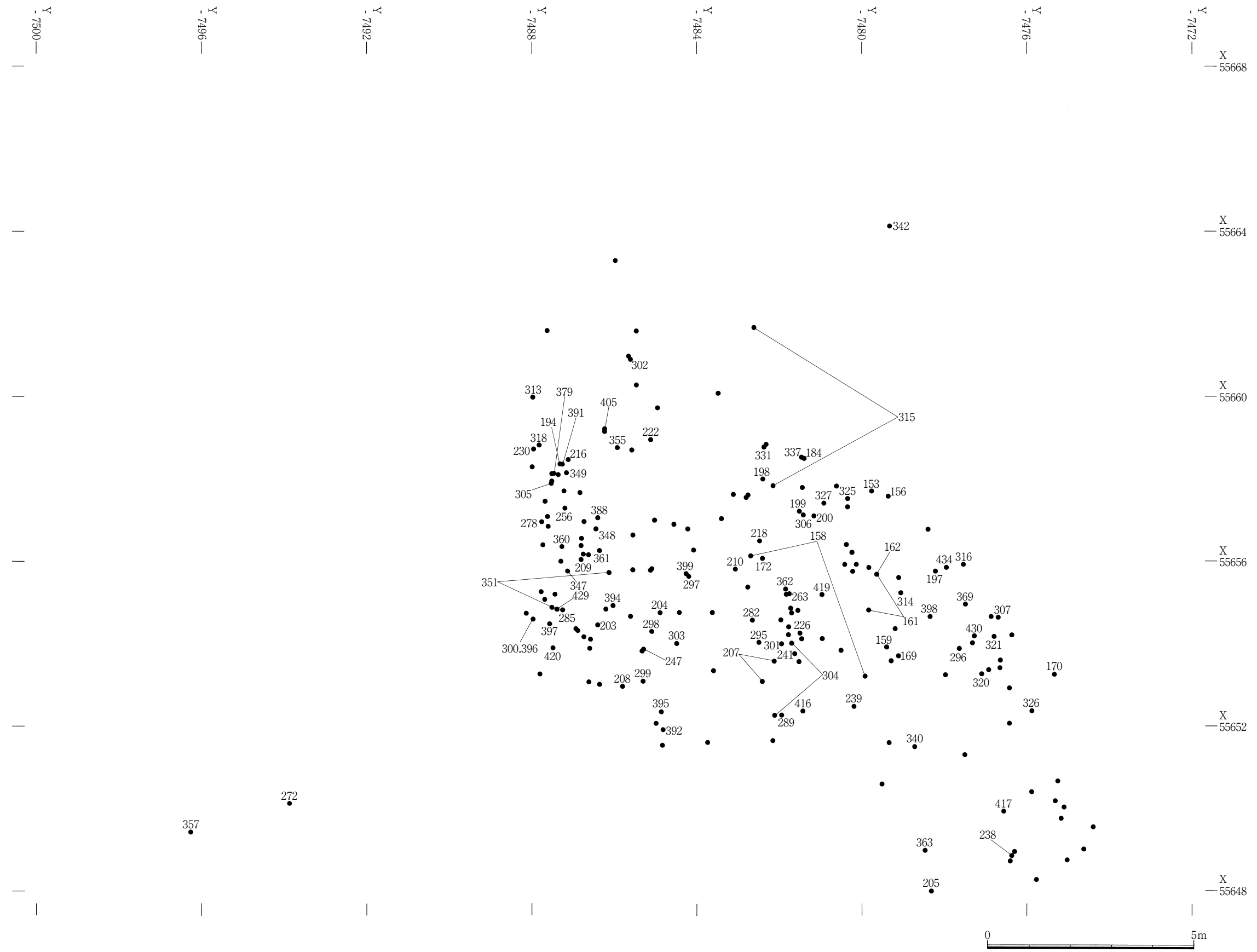
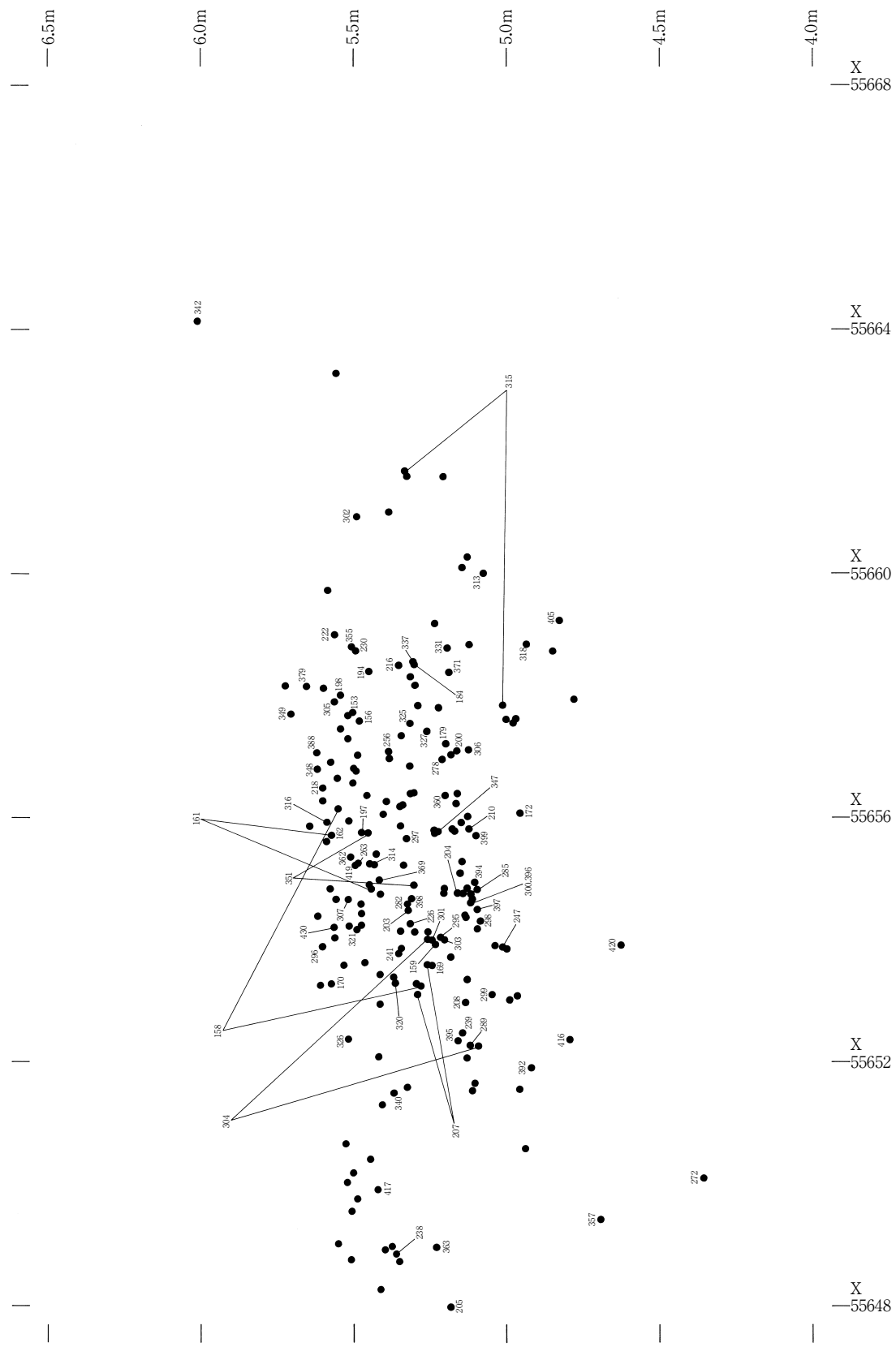


Fig.104 1C区 B層出土土器分布図1 (S : 1/100)



鉛直方向はS = 1/20

Fig.105 1C区 B層出土器分布図2 (S : 1/100)

する。埋土は、灰色（10Y.4/1）粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器の細片が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 191 (Fig.92)

平面形は円形で、長径48cm、短径47cm、検出面からの深さは32cmである。埋土は、灰色（5Y.4/1）粘土である。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器、弥生土器等が出土しており、縄文土器1点を図示（Fig.109-1313）した。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 196 (Fig.92)

平面形は不整楕円形で、長径70cm、短径49cm、検出面からの深さは26cmである。埋土は、灰色（5Y.4/1）粘土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 227 (Fig.92)

平面形は楕円形で、長径53cm、短径47cm、検出面からの深さは18cmである。埋土は、灰色（7.5Y.5/1）粘土である。遺物は、サヌカイト剥片1点が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 245 (Fig.92)

平面形は楕円形で、長径78cm、短径66cm、検出面からの深さは9cmである。埋土は、暗灰色（N.3/0）粘土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器が出土しており、1点を図示（Fig.109-1314）した。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 272 (Fig.93)

平面形は隅丸方形で、長径17.5cm、短径15cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は、暗灰色（N.3/0）粘土で、炭化物を含む。遺物は、弥生土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

(3)第 層中層検出遺構 (Fig.94)

第 層群の掘削途上において、焼土跡とみられるピット状遺構6基を検出し、全てを図示した。

ピット状遺構 (Fig.95)

P 113 (Fig.95)

平面形は楕円形で、長径73cm、短径44cm、検出面からの深さは9cmである。床面中央部はわずかに凹む。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は、縄文土器が出土している。

P 120 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径55cm、短径44cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、明黄褐色(10YR.6/8)粘土である。遺物は出土しない。

P 121 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径63cm、短径35cm、検出面からの深さは9cmである。埋土は、明黄褐色(10YR.6/8)粘土である。遺物は出土しない。

P 123 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径64cm、短径43cm、検出面からの深さは11cmである。埋土は、明黄褐色(10YR.6/8)粘土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 127 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径40cm、短径37cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、明黄褐色(10YR.6/8)粘土である。遺物は出土しない。

P 146 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径54cm、短径27cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は、明黄褐色(10YR.6/8)粘土である。遺物は、縄文土器1点が出土している。

(4)第 層上面検出遺構 (Fig.97)

性格不明遺構5基、ピット状遺構39基を確認し、この中から出土遺物が得られた性格不明遺構5基、ピット状遺構15基を図示した。

性格不明遺構

S X 1 (Fig.96)

平面形は溝状を呈し、全長5.84m、最大幅1.96m、検出面からの深さは23cmである。埋土は、灰色(10Y.5/1)粘土で、炭化物を含む。遺物は、縄文土器、突帯文土器、弥生土器、石器等が出土しており、縄文土器1点、突帯文土器4点、弥生土器1点、打製石斧1点を図示 (Fig.110-1315~1320, Fig.123-1394) した。

S X 2 (Fig.98)

平面形は不整形の溝状を呈し、全長2.25m、最大幅0.38m、検出面からの深さは12cmである。埋土は、灰色(5Y.5/1)粘質土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器、弥生土器、サヌカイト剥片等が出土しており、突帯文土器1点を図示 (Fig.110-1321) した。

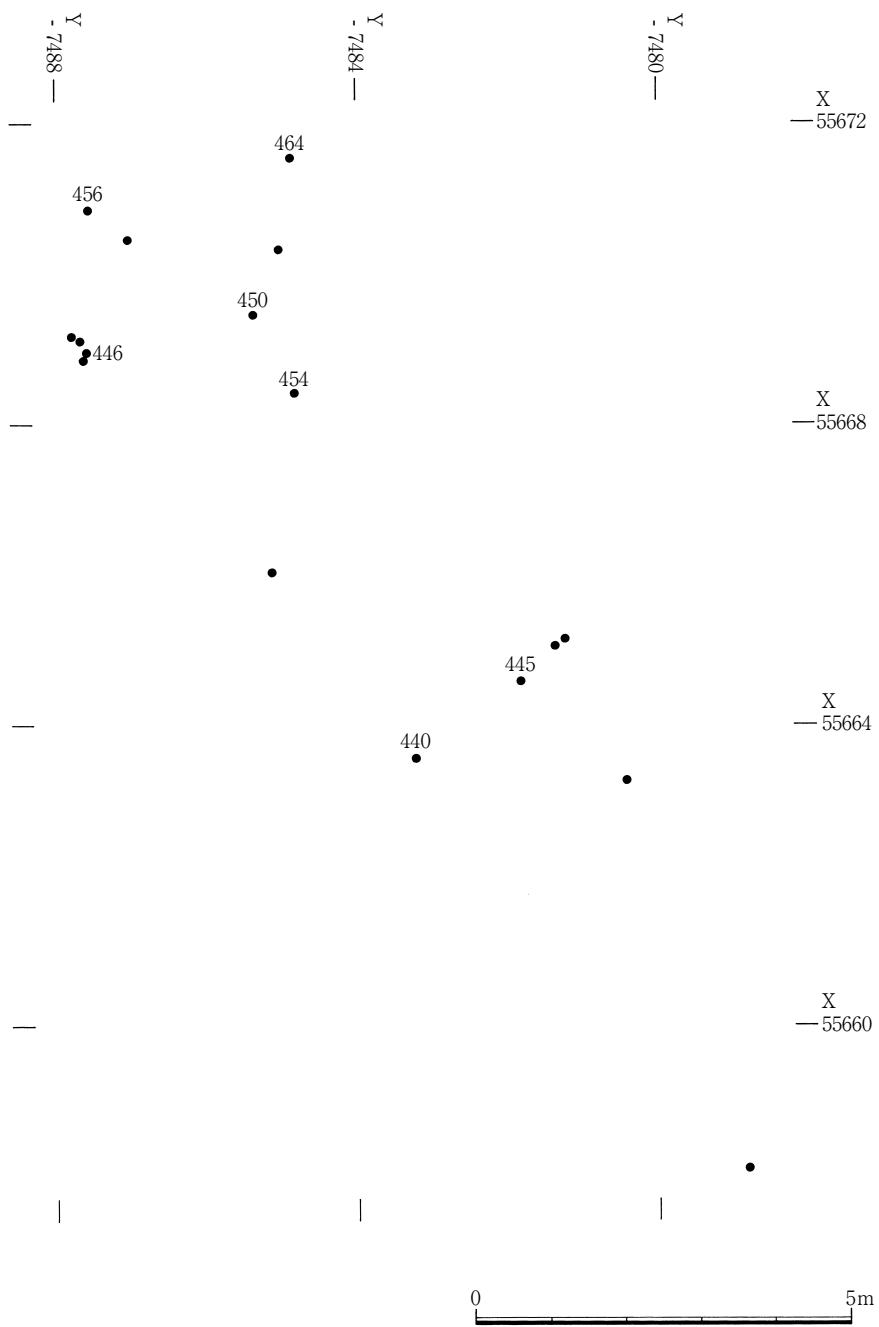


Fig.106 1C区 A層出土土器分布图1 (S : 1/100)

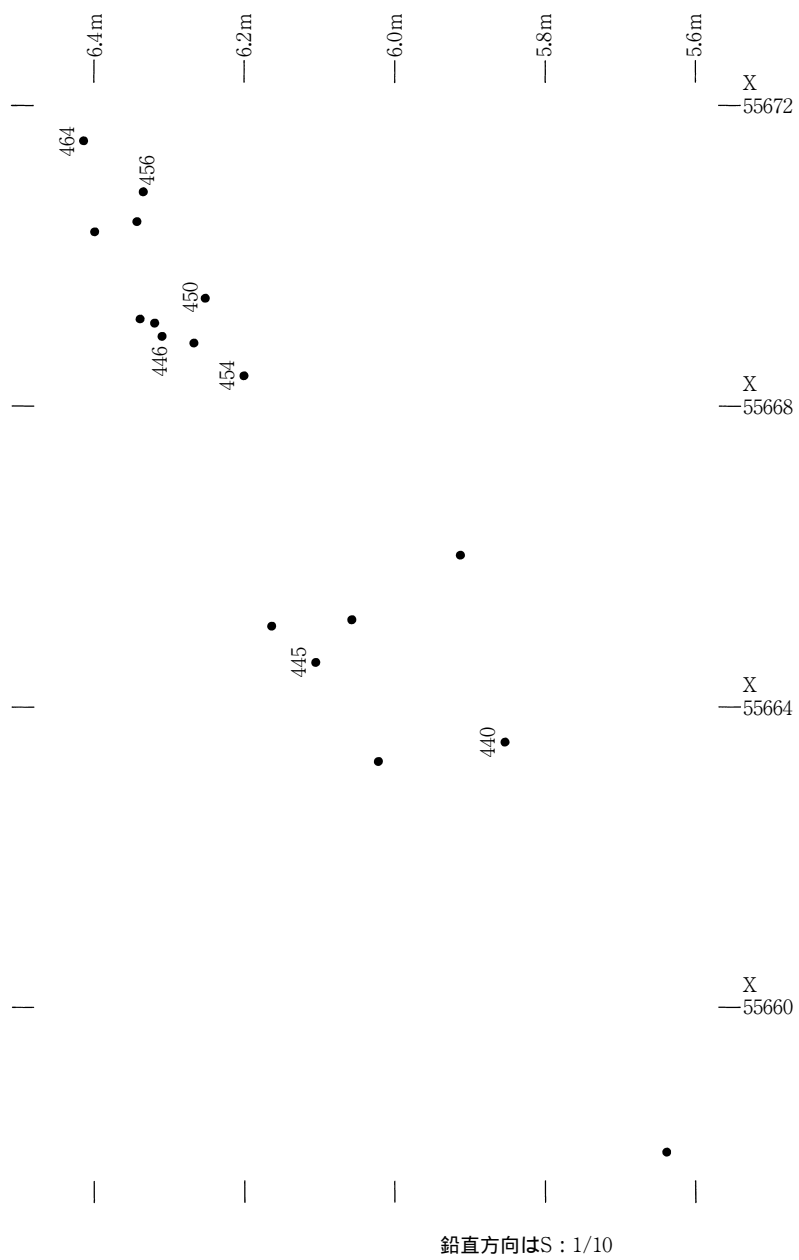


Fig.107 1C区 A層出土土器分布図2 (S : 1/100)

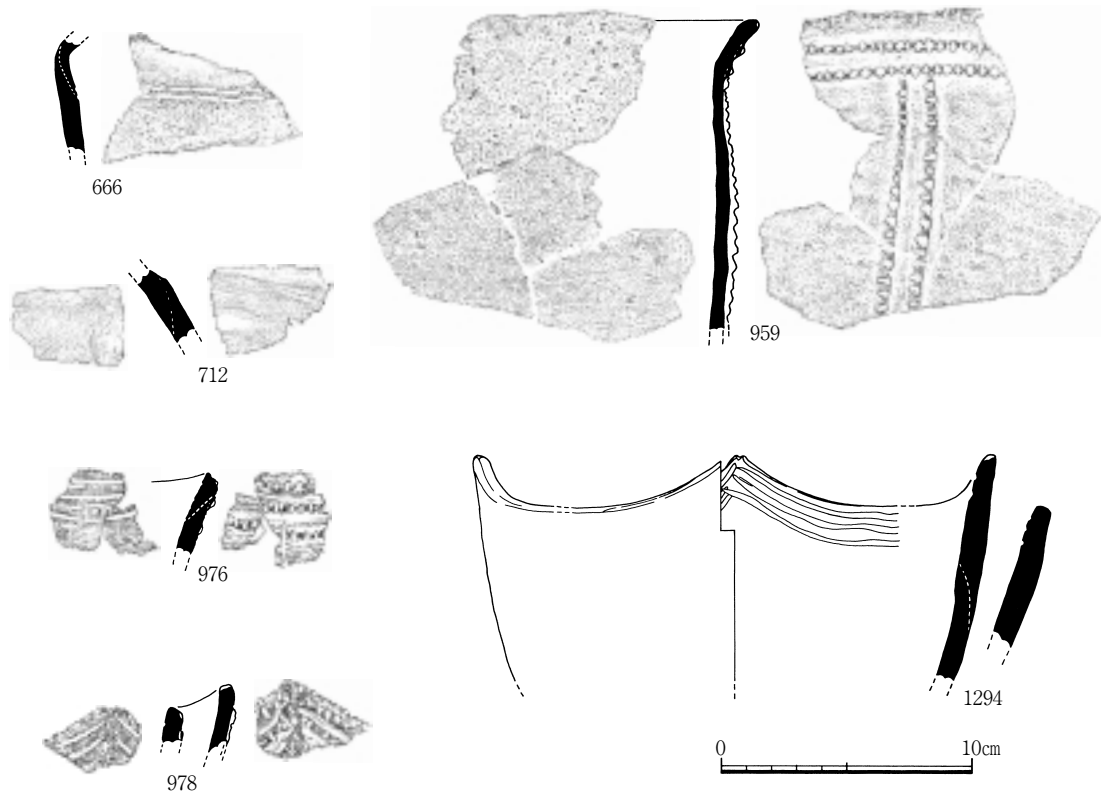


Fig.108 1C区出土土器1 (S : 1/3)

S X 3 (Fig.99)

平面形は不整楕円形で、長径2.51m、短径1.01m、検出面からの深さは11cmである。埋土は、灰色(N.4/1)粘土で、植物遺体を含む。遺物は、深鉢～甕形土器、弥生土器等が出土している。

S X 4 (Fig.99)

平面形は不整形で、長径2.81m、短径1.74m、検出面からの深さは15cmで、北東部にピット状の掘り込み1を有する。ピット状掘り込みは、平面形が不整形で、長径28cm、短径27cm、1段目からの深さは5cmである。埋土は、灰色(5Y.5/1)粘土である。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。

S X 5 (Fig.98)

平面形は不整形で、長径2.19m、短径1.05m、検出面からの深さは18cmである。床面には小ピット5基がある。埋土は、灰色(N.4/1)粘土で、植物遺体を含む。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。

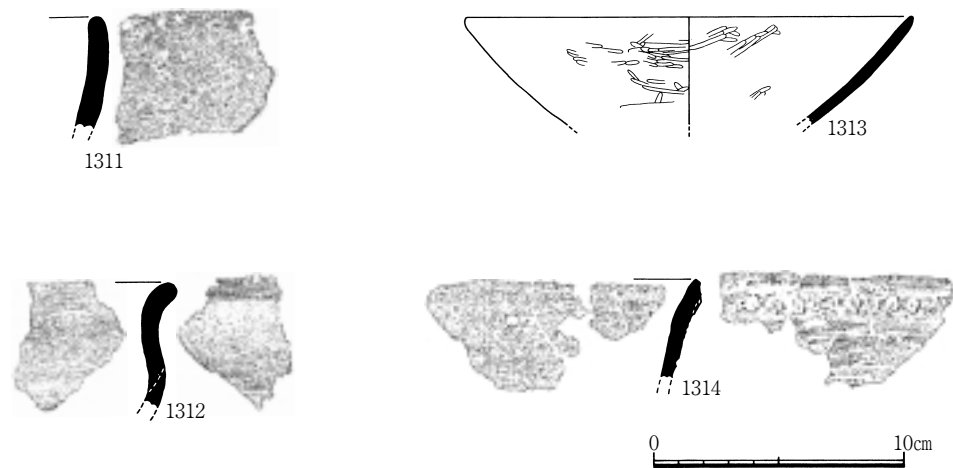


Fig.109 1C区出土土器2 (S : 1/3)

ピット状遺構 (Fig.100・101)

P 2 (Fig.100)

平面形は楕円形で、長径59cm、短径43cm、検出面からの深さは17cmである。埋土は、暗褐色 (7.5YR.3/3) 粘質土である。遺物は、深鉢～甕形土器、石器?等が出土している。

P 5 (Fig.101)

平面形は円形で、長径31cm、短径30cm、検出面からの深さは19.5cmである。埋土は、暗灰黄色 (2.5Y.4/2) 粘質土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。

P 6 (Fig.101)

平面形は隅丸方形で、長径26cm、短径24cm、検出面からの深さは20cmである。埋土は、にぶい黄橙色 (10YR.6/3) 粘質土で、炭化物を含む。遺物は、チャート剥片1点が出土している。

P 7 (Fig.100)

平面形は不整楕円形で、長径119cm、短径71cm、検出面からの深さは32cmである。埋土は、褐灰色 (10YR.6/1) 粘質土である。遺物は、深鉢～甕形土器、弥生土器等が出土している。

P 8 (Fig.101)

平面形は不整楕円形で、長径26cm、短径21cm、検出面からの深さは20cmである。埋土は、褐灰色 (10YR.6/1) 粘質土である。遺物は、弥生土器が出土している。

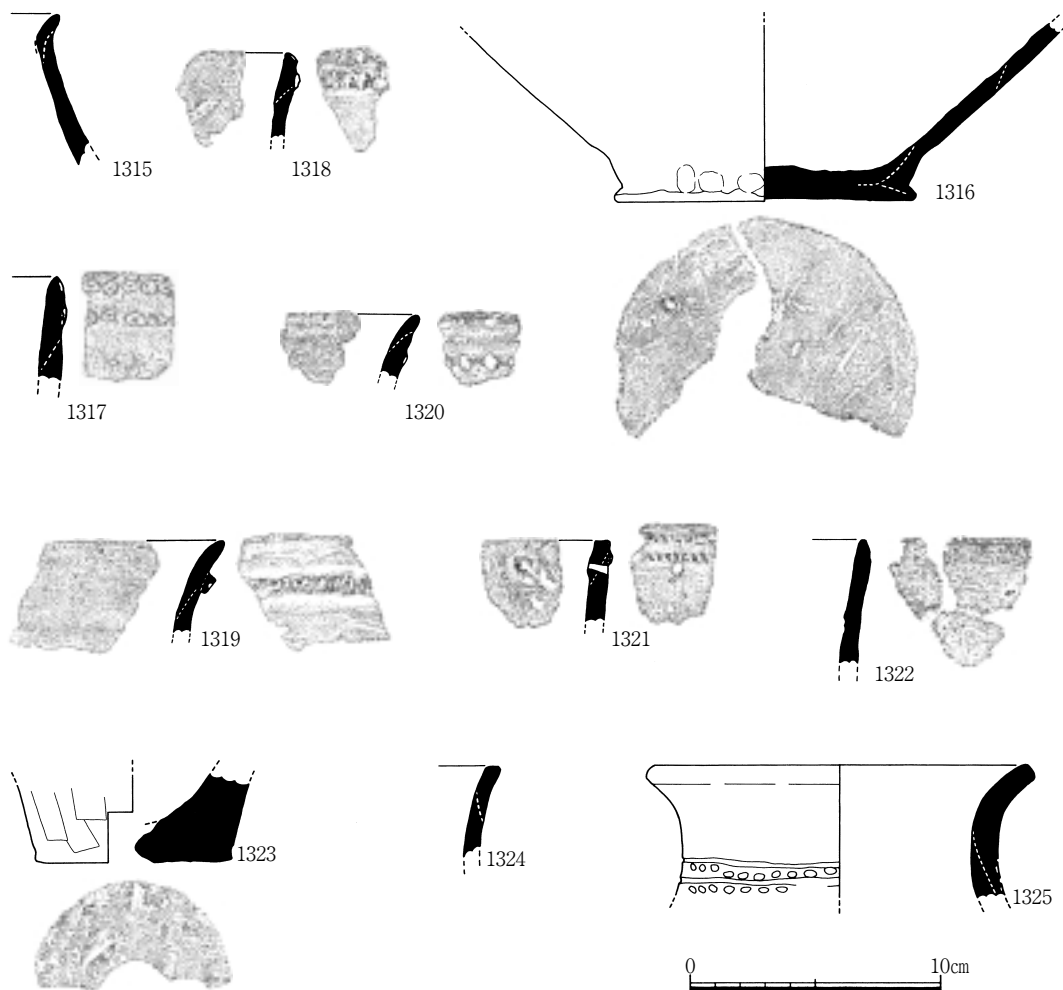


Fig.110 1C区出土土器3 (S : 1/3)

P 12 (Fig.101)

平面形は不整形で、長径33cm、短径25cm、検出面からの深さは15.5cmである。埋土は、褐灰色 (10YR.6/1) 粘質土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。

P 13 (Fig.100)

平面形は長楕円形で、長径110cm、短径48cm、検出面からの深さは19cmである。埋土は、褐灰色 (10YR.6/1) 粘質土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 15 (Fig.101)

平面形は楕円形で、長径32cm、短径26cm、検出面からの深さは13cmである。埋土は、褐灰色 (10YR.6/1) 粘質土である。遺物は、深鉢～甕形土器の細片が出土している。

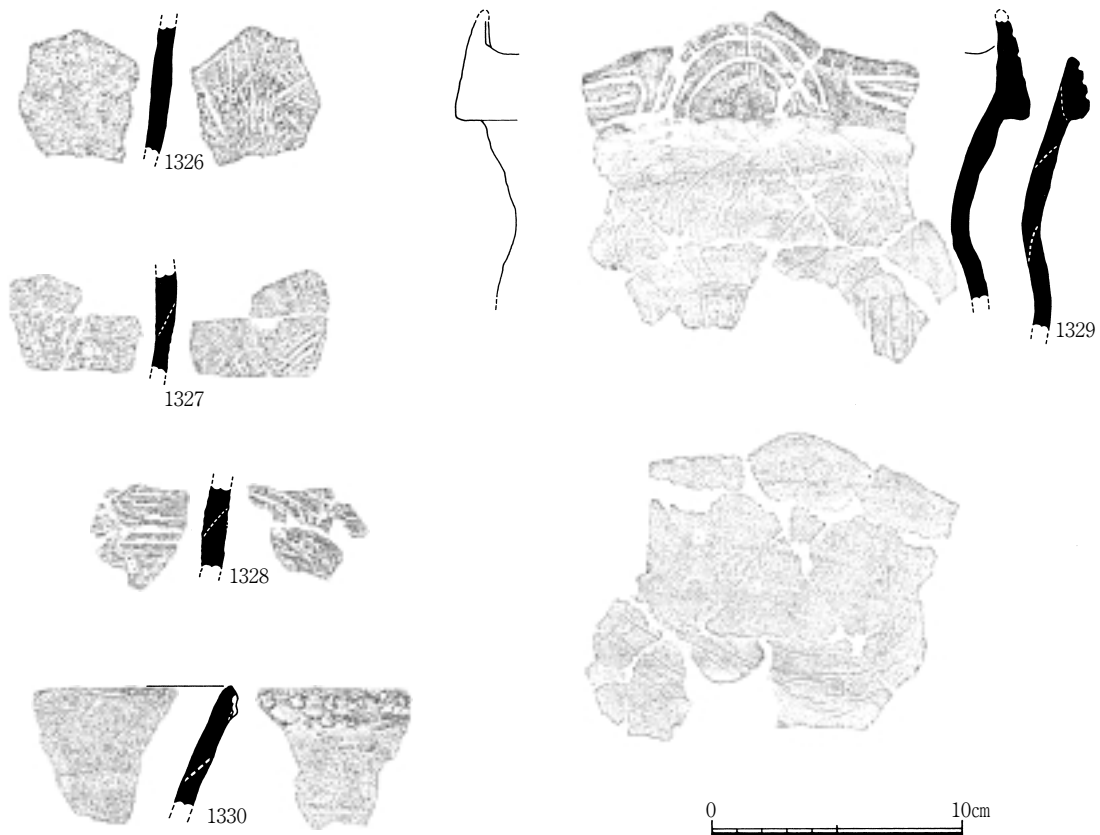


Fig.111 1C区出土土器4 (S : 1/3)

P 18 (Fig.100)

平面形は不整楕円形で、長径100cm、短径82cm、検出面からの深さは18cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が楕円形で、長径31cm、短径26cm、1段目からの深さは10cmである。埋土は、灰色(10Y.5/1)粘土で、炭化物を含む。遺物は、深鉢～甕形土器、弥生土器、サヌカイト碎片等が出土しており、弥生土器2点を図示(Fig.110・1323～1324)した。

P 19 (Fig.101)

平面形は不整円形で、長径28cm、短径26cm、検出面からの深さは15.5cmである。埋土は、オリブ灰色(2.5GY.6/1)粘土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 20 (Fig.100)

平面形は楕円形で、長径42cm、短径37cm、検出面からの深さは21cmである。埋土は、灰色(5Y.5/1)粘質土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。



Fig.112 1C区出土土器5 (S : 1/3)

P 21 (Fig.100)

平面形は不整楕円形で、長径103cm、短径77cm、検出面からの深さは8cmである。埋土は、青灰色(5PB.5/1)粘土である。遺物は、弥生土器が出土しており、1点を図示(Fig.110-1325)した。

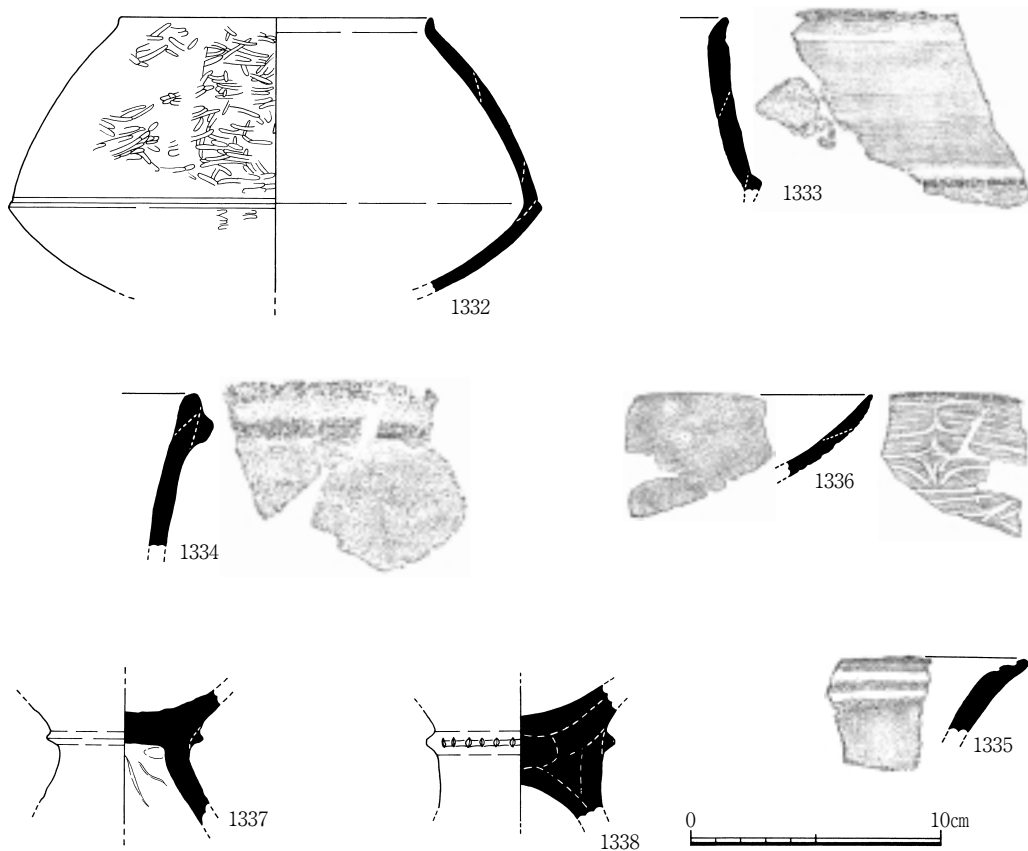


Fig.113 1C区出土土器6 (S : 1/3)

P 51 (Fig.100)

平面形は楕円形で、長径49cm、短径42cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は、灰色(5Y.6/1)粘土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。

P 65 (Fig.100)

平面形は円形で、長径77cm、短径72cm、検出面からの深さは16cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)粘土で、炭化物を多く含む。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器の細片等が出土している。

P 67 (Fig.100)

平面形は不整形で、長径69cm、短径68cm、検出面からの深さは16cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)粘土で、炭化物を多く含む。遺物は、深鉢～甕形土器、石器等が出土しており、両刃磨製石斧1点を図示 (Fig.123-1395) した。

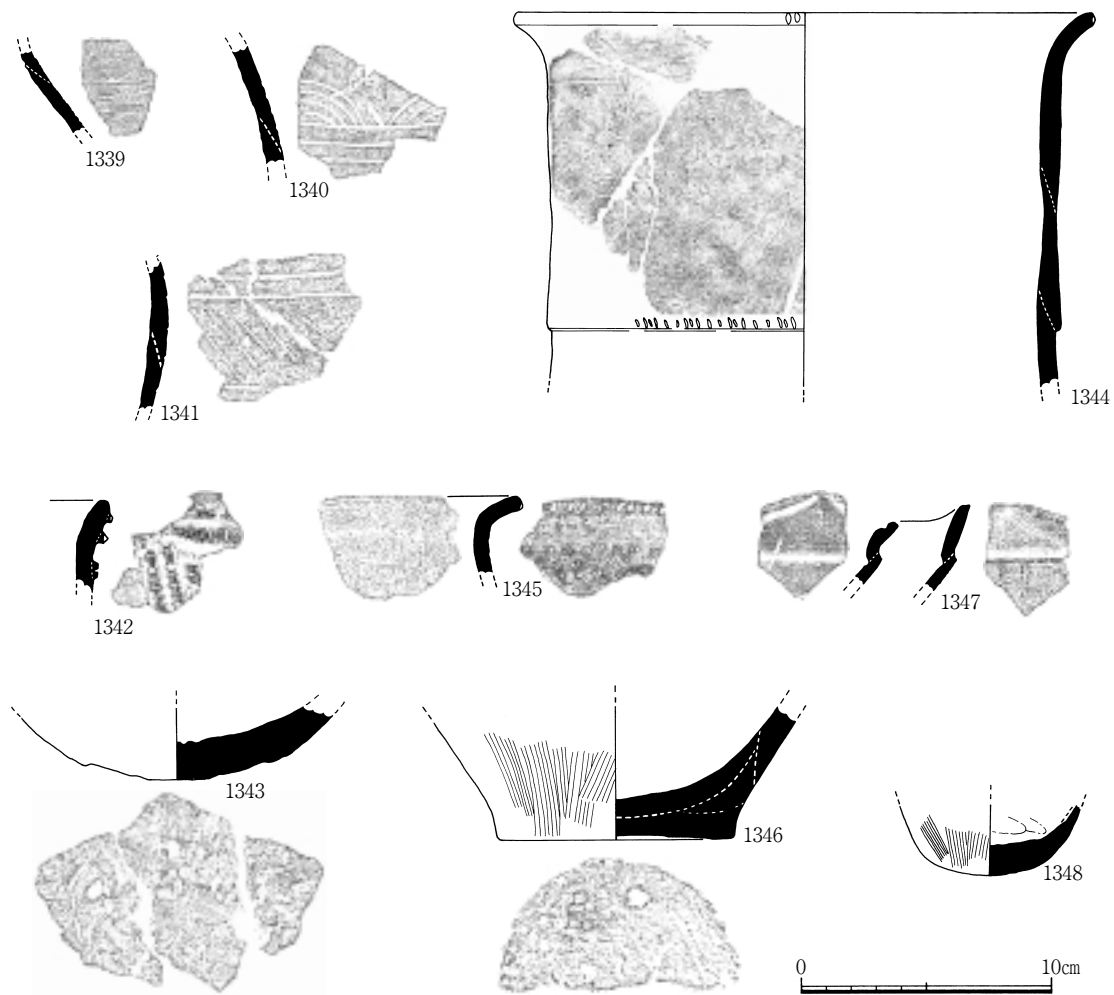


Fig.114 1C区出土土器7 (S : 1/3)

4. 遺物

1C区出土遺物は、土器、土製品、石器、木製品、獣骨類、貝類、堅果類、円礫等から構成される。本編では、土器81点（再掲分を含む）、土製品7点、石器31点、木製品10点を図示し、木製品1点の写真図版を掲載した。

(1)土器

第層群出土土器（訂正・修整分）6点、遺構出土土器15点、包含層出土土器57点、表採土器3点を図示した。

また、既報分も含めた、第層群中の各層における出土土器の分布図を、Fig.102～107・付図8⁽⁷⁾として示した。

第層群出土土器（訂正・修整のため再掲）(Fig.108)

第層群出土の土器については既報したが、報告後にその不備が判明し、訂正の必要がある資

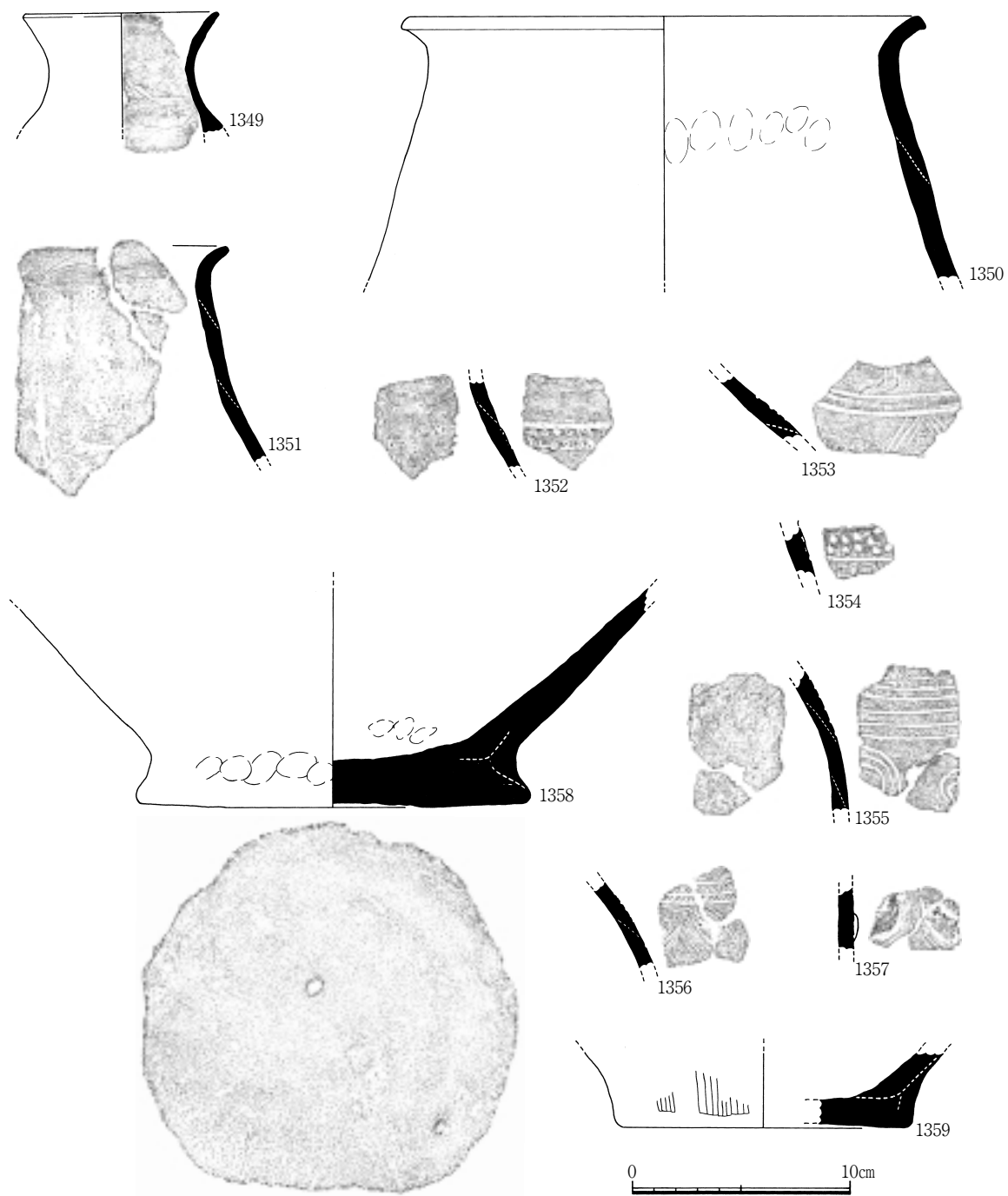


Fig.115 1C区出土土器8 (S : 1/3)



Fig.116 1C区出土土器9 (S : 1/3)

料4点について再度掲載した。また、層出土土器との接合⁸⁾によって法量が拡大し、同じく再提示が必要な2点を併せて示した。

666は 層出土の弥生土器・壺・頸～胴部片で、外面に短沈線状の刺突文2段を施す。

712は 層出土の弥生土器・壺・頸～胴部片で、接合部外面に段1を形成する。

976は 層出土の突帯文土器⁹⁾・口縁部片で、波状口縁を呈する。外面に刻目突帯2条を貼付し、口縁端部に刻目を施す。外面に沈線2条+1条、斜位の沈線2条を描き、内面にも沈線4条を描く。

978は 層出土の突帯文土器・口縁部片で、波状口縁を呈する。外面に刻目突帯2条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。内面に沈線3条+2条を描き、波頂部の端部内端に刻目1を施す。

959は 層出土の突帯文土器・口縁～胴部片で、特殊胎土土器¹⁰⁾である。口縁部外面に刻目突帯2条を貼付し、さらにそこから垂下する縦位の刻目突帯2条を貼付する。口縁端部外端側に刻目を施す。層と層の出土土器片が接合。

1294は 層出土の弥生土器・鉢・口縁～胴部片である。波状口縁を呈し、波頂部は4箇所と考えられる。内面には、波状口縁のカーブに平行する沈線3条を描き、波頂部では一旦途切れる。波頂部端面に刻目1を施す。層と層の出土土器片が接合。

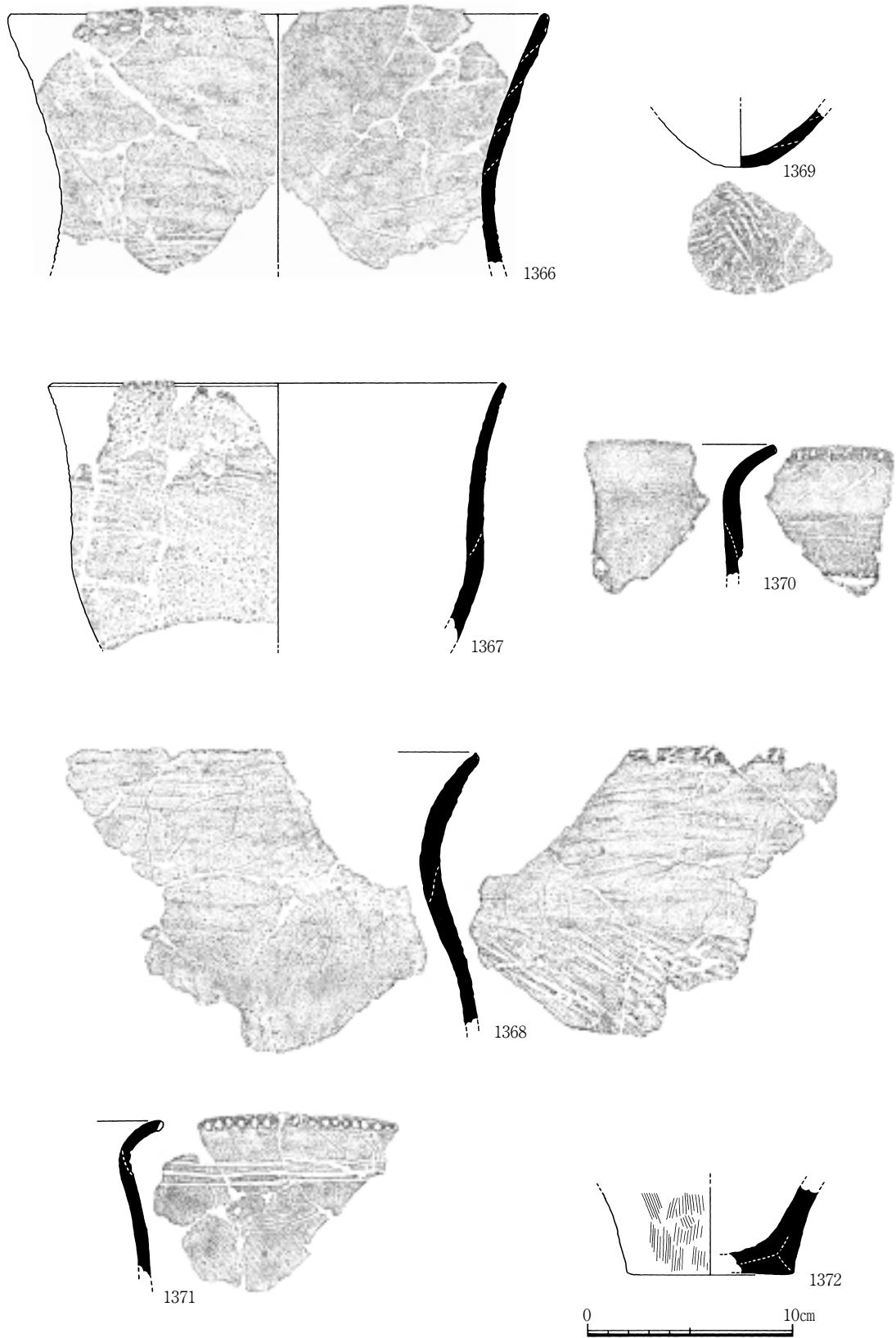


Fig.117 1C区出土土器10 (S : 1/3)

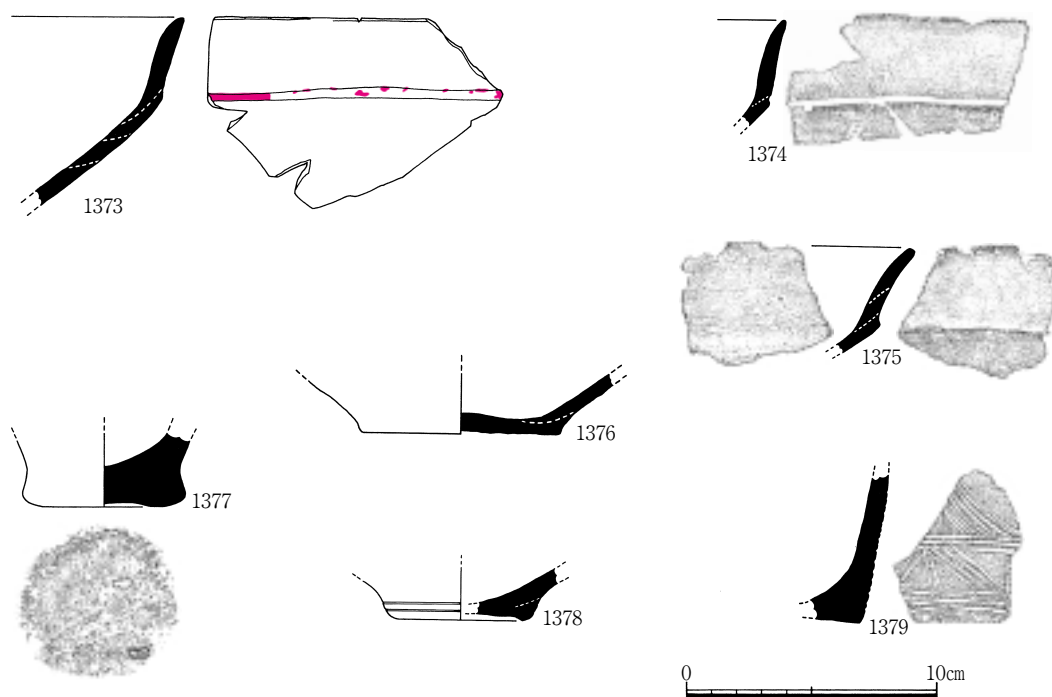


Fig.118 1C区出土土器11 (S : 1/3)

遺構出土土器 (Fig.109・110)

S X 102出土土器 2点, P 191出土土器 1点, P 245出土土器 1点, S X 1 出土土器 6点, S X 2 出土土器 1点, P 9 出土土器 1点, P 18出土土器 2点, P 21出土土器 1点を図示した。

S X 102出土土器 (Fig.109-1311・1312)

1311は縄文土器・鉢のものと考えられる口縁部片である。1312は弥生土器・鉢・口縁～胴部片で、内外面にミガキ調整が認められる。

P 191出土土器 (Fig.109-1313)

1313は縄文土器・浅鉢・口縁～胴部片で、内面に赤彩を施す。

P 245出土土器 (Fig.109-1314)

1314は突帯文土器・口縁部片で、外面に突帯1条を貼付し、竹管状工具による刺突を加える。

S X 1 出土土器 (Fig.110-1315～1320)

1315は縄文土器・壺・口縁～頸部片である。

1316は弥生土器・壺・底部片である。外面及び底面に赤彩を施し、底面には条線状・粒状の圧痕が認められる。

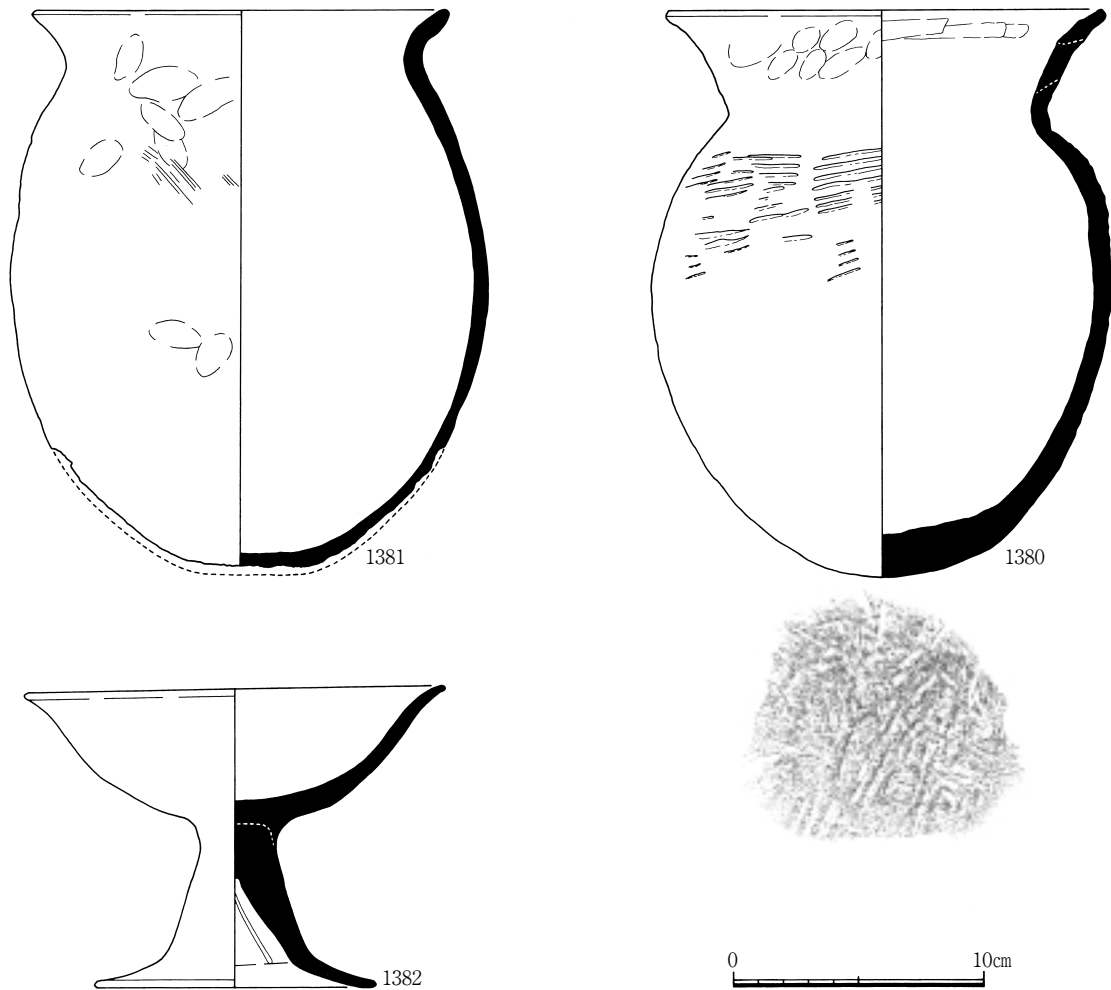


Fig.119 1C区出土土器12 (S : 1/3)

1317～1320は突帯文土器・口縁部片で、いずれも1条の刻目突帯を貼付する。1317は端部外面と突帯部に竹管状工具による刺突文を施す。1318は口縁端面に刻目を施す。1318は波状口縁の可能性ある。1319の刻目は刺突状を呈する。

S X 2 出土土器 (Fig.110-1321)

1321は突帯文土器・口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。端部外端に刻目を施し、突帯下位には外面からの焼成前穿孔1が認められる。波状口縁の可能性ある。

P 9 出土土器 (Fig.110-1322)

1322は深鉢～甕形土器⁽¹⁾・口縁部片で、突帯文土器に伴うものと考えられる。



Fig.120 1C区出土土器13 (S : 1/3)

層出土土器 (Fig.111 - 1326 ~ 1329)

1326 ~ 1328は縄文土器・深鉢・胴部片で、外面に条痕調整が認められる。1326・1327は同一個体の可能性がある。1328は内外面に条痕調整が認められる。1326 ~ 1328は縄文時代前期の土器と考えられる。

1329は縄文土器・深鉢・口縁～胴部片で、口縁部は波状口縁を呈する。口縁部外面には3条沈線によって施文する。波頂部には3条の重弧文状モチーフを置き、波頂部間には最上位沈線と最下位沈線が閉塞して中位の沈線を囲い込む、長形状の区画文を配置するものと考えられる。胴部外面には縦位の沈線を等間隔的に描く。1329は縄文時代後期の縁帯文土器で、北白川上層式¹²⁾に分類されるものと考えられる。

層出土土器 (Fig.111 - 1330)

1330は突帯文土器・口縁部片である。外面に刻目突帯1条を貼付し、突帯直下部にも刻目を施す。外面の突帯下方には斜位の爪形文?が認められる。

C層出土土器 (Fig.112 - 1331 ~ 1338)

1331 ~ 1333は縄文土器・壺である。1331は、同一地点出土の同一個体とみられる土器片を、図上で復元したものである。外面の頸～胴部境には沈線1条を描く。1332は無頸壺で、底部を欠く。接合部の外面には沈線1条を描き、一部擬口縁が露出している。1333は口縁～胴部片で、口縁直下外面に沈線1条を描き、接合部に段1を形成する。

1334は突帯文土器・口縁～胴部片で、外面に無刻目の突帯1条を貼付する。

1335・1336は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。1335は口縁部内面に沈線2条を描き、波状口

P 18出土土器 (Fig.110 - 1323 ・ 1324)

1323は弥生土器・甕・底部片である。1324は弥生土器・鉢・口縁部片である。

P 21出土土器 (Fig.110 - 1325)

1325は弥生土器・壺・口縁～頸部片である。外面に沈線2～3条を描き、沈線間に刺突文を施す。

包含層出土土器

層出土土器4点，層出土土器1点，C層出土土器8点，B層出土土器9点，A層出土土器1点，層出土土器34点を図示した。

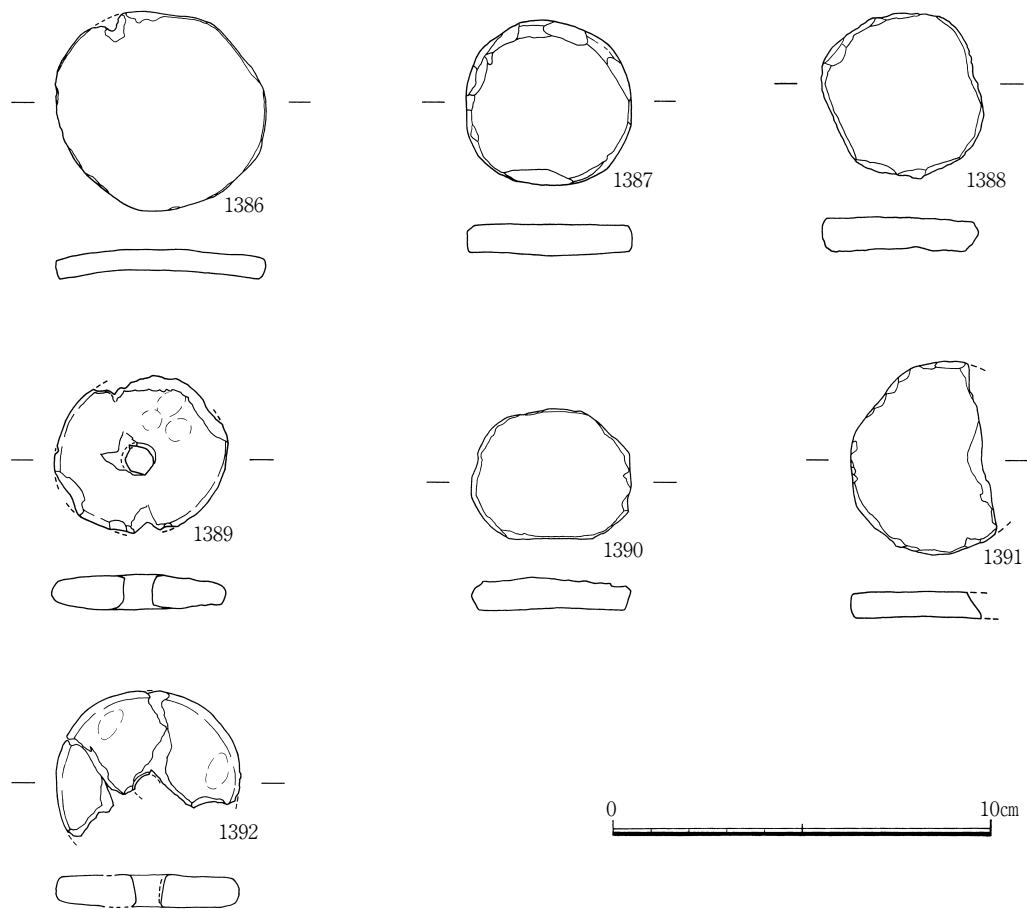


Fig.121 1C区出土土製品 (S : 1/2)

縁の可能性ある。1336は、外面に檀原式文様ないしは工字文状の意匠による沈線文を描く。

1337・1338は弥生土器・高杯・脚部片で、いずれも坏部と脚部との境界部に突帯1条を貼付する。1337は、肉薄の坏底部に中空の脚部を組み合わせたような形態を呈する。1338は突帯に刻目を施し、複雑な接合によって肉厚の坏底部を形成している。

B層出土土器 (Fig.114-1339~1347)

1339~1341は弥生土器・壺である。1339は頸~胴部片で、外面に平行沈線12条、縦位沈線5条(以上?)を描く。1340は胴部片で、外面に平行沈線3条、4条の重弧文を描く。1341は胴部片で、外面に平行沈線3条+1条、斜位沈線6条を描く。

1342は突帯文土器・口縁部片である。波状口縁の可能性があり、外面に刻目突帯2条、及び斜位の刻目突帯3条を貼付する。

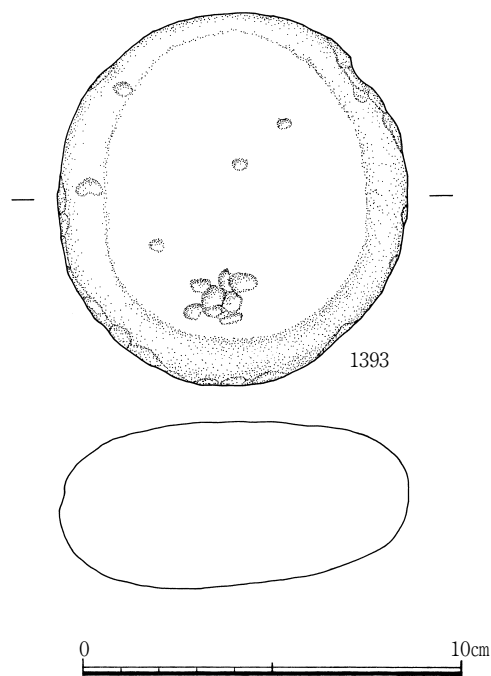


Fig.122 1C区出土石器1 (S : 1/2)

A層出土土器 (Fig.114 - 1348)

1348は土師器・壺・底部片である。古墳時代以降の所産と考えられる。

層出土土器 (Fig.115 ~ 119)

1349は縄文土器・壺・口縁～頸部片である。外面のミガキ調整は暗文状を呈し、土器片の下端には擬口縁が露出している。

1350～1359は弥生土器・壺である。1350は口縁～頸部片で、内外面及び口縁端面に赤彩を施す。1351は口縁～胴部片で、外面にタール状の付着物がみられる。1352～1354は頸～胴部片である。1352は外面に沈線1条、竹管状工具による刺突文2段を施文し、外面の接合部に沈線状の段1を形成する。1353は、外面に沈線2条、縦位沈線3条、3条の複線山形文を施文する。1354は外面に沈線2条、竹管状工具による刺突文2段を施文する。1354は甕の可能性もある。1355～1357は胴部片である。1355は、外面に沈線6条及び3条の重弧文を描く。1356は、外面に多条の沈線による文様を描く。上端には斜位の沈線3条（複線山形文？）、その下には3条の平行沈線と斜位短沈線による綾杉文、さらに下には縦位沈線2条の区画内に7条の無軸木葉文を施文する。1357は外面に「C」字状の貼付文を施す。1358は底部片で、外面には赤彩を施し、底面には粒状の圧痕1が認められる。1359は底部片で、外面に赤彩を施す。

1360～1365は突帯文土器である。1360は口縁～胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、胴部屈曲部外面に沈線状の段1を形成する。端部外端には刻目を施す。1361は口縁～胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、胴部外面に沈線1条を描く。1360・1361は、ともに丁寧なナデ調整で仕上げられており、精製土器的な印象を与える。1362・1363は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、端部外端に刻目を施す。1363は外面に円形の刺突1を施文する。1364は口縁～胴部片

1343は深鉢～甕形土器・底部片で、底外面に粒状の圧痕が認められる。

1344～1346は弥生土器・甕である。1344は口縁～胴部片で、接合部外面に段1を形成し、刻目を加える。また、端部外端側に2個の刻目を施す。1345は口縁部片で、外面に竹管状工具による刺突文3～4段を施文し、端面に刻目を施す。1346は底部片で、底面に粒状の圧痕が認められる。

1347は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。波状口縁を呈し、波頂部端面に刻目を施す。接合部外面に段1を形成し、段部内面に沈線1条を描く。口縁部内面には波状口縁に平行する沈線1条を描き、波頂部では途切れる。

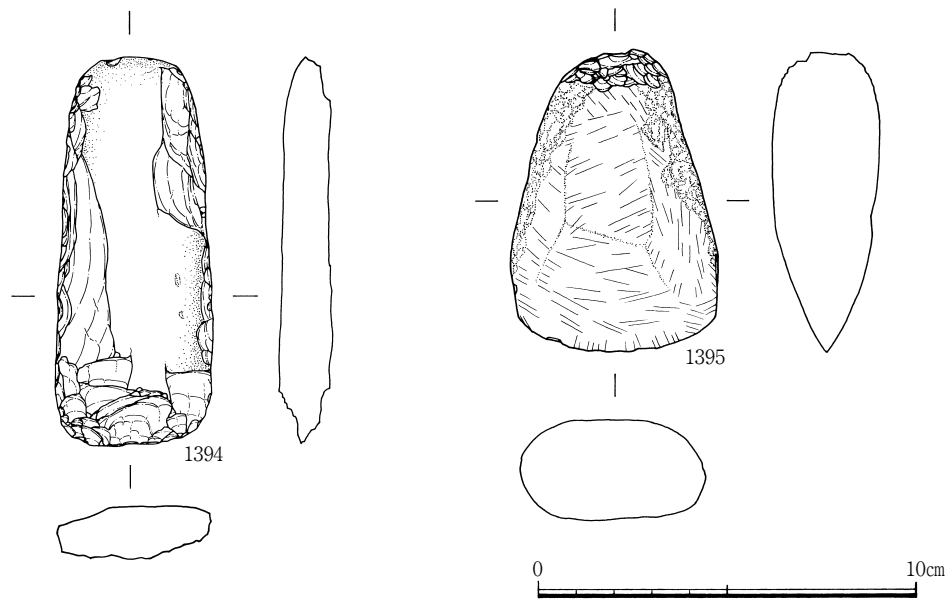


Fig.123 1C区出土石器2 (S : 1/2)

で、外面に刻目突帯1条を貼付する。1365は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。

1366～1369は深鉢～甕形土器で、突帯文土器に伴うものと考えられる。1366～1368は口縁～胴部片である。1366は外面に楕円形の刺突文2段を施文する。1368は口縁端部に刻目を施す。1369は底部片で、外面に条痕調整を施す。

1370～1372は弥生土器・甕である。1370・1371は口縁～胴部片で、口縁端部外端側に刻目を施す。1370は外傾接合による接合部外面に凹線状の段1を形成し、刻目を加える。1371は外面に沈線3条を描く。1372は底部片である。

1373～1376は縄文土器・浅鉢である。1373は口縁～胴部片で、屈曲部外面に沈線1条を描き、沈線内に赤彩を施す。1374は口縁部片で、屈曲部外面の接合部で段1を形成し、沈線1条を描く。1375は口縁部片で、屈曲部外面の接合部で段1を形成する。1376は底部片である。

1377～1379は弥生土器・鉢・底部片である。1378は外面に沈線2条を描く。1379は外面を3条の平行沈線と2条の縦位沈線によって区画し、上位の区画内には8条の弧線、下位の区画内には4条の斜位沈線を描く。

1380・1381は土師器・甕である。1380は外面にタタキ調整を施し、底部は丸底である。1381はほぼ完形の土器であるが、底部付近の外面では器壁表面が剥落している。1380・1381は古墳時代の所産と考えられる。

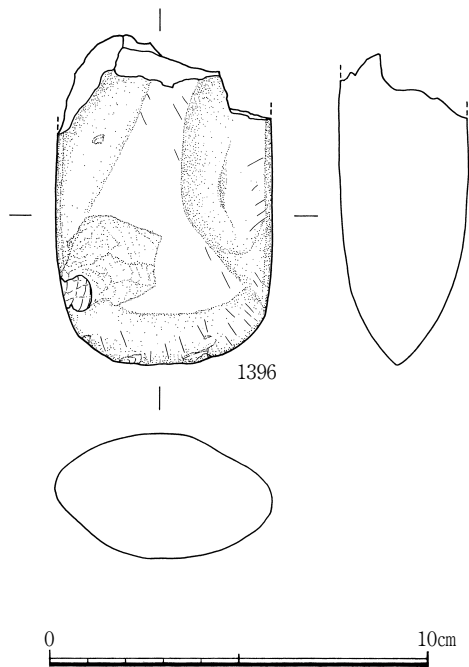


Fig.124 1C区出土石器3 (S : 1/2)

1382は土師器・高杯である。坏部と中実脚部との接合による形成である。古墳時代の所産と考えられる。

表採土器 (Fig.120)

3点を図示した。

1383は突帯文土器・口縁部片で、外面に刻目突帯2条を貼付する特殊胎土土器⁽¹³⁾である。

1384・1385は弥生土器・壺・胴部片である。1384は外面に有軸木葉文を描く。1385は外面に沈線2条、斜位の沈線2条を描く。

(2)土製品

D層出土土製品2点， B層出土土製品2点， 層出土土製品3点を図示した。表21中では，図示した表面側をA面，その反対側の面をB面として表記した。

D層出土土製品 (Fig.121・1386・1387)

1386・1387は土製円板で、いずれも縄文土器・浅鉢の胴部片を素材とする。1386のB面（土器としての内面）のミガキ調整は、暗文状を呈する。

B層出土土製品 (Fig.121・1388・1389)

1388は土製円板で、深鉢～甕形土器の胴部片を素材とする。

1389は土製紡錘車で、中央に焼成前の穿孔1を有する。胎土は弥生土器・壺のものに近似する。

層出土土製品 (Fig.121・1390～1392)

1390・1391は土製円板である。1390は深鉢～甕形土器の胴部片を素材としている。1391は縄文土器・壺の胴～底部片を素材とする。

1392は土製紡錘車で、中央に焼成前の穿孔1を有し、胎土は弥生土器・壺のものに近似する。

(3)石器

遺構出土石器3点，第層群出土石器24点，第層群以外の包含層出土石器4点を図示した。表22中では，図示した表面側をA面，その反対側の面をB面として表記した⁽¹⁴⁾。

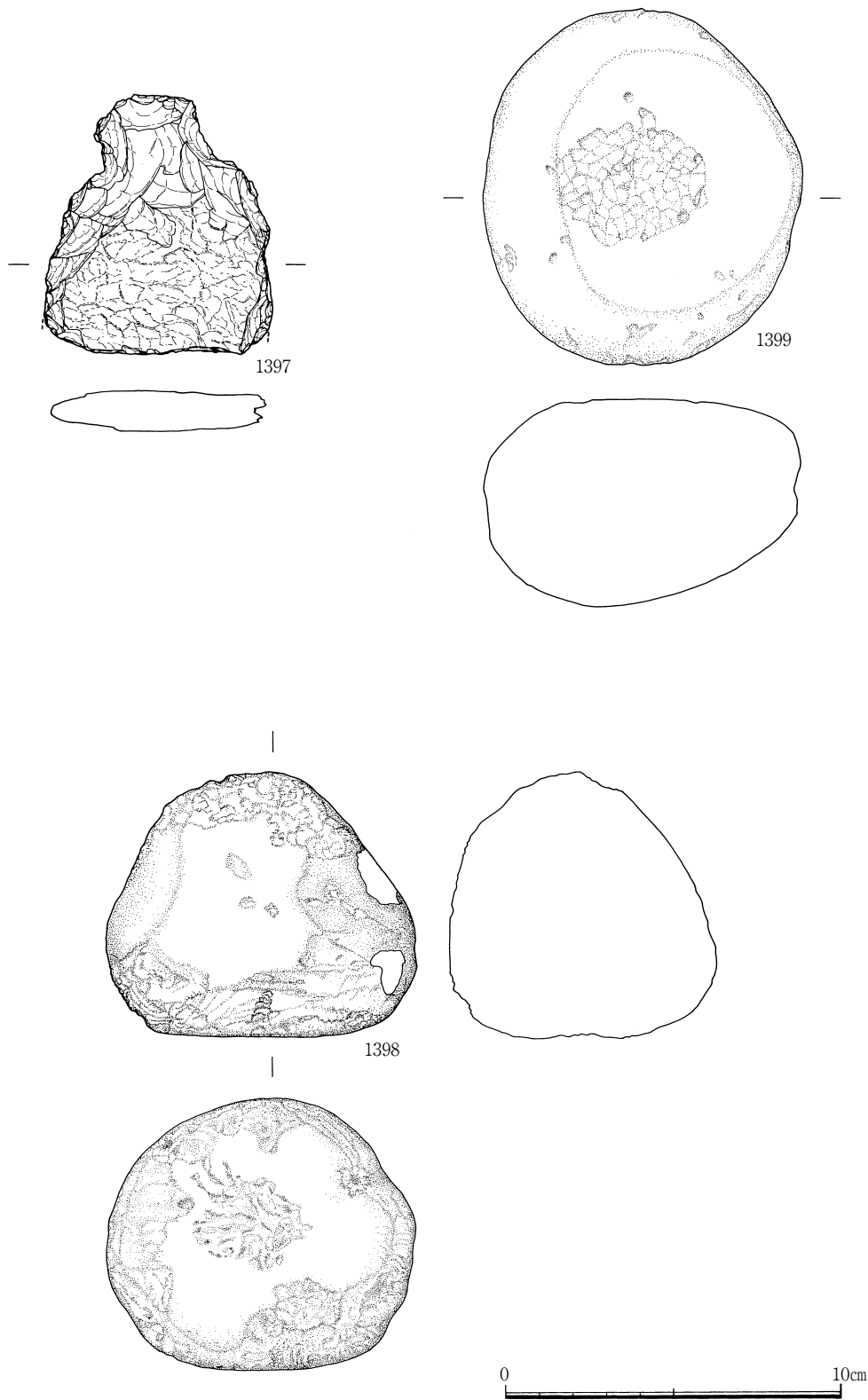


Fig.125 1C区出土石器4 (S : 1/2)

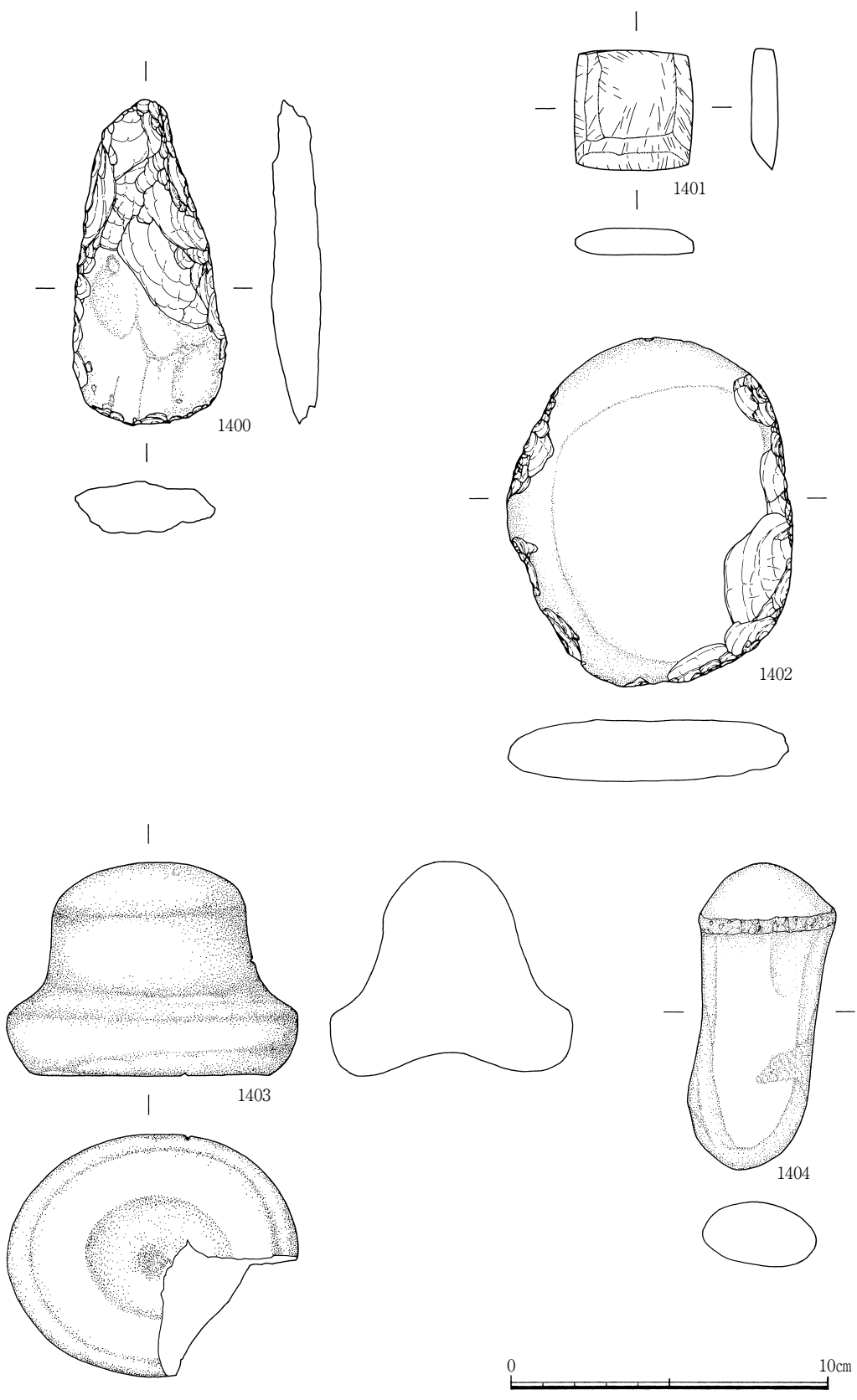


Fig.126 1C区出土石器5 (S : 1/2)

遺構出土石器

S X 104出土石器 1点, S X 1 出土石器 1点, P 17出土石器 1点を図示した。

S X 104出土石器 (Fig.122-1393)

1393は磨石である。ほぼ完形で, 花崗岩製である。

S X 1 出土石器 (Fig.123-1394)

1394は打製石斧である。完形で, A面には素材円礫の礫皮面を広く残し, B面は全面が剥離面である。結晶片岩製である。

P 67出土石器 (Fig.123-1395)

1395は両刃磨製石斧である。完形で, A・B両面ともに擦痕が多く観察される。刃部には縦位の細かな条線が認められ, 使用痕ではないかと思われる。蛇紋岩製である。

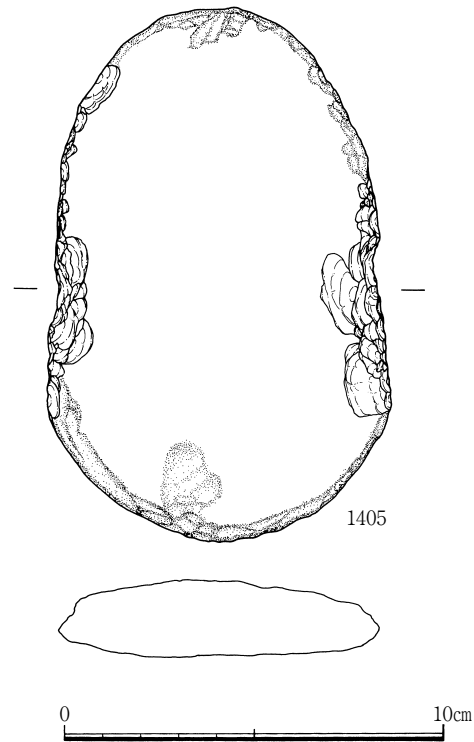


Fig.127 1C区出土石器6 (S : 1/2)

第 層群出土石器

D 3層出土石器 1点, D層出土石器 3点, B層出土石器 5点, A層出土石器 1点, 層出土石器14点を図示した。

D 3層出土石器 (Fig.124-1396)

1396は両刃磨製石斧である。A・B両面に擦痕が観察される。砂岩製か。

D層出土石器 (Fig.125-1397~1399)

1397は打製石斧である。B面には素材円礫の礫皮面が残る。蛇紋岩製である。

1398・1399は磨石である。1398は円錐状の形態を呈し, 下面中央部に敲打痕を有する。後述の石冠の形状を模した可能性がある。花崗岩製か。1399はほぼ完形で, A面には敲打痕を有し, B面は滑面を呈する。花崗岩製である。

B層出土石器 (Fig.126-1400~1404)

1400は打製石斧である。A面には素材円礫の礫皮面が残り, B面は主剥離面側である。結晶片

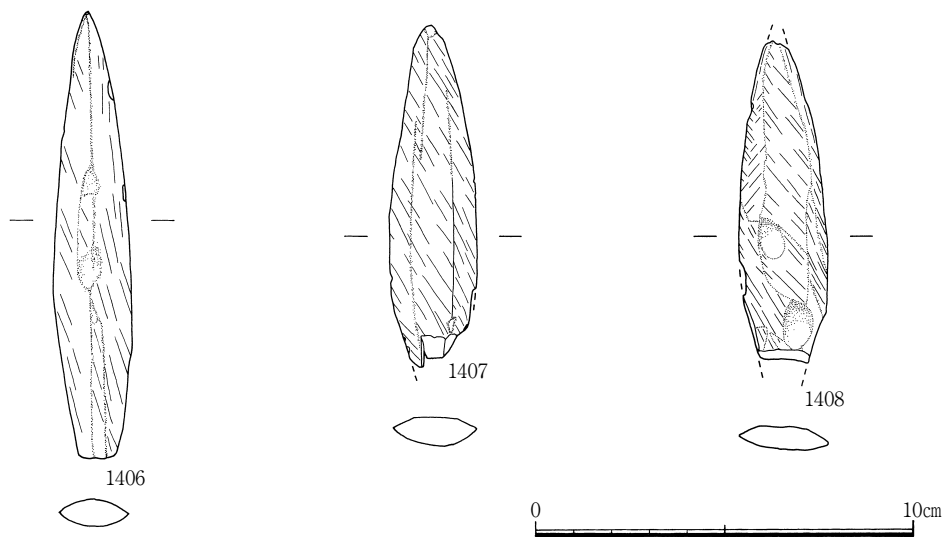


Fig.128 1C区出土石器7 (S : 1/2)

岩製である。1401は完形の扁平片刃石斧である。全面に擦痕が観察され、刃部にみられる微細な剥離は使用痕の可能性はある。蛇紋岩製である。

1402は両側縁部に剥離を有する礫石器で、本編中では「加工ある円礫」と表記した。砂岩製で、用途は不明である。

1403は石冠である。下面中央部は凹み、全面研磨によって整形する。角閃岩製で、本県では初例である。

1404は磨製石剣である。円礫素材で、石材中の白色の硬質部分を先端部分の造形に利用したものと考えられる。砂岩製である。

A層出土石器 (Fig.127・1405)

1405は両側縁部に剥離を有する、加工ある円礫である。完形で、結晶片岩製である。

層出土石器 (Fig.128～132)

1406～1408は磨製石鏃で、いずれも頁岩製である。1406は完形で、明瞭な鑄を有し、表面には擦痕が多く観察される。1407・1408はいずれも基部を欠くが、撥形にすぼまる形状が下端に残っており、有茎であった可能性がある。

1409は打製石斧である。刃部は滑面で、磨製石斧状を呈する。結晶片岩製である。

1410・1411は両刃磨製石斧である。1410は、平面形状が明らかな左右非対称形を呈する。1411はB面側の大半を欠く。1410・1411は、いずれも蛇紋岩製である。

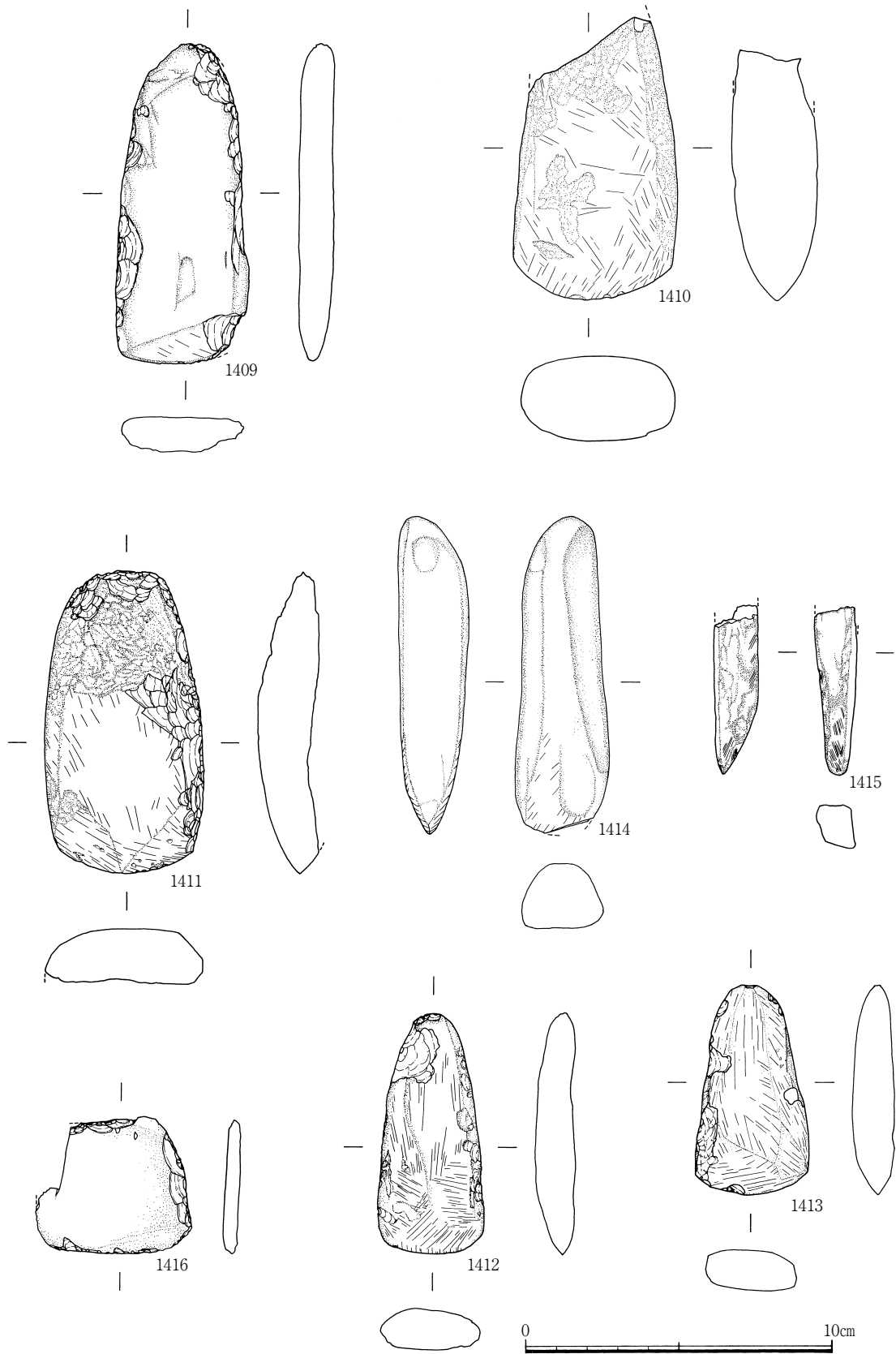


Fig.129 1C区出土石器8 (S : 1/2)

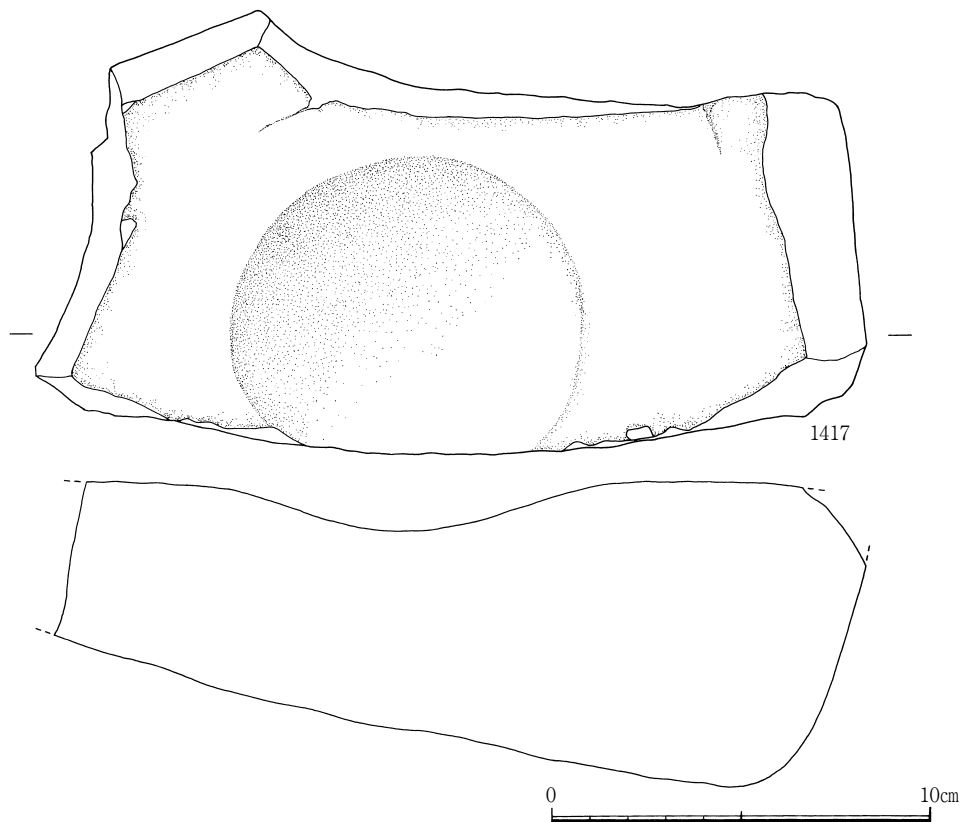


Fig.130 1C区出土石器9 (S : 1/2)

1412・1413は完形の磨製石斧である。平面形状は左右対称形で、片刃である。1412は刃部に縦位の条線と光沢が観察され、使用痕の可能性はある。1412・1413はいずれも蛇紋岩製である。

1414は柱状片刃石斧に類するものと考えられるが、円礫素材であるため、本編中では「片刃磨製石斧」と表記した。刃部をわずかに欠く。表面には黒色付着物と光沢が認められる。結晶片岩製か。

1415は小型方柱状片刃石斧である。基部側を欠く。縦方向にも分割しているが、刃部は再生されている。前主面に研磨痕が顕著である。結晶片岩製である。

1416はスクレーパである。A面に素材円礫の礫皮面を広く残す。凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）製である。

1417は石皿である。明瞭な凹部を有し、擦痕が多く観察される。砂岩製か。

1418は磨製石剣である。柄部片で、素材面を広く残す。結晶片岩製である。

1419は石棒である。基部を欠き、長軸方向に2分割の状態出土した。殆ど素材状態のまま使用されたものか。先端部ほかに黒変部分が認められる。結晶片岩製である。

第 層群以外の包含層出土石器

D層出土石器 1点， C層出土石器 2点， 層出土石器 1点を図示した。

D層出土石器 (Fig.133-1420)

1420は両刃磨製石斧である。ほぼ完形で，平面形状は左右非対称形を呈する。刃部には斜位の擦痕が観察され，これを使用痕と仮定すれば，A面における右側が使用者側に向いていたものと推定される。結晶片岩製である。

C層出土石器 (Fig.133-1421・1422)

1421は完形の磨製石斧である。平面形状は左右対称形で，片刃である。刃部には縦位の条線が観察され，使用痕の可能性がある。結晶片岩製か。

1422は完形の柱状片刃石斧である。前主面には敲打によって凹部を形成する。基部以外の各面は研磨によって整形し，基部及び後主面には敲打痕が顕著である。凝灰岩製である。

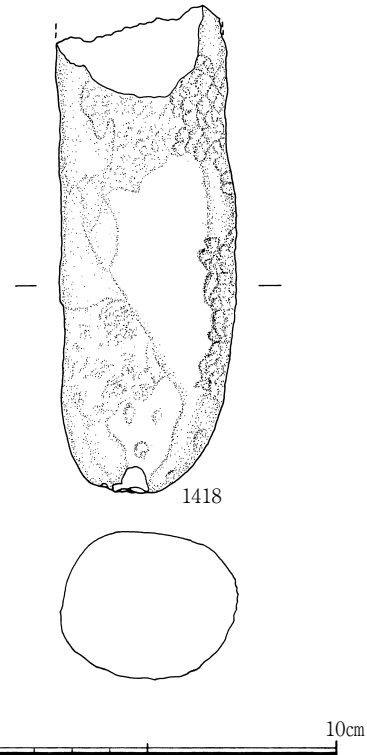


Fig.131 1C区出土石器10 (S : 1/2)

層出土石器 (Fig.133-1423)

1423は完形の磨製石斧である。平面形状は左右対称形で，片刃的である。刃部には縦～斜位の条線が観察され，使用痕の可能性がある。基部は研磨面である。蛇紋岩製である。

(4)木製品

D 2層出土木製品 1点， D層出土木製品 5点， B層出土木製品 4点を図示し， D 2層出土木製品 1点の写真図版を掲載した。

D 2層出土木製品 (Fig.134-1424，巻頭図版16-1434)

1424は，長軸一端部に被熱による炭化が認められるもので，本編中では「焦化材」と表記した。表面は4面の縦位裁断面からなるが，ある目的形状を意図したものと捉えにくい。点火時の着火用材が燃え残ったものではないかと推察される。樹種は，ヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が

得られている¹⁵⁾。

1434は編みかご状製品である。出土時に分割してしまった部分と本体部分とを、それぞれ土ごと固定し、保存処理を実施した¹⁶⁾。底部の形状等は不明である。樹種はブドウ科という鑑定結果が得られている。

D層出土木製品 (Fig.134 ~ 137)

1425は、丸太素材による円柱状製品の一端部を円錐状に尖らせたものとみられ、尖端部を欠くが、本編中では「独楽状木製品」とした¹⁷⁾。上端側に溝状の挟り部1が巡り、上端面は平坦である。樹種はツバキ科ツバキ属¹⁸⁾という鑑定結果が得られている。

1426は板状木製品である。表面には加工痕が明瞭に観察される。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1427は楕円形の穿孔2を有する部材で、全長は不明である。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1428は方形の穿孔1を有する部材である。樹種はブナ科クリ属クリという鑑定結果が得られている。1429は全長87.5cmの板状木製品である。表面には調整痕が明瞭に観察される。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1428・1429は全長のわかる資料であり、両者の差は5cmで、平均すればたまたま90cmとなる。何らかの有意性が存在するものであろうか。

B層出土木製品 (Fig.138 ~ 139)

1430は右側縁部に挟り部1を有する板状木製品である。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1431はほぼ完形の板状木製品である。表面には調整加工痕が明瞭に観察される。用途は礎板か。樹種はヒノ

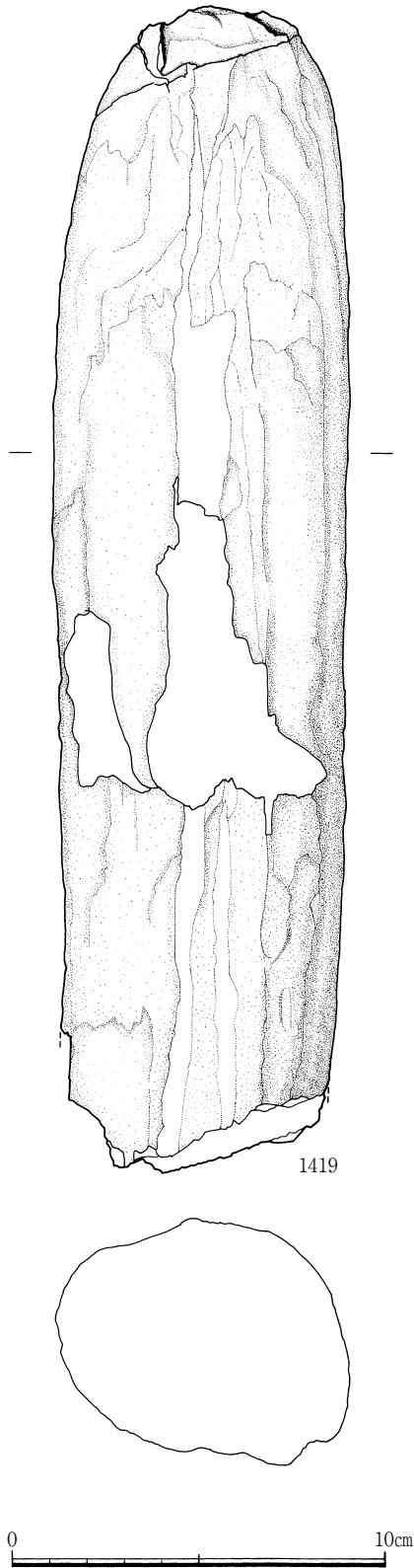


Fig.132 1C区出土石器11 (S : 1/2)

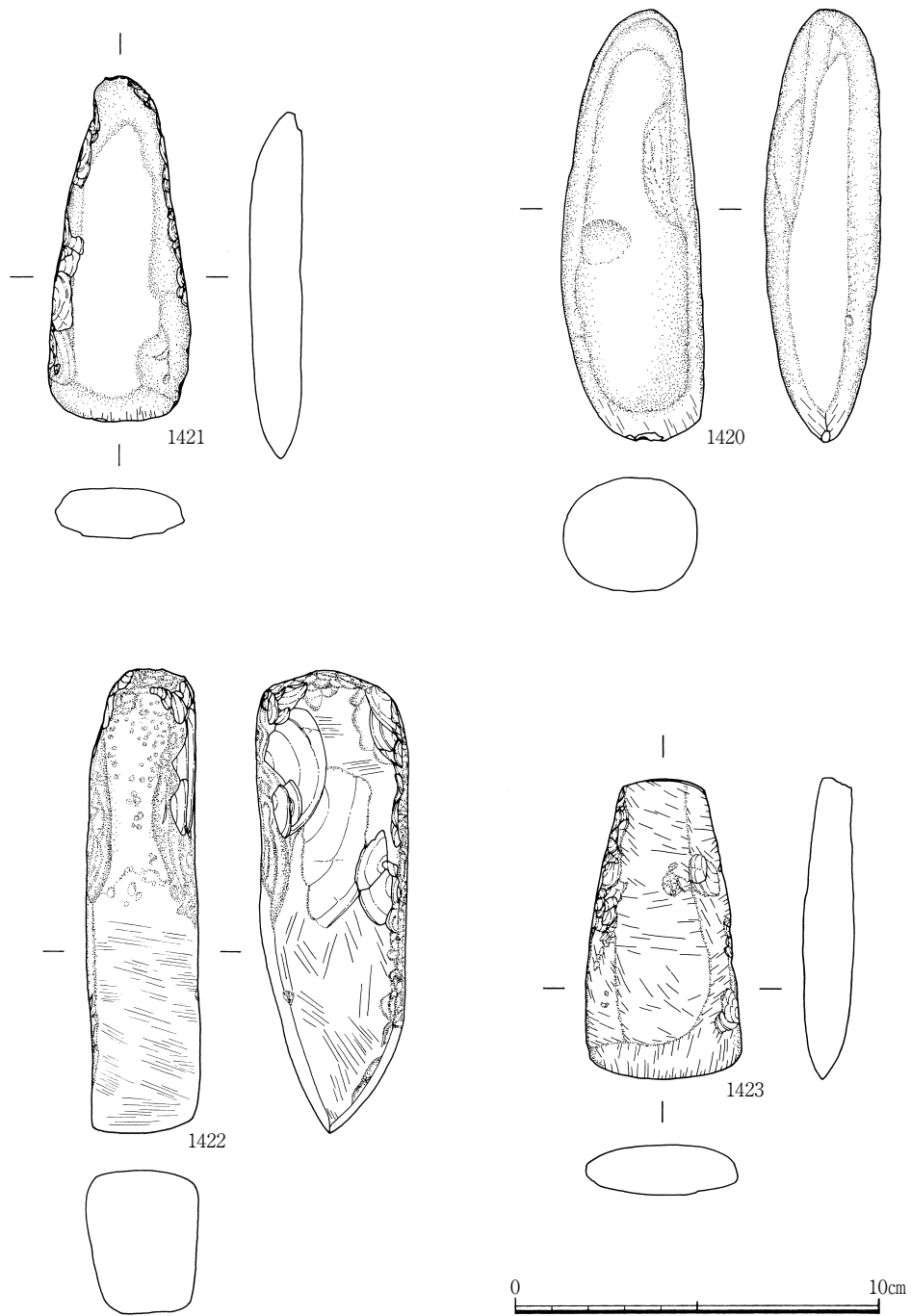


Fig.133 1C区出土石器12 (S : 1/2)

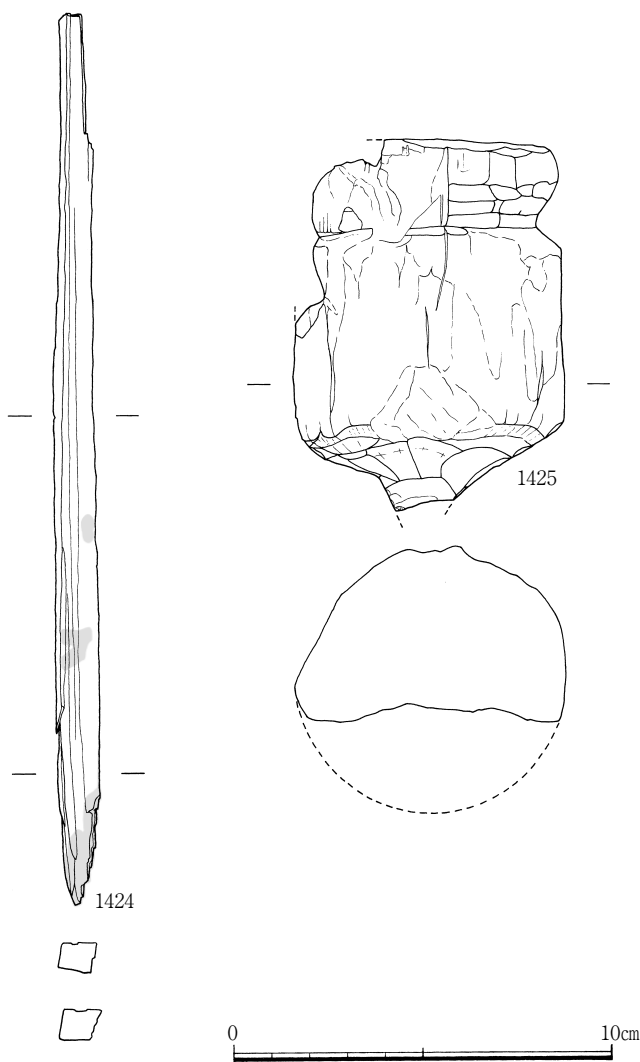


Fig.134 1C区出土木製品1 (S : 1/2)

キ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1432は左右両側縁部に抉り部各1を有するとみられる板状木製品である。表面には調整加工痕が明瞭に観察される。樹種はブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節という鑑定結果が得られている。1433は円形の穿孔1を有する板状木製品である。樹種はブナ科コナラ属アカガシ亜属という鑑定結果が得られている。

5. 総括

本編をもって、1C区の調査に関する報告は完結し、出土遺物のうちの図化資料の提示はひとまず果たした。しかし、報文中に反映できなかった未図化資料が多く存在することは事実であり、また出土土器以外の分布図も提示できていない。出土文化財の活用を可能とするための、資料化の作業が残っていることは否めない。1C区の調査成果(その1)、(その2)を通観し、調査成果の概略を記して、本編の総括とする。

第 層上面検出遺構について

急傾斜面上に掘り込まれた多数のピット状遺構を検出した。出土遺物は僅少で、ここから埋没年代を特定することはできないが、第 層出土遺物には縄文後期土器、縄文前期土器が認められることから、遺構年代の上限を縄文時代前期、下限を縄文時代後期と捉えることができよう。遺構の配列には有意性が認められようが、現時点では性格不明である。

第 層出土遺物について

少量の縄文後期土器、縄文前期土器が出土した。縄文後期土器は、第 層上面検出遺構(S X 101)の床面を掘り過ぎた際に出土したもので、相対的に第 層の上部側にあったものと理解できる。第 層は細分できなかったが、縄文時代前期から後期に亘って、表土層であったものと理解

される。

第 層出土遺物について

土層観察用の中央ベルト壁面から，突帯文土器 1 点を採取した。第 層は，無遺物層の第 層を間に挟み，明らかに第 層群の下位に位置する。この資料と第 層群出土土器との関係については未検討である。

第 層上面検出遺構について

性格不明遺構，ピット状遺構等を検出した。これらは，その出土遺物と，遺構検出面の上層にある第 層群の出土土器の年代観から，縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての時期の所産と考えられる。ピット状遺構 5 基を抽出して括った，ピット状遺構群は，建物跡等の性格を有する可能性がある。また，性格不明遺構として扱った，第 層上面の窪地からの出土遺物は，D 層最下層からの出土遺物と同義であり，あらためて第 層群出土土器に編入して，検討しなければならない。

第 層群出土遺物について

第 層群からは，土器，土製品，石器，木製品，獣骨類，貝類，堅果類，円礫等が出土し，1C 区の成果の中では，質・量ともに，最も充実した内容を有している。

土器に関しては，すでに一部考察を加えた⁽¹⁹⁾ように，「縄文土器」「突帯文土器」「弥生土器」の組成比率が興味深い事実を示しており，縄文時代晩期～弥生時代前期の移行期における，当該地域の土器様相変遷過程の一端を，垣間見ることができる。その状況下における，大洞式土器の搬入と，その模倣土器の存在，さらに別個体の漆塗り土器の出自の問題など，関連し，また派生する課題は数多い。

石器については，本編の図化点数を絞ったため，十分に語り尽くせてはいない。しかし，土器の様相に等しく，縄文文化に由来するものと弥生文化に包摂されるものとが共存する様相を，観て取ることができる。例えば，祭祀具では石冠，石棒，磨製石剣という縄文文化的な色彩が優越する一方，磨製石斧等の加工具においては，扁平片刃石斧，小型方柱状片刃石斧といった，いわ

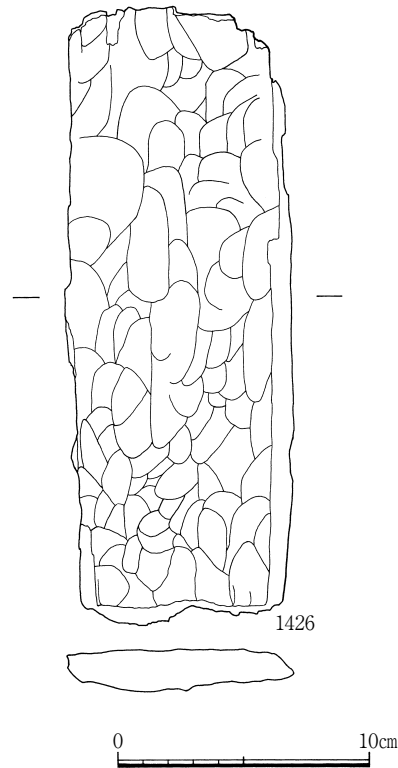


Fig.135 1C区出土木製品2 (S : 1/3)

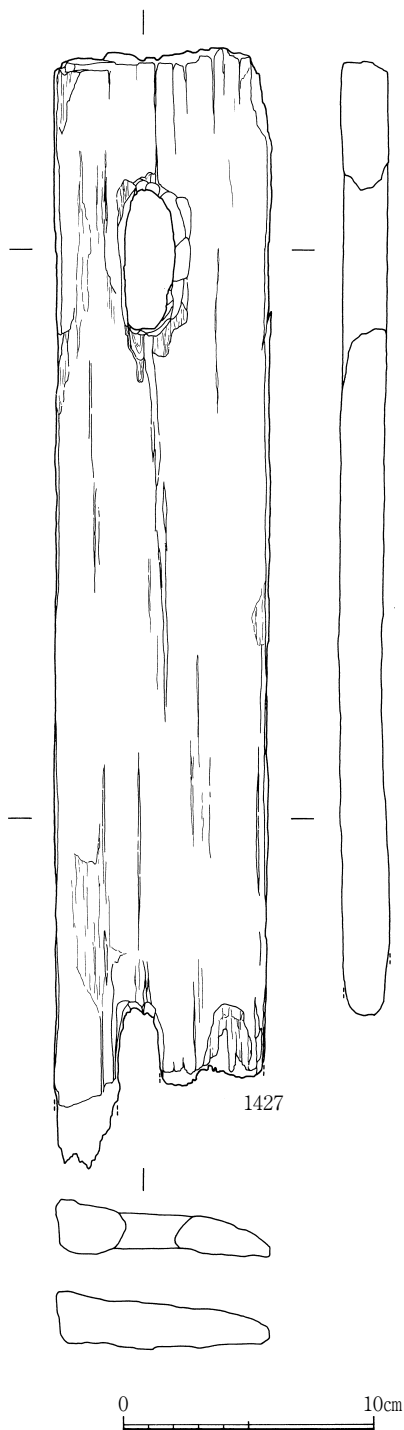


Fig.136 1C区出土木製品3 (S : 1/3)

ゆる大陸系磨製石器に含まれる器種が在来系の磨製石斧と併存している態様を看取することができる。

木製品は、第 層群全体で11点を得ることができたが、中でも特筆すべきは焦化材と独楽状木製品である。焦化材は火の使用と、点火 着火のプロセスを跡付ける、直接資料の可能性もある。また、独楽状木製品は用途不明とせざるを得ないが、摩擦に強いとされるツバキ材の性質⁽²⁰⁾を諒解した上での選択性が働いたとすれば、独楽であった可能性も否定できないし、また摩擦を伴う回転軸のような用途を有していたものとも考えられる。祭祀具としての独楽⁽²¹⁾の初現の問題、また土器製作の回転台の実像の問題と併せて、きわめて興味深い資料と評価できよう。

第 層中層検出遺構について

明黄褐色の埋土を有する、ピット状遺構6基を検出した。遺構埋土と捉えたものは、第 層上面付近で火を使用した際に生じた焼土の可能性があり、焼土化の及んだ深さを、遺構の深さとして理解してしまっている虞れがある。

第 層出土遺物について

第 層は反転層と考えられ、出土遺物には縄文時代晩期～弥生時代前期のものと、古墳時代前期～中期のもの2者が存在する。前者は第 層群出土遺物の様相に共通するものとみられ、本来は1C区の北方・斜面上方部分に存在した、第 層群相当層から供給されたものと推察される。また後者は、その反転行為の「発生もしくは実施」年代の上限を示すものと理解される。

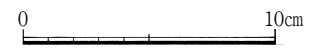
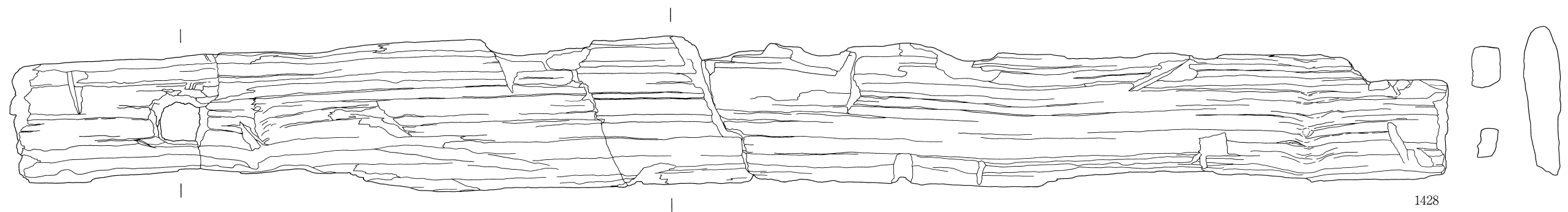
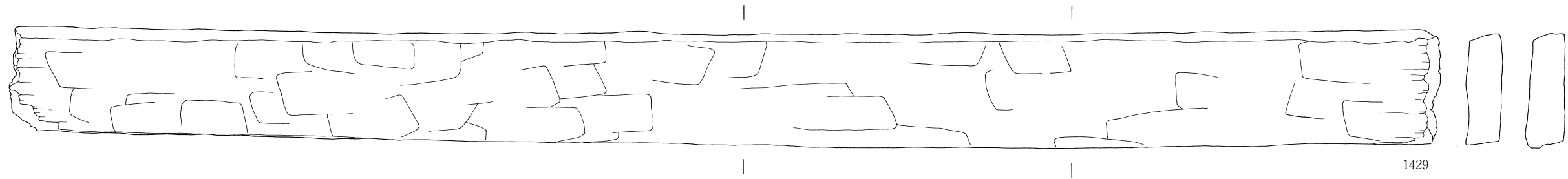


Fig.137 1C区出土木製品4 (S : 1/3)

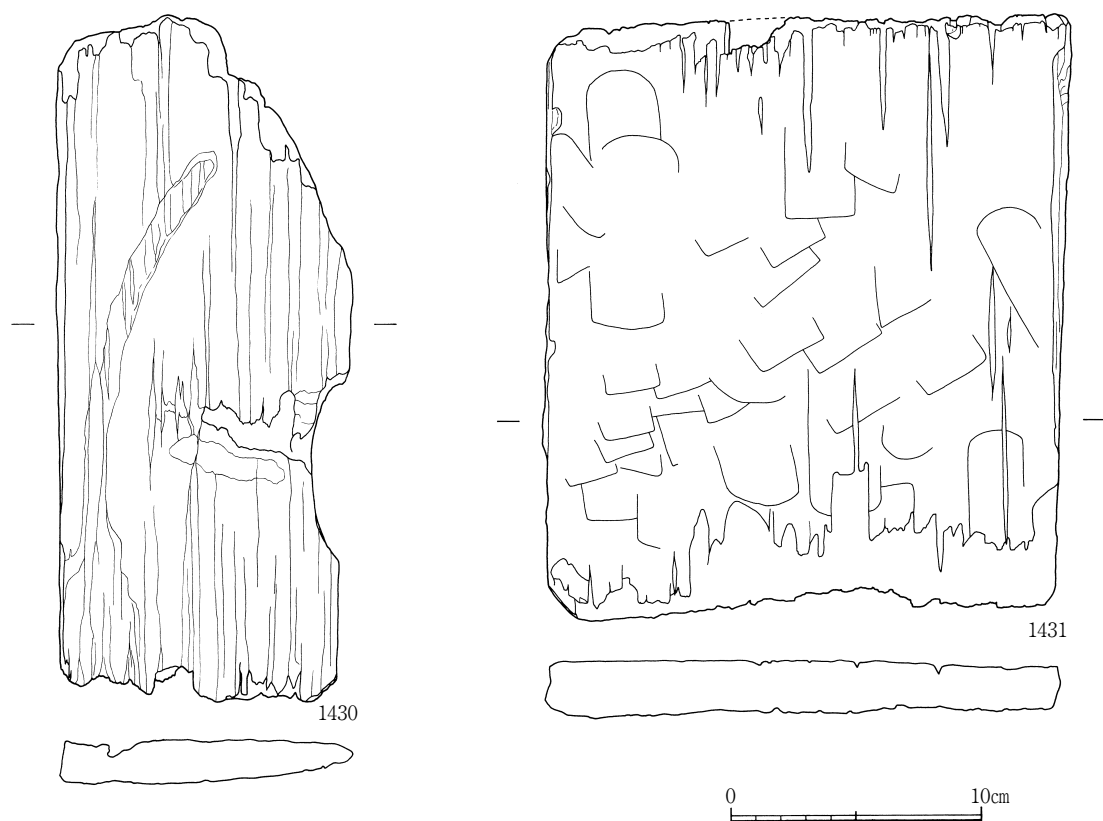


Fig.138 1C区出土木製品5 (S : 1/3)

第 層上面検出遺構について

性格不明遺構，ピット状遺構等を検出した。遺構の密度はきわめて希薄である。これらは，第 層群の堆積が完了した後に形成されたことが明白であり，第 層出土遺物の様相から，古墳時代前～中期を上限とする年代の所産と考えられる。また，斜面下方で検出した性格不明遺構 3 基は，第 層上面の浅い窪地を遺構として扱ったものと考えられ，その出土土器は第 層最下部の出土土器と同義と捉えることができる。

註

- (1) 曾我貴行「第 章 調査の成果 (2)1C区(その1)」『居徳遺跡群』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- (2) 同註(1)
- (3) 同註(1)
- (4) 同註(1)
- (5) 同註(1)
- (6) 同註(1)
- (7) 付図 8 に関しては，出土土器の接合関係，ならびに挿図番号を表示することができなかった。

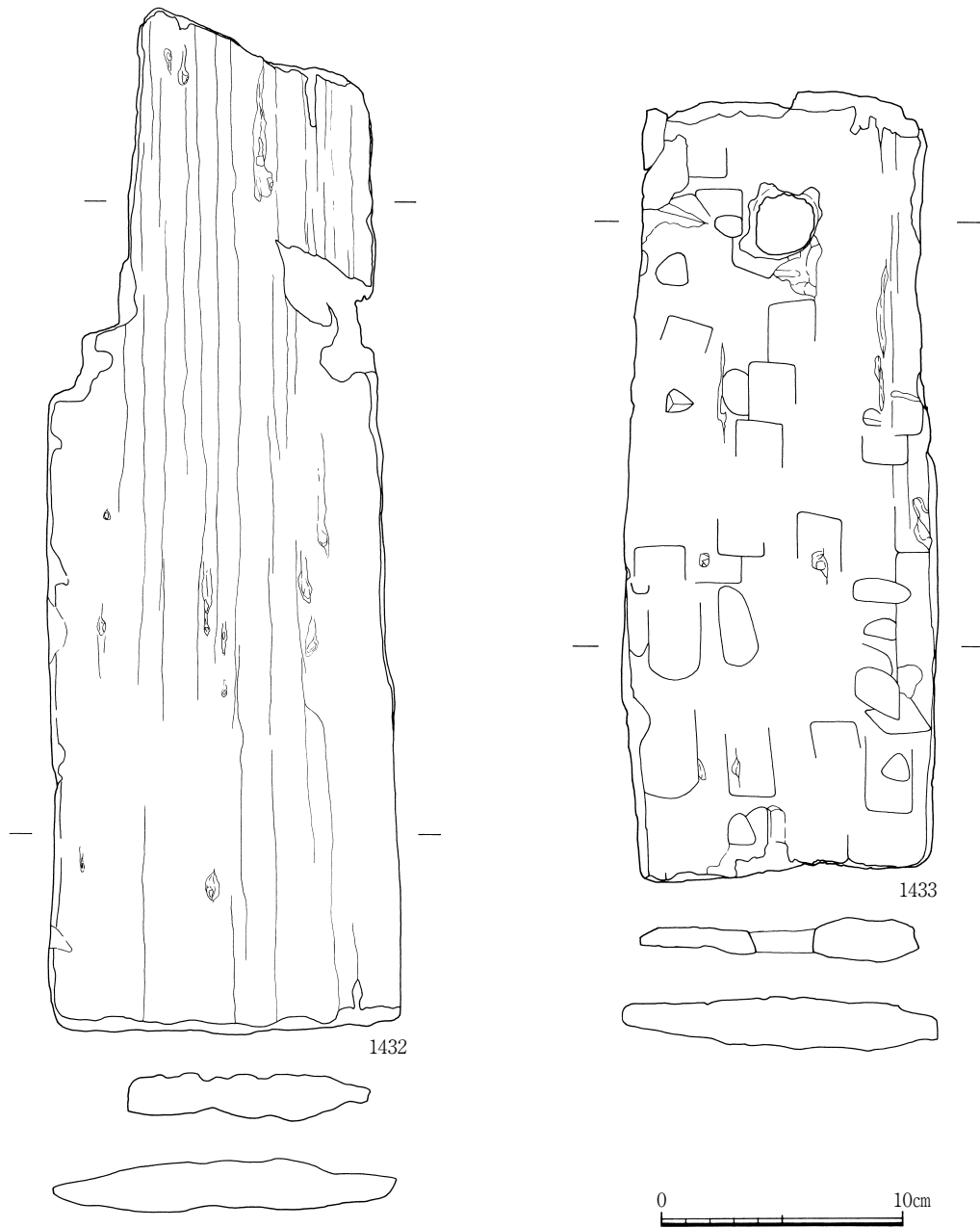


Fig.139 1C区出土木製品6 (S : 1/3)

- (8) 第 層群出土土器と、他の包含層出土土器及び遺構出土土器との接合関係は、未検討である。
- (9) 同註(1) p.108～111
- (10) 同註(1) p.59
- (11) 同註(9)
- (12) 泉拓良「縁帯文土器様式」『縄文土器大観4 後期 晩期 続縄文』小学館 1989年
- (13) 同註(10)
- (14) 小型方柱状片刃石斧ならびに柱状片刃石斧の部分名称については、下記の文献に拠った。
平井勝『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64 ニュー・サイエンス社 1991年
- (15) 樹種鑑定は株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付編2として掲載した。
以下、樹種に関する典拠は同様であり、それぞれの註は省略する。
- (16) 1C区出土木製品の保存処理は、樹種鑑定と併せて、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。
- (17) 木製品の器種名については、下記の文献を参考とし、また典拠とした。
奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊 1993年
- (18) ツバキ材は縦方向の荷重に強く、また摩擦への耐性を有しており、杖、傘の柄、櫛、洋楽器、独楽類、度量衡器などの用材として利用されるということを、山川清水氏（高知県立工石山森林科学館）から御教示いただいた。
- (19) 曾我貴行「1C区第 層群出土土器について」『居徳遺跡群』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- (20) 同註(18)
- (21) 独楽については坂本正夫氏（高知県立歴史民俗資料館長）から御教示いただいた。

表18 1C区出土土器観察表1

種図番号	出土地点 遺構 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調 外面 内面	胎土	接合	備考
Fig.108-666 (訂正・再掲)	IV層	弥生土器 壺 頸～胴部片	残高 4.50	刺突(短沈線?) 2段, ハケ, ナデ ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/3 " 5YR 7/4	赤色砂粒 チャート, 長石	外傾	
Fig.108-712 (訂正・再掲)	IV層	弥生土器 壺 頸～胴部片	残高 2.90	接合部=段, ミガキ ミガキ	黒 10YR 2/1 にぶい褐 7.5YR 6/3	長石, 石英	外傾	
Fig.108-976 (訂正・再掲)	IV層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.30	刻目突帯貼付2, 沈線2+1, 斜沈線2, ナデ 沈線4 端部: 外端刻目	にぶい黄橙 10YR 7/2 灰黄褐 " 6/2	石英, チャート 長石	内傾	波状口縁 外面: スス, タール
Fig.108-978 (訂正・再掲)	IV層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.70	刻目突帯貼付2, ナデ 沈線3+2, ミガキ?, ナデ 端部: 面(ナデ), 外端刻目 波頂部: 内端刻目1	にぶい黄橙 10YR 7/2 " " 6/3	チャート, 長石 石英	内傾?	波状口縁 外面: タール
Fig.108-959 (修整・再掲)	IV層	突帯文土器 口縁～胴部片	残高 12.20	外面: 刻目突帯貼付2, 縦位刻目突帯貼付2, ナ デ, 押圧, ヘラナデ 内面: ナデ, 押圧 端部: 外端側刻目	灰 " 5Y 6/1 " " "	粗砂粒, 石英	内傾?	特殊胎土 III層出土土器と接合
Fig.108-1294 (修整・再掲)	IV層	弥生土器 鉢 口縁～胴部片	口径 20.40 残高 9.00	ミガキ, ナデ 沈線3, ミガキ, ナデ(丁寧) 端部: 面(ナデ) 波頂部: 端面刻目1	黒 N 2/4 褐灰 10YR 4/4	石英, 長石, 雲母 チャート	外傾	波状口縁(波頂部4) III層出土土器と接合
Fig.109-1311	S X 102	縄文土器 鉢? 口縁部片	残高 4.50	ナデ ナデ 端部: 丸い(ナデ)	黄灰 2.5Y 4/1 黒褐 10YR 3/1	長石, 石英 土器粒?	内傾?	
Fig.109-1312	S X 102	弥生土器 鉢 口縁～胴部片	残高 5.00	ミガキ, ナデ, 押圧 ミガキ, ナデ 端部: 丸い	にぶい黄橙 10YR 7/2 黒褐 " 3/2	長石, 石英 赤色砂粒	内傾	外面: スス・タール
Fig.109-1313	P 191	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	口径 17.60 残高 4.30	ミガキ ミガキ 端部: 丸い	にぶい黄橙 10YR 6/4 " " 6/3	長石, 石英, 雲母	内傾	内面: 赤彩
Fig.109-1314	P 245	突帯文土器 口縁部片	残高 3.90	突帯貼付1+竹管刺突, 条痕, ナデ ナデ, 押圧 端部: 丸い(ナデ)	灰黄褐 10YR 5/2 黒 N 2/4	石英, 長石 チャート	内傾	
Fig.110-1315	S X 1	縄文土器 壺 口縁～頸部片	残高 6.00	ミガキ ミガキ 端部: 丸い(ミガキ)	灰黄褐 10YR 5/2 褐灰 " 4/1	石英, 長石, 雲母	内傾	
Fig.110-1316	S X 1	弥生土器 壺 底部片	残高 7.20 底径 11.70	ミガキ, ナデ, 押圧 ナデ 底面: ナデ(ミガキ?), 条線圧痕, 粒状圧痕	灰白 2.5Y 8/2 にぶい赤褐 2.5YR 4/4	石英, 長石 赤色砂粒	外傾	外面: 赤彩 底面: 赤彩
Fig.110-1317	S X 1	突帯文土器 口縁部片	残高 4.10	竹管刺突1段, 突帯貼付1+竹管刺突, ナデ ナデ, 押圧 端部: 丸く尖る	灰 にぶい黄橙 10YR 4/4 " 7/2	石英, チャート 長石	内傾	
Fig.110-1318	S X 1	突帯文土器 口縁部片	残高 3.40	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ 端部: 刻目	にぶい橙 5YR 6/4 黒褐 " 3/1	石英, 長石 チャート	内傾	波状口縁? 外面: スス・タール
Fig.110-1319	S X 1	突帯文土器 口縁部片	残高 3.70	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ, 押圧 端部: 丸い(ナデ)	にぶい褐 7.5YR 6/3 " " 5/3	チャート, 石英 長石	内傾	刻目: 刺突状
Fig.110-1320	S X 1	突帯文土器 口縁部片	残高 2.60	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ 端部: 丸い	褐灰 10YR 4/1 灰褐 7.5YR 5/2	石英, 長石	内傾	
Fig.110-1321	S X 2	突帯文土器 口縁部片	残高 3.30	刻目突帯貼付1, 焼成前穿孔1, ナデ? ナデ 端部: 凹面(ナデ), 外端刻目	暗灰 N 3/4 にぶい黄橙 10YR 7/2	長石, 石英	内傾	波状口縁?
Fig.110-1322	P 9	深鉢～甕 口縁部片	残高 4.90	ナデ ナデ 端部: 面(ナデ)	黒褐 " 2.5Y 3/2 " " "	石英, 長石 チャート	内傾	
Fig.110-1323	P 18	弥生土器 甕 底部片	残高 4.40 底径 7.80	板ナデ(ハケ?), ナデ, 押圧 押圧, ナデ 底面: ナデ, 板ナデ?	灰褐 7.5YR 4/2 灰黄褐 10YR 6/2	石英, 長石 赤色砂粒 チャート	?	
Fig.110-1324	P 18	弥生土器 鉢 口縁部片	残高 3.70	ミガキ? ミガキ 端部: 面(ミガキ?)	灰黄 2.5Y 7/2 にぶい黄橙 10YR 7/3	石英, チャート 長石, 赤色砂粒	外傾	
Fig.110-1325	P 21	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 14.70 残高 5.30	沈線2(3?), 沈線間: 刺突, ミガキ, ナデ ミガキ, ナデ(丁寧) 端部: 丸い	にぶい橙 7.5YR 7/4 " " 7/3	石英, 長石, 雲母 チャート	外傾	
Fig.111-1326	VII層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 5.10	条痕, ナデ ナデ, 押圧	にぶい橙 7.5YR 7/4 " " "	石英, 長石 赤色チャート? 雲母, 角閃石?	内傾	1327と同一個体? 縄文時代前期
Fig.111-1327	VII層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 4.10	条痕, ナデ ナデ, 押圧	橙 7.5YR 6/6 " " "	石英, 長石 赤色チャート? 雲母	内傾	1326と同一個体? 縄文時代前期
Fig.111-1328	VII層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.30	条痕, ナデ 条痕, ナデ	灰白 7.5YR 8/1 にぶい橙 5YR 6/4	石英, 長石 角閃石?, 雲母	内傾	縄文時代前期
Fig.111-1329	VII層	縄文土器 深鉢 口縁～胴部片	口径 20.10 残高 12.80	沈線文, 縦位沈線, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 端部: 丸い(ナデ)	褐 7.5YR 4/3 灰褐 " 4/2	長石	内傾	波状口縁(波頂部4) 縄文時代後期 縁帯文土器
Fig.111-1330	VI層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.70	刻目1段, 刻目突帯貼付1, ナデ, 爪形文 ナデ, 押圧 端部: 丸い	黒 " 2.5Y 2/1 " " "	長石, 石英	内傾	外面: スス・タール
Fig.112-1331	III C層	縄文土器 壺	胴径 48.00 残高 46.00 底径 9.20	外面: 沈線1, ミガキ, ナデ(丁寧), ナデ(ケ ズリ状), ナデ 内面: ナデ, 押圧 底面: ミガキ～ナデ(丁寧)	にぶい褐 7.5YR 5/4 にぶい黄褐 10YR 5/3	長石, 石英, 雲母	内傾	

表19 1C区出土土器観察表2

押図番号	出土地点 遺構 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	接合	備考
Fig.113-1332	ⅢC層	縄文土器 壺 口縁～胴部片	口径 12.30 胴径 21.20 残高 10.80	沈線1=接合部, ミガキ ミガキ, ナデ, 押圧 端部: 丸い	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR 5/3 10YR 4/2	長石, 石英 角閃石?	内傾 沈線部分: 擬口縁露出 →分割成形?
Fig.113-1333	ⅢC層	縄文土器 壺 口縁～胴部片	残高 6.90	沈線1, 段1=接合部, ミガキ, ナデ (ケズリ状) ミガキ, ナデ 端部: 丸い (ミガキ)	灰黄褐 黒褐	10YR 4/2 " 3/2	石英, 長石, 雲母 角閃石?	内傾 外面: スス・タール
Fig.113-1334	ⅢC層	縄文土器 壺 口縁～胴部片	残高 6.10	突帯貼付1, ナデ ナデ 端部: 丸い (不整)	褐灰 橙	10YR 6/1 5YR 6/6	長石, チャート 石英	内傾
Fig.113-1335	ⅢC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.00	ミガキ, ナデ, 押圧 沈線2, ミガキ, ナデ 端部: 丸い (ミガキ~ナデ)	褐灰 "	10YR 5/1 " 4/1	長石, 石英, 水晶	内傾 波状口縁?
Fig.113-1336	ⅢC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.30	沈線文, ミガキ ミガキ 端部: 丸い (ミガキ)	灰黄褐 "	10YR 6/2 " "	長石, 石英, 雲母	内傾 櫛原式文様~工字文?
Fig.113-1337	ⅢC層	弥生土器 高杯 脚部片	胴径 6.20 残高 5.40	突帯貼付1, ミガキ 押圧, ナデ, 絞り目	にぶい黄橙 浅黄橙	10YR 6/4 " 8/3	石英, 長石, 雲母	?
Fig.113-1338	ⅢC層	弥生土器 高杯 脚部片	胴径 7.50 残高 5.40	刻目突帯貼付1, ナデ (丁寧) ミガキ? ナデ, 押圧, ミガキ	にぶい黄橙 "	10YR 7/3 " "	石英, 長石 赤色砂粒, 雲母	?
Fig.114-1339	ⅢB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 3.30	沈線12, 縦位沈線5, ミガキ ナデ, 押圧	にぶい黄橙 暗灰	10YR 7/3 N 3/	チャート, 石英 長石	外傾
Fig.114-1340	ⅢB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.60	沈線3, 重弧文 (4条), ミガキ ナデ	灰 黒	5Y 4/1 N 2/0	チャート, 石英 長石	外傾
Fig.114-1341	ⅢB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.80	沈線3+1, 斜沈線6, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい褐 にぶい赤褐	7.5YR 5/4 5YR "	石英, 長石 赤色砂粒 チャート	外傾
Fig.114-1342	ⅢB層	弥生土器 突帯文土器 口縁部片	残高 3.70	刻目突帯貼付2, 斜位刻目突帯貼付3, ナデ ナデ, 押圧 端部: 丸い	にぶい黄橙 褐灰	10YR 7/2 " 4/1	長石, 石英	外傾? 波状口縁? 内面: スス
Fig.114-1343	ⅢB層	深鉢~甕 底部片	残高 2.90	ナデ (ケズリ状), 押圧 (粒状圧痕) ナデ	にぶい黄 黄褐	2.5Y 6/4 " 5/3	長石, チャート 石英	内傾?
Fig.114-1344	ⅢB層	弥生土器 甕 口縁~胴部片	口径 22.80 残高 14.80	段1+刻目, ナデ, ハケ? (板ナデ?) ナデ 端部: 丸い, 外端側刻目2個	にぶい橙 明褐	7.5YR 7/3 " 7/2	チャート, 石英	外傾 外面: スス
Fig.114-1345	ⅢB層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 3.10	竹管刺突3~4段, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 端部: 刻目	橙 にぶい橙	5YR 7/6 7.5YR 7/4	石英, 雲母, 長石	外傾? 外面: スス・タール
Fig.114-1346	ⅢB層	弥生土器 甕 底部片	残高 5.60 底径 9.20	ハケ, 押圧 ナデ, 押圧 底面: ナデ, 押圧, 粒状圧痕	灰褐 にぶい褐	7.5YR 6/2 " 5/4	長石, 石英 チャート	外傾
Fig.114-1347	ⅢB層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.40	段1=接合部, ナデ, ケズリ, ナデ (丁寧)? 沈線1+1, ミガキ~ナデ (丁寧) 端部: 面 (ミガキ~ナデ) 波頂部: 端部刻目	褐灰 黒褐	10YR 4/1 " 3/1	長石, 石英	内傾 波状口縁
Fig.114-1348	ⅢA層	土師器 壺 底部片	残高 2.90	ハケ, ナデ (丁寧) ナデ, 押圧	灰 浅黄橙	N 4/4 10YR 8/3	長石, 石英 胎土精製	?
Fig.115-1349	Ⅲ層	縄文土器 壺 口縁~頸部片	口径 8.90 残高 5.50	ミガキ (暗文状) ミガキ 端部: 丸い (ナデ)	黒 黒褐	2.5Y 2/1 " 3/1	長石, 石英, 雲母	?
Fig.115-1350	Ⅲ層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 23.30 残高 12.00	ミガキ ミガキ, ナデ, 押圧 端部: 面 (ミガキ~ナデ, 赤彩)	明赤褐 "	2.5YR 5/6 " "	石英, 長石 赤色砂粒	外傾 内外面: 赤彩 端面: 赤彩
Fig.115-1351	Ⅲ層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	残高 9.80	ミガキ, ナデ ミガキ, 押圧, ナデ 端部: 丸い	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/2 " 5/2	長石, 赤色砂粒 石英, 雲母 角閃石	外傾 外面: タール
Fig.115-1352	Ⅲ層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 3.90	外面: 接合部一段 (沈線状), 沈線1, 竹管刺突 2段, ミガキ, ナデ 内面: ミガキ, ナデ	浅黄橙 にぶい橙	7.5YR 8/4 " 7/4	チャート, 石英 長石	外傾
Fig.115-1353	Ⅲ層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 2.90	沈線2, 縦位沈線3, 複線山形文3条, ミガキ ナデ	橙 にぶい橙	7.5YR 6/6 " 6/4	長石, 石英, 雲母 チャート	外傾
Fig.115-1354	Ⅲ層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 2.20	沈線2, 竹管刺突文2段, ナデ ナデ	橙 "	7.5YR 7/6 " "	チャート, 長石 石英	外傾? 甕?
Fig.115-1355	Ⅲ層	弥生土器 壺 胴部片	残高 6.40	沈線6, 重弧文3条, ミガキ, ナデ (丁寧) ナデ, 押圧	黄灰 暗灰	2.5Y 5/1 N 3/	チャート, 石英 長石	外傾
Fig.115-1356	Ⅲ層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.90	外面: 沈線3+縹杉文, 斜沈線3 (複線山形文 ?), 無軸木葉文 (7条), 縦位沈線2, ミガキ 内面: ナデ, 押圧	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 " "	石英, チャート 長石	外傾
Fig.115-1357	Ⅲ層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.90	「C」字状貼付文, ミガキ ナデ?	橙 にぶい橙	5YR 6/6 " 6/4	長石, チャート 赤色砂粒	外傾? 外面: スス・タール
Fig.115-1358	Ⅲ層	弥生土器 壺 底部片	残高 10.20 底径 17.60	ミガキ, ナデ, 押圧 押圧, ナデ? 底面: ナデ, 粒状圧痕1	灰白 橙	10YR 8/2 5YR 7/6	長石, 石英 赤色砂粒, 雲母	外傾 外面: 赤彩
Fig.115-1359	Ⅲ層	弥生土器 壺 底部片	残高 4.10 底径 12.90	ハケ, ミガキ?, 押圧 押圧 底面: ナデ (丁寧), 押圧	灰白 赤	10YR 8/2 10R 5/6	石英, 赤色砂粒 長石	? 外面: 赤彩 底面: スス

表20 1C区出土土器観察表3

挿図番号	出土地点 遺構 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外 内 その他の部位	色調 内 外	胎土	接合	備考	
Fig.116-1360	Ⅲ層	突帯文土器 口縁～胴部片	口径 26.70 胴径 20.60 残高 18.90	外面：刻目突帯貼付1，段1＝沈線状，ナデ（丁寧），ナデ（ケズリ状） 内面：ナデ（丁寧） 端部：丸い，外端刻目	にぶい黄褐 " " " " " "	10YR 5/4 " " 4/3	長石，石英	内傾	外面：スス・タール 内面：黒菱 精製土器的
Fig.116-1361	Ⅲ層	突帯文土器 口縁～胴部片	口径 17.20 胴径 13.20 残高 10.20	外面：刻目突帯貼付1，沈線1，ナデ，ミガキ～ナデ（丁寧），ナデ（ケズリ状） 内面：ナデ（丁寧） 端部：面（ミガキ？）	にぶい黄褐 黒褐	10YR 4/3 " 3/2	石英，長石，雲母	内傾	精製土器的
Fig.116-1362	Ⅲ層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.60	刻目突帯貼付1，条痕，ナデ ナデ，押圧 端部：面（ナデ），外端刻目	灰黄褐 黄灰	10YR 5/2 2.5Y 5/1	長石，チャート 石英	内傾	
Fig.116-1363	Ⅲ層	突帯文土器 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付1，ナデ，円形刺突1 ナデ 端部：面（ナデ），外端刻目	暗灰 " " " "	N 3/0 " " "	長石，チャート	内傾	
Fig.116-1364	Ⅲ層	突帯文土器 口縁～胴部片	残高 5.20	刻目突帯貼付1，ナデ ナデ，押圧 端部：丸い	にぶい黄橙 にぶい褐	10YR 6/4 7.5YR 5/4	長石，石英 チャート	内傾	
Fig.116-1365	Ⅲ層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.30	刻目突帯貼付1，ナデ，押圧 ナデ，押圧 端部：丸い	にぶい橙 黄灰	7.5YR 6/4 2.5Y 4/1	長石，石英 角閃石？	内傾	
Fig.117-1366	Ⅲ層	深鉢～甕 口縁～胴部片	口径 25.90 残高 12.10	楕円形刺突2段，ナデ，押圧，条痕 ナデ，押圧 端部：丸い（ナデ）	灰 黒褐	N 4/4 10YR 3/1	石英，長石 チャート	内傾	
Fig.117-1367	Ⅲ層	深鉢～甕 口縁～胴部片	口径 21.90 胴径 20.10 残高 12.60	条痕，ナデ ナデ（粗い），押圧 端部：面（不整）	橙 にぶい橙	5YR 6/6 " 6/4	石英，長石 チャート	内傾	
Fig.117-1368	Ⅲ層	深鉢～甕 口縁～胴部片	残高 13.20	ナデ，押圧，条痕 ナデ，押圧 端部：丸い（不整），刻目	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR 5/4 10YR 6/2	石英，長石	内傾	外面：スス
Fig.117-1369	Ⅲ層	深鉢～甕 底部片	残高 2.90	条痕，ナデ，押圧 ナデ，押圧	灰 暗灰黄	5Y 4/1 2.5Y 5/2	長石，石英	内傾	
Fig.117-1370	Ⅲ層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	残高 6.40	接合部一段（凹線状）+刻目～刺突，ハゲ，ナデ ナデ，押圧 端部：丸い（ナデ），外端刻目	灰白 灰黄褐	10YR 8/2 " 6/2	石英，チャート 長石？	外傾	外面：スス・タール
Fig.117-1371	Ⅲ層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	残高 7.60	沈線3，ハゲ，ナデ，ミガキ？ ナデ，押圧 端部：丸い，外端刻目	にぶい黄橙 " " " "	10YR 7/3 " 6/3	チャート，石英 長石	外傾	
Fig.117-1372	Ⅲ層	弥生土器 甕 底部片	残高 5.10 底径 7.60	ハゲ ナデ？，押圧 底面：ナデ	灰白 褐灰	7.5YR 8/2 " 4/1	長石，赤色砂粒 チャート	？	
Fig.118-1373	Ⅲ層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 7.50	沈線1，ミガキ ミガキ 端部：丸い（ミガキ）	にぶい黄褐 灰黄褐	10YR 5/3 " 5/2	長石，石英，雲母	内傾	外面沈線内：赤彩 外面：タール
Fig.118-1374	Ⅲ層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.20	段1＝接合部，沈線1，ミガキ ミガキ 端部：丸い	灰黄褐 " " " "	10YR 4/2 " "	石英，長石，雲母 赤色砂粒	内傾	
Fig.118-1375	Ⅲ層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.20	段1＝接合部，ミガキ ミガキ 端部：面	黄灰 " " " "	2.5Y 4/1 " "	石英，長石，雲母	内傾	
Fig.118-1376	Ⅲ層	縄文土器 浅鉢 底部片	残高 2.50 底径 7.80	ミガキ，ナデ ミガキ 底面：ナデ？	黒褐 " " " "	10YR 3/1 " "	長石，石英，雲母	内傾	
Fig.118-1377	Ⅲ層	弥生土器 鉢 底部片	残高 3.00 底径 4.80	ミガキ，ナデ，押圧 ミガキ 底面：ミガキ，ナデ，粒状圧痕？	にぶい橙 " " " "	7.5YR 7/3 5YR "	石英，長石 チャート 赤色砂粒	？	
Fig.118-1378	Ⅲ層	弥生土器 鉢 底部片	残高 2.20 底径 5.00	沈線2，ミガキ ミガキ	橙 にぶい橙	7.5YR 7/4 " "	長石，石英 赤色砂粒	？	
Fig.118-1379	Ⅲ層	弥生土器 鉢 底部片	残高 5.90	外面：沈線文（沈線3+3，弧線8，縦位沈線2，斜沈線4？），ミガキ 内面：ナデ，ヘラナデ？ 底面：ミガキ	灰黄褐 橙	10YR 6/2 7.5YR 6/6	長石，石英，雲母	外傾？	
Fig.119-1380	Ⅲ層	土師器 甕	口径 17.10 器高 22.60 胴径 18.30	タタキ，ナデ，押圧，ナデ（ケズリ状） ナデ，押圧 端部：丸い 底面：タタキ～編物圧痕？	にぶい赤褐 " " " "	5YR 5/4 " " "	石英，長石 チャート 赤色砂粒	内傾	古墳時代
Fig.119-1381	Ⅲ層	土師器 甕	口径 16.20 胴径 19.00 残高 22.20	板ナデ，ハゲ，ナデ 板ナデ，ナデ	にぶい褐 " " " "	7.5YR 5/3 " "	長石	？	ほぼ完存 底部付近外面：剥落 古墳時代
Fig.119-1382	Ⅲ層	土師器 高杯	口径 16.50 器高 11.90 底径 11.00	ナデ ナデ 口縁端部：丸い 裾端部：丸い 脚部内面：板ナデ（ケズリ状），放射状圧痕	浅黄橙 にぶい橙	7.5YR 8/4 " 7/4	長石，石英 サヌカイト？ 胎土精製		坏部に中実脚部を接合 古墳時代
Fig.120-1383	表採	突帯文土器 口縁部片	残高 3.40	刻目突帯貼付2，ナデ ナデ 端部：丸い	暗灰 灰褐	N 3/3 5YR 6/2	粗砂粒	内傾	刻目：刺突状 特殊胎土
Fig.120-1384	表採	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.10	有軸木葉文，ナデ？ ナデ，押圧	明赤褐 " " " "	2.5YR 5/8 5YR 5/6	石英，長石 チャート	外傾	
Fig.120-1385	表採	弥生土器 壺 胴部片	残高 6.40	沈線2，斜沈線2，ナデ ナデ，押圧	褐灰 にぶい褐	10YR 4/1 7.5YR 5/2	赤色砂粒，長石 石英	外傾	外面：スス・タール 内面：黒菱・スス

表21 1C区出土土製品観察表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)					調整等 A面 B面 その他の部位	色調 A面 B面	胎土	備考	
			全長	全幅	全厚	孔径	重量					
Fig.121-1386	IVD層	土製円板	5.60	5.30	0.60	—	23.60	ミガキ ミガキ (暗文状) 周縁部: 研磨	黒 黒褐 " "	10YR 2 / 1 " 3 / 1	長石, 石英 雲母	A面: タール 浅鉢胴部片素材
Fig.121-1387	IVD層	土製円板	4.40	4.40	0.90	—	20.60	条痕 ミガキ ミガキ 周縁部: 剥離痕	オリーブ黒 黒 " "	5Y 3 / 1 " 2 / 1	長石, 石英 雲母	浅鉢胴部片素材
Fig.121-1388	IVB層	土製円板	4.40	4.15	0.90	—	21.40	条痕 ナデ (ケズリ状)	にぶい黄橙 黄灰 " "	10YR 7 / 2 2.5Y 4 / 1	石英, 長石 チャート	A面: ス・タール 深鉢~翼胴部片素材
Fig.121-1389	IVB層	土製紡錘車	4.70	4.20	1.00	0.80	15.80	押圧, ナデ 押圧, ナデ	灰黄褐 褐灰 " "	10YR 6 / 2 " 5 / 1	石英, 長石 チャート	蓋の胎土に近似
Fig.121-1390	IV層	土製円板	4.30	3.50	0.90	—	14.00	条痕 ナデ, 押圧	黒褐 褐灰 " "	10YR 3 / 1 " 4 / 1	長石, 石英 チャート	深鉢~翼胴部片素材
Fig.121-1391	IV層	土製円板	5.15	3.90	0.70	—	18.10	ミガキ~ナデ (丁寧) ナデ (丁寧)	黒褐 " "	10YR 3 / 1 " "	長石, 石英	B面: 黒変? 壺胴~底部片素材
Fig.121-1392	IV層	土製紡錘車	4.90	3.90	0.90	0.70	14.70	ハケ?, 押圧, ナデ 押圧, ナデ	橙 にぶい橙 " "	5YR 6 / 6 " 4 / 3	チャート 赤色砂粒 石英, 長石	蓋の胎土に近似

表22 1C区出土石器計測表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	石材	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
Fig.122-1393	S X 104	磨石	9.90	9.30	4.40	578.80	A面・周縁部: 敲打痕	花崗岩	ほぼ完存
Fig.123-1394	S X 1	打製石斧	10.40	4.20	1.40	101.90	A面: 素材礫皮面残す, B面: 全面剥離面	結晶片岩	完存
Fig.123-1395	P 67	両刃磨製石斧	8.00	5.55	2.90	190.50	A・B面: 擦痕多い, 両側縁: 敲打痕 刃部: 縦位条線=使用痕?	蛇紋岩	完存
Fig.124-1396	IVD 3層	両刃磨製石斧	8.80	5.80	3.50	253.30	A・B面: 擦痕	砂岩?	
Fig.125-1397	IVD層	打製石斧	7.80	6.90	1.40	81.60	A面: 主剥離面側?, B面: 素材礫皮面残す	蛇紋岩	
Fig.125-1398	IVD層	磨石	9.30	8.20	8.00	650.00	下面: 敲打痕=中央部凹み	花崗岩?	石冠の形状を模倣?
Fig.125-1399	IVD層	磨石	10.70	9.60	6.20	875.00	A面・周縁部: 敲打痕, B面: 滑面	花崗岩	ほぼ完存
Fig.126-1400	IVB層	打製石斧	10.40	4.90	1.70	102.10	A面: 素材礫皮面残す, B面: 主剥離面側	結晶片岩	
Fig.126-1401	IVB層	扁平片刃石斧	3.90	3.80	0.85	28.10	全面: 擦痕多い, 刃部: 微細な剥離=使用痕?	蛇紋岩	完存
Fig.126-1402	IVB層	加工ある円礫	11.10	9.10	1.95	241.10	両側縁部: 剥離	砂岩	完存
Fig.126-1403	IVB層	石冠	9.30	6.80	7.70	492.80	下面: 中央部凹み, 全面: 研磨	角閃岩	
Fig.126-1404	IVB層	磨製石剣	9.70	4.70	2.90	155.50	白色硬質部分を造形に利用	砂岩	完存
Fig.127-1405	IVA層	加工ある円礫	14.20	9.10	2.05	422.80	両側縁部: 剥離	結晶片岩	完存
Fig.128-1406	IV層	磨製石鏃	5.95	1.05	0.40	3.00	鏃あり, 擦痕多い	頁岩	完存
Fig.128-1407	IV層	磨製石鏃	4.60	1.15	0.40	2.50	擦痕多い	頁岩	
Fig.128-1408	IV層	磨製石鏃	4.30	1.20	0.30	2.10	擦痕多い	頁岩	
Fig.129-1409	IV層	打製石斧	10.55	4.40	1.20	91.30	刃部: 磨製石斧状	結晶片岩	
Fig.129-1410	IV層	両刃磨製石斧	9.30	5.40	2.80	228.10	擦痕多い	蛇紋岩	
Fig.129-1411	IV層	両刃磨製石斧	9.90	5.25	2.00	164.30	擦痕	蛇紋岩	B面: 大半欠
Fig.129-1412	IV層	磨製石斧	7.90	3.50	1.40	59.10	擦痕多い, 刃部: 縦位条線・光沢=使用痕?	蛇紋岩	完存
Fig.129-1413	IV層	磨製石斧	6.85	3.70	1.40	56.70	全面: 研磨	蛇紋岩	完存
Fig.129-1414	IV層	片刃磨製石斧	10.40	3.10	2.30	112.80	刃部: 擦痕	結晶片岩?	ほぼ完存 黒色付着物・光沢
Fig.129-1415	IV層	小型方柱状片刃石斧	5.60	1.45	1.50	15.10	前主面: 研磨痕, 後主面: 滑面・研磨 刃部: 縦位分割後再生	結晶片岩	
Fig.129-1416	IV層	スクレーパ	5.10	4.50	0.60	15.50	A面: 素材礫皮面広い	凝灰質頁岩 (酸性凝灰岩)	
Fig.130-1417	IV層	石皿	22.10	11.80	8.10	3500.00	擦痕多い, 凹部明瞭	砂岩?	
Fig.131-1418	IV層	磨製石剣	12.90	4.80	3.90	363.20	素材礫皮面残す	結晶片岩	柄部片
Fig.132-1419	IV層	石棒	31.30	8.00	6.70	2800.00	成形痕殆どなし?	結晶片岩	先端部ほか黒変部分あり
Fig.133-1420	III D層	両刃磨製石斧	11.90	3.95	3.20	226.90	刃部: 擦痕=使用痕?	結晶片岩	ほぼ完存
Fig.133-1421	III C層	磨製石斧	9.55	3.95	1.45	85.20	刃部: 縦位条線=使用痕?	結晶片岩?	完存
Fig.133-1422	III C層	柱状片刃石斧	12.80	3.20	4.20	278.00	前主面: 凹部=敲打痕, 後主面: 敲打・研磨 基部: 敲打痕	凝灰岩	完存
Fig.133-1423	III層	磨製石斧	8.30	4.35	1.45	86.90	擦痕多い, 刃部: 縦~斜位条線=使用痕? 基部: 研磨面	蛇紋岩	完存

表23 1C区出土木製品計測表

挿図番号	層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.134-1424	IVD 2層	焦化材	23.65	1.20	0.80	表面：縦位裁断面（4面） 下端部：黒変（炭化）	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.134-1425	IVD層	独楽状木製品	9.90	7.20	4.70	表面：溝状抉り部 1 上端：平坦面 下端：円錐状、尖る？	ツバキ科ツバキ属	
Fig.135-1426	IVD層	板状木製品	24.50	8.90	1.70	表面：加工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.136-1427	IVD層	部材	44.40	8.50	2.30	穿孔 2（楕円形）	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.137-1428	IVD層	部材	92.50	9.50	2.40	穿孔 1（方形？）	ブナ科クリ属クリ	
Fig.137-1429	IVD層	板状木製品	87.50	7.30	2.40	表面：加工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.138-1430	IVB層	板状木製品	27.20	11.70	1.70	右側縁：抉り部 1	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.138-1431	IVB層	板状木製品	24.50	20.90	2.30	表面：加工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属	礎板？
Fig.139-1432	IVB層	板状木製品	42.10	14.50	2.10	表面：加工痕明瞭 左右両側縁：抉り部各 1？	ブナ科コナラ属コナラ亜属 コナラ節	
Fig.139-1433	IVB層	板状木製品	32.50	13.00	2.20	穿孔 1（円形）	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
巻頭図版16-1434	IVD 2層	編みかご状製品	13.00	12.00	—		ブドウ科	土ごと固定

(4) 1DN区

1. 調査区の概要

1DN区とは、1D区のおよそ北半部に相当し、かつ第3面の調査範囲に限定した調査区名である。調査工程上の理由から、1D区とは担当者が異なるため、調査時点から1DN区として分割し、報告するものである。面積は757m²であるが、本来1D区の面積の一部であり、重複計算を避けるために、『居徳遺跡群』⁽¹⁾の表2においては括弧書きで表記している。1DN区第3面の調査前の状況は、隣接の1C区から続くB層の掘削途上であり、東から西への弱い傾斜をもちながらも、ほぼ平坦な地形を呈していた。

発掘調査期間は、平成10年2月6日～平成10年3月31日である。

2. 調査の方法 (Fig.142)

着手時点で、第3面の遺物包含層が露出した状態にあったため、そのまま包含層の掘削に取りかかり、完掘した。第 層上面を精査したが、遺構は検出されない。

遺物のうち、必要と判断されたものに関しては、出土地点の3次元座標を測定し、記録した。完掘状態の地形図は、航空写真撮影と併せて航空写真測量によって作製した。

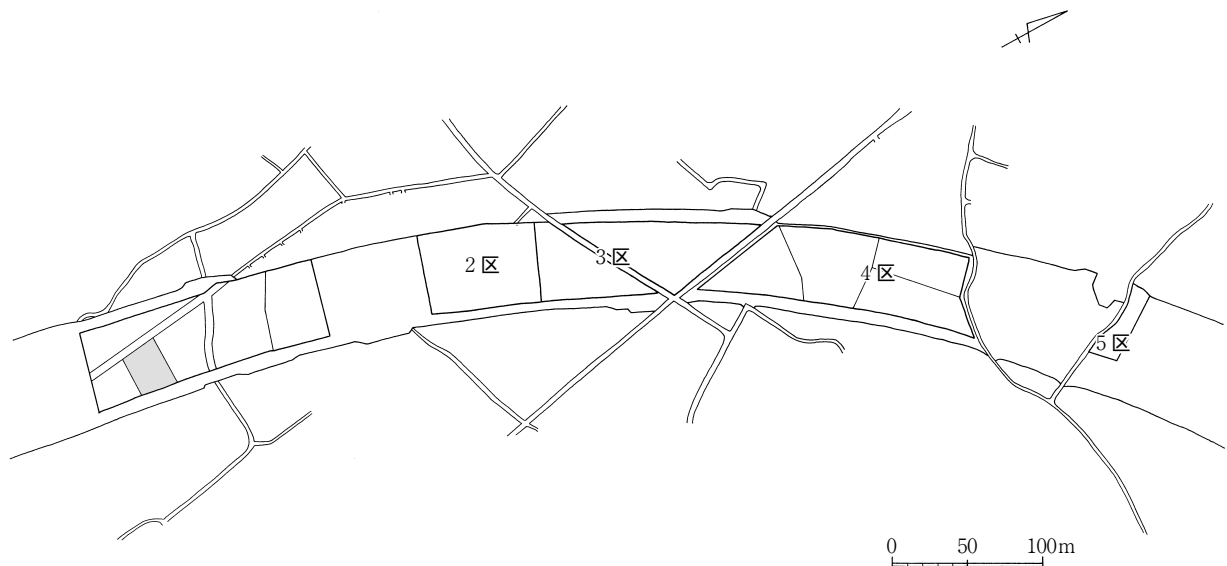


Fig.140 1DN区的位置 (S : 1/5,000)

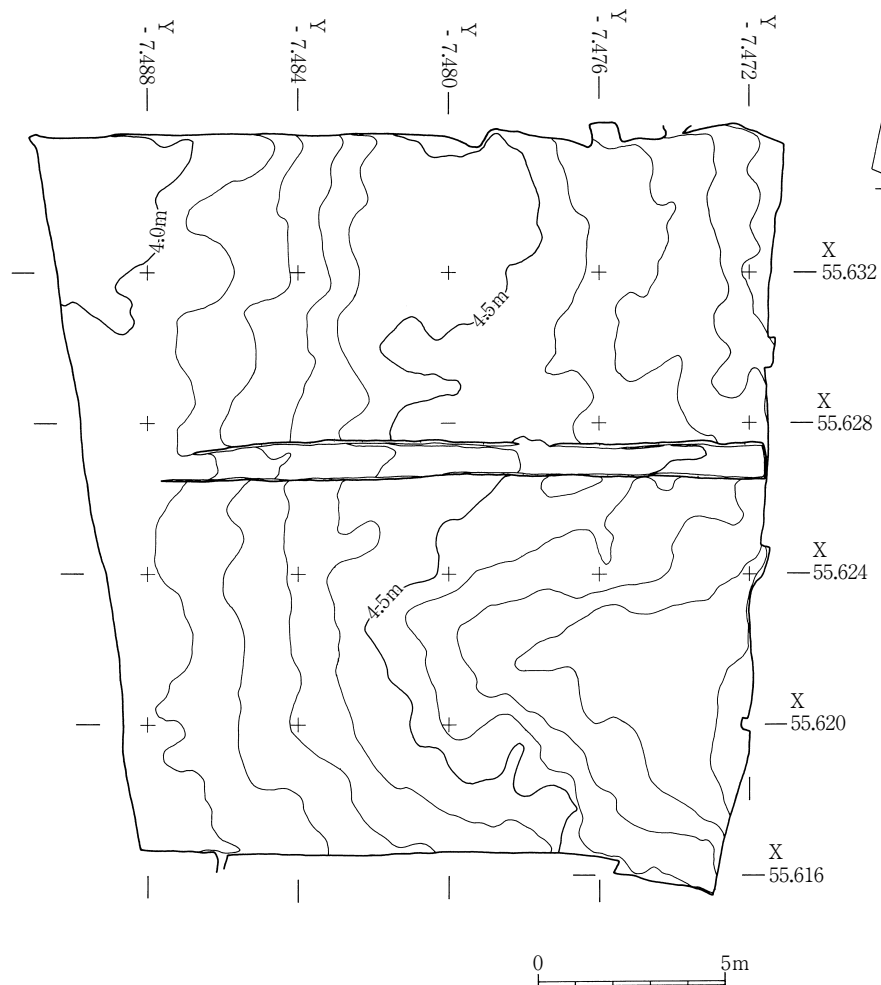


Fig.141 1DN区全体図 (S : 1/200)

全調査区共通の4mグリッドを遺物取上げの最小単位とし、グリッドの名称も他の調査区と同一の方法によって決定した。

3. 層序 (Fig.143)

層, B層, D層, 層, 層に関する分層基準は, 1C区におけるそれ⁽²⁾に一致するため, 省略する。1DN区調査の主眼は, まさに B層と D層を完掘することであった。

調査区西壁の堆積土層断面図によれば, 南北方向の傾斜はごくわずかである。このことから, B層上面段階頃までは, 水平堆積状態の継続した, 低地域であったことが推察される。一方,

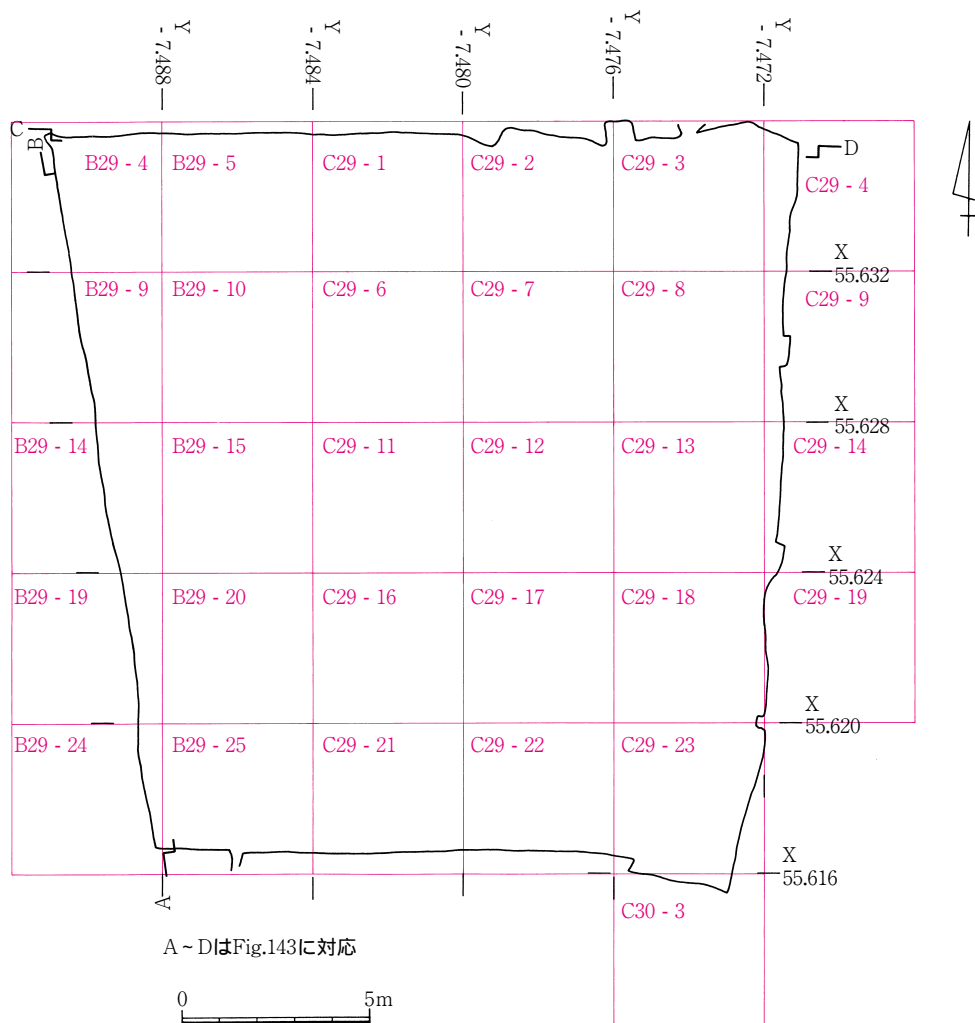


Fig.142 1DN区グリッド割り図 (S : 1/200)

東西方向の堆積状況は、調査区北壁堆積土層断面図の西半部分において、層上面段階から始まる、東～西への傾斜を認めることができる。同断面図の東端部では、重機の通過に伴う土層の歪曲が生じており明らかでないが、この東方の、そう遠くない距離のうちに、削平された埋没丘陵が存在するものと想定される。

4. 遺物

出土遺物には土器、石器、木製品、自然遺物（貝類等）等があり、この中から土器38点、木製品1点を図示し、貝類3点の写真図版を掲載した。また、現地測定にもとづく出土遺物の分布状況は、Fig.144に示した。

(1)土器

D層出土土器 (Fig.145・1～20)

1～3は縄文土器・壺・胴部片である。1は接合部外面に沈線1条を描く。2は接合部外面に沈線状の段1を形成する。3は外面に赤彩を施す。

4～6は弥生土器・壺である。4は頸部片で、外面に赤彩を施す。5は頸～胴部片で、外面に赤彩を施す。6は胴部片で、外面に赤彩を施し、内面には黒色の付着物がみられる。4～6はいずれも外傾接合による成形である。

7～10は突帯文土器である。7～9は口縁部片、10は突帯部分の破片である。7は外面に刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。8は外面に刻目突帯1条を有し、突帯は貼付ではなく、削り出しによって形成された可能性がある。9は外面に突帯1条を貼付し、竹管状工具による刺突を加える。10は外面に刻目突帯1条を貼付する。

11～16は深鉢～甕形土器で、いずれも突帯文土器に伴うものと考えられる。11～13は口縁部片、14～16は胴部片である。11は口縁端部に刻目を施す。

17・18は弥生土器・甕である。17は口縁部片で、口縁端部・外端側に刻目を施す。18は底部片である。

19は縄文土器・鉢と考えられる口縁部片である。20は縄文土器・浅鉢・胴部片で、破片の下端に擬口縁が露出している。20は内面がナデ調整であり、壺の可能性もある。

B層出土土器 (Fig.146・21～33)

21は縄文土器・壺・胴部片で、外面に赤漆とみられる顔料を塗彩する。21は1C区出土の漆塗土器 (56)³⁾と同一個体と考えられる。

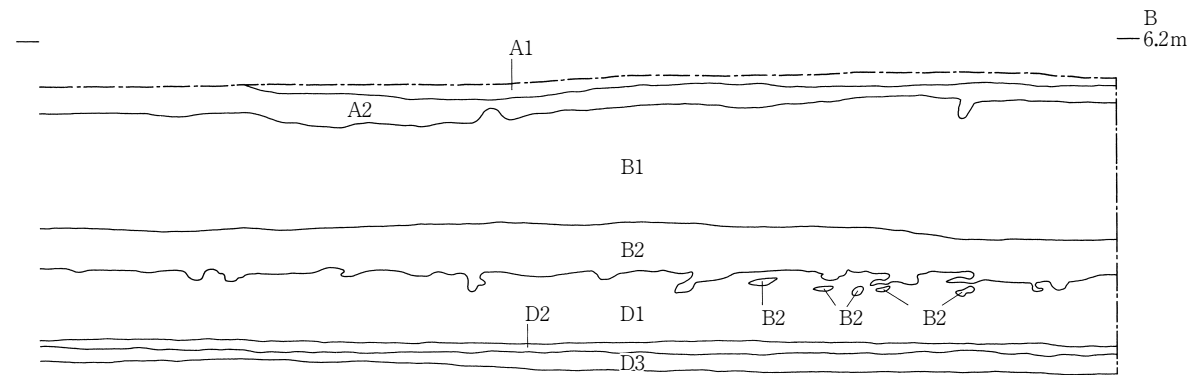
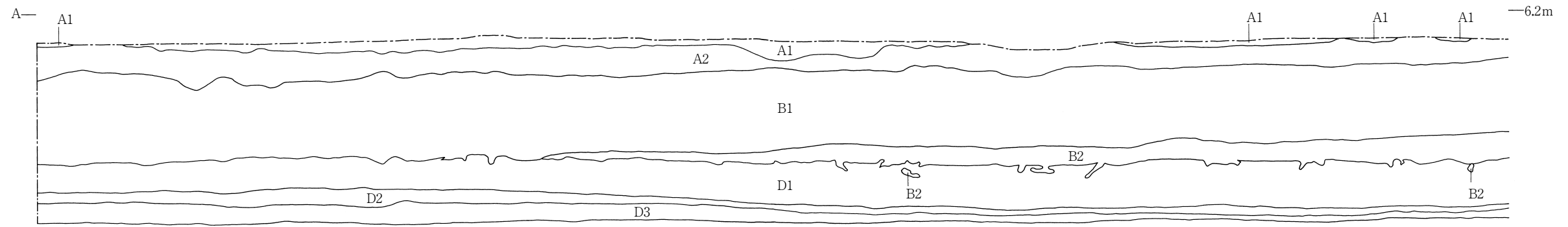
22～26は弥生土器・壺である。22は口縁～頸部片で、接合部外面に段1を形成する。22は外面に赤彩を施した可能性があり、内外面に黒色の付着物がみられる。23は口縁部片で、内外面に黒色の付着物がみられる。24は頸部片で、外面に沈線5条を描く。25は胴部片で、外面に沈線2条を描く。26は胴部片で、外面に3条単位の重弧文を描く。

27・28は突帯文土器である。27は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。28は突帯部分の破片で、外面に突帯1条を貼付するが、刻目の有無は不明。

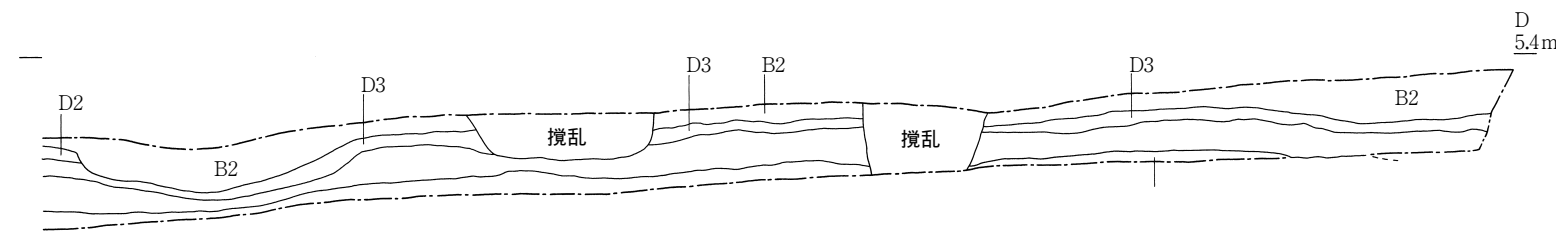
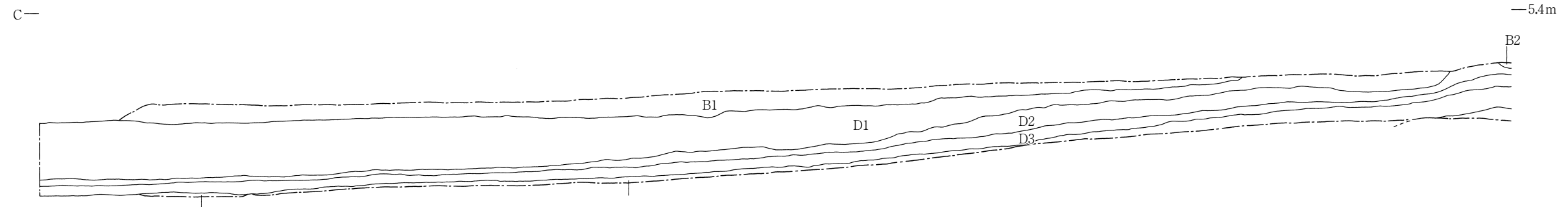
29～31は深鉢～甕形土器で、いずれも突帯文土器に伴うものと考えられる。29は口縁部片で、口縁端面に刺突を施す。30は胴部片で、外面には条痕調整がみとめられる。31は底部片で、外面には粗いナデ調整がみとめられる。

32は縄文土器・浅鉢・胴部片である。32は内外面にタール状の付着物を有する、黒色磨研土器である。

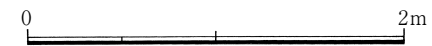
33は弥生土器・鉢・口縁部片と考えられるが、高杯・脚部の可能性も否定できない。



- A 1層：オリーブ黒色有機質粘土(細粒・やや疎) 7.5Y3/2
- A 2層：灰色粘土(細粒・やや疎) N4/0
- B 1層：灰色粘土(細粒・密) N5/0
- B 2層：オリーブ灰色粘土(細粒・密) 2.5GY5/1
- D 1層：灰色有機質粘土(細粒・やや疎) 7.5Y4/1
- D 2層：オリーブ黒色有機質粘土(細粒・やや疎) 10Y3/1
- D 3層：灰色有機質粘土(細粒・密) 10Y4/1



- B 1層：灰色粘土(細粒・密) 10Y6/1
- B 2層：オリーブ灰色粘土(細粒・密) 2.5GY6/1
- D 1層：灰色有機質粘土(細粒・やや疎) 7.5Y5/1
- D 2層：暗灰色有機質粘土(細粒・やや疎) N3/0
- D 3層：黒色有機質粘土(細粒・やや疎) 2.5GY2/1
- 層：オリーブ灰色粘土(細粒・密) 5GY6/1
- 層：灰色粘土(細粒・密) 7.5Y4/1



A ~ DはFig.142に対応

Fig.143 1DN区西壁・北壁堆積土層断面図 (S : 1/40)

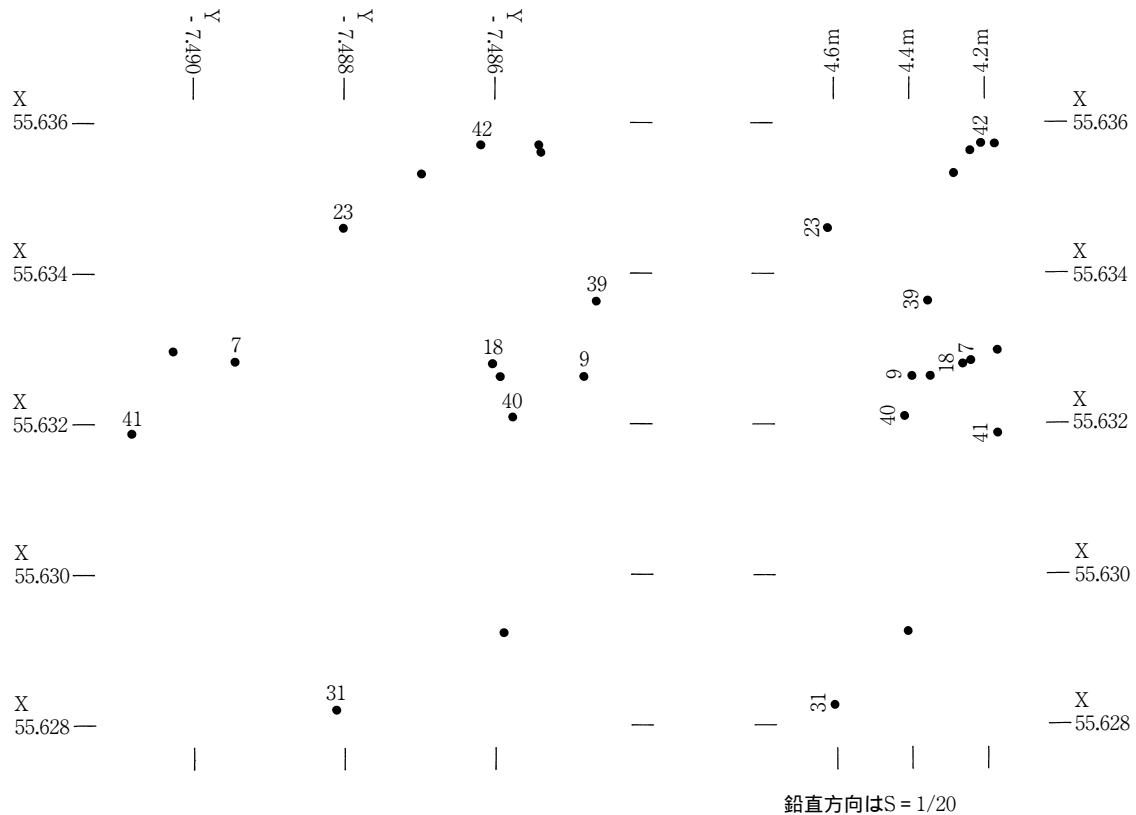


Fig.144 1DN区出土遺物分布図 (S : 1/100)

表採土器 (Fig.146・34 ~ 38)

34は弥生土器・壺・頸部片で、外面に4条と2条の斜行沈線2単位がみとめられる。34は内傾接合であり、上下逆の可能性ある。

35~38は弥生土器・甕である。35は口縁部片で、口縁端面に刻目を施す。36は胴部片で、接合部外面に段1を形成する。37・38は底部片である。

(2)木製品 (Fig.147・39)

39は D層出土の棒状木製品で、ほぼ完形である。丸太材をそのまま使用し、長軸両端部には細く削り出す加工を施す。出土時にはほぼまっすぐな状態であったが、その後の乾燥のため、長軸両端部に反りが生じてしまっている。樹種は散孔材との鑑定結果が得られている⁽⁴⁾。

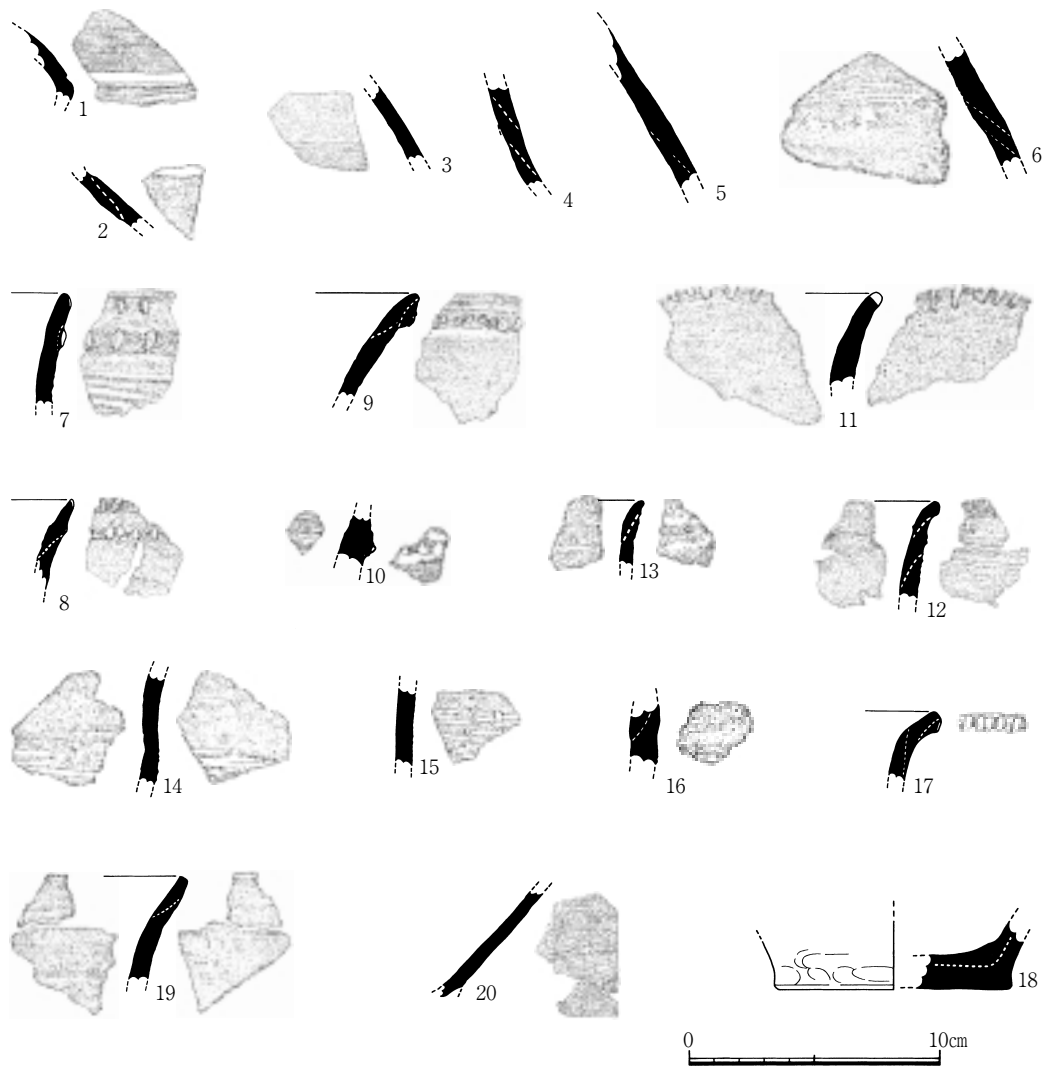


Fig.145 1DN区出土土器1 (S : 1/3)

(3)貝類⁽⁵⁾ (巻頭図版16-40~42)

40はハイガイ⁽⁶⁾で、全長4.0cm、全幅3.0cmである。41・42はハマグリ⁽⁷⁾である。41は全長5.5cm、全幅3.0cmである。42は全長6.0cm、全幅4.5cmである。

5. 総括

本次の調査では、1C区での一定の成果を踏まえて、B層・D層の延長部分を完掘することを主眼とした。調査区は、当該期においては殆ど水平堆積を形成する低地域であったとみられ、

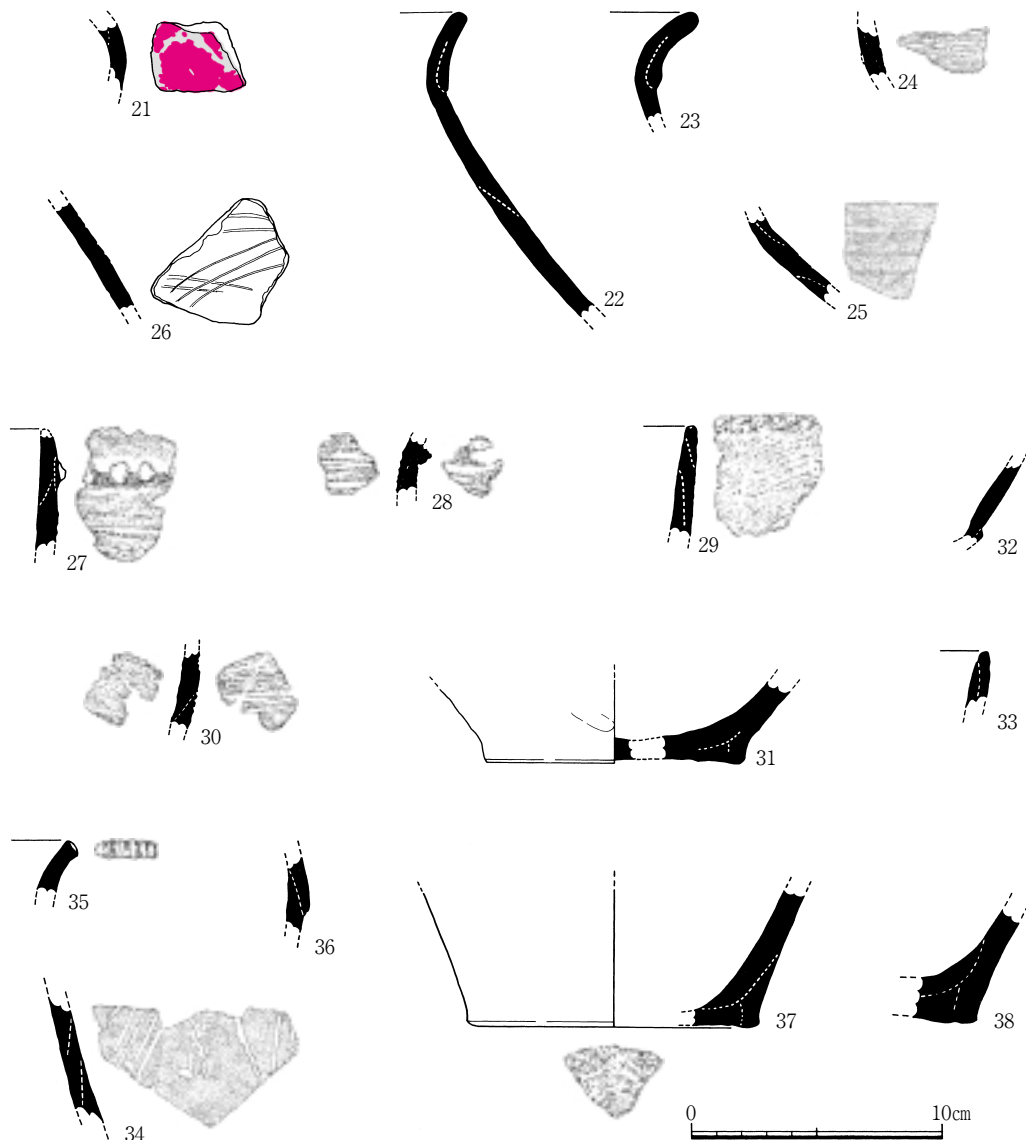
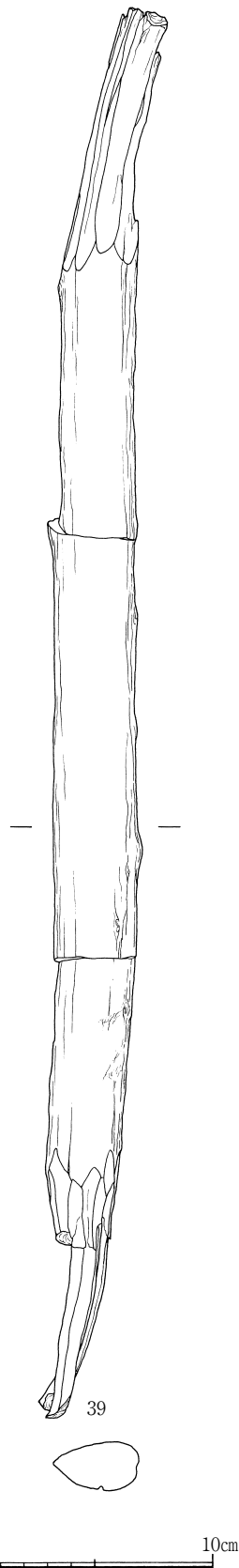


Fig.146 1DN区出土土器2 (S : 1/3)

遺構は検出されず，出土遺物の量も決して多いとはいえない。しかし，1C区出土品と同一個体とみられる漆塗り土器片1点が得られ，また1C区・第 層群の様相に共通する，「縄文土器」「突帯文土器」「弥生土器」の3者の共存状態を，1DN区においても確認することができた。そして，当該期の低地遺跡出土品としては稀少な貝類が出土したことも，本調査区における注目すべき成果といわねばならない。なお，図化資料を提示しなかった石器については，全く触れられていない。資料提示の必要があることは否定できない。



註

- (1) 曾我貴行「第 章 調査の成果 (2)1C区 (その1)」『居徳遺跡群』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年 p.35
- (2) 同註(1)及び、本書「第 章 調査の成果 (3)1C区(その2)」
- (3) 同註(1) p.35-Fig.16
- (4) 樹種鑑定は保存処理と併せて、株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付編2として掲載した。
- (5) 貝類3点に関しては、株式会社東都文化財保存研究所に委託し、保存処理及び種の同定を実施した。
- (6) 同註(5)
- (7) 同註(5)

Fig.147 1DN区出土木製品(S:1/3)

表24 1DN区出土土器観察表1

挿図番号	出土地点 遺構 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	接合	備考
Fig.145-1	IVD層	縄文土器 壺 胴部片	残高 2.80	沈線1=接合部, ミガキ ナデ	灰褐 10YR 4/1 黒褐 2.5Y 3/1	長石, 石英, 雲母 角閃石	内傾	
Fig.145-2	IVD層	縄文土器 壺 胴部片	残高	接合部=段(沈線状), ミガキ ナデ	黄灰 2.5Y 4/1 暗灰 N 3/1	石英, 長石	内傾	
Fig.145-3	IVD層	縄文土器 壺 胴部片	残高 2.90	ミガキ ナデ(ケズリ状)	暗灰黄 2.5Y 4/2 褐灰 10YR 4/1	長石, 石英, 雲母	?	外面: 赤彩
Fig.145-4	IVD層	弥生土器 壺 頸部片	残高 3.90	ミガキ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 赤褐 10R 5/4	長石, 石英	外傾	外面: 赤彩
Fig.145-5	IVD層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 6.40	ミガキ ナデ(丁寧)	灰黄褐 10YR 6/2 赤 # 5/6	石英, 長石, 雲母 角閃石	外傾	外面: 赤彩
Fig.145-6	IVD層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.60	ミガキ ハケ, ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 にぶい赤褐 2.5YR 5/4	長石, 石英	外傾	外面: 赤彩・黒変 内面: 黒色付着物
Fig.145-7	IVD層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.40	刻目突帯貼付1, ナデ, 条痕 ナデ 端部: 丸い, 外端刻目	オリーブ黒 7.5Y 3/1 # # #	石英, 長石	?	
Fig.145-8	IVD層	突帯文土器 口縁部片	残高 3.60	突帯1+刻目, ナデ ナデ? 端部: 外端刻目	褐灰 # 10YR 6/1 7.5YR 5/1	長石, 石英	内傾	外面: スス・タール
Fig.145-9	IVD層	突帯文土器 口縁部片	残高 4.10	突帯貼付1+竹管刺突, ナデ ナデ 端部: 凸面	黒 5Y 2/1 灰黄褐 10YR 5/2	長石, 石英	内傾	外面: スス・タール
Fig.145-10	IVD層	突帯文土器 突帯部片	残高 2.00	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	オリーブ黒 5Y 3/1 黒 # 2/1	長石	?	
Fig.145-11	IVD層	深鉢~甕 口縁部片	残高 3.70	ナデ(粗い) ナデ 端部: 丸い, 刻目	暗灰黄 # 2.5Y 4/2 # # #	長石, 石英?	?	
Fig.145-12	IVD層	深鉢~甕 口縁部片	残高 3.90	条痕 ナデ(粗い) 端部: 丸い(ナデ)	灰黄褐 10YR 6/2 暗灰 N 3/1	長石, 石英	内傾	
Fig.145-13	IVD層	深鉢~甕 口縁部片	残高 2.60	ナデ, 条痕? ナデ	灰 5Y 5/1 褐灰 10YR #	長石, 石英	内傾	外面: スス・タール
Fig.145-14	IVD層	深鉢~甕 胴部片	残高 4.50	ナデ, 条痕 ナデ, ヘラナデ	灰 7.5Y 4/1 暗灰黄 2.5Y 5/2	長石	?	外面: タール
Fig.145-15	IVD層	深鉢~甕 胴部片	残高 3.10	条痕 ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 黒 7.5Y 2/1	長石, 石英	?	
Fig.145-16	IVD層	深鉢~甕 胴部片	残高 2.40	ナデ, 条痕? ナデ	浅黄 2.5Y 7/3 橙 7.5YR 6/6	長石	内傾	
Fig.145-17	IVD層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.90	ナデ ナデ 端部: 外端側刻目	にぶい橙 5YR 6/3 にぶい赤褐 # 5/3	長石, 赤色砂粒	外傾	外面: スス
Fig.145-18	IVD層	弥生土器 甕 底部片	残高 2.90 底径 9.30	押圧, ミガキ ナデ 底面: ナデ	褐灰 # 7.5YR 4/1 # # 5/1	長石, 石英 角閃石	?	
Fig.145-19	IVD層	縄文土器 鉢? 口縁部片	残高 5.50	ナデ(ケズリ状) ナデ 端部: 丸い	灰黄褐 10YR 5/2 にぶい褐 7.5YR 5/3	長石, 石英 角閃石	内傾	
Fig.145-20	IVD層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 4.20	ミガキ ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 黒褐 # 3/1	長石, 石英	内傾	下端: 擬口縁露出 壺?
Fig.146-21	IVB層	縄文土器 壺 胴部片	残高 2.70	ミガキ ナデ	黄灰 2.5Y 4/2 灰赤 2.5YR #	長石, 雲母, 石英	内傾	外面: 赤漆塗彩
Fig.146-22	IVB層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	残高 12.20	接合部=段1, ミガキ ミガキ, ナデ 端部: 丸い	にぶい橙 7.5YR 6/4 明黄褐 10YR 7/6	石英, 赤色砂粒 長石	外傾	外面: 赤彩? 内外面: 黒色付着物
Fig.146-23	IVB層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 4.30	ミガキ ミガキ, ナデ 端部: 丸い	にぶい橙 7.5YR 7/4 にぶい褐 # 6/3	長石, 赤色砂粒 石英	外傾?	内外面: 黒色付着物
Fig.146-24	IVB層	弥生土器 壺 頸部片	残高 2.60	沈線5, ミガキ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 黒 7.5YR 2/1	長石, 赤色砂粒	外傾	外面: 黒変 内面: 黒色付着物
Fig.146-25	IVB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.40	沈線2, ミガキ~ナデ(丁寧) ナデ	にぶい黄橙 10YR 7/2 # # #	長石, 石英, 雲母	外傾	
Fig.146-26	IVB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.30	重環文3条, ミガキ? ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 7/2 # # 6/3	石英, 長石 赤色砂粒	?	
Fig.146-27	IVB層	突帯文土器 口縁部片	残高 5.10	刻目突帯貼付1, ナデ, 条痕 ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 # # 4/2	長石, 石英	内傾	
Fig.146-28	IVB層	突帯文土器 突帯部片	残高 2.20	貼付突帯1, 条痕 条痕	黒褐 2.5Y 3/1 暗灰黄 # 5/2	長石, 石英	内傾	

表25 1DN区出土土器観察表2

挿図番号	出土地点 遺構 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)		文様・調整 外面 内面 その他の部位	色調			胎土	接合	備考
			残高	底径		内面	外面				
Fig.146-29	IV B層	深鉢～甕 口縁部片	残高	4.50	条痕 ナデ 端面：刺突	黒褐 黒	10YR N	3 / 1 2 /	石英, 長石	外傾?	内外面：スス・タール
Fig.146-30	IV B層	深鉢～甕 胴部片	残高	3.10	条痕, ナデ ナデ	黒褐 にぶい褐	2.5Y 7.5YR	3 / 1 5 / 3	石英, 長石	内傾	
Fig.146-31	IV B層	深鉢～甕 底部片	残高 底径	3.30 10.00	ナデ ナデ (粗い) 底面：ナデ	灰黄褐 黄灰	10YR 2.5Y	5 / 2 4 / 1	石英, 長石?	?	
Fig.146-32	IV B層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高	3.10	ミガキ ミガキ	褐灰 黒	10YR "	4 / 1 2 / 1	長石, 石英, 雲母	内傾	外面：タール 内面下端：タール
Fig.146-33	IV B層	弥生土器 鉢? 口縁部片	残高	2.50	ナデ? ナデ 端部：丸い	灰黄褐 にぶい橙	10YR 7.5YR	6 / 2 6 / 4	長石, 赤色砂粒	外傾	高杯脚部?
Fig.146-34	表探	弥生土器 壺 頸部片	残高	5.00	斜沈線 4 + 2, ミガキ ナデ (丁寧)	灰黄褐 "	10YR "	5 / 2 "	長石, 石英 角閃石	内傾	上下逆?
Fig.146-35	表探	弥生土器 甕 口縁部片	残高	2.10	ナデ ナデ 端面：刻目	灰黄 "	2.5Y "	7 / 2 "	長石	?	
Fig.146-36	表探	弥生土器 甕 胴部片	残高	3.70	接合部一段1, ナデ ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	7.5YR 10YR	7 / 4 6 / 3	長石, 赤色砂粒	外傾	
Fig.146-37	表探	弥生土器 甕 底部片	残高 底径	5.50 11.40	押圧, ナデ? ナデ 底面：ヘラナデ, ナデ (ケズリ状)	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR "	6 / 2 7 / 2	石英, 角閃石 赤色砂粒	?	
Fig.146-38	表探	弥生土器 甕 底部片	残高	4.50	ナデ ナデ 底面：ナデ	にぶい赤褐 "	5YR "	5 / 4 "	長石	?	

表26 1DN区出土木製品計測表

挿図番号	層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.147-39	IV D層	棒状木製品	59.40	5.50	2.10	丸太材素材 両端部のみ加工 出土後にやや変形	散孔材	

(5) 1F区

1. 1F区の概要

調査区は大きく二つの部分で構成される。一つは1A区と1C区に挟まれた西側の丘陵部から派生する尾根の頂上部分であり、調査開始当初は市道が敷設されていた箇所である。以下では“道路部分”として説明を行う。平成9年度の1工区調査時にはこの市道がこの付近に在住する人々の生活道であり、また農作業等にも頻繁に利用されていることから、仮設道路建設後の平成11年1月から調査に着手した。現地形は道路敷設に選択される様な周辺よりもやや高所に位置しており、1A区の調査では北側は既に地山（黄褐色砂礫層）が削平を受けていたが、南斜面に当たる1C区では調査区内に遺構や包含層が残されており、これが道路部分にまで及ぶと期待された。アスファルトの剥ぎ取り後調査を開始し、調査区の南側で1C区から連なる柱穴群と包含層（黒色土）を検出した。ピット群の多くは地山に掘込まれており、埋土は黒色土乃至黒褐色土であり、円形から楕円形を呈している。調査区の中央では市道敷設の際に地山を削って路面部分を高く残し、それ以外は地山を削り込んでいる事が明かとなった。削平された路面の北側部分では方形の掘込みや杭列、旧水路跡が検出された。1F区を構成するもう一つは1工区の南側をほぼ縦断していた水路部分である。以下ではここを“水路部分”として説明する。清滝山南東斜面の谷から流出する清滝川は調査区の北方で鍵形に屈折し、西側の小谷を源とする小川を取込んで、調査区の付近では幅3～4mを測る。この付近では唯一の河川であり、排水路としての機能が高いことから、調査は工事に伴う用排水路整備終了後の平成12年12月末から開始した。裾広の台形状に残された調査区は上位は既に水路の建設工事に際して破壊を受けていたが、下位は全くの手付かずであり、

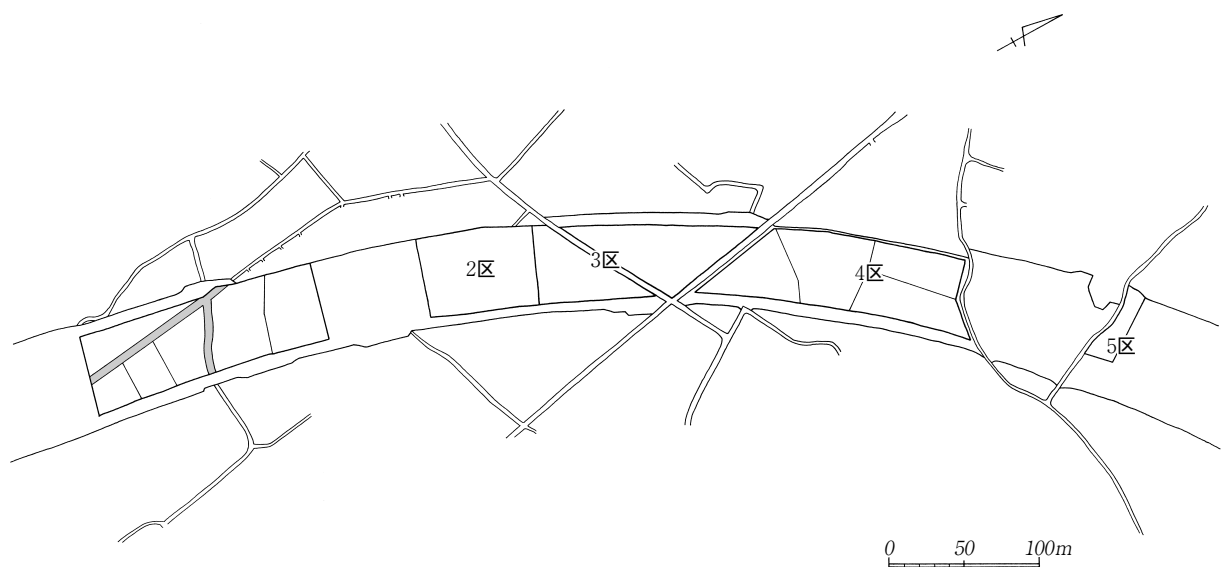


Fig.148 1F区的位置 (S : 1/5,000)

水成堆積環境のもとに取り残された遺構や遺物が1C区や1E区と同様、良好な資料として発見された。遺構は水成堆積が幾分か乾燥環境に変わった時期の貯蔵穴（どんぐりピット）群であり、調査区南端に存在した旧流路群、また1C区から繋がる斜面上のピット群である。遺物は包含層を中心に縄文晩期から弥生前期にかけての土器や石器、農工具などの木器・木製品、加えて獣骨などの自然遺物である。

2. 調査の方法

道路部分

平成11年1月5日から道路に沿って残されていたコンクリート製の側溝を除去し、路面のアスファルトや路肩に沿って僅かに残っていた表土を重機を用いて掘削した。ここでは機械に於ける包含層掘削の対象は極く僅かであり、殆どの部分で地山が直ぐに露呈する状態であった。包含層として精査が必要と認められる箇所は中央部分の南側であり、嘗ての尾根の稜線下南斜面である。

1月11日から包含層の精査を開始し、包含層下から地山（黄褐色砂礫土）に掘込まれたピット群を確認した。遺構として扱うものはこのピット群と路面の北側に存在した地山削平後の方形遺構、路面下に存在した旧水路及びそれに伴うと考えられる杭列である。

遺構精査に伴い随時、検出状態、半截状態、出土状態を記録し、1月13日には完掘状態の写真撮影、また1月30日には遺構平面図、調査区標高図を作成し、調査を終了する。

水路部分

平成10年12月21日から水路のコンクリートや下部に埋め込まれた円礫、コンクリート製の畦畔の除去と表土掘削を開始する。包含層は厚い水成堆積層で構成されており、水路建設に伴う改変は包含層の上部にまで達していた。調査区の北部を中心として遺物が出土したことから、尾根に近い北側では厚く、南に向うに従って薄く精査包含層を残しながら重機に因る包含層掘削を行った。上位については遺物の出土状況に応じて適宜、主に出土状態の写真撮影、光波測量器による第四系座標取上げを行った。調査区の南端部では比較的浅い位置で流路跡（SR1）を検出し、1月28日に機械に因る包含層掘削を終了した。

包含層の精査は道路部分の調査や包含層の機械掘削と並行して1月5日から開始された。北側の斜面部分から各包含層の精査を始め、出土遺物については第4系座標軸に則った4×4mグリッドで取上げた。また遺物の保存状態が良好なものについては出土状態を写真撮影し、出土地点を座標で記録して取上げを行った。包含層下には斜面部を中心に二十数個の遺構を検出した。遺構の精査は1月22日から行い、緩斜面部の遺構は特に保存状態が良く、貯蔵穴内に残されていた多くの堅果類を資料として取り上げた。1月29日には1面北半の調査を終了し、写真撮影を行った。1面の遺構測量と標高図作成終了後、2面の機械包含層掘削、包含層精査、遺構精査を順次行い、完掘状態の写真撮影を2月25日に行った。その間1月28日には南端部のSR1を検出し、引き続き流路内の精査を行う。下層のSR2の完掘は2月13日であった。

2面の完掘状態の写真撮影後、遺構平面図、調査区標高図を作成し、3月1日に1F区の調査を終了する。

3. 層序

調査区は道路部分と水路部分に大きく分かれる。道路部分では表土下が即ち地山であり、包含層の残存は平面的には極一部分である。このことから堆積状況を示す良好な断面は存在しない。また、水路部分は上位を水路建設当時に破壊されており、辛うじて斜面部を中心とした堆積環境と調査区南端部の南壁で流路の影響を受けていない断面を記録することができた。

道路部分

包含層

先述の様に1C区に繋がる南斜面の地山上乃至灰白色粘土層上に残されていたものであり、色調は黒色から黒褐色を呈する。1F区水路部分や1A区の2面遺構直上に存在した黒色土に共通するであろう。

水路部分

基本層準として図示したのは水路下の斜面部を縦断するベルト断面と調査区南壁断面である。

B層(1)

調査区には一見ただけでは区別の付かない層厚の厚い灰白色を呈した粘土～シルト質の堆積層が存在する。B層はこの分厚い層の比較的下位に存在しており、本格的に遺物の出土が見られたのはこの層以下である。また、斜面部分では上位に存在した水路の破壊を受けている。出土遺物は弥生前期の土器を中心に石器・石製品などである。

A層(2～6)

B層と同じく灰白色系の厚い粘土～シルト質層の一部構成層である。分層が可能であり、特に斜面部分では地山崩壊小角礫を含むことで細分される。調査時にはA-1からA-3と大きく3層に分けて出土した弥生前期土器や石器、木製品、獣骨等の遺物取上げに使用した。

C層(7)

淡褐色の粘土層である。A層以上が淡色系の色調を呈するのに対して、C層以下少なくともA層迄は暗色系の色調を呈する。乾燥環境がやや優勢と成り土壌化が進行した可能性が在る。斜面部を少し下った箇所から検出され水平堆積に近い特徴を持つ。縄文晩期から弥生前期土器や石器、木製品、獣骨等を出土する。

B層(8)

斜面部分を中心に確認された堆積層であり、傾斜の緩やかと成る箇所から南では検出されなかった。縄文晩期から弥生前期土器や石器、獣骨等出土する。

A層(9)

黒色を呈し、斜面部から南の調査区全域に渡ってやや色調を暗灰色に変化させながら派生する。緩斜面で検出された貯蔵穴群(どんぐりピット)の多くは、A層下から検出された。出土遺物は縄文晩期土器を主とし、弥生前期土器、他に石器や獣骨を伴う。

表25 1F区層序表

中央ベルトセクション層序

層	内容	色調	その他
1	粘土質。締まりあり。炭化物を少し含む。所々に小型の植物遺体や青色崩壊角礫少量含む。	灰白色 N(7/0)	B層に相当する。
2	粘性あり。締まりあり。小から中型の炭化を多く含む。中・大型の植物遺体を含む。青色崩壊角礫を多く含む。	灰色 N(5/0)	A・3層に相当する。
3	粘土質。締まりあり。炭化物を少し含む。中型の植物遺体や青色崩壊角礫を少し含む。	灰色 10Y(6/1)	A・2層の構成層。
4	粘土質。締まりあり。炭化物を極少量含む。	灰白色 7.5Y(7/1)	A・2層の構成層。
5	粘土質。締まりあり。炭化物を極少量含む。大型の植物遺体を少し含む。	黄灰色 2.5Y(5/1)	A・2層の構成層。
5	粘性あり。締まりあり。炭化物を含む。腐植・青色崩壊角礫を含む。	灰色 10Y(4/1)	
6	粘土質。締まりあり。腐植を多く含む。青色崩壊角礫を少し含む。	黄灰色 2.5Y(4/1)	A・1層に相当する。
7	粘土質。締まりあり。	褐灰色 10YR(4/1)	C層に相当する。
8	粘土質。締まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	灰色 5Y(4/1)	B層に相当する。
9	粘土質。締まりあり。青色崩壊角礫を含む。	黒色 2.5Y(2/1)	A層に相当する。
10	粘土質。締まりあり。	灰白色 10Y(7/1)	
11	粘性あり。締まりあり。炭化物を含む。中型の植物遺体や青色崩壊角礫を含む。	灰色 5Y(5/1)	
11	粘土質。締まりあり。	灰白色 10Y(7/1)	
12	5層に灰色粘土(3層)が混入する。	黄灰色 2.5Y(5/1)	
13	3層に黄灰色粘土(5層)が混入する。	灰色 10Y(6/1)	
14	15層に黄灰色粘土(6層)が混入する。	褐灰色 10YR(5/1)	
15	粘性あり。締まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	褐灰色 10YR(5/1)	
16	粘性あり。締まりあり。炭化物を多く含む。小・中型の植物遺体を含む。	黒褐色 5YR(3/1)	
17	粘性あり。締まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	褐灰色 10YR(6/1)	
18	17層に灰色粘土(8層)が混入する。	褐灰色 10YR(6/1)	
19	16層に黄灰色粘土(6層)が混入する。		

南壁セクション層序

層	内容	色調	その他
1	粘性なし。締まりあり。	暗褐色	
2	粘性あり。締まりあり。層上位は褐色斑を含み、緑色を帯びる。	灰色 10Y(7/2)~N(6/0)	層を構成する。
3	粘性あり。締まりあり。緑色を帯びる。	灰色 10BG(7/1)~5GY(7/1)	層を構成する。
4	粘性あり。締まりあり。層の上位は明るく、下位に向かって暗色を帯びる。炭化物を混入する。	青灰色 10BG(6/1)	層を構成する。
5	粘性ややあり。締まりあり。腐植を少量混入する。	褐灰色 10YG5/1	C層を構成する。
6	粘土質。締まりあり。灰白色粘土を混入する。	灰色 N(6/0)	C層を構成する。
7	粘土質。締まりあり。灰白色粘土を混入する。	暗青灰色 5PB(4/1)	C層を構成する。

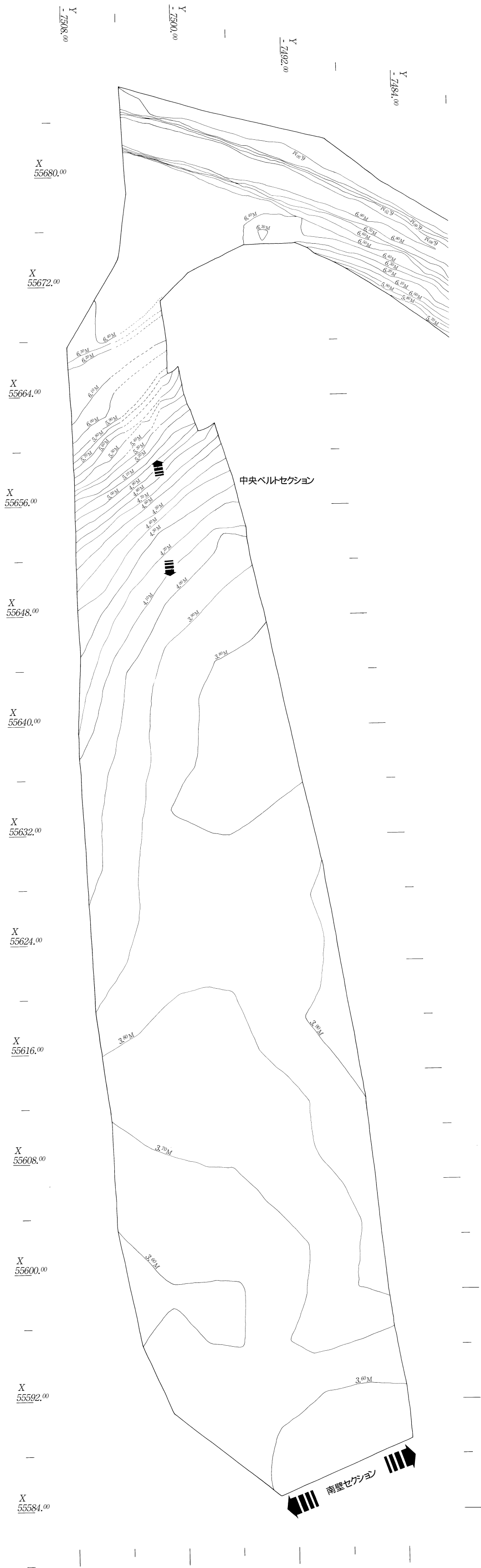
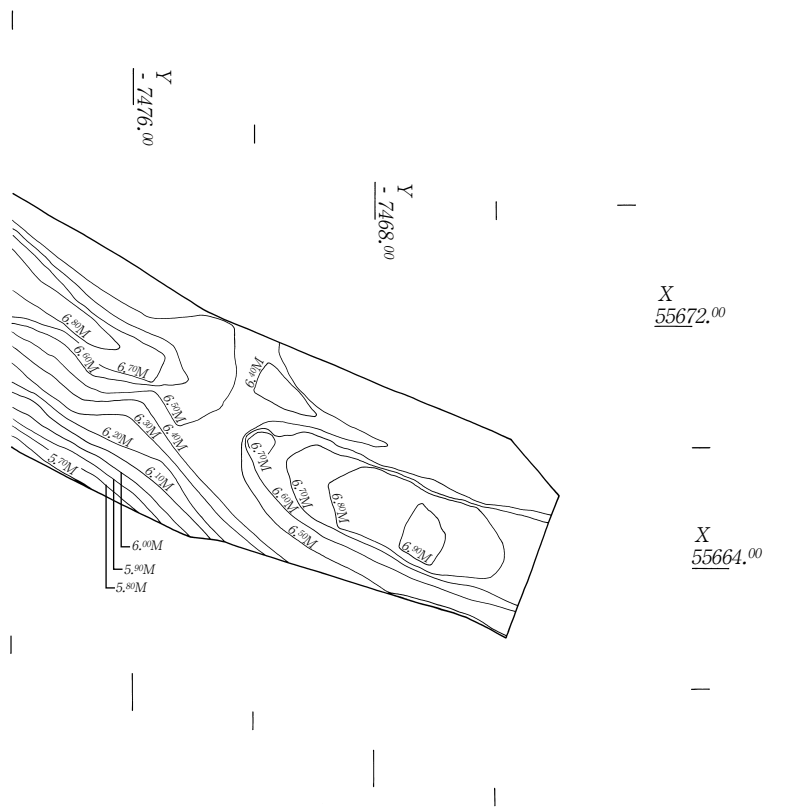


Fig.149 1F区全体図



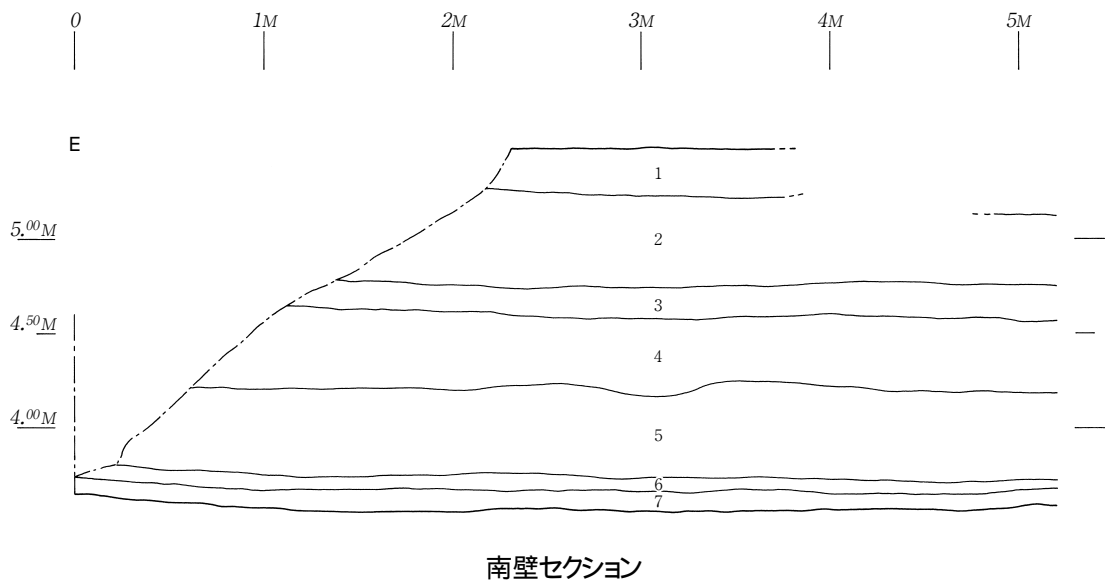
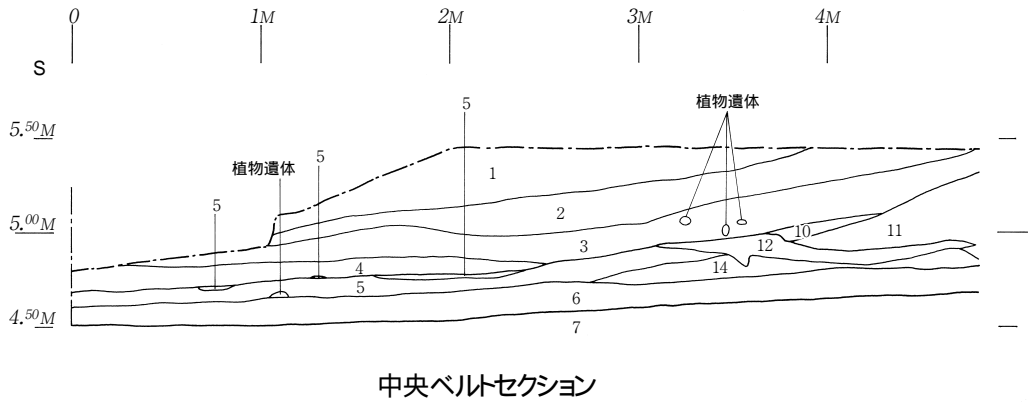
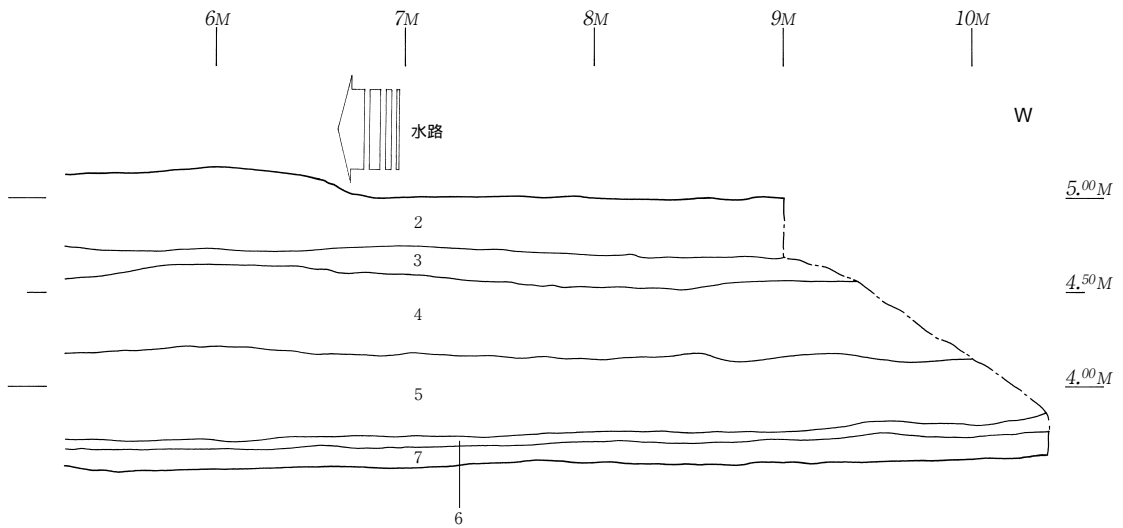
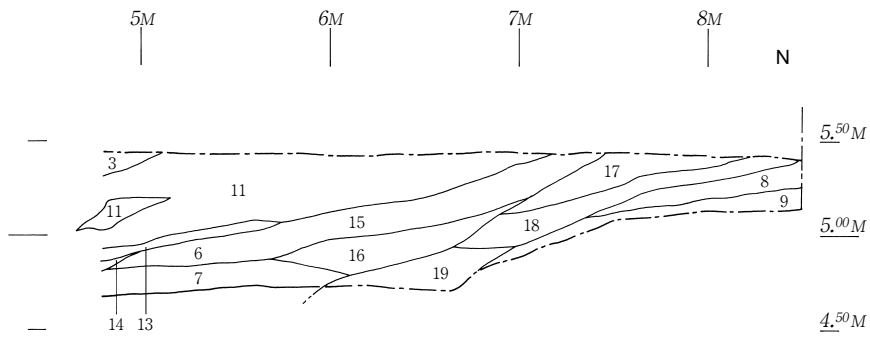
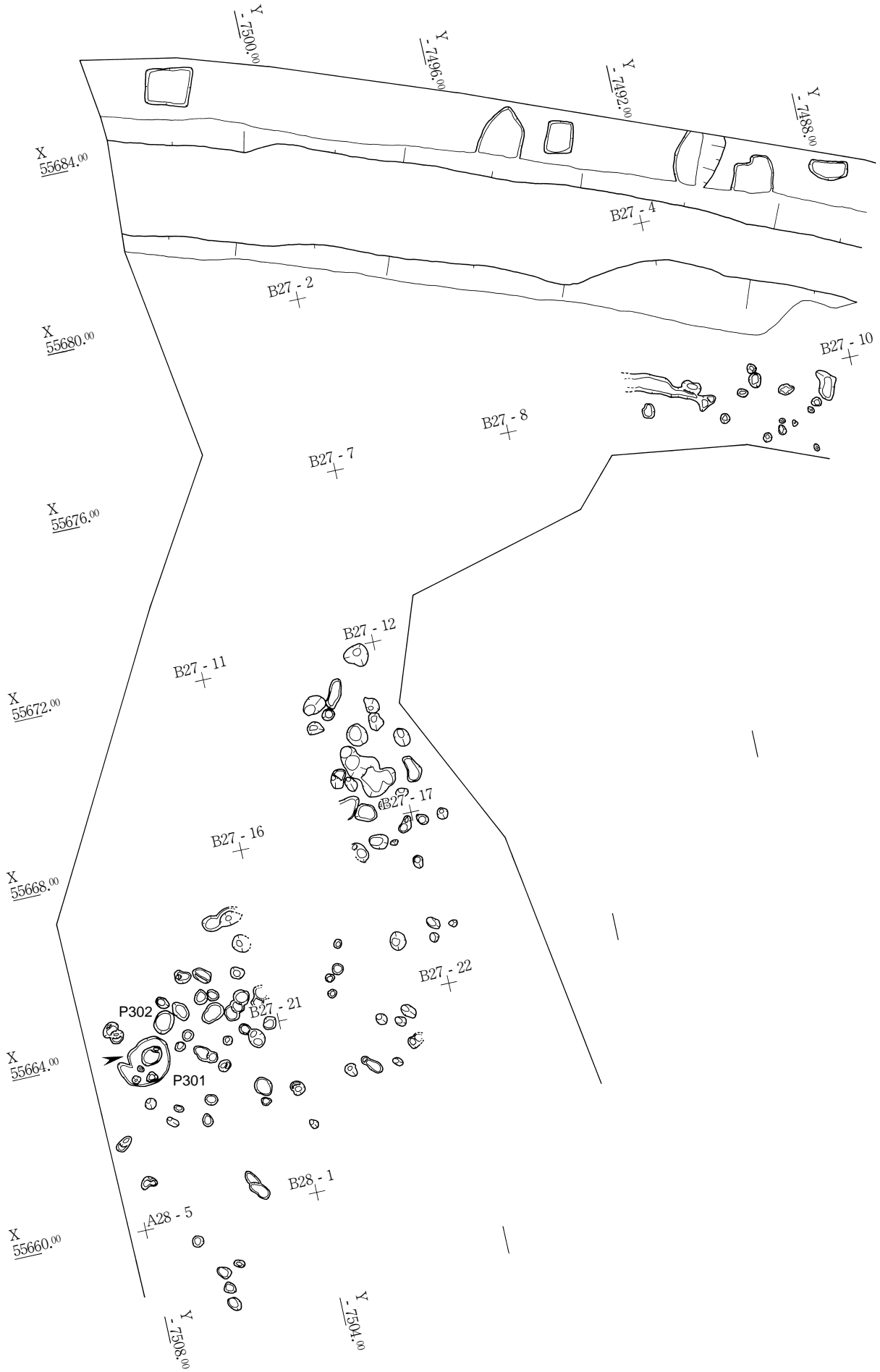


Fig.150 中央ベルトセクション図・南壁セクション図





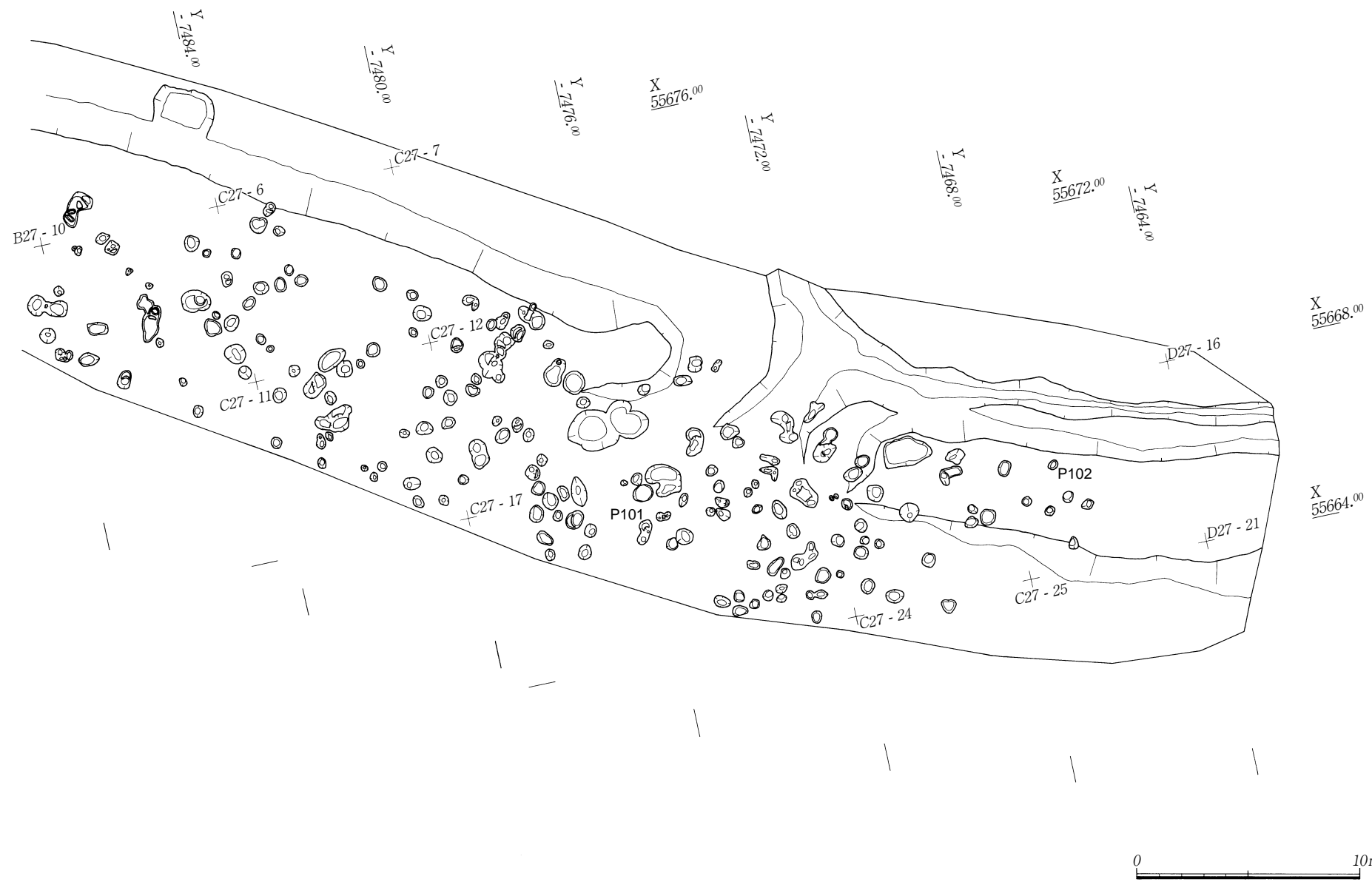


Fig.151 1F区遺構配置図(2面)

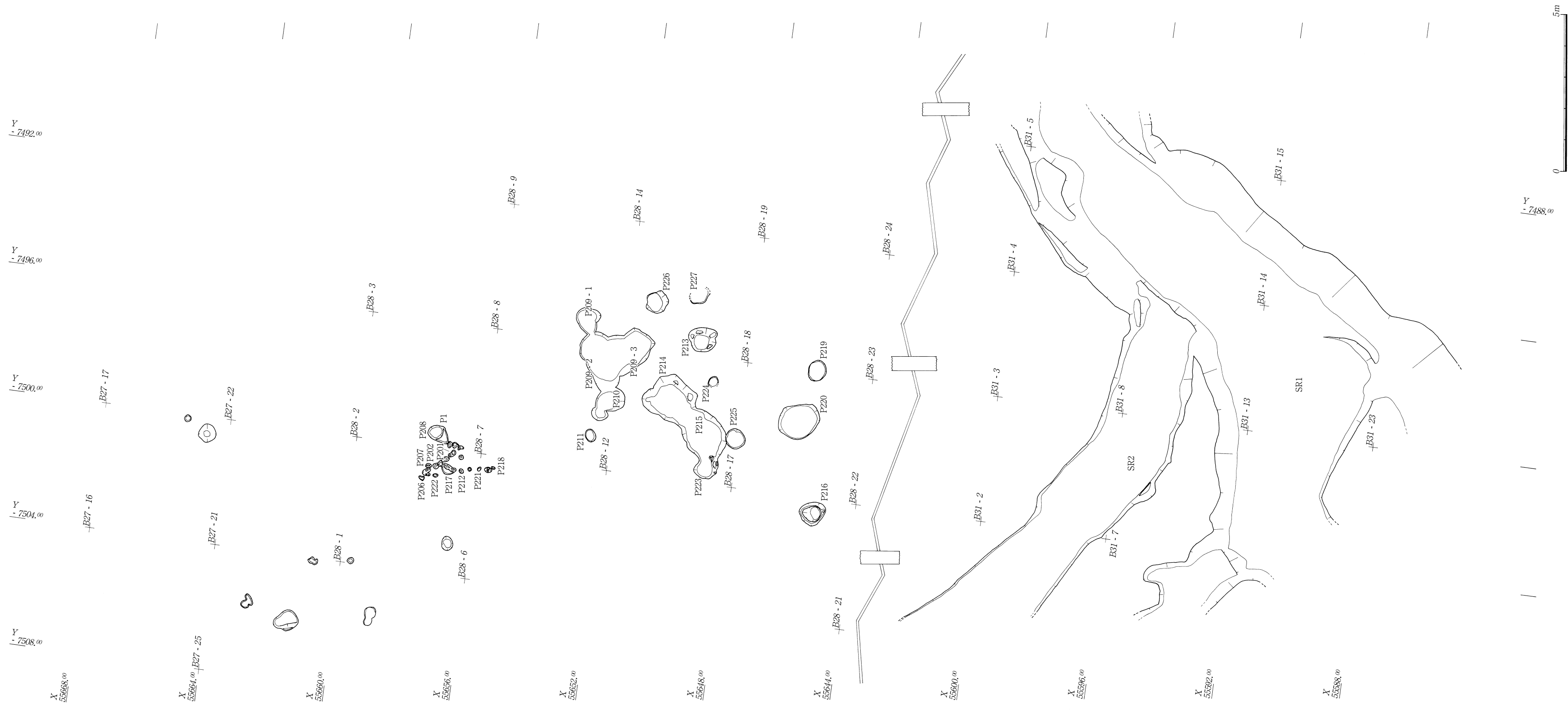


Fig152 1F建構配置圖(1面)

4. 遺構

検出された遺構は道路部分の南側斜面でピットが約190個、同様な性格を持つものと考えられるピットが水路部分では約85個存在した。水路部分の1面では上位の急傾斜部に規模の小さな比較的浅いピットが26個、また下位には貯蔵穴群が存在している。水路部分の南端には流路跡が存在し、他に道路部分の北側には尾根の削平後施されたと考えられる方形又は不整形を呈した性格不明土坑が6基存在する。以下では貯蔵穴と流路跡に就いて述べる。

貯蔵穴群

水路部分1面の斜面部には大小の遺構群が存在している。このうち斜面を幾らか下った緩斜面部に堅果類を貯蔵したと思われるピット群が約16個が存在する。隣接して流路遺構が存在しないことから尾根斜面からの湧水を利用し貯蔵穴として機能させていたものであろうか。遺構の規模は径30cm程度のもも存在するが、概ね径60cmを超えるものであり、中には1mに達するものも少なくない。深さは60cmから90cmが主であるが、中には浅めのもも存在している。蓋等の構造や痕跡は見受けられない。形態は平面形が円形から楕円形を呈するものが多く、断面形は概ね筒状又は鍋状や鉢状を呈しているが、中には遺構壁の一部が外側に大きく張出すものも見られた。

これらの遺構の多くはA層を除去した段階で検出された。このうち、P210とP209 - 1・P209 - 2・P209 - 3やP214とP215・P223は検出状態では二つの大きな纏まり、漠然とした水溜まり状の輪郭をもって捉えられた。また2個のピットP224とP225に至っては上層では検出できなかつたものであり、下層での検出となった。幾つかの生活面がA層の前後に存在した可能性が在る。

主なピットの検出埋土はP209が灰褐色土、P210が黒灰褐色土、P211が黒灰褐色土、P213が黒灰褐色土、P214とP215が灰褐色土、P216が黒灰褐色土、P220が黒灰褐色土、P223が灰褐色土及び黒灰褐色土であり、埋積過程で同じ様な灰白色の粘土層を遺構の中位に挟み込んだものが、P210、P213、P214、P220、P223に見られる。これらの下層には堅果類と共に灰褐色土が埋土として存在する。

出土遺物としては堅果類は固よりP209 - 2から浅鉢1点、P210から深鉢2点、P214から深鉢5点、P215から深鉢1点、P220から底部1点の土器とP217から獣骨がある。この内図示できるものはP215からの深鉢口縁(Fig.161 - 4)とP220からの深鉢底部(Fig.161 - 5)である。

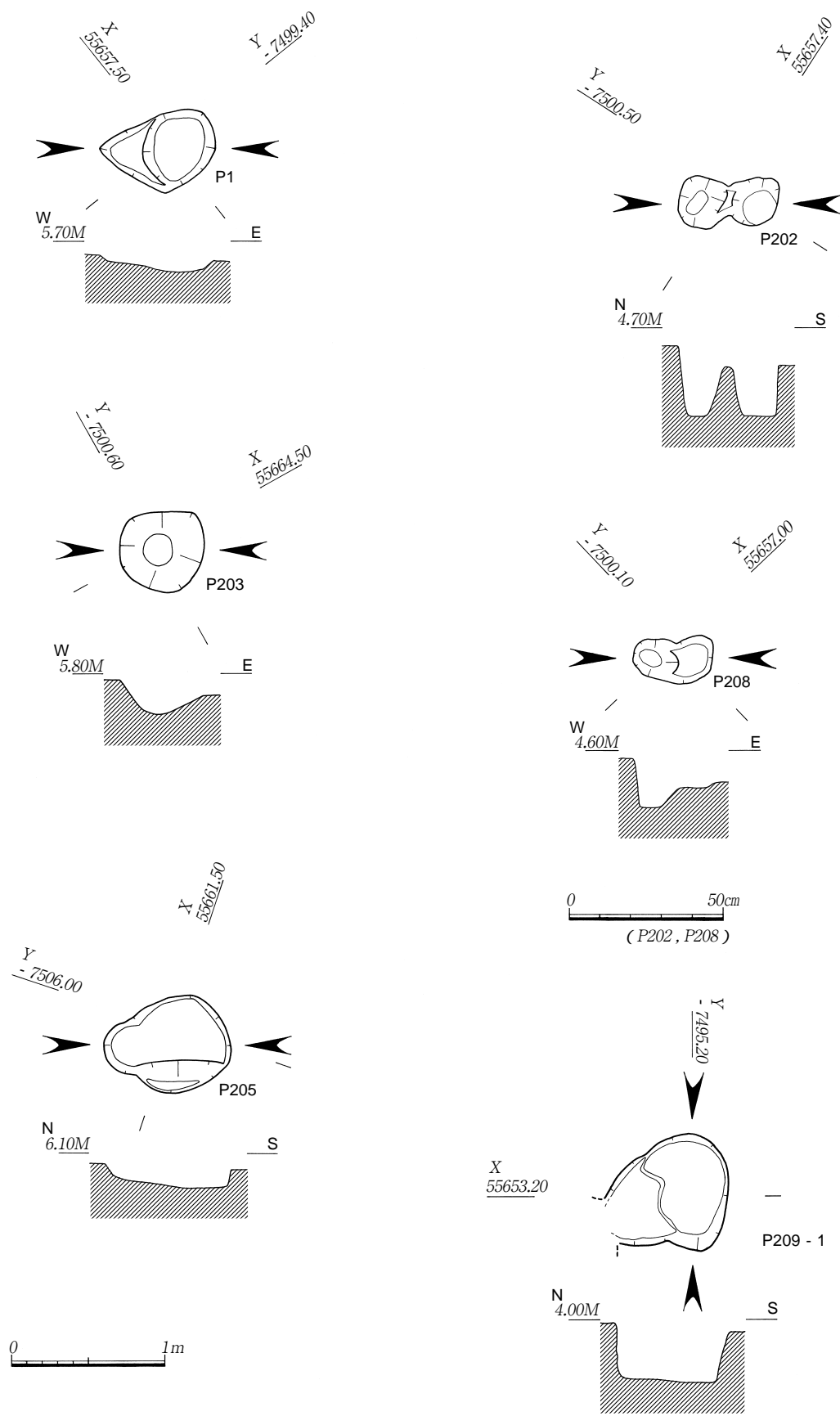
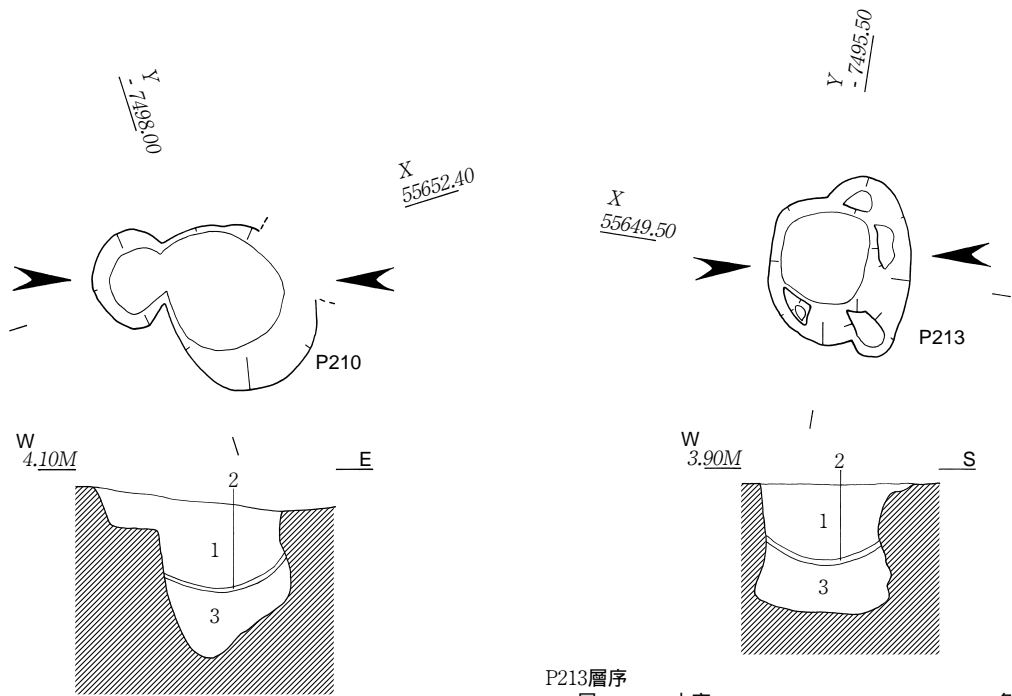
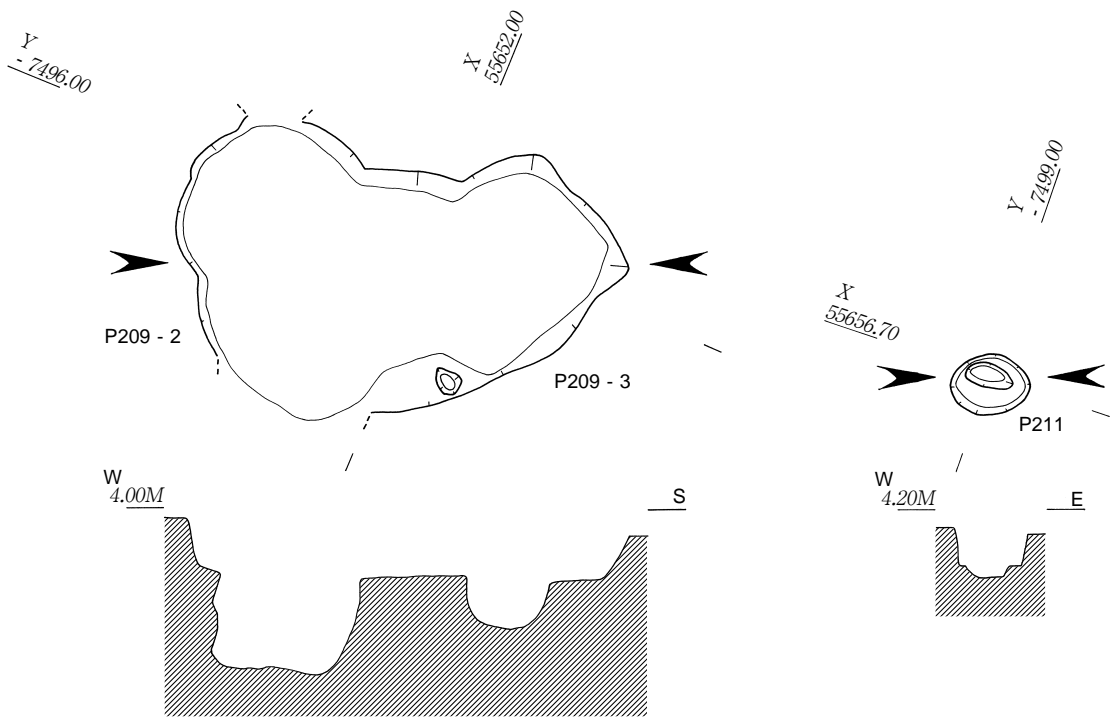


Fig.153 1F区遺構平面図 1



P210層序

層	内容	色調
1	粘土。腐植を含む。	褐灰色
2	粘土。	灰色
3	粘土。腐植を含む。	灰褐色

P213層序

層	内容	色調
1	粘土。腐植を含む。	褐灰色
2	粘土。	灰色
3	粘土。腐植を含む。1層に較べ暗色を帯びる。	褐灰色

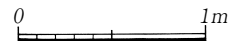
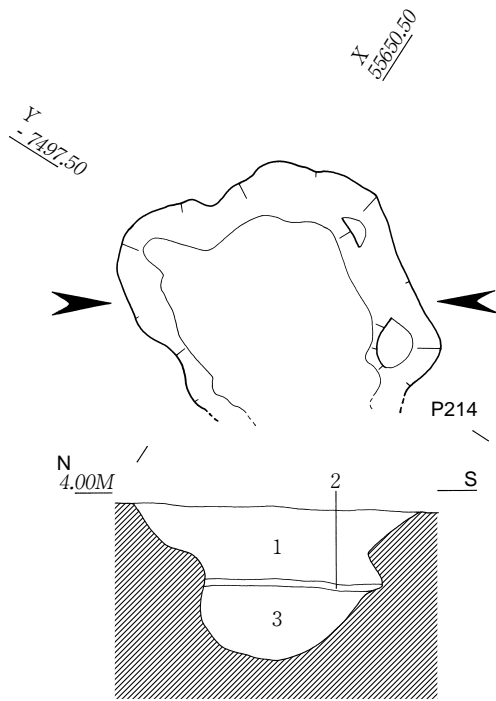
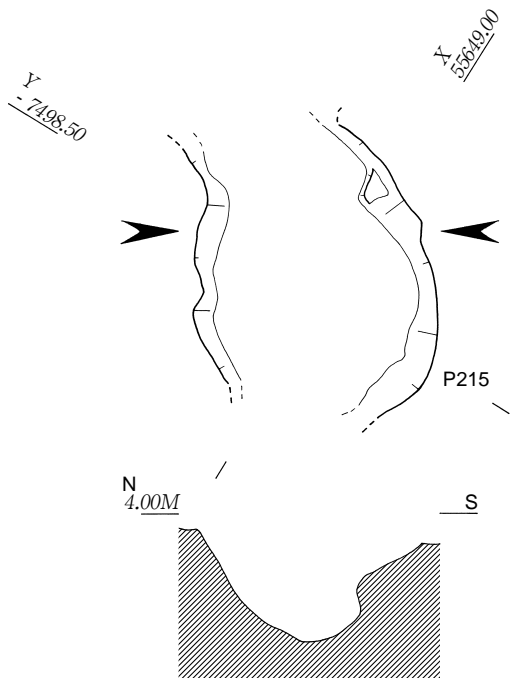
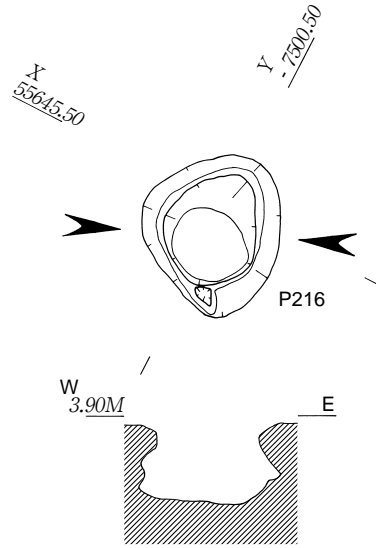


Fig.154 1F区遺構平面図 2



P214層序

層	内容	色調
1	粘土。腐植を含む。	褐灰色
2	粘土。	灰色
3	粘土。腐植を含む。	灰褐色



P220層序

層	内容	色調
1	粘土。腐植を多く含む。	褐灰色
2	粘土。不規則に入り込んだ埋積状態を示す。	灰色
3	粘土。腐植を含む。	灰褐色

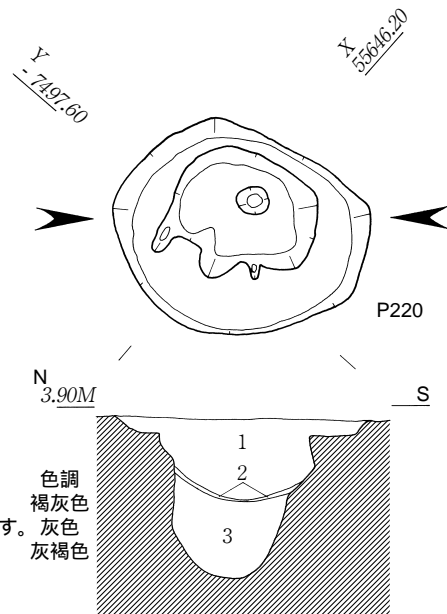
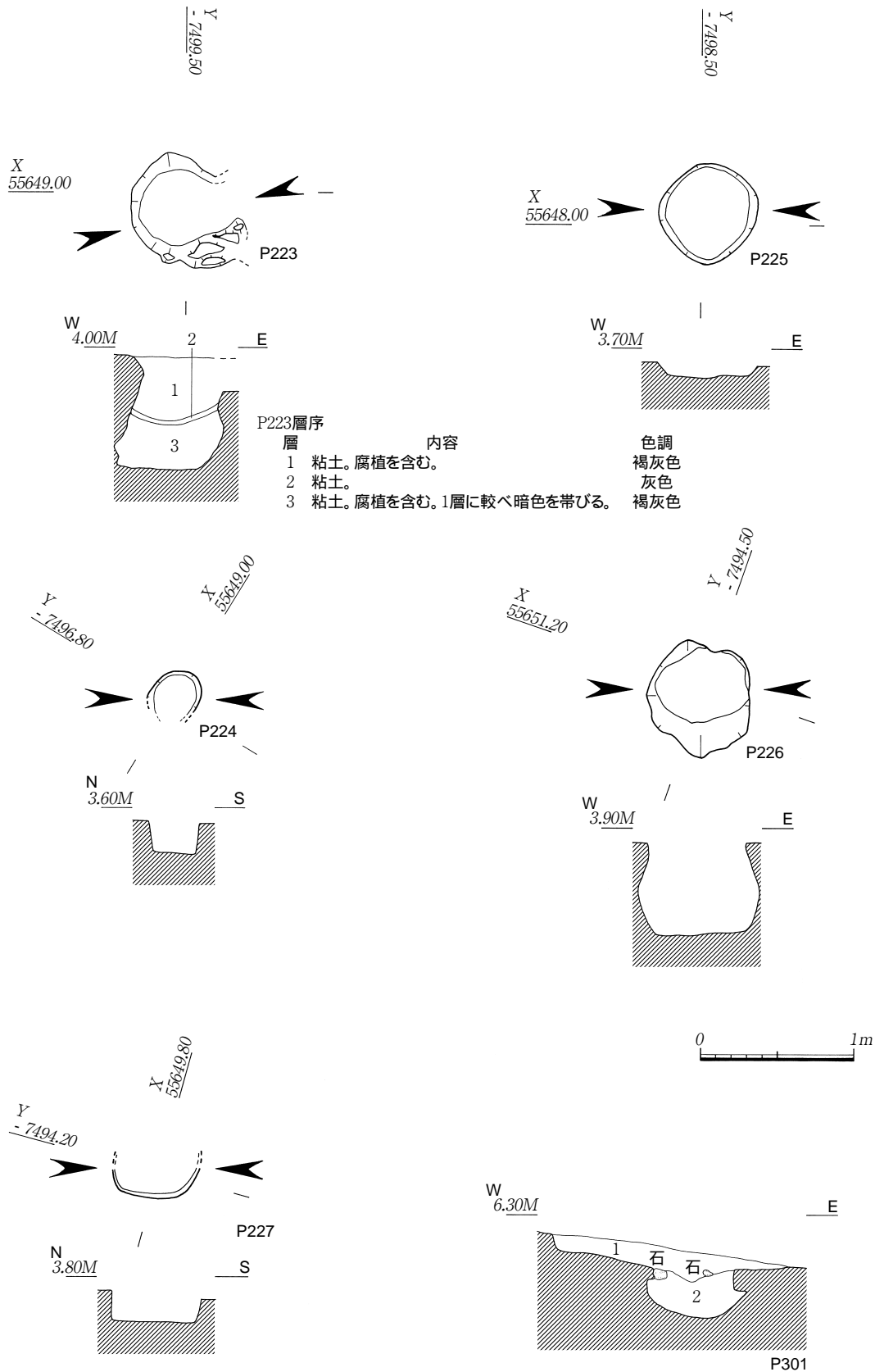


Fig.155 1F区遺構平面図 3



P223層序

- | 層 | 内容 |
|---|-----------------------|
| 1 | 粘土。腐植を含む。 |
| 2 | 粘土。 |
| 3 | 粘土。腐植を含む。1層に較べ暗色を帯びる。 |

- | 色調 |
|-----|
| 褐灰色 |
| 灰色 |
| 褐灰色 |

P301層序

- | 層 | 内容 | 色調 |
|---|--|--------------|
| 1 | 粘性あり。締まりあり。炭化物を含む。2.5~1cm大及び細粒の風化礫(淡黄色~橙色)が斑に入る。 | 黒褐色2.5Y(3/2) |
| 2 | 粘性あり。締まりあり。1層に競って色調が薄く、風化礫(淡黄色~橙色)の細粒を多く含む。低位は青灰色の風化礫が多く混じる。 | 黒褐色 |

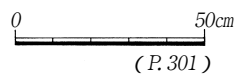


Fig.156 1F区遺構平面図 4

SR 1 (Fig.157・158)

SR 1 は水路部分の南端で検出された流路跡であり、弥生期の流路跡SR 2 と時期は明確に出来ないがSR1に先行するであろう流路跡の一部と部分的に切り合いを持つ。調査区南壁西寄りから東壁の南部に向かって流れていたものと考えられ、南壁際では小さなクランク部が存在する。検出幅は約5 mであり、検出面からの深さは1.2mから1.7mである。流路壁は概ね急傾斜であり、流路底は緩い凹面を成す。南壁部分にはやや深い落ち込みが存在し、東方へも緩やかに下る。流路底の西壁寄りには数十本の小さな杭（角杭、半截杭、丸杭）が打たれている。先述の弥生時代の流路SR 2 とは東壁際で切り合う。時期を明確にし難い流路は南壁際で肩部のみ検出されており、SR 1 の左岸に連なる方向性をもつことから、一時期の河道変化に伴うものであろうか。出土遺物は終末期を中心とする弥生土器、土師器、石包丁、叩石と杭や農具？などの木製品、他に植物遺体などである。この内図示可能な遺物は壺（181・182・197）、甕（183～191・198・199）、鉢（192～194）、高杯（195・196）、石包丁（200・201）と木製品（241～248）である。1 D区ではこの流路に繋がるであろう2本の流路跡が検出されており、一つは弥生終末期から古墳時代前期、もう一つは奈良時代から平安時代のもものとされている。

SR 2 (Fig.159・160)

SR 2 は東壁際でSR 1 と切り合いを持つ。検出標高が可成り低い4.5m付近であり、調査区全域に渡って広く堆積する分厚い灰白色土層（粘土～シルト質）の下位であることから、弥生期に形成された流路又は河道の一部であろう。流路幅は2.5mであり、深さは35cmを測る。流路底は緩やかな凹面であり、壁は緩く立ち上がる。流路方向に沿って中型の植物遺体が出土しており、SR 1 との切り合い部分手前には直交する杭列が存在する。またSR 2 の一部右岸に掛かる杭列も存在している。この杭列はSR 2 の流路方向とやや斜めに交わり、一本あたりは長さ1 mを超える規模を持つものである。角材の先端に加工を加えただけのやや粗雑な造りであり、十数本が打ち込まれていた。

出土遺物は弥生前期土器胴部破片が2点であり、図示できるものは先のSR 2 に掛かる杭（238～340）である。

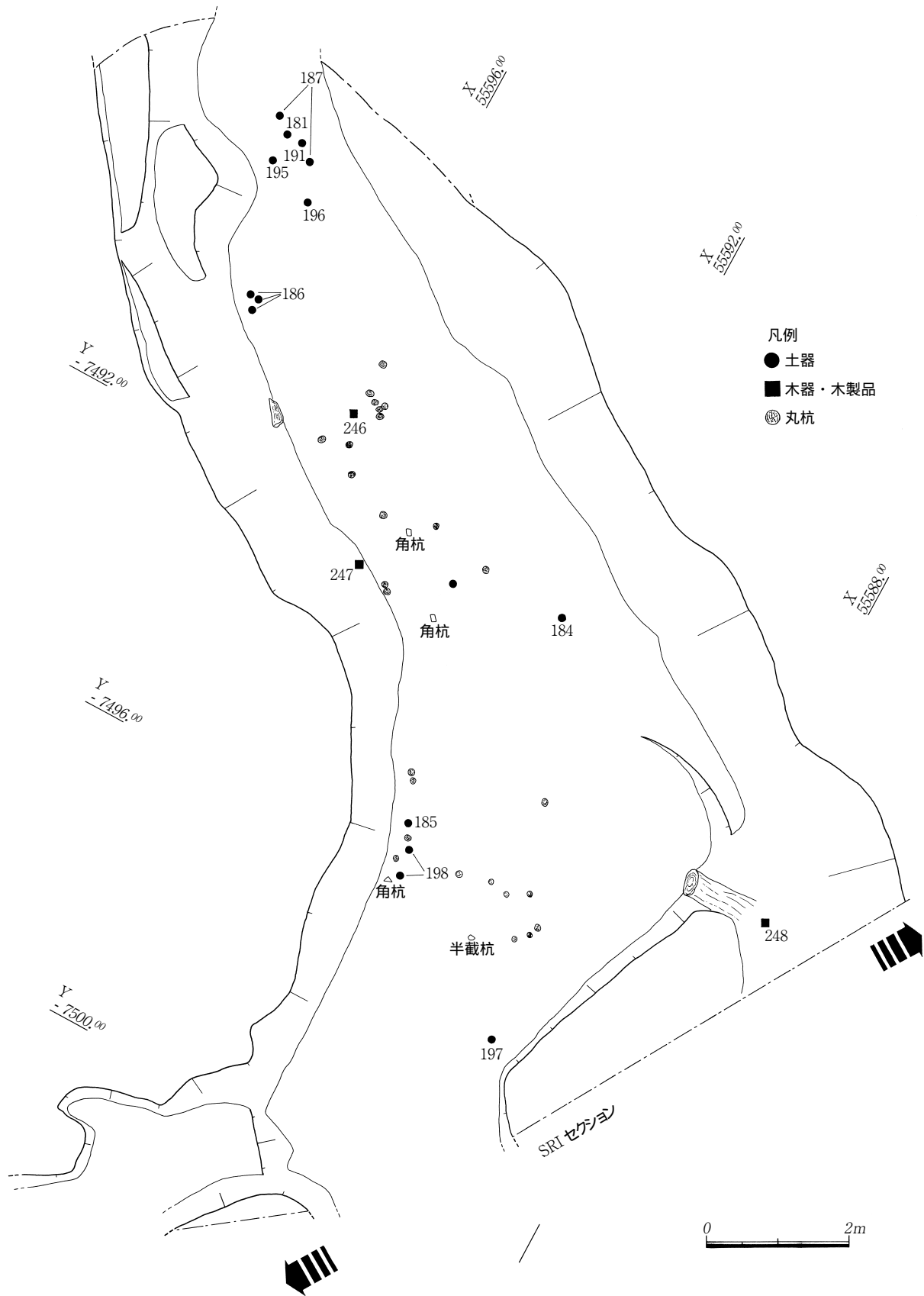


Fig.157 1F区遺構平面図5 (SR1)

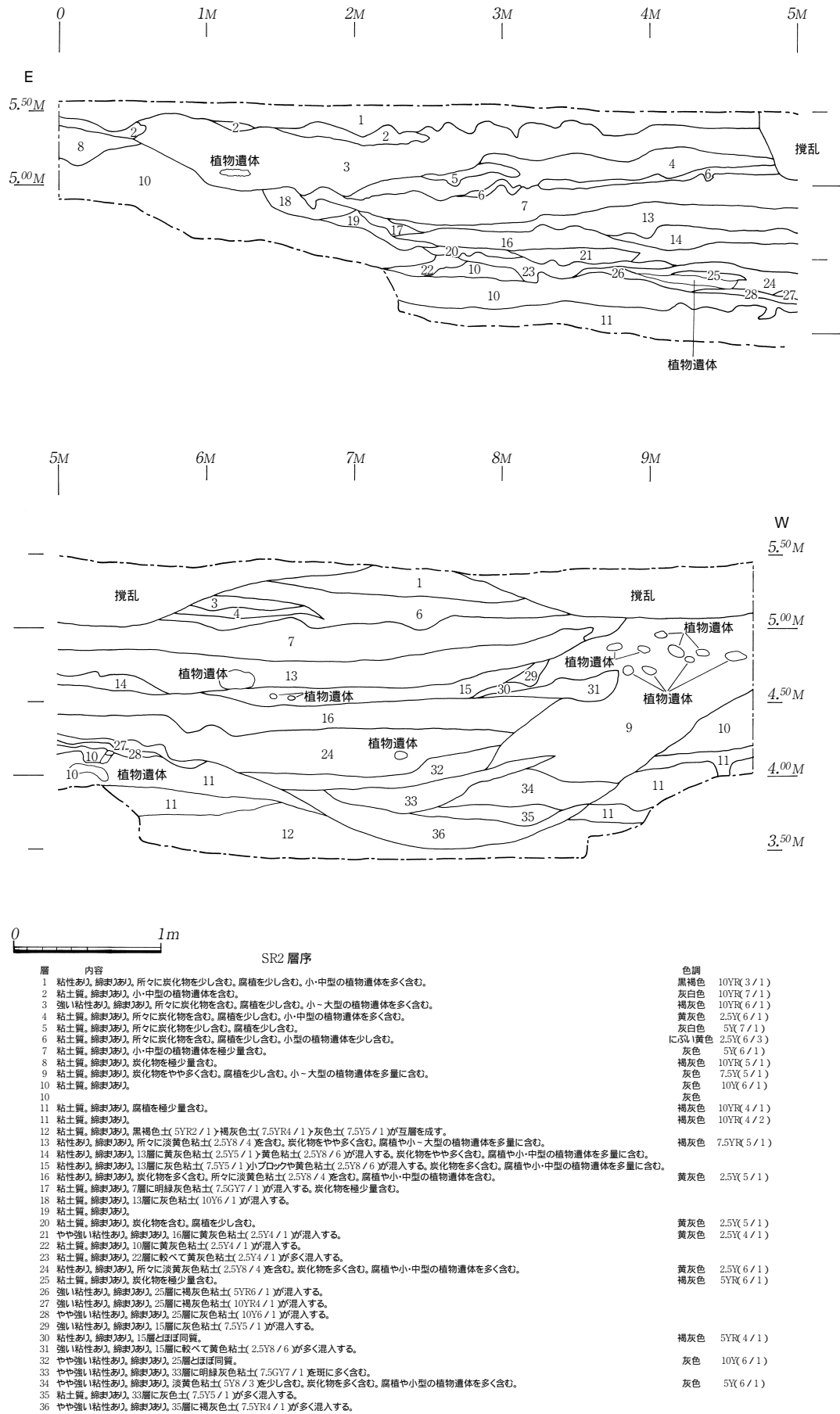
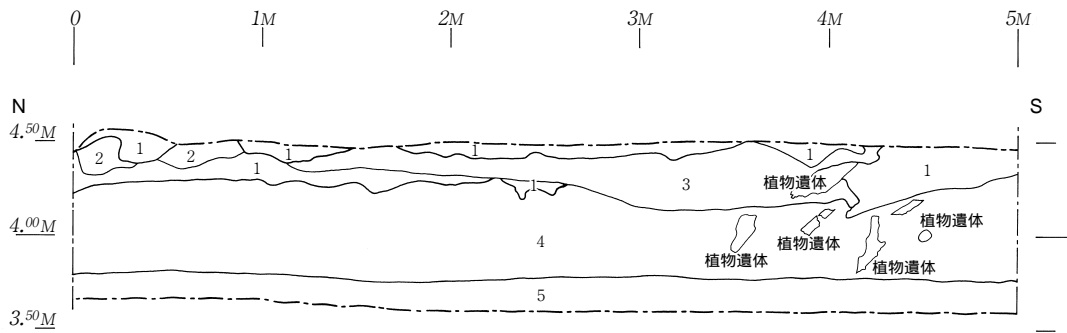


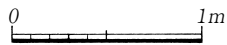
Fig.158 SR1セクション図



Fig.159 1F区遺構平面図6 (SR2)

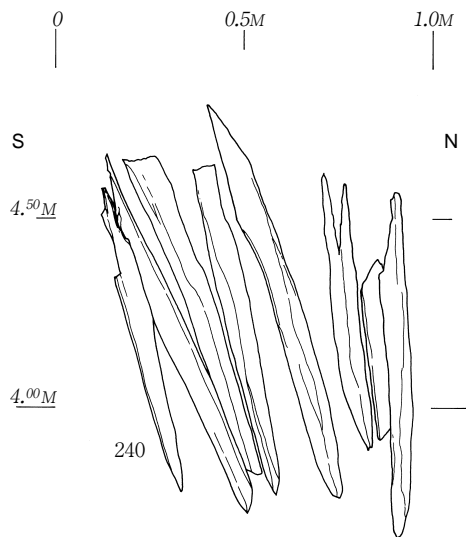


SR2 セクション図



SR2 層序

層	内容	色調	その他
1	粘土。締まりあり。褐色土を斑に多く含む。	灰色 7.5Y(6/1)	層を構成する。
1	粘性あり。締まりあり。	灰白色	
2	粘土。締まりあり。小・中型の植物遺体や稀に大型の植物遺体を含む。	褐灰色 10YR(6/1)	
3	粘土。灰色粘土(7.5Y6/1)と褐色粘土(10YR6/1)が混ざる。		
4	粘土。締まりあり。小・中型の植物遺体や稀に大型の植物遺体を含む。	褐灰色 10YR(4/1)	IVC層に相当?
5	粘土。締まりあり。所々に灰白色粘土(5Y7/1)を斑に含む。	灰色 5Y(4/1)	



SR2 杭列立面図



Fig.160 SR2セクション図他

5. 遺物

遺構出土の遺物 (Fig.161・181・182・190～192)

土器・土製品

P1

深鉢1点、甕1点、土製円盤1点、細片24点が出土しており、このうち図示できるものは甕の口縁(2)である。

P202

骨片や深鉢1点、粗製胎土破片8点が出土しており、このうち図示できるのは甕の口縁(1)である。

P208

植物遺体や骨片と深鉢1点、細片5点が出土しており、このうち図示できるのは深鉢の口縁(3)である。

P215

貯蔵穴群の一つであり、堅果類、植物遺体と共に深鉢の口縁1点(4)が出土している。

P220

貯蔵穴群の一つであり、堅果類と深鉢の底部1点(5)が出土している。

ピット群には他に細片等を出土したものが存在しており、詳細は計測表()を参照されたい。

SR 1

194点の土器が出土しており、そのうち壺は12点、浅鉢は4点、深鉢は2点、甕は25点、高杯は2点であり、縄文晩期から弥生前期の遺物も含まれているが多くは弥生終末期から古墳前期のものである。ここからの出土遺物で図示したものは181～199である。

SR 2

弥生前期の壺破片2点が出土しているが、図示できるものは無い。

石器・石製品

SR 1

石包丁が2点出土している。200は磨製で流路底から出土しており、201は打製で埋積層のやや高位から出土した。

木器・木製品

SR 1

建築部材から小型の筒状木製品に至る大小の木器・木製品が出土している。図示したのは241から248である。

SR 2

238から240を図示した。何れもSR 2 右岸に掛かるよう施された杭列使用のものである。

包含層からの遺物

出土遺物は縄文土器、弥生土器、石斧、砥石、叩石の他5,065点の土器が出土しており、細片を除くと縄文土器は1,245点、弥生土器は878点である。

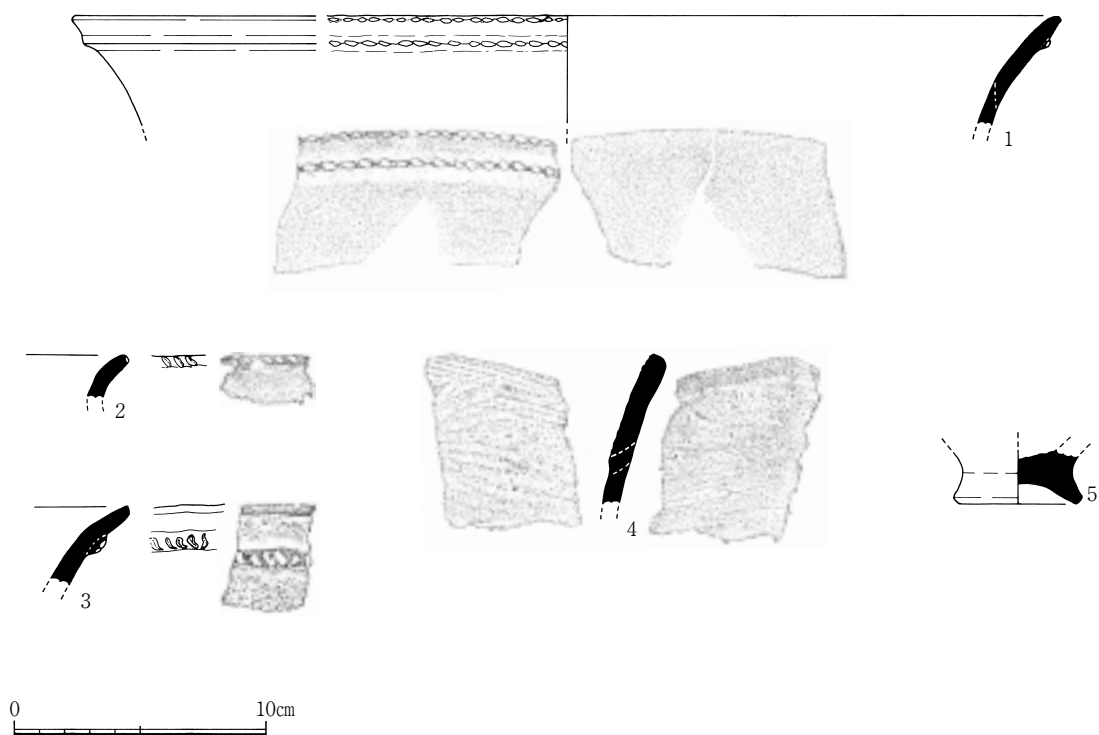


Fig.161 1F区出土遺物 1

A層出土遺物

土器・土製品 (Fig.162~165)

321点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は118点であり、弥生土器は16点である。この中で図示できるものは6から24の19点である。

B層出土遺物

土器・土製品 (Fig.166・167・183)

475点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は269点であり、弥生土器は54点である。この中で図示したものは25から45の21点である。

石器・石製品

202の石斧を図示した。

C層出土遺物

土器・土製品 (Fig.168~170・183・185~187)

710点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は269点であり、弥生土器は99点である。この中で図示したものは46から85の40点である。

石器・石製品

3点を図示した。203は石斧、205は砥石、206は石錐である。

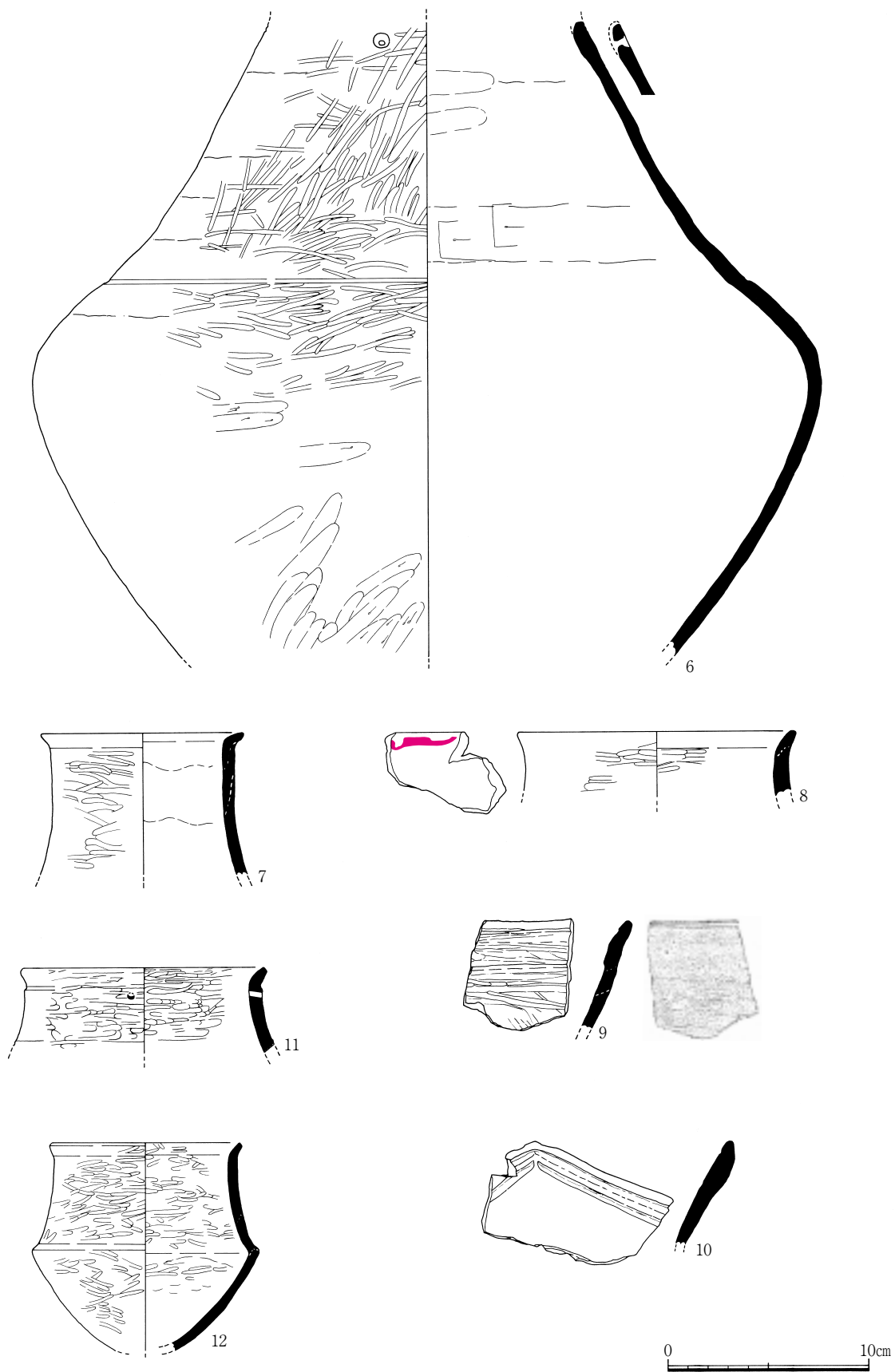


Fig.162 1F区出土遺物 2

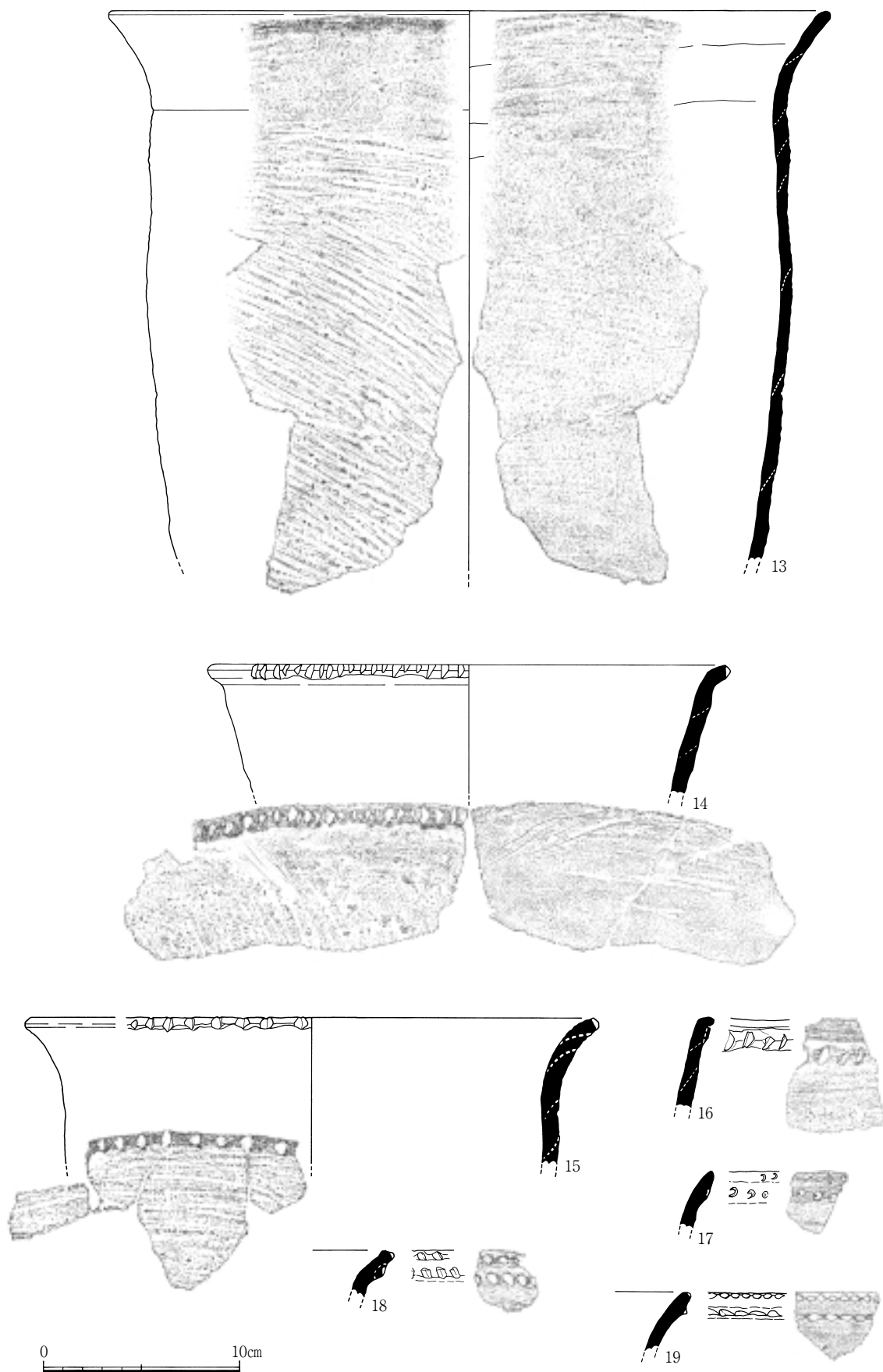


Fig.163 1F区出土遺物 3

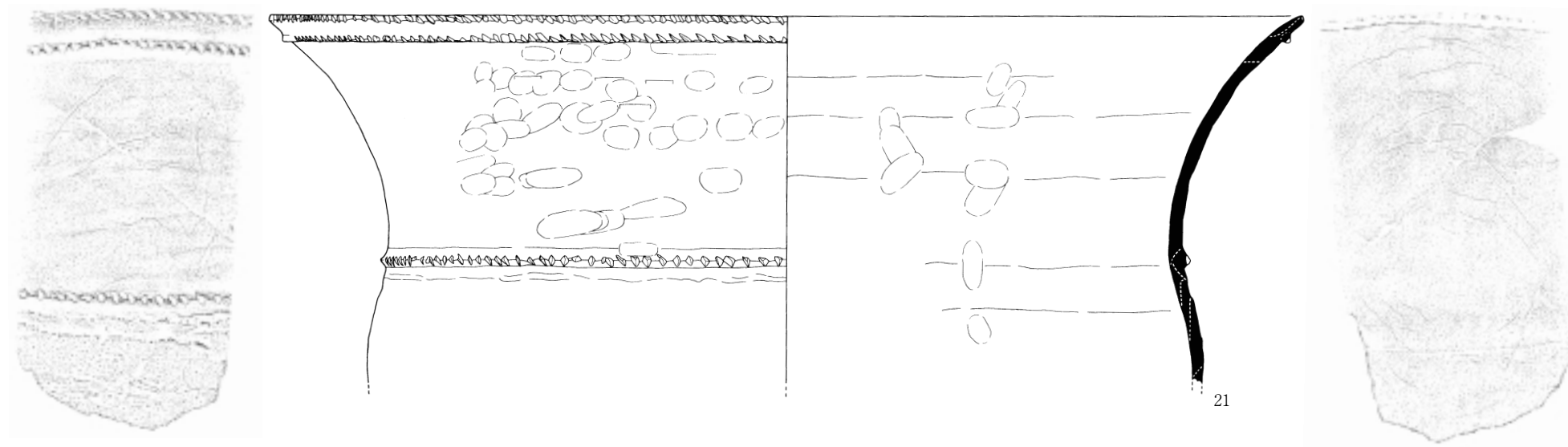
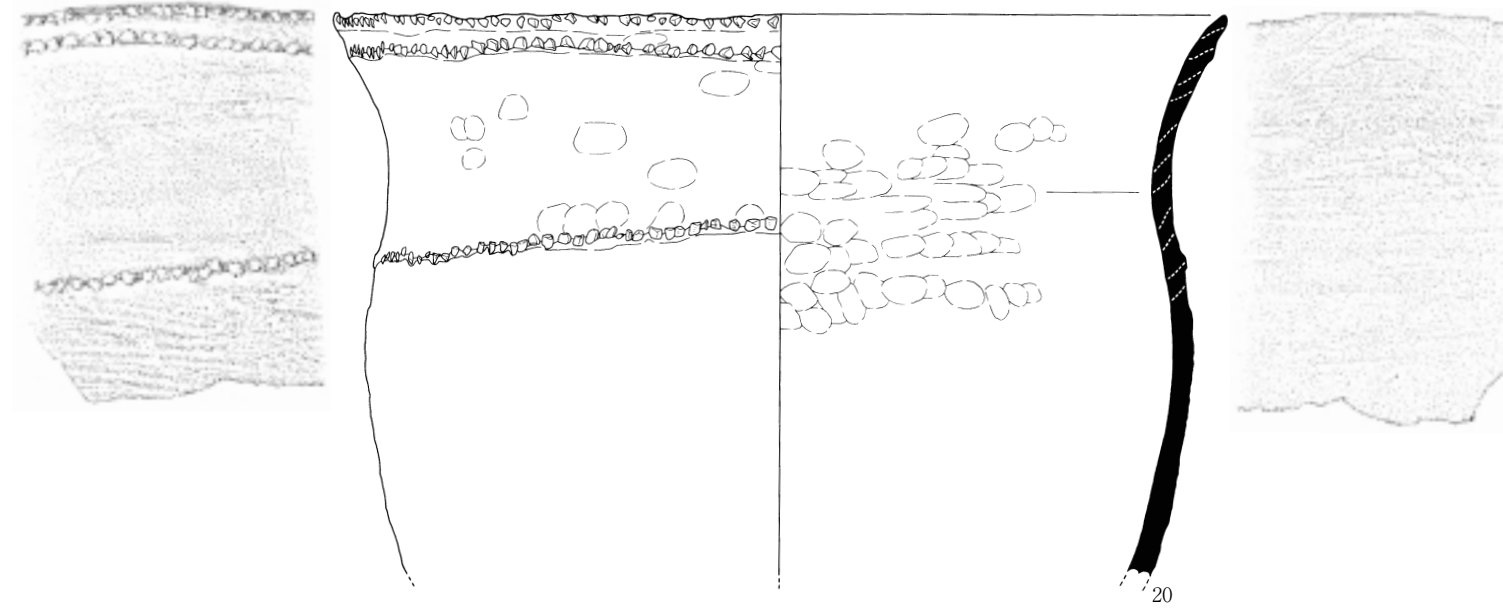
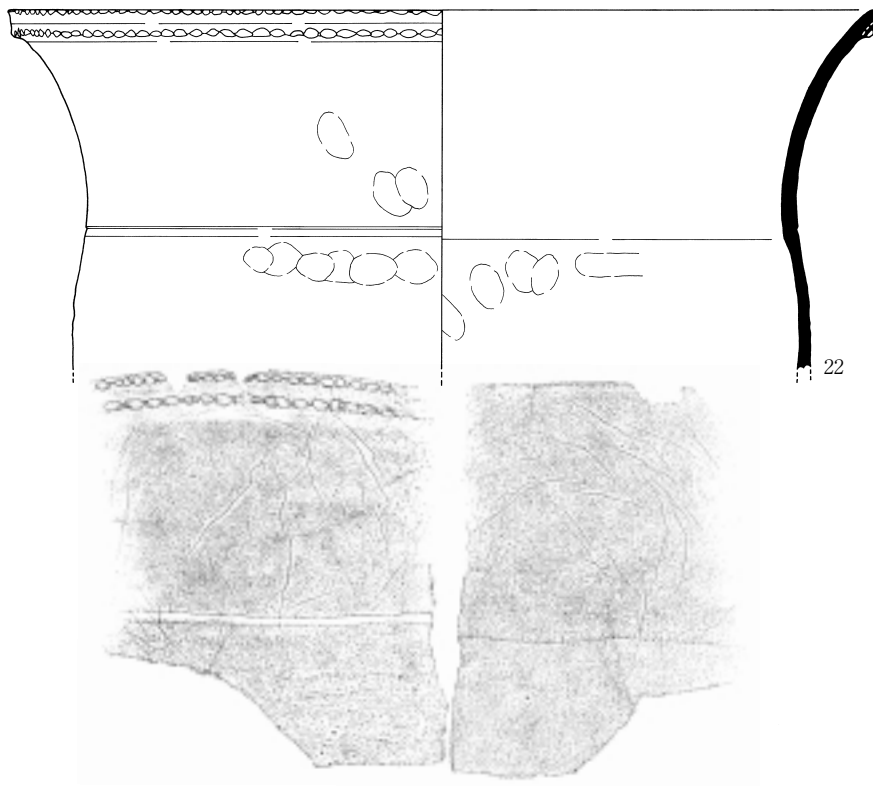
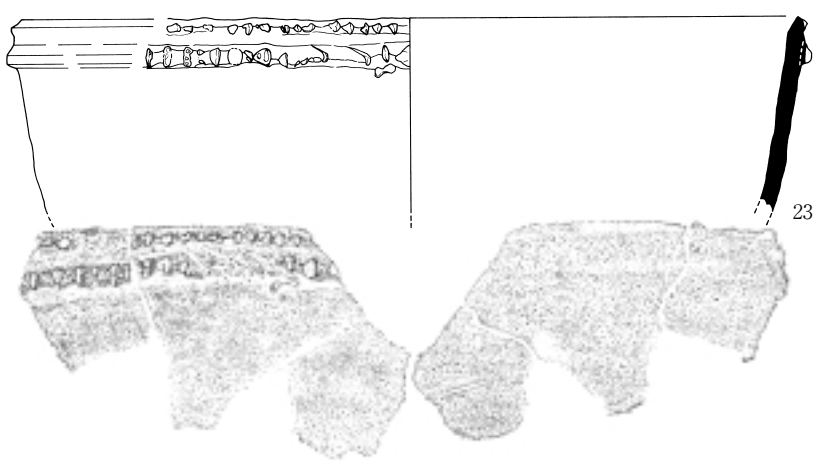


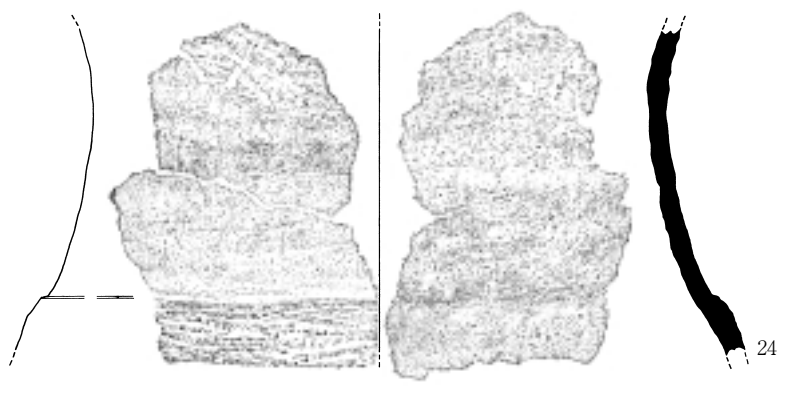
Fig.164 1F区出土遺物 4



22



23



24

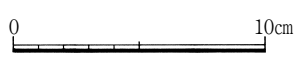


Fig.165 1F区出土遺物 5

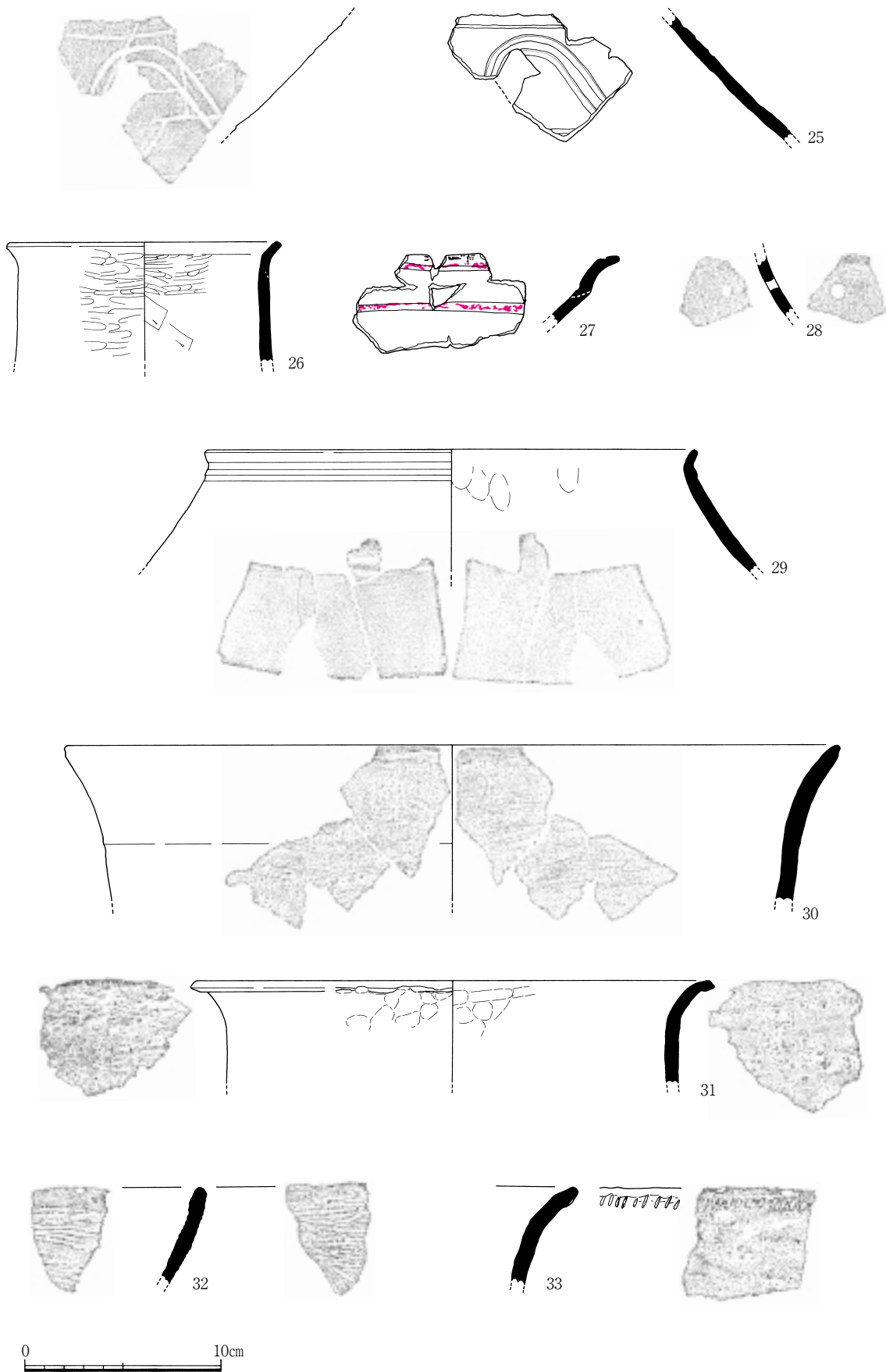


Fig.166 1F区出土遺物 6

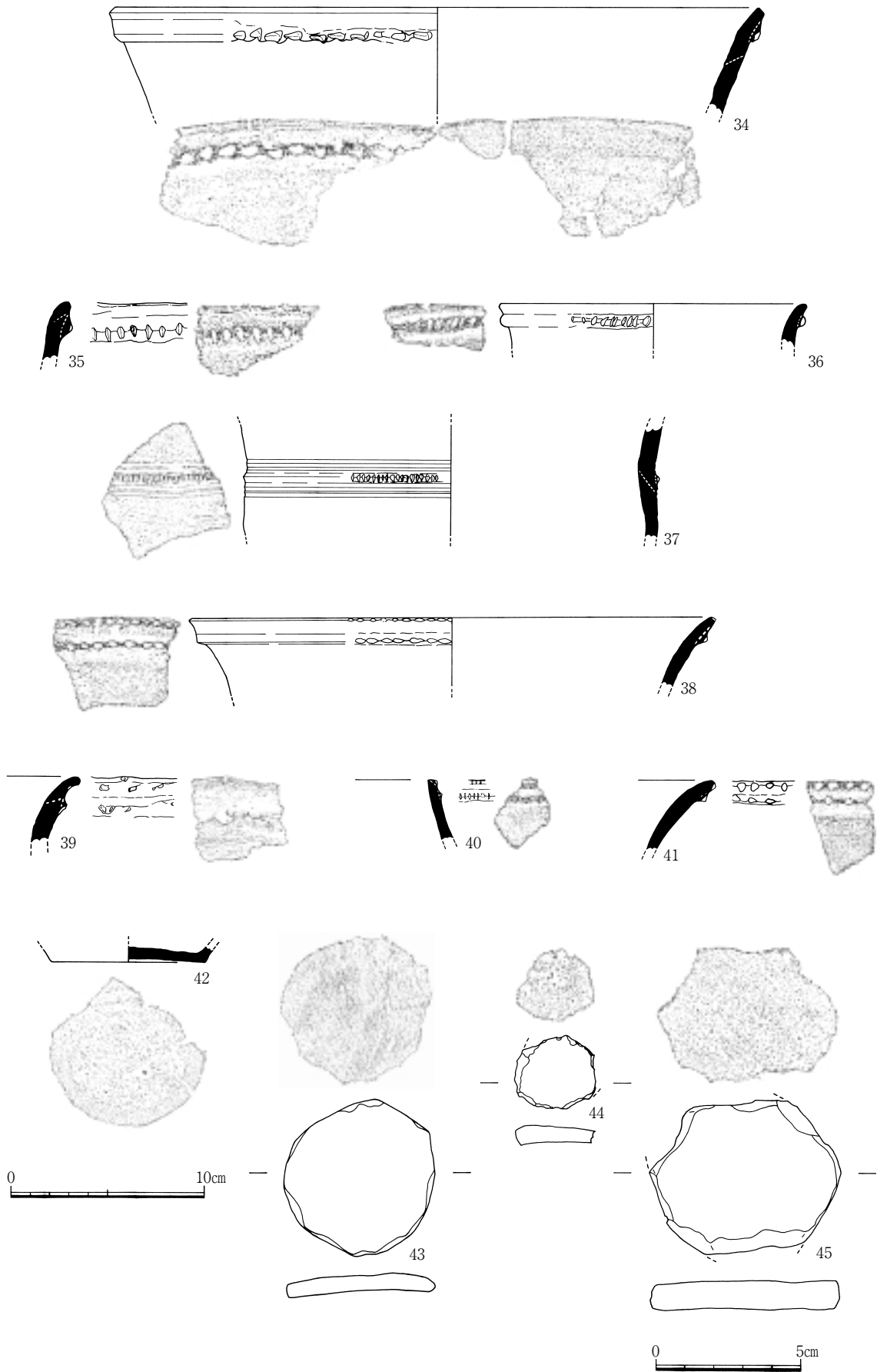


Fig.167 1F区出土遺物 7

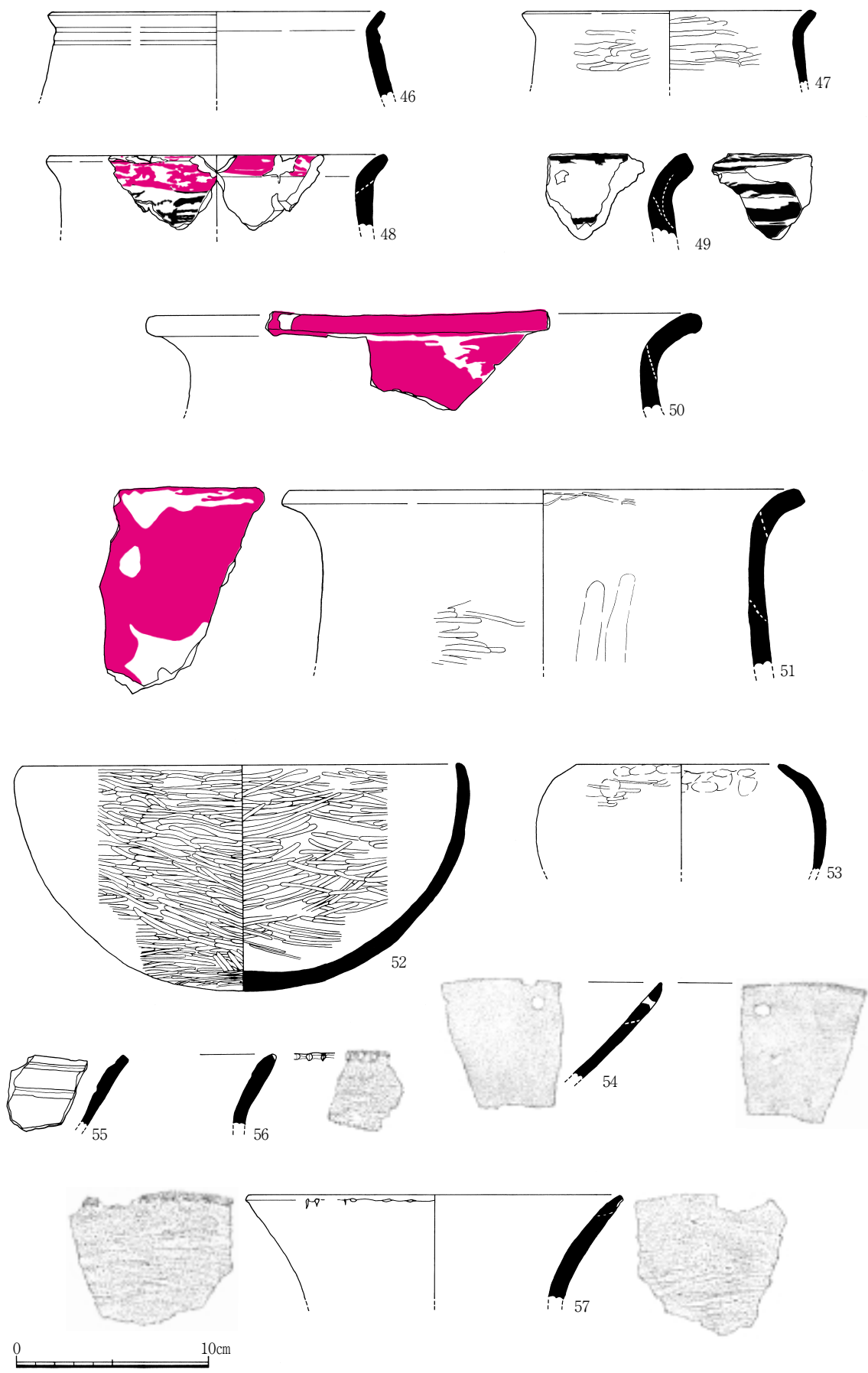


Fig.168 1F区出土遺物 8

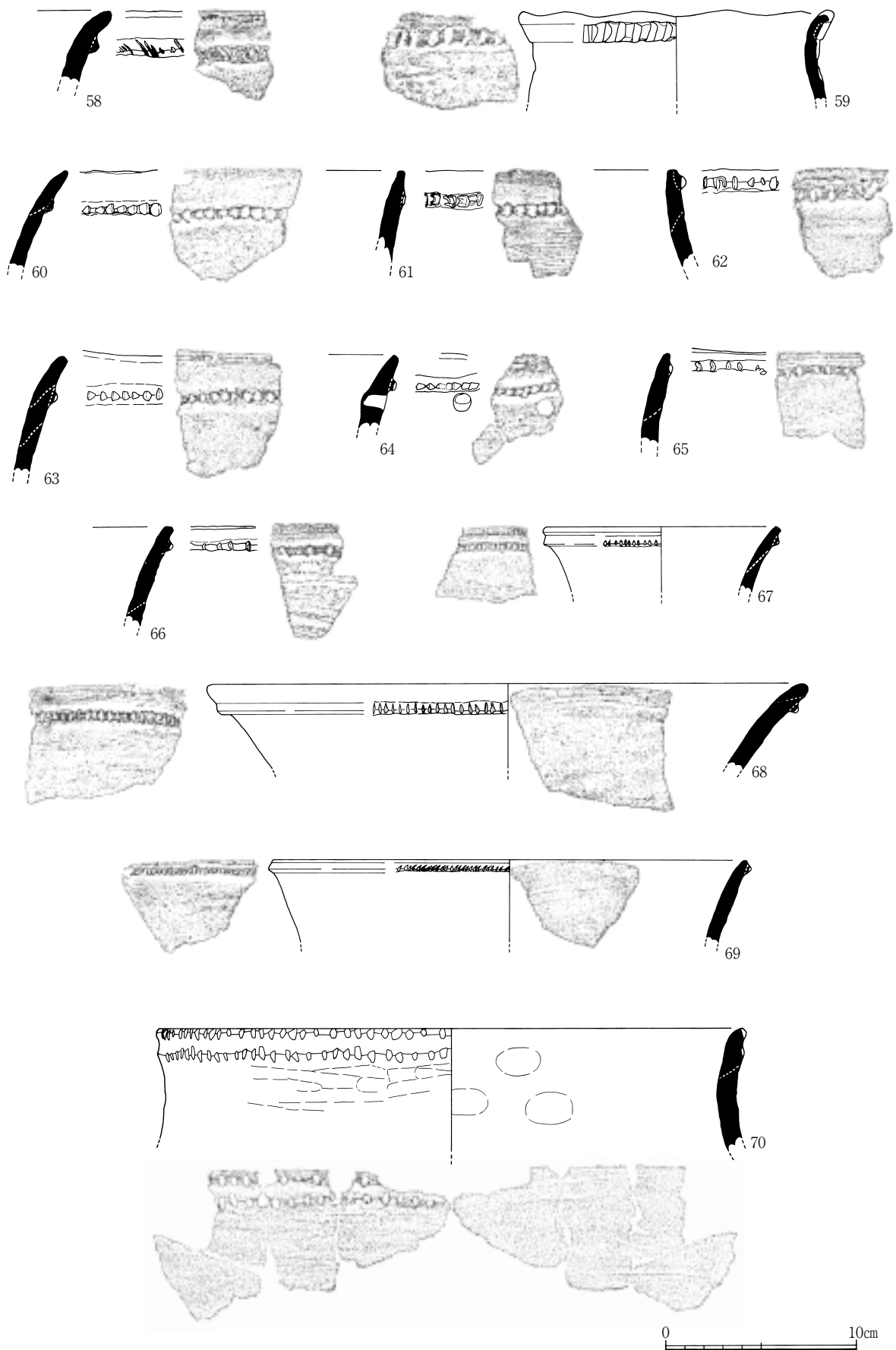


Fig.169 1F区出土遺物 9

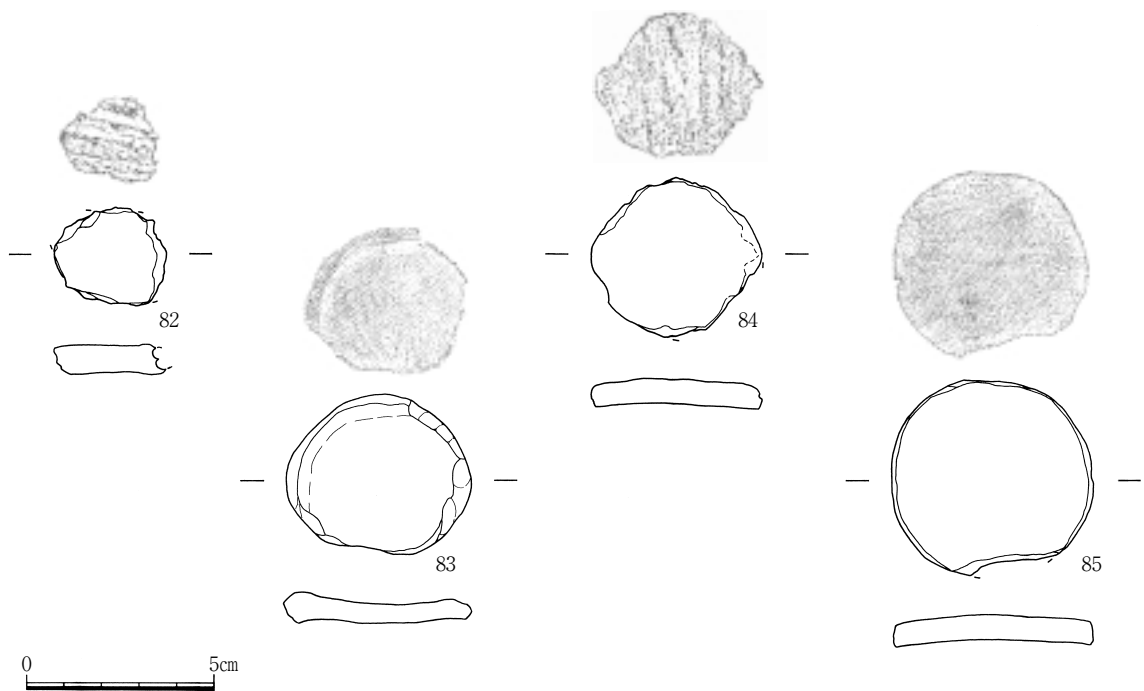
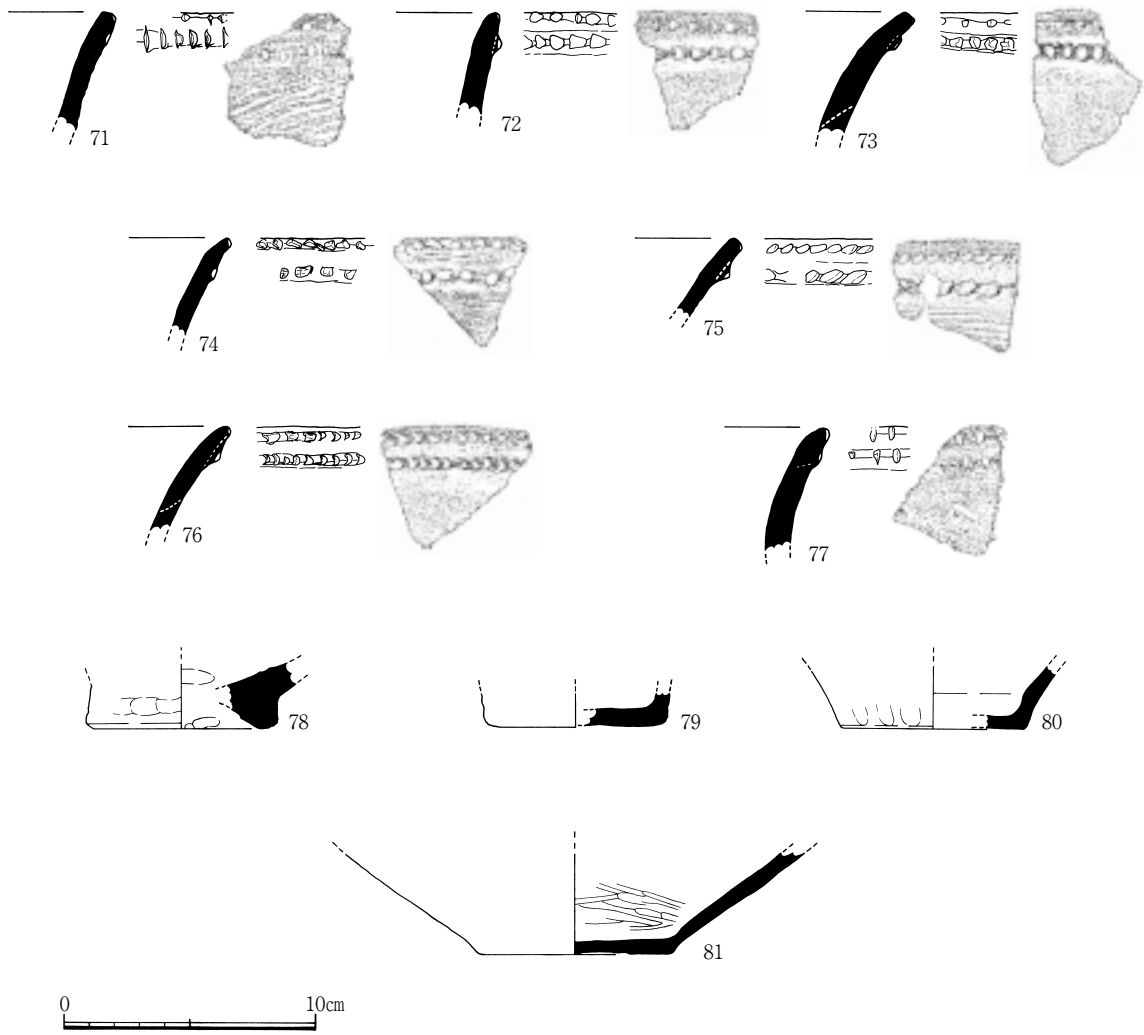


Fig.170 1F区出土遺物 10



Fig.171 1F区出土遺物 11

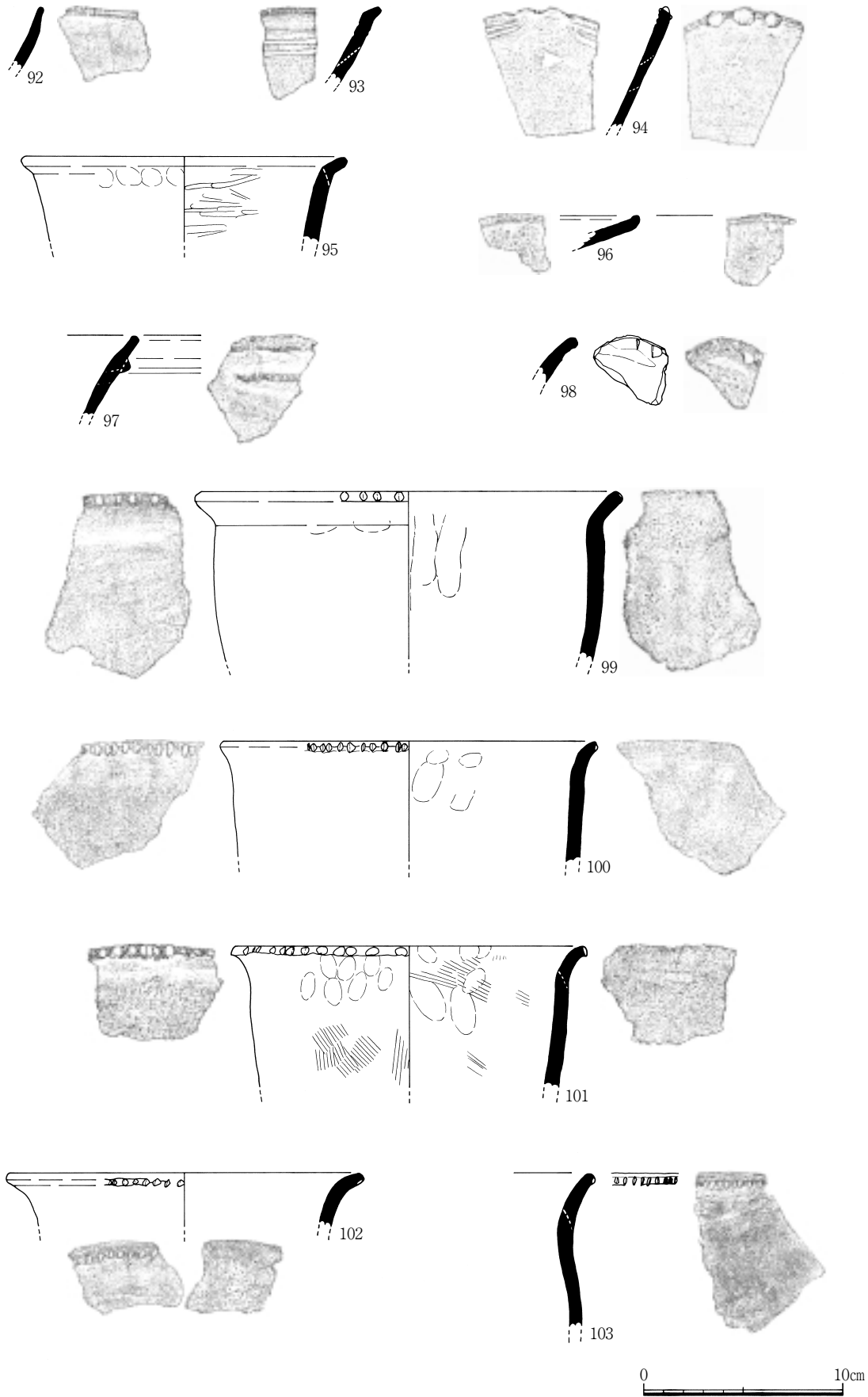


Fig.172 1F区出土遺物 12

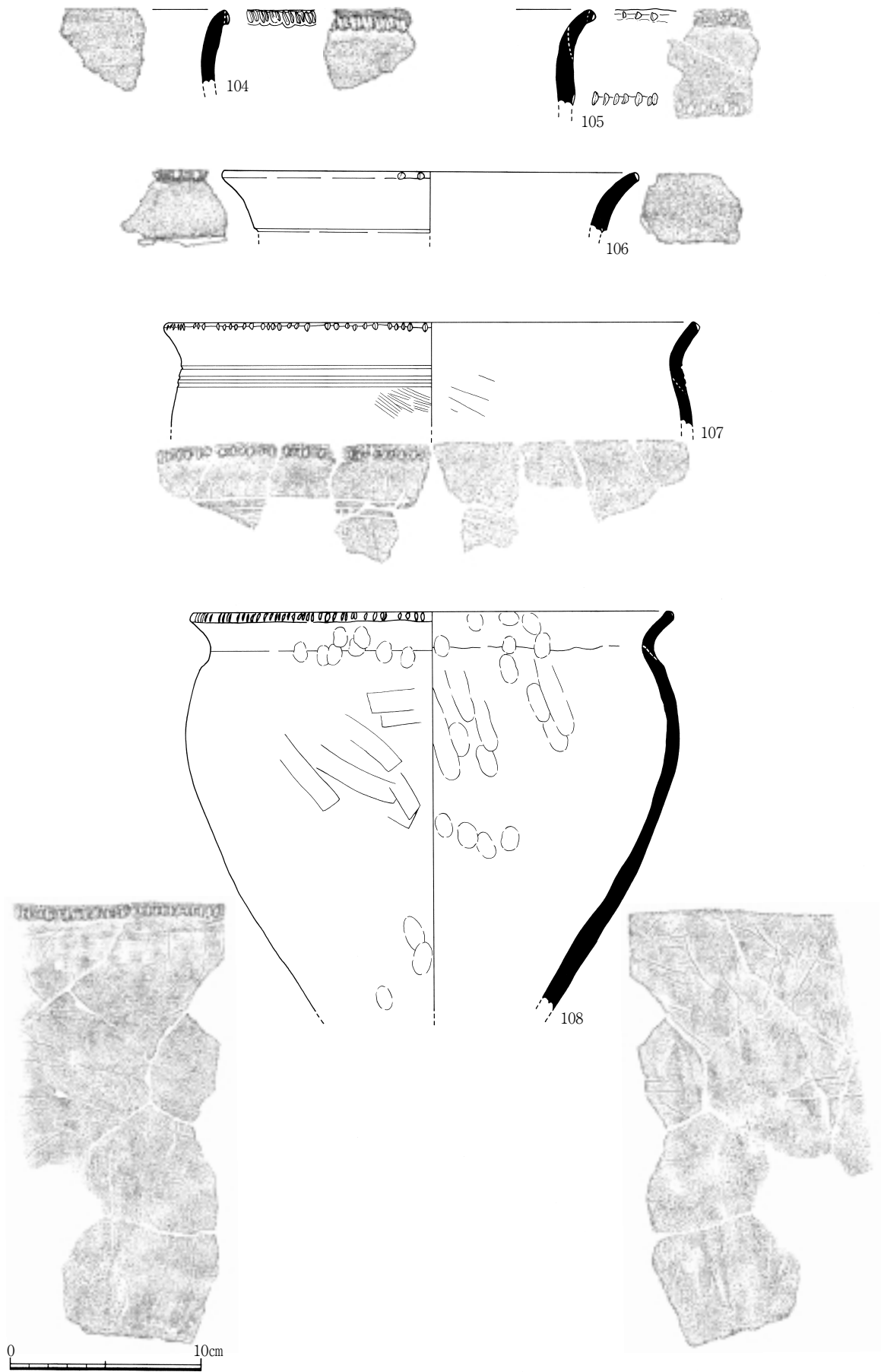


Fig.173 1F区出土遺物 13

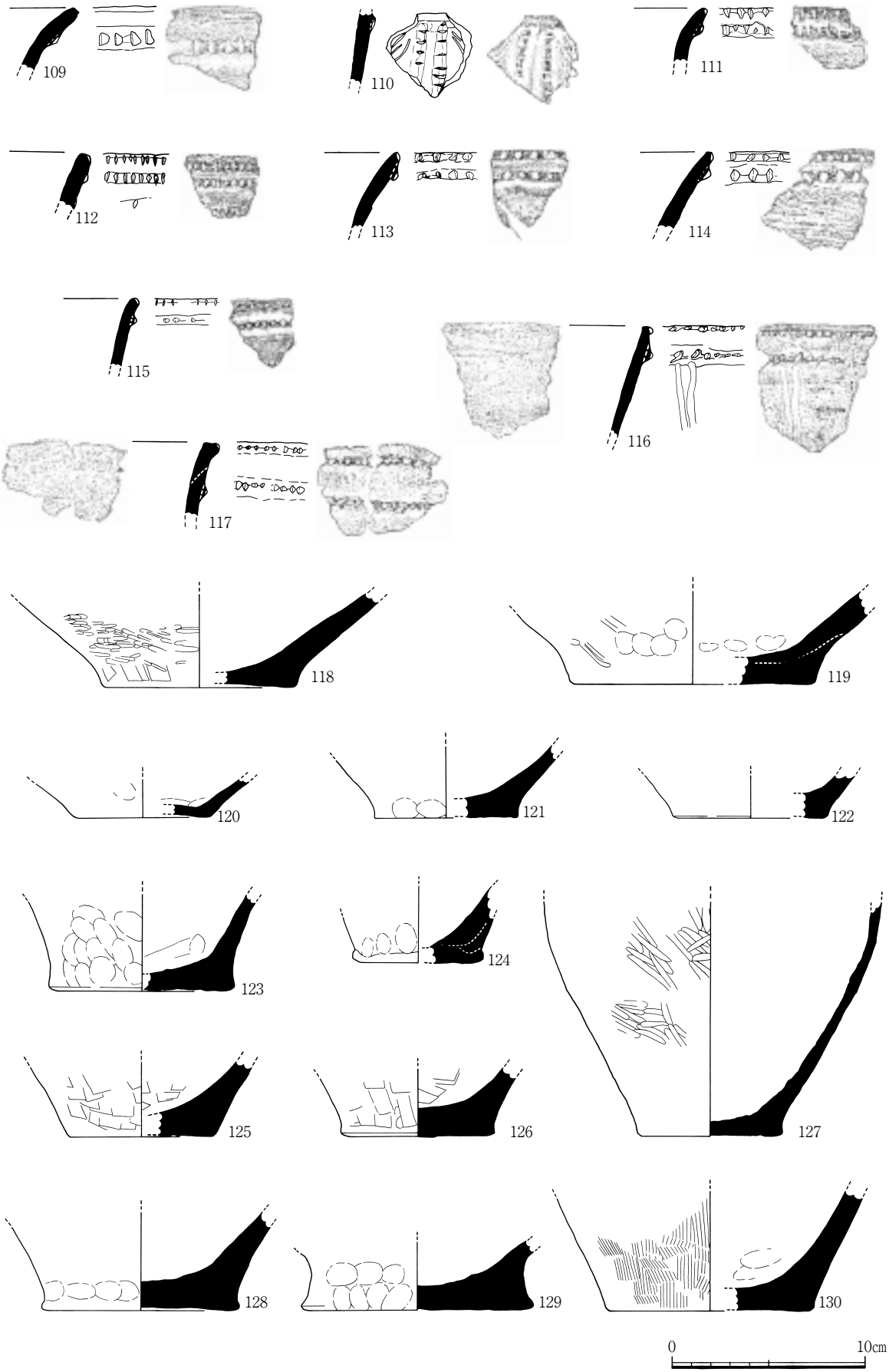


Fig.174 1F区出土遺物 14

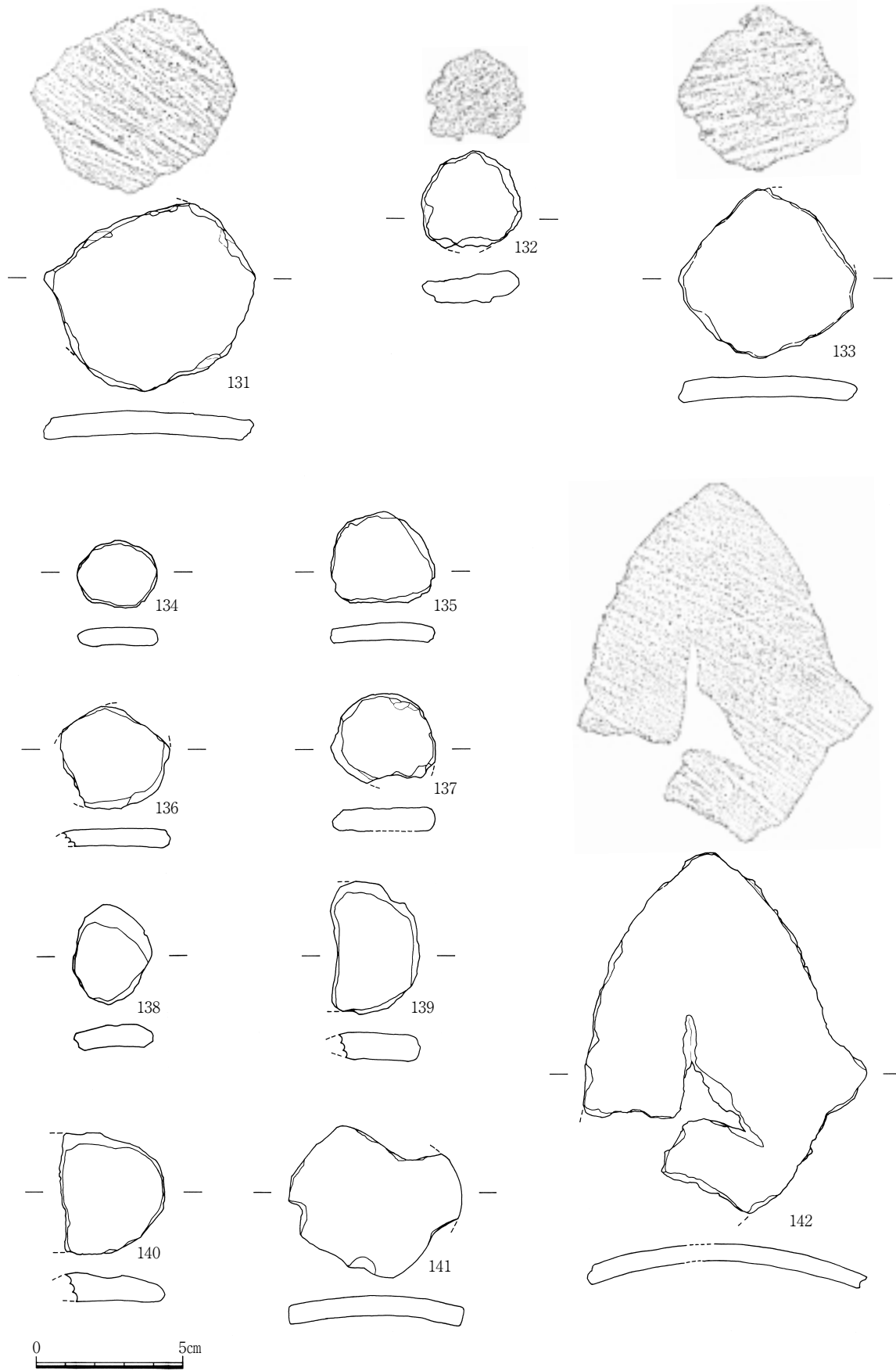


Fig.175 1F区出土遺物 15

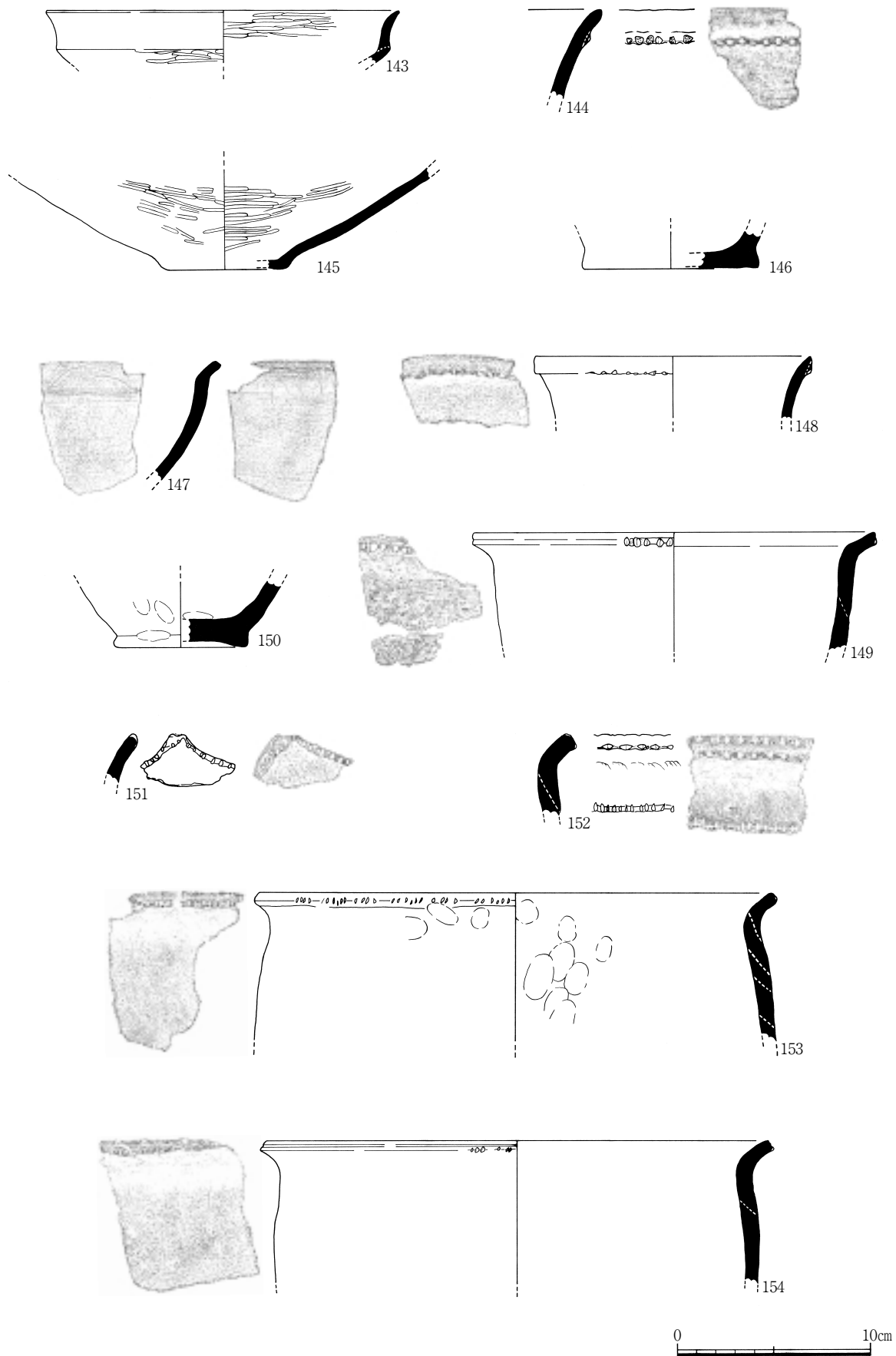


Fig.176 1F区出土遺物 16

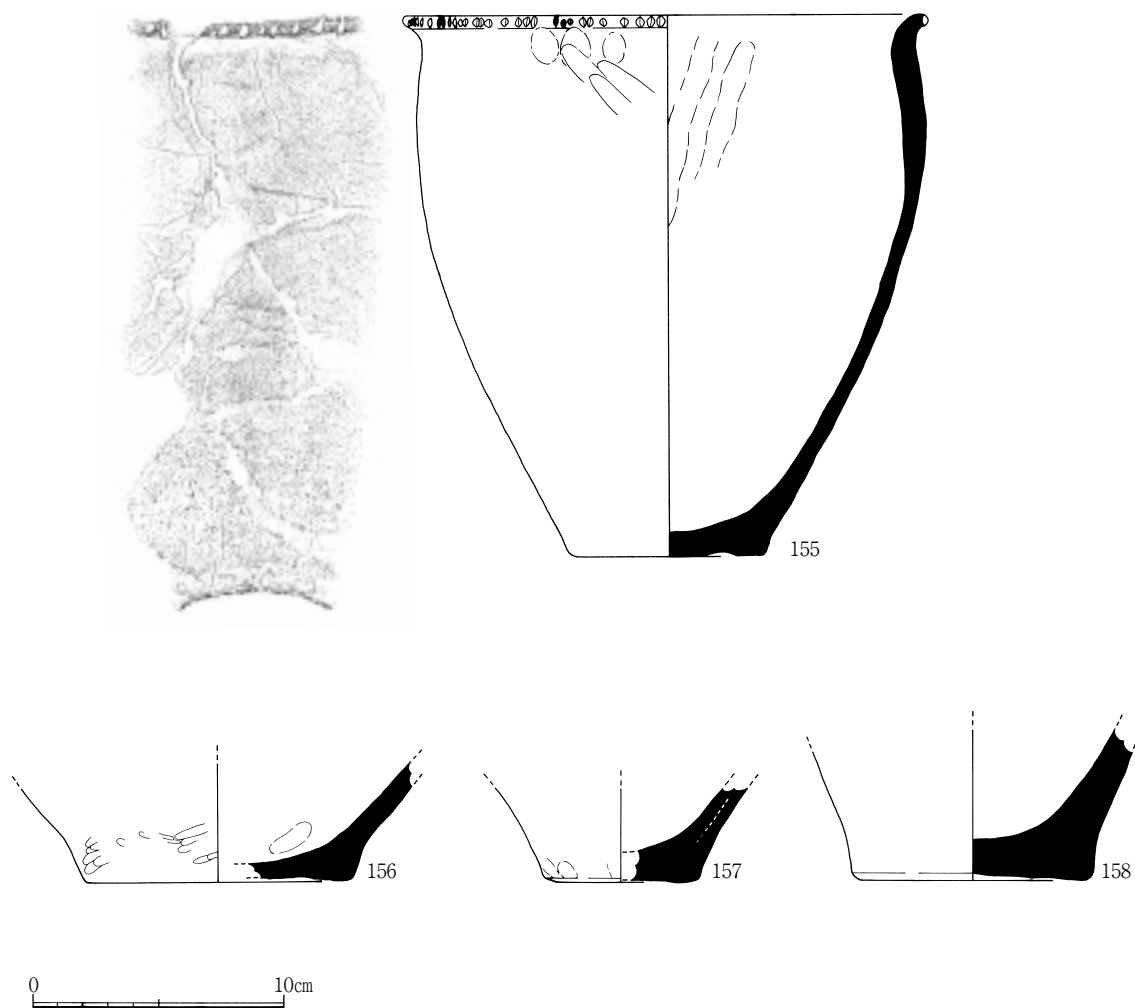


Fig.177 1F区出土遺物 17

木器・木製品

9点を図示した。212・213は箸状の小型木製品、215は鍬の柄装着部か。217は石斧の柄、218は容器の蓋か。221は組合せ犁。222は膝柄。

A層・ A - 1~3層出土遺物 (Fig.171 ~ 177・183・184・188・189)

土器・土製品

2,539点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は507点であり、弥生土器は445点である。この中で図示できるものは A層の86から142の57点と A - 1~3層の143から158の16点である。

石器・石製品

図示したのは石斧1点(204)、叩石3点(209~211)、加工痕のある剥片2点(207・208)である。

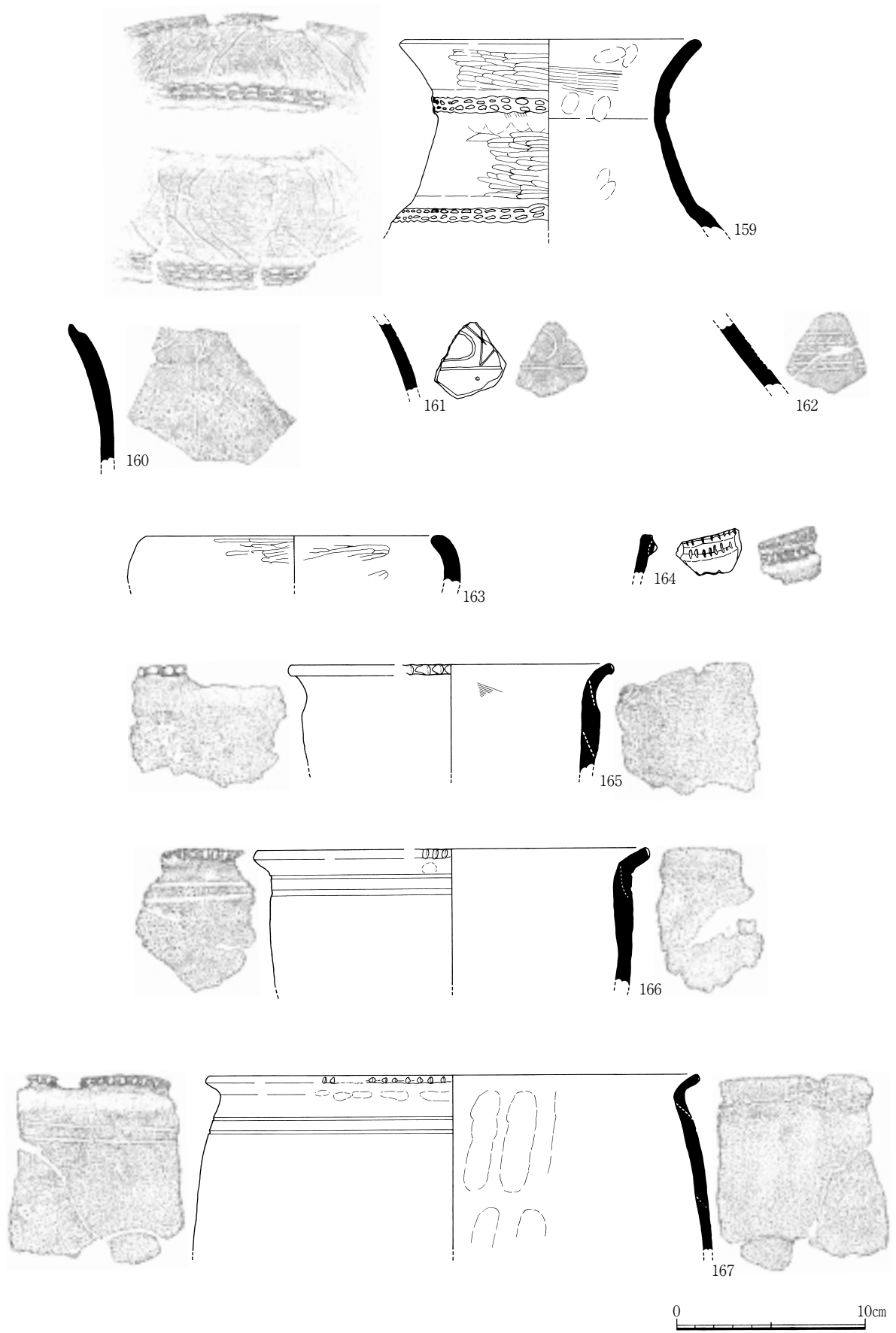
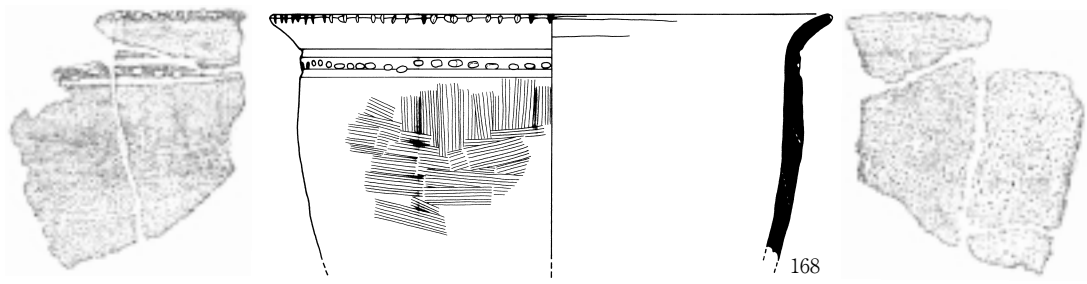
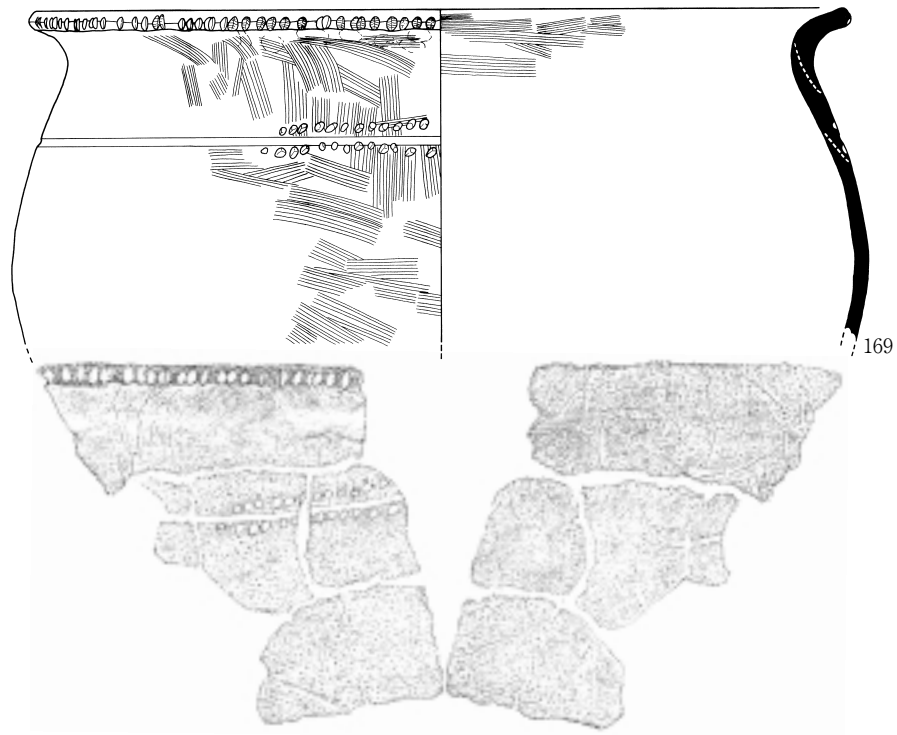


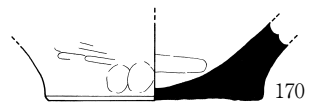
Fig.178 1F区出土遺物 18



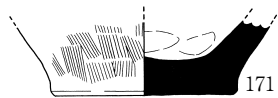
168



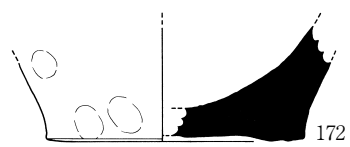
169



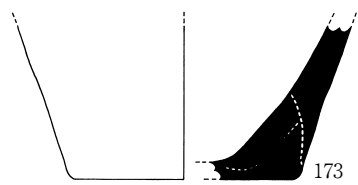
170



171



172



173

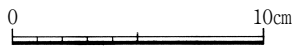


Fig.179 1F区出土遺物 19

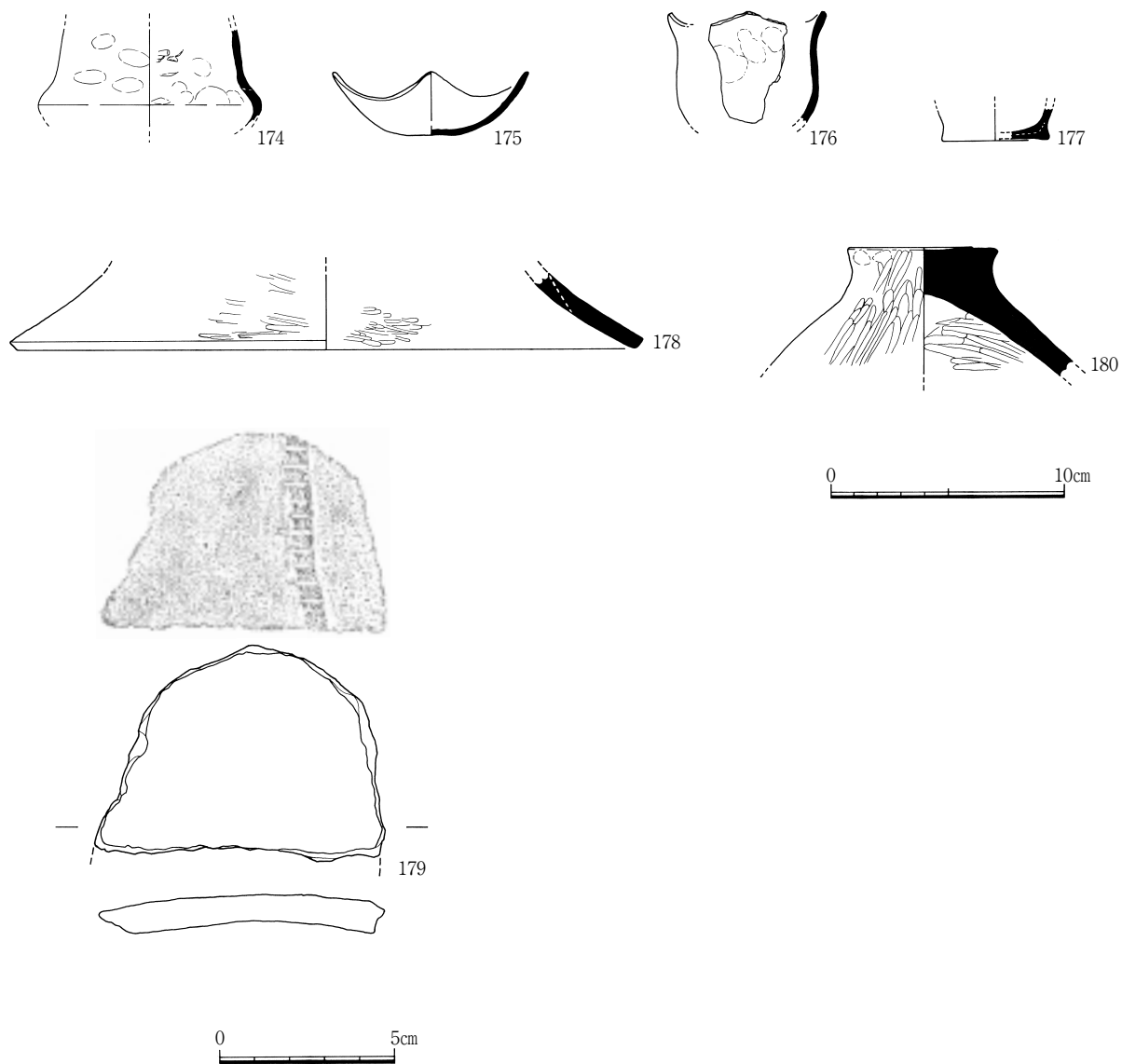


Fig.180 1F区出土遺物 20

木器・木製品

図示したのは11点である。223はえぶりか。224・225は農工具の一部、226・228は蓋と考えられる。

B層出土遺物 (Fig.178 ~ 180)

土器・土製品

800点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は49点であり、弥生土器は231点である。この中で図示できるものは159から179の21点である。

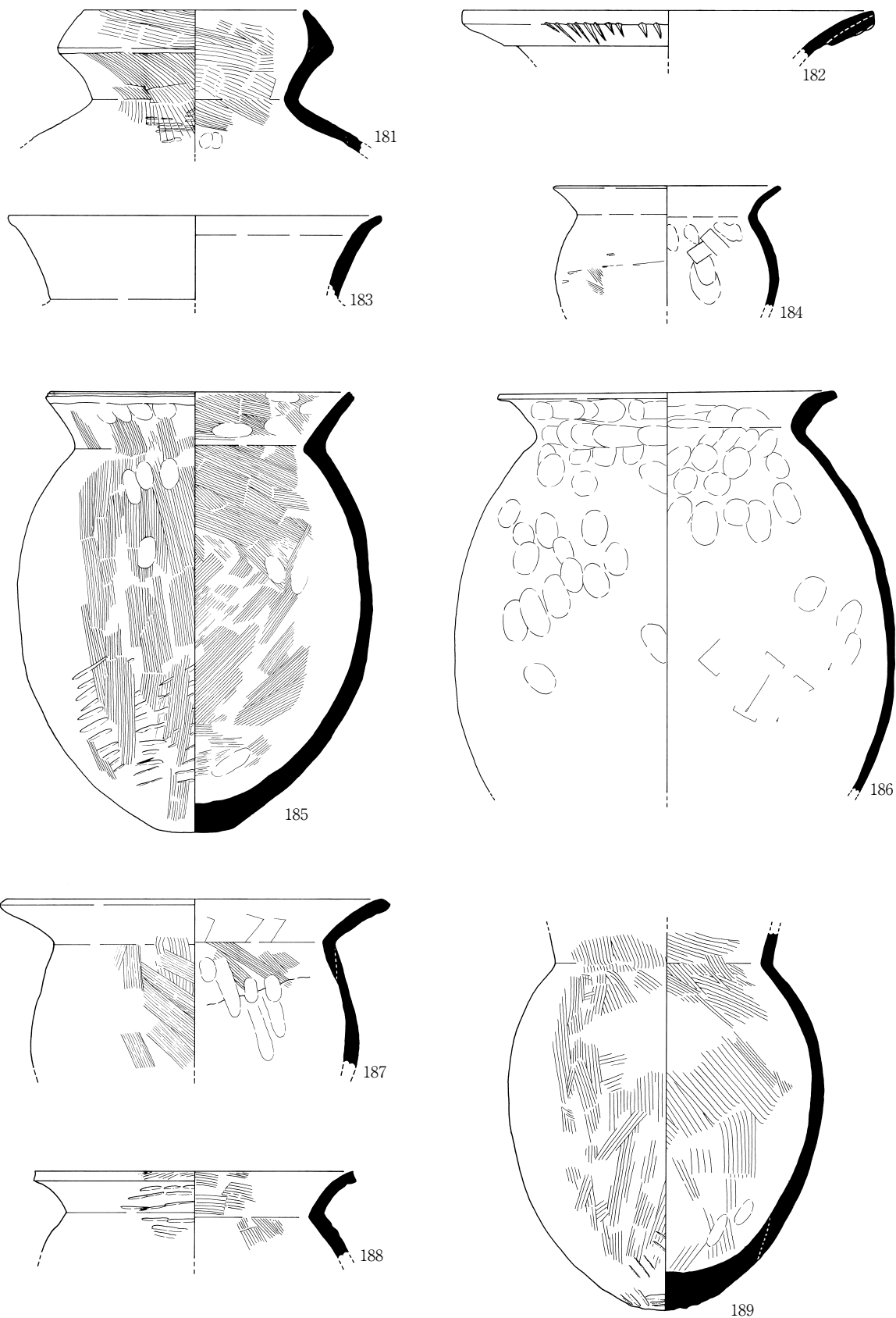


Fig.181 1F区出土遺物 21

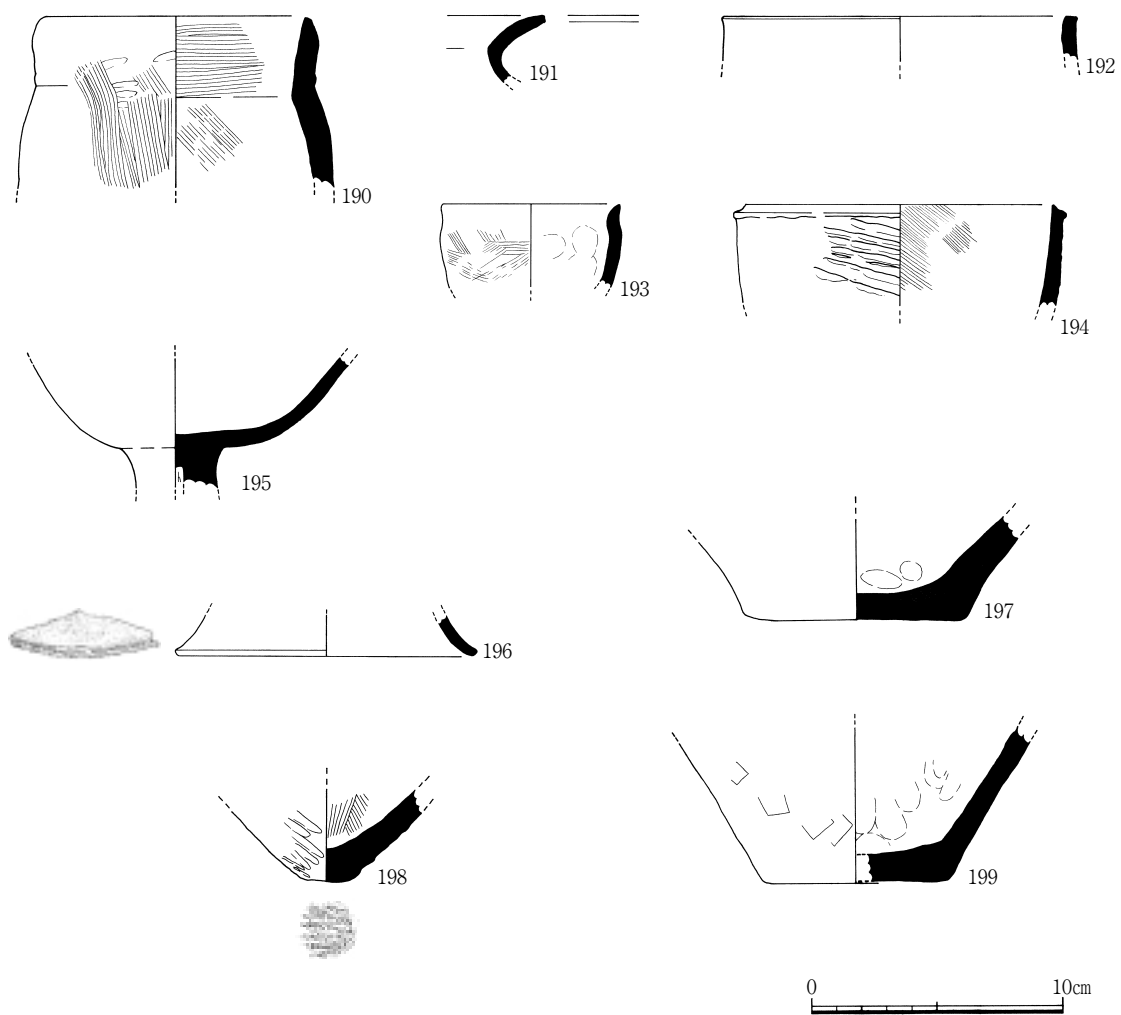


Fig.182 1F区出土遺物 22



Fig.183 1F区出土遺物 23

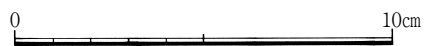
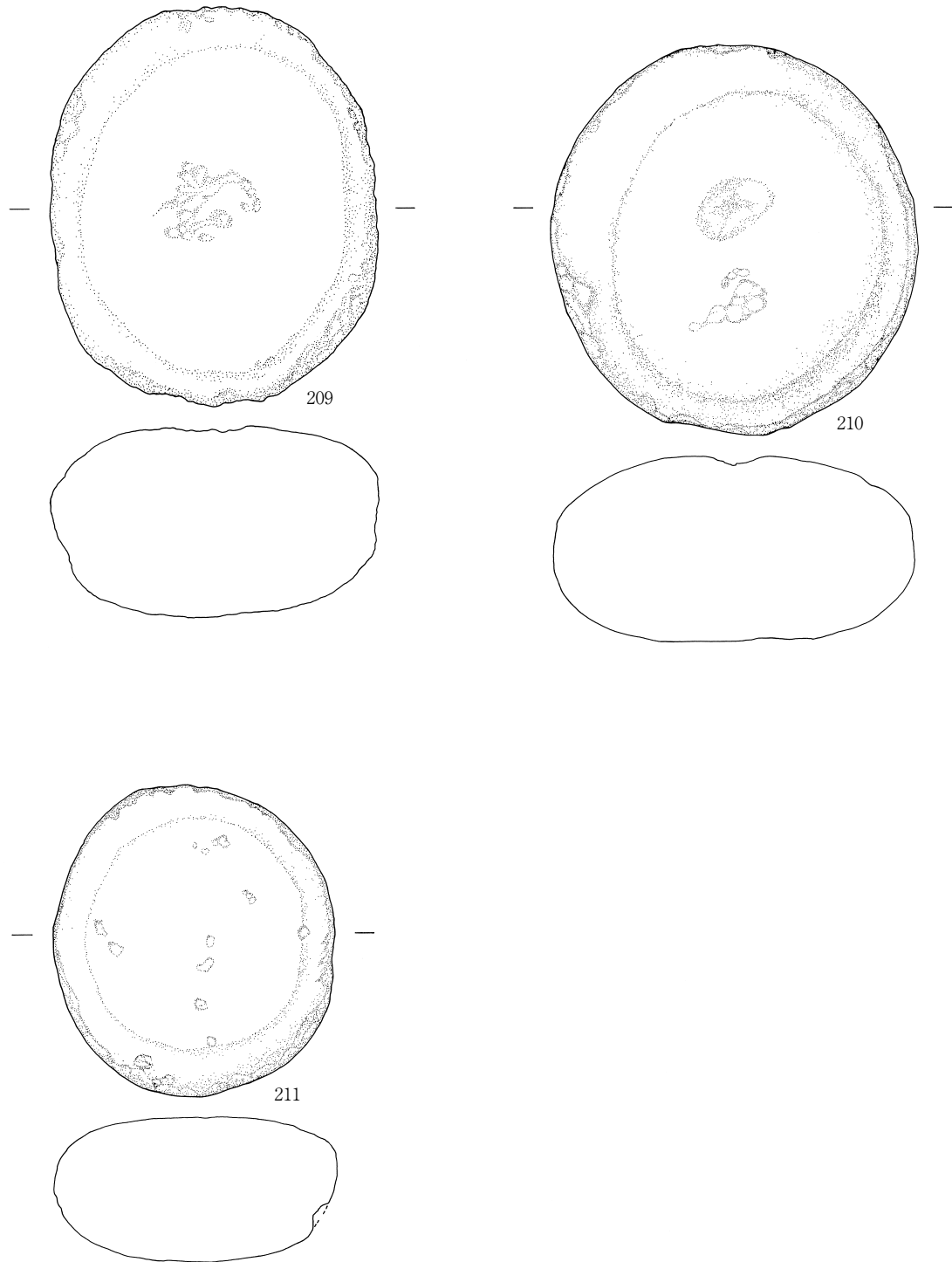


Fig.184 1F区出土遺物 24

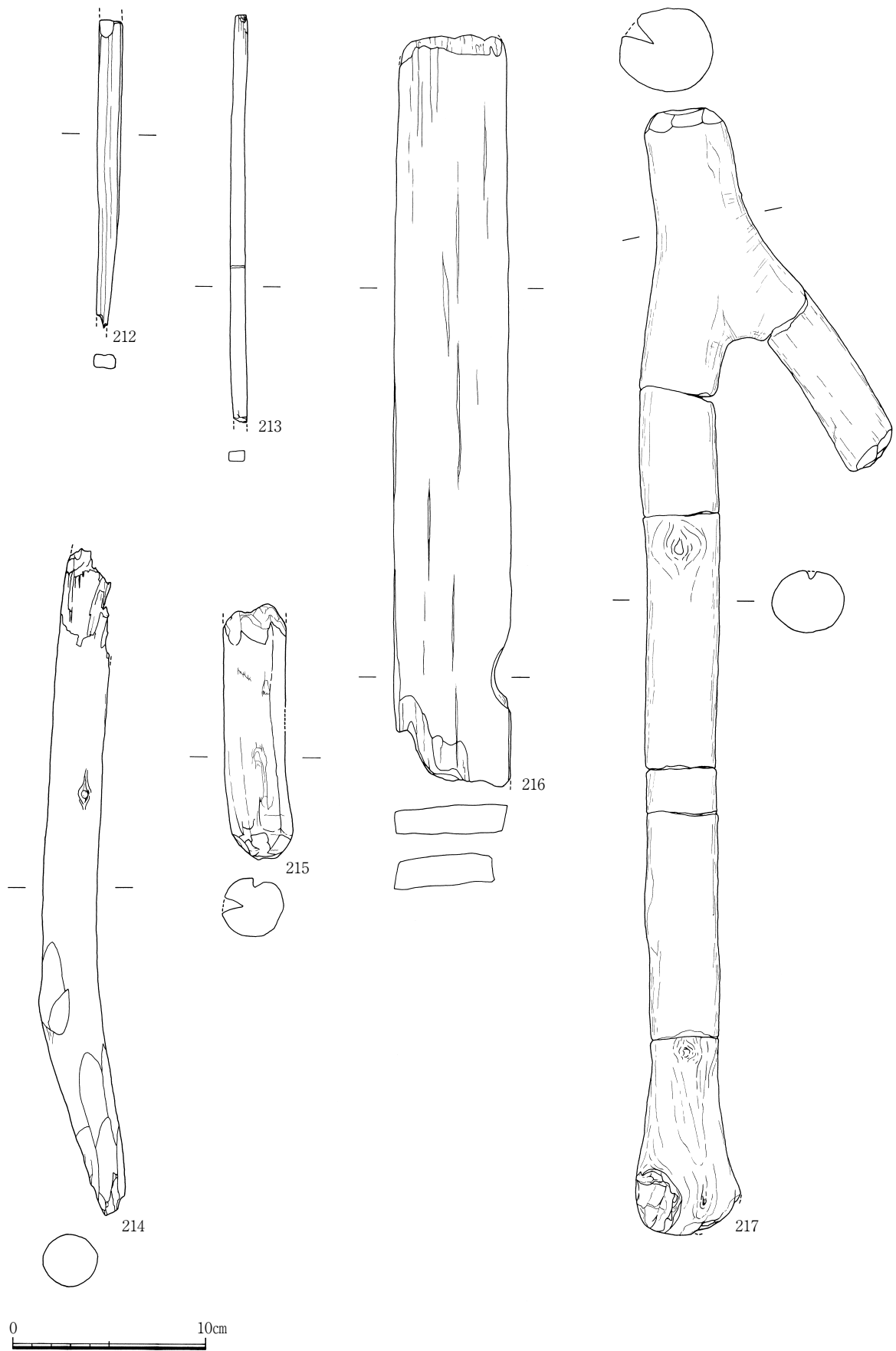


Fig.185 1F区出土遺物 25

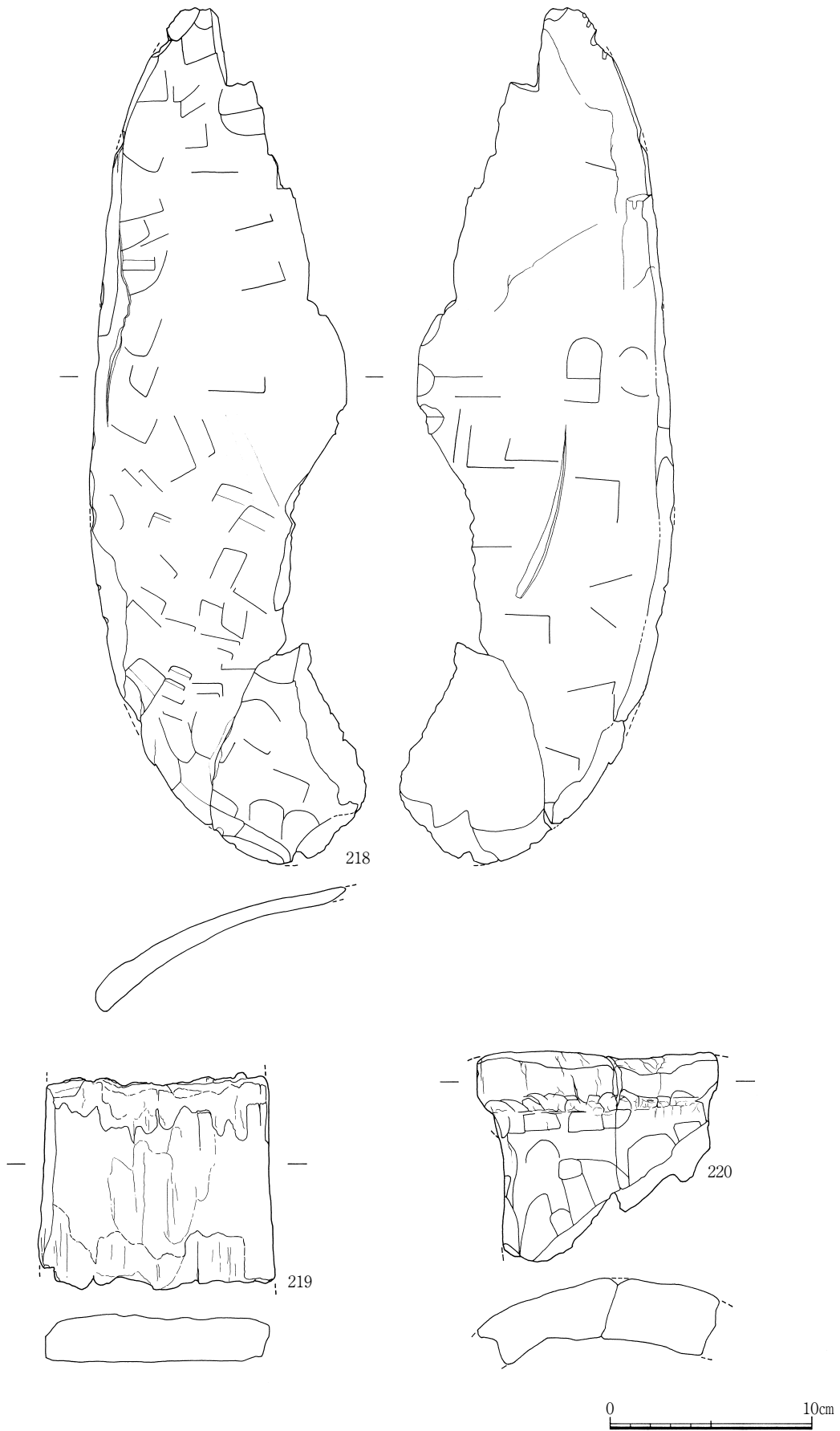


Fig.186 1F区出土遺物 26

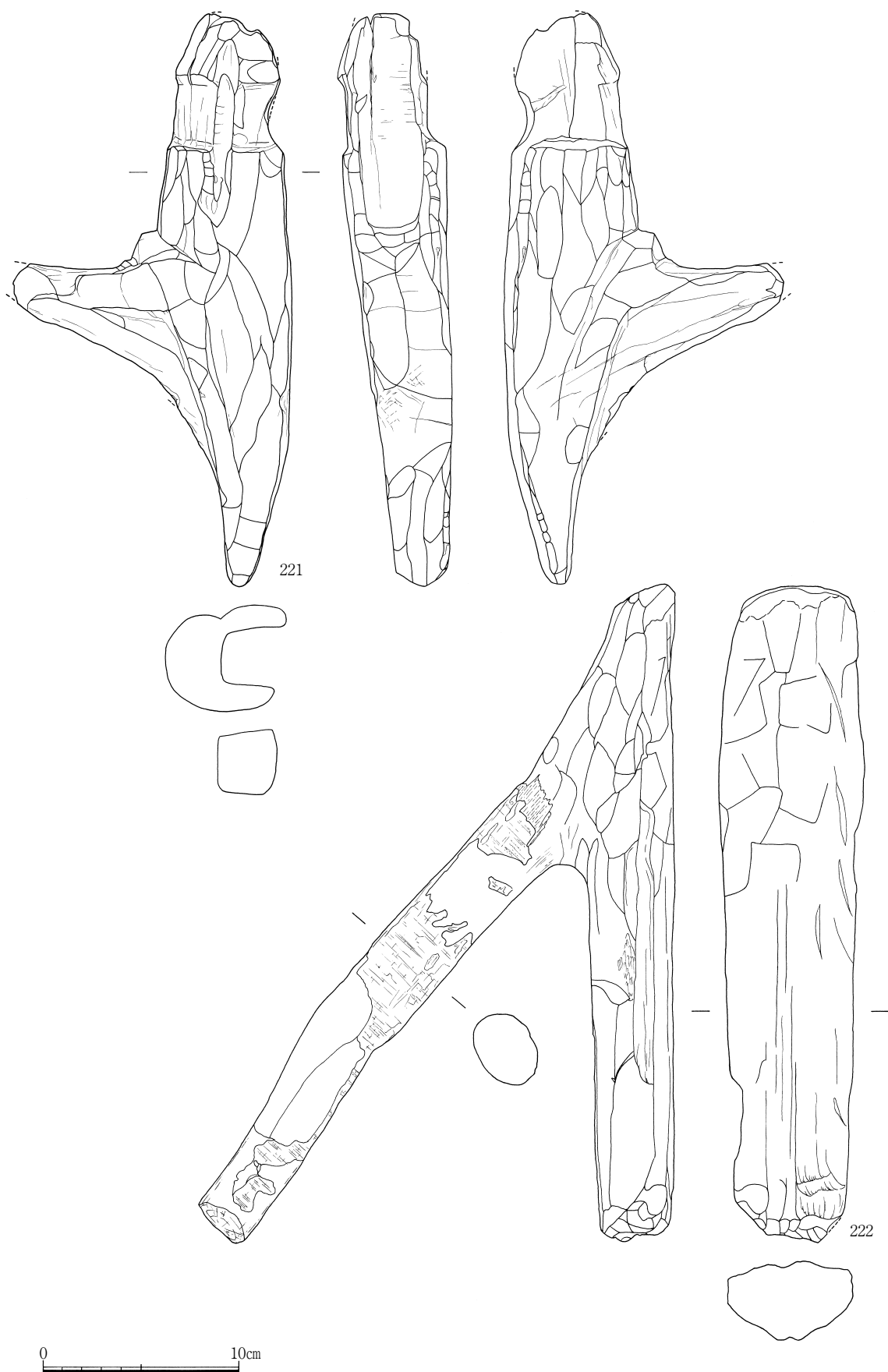


Fig.187 1F区出土遺物 27

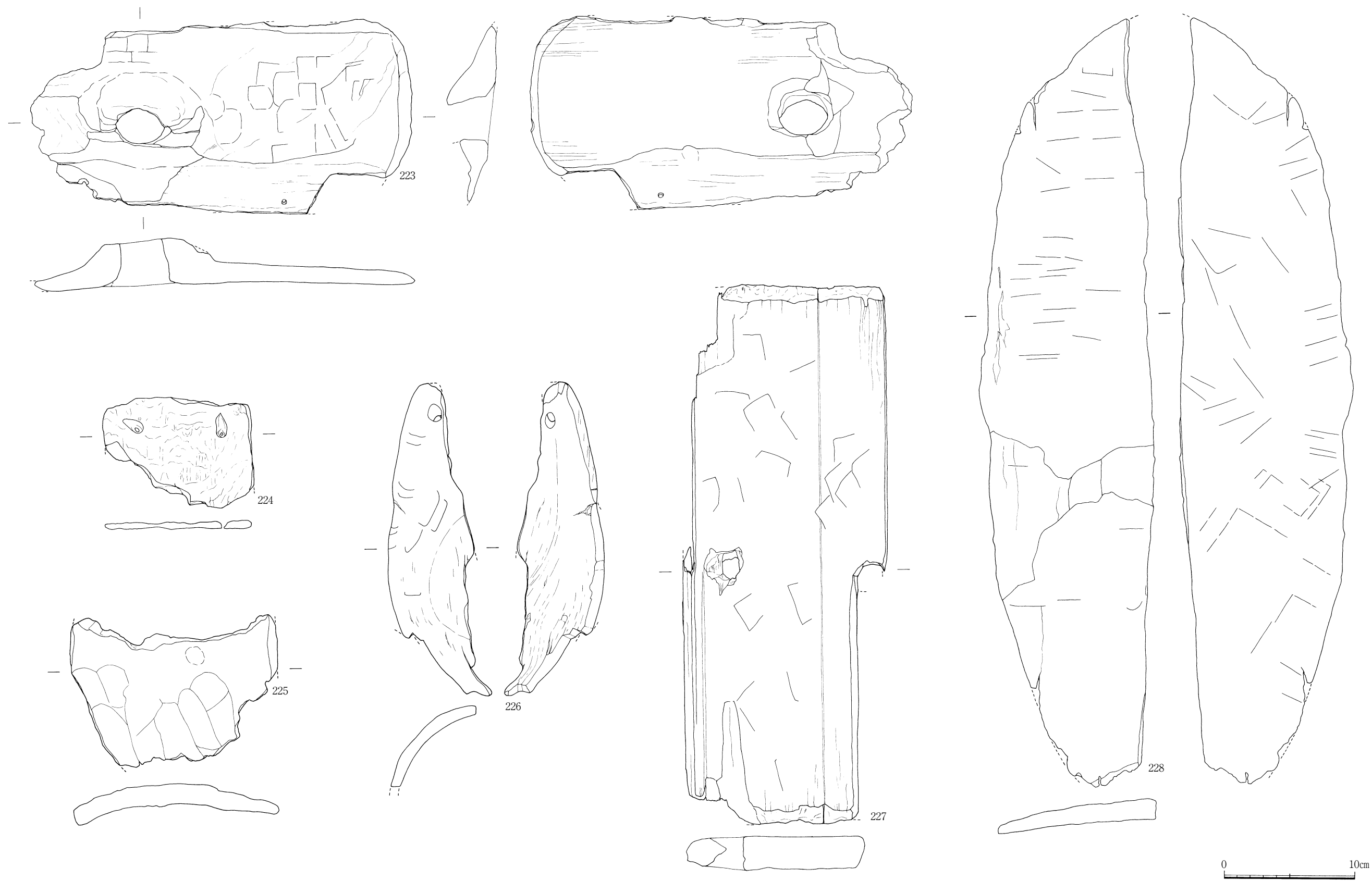


Fig.188 1F区出土遺物 28

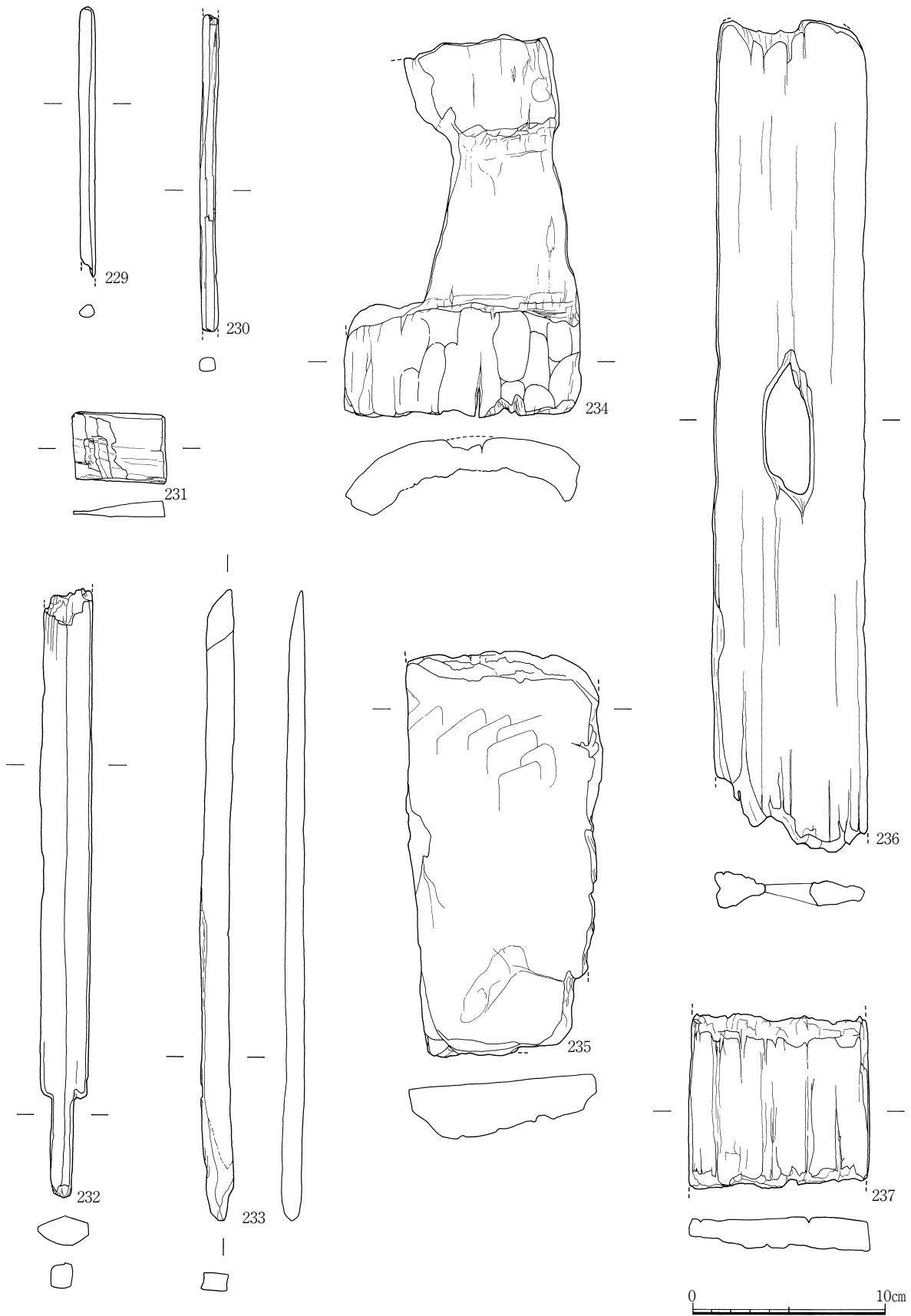


Fig.189 1F区出土遺物 29

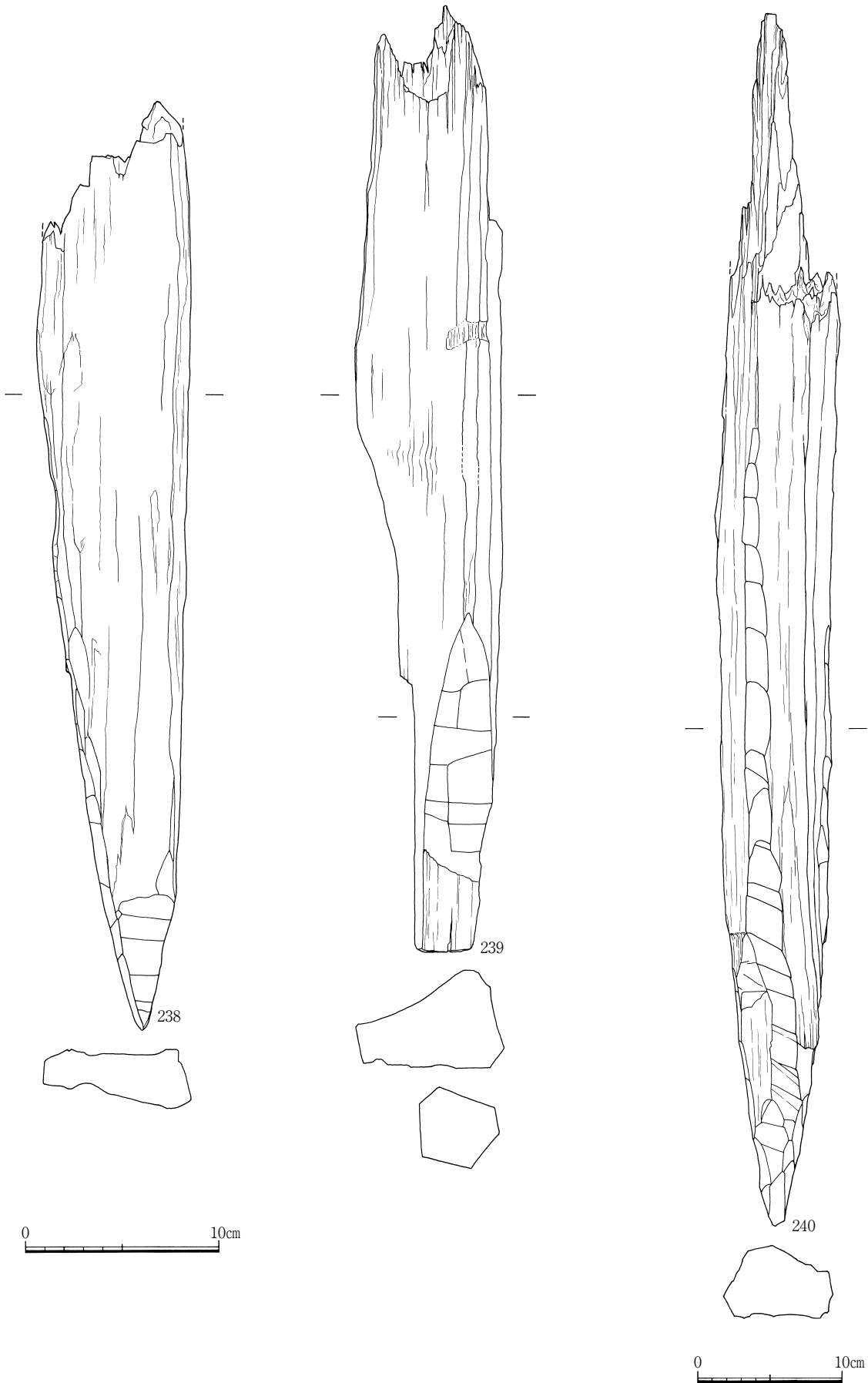


Fig.190 1F区出土遺物 30

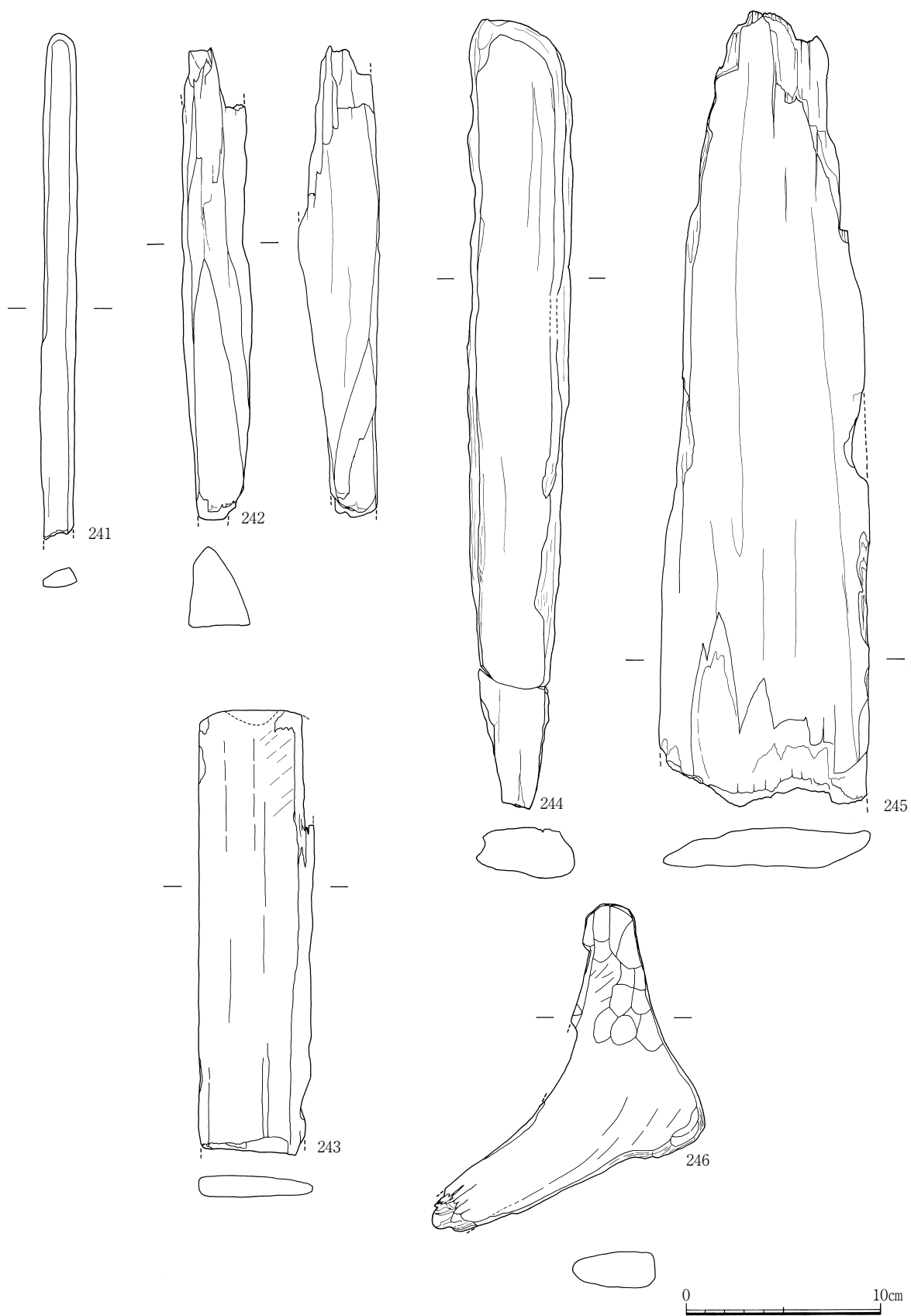


Fig.191 1F区出土遺物 31



Fig.192 1F区出土遺物 32

表26 1F区遺構計測表

Pit	グリッド	検出標高 (m)	規模 (cm)	深さ (cm)	平面形	出土土器点数	その他	fig.	出土遺物 Fig. -
P 1	B28-2	5.61	75 x 54	10	不整楕円形	深鉢1、甕1、口縁1、円盤1、 細片23		153 /	161 / 2
P 101	C27-17	6.19	45 x 36	25	楕円形	壺胴部2			
P 102	C27-20	7.09	23 x 15	27	楕円形				
P 201	B28-1	4.58	25 x 14	14	不整楕円形	胴部2 (深鉢1)	骨片を含む。		
P 202	B28-1	4.64	32 x 16	23	瓢箪形	深鉢1、胴部6、細片2	骨片、炭化物を含む。	153 /	161 / 1
P 203	A27-16	5.74	60 x 54	19	不整形	細片2		153	
P 204	A27-25	6.05	40 x 38	5	不整形				
P 205	A27-25	6.03	81 x 62	16	不整楕円形	転用円盤1		153	
P 206	B28-1	4.76	16 x 12	11	不整楕円形	胴部3 (条痕1)	木片を少し混入する。		
P 207	B28-1	4.67	30 x 24	11	不整形	胴部3	木片、腐植、骨片を含む。		
P 208	B28-1	4.55	26 x 14	13	瓢箪形	深鉢1、細片5 (条痕4)	木片、腐植、骨片を含む。	153 /	161 / 3
P 209 1	B28-7	3.98	82 x 76	34	不整楕円形?		堅果類堅果類 (イチガシ、シラカシ)、腐 植を含む。	153	
P 209 2	B28-7	4.00	160 x (100)	86	楕円形?	浅鉢1	堅果類 (イチガシ、シラカシ)、木片を多 く含む。		
P 209 3	B28-12	3.90	102 x 90	52	楕円形?		堅果類 (イチガシ、シラカシ)、木片を含 む。	154	
P 210	B28-12	4.00	94 x 68	80	楕円形	胴部2 (条痕2)	灰色粘土を間層に持つ。	154	
P 211	B28-7	4.10	44 x 32	25	楕円形		堅果類、腐植を多く含む。	154	
P 212	B28-1	4.54	15 x 12	4	楕円形				
P 213	B28-13	3.85	92 x 75	73	不整楕円形		堅果類堅果類 (イチガシ、シラカシ)、木 片、腐植を含む。灰色粘土を間層に持つ。	154	
P 214	B28-12	3.96	176 x (140)	85	不整楕円形?	胴部6 (条痕5)	灰色粘土を間層に持つ。堅果類 (イチガ シ、シラカシ、?)	155	
P 215	B28-12	3.93	128 x (110)	61	楕円形?	深鉢1	堅果類 (イチガシ、シラカシ)、木片、腐 植を含む。	155 /	161 / 4
P 216	B28-16	3.86	80 x 74	43	不整楕円形		腐植を含む。	155	
P 217	B28-1	4.60	47 x 30	22	不整形	口縁2 (深鉢1)、胴部19	堅果類 (イチガシ)、獣骨、木片、腐植を 含む。		
P 218	B28-6	4.39	23 x 16	10	楕円形	細片1 (条痕)	骨片、木片、腐植を含む。		
P 219	B28-17	3.80	68 x 56	40	楕円形		堅果類 (イチガシ、シラカシ)	155	
P 220	B28-17	3.85	138 x 114	85	楕円形	底部1	灰色粘土を間層に持つ。堅果類 (イチガ シ、シラカシ、?)	155 /	161 / 5
P 221	B28-1	4.43	22 x 8	12	不整楕円形				
P 222	B28-1	4.67	15 x 10	8	楕円形				
P 223	B28-12	3.95	72 x 60	75	不整形		灰色粘土を間層に持つ。堅果類 (イチガ シ、シラカシ)、木片を含む。	156	
P 224	B28-12	3.52	30 x (27)	22	円形?		堅果類 (イチガシ、シラカシ)	156	
P 225	B28-7	3.62	直径64	10	円形		堅果類 (シラカシ)	156	
P 226	B28-13	3.84	77 x 68	61	不整形		堅果類 (イチガシ、シラカシ)	156	
P 227	B28-13	3.80	56 x (20)	30			堅果類 (イチガシ、シラカシ)	156	
P 301	A27-25	6.29	127 x 97	36	不整楕円形			156	
P 302	A27-20	6.30	52 x 45	11	楕円形	細片1			

堅果類の樹種固定には(株)パレオ・ラボに委託した結果に基づき行った。

表27 1F区遺物観察表1

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径		底径	内面	外面		胎土
161	1	P 2 0 2 B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	38.8	[4.3]		口唇外押し込み、連続的。口縁外面断面三角形目突帯。横長楕円形押し込み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/2		
161	2	P 1 B28-2	弥生土器	甕	口縁		[1.7]		口唇斜位楕円形押し込み。浅く密。内外面ナデ。内面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	浅黄褐色 7.5YR8/4		
161	3	P 2 0 8 B28-1	縄文土器	深鉢	口縁		[3.1]		口縁外面断面薄鋸形目突帯。刺突風刻み。密。内面糸痕のちナデ。外面ナデ。外面煤付着。	オリープ黒色 5Y3/1	黒色 5Y2/1	灰白色 N7/		
161	4	P 2 1 5 B28-12	縄文土器	深鉢	口縁		[5.9]		波状口縁。波頂部は平坦。内外面糸痕のちナデ。外面煤付着。	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR6/4		
161	5	P 2 2 0	縄文土器	深鉢	底部		[2.2]	4.6	底部は高台状を呈し、深い凹面を成す。外面ナデ。内面煤付着。	暗灰色 N3/	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
162	6	A B28-1	縄文土器	壺	胴部		[31.3]	39.0	口縁下直径3 ⁵ / ₁₆ 円孔(貫通1、未貫通1)頸部下沈線状段部。胴部下位3個の直径4 ⁵ / ₁₆ 円孔(補修孔?)。内面ケズリのみナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y4/1	B・C・A 層及び1C区 層出土遺物と 接合。	
162	7	A B28-1	縄文土器	壺	口縁	9.8	[7.0]		口縁屈曲は急で短く外側に広がる。内面ナデ。外面ヘラミガキ。内外面口縁は強いナデ。	灰色 5Y4/1	オリープ黒色 5Y3/1	灰白色 7.5Y7/2		
162	8	A A28-5	縄文土器	壺	口縁	13.8	[3.2]		口縁屈曲は緩。内外面ヘラミガキ。内外面に黒漆?が付着。内面口縁赤色顔料。	黒色 10YR2/1	黒褐色 10YR3/1	褐色 7.5YR4/1		
162	9	A B28-1	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.3]		波状口縁。口縁は内側に肥厚。口縁内面2条の段部。内面ヘラミガキ。外面擦過、ナデ。内面赤色顔料。外面煤付着。	黒色 7.5YR2/1	黒色 7.5YR1.7/1	黒褐色 7.5YR3/1		
162	10	A B28-2	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.1]		波状口縁。波頂部に2箇所押し込み。口縁内面2条の沈線状段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。内面煤、赤色顔料付着。外面煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒色 2.5Y2/1	オリープ黒色 5Y3/1	B層出土遺物 と接合。	
162	11	A B28-1	縄文土器	浅鉢	口縁	6.0	[4.2]		口縁下に直径3-4 ⁵ / ₁₆ の円孔を穿つ。口縁と頸部に段。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰色 5Y4/1		
162	12	A B28-2	縄文土器	浅鉢	口縁	9.3	[10.3]	11.3	尖底?口縁屈曲は緩やか。胴部はやや急に曲がる。内面ヘラミガキ。体部ナデ。爪痕。外面ヘラミガキ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒色 2.5Y2/1	にぶい橙色 7.5YR6/4		
163	13	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	36.1	[27.7]	32.8	頸部下に調整に弱る弱り段部。内面糸痕のちナデ。外面口縁ナデ、胴部糸痕。内面一部と外面に煤付着。	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 N6/	A-2層出土遺 物と接合。	
163	14	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	26.0	[6.5]		口縁は短く開く。口縁端押し込み。密。内面糸痕のちナデ。外面糸痕?外面煤付着。	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 10Y6/1		
163	15	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	28.6	[7.4]		口唇端大きく、深い押し込み。やや密。内面ナデ。外面糸痕。内面一部と外面に煤付着。	暗黄褐色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰色 7.5Y5/1		
163	16	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁		[4.6]		波状口縁。口縁は丸く修め外側に肥厚する。口縁外面低い断面三角形目突帯。上位接合痕。押し込みの大きく、深い刻み。やや密。内外面ナデ。	暗灰色 N3/	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N4/		
163	17	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁		[2.9]		口唇外竹管に因る刺突刻み。口縁外面低い断面薄鋸形目突帯。竹管に因る刺突刻み。やや密。内外面ナデ。内外面一部煤付着。	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR5/1	灰色 N4/		
163	18	A B28-1	弥生土器	甕	口縁		[2.4]		口唇外横長楕円形押し込み。密。口縁外面低く幅広い断面三角形目突帯。大きく、深い押し込み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	褐色 7.5YR4/3	褐色 7.5YR4/3	灰色 N4/		
163	19	A B28-2	弥生土器	甕	口縁		[3.0]		口唇外横長楕円形押し込み。連続的。口縁外面断面三角形目突帯。横長楕円形押し込み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	黒色 7.5YR1.7/1	灰黄褐色 10YR5/2		
164	20	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	35.2	[22.1]	31.6	口唇外刺突風刻み。密。口縁外面と頸部下に断面薄鋸形目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。連続的。内面糸痕のちナデ。外面口縁ナデ。胴部糸痕。内外面一部煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	灰白色 5Y8/2	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰色 N4/	B・C層出土 遺物と接合。
164	21	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	50.8	[18.1]	41.2	口縁端押し込み。連続的。口縁外面と頸部下に断面三角形目突帯。大きく深い押し込み。密。内面ナデ。外面口縁ナデ、胴部ケズリ。内面一部煤付着。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒色 10YR2/1	褐色 10YR5/1		
165	22	A B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	33.8	[14.3]	29.2	口唇外横長楕円形押し込み。連続的。口縁外面断面三角形目突帯。横長楕円形押し込み。連続的。頸部下沈線状段部。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/3	黒褐色 7.5YR2/2	灰黄褐色 10YR5/2	B・C層出土 遺物と接合。	
165	23	A B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	30.8	[7.7]		口唇外半截竹管に因る刺突風刻み。やや密。口縁外面断面三角形目突帯。下位一部接合痕。半截竹管に因る刺突風刻み。大きく、深く、密。内外面ナデ。内外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	暗黄褐色 2.5Y5/2	灰黄色 2.5Y7/2		
165	24	A B28-1	縄文土器	深鉢	頸部		[13.0]		頸部下に段部。内面ナデ。外面頸部ナデ、胴部糸痕。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/2	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y6/1	A-1層出土遺 物と接合。	
166	25	B A28-5	縄文土器	壺	胴部		[6.4]		胴部上位に区画沈線、沈線紋。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	B層出土遺物 と接合。	
166	26	B B28-10	弥生土器	壺	口縁	13.6	[6.0]		口縁は緩く屈曲し、短く開く。内面上位ヘラミガキ。下位ナデ。外面ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR4/2	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR6/4		
166	27	B B28-10	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.5]		波状口縁。口縁内面2条沈線状段部。内面ヘラミガキ。外面ナデ。内面赤色顔料。外面煤付着。	オリープ黒色 5Y3/1	黒色 5Y2/1	灰色 5Y6/1		
166	28	B B28-10	縄文土器	浅鉢	胴部		[3.1]		口縁下に直径4 ⁵ / ₁₆ の円孔。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR4/1	褐色 10YR6/1		
166	29	B A28-5	縄文土器	浅鉢	口縁		[6.2]		口縁は屈曲し短く開く。屈曲部外面浅い2条沈線。内面口縁ヘラミガキ。体部ナデ。外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR6/4		
166	30	B B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	39.0	[7.9]		口縁は緩く外反する。内外面ナデ。内面煤付着。外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 10YR4/1	A層出土遺物 と接合。	
166	31	B A28-5	縄文土器	深鉢	口縁	26.0	[5.2]		口縁は外反し、端部は外側にやや肥厚する。内面ナデ。外面糸痕のちナデ?外面煤付着。	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	暗灰色 N3/	灰色 N4/	
166	32	B B27-21	縄文土器	深鉢	口縁		[4.9]		口縁は丸く修める。内外面糸痕。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	暗青灰色 5B4/1		
166	33	B B28-10	縄文土器	深鉢	口縁		[5.0]		口縁外低い断面三角形目突帯。縦細長楕円形押し込み。密。内外面ナデ。	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 10Y5/1		

表28 1F区遺物観察表2

Fig.-遺物	層	出土地点 遺構/グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考		
						口径	器高	胴径		内面	外面	胎土			
167	34	B	B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	33.2	[5.4]	口縁外面断面台形刻目突帯。原体(半截竹管?)に因る刺突風刻み。大きく密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰オリーブ色 5Y5/2	灰色 5Y5/1	灰色 10Y6/1			
167	35	B	A28-5	縄文土器	深鉢	口縁		[3.0]	口縁外面断面三角形刻目突帯。大きな押圧風刻み。密。内外面ナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2			
167	36	B	B27-22	縄文土器	深鉢	口縁	15.4	[2.2]	口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。上下接合痕。筋状刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰色 5Y4/1			
167	37	B	A28-5	弥生土器	甕	胴部		[5.7]	頸部下低い断面三角形刻目突帯。小さな筋状刻み。密。突帯上下各2条沈線。内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	灰白色 2.5Y7/1	灰色 5Y5/1			
167	38	B	B28-10	縄文土器	深鉢	口縁	26.7	[3.5]	口唇外押し刻み。連続的。口縁外面断面三角形刻目突帯。押し刻み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	橙色 5YR6/6	明褐色 7.5YR5/6	橙色 7.5YR7/6			
167	39	B	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁		[3.4]	口唇外刺突風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。刺突風刻み。やや疎。内外面ナデ。外面一部煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 10Y6/1			
167	40	B	A28-10	縄文土器	深鉢	口縁		[3.1]	口唇外筋状刻み。密。口縁外面小さな断面三角形刻目突帯。下位接合痕。幅細押し風刻み。密。内外面ナデ。	灰色 5Y4/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1			
167	41	B	B27-22	弥生土器	甕	口縁		[3.5]	口唇外押し刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。押し刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	浅黄色 2.5Y7/3	黒灰色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/2			
167	42	B	B27-22	縄文土器	浅鉢	底部		[0.9]	平底(凹面)。器壁薄。内面ナデ。中央は凹凸面。外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰色 N3/			
167	43	B	A28-5	縄文土器	土製円盤		全長 5.4	全幅 5.4	全厚 0.6	重量 20.6g	浅鉢破片転用。端部を部分的に研摩。	灰黄褐色 10YR5/2	黒色 2.5Y2/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	
167	44	B	B27-22	縄文土器	土製円盤		全長 2.5	全幅 2.7	全厚 0.7	重量 4.3g	深鉢破片転用。端部未研摩。	黒褐色 10YR3/2	黒色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	
167	45	B	B27-22	弥生土器	土製円盤		全長 5.3	全幅 6.6	全厚 1.1	重量 38.6g	壺破片転用。端部打痕。一部に粗な調整。	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 5Y4/1	
168	46	C	B28-7	縄文土器	壺	口縁	17.0	[4.0]	口縁は屈曲し、短く開く。屈曲部外面に断面U字の2条沈線。内面ナデ、口縁ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。内外面口縁赤色顔料付着。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3			
168	47	C	B28-1	縄文土器	壺	口縁	14.7	[3.8]	口縁は軽く屈曲し、短く開く。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。内外面口縁赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/2	暗灰色 N3/	にぶい赤褐色 5YR5/4			
168	48	C	B28-7	縄文土器	壺	口縁	17.4	[3.7]	口縁は屈曲し短く開く。内面口縁ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ。口縁ナデ?内外面赤色顔料付着。	黒褐色 10YR3/1	赤褐色 2.5YR4/6	にぶい黄褐色 10YR6/3			
168	49	C	B28-7	弥生土器	壺	口縁		[4.3]	口唇は平坦面を成す。内面ヘラミガキ。外面上位ナデ、下位ヘラミガキ。内外面顔料塗布。	にぶい黄褐色 10YR4/3	灰色 N4/	灰白色 2.5Y7/1			
168	50	C	B28-7	弥生土器	壺	口縁	27.6	[5.0]	口唇は広い面を成す。内面ヘラミガキ。外面上位ナデ、下位ミガキ。内外面赤色顔料。	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2			
168	51	C	B28-12	弥生土器	壺	口縁	26.2	[9.2]	口唇は面を成す。内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。外面ヘラミガキ、口縁ナデ。内面口縁赤色顔料付着。外面赤色顔料、一部煤付着。	赤色 10R5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	灰白色 2.5Y8/2			
168	52	C	B28-1	縄文土器	浅鉢	口縁	22.6	11.7	23.6	丸底。ボウル状を呈す。内外面ヘラミガキ。内面と外面の一部に赤色顔料付着。	赤褐色 10R5/4	黒色 N1.5/	灰黄色 2.5Y7/2		
168	53	C	B28-7	縄文土器	浅鉢	口縁	10.4	[5.5]	口縁部は内湾する。内面ナデ、押し痕。外面ヘラミガキ。内外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y5/1			
168	54	C	B28-6	縄文土器	浅鉢	口縁		[5.0]	口縁下に径3%の円-楕円孔(補修孔)。内外面ミガキ。	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	黄灰色 2.5Y7/2			
168	55	C	B28-6	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.8]	波状口縁。口縁内面2条沈線状段部。内外面ヘラミガキ。内外面煤付着。内面赤色顔料付着。	暗灰色 N3/	暗灰色 N3/	灰黄褐色 10YR4/2			
168	56	C	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁		[3.6]	口唇外押し風刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	褐灰色 7.5YR5/1	褐灰色 10YR5/1	灰色 N4/			
168	57	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁	19.2	[5.3]	口唇外小さな刺突風刻み。疎。内外面ナデ。外面煤付着。	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	黄灰色 2.5Y6/1			
169	58	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[3.7]	口唇外面断面蒲鉾形刻目突帯。下位接合痕。細身の押し風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰白色 2.5Y7/1	暗青灰色 10BG4/1			
169	59	C	B28-12	縄文土器	深鉢	口縁	16.0	[4.8]	波状口縁?口縁外面幅広い断面台形刻目突帯。上下接合痕。大きな押し刻み。連続的。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	灰褐色 7.5YR6/2	灰黄色 2.5Y6/2			
169	60	C	A28-10	縄文土器	深鉢	口縁		[5.0]	口縁外面断面台形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	暗灰色 N3/	灰色 5Y6/1			
169	61	C	B28-13	縄文土器	深鉢	口縁		[4.8]	口縁外低い断面蒲鉾形刻目突帯。上下に接合痕。刺突風刻み。密。内面ナデ。外面条痕のちナデ。外面一部煤付着。	暗灰色 N3/	灰色 N4/	灰色 N4/			
169	62	C	B28-12	縄文土器	深鉢	口縁		[5.1]	口縁外面断面三角形刻目突帯。大きな刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	暗灰黄色 5Y4/2	黒色 2.5Y2/1	灰色 N4/			
169	63	C	B28-6	縄文土器	深鉢	口縁		[6.1]	波状口縁。口縁外面断面三角形刻目突帯。D形押し風刻み。密。内外面ナデ。	オリーブ黒色 5Y3/1	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y5/1			
169	64	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[3.8]	口縁外面断面三角形刻目突帯。D形押し刻み。連続的。突帯下に直径8%の不貫通孔。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1	灰色 7.5Y5/1			
169	65	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[4.6]	口縁外低い断面蒲鉾形刻目突帯。上下接合痕。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	灰色 5Y5/1			
169	66	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[5.2]	口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。やや密。内面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰色 7.5Y5/1			
169	67	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁	12.2	[3.4]	口縁外面断面三角形刻目突帯。D形押し風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	灰色 10Y4/1			
169	68	C	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	30.8	[4.4]	口縁外面断面蒲鉾形刻目突帯。上下接合痕。細身筋状の刻み。連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	黒色 10YR2/1	灰色 N4/			

表29 1F区遺物観察表3

Fig.	遺物層	出土地点	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
169	69	C	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	24.8	[4.3]		口唇外断面三角形刻目突帯。上下接合痕。斜位筋状の刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y4/1	黒色 2.5Y2/1	灰白色 2.5Y7/1		
169	70	C	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	30.3	[6.4]		口唇外大きな縦長楕円形押圧刻み。密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。大きな刺突風刻み。密。内外面ナデ。内面一部煤付着。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	褐灰色 10YR4/1	灰色 5Y5/		
170	71	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[4.7]		口唇外やや小さな押圧風刻み。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。大きく、深い押圧風刻み。密。内面ナデ。外面上位ナデ、下位条痕。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR7/3		
170	72	C	B28-8	縄文土器	深鉢	口縁		[4.0]		口唇外浅い押圧刻み。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。上位一部接合痕。D形押圧刻み。大きく、連続的。内外面ナデ。内面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	黒色 N2/	黄灰色 2.5Y4/1		
170	73	C	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[4.8]		口唇外小さな刺突風刻み。口縁外面断面三角形刻目突帯。上下位接合痕。大きく、深い刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒色 10YR2/1	黄灰色 2.5Y5/1		
170	74	C	B28-1	縄文土器	深鉢	口縁		[4.1]		口唇外刺突風刻み。密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。大きな刺突風刻み。密。内面ナデ。外面条痕のちナデ。	黒色 7.5Y2/1	灰黄色 2.5Y7/2	灰色 N4/		
170	75	C	B28-13	縄文土器	深鉢	口縁		[3.1]		口唇外浅い押圧刻み。連続的。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。大きな押圧刻み。連続的。内面ナデ。外面上位ナデ、下位条痕。外面煤付着。	暗灰色 N3/	黒色 N2/	灰白色 5Y7/1		
170	76	C	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁		[4.1]		口唇外を原状(半截竹管?)に因り刺突風に刻む。密。口縁外面断面三角形刻目突帯。大きく、深い、刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰色 5Y4/1	オリーブ黒色 5Y3/1	灰色 5Y6/1		
170	77	C	B28-6	縄文土器	深鉢	口縁		[4.9]		口唇外米粒状の刺突風刻み。やや密。口縁外面低い断面三角形刻目突帯。米粒状の刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。内外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1		
170	78	C	B28-12	縄文土器	深鉢	底部		[2.6]	7.4	高台状底部(深い凹面)。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/1		
170	79	C	B28-6	縄文土器	浅鉢	底部		[1.3]	7.0	平底。内外面ナデ。内外面煤付着。	黒褐色 10YR3/2	黒褐色 10YR3/2	褐灰色 7.5YR6/1		
170	80	C	B28-6	縄文土器	浅鉢	底部		[2.5]	7.4	平底(凹面)。内面ナデ。外面条痕。内面と外面一部に煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黒色 5Y2/1	褐灰色 7.5YR4/1		
170	81	C	B30-22	縄文土器	浅鉢	底部		[4.0]	7.8	平底。内面ヘラミガキ。外面条痕のちナデ、上位は擦過。内外面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰色 5Y4/1		
170	82	C	B28-8	縄文土器	土製円盤		全長 2.6	全幅 3.0	全厚 0.8	重量 5.7g	成形痕。端部未研磨。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	灰黄色 2.5Y7/2	
170	83	C	A28-5	縄文土器	土製円盤		全長 4.9	全幅 4.2	全厚 0.5	重量 12.6g	浅鉢底部転用?端部磨滅。	暗灰黄色 10YR4/2	黒色 10YR2/1	黄灰色 2.5Y6/1	
170	84	C	B28-7	縄文土器	土製円盤		全長 4.2	全幅 4.6	全厚 0.8	重量 13.6g	深鉢体部転用。端部未研磨。	黒色 2.5Y2/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰色 7.5Y4/1	
170	85	C	B28-7	縄文土器	土製円盤		全長 5.2	全幅 5.3	全厚 0.9	重量 25.5g	浅鉢体部転用。端部研磨。	オリーブ黒色 5Y3/1	黒色 5Y2/1	黒褐色 10YR3/1	
171	86	A	B28-6	弥生土器	壺	口縁	61.4	[14.3]		口縁外面に粘土帯貼付。肥厚する。口唇は平坦面。内外面ヘラミガキ。外面一部ナデ、押圧痕。	黄褐色 2.5Y5/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰白色 2.5Y8/2		
171	87	A	B28-6	弥生土器	壺	口縁	18.0	[5.1]		断面台形刻目突帯。米粒状の刺突による刻み。密。内面ナデ、口唇一部ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。外面一部煤付着。	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2		
171	88	A	B28-11	弥生土器	壺	胴部	12.6	25.3		沈線状の浅い段部。内面上位ナデ、下位ハケ。外面横ヘラミガキ。外面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR4/2	浅黄褐色 10YR8/3		
171	89	A	B28-7	弥生土器	壺	胴・底部		[5.1]	10.0	丸底?7条沈線。中心点を持つ木葉紋。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	黄灰色 2.5Y6/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y6/1		
171	90	A	B28-6	弥生土器	壺	胴部		[5.0]		沈線帯、断面U字、幅広、浅い。断面台形刻目突帯。楕円形の刻みは押圧に因り、小さく、浅い。密。木葉紋?内面ナデ。外面ヘラミガキ。内外面一部煤付着。	黒褐色 2.5Y3/2	灰黄褐色 10YR4/2	灰白色 10YR8/2		
171	91	A	B28-2	縄文土器	壺	胴体部		[3.2]		断面三角形の隆帯(高さ4.5~8.5 ⁵)による方形区画?区内沈線状。内面ケズリ、外面ヘラミガキ。	褐灰色 10YR4/1	褐色 2.5YR7/8	灰黄色 2.5Y7/2		
172	92	A	B28-1	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.2]		波状口縁?口唇は部分的に平坦。内外面ヘラミガキ。内外面一部煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	褐灰色 10YR6/1		
172	93	A	A28-10	縄文土器	浅鉢	口縁		[3.8]		波状口縁。口縁は鈎状に短く屈曲。内面口縁2条沈線。内面ヘラミガキ(内面は丁寧)。	黒色 10YR2/1	黒色 10YR2/1	黒褐色 10YR3/1		
172	94	A	B28-6	縄文土器	浅鉢	口縁		[6.0]		波状口縁。波頂部に3箇所押圧による刻み。内面波頂部から延びる2条の沈線。内外面ヘラミガキ(内面が丁寧)。	にぶい褐色 5YR7/4	褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3		
172	95	A	B28-7	弥生土器	鉢	口縁	15.8	[4.3]		口縁は鈎状に短く開く。内外面ヘラミガキ。口縁外面に押圧痕。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR6/3		
172	96	A	B28-6	弥生土器	鉢?	口縁		[1.6]		口唇は丸く修める。内外面ヘラミガキ。	褐灰色 7.5YR4/1	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰色 N4/	蓋?	
172	97	A	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁		[3.9]		口縁外面断面三角形突帯。下位接合痕。無刻み。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	褐灰色 10YR4/1	暗灰色 N3/		
172	98	A	B28-6	縄文土器	深鉢	口縁		[2.4]		波状口縁?口唇外D形押圧風刻み。浅く、密。内外面ナデ。	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1	灰色 N4/		
172	99	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁	20.8	[8.5]		口縁は短く屈曲し短く開く。口唇断面に円形、楕円形の押圧刻み、やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰白色 10YR8/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/1		
172	100	A	B28-7	弥生土器	甕	口縁	18.6	[6.0]	18.0	口唇外D形押圧風刻み。密。内面ナデ、押圧痕。外面丁寧なナデ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y7/2	黒色 2.5Y2/1	灰色 N6/		
172	101	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁	17.4	[7.0]	16.0	口唇断面円・楕円形押圧刻み。密。内面ハケのちナデ、押圧痕。外面胴部ハケ、頸部ナデ。内外面一部煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	B層出土遺物と接合。	
172	102	A	B28-7	弥生土器	甕	口縁	17.6	[2.7]		口唇外低い断面楕円形刻目突帯。刻みはD形の押圧風、やや大きく、浅く、密。内外面ナデ。外面煤付着。	灰白色 5Y7/2	にぶい黄褐色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2		
172	103	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁		[7.7]		口唇外縦長楕円形の押圧風刻み。刻みはやや大きく、やや深く、連続的。内外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR5/1		

表30 1F区遺物観察表4

Fig. - 遺物	層	遺構 / グリッド	出土地点	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
173	104	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁	[3.8]				口唇外2単位の縦長楕円形刻み(半截竹管?)、連続的。内面糸痕のちナデ? 外面ナデ。	暗灰黄色 2.5Y5/2 黒色 5Y2/1	灰黄色 2.5Y6/2	黒褐色 2.5Y3/1	
173	105	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁	[5.0]				口唇外粘土帯貼付? D形押圧風刻み。口縁下段部縦長楕円形刻み突風刻み、密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR3/7	にぶい橙色 7.5Y6/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	A-3層出土遺物と接合。
173	106	A	B28-6	弥生土器	甕	口縁	21.4	[3.2]			口唇端部横長楕円形押圧刻み、やや疎。口縁下に段部。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい橙色 5YR6/4	黒褐色 5YR2/1 にぶい橙色 5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	
173	107	A	B28-7	弥生土器	甕	口縁	27.4	[5.4]			口唇外縦長楕円形の押圧風刻み。刻みはやや大きく、深く、密。頸部下3条へろ描き沈線。断面1字で細く、やや深し。内面ナデ、へろ圧痕。外面口縁ナデ、胴部ハケ。	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 2.5B8/2	B層出土遺物と接合。
173	108	A	B28-2	弥生土器	甕	口縁	24.8	[20.8]	25.4		口唇外縦長楕円形の押圧風刻み、連続的。内面ナデ、ナデ痕、押圧痕。外面へろナデ。内外面煤付着。	明褐色 7.5YR7/2	灰褐色 5YR6/2	灰白色 7.5YR8/1	
174	109	A	B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	[3.2]				口縁外面低く幅広い断面三角形刻目突帯、D形押圧風刻み、密。内外面ナデ。	褐色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR4/2	灰色 5Y6/1	
174	110	A	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]				縦紋2条断面三角形刻目突帯、細目切裂状刻み、沈線紋(木葉紋?)。内外面ナデ。外面一部煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N4/	
174	111	A	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	[2.8]				口唇外押圧風刻み。やや密。口縁外面断面台形刻目突帯。上下接合痕。押圧風刻み。やや密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	黒色 2.5Y2/1	浅黄褐色 7.5YR8/3	
174	112	A	B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	[2.9]				口唇外押圧刻み。密。口縁外面に低い2条刻目突帯。縦長楕円形押圧刻み。密。内外面ナデ(外面は丁寧)。外面一部煤付着。	褐色 10YR5/1	灰黄褐色 10YR5/2	褐色 10YR4/1	
174	113	A	B28-1	縄文土器	深鉢	口縁	[3.9]				口唇外刻み突風刻み。やや密。口縁外面に断面三角形(垂下)刻目突帯。下位接合痕。刺突風刻み。やや密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 5Y5/1	
174	114	A	B28-2	縄文土器	深鉢	口縁	[4.0]				口唇外D形押圧風刻み。やや密。口縁外面断面三角形刻目突帯。下位接合痕。D形押圧刻み。密。内面ナデ。外面糸痕。	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	暗青褐色 10B64/1	
174	115	A	A28-10	縄文土器	深鉢	口縁	[3.5]				口唇外D形の押圧刻み。小さく、浅く、やや密。断面三角形刻目突帯。上下接合痕。小さく、浅い押圧刻み。内外面ナデ。外面一部煤付着。	暗灰色 N3/	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR3/1	
174	116	A	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁	[5.7]				口唇外刺突風刻み、密。断面三角形刻目突帯。刻みは押圧に因り形態は不同。突帯下位2条へろ圧痕。不連続な突帯間隙に細い刻み数条。内面糸痕。外面ナデ。外面煤付着。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/2	黄灰色 2.5Y5/1	
174	117	A	B28-11	縄文土器	深鉢	口縁	[3.7]				口唇は平らで外側に肥厚する。口唇外D形の押圧刻み。密。やや低い断面三角形刻目突帯、D形押圧刻み。連続的。内面へろナデ。外面ナデ。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y5/1	黒色 7.5Y2/1	灰黄色 2.5Y7/2	
174	118	A	B28-2	弥生土器	壺	底部	[4.8]		9.8		平底。外底面楕円形の押圧痕。外面へろミガキ。外面帯状に煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	
174	119	A	B28-2	弥生土器	壺	底部	[4.8]		12.2		平底。内面ナデ。外面ナデ、へろミガキ。外面赤色顔料、煤付着。	灰白色 10YR8/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/1	
174	120	A	B28-1	縄文土器	浅鉢	底部	[2.9]		7.0		平底(凹面)。内面ナデのちミガキ。外面ナデ? 外面一部煤付着。	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR4/2	褐色 7.5YR5/1	
174	121	A	B28-11	弥生土器	鉢	底部	[3.7]		7.4		平底。内外面へろミガキ、ナデ。内面煤付着。	黒褐色 10YR3/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR4/2	
174	122	A	B28-6	縄文土器	深鉢	底部	[2.2]		8.0		平底。内外面ナデ。内面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y4/1	
174	123	A	B28-6	縄文土器	深鉢	底部	[5.0]		9.2		平底。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。内面煤付着。	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	灰色 N4/	
174	124	A	B28-2	弥生土器	甕	底部	[4.0]		5.9		平底。底部端は外側に張出す。外面ナデ。	褐色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	褐色 10YR4/1	
174	125	A	B28-7	弥生土器	甕	底部	[3.5]		8.0		平底。内外面へろナデ。外底面へろ痕。外面一部煤付着。	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 5YR6/4	
174	126	A	B28-2	弥生土器	甕	底部	[3.9]		7.4		平底。内面ナデ。外面ハケのちへろナデ。内面一部煤付着。	にぶい褐色 5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	
174	127	A	B28-6	弥生土器	甕	底部	[12.1]	17.7	7.2		平底。内面ナデ。外面へろミガキ。外面煤付着(一部はタール状)。	灰白色 10YR8/2	暗灰色 N3/	黒褐色 2.5Y3/1	A-3層出土遺物と接合。
174	128	A	B28-7	弥生土器	甕	底部	[3.5]		12.0		平底。底部端は外側に張出す。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/	
174	129	A	B28-6	弥生土器	甕	底部	[5.1]		9.4		平底。底部端は外側に張出す。内外面ナデ。外面低位に押圧痕。内面と外底面に煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 2.5YR6/8	
174	130	A	B28-6	弥生土器	甕	底部	[6.2]		10.4		平底。内面ナデ、へろナデ。外面ハケ、底部へろミガキ? 内面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	褐色 10YR6/1	
175	131	A	A27-25	縄文土器	土製円盤		全長 6.3 全幅 7.2 全厚 1.0 重量 37.4g				転用品。端部調整、未研磨。	黒色 5Y2/1	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y5/1	
175	132	A	A27-25		土製円盤		全長 [3.3] 全幅 3.4 全厚 1.1 重量 [9.6]g				深鉢転用品。楕円形。端部磨減。	にぶい黄褐色 10YR7/3	黒褐色 2.5Y3/2	黒褐色 7.5YR3/1	
175	133	A	B28-6		土製円盤		全長 5.8 全幅 6.0 全厚 0.9 重量 25.4g				深鉢転用品。端部調整、未研磨。	褐色 10YR6/1	灰白色 10YR7/1	灰色 N4/	
175	134	A	B28-1		土製円盤		全長 2.3 全幅 2.7 全厚 0.6 重量 3.9g				転用品。楕円形。端部磨減。	褐色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N4/	
175	135	A	B28-2	弥生土器	土製円盤	胴体部	全長 3.1 全幅 3.5 全厚 [0.7] 重量 [7.9]g				転用品。端部調整、未研磨。	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	
175	136	A	B28-2		土製円盤		全長 3.5 全幅 3.7 全厚 0.6 重量 8.8g				壺転用品。端部調整、未研磨。	黒色 2.5Y2/1	灰白色 2.5Y8/2	灰色 N5/	
175	137	A	A27-25		土製円盤		全長 3.0 全幅 3.5 全厚 1.0 重量 9.1g				深鉢転用品。端部調整、未研磨。	褐色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	

表31 1F区遺物観察表5

Fig. - 遺物	層	出土地点 遺構/グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
175	138	A	B28-7	土製円盤	全長 [3.5]	全幅 [2.7]	全厚 0.8	重量 [6.5]g	転用品。楕円形。端部未研磨。	にぶい橙色 5YR6/3	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい橙色 5YR6/4		
175	139	A	B28-6	土製円盤	全長 4.5	全幅 [3.0]	全厚 1.0	重量 [14.7]g	壺脚部転用品。端部調整、未研磨。	にぶい橙色 5YR6/3	にぶい赤褐色 5YR5/3	灰褐色 7.5YR5/2		
175	140	A	B28-6	土製円盤	全長 4.1	全幅 [3.6]	全厚 1.0	重量 [11.7]g	転用品。楕円形?一部の端を丸く仕上げ。	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/5	浅黄褐色 7.5YR8/5		
175	141	A	B28-7	土製円盤?	全長 5.9	全幅 [5.2]	全厚 0.7	重量 [23.2]g	転用品。端部調整、未研磨。	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	明褐色 7.5YR7/2		
176	142	A	B28-7	縄文土器 土製円盤?	全長 12.8	全幅 9.6	全厚 1.5	重量 68.2g	端部調整、未研磨。	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/1		
176	143	A-1	B28-6	縄文土器 浅鉢	口縁	[2.7]			口縁は鐮状に外反。口唇は丸く修める。内外面ヘラミガキ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1		
176	144	A-1	B28-2	縄文土器 深鉢	口縁	[4.6]			口縁外面低い断面三角形刻目突帯。浅い刺突風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黒褐色 10YR3/1	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3		
176	145	A-1	B28-1	縄文土器 浅鉢	底部	[5.2]	6.7		平底(凹面)。体部は大きく広がる。内外面ヘラミガキ。外面煤付着。	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	褐灰色 10YR4/1		
176	146	A-1	B28-1	縄文土器 深鉢	底部	[1.9]	9.1		平底(凹面)。底部端は外側に張出す。内外面ナデ。内面煤付着。	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	褐灰色 10YR5/1		
176	147	A-2	B28-6	縄文土器 浅鉢	口縁	[6.2]			波状口縁。口縁は鐮状に短く開く。口唇は平坦面。内外面ヘラミガキ。	オリーブ黒色 5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1		
176	148	A-2	B28-1	縄文土器 深鉢	口縁	14.2	[3.2]		口縁外面断面三角形(垂下)刻目突帯。やや小さい押圧風刻み。内外面ナデ。内外面一部煤付着。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR5/3		
176	149	A-2	B28-6	弥生土器 甕	口縁	20.6	[6.1]		口唇外縦長楕円形押圧刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	浅黄褐色 2.5Y7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1		
176	150	A-2	B28-1	縄文土器 深鉢	底部	[3.4]	6.8		平底(凹面)。底部端は粘土は張出す。内外面ナデ(内面は丁寧)。外面一部煤付着。	暗黄褐色 2.5Y5/2	暗黄褐色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y6/1		
176	151	A-3	B28-6	縄文土器 深鉢	口縁	[2.5]			波状口縁。口唇外縦長楕円形押圧風刻み。内外面ナデ。外面煤付着。	灰褐色 7.5YR4/2	黒色 N2/	にぶい褐色 7.5YR6/3		
176	152	A-3	B28-6	弥生土器 甕	口縁	[4.2]			口唇外押圧風刻み。大きく、やや密。口縁下段部に米粒状押圧風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	黄灰色 2.5Y7/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰白色 2.5Y8/2		
176	153	A-3	B28-6	弥生土器 甕	口縁	26.5	[7.7]		口唇外D形押圧風刻み。小さく、密。内外面ナデ。外面一部煤付着。	暗黄褐色 2.5YR5/2	灰黄色 2.5YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
176	154	A-3	B28-6	弥生土器 甕	口縁	25.8	[7.3]	25.1	口唇は面を成す。口唇外小さい押圧風刻み。密。内外面ナデ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰黄色 2.5YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
177	155	A-3	B28-6	弥生土器 甕	口縁	20.0	21.4	20.6	7.6	口唇は丸く修める。口唇端楕円形。D形押圧刻み。密。内外面ナデ。内面一部、外面中心部に煤付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR3/2	褐灰色 7.5YR6/1	
177	156	A-3	B28-6	弥生土器 壺	底部	[4.7]	10.5		平底(凹面)。内面ナデ。外面ヘラミガキ、ケズリ痕。内外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5Y6/3	黄灰色 2.5Y6/1		
177	157	A-3	B28-6	弥生土器 甕	底部	[3.7]	5.8		平底。内外面ナデ。外面低位に押圧痕。	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/2		
177	158	A-3	B28-6	弥生土器 甕	底部	[6.0]	8.8		平底(凹面)。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/2		
178	159	B	B28-7	弥生土器 壺	口縁	15.2	[11.0]		口縁と頸部下に断面台形刻目突帯。横長楕円形上下2列の刺突風刻み。密。内面八ヶのちナデ、ミガキ。外面八ヶのちミガキ。内外面煤付着。	灰赤色 10R6/2	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3		
178	160	B	B28-7	弥生土器 壺	胴部	[7.2]			縦横の区画沈線。有軸木葉紋。内面ナデ。外面ナデ?外面一部煤付着。	灰白色 7.5YR8/2	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 N6/		
178	161	B	B28-7	弥生土器 壺	胴部	[3.7]			沈線紋。刺突紋。内面ナデ。外面ヘラミガキ。外面煤付着。	灰白色 2.5Y7/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	黄灰色 2.5Y6/1		
178	162	B	A28-10	弥生土器 壺	胴部	[3.3]			綾杉紋。5条の横位と縦位の区画沈線。内面ナデ。外面ヘラミガキ。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰白色 10YR8/2		
178	163	B	B28-7	縄文土器 浅鉢	口縁	15.6	[2.5]		口唇は太く丸く修める。内外面ヘラミガキ。内面煤付着。	褐灰色 10YR4/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 2.5Y3/1		
178	164	B	B28-7	弥生土器 甕	口縁	[2.0]			波状口縁。口唇外筋状に小さく刻む。密。断面三角形刻目突帯。上位接合痕。刻みは筋状でやや大きく、密。内外面ナデ。外面一部に煤付着。	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/3		
178	165	B	A28-10	弥生土器 甕	口縁	16.8	[5.7]	15.8	口唇端横長楕円形の押圧刻み。粘土が外側に垂下する。連続的。内外面八ヶのちナデ。内外面煤付着。	黒褐色 7.5YR3/1	黒褐色 10YR3/1	褐灰色 10YR4/1		
178	166	B	B28-7	弥生土器 甕	口縁	20.4	[7.2]	19.1	口唇端縦長楕円形押圧風刻み。密。頸部下2条沈線。幅広く、深い。内外面ナデ。外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 2.5Y8/1		
178	167	B	B28-6	弥生土器 甕	口縁	25.2	[9.3]		口唇外押圧風刻み。密。頸部下2条へラ描き沈線。細く、浅い。内面ナデ。外面ナデ、押圧痕。内外面煤付着。	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3		
179	168	B	B28-7	弥生土器 甕	口縁	22.0	[9.7]	20.1	口唇端押圧風刻み。小さく、やや密。頸部に2条沈線を用いた削出し刻目突帯。刻みは横長楕円形。密。沈線は断面J字で幅広。内面口縁八ヶ、胴部ナデ。外面八ヶのちナデ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 7.5YR4/1		
179	169	B	B28-7	弥生土器 甕	口縁	32.0	[13.2]	34.0	口唇へラ状原体による外押圧刻み。密。頸部下に1条沈線と上下に刺突列。沈線は断面V字で太く、刺突は楕円形を呈し、密。内面口縁八ヶ、胴部ナデ。外面八ヶ。内外面口縁の一部に煤付着。	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y8/1		

表32 1F区遺物観察表6

Fig. - 遺物		層	出土地点 遺構 / グリッド	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
口径	器高						胴径	底径	内面	外面		胎土			
179	170	B	A28-10	弥生土器	壺	底部	[3.1]		8.4	平底。内面ナデ。外面ナデのちへらミガキ。外面煤付着。	灰白色 2.5Y8/2	暗灰色 N3/	灰白色 2.5Y8/1		
179	171	B	B28-7	弥生土器	甕	底部	[2.9]		7.4	平底。端部は外側に張出す。内面ナデ。外面ハケ。外面一部煤付着。	浅黄褐色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3		
179	172	B		弥生土器	甕	底部	[4.5]		9.2	平底(凹面)。内外面ナデ。内・外底面煤付着。	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4		
179	173	B	B28-6	弥生土器	甕	底部	[6.1]		8.6	平底。外底面に切痕。内外面ナデ。外面一部煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/1		
180	174	B	B28-7	縄文土器	壺	胴体部	[4.1]	9.6	ミニチュア。口頸部は内傾。胴部の張出しが顕著。内面ナデ。へら圧痕。押圧痕。外面ナデ。器面に凹凸。	灰色 5Y4/1	灰色 7.5Y4/1	灰色 N4/			
180	175	B	B28-7	縄文土器	浅鉢	口縁	8.0	2.7	ミニチュア。波状口縁(波頂部4箇所?)。口唇は面を成す。底部は不明瞭。内外面ナデ。	灰色 N5/	灰色 N5/	灰色 N4/			
180	176	B	B28-7	縄文土器	深鉢	口縁	6.4	[4.7]	6.0	ミニチュア。波状口縁(波頂部は5箇所?)。口唇は面を成す。内外面ナデ。	灰色 N5/	灰白色 2.5Y7/1	灰色 N4/1		
180	177	B	B28-7	縄文土器	深鉢	底部	[1.3]		4.4	ミニチュア。平底。端部は外側に張出す。内外面ナデ。	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/	灰色 N4/		
180	178	B	B28-7	弥生土器	蓋	口縁	26.2	[3.2]		端部は平坦面。内外面へらミガキ。	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	灰白色 2.5Y8/2		
180	179	B	B28-7	弥生土器	土製円盤		全長 [6.2]	全幅 [8.3]	全厚 1.1 [45.6] g	壺胴部破片転用品。楕円形?	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6		
180	180			弥生土器	蓋	頂部	[5.4]		6.4	摺み部は平坦。端部に粘土が張出す。内外面へらミガキ。	灰白色 2.5Y8/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 N4/		
181	181		SR 1 B31-5	弥生土器 (終末期)	壺	口縁	11.3	[7.2]		外反のち内傾する二重口縁。内面ハケ。胴部ナデ。外面ハケ。胴部タタキのちハケ。	明赤褐色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 10Y4/1		
181	182		SR 1 B31-4	弥生土器	壺	口縁	20.8	[2.4]		口縁外面に粘土帯貼付。口唇外筋状列み。内面ナデ。外面ナデ。へらナデ痕。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	弥生後期?	
181	183		SR 1 B31-12	土師器	甕	口縁	18.8	[4.3]		口唇は丸く修める。内外面ナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR4/3	灰色 5Y5/1		
181	184		SR 1 B31-4・8	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	11.2	[6.1]		口唇は面を成す。口縁は短く外反。内面ナデ。押圧痕。ナデ痕。外面タタキのちハケ。外面煤付着。	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2		
181	185		SR 1 B31-13	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	15.1	22.4	17.9	2.5	狭い平底。頸部屈曲は急。内面細目ハケ。底部ナデ。外面タタキのち細目ハケ。内外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR5/3	黒色 5Y2/1	灰色 N4/	
181	186		SR 1 B31-4	土師器	甕	口縁	17.0	[20.3]	23.2	口唇は丸く修める。器壁薄。内面ナデ。胴部中位以下ケスリのちナデ。外面ナデ。胴部にへらナデ痕。外面ケール状の煤付着。	黄褐色 2.5Y5/3	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰色 N4/		
181	187		SR 1 B31-5	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	19.2	[8.5]	16.6	口唇は面を成す。頸部屈曲はやや急。内面ハケのちナデ。外面ナデ。胴部で粗目ハケのち細目ハケ。	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	褐灰色 10YR4/1		
181	188		SR 1 B31-8	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	[4.4]			口唇は面を成す。頸部屈曲は急。口縁は短く外反。内面ハケのちナデ。外面タタキ。外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰色 N4/		
181	189		SR 1 B31-13	土師器	甕	口縁	[19.1]		16.0	丸底。内面ハケのちナデ。外面タタキのちハケ。内外面煤付着。	にぶい黄褐色 10YR4/3	褐色 7.5YR4/3	灰色 N4/		
182	190		SR 1 B31-8	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	10.3	[6.8]		頸部屈曲は弱く。口縁は上方に向かう。内面口縁でハケ。胴部でナデ。外面タタキのちハケ。外面煤付着。	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	浅黄褐色 7.5YR8/4		
182	191		SR 1 B31-5	弥生土器 (終末期)	甕	口縁	[2.7]			口唇は凹面。内面ナデ。胴部ハケ。外面ハケのちナデ。外面煤付着。	暗灰黄色 2.5Y5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄色 2.5Y4/1		
182	192		SR 1 B31-13	弥生土器	壺?	口縁	13.1	[1.7]		口唇は平坦面。内外面ナデ。胎土精緻。	にぶい黄褐色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2		
182	193		SR 1 B31-8	弥生土器 (終末期)	鉢	口縁	7.0	[3.3]		口縁は短く開く。内面ナデ。押圧痕。外面ハケ。口縁でナデ。	灰色 5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR7/4	オリーブ黒色 5Y3/1		
182	194		SR 1 B31-9	弥生土器 (終末期)	鉢		12.2	[4.0]		口唇は外傾する凹面。内面ハケ。外面タタキ。	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 5YR7/6		
182	195		SR 1 B31-4	土師器	高杯	坏部	[5.1]			坏部は口縁外反。脚部内面紋目。内外面ナデ。	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	暗灰色 N4/		
182	196		SR 1 B31-4	土師器	高杯	脚部	[1.7]		11.7	脚端部は平坦面。内外面ナデ。外面へら圧痕。胎土微細砂粒。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3		
182	197		SR 1 B31-12	弥生土器	壺	底部	[4.1]		8.8	平底。内面ナデ。底部にナデ痕。外面ナデ。外面赤色顔料。	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	弥生前期	
182	198		SR 1 B31-8	弥生土器 (終末期)	甕	底部	[3.7]			狭い平底。内面ハケのちナデ。外面タタキのちナデ。外面煤付着。	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4		
182	199		SR 1 B31-8・9・13	弥生土器	甕	底部	[6.1]		7.3	平底。内面ナデ。底部にナデ痕。外面ナデ。内面煤付着。	灰白色 5Y8/2 灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	灰色 10Y4/1	弥生前期	

表33 1F区遺物観察表7

Fig. - 遺物		出土地点	層	器種	法量 (cm)			特徴	備考	
		遺構 / グリッド			口径	器高	胴径			
183	200	SR1 B31-13	埋	石包丁	[5.7]	5.0	0.4	[18.3]	扁平。片刃。刃部は直線的。紐孔は敲打に因る穿孔。	粘板岩
183	201	SR1 B31-8	埋	石包丁	7.6	4.8	0.7	39.0	直刃。背部はやや内湾。両側中央を打ち欠き、紐掛けとする。	泥質砂岩?
183	202	B28-1	B	石斧	6.9	3.3	0.8	33.8	扁平。片刃。刃部はほぼ直線。基部はやや幅狭。側面は面を成す。	結晶片岩
183	203	B28-7	C	石斧	[3.9]	5.0	0.9	[30.9]	扁平片刃。上面には自然面が残る。	結晶片岩
183	204	A28-5	A	石斧	[7.1]	3.7	1.3	[59.0]	基部?側面に剥離痕。	結晶片岩
183	205	A28-10	C	砥石	13.6	4.1	3.0	173.5	片側端部に挟り(紐擦り痕?)砥面は2面。溝状研摩痕、幅広の線条痕。	砂岩
183	206	B28-13	C	石錐	3.5	1.3	0.8	3.5	柳葉形?肉厚。錐部に細かな調整を加える。	サヌカイト
183	207	B28-2	A	剥片	2.6	1.6	0.7	2.8	鋭角な縁面に細かな調整を加える。	サヌカイト
183	208	B28-1	A	剥片	5.8	3.6	0.6	13.0	長軸方向の1辺に両面から調整を加える。	サヌカイト
184	209	B28-2	A	叩石	12.1	10.1	5.8	1020.0	やや扁平。端部に敲打痕、剥離痕。中央部両面に敲打痕。	砂岩
184	210	A28-5	A	叩石	11.8	11.2	5.6	1050.0	やや扁平。端部に敲打痕、擦痕が密。中央部両面に敲打痕。	
184	211	B28-2	A	叩石	9.5	8.6	4.4	512.1	やや扁平。端部に敲打痕、擦痕。	

Fig. - 遺物		出土地点	層	種類	遺物名	特徴	法量 (cm)			木取り	樹種
		遺構 / グリッド					全長	全幅	全厚		
185	212	B28-6	C		小型方形柱状木製品 / 箸?	断面長方形の小型角材。	15.5	1.0	0.7		ヒノキ科ヒノキ属
185	213	B28-7	C		小型方形柱状木製品 / 箸?	断面長方形。	21.5	0.7	0.7		ヒノキ科ヒノキ属
185	214			杭	杭状木製品	枝を用いて端部を加工。	34.0	3.0	3.0		マキ科マキ属イヌマキ
185	215	B28-7	C	農具	柄状木製品	端部は小規模の面取りを施して仕上げる。	13.0	3.0	3.0		ブナ科シイ属
185	216	B28-7	C	農具?	挟入板状木製品	側面に一ヶ所挟りを入れる。	38.0	6.0	1.0	板目	ヒノキ科ヒノキ属
185	217	B30-22	C	農具	柄状木製品	自然木の枝をそのまま利用し、端部・装着部は丸く加工。	58.0	3.5	3.5		カエデ科カエデ属
186	218	B28-7	C	食器?	割り形蓋状木製品	根の部分を用いた割り物。蓋又は皿。端部は丸く修め内外面に成形痕を残す。	42.5	13.5	1.0	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
186	219	B28-6	C		杭状木製品	側面は平らな面を成す。	10.0	11.0	2.0	柱目	ヒノキ科ヒノキ属
186	220			部品	継手状木製品	端部は厚く、中央に向かって段を成す。	10.0	12.0	2.0	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
187	221	A28-10	C	農具	組合せ犁	先端は太く丸味を持ち、装着部は大きく割り込みが入り、外面は幅広く窪む。	28.0	14.0	5.5		ブナ科コナラ属コナラ 亜属コナラ節
187	222	B28-1	C	工具	膝柄	石斧の装着部分は欠損。柄部には樹皮が残る。	30.4	26.0	6.0		ブナ科コナラ属コナラ 亜属コナラ節
188	223	B28-6	A	農具	鎌(えぶり)	穿孔部あり、補修孔か。	28.5	14.0	4.0	柱目	ブナ科コナラ属アカガ シ亜属
188	224	B28-6	A	農具	有孔板状木製品	紐孔か。2孔のうち一つは未貫通。	8.0	10.5	0.5	柱目	ブナ科コナラ属アカガ シ亜属
188	225	B28-2	A	農具	鎌先状木製品	木取りに難がある。泥返し又は蓋か?	12.0	9.5	1.5	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
188	226	B28-6	A-1	食器?	有孔鉢形木製品 / 蓋?	鉢か蓋と考えられ、底部の一部が残る。補修孔が1孔端部下に開く。	24.0	9.5	1.0	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
188	227			農具	有孔板状木製品 / 大足?	厚手。穿孔は2孔で方形か。	41.0	15.0	1.5	板目	ヒノキ科ヒノキ属
188	228	B28-6	A-1	食器?	盤状木製品 / 蓋?	根部を利用して内外面を調整した緩やかに内湾する割物。	58.0	13.0	1.0	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
189	229				小型方形柱状木製品 / 箸?	断面隅丸三角形。	14.0	0.7	0.7		ヒノキ科クロベ属クロ ベ
189	230	B28-7	A		小型方形柱状木製品 / 箸?	断面方形。残存やや不良。	16.5	0.9	0.7		ヒノキ科ヒノキ属
189	231	B28-6	A		小型板状木製品	木片?調整面に工具刃部痕が明瞭に残る。	5.0	3.5	1.0		ヒノキ科ヒノキ属
189	232	B31-12		部品	有軸加工木製品	断面菱形。端部は細く方形に加工。	31.0	2.5	1.0		スギ科スギ属スギ
189	233				筒状木製品	端部炭化。(焦化材)	32.5	1.0	1.0		ヒノキ科ヒノキ属
189	234	B28-6	A-2	部品	継手状木製品	両端部で厚く、明瞭な段部を形成し、中央部はやや薄い。	19.5	12.0	1.5	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
189	235	B28-6	A-1		杭状木製品	厚手の板材。	20.5	9.5	3.0	板目	クスノ科クスノキ属 クスノキ
189	236	B28-7	A	農具?	有孔板状木製品	側面は幅の広い面と尖り気味に丸味を持ち仕上げる。穿孔部は不整形。	43.0	7.5	1.5	板目	ヒノキ科ヒノキ属
189	237	B28-6	A		板状木製品	側面は平らな面を成す。	8.5	9.0	1.0	板目	ヒノキ科ヒノキ属
190	238	SR2(B31-7)			杭状木製品	粗割の材に端部調整を加える。工具痕が明瞭。	47.5	8.0	3.0		ヒノキ科ヒノキ属
190	239	SR2(B31-8)			杭状木製品	丸太を粗割の後端部に削り加える。	47.5	7.5	5.0		ヒノキ科ヒノキ属
190	240	SR2(B31-7)			杭状木製品	粗割の材に接部分を中心に調整を加える。	83.0	8.0	6.0		ヒノキ科ヒノキ属
191	241	SR1(B31-12)	埋		籠状木製品	端部を丸く仕上げる。	25.5	1.6	1.0		マツ科ツガ属
191	242	SR1(B31-8)			杭状木製品	端部を杭様に削り出す。	24.0	4.0	3.0		ヒノキ科ヒノキ属
191	243	SR1(B31-4)	埋	工具	板状木製品	機具の部品?全体に丸味を以て加工。	22.5	5.5	1.2	板目	ヒノキ科ヒノキ属
191	244	SR1(B31-8)			杭状木製品	小型の杭か。	36.0	5.0	3.0		ムクロジ科ムクロジ属 ムクロジ
191	245	SR1			板状木製品 / 板杭	端部に意図的な面取り痕。	40.0	10.5	2.5	板目	ヒノキ科ヒノキ属
191	246	SR1(B31-9)		部品	鉤形木製品	端部を丁寧加工する。	15.5	13.0	1.5	心去り	ヒノキ科ヒノキ属
192	247	SR1(B31-8)		農具?	有孔板状木製品	側面の片側は彎曲させ面取り。もう一方は直線で面取り仕上げ。	66.0	19.0	3.0	板目	ヒノキ科ヒノキ属
192	248	SR1(B31-18)		農具?	挟入板状木製品	厚い板材で、中央部の片側が挟れる。	83.0	20.0	3.0	板目	ヒノキ科アスナロ属

付編 1 居徳遺跡群の自然科学分析

- 漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料 -

藤根 久・今村美智子（パレオ・ラボ）

1. 試料と方法

居徳遺跡では、縄文時代後期～弥生時代前期の遺構・遺物が検出された。このうち出土した土器には、漆塗り土器や赤彩土器が含まれている。ここでは、この漆塗り土器の塗膜材料あるいは赤色顔料を調べるために、蛍光X線分析および赤外分光分析（FT-IR分析）を行なった。なお、塗膜分析のための薄片を観察して塗膜構造および土器胎土の特徴についても調べた。

試料は、肉眼的に漆塗り土器と考えられる7試料、漆器1試料、赤彩土器9試料であり、試料Aについて赤外分光分析と蛍光X線分析を行ない、試料Bについて蛍光X線分析を行なった（第1表）。断面の薄片作成は、試料A1～A7とB1～B7の14試料である。

赤外分光分析は、漆塗り土器外側表面からカッターなどを用いて約1mm角片を取り出し、臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、約7トンで加圧して測定用錠剤を作成した（KBr錠剤法）。このKBr錠剤は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光(株)製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外線吸収スペクトルを測定した。

蛍光X線分析は、漆塗り土器と赤彩土器の赤色顔料の主成分を調べるために、赤色部分の一部を採取してセロハンテープに貼り付けて測定した。分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析計（セイコ・電子工業(株)製、SEA-2001L）である。X線発生部の管球はロジウム（Rh）タレット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間100秒、照射径10mm、電流63μm、電圧50KV、試料室内真空である。

塗膜構造を観察するために次の手順に従って土器断面の薄片を作成した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

2. 結果および考察

a. 赤外分光分析

第1図と第2図に、各漆塗り土器塗膜材料および生漆の赤外線吸収測定スペクトルを示す。なお、縦軸は透過率（%T）、横軸が波数（ cm^{-1} 、カイザー）である。2400～3600 cm^{-1} のブロードな吸収は、カルボン酸に特徴的な吸収である。2926および2852 cm^{-1} の2本の吸収は、パラフィン炭化水素の吸収である。さらに、700～1600 cm^{-1} の複数の吸収は芳香族に見られる吸収である。

生漆の赤外線吸収スペクトルでは、複数の吸収が見られ、2928、2856、1709、1626、1450、1276、1064、987 cm^{-1} などに生漆に特徴的な吸収が見られる。

検討した漆塗り土器塗膜材料では、2400～3600 cm^{-1} のブロードな吸収や2926をはじめ複数の吸収においてほぼ一致していた。ただし、試料A3とA6においては、これら生漆の吸収とは異なるスペクトルが得られているが、これらは、炭化材などの炭化物において見られる吸収スペクトルと同じである。

試料A3とA6以外では、生漆とほぼ同様のスペクトルであることから、漆と同定される。なお、試料A3とA6は、炭質物の吸収スペクトルが見られることから、漆質よりも炭質物が多く含まれているものと推定される。

b．蛍光X線分析

第3図に、試料A5およびB2の赤色部分についての蛍光X線スペクトル図を示す。その結果、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、イオウ(S)、カルシウム(Ca)、鉄(Fe)、亜鉛(Zn)、水銀(Hg)などの元素が検出された。なお、ロジウム(Rh)はX線管球(Rh)から発生するX線であり、またイオウ(S)は使用したセロハンテープ中に含まれる元素であり、いずれも試料の組成とは関係がない。

各試料の測定の結果、試料B2以外はいずれも鉄(Fe)が特徴的に検出され、赤色に関係する元素は鉄であることから、鉄酸化物からなるベンガラと推定される。試料B2は、水銀からなる複数のピークが明瞭に検出されたことから、水銀朱である。なお、黒色部は、蛍光X線分析では測定できないが、試料A3とA6の外分光分析において炭質物特有の吸収ピークが見られたことから、炭が主な成分と考えられる。

一般的に赤色顔料には、ベンガラ(Fe_2O_3)、水銀朱(HgS)、鉛丹(PbO_4)が知られ、水銀朱は主成分元素が硫化第二水銀からなる辰砂(cinnabar、水銀朱)を磨り潰して作られるものを言う。ベンガラは狭義には酸化第二鉄(赤鉄鉱、 Fe_2O_3)の顔料をさすが、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の顔料の総称として使われている(市毛、1984)。ベンガラは原料として天然の赤鉄鉱を用いる場合のほか、沼沢地などに沈積する含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱を用いる場合があり、これを含めればその産出地は全国無数にあることになる(成瀬、1998)。最近の研究では、ベンガラの中でも特徴的な形態の「パイプ状ベンガラ」と呼称されるものが、湖沼や湿地帯に生息する鉄細菌の生成物を燃焼したものであるということが分かってきている(岡田、1997)。

c．塗膜構造

作成した断面薄片を顕微鏡により観察を行ない、漆塗り土器と漆器については塗膜構造から塗布回数を推定した。その結果、上塗り塗布回数が1回～4回程度であることが分かった(第2表、図版1～6)。なお、試料A3とA5は、塗布材の残存が悪く塗膜構造を観察できるような薄片は出来なかったため、塗布回数については不明であった。

d．土器胎土の偏光顕微鏡観察

塗膜観察を行なうために作成した薄片について偏光顕微鏡観察を行なった（試料A1～A7、B1～B7）。粘土部分について珪藻化石や骨針化石などの微化石類の有無を調べ粘土の特徴を記載した。また、砂粒について岩石学的特徴を記載し、概略の組成比を調べた（第2表）。

その結果、試料B2において僅かながら骨針化石が含まれていたことから水成粘土であることが分かった。その他の胎土では、微化石類は全く含まれていなかった。県内では、古い岩石から構成される急峻な山地が海岸部付近まで迫っており、粘土質堆積物は主要な河川沿いに形成される段丘堆積物と平野部を構成する沖積層に限定されるものと推定される。また、土佐市高岡町の犬ノ場窯跡や佐川町永野の花ノ木窯跡など古代の窯跡が見られ、良質の粘土材料が産出するものと推定される。これらの地域では、仁淀川あるいはその支流沿いに設窯されていることから、粘土材料は段丘堆積物中の粘土層と推定される。

試料A4～A7では、はんれい岩質あるいは花崗岩質の砂粒のみから構成されるが、砂粒物は破片状の尖った外形を呈するものが多く、光学的に縞状を示す斜長石（双晶）には破壊構造が見られるなど、断層破碎帯内に形成される断層ガウジ（粘土と破片粒子との混合物）の特徴が見られた。このことから、これらの土器は、断層破碎帯内に形成された断層ガウジを採取して作られた土器と推定される。こうした断層ガウジを利用して作られた土器として、角閃石類を特徴的に多く含む生駒西麓産あるいは河内産の縄文土器が知られている（藤根・小坂、1997）。試料A4とA5では、角閃石類を特徴的に多く含む胎土であり、はんれい岩類が分布する地域で形成された断層ガウジであることが推定される。一方、試料A6とA7は、角閃石類は少なく花崗岩質から構成される。なお、はんれい岩と花崗岩は隣接して分布する場合が多い。

その他の土器では、微化石類を含まないことから粘土の特徴は明確ではないが、砂粒において堆積岩類やテフラを含む火山岩類などの起源砂粒を含むなど比較的類似した岩石組成を示している。ただし、試料B1は、片岩類を特徴的に含むことから、他の多くの土器とは製作地が異なることが予想される。

引用文献

市毛 勲(1984)「増補 朱の考古学」、第2版、考古学選書12、雄山閣出版、137p.

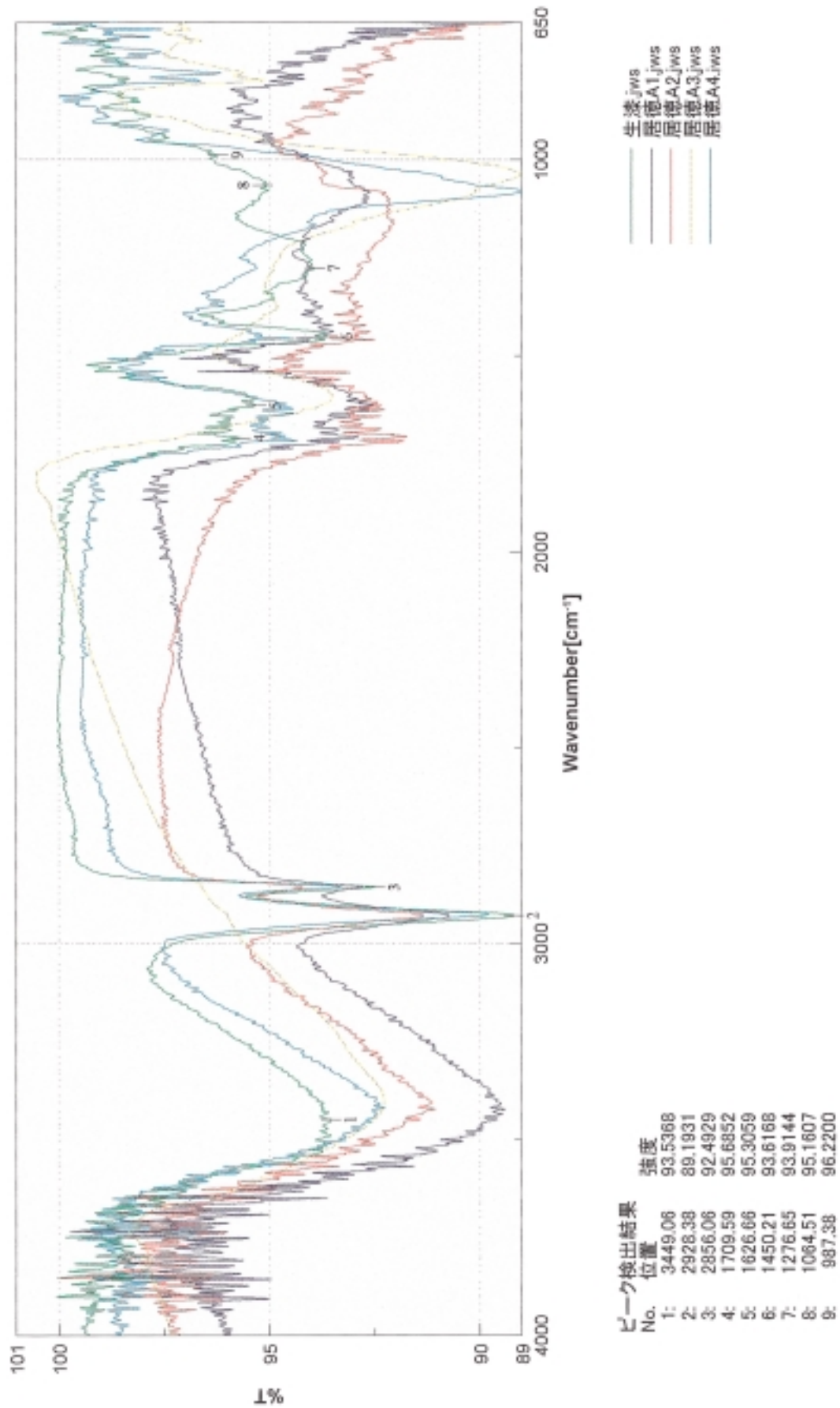
藤根 久・小坂和夫(1997)生駒西麓(東大阪市)産の縄文土器の胎土材料 断層内物質の可能性 - . 第四紀研究、36(1)、p.55-62.

成瀬正和(1998)「縄文時代の赤色顔料 - 赤彩土器 -」、考古学ジャーナル438、10p.

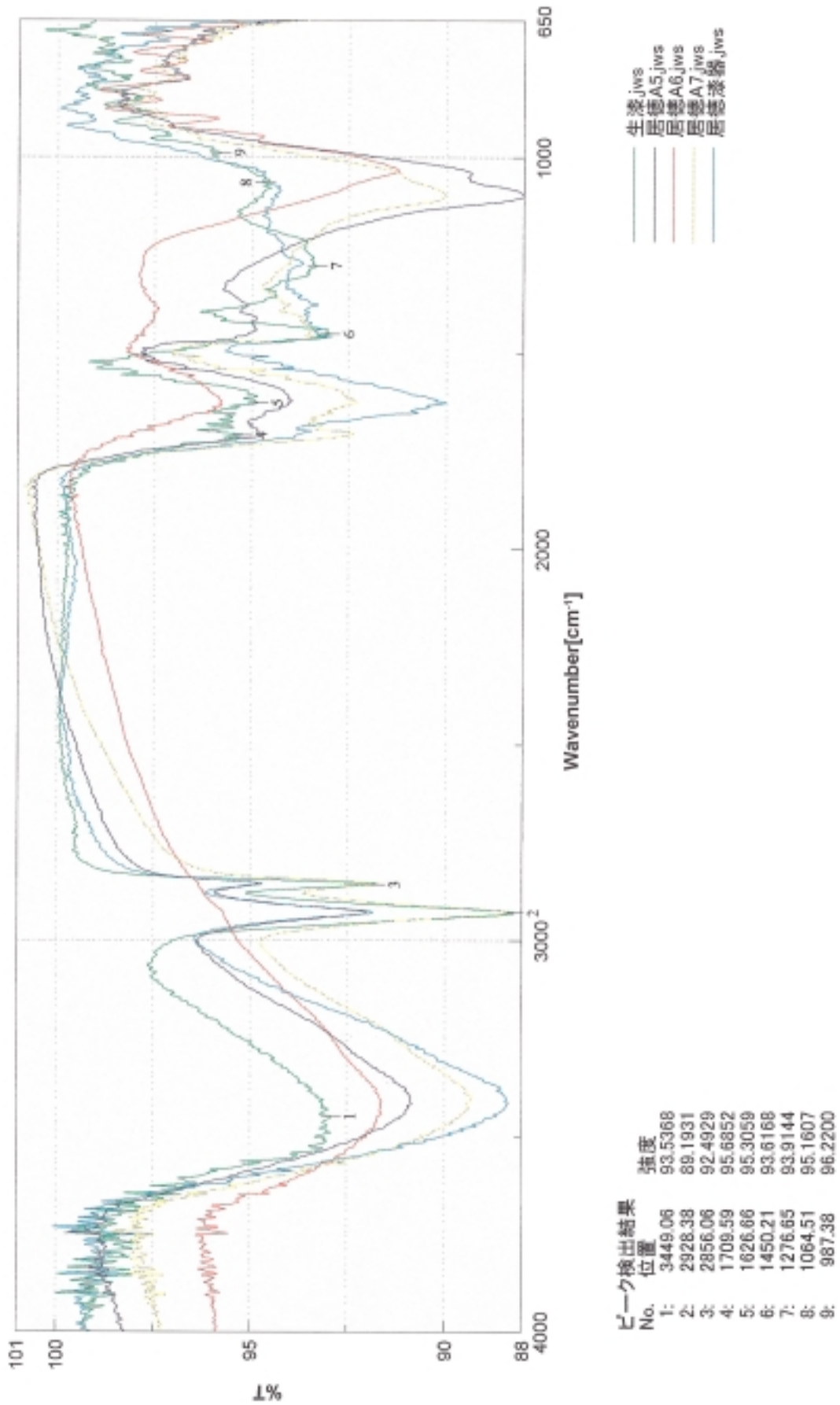
岡田文男(1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」、日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、p.38-39.

第1表. 漆塗り土器・赤彩土器および漆器試料

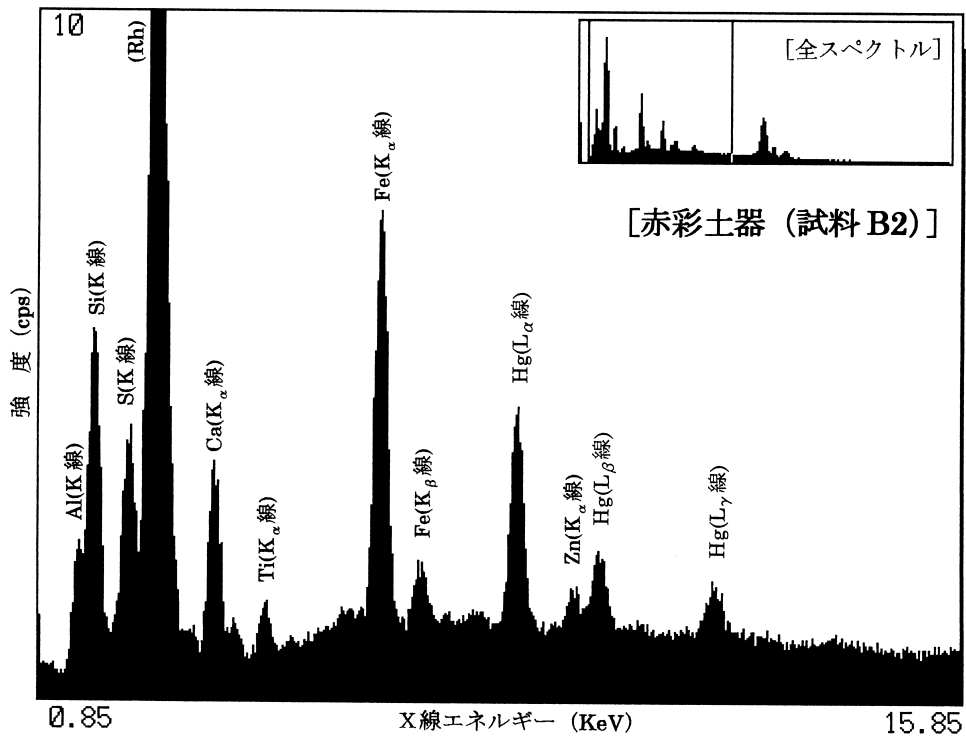
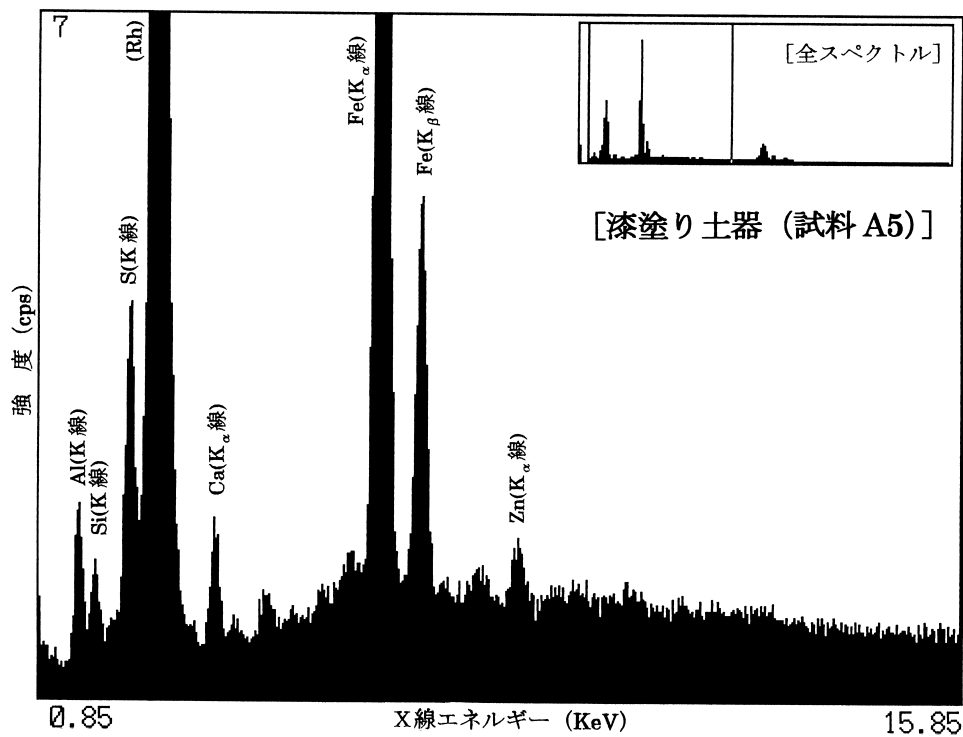
試料	遺物	器種	部位	法量(cm)		塗布面		胎土の肉眼的特徴	備考	分析項目	
						内面	外面			FT-IR 分析	蛍光X線 分析
A	1	壺	胴体部	3.5	X 2.5	黒漆	赤・黒漆	灰褐色・赤色砂粒・白色砂粒(1mm以下)	搬入品		
	2	壺	頸部	7	X 4.5	赤・黒漆	赤・黒漆	灰褐色・赤色砂粒・石英粒	搬入品?		
	3	浅鉢	胴体部	9	X 5.5	-	赤・黒漆	灰褐色・円礫・石英粒(1.5mm)	搬入品		
	4	浅鉢	口縁部	5.5	X 4.5		赤・黒漆	暗灰褐色・石英粒	補修孔に植物繊維痕		
	5	壺	頸部	5	X 5		赤・黒漆	赤灰褐色・赤色砂粒・石英粒(1mm以下、稀に2mm)	斜位の紋様区画		
	6	壺	胴部	2.5	X 2		赤・黒漆	暗灰褐色・石英粒(1.5mm以下)			
	7	壺	頸部	3.5	X 2	黒漆?	赤・黒漆	暗灰褐色・赤色砂粒・石英粒(1mm以下、稀に2mm)			
B	8	漆器									
	1	浅鉢	胴部	4.5	X 3.5	赤・黒漆		灰白色・石英粒(2mm以上)			
	2	浅鉢	体部	3.5	X 3.5	赤色	黒色	灰褐色・石英粒(0.5mm以下、稀に1mm)			
	3	壺	胴部	3.5	X 2		赤色	黄灰褐色・石英粒(1mm以下)	精緻・沈線紋		
	4	壺	胴部	4.5	X 3		赤・黒漆	暗灰色・石英粒			
	5	壺	胴部	5.5	X 4.5		赤・黒漆	灰褐色・赤色砂粒・石英粒(2mm以下)			
	6	壺	胴部	5	X 4		橙色	黄白色・雲母・赤色砂粒・石英粒(2mm以下)			
	7	浅鉢	体部	2.5	X 2	赤色		黄灰色・赤色砂粒・石英粒(1mm以下)			
	8	壺	口縁部	1.5	X 1.5		赤色	黄白色・角礫・石英粒(2mm以下)	弥生前期末		
9	精製深鉢	胴部	1.5	X 1.5		赤色	暗灰色・石英粒(1mm以下)	縄文後期			



第1図. 試料A1～A4 塗膜部分のFT-IRスペクトル図



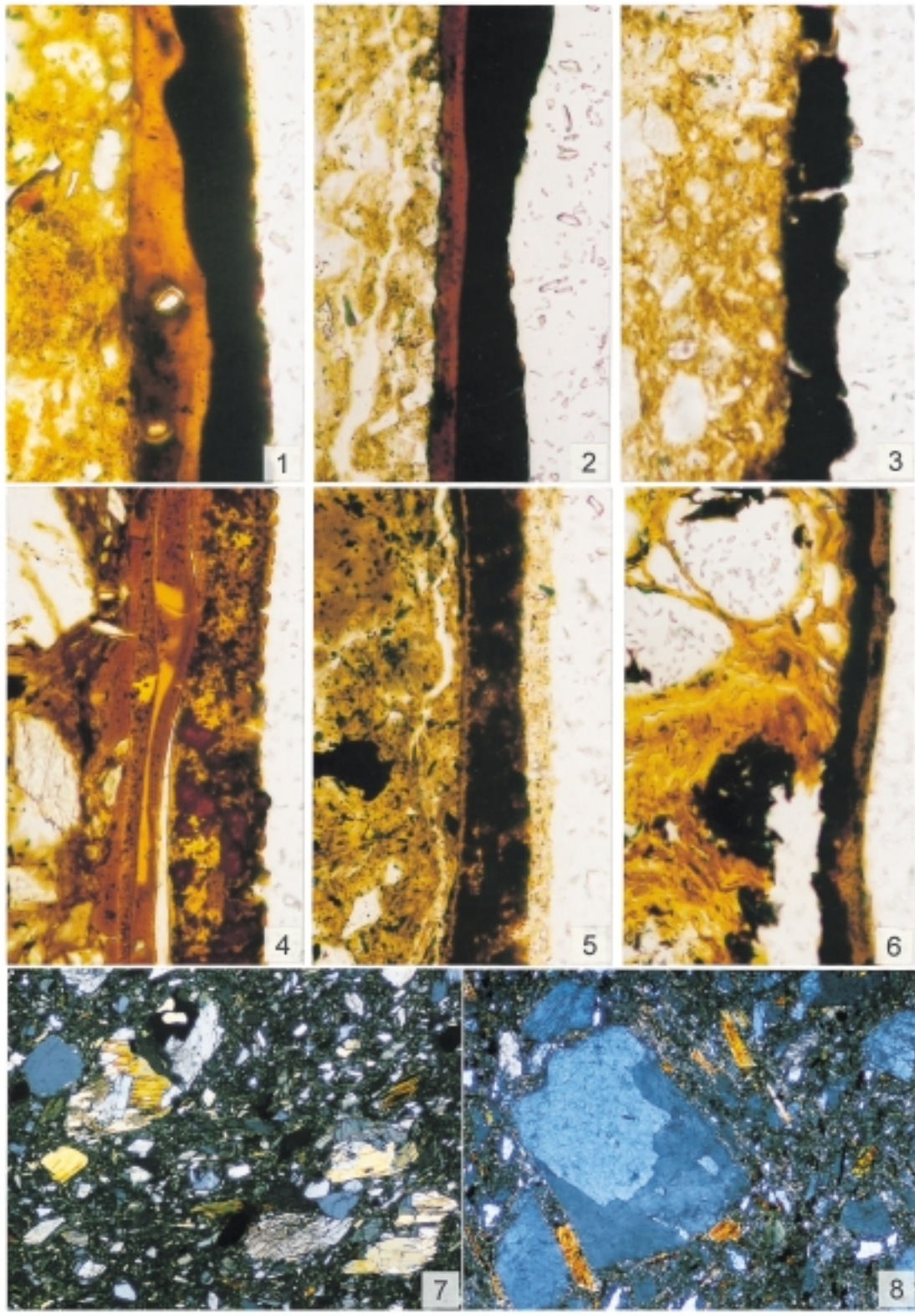
第2図. 試料A5 ~ A8 塗膜部分のFT-IRスペクトル図



第3図. 土器顔料の蛍光X線スペクトル図

第2表. 土器および漆器の分析結果

試料	遺物	器種	FT-IR 分析	塗膜構造	蛍光 X線分析	胎土材料		その他	
						粘土	砂粒組成		
A	1	363	壺	漆塗膜	上塗03回塗り	ベンガラ	粘土 その他	胎土材料 堆積岩類 火山岩類(テフラ)	
	2	370	壺	漆塗膜	上塗03回塗り	ベンガラ	その他	堆積岩類 火山岩類(テフラ)	
	3	369	浅鉢	漆塗膜?	?	ベンガラ	その他	堆積岩類 火山岩類(テフラ) 深成岩類	
	4		浅鉢	漆塗膜	上塗03~4回塗り	ベンガラ	断層ガウジ	はんれい岩類	角閃石類多い
	5		壺	漆塗膜	?	ベンガラ	断層ガウジ	はんれい岩類	角閃石類多い
	6		壺	漆塗膜?	上塗01回塗り	ベンガラ	断層ガウジ	花崗岩類	
	7		壺	漆塗膜	上塗02回塗り	ベンガラ	断層ガウジ	花崗岩類	
	8	415	漆器	漆塗膜	上塗01回塗り	-	-	-	
B	1		浅鉢	-	-	ベンガラ	その他	片岩類 堆積岩類 深成岩類	
	2		浅鉢	-	-	ベンガラ	水成粘土	堆積岩類 片岩類、火山岩類(テフラ)	
	3		壺	-	-	水銀朱	その他	堆積岩類 深成岩類、火山岩類(テフラ)	
	4		壺	-	-	ベンガラ	その他	火山岩類(テフラ) 堆積岩類	テフラを混和(輝石・角閃石類)
	5		壺	-	-	ベンガラ	その他	堆積岩類 火山岩類(テフラ)	
	6		壺	-	-	ベンガラ	その他	堆積岩類 火山岩類(テフラ) 深成岩類	
	7		浅鉢	-	-	ベンガラ	その他	堆積岩類、(テフラ)	
	8		壺	-	-	ベンガラ	-	-	
	9		精製深鉢	-	-	ベンガラ	-	-	



図版1. 漆塗り土器および漆器の塗膜断面と土器胎土（スケール；No.1～6が50μ、No.7・8が500ミクロン）

1. 塗膜断面(試料A1) 2. 塗膜断面(試料A2) 3. 塗膜断面(試料A3)
 4. 塗膜断面(試料A4) 5. 塗膜断面(試料A7) 6. 塗膜断面(試料A8)
 7. 断層ガウジを用いた胎土(試料A4) 8. 断層ガウジを用いた胎土(試料A5)

付編 2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は高知県居徳遺跡群から出土した工具4点, 農具22点, 農工具6点, 運搬具1点, 服飾具2点, 容器4点, 食器具1点, 籠編物2点, 祭祀具8点, 雑具2点, 部材1点, 建築部材16点, 用途不明品99点の合計168点である。

2. 観察方法

剃刀で木口(横断面), 柁目(放射断面), 板目(接線断面)の各切片を採取し, 永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹材10種, 広葉樹材11種)の表を示し, 以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

8) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(確認調査⁽¹⁾67~71, 1C区1424・1426・1427・1429~1431)

木口では仮道管を持ち, 早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柁目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ, サワラがあり, 本州(福島以南), 四国, 九州に分布する。

11) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(1C区1428)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管(~500 μ m)が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2~3個集まって火炎状に配列している。柁目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ, 軸方向要素として道管, それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり(ストランド), 軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道(西南部), 本州, 四国, 九州に分布する。

13) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(1C区1433)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管 (~200 μ m) が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ, アカガシ, シラカシ等があり, 本州(宮城, 新潟以南), 四国, 九州, 琉球に分布する。

14) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect *Prinus* sp.)

(1C区1432)

環孔材である。木口では大道管 (~380 μ m) が年輪界にそって1~3列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ, 薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2~3個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では, 多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ, ミズナラ, カシワ等があり, 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。

19) ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

(1C区1425)

散孔材である。木口では極めて小さい道管 (~40 μ m) が, 単独ないし2~3個接合して均等に分布する。放射組織は1~3細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔(バー数8~30)と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔(とくに直立細胞)は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1~4細胞列, 高さ~1mm以下からなり, 平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一行に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ, サザンカ, チャがあり, 本州, 四国, 九州に分布する。

21) ブドウ科 (*Vitaceae*)

(1C区1434)

環孔材である。木口では孔圏道管は直径200～400 μ mに達し、小道管は2～10個以上が不規則に複合している。軸方向柔細胞は周囲状である。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。内腔にはチロースがある。道管放射組織間壁孔は階段状となる。放射組織は平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～10細胞列以上、高さ～10mm以上ときわめて高い。ブドウ科はツタ属(ツタ)、ノブドウ属(ノブドウ)、ブドウ属(ヤマブドウ、サンカクヅル)があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 ～ 」京都大学木質科学研究所(1995～)

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 ・ 」保育社(1979)

深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)

使用顕微鏡

Nikon

MICROFLEEX UFX-DX Type 115

高知県居徳遺跡出土木製品樹種同定表

No.	遺物名	木取り	樹種
確認調査(1) Fig.22-67	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(1) Fig.22-68	大足		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(1) Fig.23-69	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(1) Fig.23-70	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(1) Fig.24-71	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.134-1424	焦化材		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.134-1425	軸状木製品		ツバキ科ツバキ属
1 C区 Fig.135-1426	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.136-1427	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.137-1428	板状木製品		ブナ科クリ属クリ
1 C区 Fig.137-1429	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.138-1430	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.138-1431	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
1 C区 Fig.139-1432	板状木製品		ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
1 C区 Fig.139-1433	板状木製品		ブナ科コナラ属アカガシ亜属
1 C区 -1434	編みかご状製品		ブドウ科
1 DN区 Fig.147-39	棒状木製品		散孔材

写真図版



TP - 1調査前状況 (北より)



TP - 1完掘状態 (南より)



TP - 2完掘状態 (南東より)



TP - 3完掘状態 (南より)



TP - 4完掘状態 (南より)



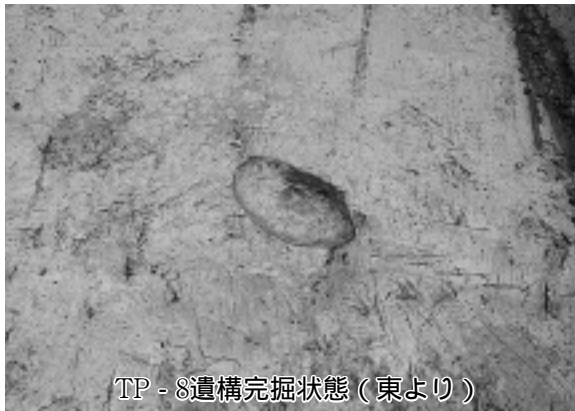
TP - 5完掘状態 (東より)



TP - 6完掘状態 (南より)



TP - 7調査状況 (東より)



TP - 8遺構完掘状態 (東より)



TP - 8堆積土層断面 (東より)



TP - 9完掘状態 (東より)



TP - 10木製品出土状態 (南より)



TP - 10完掘状態 (東より)



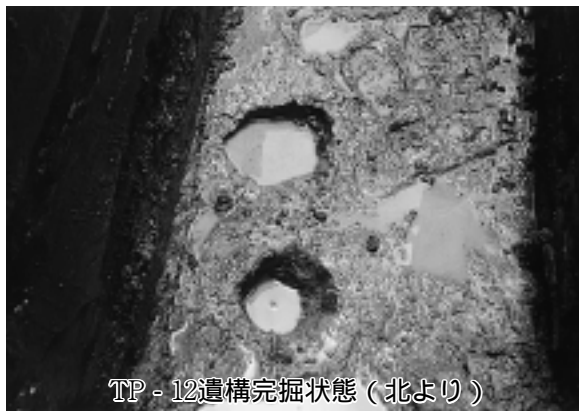
TP - 11杭跡検出状態 (北西より)



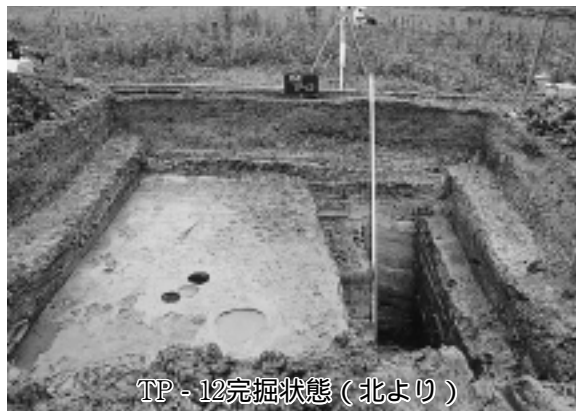
TP - 11完掘状態 (東より)



TP - 12遺構完掘状態 (北東より)



TP - 12遺構完掘状態（北より）



TP - 12完掘状態（北より）



TP - 13完掘状態（西より）



TP - 14調査状況（南より）



TP - 14遺構完掘状態（南より）



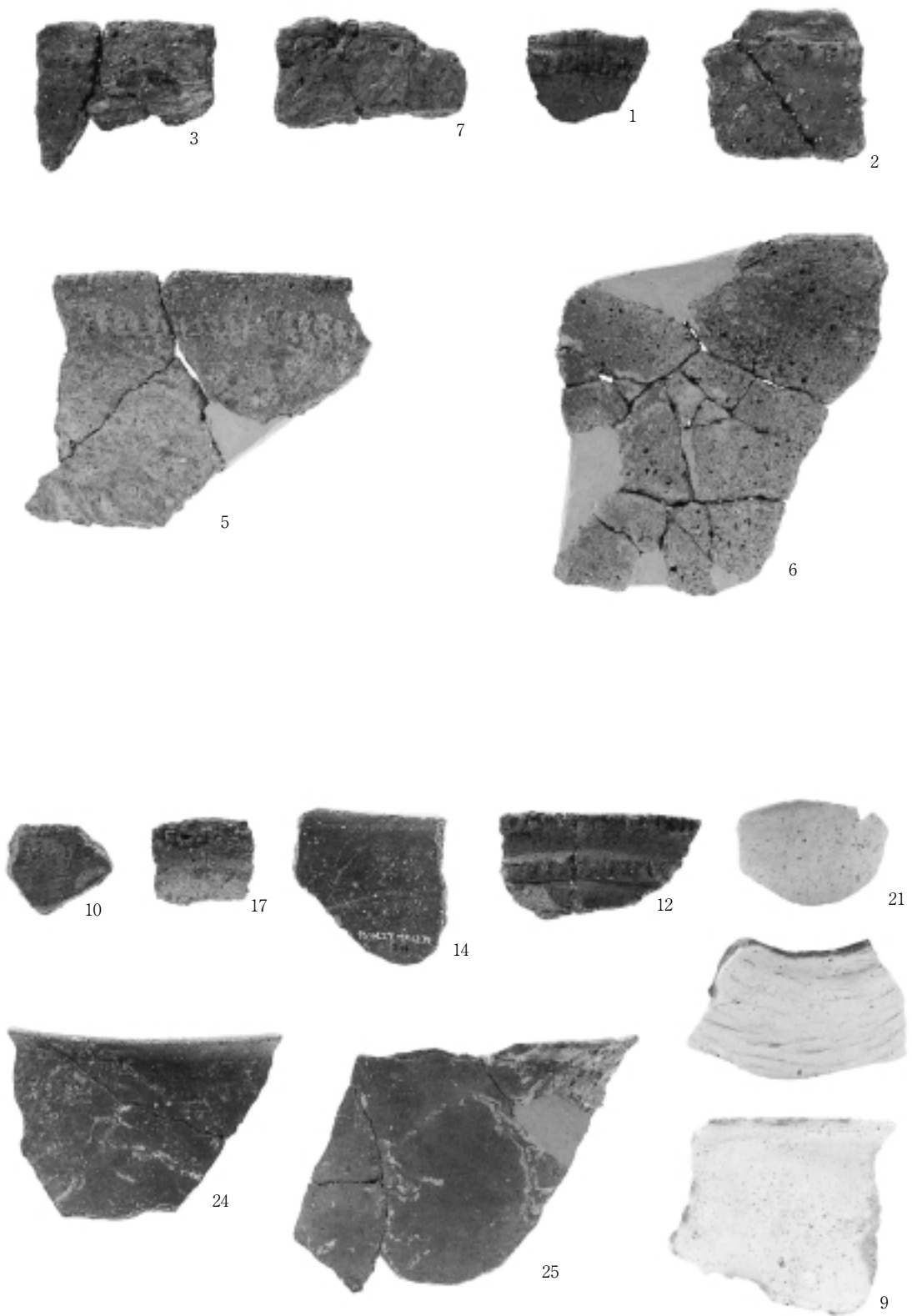
TP - 14完掘状態（南より）



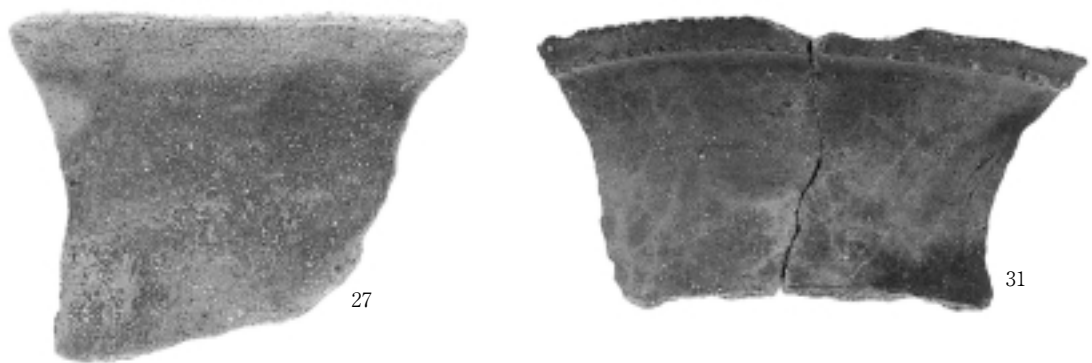
TP - 15完掘状態（南より）



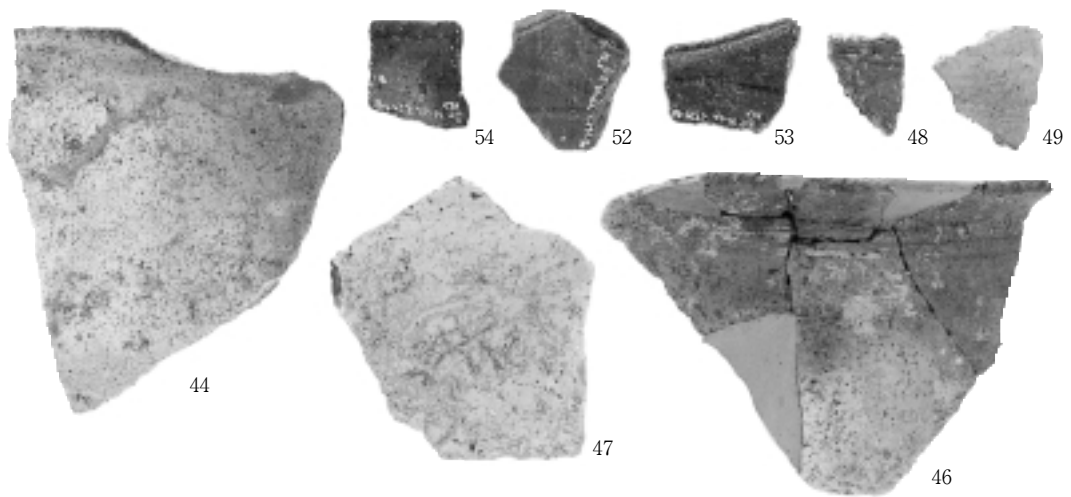
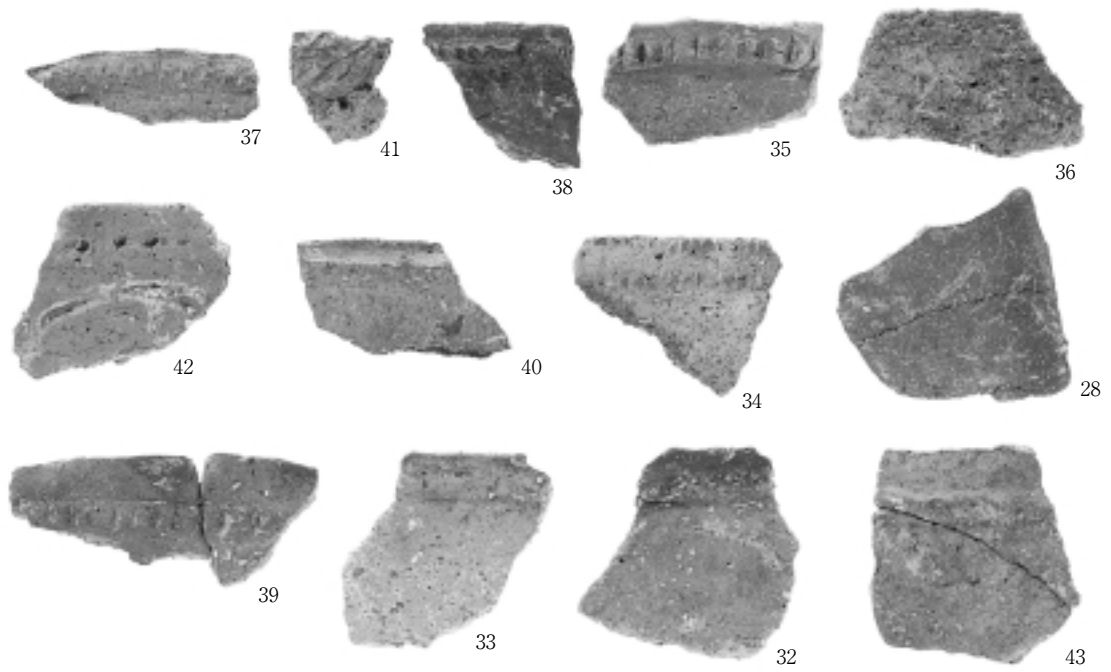
TP - 16完掘状態（南より）



確認調査(1)出土遺物1(土器)



確認調査(1)出土遺物2 (土器)



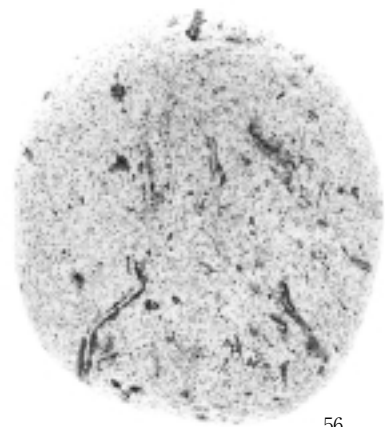
確認調査(1)出土遺物3(土器)



55



57



56



62



60



61



58



59



63



65



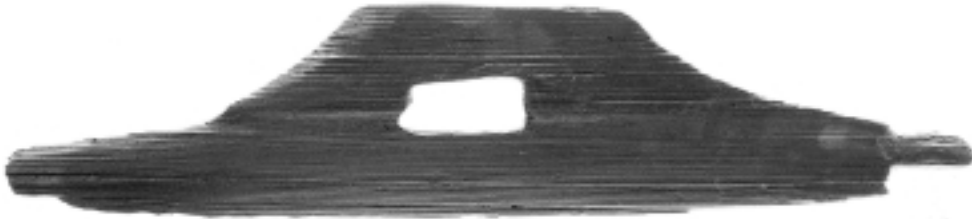
64



66



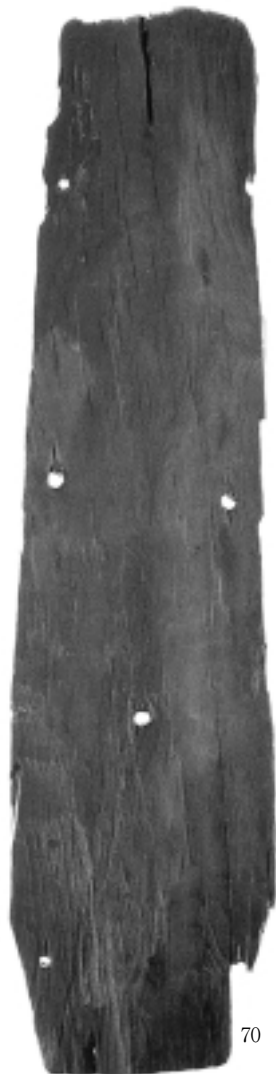
67



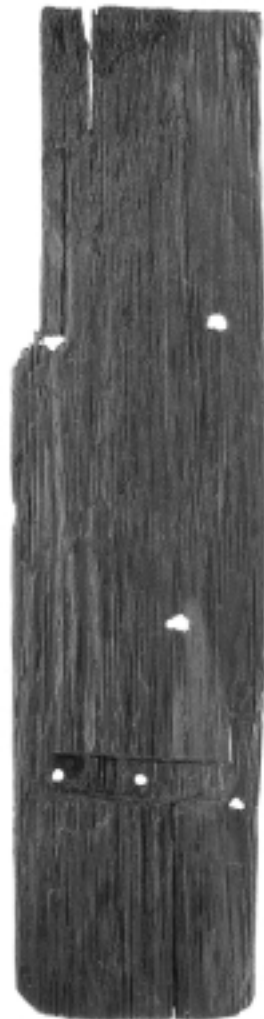
68



69



70



71

確認調査(1)出土遺物5(木製品)



1A区完掘状態・出土状態



1面 西側



東壁

1A区完掘状態・セクション1



1面 d層(C25 - 11・16)



1A区出土状態 1

SK1



東側



西側

1A区 2 面包含層機械掘削

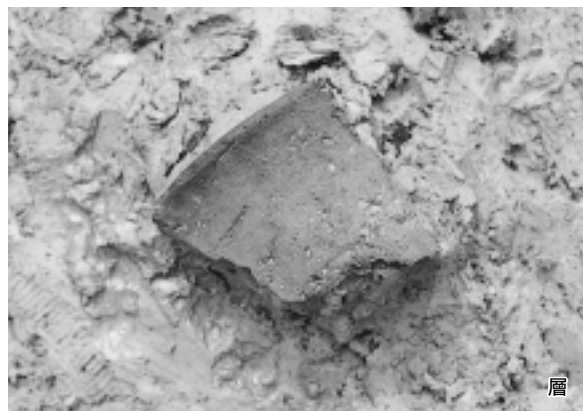
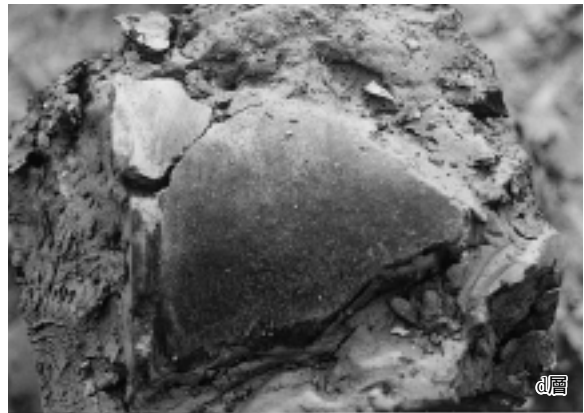


2面

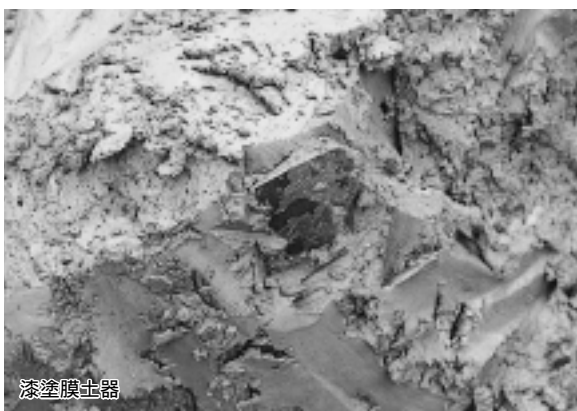
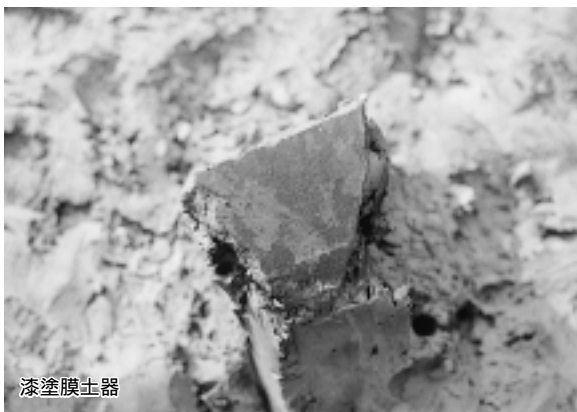
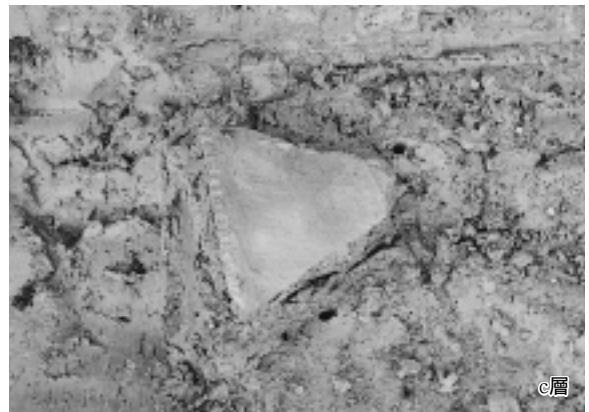
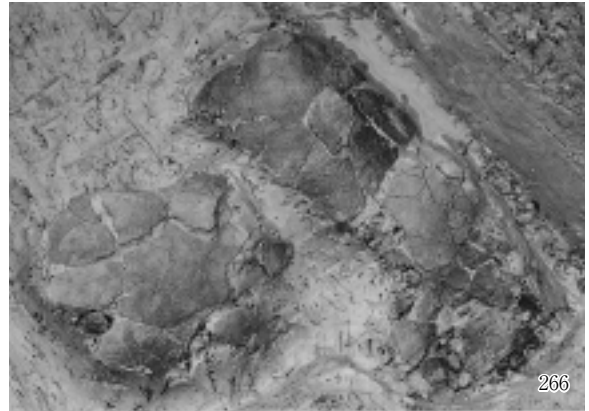
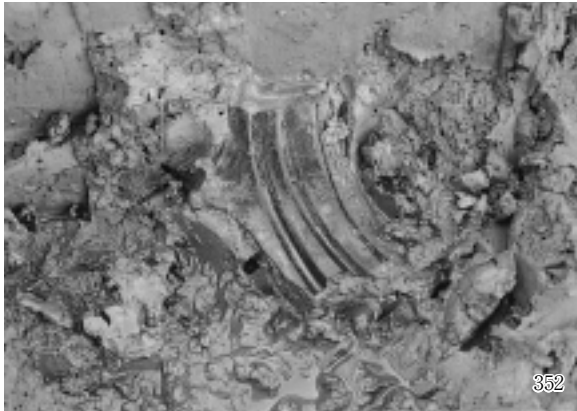


西壁

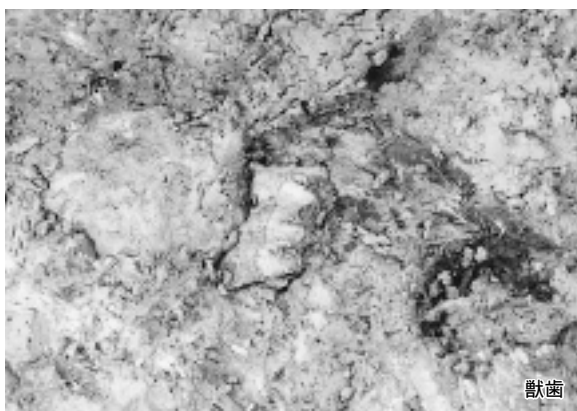
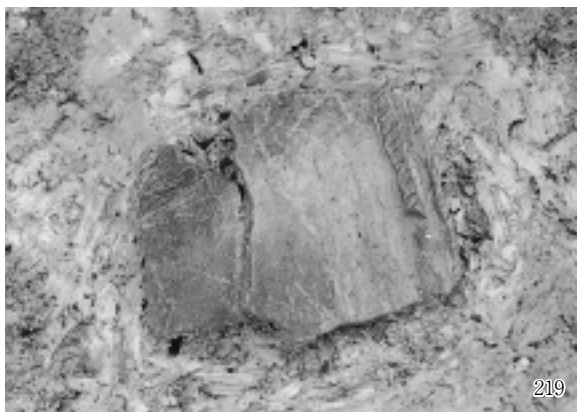
1A区完掘状態・セクション2



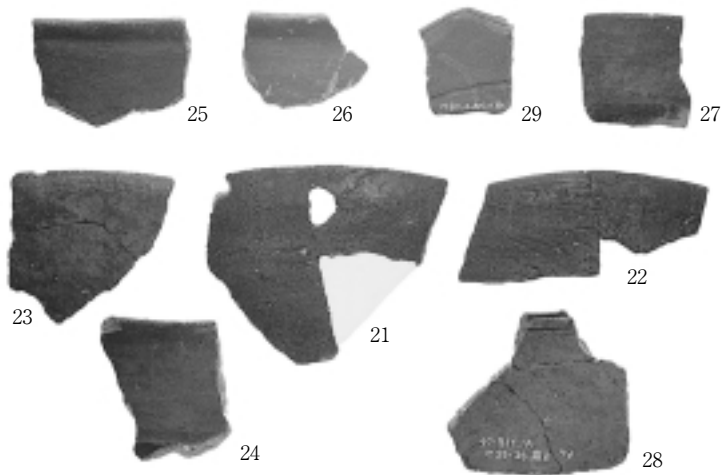
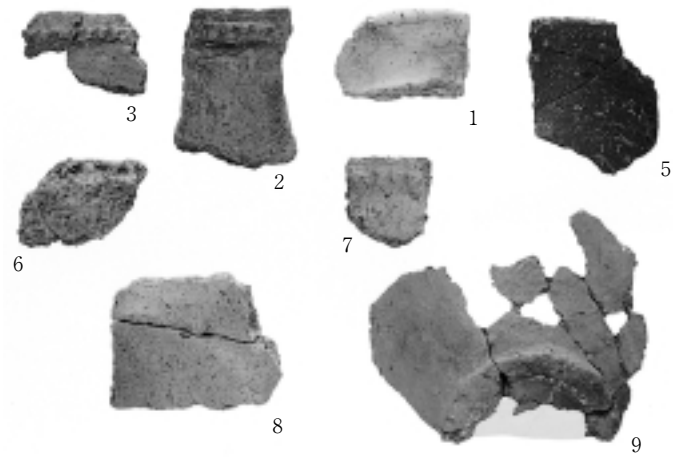
1A区出土状態 2



1A区出土状態 3



1A区出土状態 4



1A区出土遺物 1

上・下段S : 1/3、中段S : 1/4



75



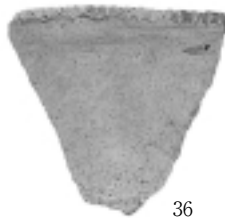
74



13



38



36



37



40



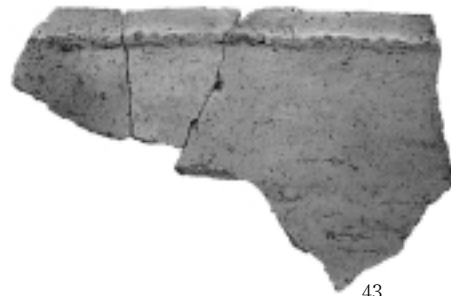
39



44



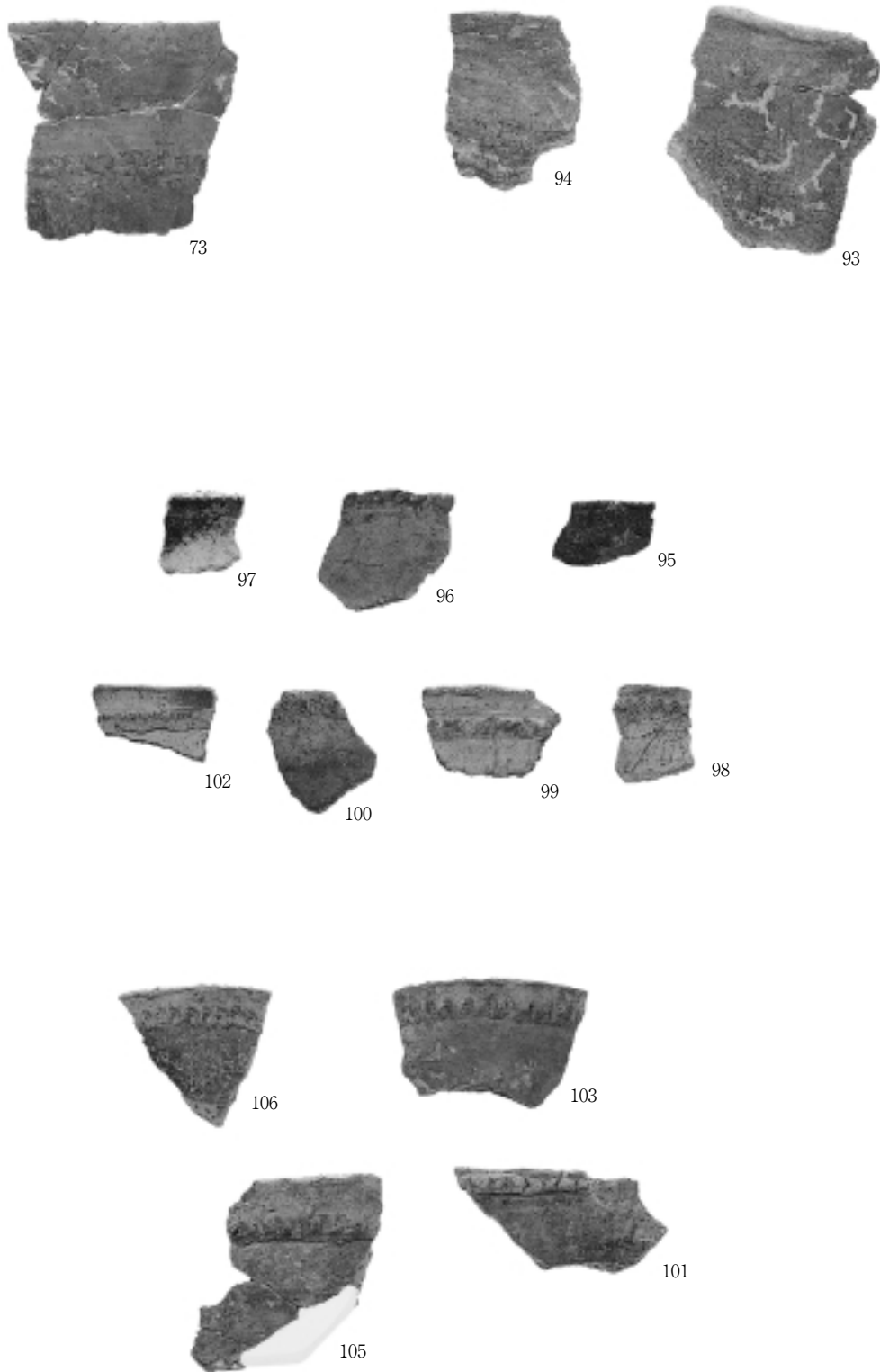
50



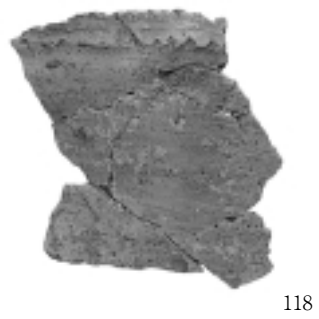
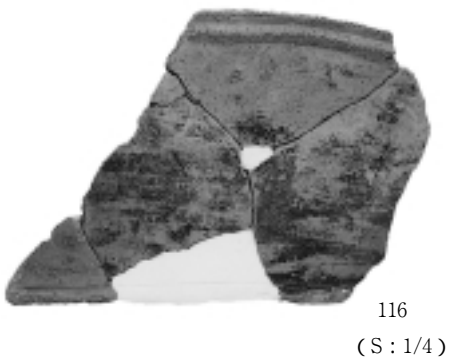
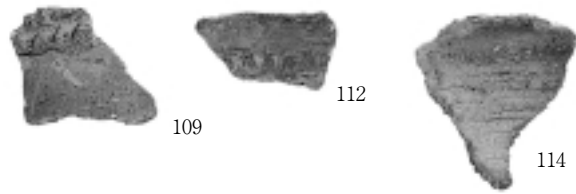
43

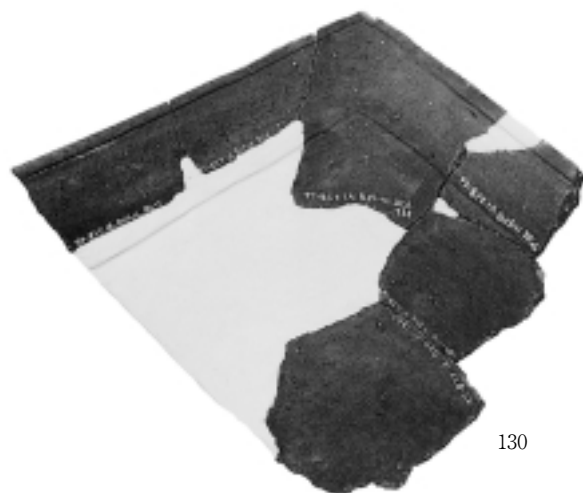


1A区出土遺物 3



1A区出土遺物 4





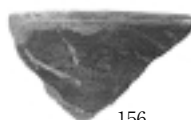
130



157



153



156



152



160



186



161



184



185



181



180



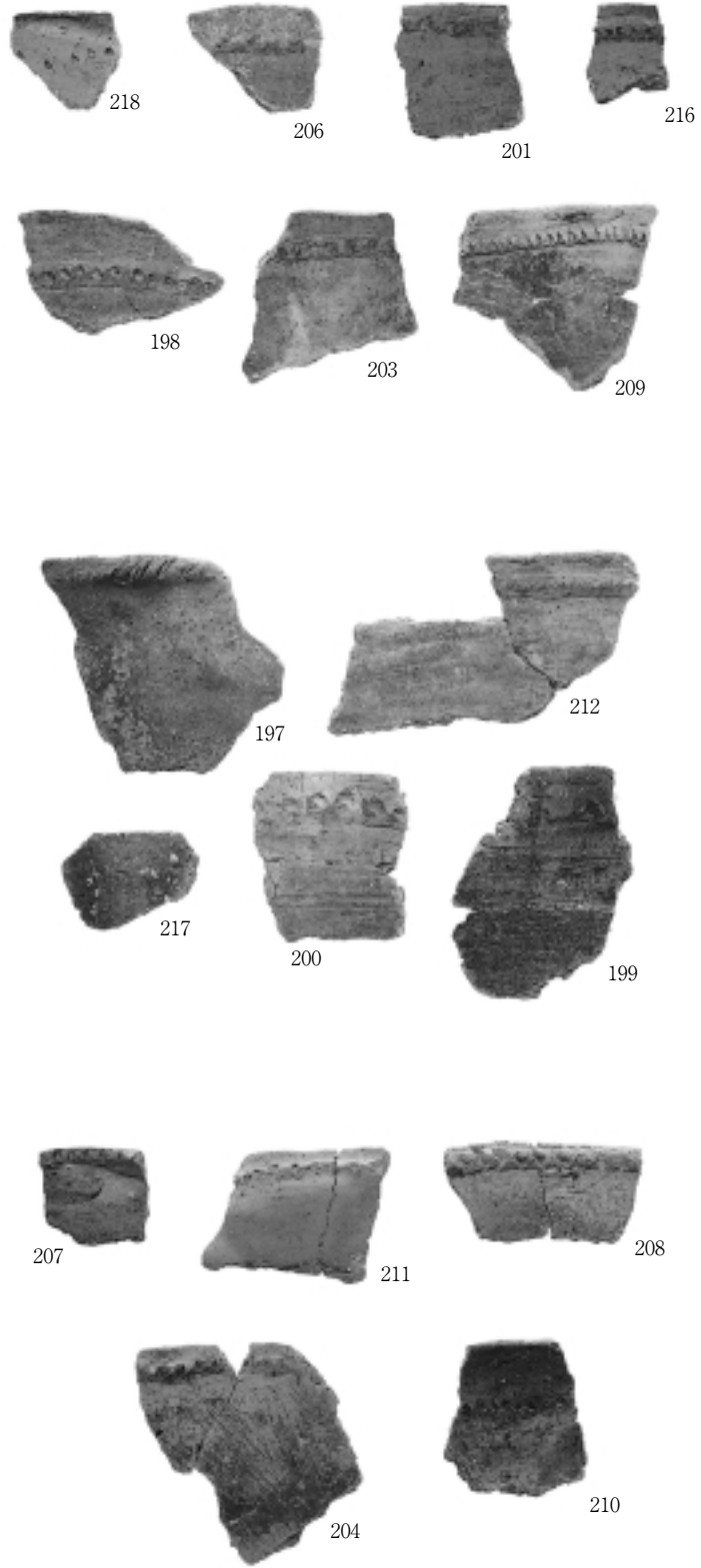
178



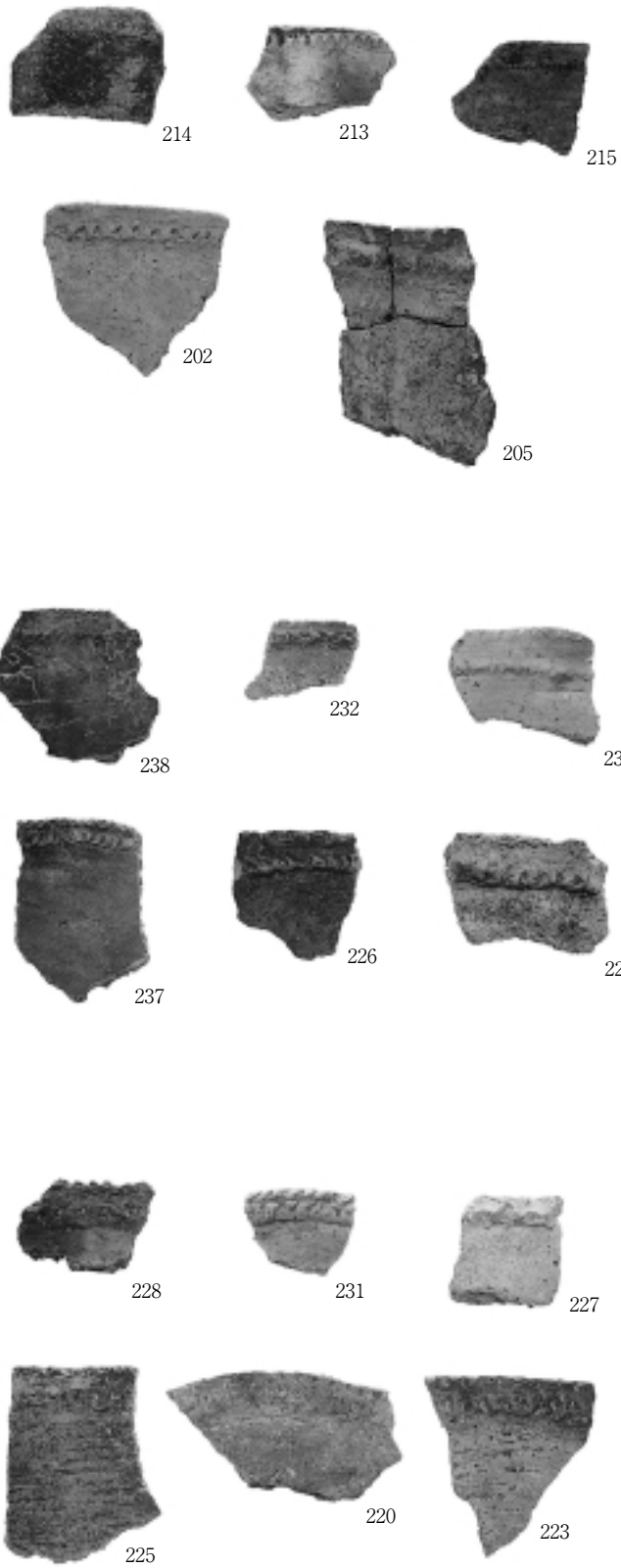
182

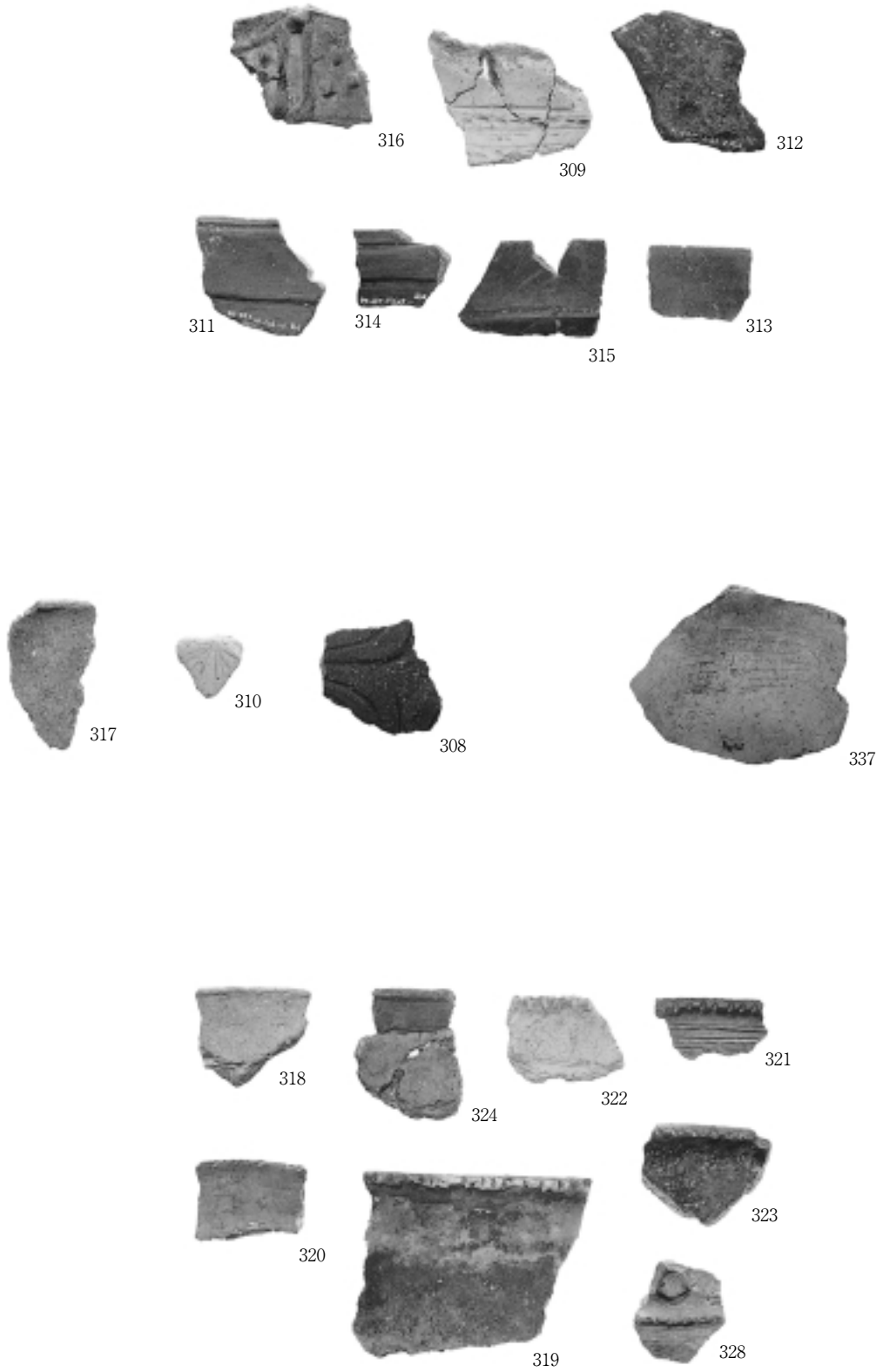
1A区出土遺物 6

S : 1/3



1A区出土遺物 7

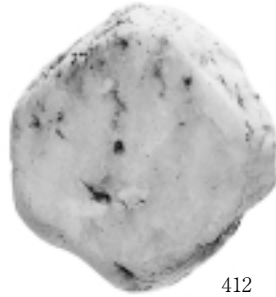




1A区出土遺物 9



413



412



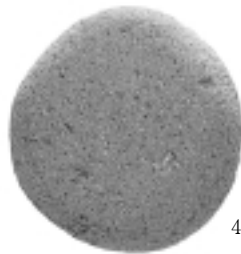
403



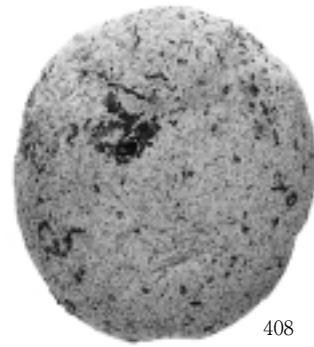
407



411



410



408



377



376



375



387



381



382



380



395



394



388



419



414



415



416
(S : 1/4)



417



418



420
(S : 1/4)



421



422

1A区出土遺物 12

416・420以外S : 1/3



1C区西半部第 層上面遺構完掘状態（東より）



1C区東半部第 層上面遺構完掘状態（東より）



1C区第 層上面遺構調査状況（西より）



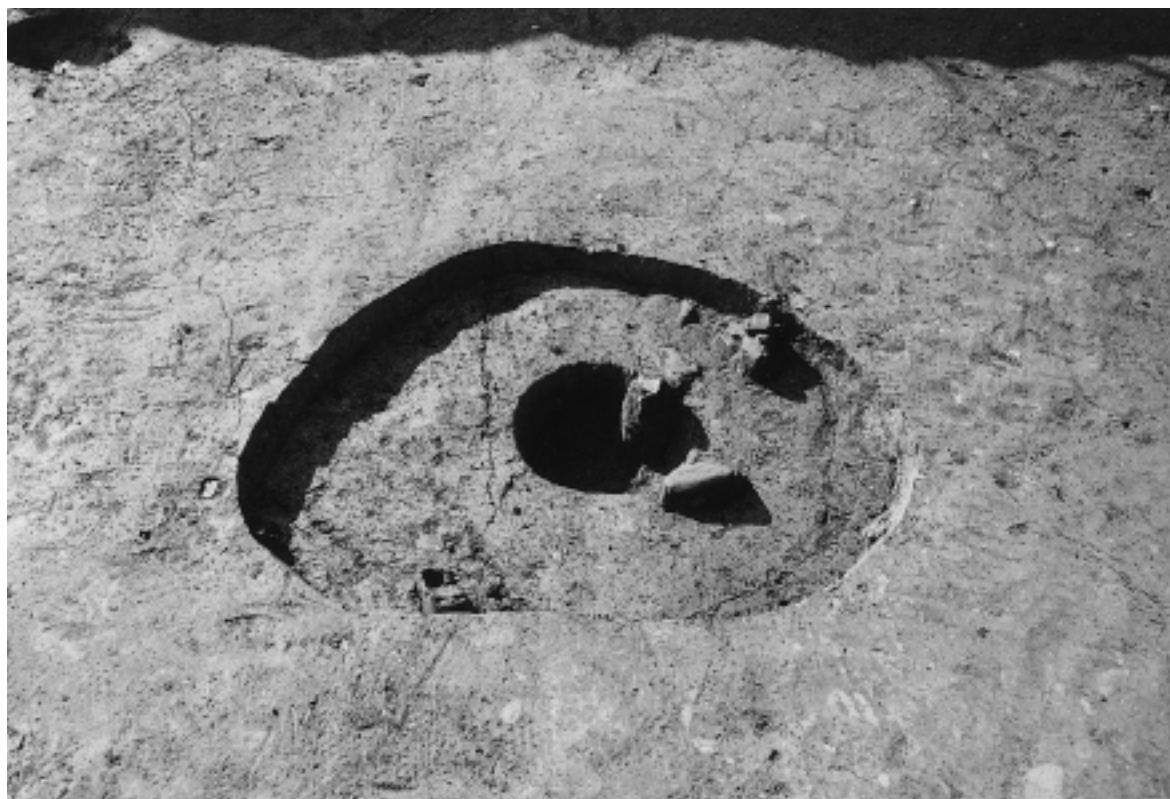
1C区西壁堆積土層断面（南東より）



1C区SX1遺物出土状態（北東より）



1C区SX5遺物出土状態（東より）



1C区P18遺物出土状態（東より）



1C区P21遺物出土状態（西より）



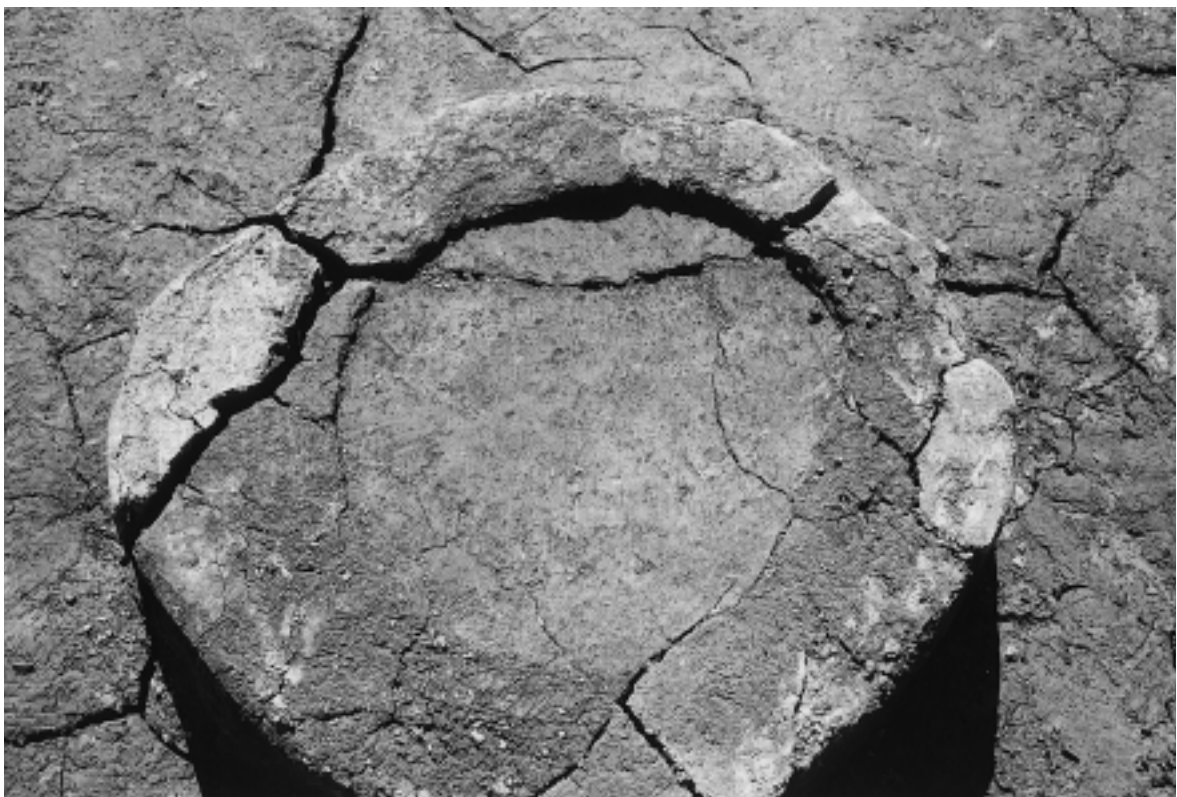
1C区土器(1381)出土状态



1C区石器(1422)出土状态



1C区P113完掘状態（西より）



1C区P127完掘状態（北より）



1C区西壁堆積土層断面（東より）



同 上



1C区第 層上面遺構完掘状態（北東より）



1C区第 層上面遺構群（P156～P159・P161）完掘状態（北東より）



1C区P157完掘状態（北より）



1C区P159完掘状態（西より）



1C区P161完掘状態（北西より）



1C区P245炭化物検出状態（南西より）



1C区石器(1403)出土状态



1C区石器(1404)出土状态



1C区木製品(1432・1431)出土状態



1C区木製品(1434)出土状態



1C区第 層上面遺構検出状況（西より）



同 上（東より）



1C区第 層上面遺構検出状態（南東より）



同 上（南より）



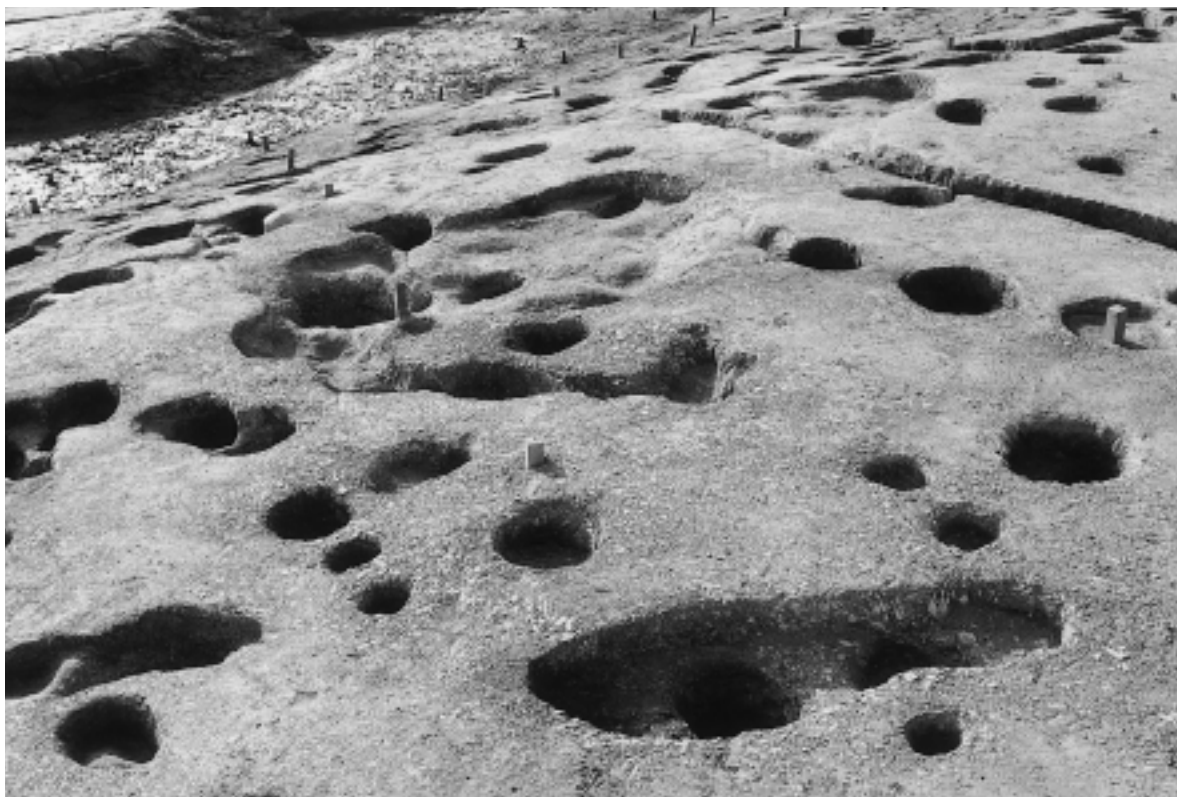
1C区第 層上面遺構調査状況（北西より）



同 上（南東より）



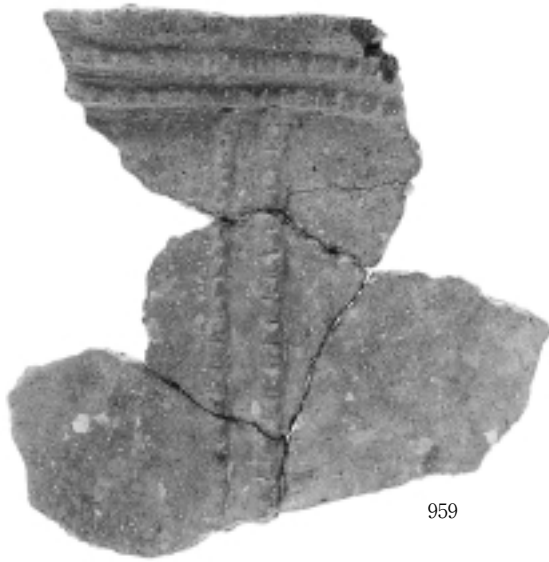
1C区第 層上面遺構完掘状態（東より）



同 上



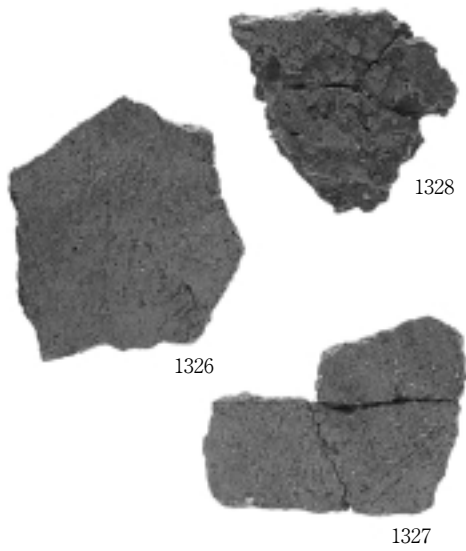
1C区出土遺物7(土器)



959



1294



1326

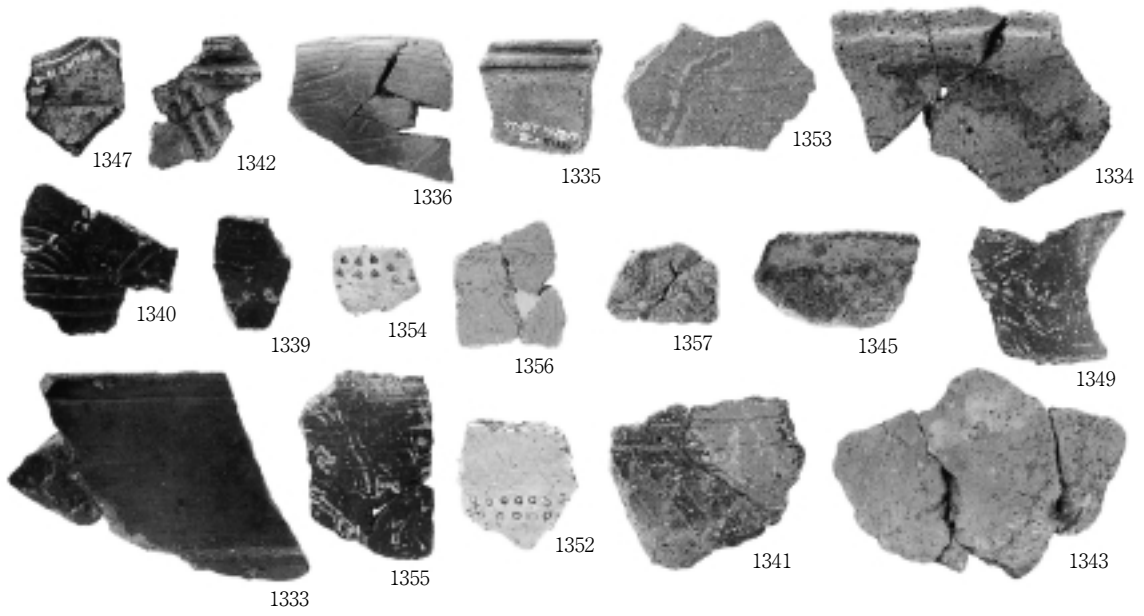
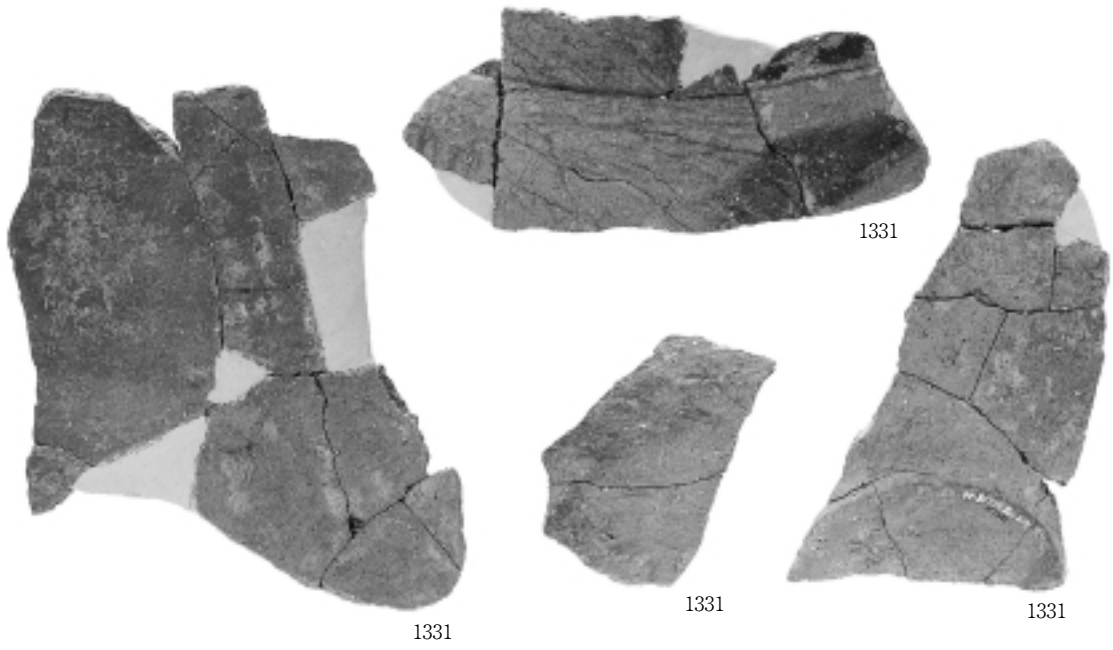
1328

1327

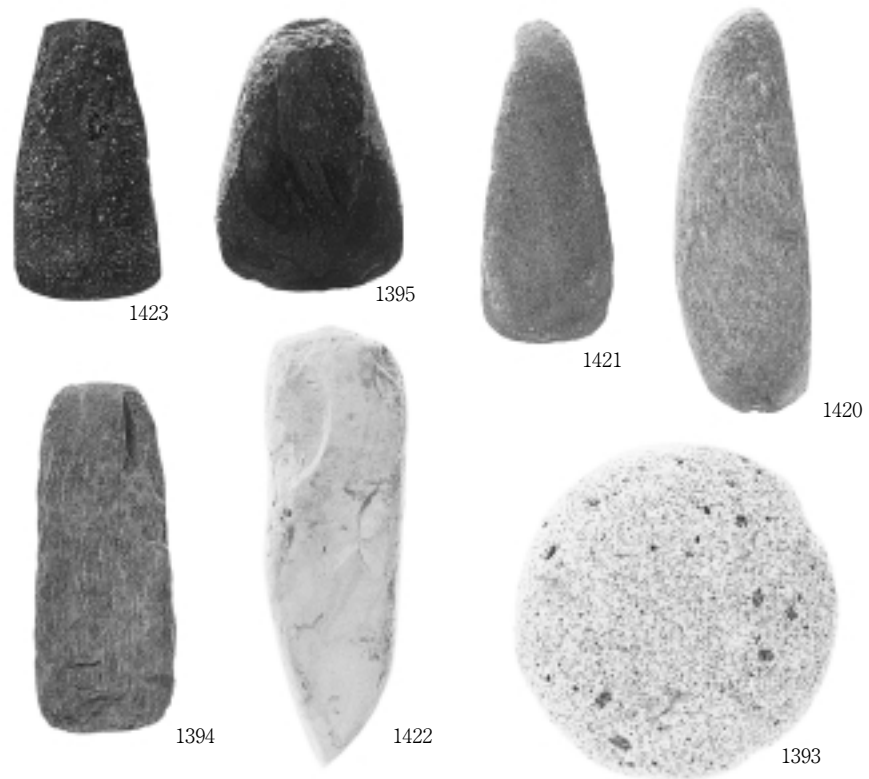
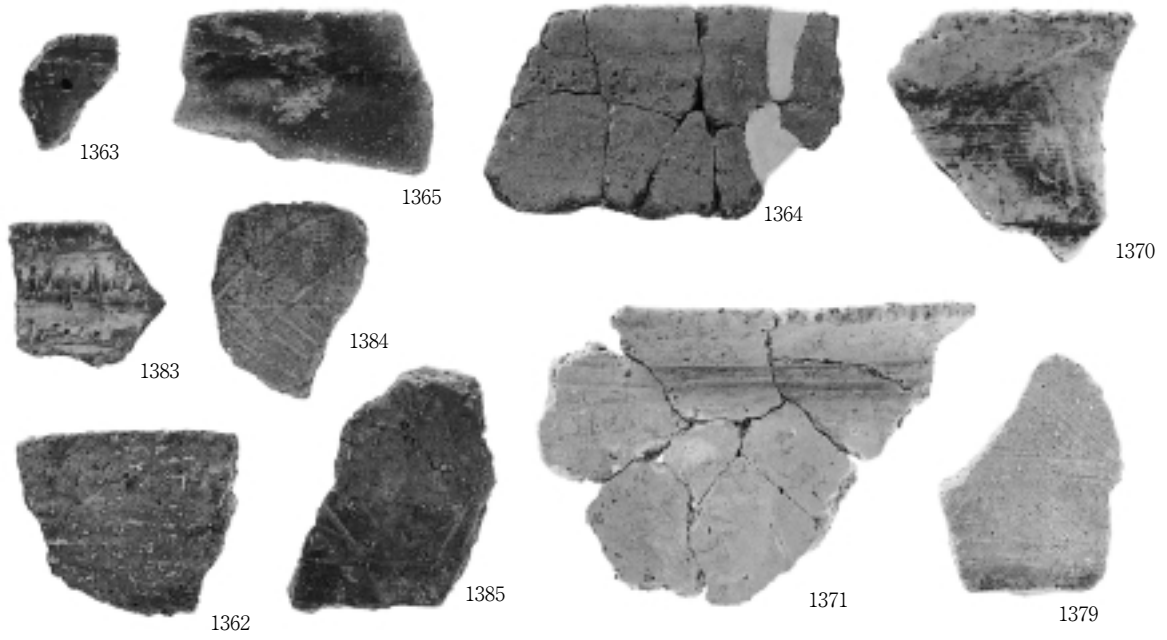


1329

1C区出土遺物8 (土器)



1C区出土遺物9(土器)



1C区出土遺物10 (土器・石器)



1425



1426



1424



1430



1431

1C区出土遺物11 (木製品)



1429



1428



1427



1432



1433

1C区出土遺物12 (木製品)



1DN区調査前状況（西より）



1DN区調査状況・包含層掘削（北より）



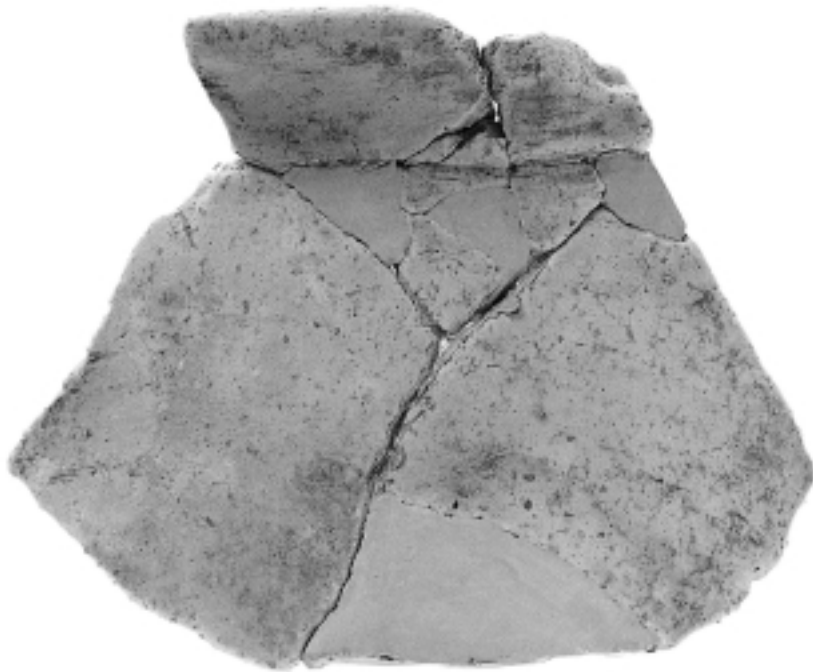
1DN区完掘状態（北東より）



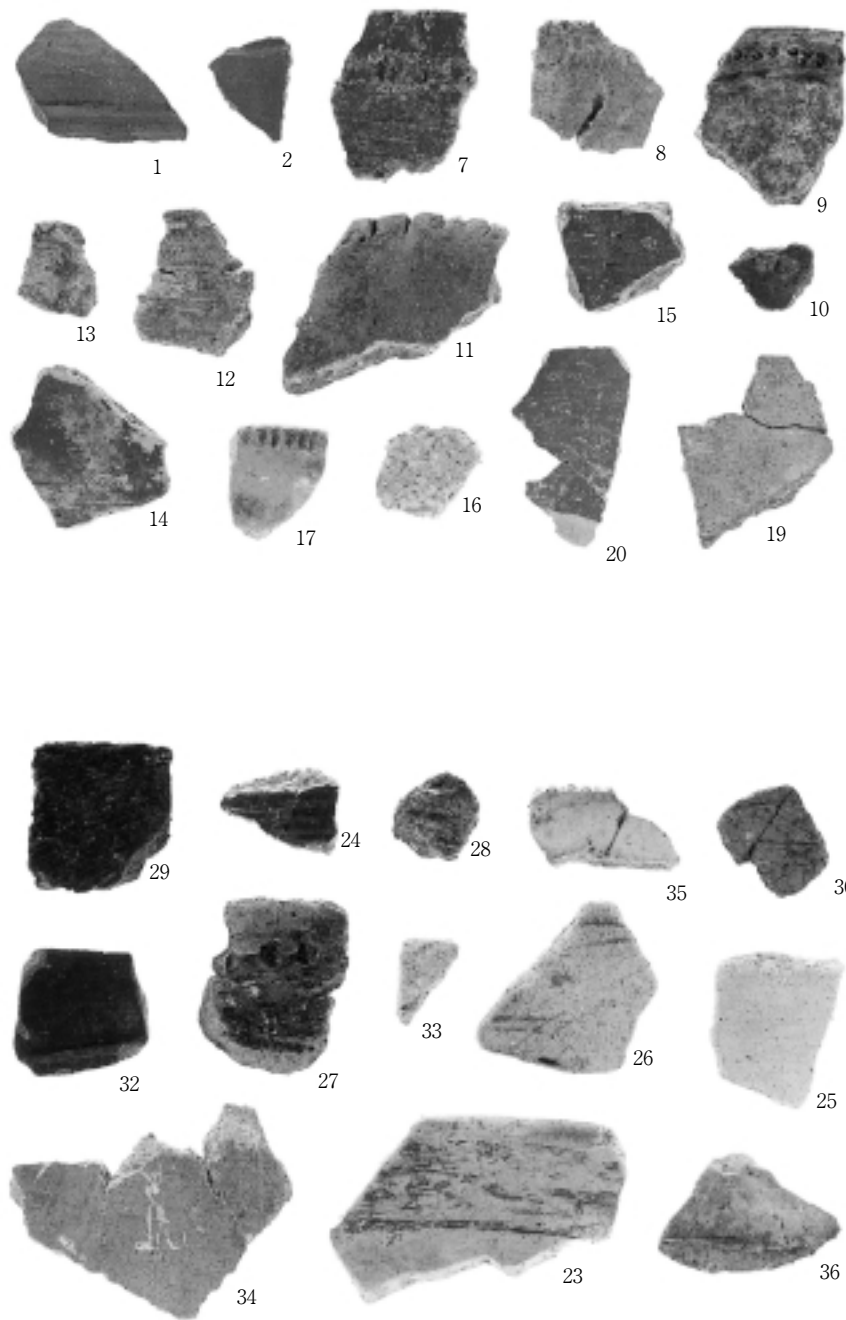
1DN区西壁堆積土層断面（北東より）



1DN区木製品(39)出土状態



1DN区出土遺物2(土器)



1DN区出土遺物 3 (土器・木製品)



水路部分 1面



水路部分 2面

1F区完掘状態 1



水路部分 南半



道路部分 東側

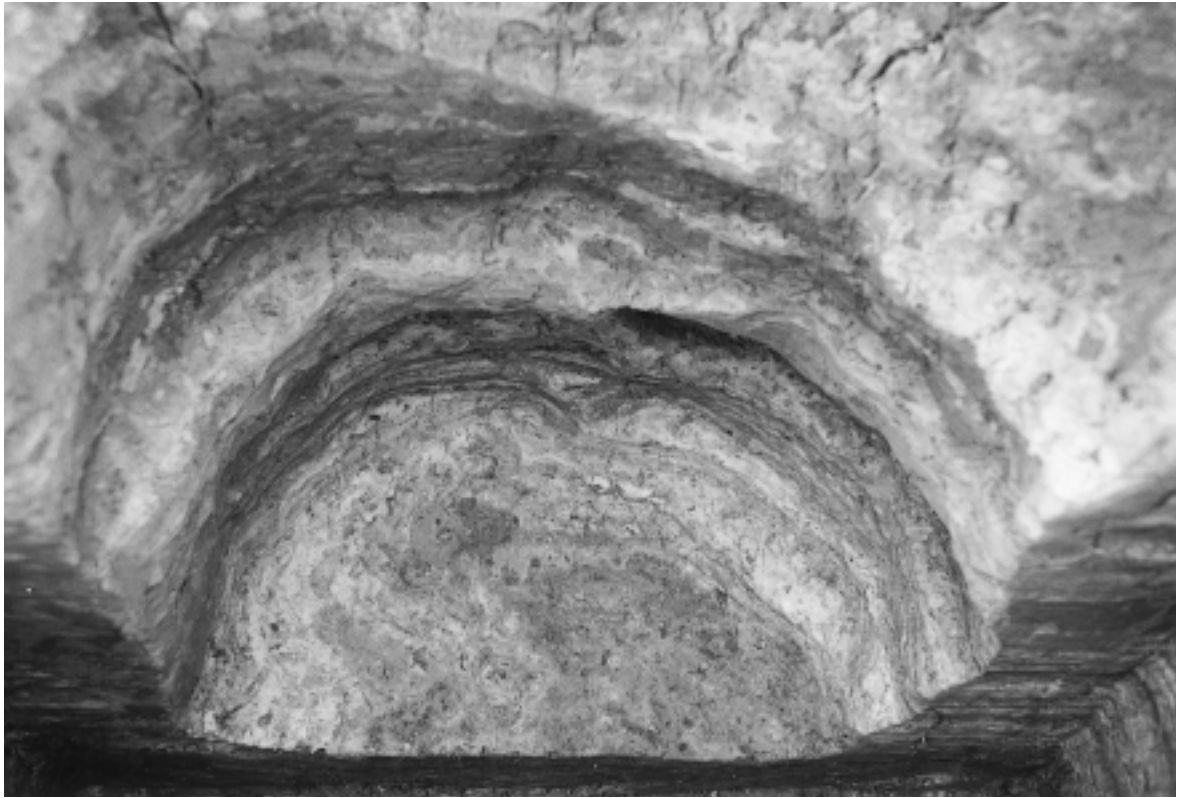


道路部分 西側

1F区完掘状態 2



1F区完掘状態 3

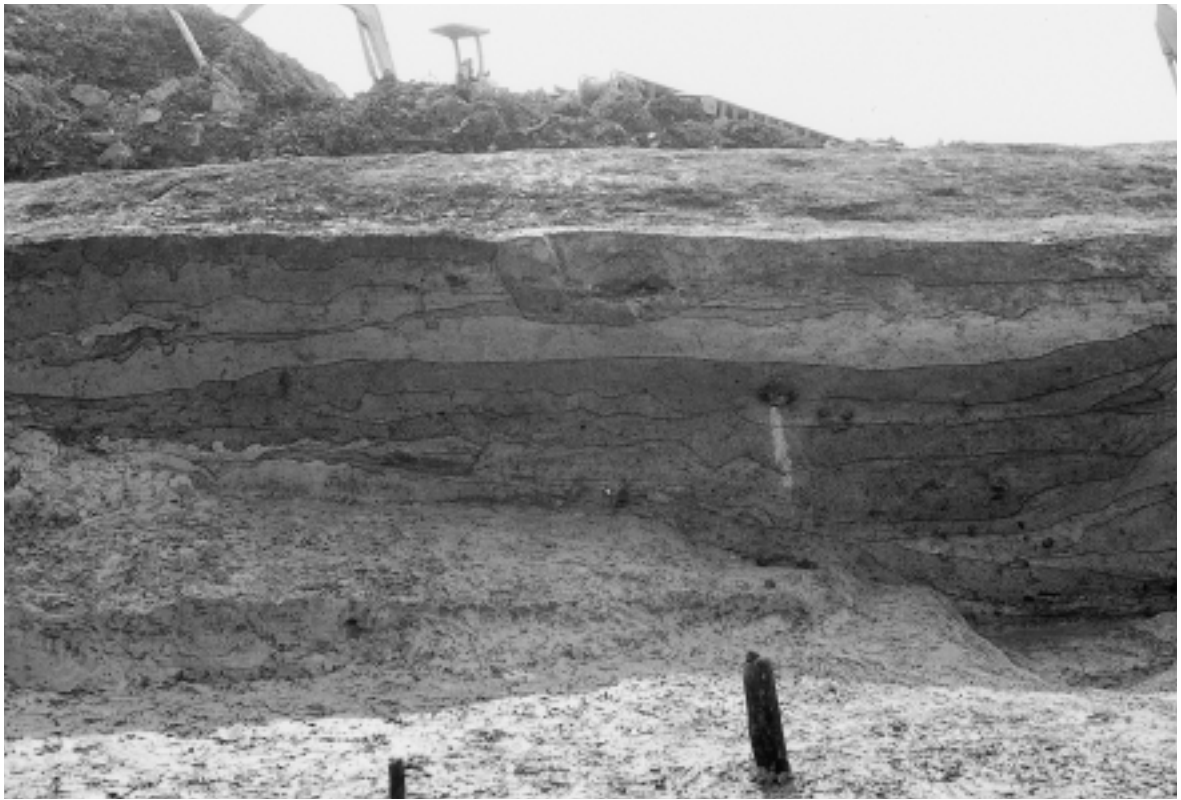


P213



P219

1F区完掘状态 4



SR1 南端

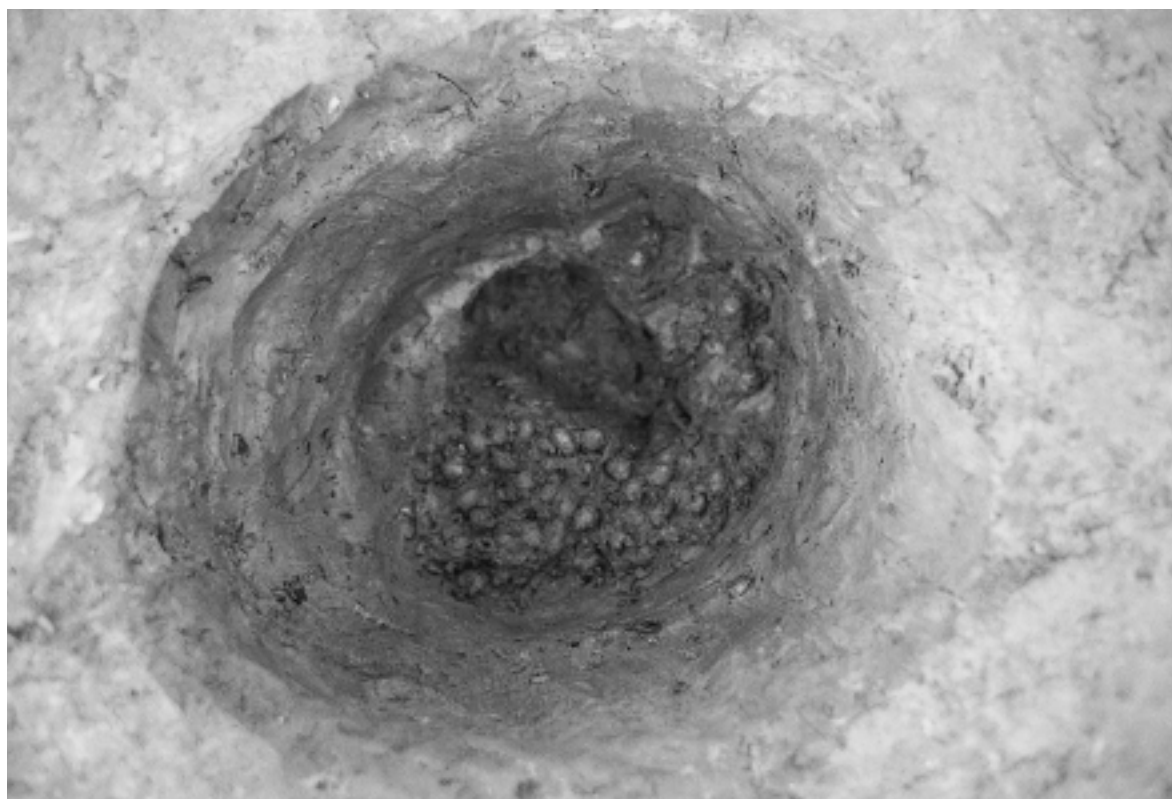


SR2 西端

1F区セクション



P209



P211

1F区出土状态 1



11



12



22



21



20



獸骨

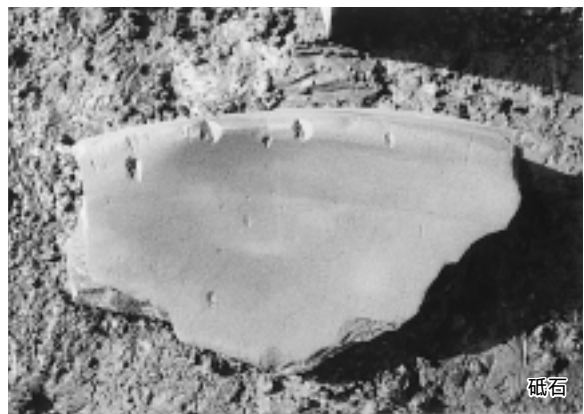
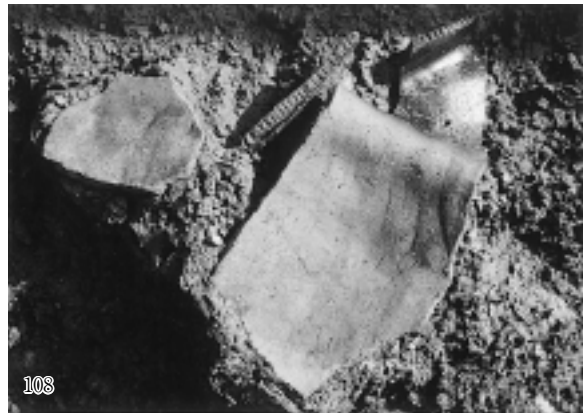


26

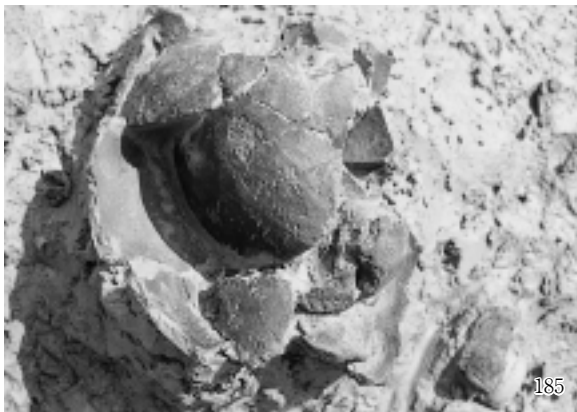


202

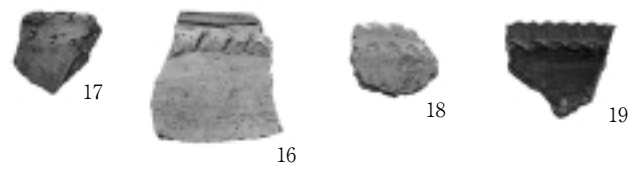
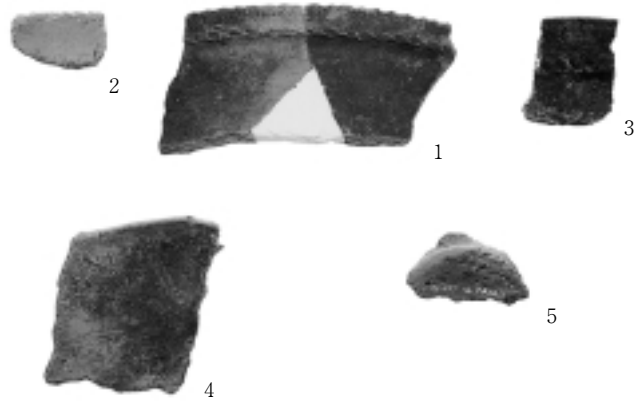
1F区出土状態 2

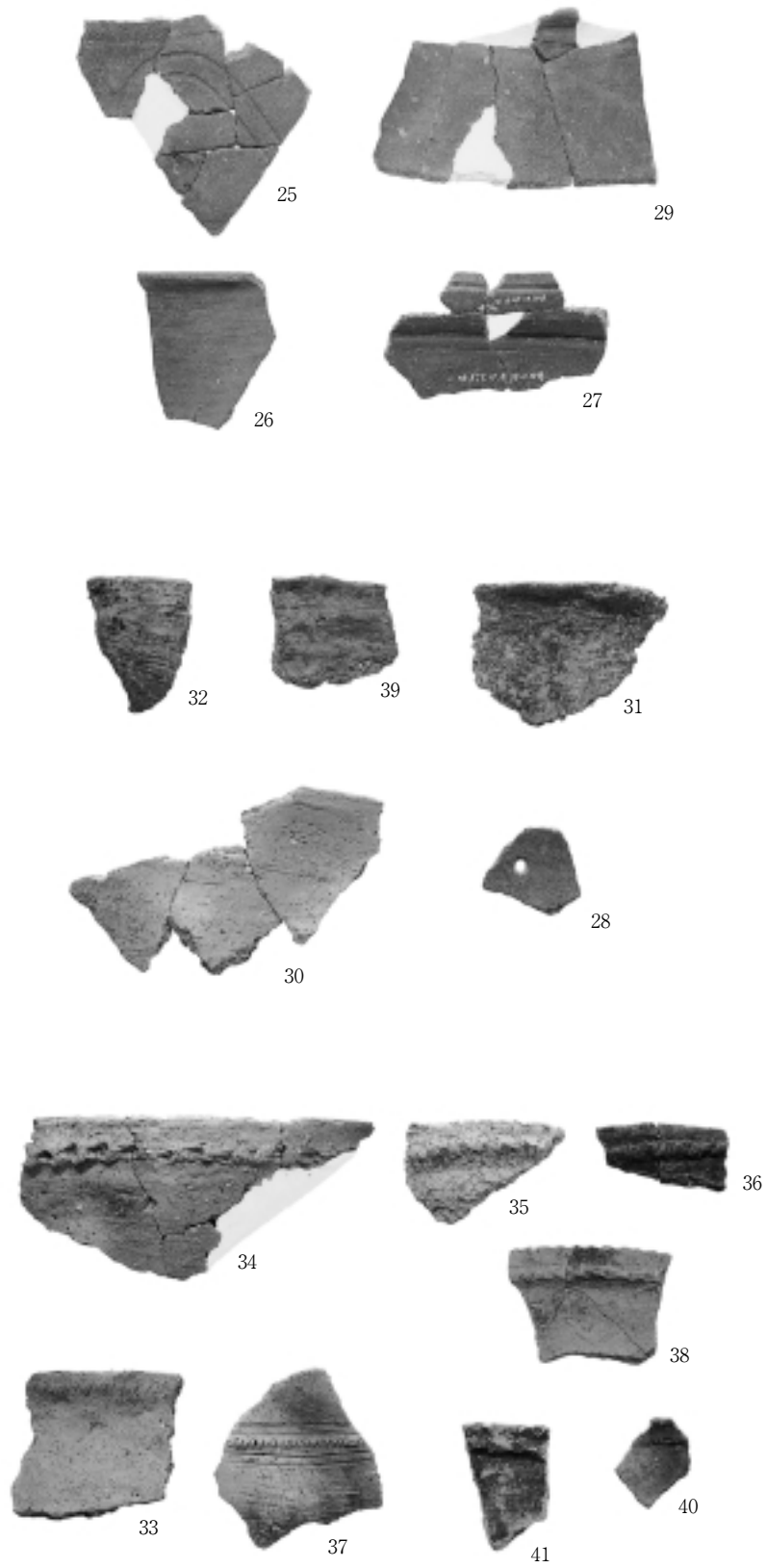


1F区出土状態 3

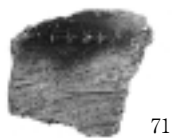
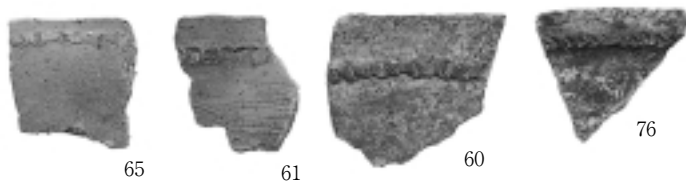
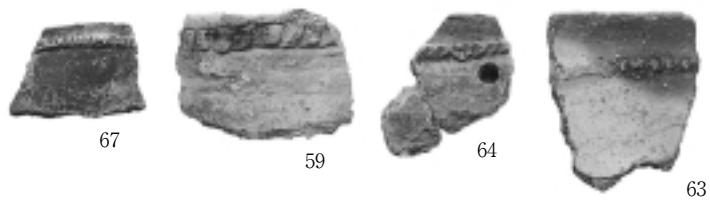
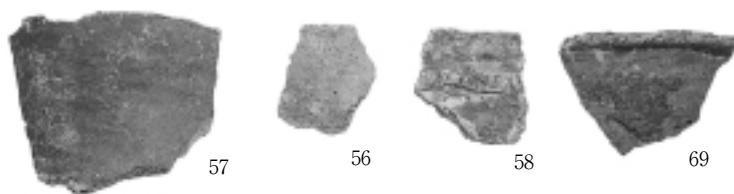


1F区出土状态 4





1F区出土遺物 2





14



23



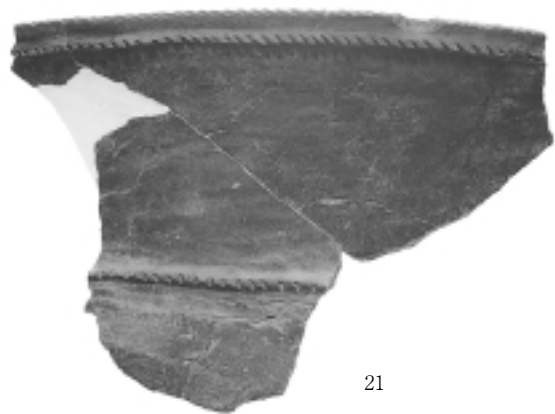
13



20



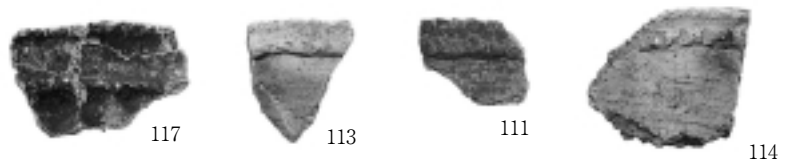
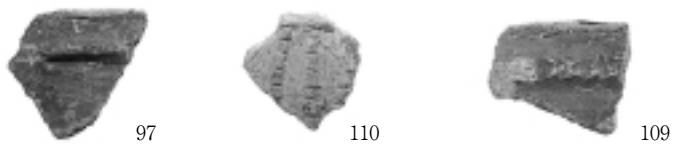
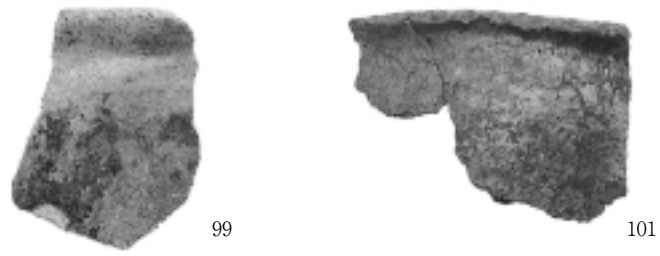
22



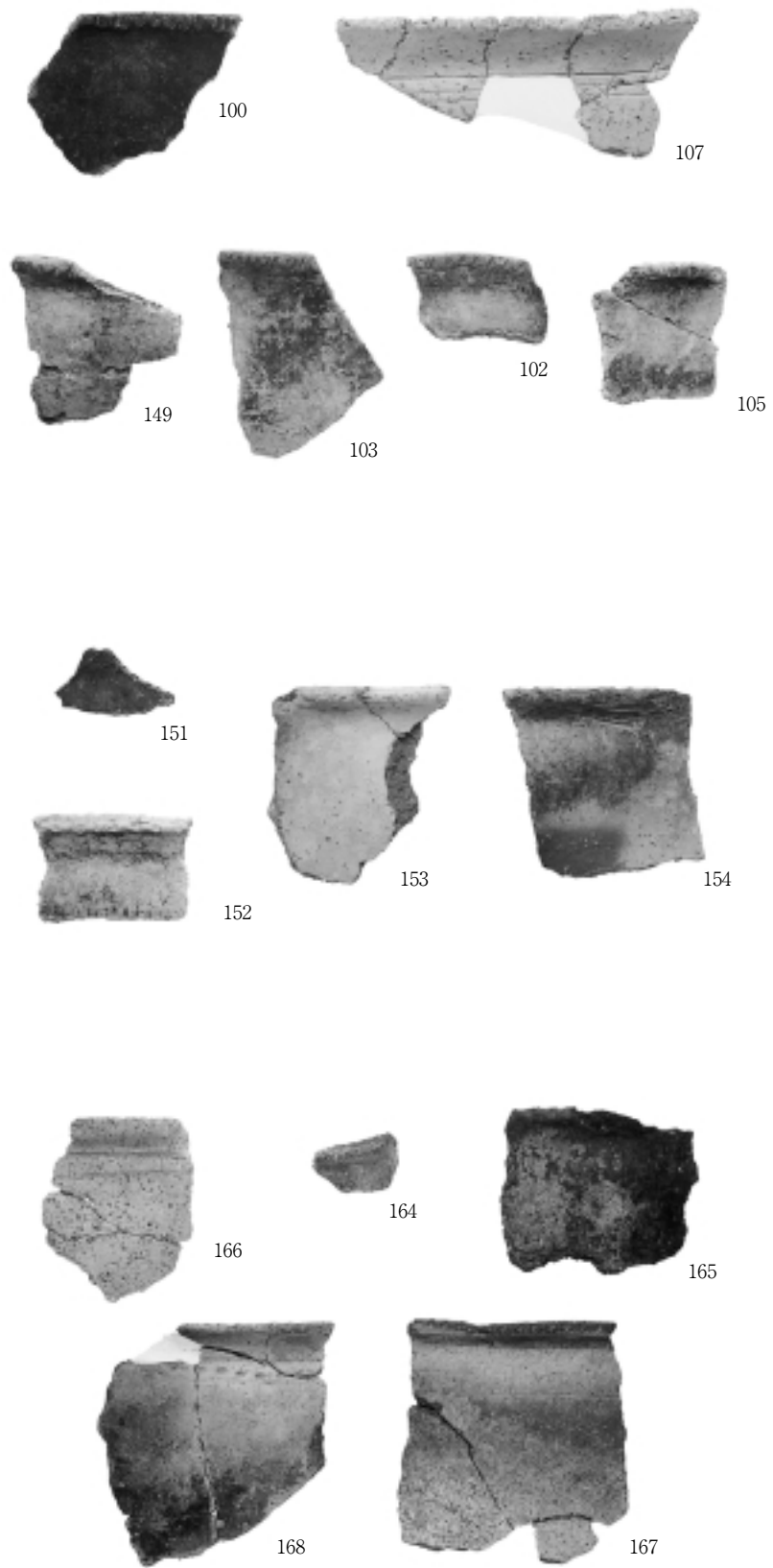
21

1F区出土遺物 4

上段S : 1/3、中・下段S : 1/4



1F区出土遺物 5



1F区出土遺物 6



215
(S : 1/2)



229
(S : 1/2)



213
(S : 1/3)



226



234



241

1F区出土遺物 7

下段S : 1/3



221



243



222



223

1F区出土遺物 8

上段S : 1/3、下段S : 1/4



227



232



236



218



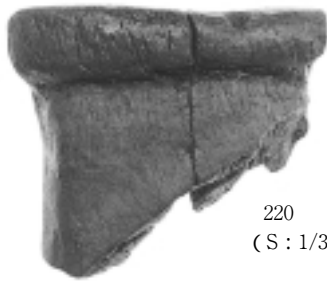
238



239

1F区出土遺物 9

上段S : 1/4、下段S : 1/5



220
(S : 1/3)



224
(S : 1/3)



246
(S : 1/3)



225
(S : 1/4)



247
(S : 1/5)



248
(S : 1/6)



217
(S : 1/3)



228
(S : 1/3)



240
(S : 1/4)

1F区出土遺物 11

報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん							
書名	居徳遺跡群							
副書名	四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第69集							
編著者名	藤方正治・曾我貴行							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL088-864-0671							
発行年月日	2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 。	東経 。	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん 高知県 とさし 土佐市 たかおかちよあつ 高岡町乙 いとく 居徳ほか	39205	050087	33度 30分 10秒	133度 25分 8秒	19971017 1 19990331	4,585	四国横断 自動車道 (伊野～ 須崎間) 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
1A区	集落	縄文時代晩期 弥生時代前期		縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物		大洞式土器の出土		
1C区 (その2)	集落	縄文時代晩期 弥生時代前期 古墳時代	柱穴及びピット 状遺構	縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物				
1DN区	包含層	縄文時代晩期 弥生時代前期		縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物				
1F区	集落	縄文時代晩期 弥生時代前期 古墳時代 奈良時代	自然流路	弥生土器・土師器 木製品				

(財)高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第69集

居 徳 遺 跡 群

四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002年3月31日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437 - 1

Tel. 088-864-0671

印刷 川北印刷株式会社